

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集

# 細谷地遺跡発掘調査報告書

—第4・5次調査—

盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査

岩手県盛岡市

助岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

# 細谷地遺跡発掘調査報告書

－第4・5次調査－

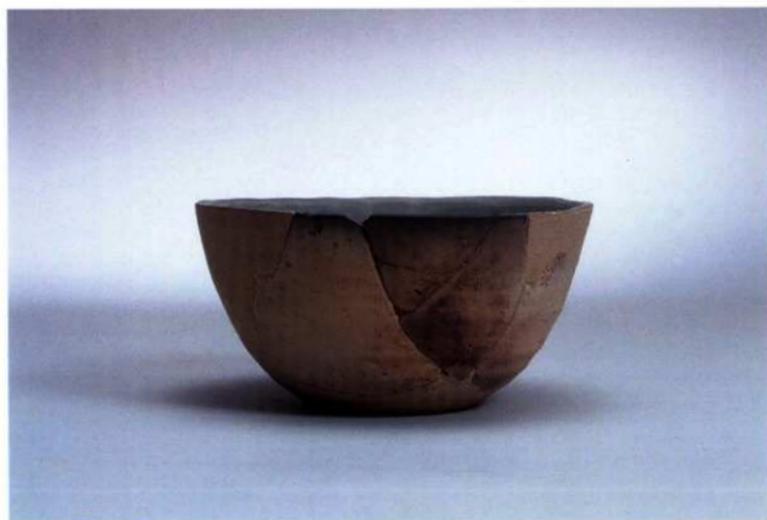
盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査



遺跡空撮 第4次調査区



カマド燃焼部の土器片敷 (R A14住居跡)



内面に花卉状暗文を持つ土師器坏（R A 39住居跡出土）

## 序

岩手県には縄文時代の遺跡を始めとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があります。これら先人が残した文化遺産を保存し、後世に伝えて行くことは、私達県民に課せられた重大な責務であります。一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発にともなう社会資本の充実も県民の切実な願いであります。

このような埋蔵文化財の保護、保存と開発の調和も、今日的な課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、盛岡南新都市開発整備事業に関連して平成12、13年度に行われた細谷地遺跡の調査結果をまとめたものであります。遺跡は、雫石川右岸の河岸段丘上に立地した平安時代を中心とする集落跡であることが明らかになりました。

当地域におきましては同時期の集落の調査が着実に進展していますが、今回も9世紀から10世紀にかけての住居跡が数多く検出され、当時の集落構造を考える上で貴重な資料を提供することが可能となりました。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず、埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望します。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成にご援助、ご協力を賜りました盛岡市開発部盛南開発課、盛岡市教育委員会をはじめとする多くの関係諸機関、関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成15年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 合 田 武

## 例言

1. 本吉は、岩手県盛岡市飯岡新田第2地割7110ほかに所在する鑑谷地遺跡において、平成12年度に実施した第4次発掘調査、平成13年度に実施した第5次発掘調査の成果を収録したものである。
2. 本遺跡の発掘調査は、盛岡南新都市計画整備事業に伴う緊急事前調査である。調査は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課の調査を経て、盛岡市の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 野外調査期間、調査面積、担当当事者、室内整理期間、担当当事者は第1章第2節「調査要項」に記した。
4. 本書の執筆は高木晃、八木勝枝が分担し、文末に氏名を記した。第4次調査区における遺構事実記載の一部については阿部眞澄が草稿を 작성し高木が加筆修正した。
5. 各種鑑定・分析・保存処理は下記の方々、機関に依頼した。胎土分析、樹種同定の報告は付録に収録している。

|             |                |
|-------------|----------------|
| 七瀬胎土分析      | 井上 巖（第四紀研究所）   |
| 樹種同定（杭、柱根）  | 高橋利彦（木工舎ゆい）    |
| 樹種同定（井戸杵曲物） | 榎ハリノサーヴェイ      |
| 石器・石製品の石質同定 | 花崗岩研究会         |
| 炭化材肉眼同定     | 早坂松次郎（岩手県木炭協会） |
| 出土材（曲物）保存処理 | 新日鐵釜台文化財処理センター |
| 出土鉄製品保存処理   | 岩手県立博物館        |
6. 野外調査、室内整理にあたり盛岡市開発部盛岡開発課、盛岡市教育委員会、地元地権者の御協力をいただいた。
7. 調査、及び報告書作成にあたり、次の方々の御指導をいただいた。記して感謝申し上げる。（順不同、敬称略）。  
小笠原善範（八戸市教育委員会） 千田和文・八木光則・似内啓邦・津嶋知弘・三浦陽（盛岡市教育委員会） 井上雅季（滝沢村教育委員会） 酒井宗孝（花巻市教育委員会） 伊藤尚幸（水沢市埋蔵文化財センター） 村田晃一（宮城県教育委員会） 斎妻稔典（宮城県多賀城跡調査研究所）
8. 本遺跡の出土遺物、記録類は岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

## 凡例

1. 棒図の縮尺は各図毎にスケールを付した。
2. 層名は基本土層にローマ数字、各遺構埋土にアラビア数字を使用した。
3. 土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
4. 上層注記における含有量区分は次の通り。  
微量：1～3% 少量：4～14% やや多量：15～34% 多量：35%以上
5. 遺構図の方位は真北を表示している。
6. 遺構・遺物図に使用したスクリーン・トーンの利用は第8図に示した。その他必要に応じて各図に凡例を示した。
7. 堅穴住居跡カマドにおいては、向かって左右の表現を用いている。
8. 堅穴住居跡内のビット類は、深さを（-○）と表現し、平面図中に示した。
9. 遺物写真は不定縮尺である。

## 本文目次

|                |     |                       |     |
|----------------|-----|-----------------------|-----|
| 第I章 調査経緯       | 1   | 第5節 陥し穴状土坑            | 214 |
| 第1節 調査に至る経過    | 1   | 第6節 竪穴状遺構             | 218 |
| 第2節 調査要項       | 1   | 第7節 焼土遺構              | 223 |
| 第II章 遺跡の立地と環境  | 2   | 第8節 溝跡                | 224 |
| 第1節 遺跡の位置      | 2   | 第9節 井戸跡               | 227 |
| 第2節 地形環境       | 2   | 第10節 カマド状遺構           | 230 |
| 第3節 基本層序       | 7   | 第11節 竅間状遺構            | 232 |
| 第4節 歴史的環境      | 9   | 第12節 柱穴状小ピット          | 233 |
| 第III章 調査・整理の方法 | 16  | 第13節 遺構外出土遺物          | 236 |
| 第1節 調査方法       | 16  | 第VI章 考察               | 260 |
| 第2節 調査経過       | 19  | 第1節 縄文時代の遺構・遺物        | 260 |
| 第3節 整理方法       | 20  | 第2節 平安時代の遺構           | 260 |
| 第4節 整理経過       | 21  | 第3節 平安時代の土器           | 272 |
| 第IV章 土器の分類     | 22  | 第4節 平安時代の遺物           | 281 |
| 第V章 検出遺構・出土遺物  | 26  | 第5節 平安時代の集落構成         | 282 |
| 第1節 調査の概要      | 26  | 付編1. 細谷地遺跡出土土器胎十分析    | 287 |
| 第2節 竪穴住居跡      | 29  | 付編2. 細谷地遺跡出土七材の樹種     | 305 |
| 第3節 竪立柱建物跡     | 183 | 付編3. 細谷地遺跡から出土した曲物の樹種 | 309 |
| 第4節 土坑         | 191 |                       |     |

## 挿図目次

|                    |    |                     |    |
|--------------------|----|---------------------|----|
| 第1図 遺跡位置           | 3  | 第14図 RA01住居跡(4)     | 34 |
| 第2図 調査区位置          | 4  | 第15図 RA01住居跡出土遺物(1) | 35 |
| 第3図 遺跡周辺の地形        | 5  | 第16図 RA01住居跡出土遺物(2) | 36 |
| 第4図 基本層序           | 8  | 第17図 RA01住居跡出土遺物(3) | 37 |
| 第5図 周辺の遺跡          | 10 | 第18図 RA01住居跡出土遺物(4) | 38 |
| 第6図 周辺の古代遺跡と旧河道の分布 | 13 | 第19図 RA02住居跡(1)     | 40 |
| 第7図 グリッド配置図        | 17 | 第20図 RA02住居跡(2)     | 41 |
| 第8図 遺構・遺物図凡例       | 21 | 第21図 RA02住居跡(3)     | 42 |
| 第9図 土器分類図          | 25 | 第22図 RA02住居跡出土遺物(1) | 43 |
| 第10図 遺構配置図         | 27 | 第23図 RA02住居跡出土遺物(2) | 44 |
| 第11図 RA01住居跡(1)    | 30 | 第24図 RA03住居跡        | 45 |
| 第12図 RA01住居跡(2)    | 31 | 第25図 RA03住居跡出土遺物    | 46 |
| 第13図 RA01住居跡(3)    | 33 | 第26図 RA04住居跡(1)     | 47 |

|      |                |    |       |                |     |
|------|----------------|----|-------|----------------|-----|
| 第27回 | RA04住居跡(2)     | 48 | 第65回  | RA14住居跡出土遺物(3) | 90  |
| 第28回 | RA04住居跡出土遺物(1) | 49 | 第66回  | RA15住居跡(1)     | 92  |
| 第29回 | RA04住居跡出土遺物(2) | 50 | 第67回  | RA15住居跡(2)     | 93  |
| 第30回 | RA05住居跡        | 51 | 第68回  | RA15住居跡(3)     | 94  |
| 第31回 | RA05住居跡出土遺物(1) | 52 | 第69回  | RA15住居跡出土遺物(1) | 95  |
| 第32回 | RA05住居跡出土遺物(2) | 53 | 第70回  | RA15住居跡出土遺物(2) | 96  |
| 第33回 | RA06住居跡        | 54 | 第71回  | RA15住居跡出土遺物(3) | 97  |
| 第34回 | RA06住居跡出土遺物    | 55 | 第72回  | RA16住居跡(1)     | 99  |
| 第35回 | RA07住居跡        | 57 | 第73回  | RA16住居跡(2)     | 100 |
| 第36回 | RA07住居跡出土遺物    | 58 | 第74回  | RA16住居跡出土遺物(1) | 102 |
| 第37回 | RA08住居跡        | 58 | 第75回  | RA16住居跡出土遺物(2) | 103 |
| 第38回 | RA09住居跡(1)     | 60 | 第76回  | RA17住居跡        | 104 |
| 第39回 | RA09住居跡(2)     | 61 | 第77回  | RA17住居跡出土遺物    | 105 |
| 第40回 | RA09住居跡(3)     | 62 | 第78回  | RA18住居跡(1)     | 106 |
| 第41回 | RA09住居跡(4)     | 63 | 第79回  | RA18住居跡(2)     | 107 |
| 第42回 | RA09住居跡出土遺物(1) | 64 | 第80回  | RA18住居跡出土遺物(1) | 108 |
| 第43回 | RA09住居跡出土遺物(2) | 65 | 第81回  | RA18住居跡出土遺物(2) | 109 |
| 第44回 | RA09住居跡出土遺物(3) | 66 | 第82回  | RA19住居跡        | 110 |
| 第45回 | RA10住居跡(1)     | 68 | 第83回  | RA19住居跡出土遺物    | 111 |
| 第46回 | RA10住居跡(2)     | 69 | 第84回  | RA20住居跡(1)     | 112 |
| 第47回 | RA10住居跡(3)     | 70 | 第85回  | RA20住居跡(2)     | 113 |
| 第48回 | RA10住居跡(4)     | 71 | 第86回  | RA20住居跡出土遺物(1) | 114 |
| 第49回 | RA10住居跡出土遺物(1) | 72 | 第87回  | RA20住居跡出土遺物(2) | 115 |
| 第50回 | RA10住居跡出土遺物(2) | 73 | 第88回  | RA21住居跡(1)     | 116 |
| 第51回 | RA10住居跡出土遺物(3) | 74 | 第89回  | RA21住居跡(2)     | 117 |
| 第52回 | RA10住居跡出土遺物(4) | 75 | 第90回  | RA21住居跡出土遺物(1) | 118 |
| 第53回 | RA10住居跡出土遺物(5) | 76 | 第91回  | RA21住居跡出土遺物(2) | 119 |
| 第54回 | RA11住居跡        | 77 | 第92回  | RA22住居跡        | 121 |
| 第55回 | RA11住居跡出土遺物(1) | 78 | 第93回  | RA22住居跡出土遺物(1) | 122 |
| 第56回 | RA11住居跡出土遺物(2) | 79 | 第94回  | RA22住居跡出土遺物(2) | 123 |
| 第57回 | RA12住居跡        | 81 | 第95回  | RA23住居跡(1)     | 123 |
| 第58回 | RA12住居跡出土遺物    | 82 | 第96回  | RA23住居跡(2)     | 124 |
| 第59回 | RA13住居跡        | 83 | 第97回  | RA23住居跡出土遺物(1) | 125 |
| 第60回 | RA13住居跡出土遺物    | 84 | 第98回  | RA23住居跡出土遺物(2) | 126 |
| 第61回 | RA14住居跡(1)     | 86 | 第99回  | RA24住居跡(1)     | 128 |
| 第62回 | RA14住居跡(2)     | 87 | 第100回 | RA24住居跡(2)     | 129 |
| 第63回 | RA14住居跡出土遺物(1) | 88 | 第101回 | RA24住居跡出土遺物    | 130 |
| 第64回 | RA14住居跡出土遺物(2) | 89 | 第102回 | RA25住居跡(1)     | 132 |

|                             |     |                             |     |
|-----------------------------|-----|-----------------------------|-----|
| 第103图 R A25住居跡(2) .....     | 133 | 第141图 R A37住居跡出土遺物(1) ..... | 170 |
| 第104图 R A25住居跡出土遺物(1) ..... | 134 | 第142图 R A37住居跡出土遺物(2) ..... | 171 |
| 第105图 R A25住居跡出土遺物(2) ..... | 135 | 第143图 R A37住居跡出土遺物(3) ..... | 172 |
| 第106图 R A26住居跡(1) .....     | 136 | 第144图 R A38住居跡 .....        | 173 |
| 第107图 R A26住居跡(2) .....     | 137 | 第145图 R A38住居跡出土遺物 .....    | 174 |
| 第108图 R A26住居跡出土遺物 .....    | 138 | 第146图 R A39住居跡(1) .....     | 176 |
| 第109图 R A27住居跡(1) .....     | 139 | 第147图 R A39住居跡(2) .....     | 177 |
| 第110图 R A27住居跡(2) .....     | 140 | 第148图 R A39住居跡(3) .....     | 178 |
| 第111图 R A27住居跡出土遺物 .....    | 140 | 第149图 R A39住居跡(4) .....     | 179 |
| 第112图 R A28住居跡 .....        | 142 | 第150图 R A39住居跡(5) .....     | 180 |
| 第113图 R A28住居跡出土遺物 .....    | 143 | 第151图 R A39住居跡出土遺物(1) ..... | 181 |
| 第114图 R A29住居跡(1) .....     | 145 | 第152图 R A39住居跡出土遺物(2) ..... | 182 |
| 第115图 R A29住居跡(2) .....     | 146 | 第153图 R A39住居跡出土遺物(3) ..... | 183 |
| 第116图 R A29住居跡出土遺物(1) ..... | 147 | 第154图 R B01・03獨立柱建物跡 .....  | 186 |
| 第117图 R A29住居跡出土遺物(2) ..... | 148 | 第155图 R B02獨立柱建物跡 .....     | 187 |
| 第118图 R A29住居跡出土遺物(3) ..... | 149 | 第156图 R B04獨立柱建物跡 .....     | 188 |
| 第119图 R A30住居跡 .....        | 150 | 第157图 R B05獨立柱建物跡 .....     | 189 |
| 第120图 R A30住居跡出土遺物 .....    | 151 | 第158图 R B06獨立柱建物跡 .....     | 190 |
| 第121图 R A31住居跡(1) .....     | 152 | 第159图 獨立柱建物跡出土遺物 .....      | 190 |
| 第122图 R A31住居跡(2) .....     | 153 | 第160图 土坑(1) .....           | 196 |
| 第123图 R A31住居跡出土遺物(1) ..... | 154 | 第161图 土坑(2) .....           | 197 |
| 第124图 R A31住居跡出土遺物(2) ..... | 155 | 第162图 土坑(3) .....           | 198 |
| 第125图 R A32住居跡 .....        | 156 | 第163图 土坑(4) .....           | 199 |
| 第126图 R A32住居跡出土遺物 .....    | 157 | 第164图 土坑(5) .....           | 200 |
| 第127图 R A33住居跡(1) .....     | 158 | 第165图 土坑(6) .....           | 201 |
| 第128图 R A33住居跡(2) .....     | 159 | 第166图 土坑(7) .....           | 202 |
| 第129图 R A33住居跡出土遺物(1) ..... | 160 | 第167图 土坑(8) .....           | 203 |
| 第130图 R A33住居跡出土遺物(2) ..... | 161 | 第168图 土坑(9) .....           | 204 |
| 第131图 R A34住居跡 .....        | 162 | 第169图 土坑(10) .....          | 205 |
| 第132图 R A34住居跡出土遺物 .....    | 163 | 第170图 土坑(11) .....          | 206 |
| 第133图 R A35住居跡 .....        | 164 | 第171图 土坑(12) .....          | 207 |
| 第134图 R A35住居跡出土遺物 .....    | 164 | 第172图 土坑出土遺物(1) .....       | 208 |
| 第135图 R A36住居跡(1) .....     | 165 | 第173图 土坑出土遺物(2) .....       | 209 |
| 第136图 R A36住居跡(2) .....     | 166 | 第174图 土坑出土遺物(3) .....       | 210 |
| 第137图 R A36住居跡出土遺物 .....    | 166 | 第175图 土坑出土遺物(4) .....       | 211 |
| 第138图 R A37住居跡(1) .....     | 167 | 第176图 土坑出土遺物(5) .....       | 212 |
| 第139图 R A37住居跡(2) .....     | 168 | 第177图 土坑出土遺物(6) .....       | 213 |
| 第140图 R A37住居跡(3) .....     | 169 | 第178图 陥し穴状土坑(1) .....       | 215 |

|                               |     |                              |     |
|-------------------------------|-----|------------------------------|-----|
| 第179図 陥し穴状土坑(2) .....         | 216 | 第194図 遺構外出土遺物(1) .....       | 237 |
| 第180図 陥し穴状土坑(3) .....         | 217 | 第195図 遺構外出土遺物(2) .....       | 238 |
| 第181図 R E 01・04・05竪穴状遺構 ..... | 219 | 第196図 陥し穴状土坑の分布 .....        | 260 |
| 第182図 R E 02・03竪穴状遺構 .....    | 221 | 第197図 火山灰堆積パターン .....        | 261 |
| 第183図 竪穴状遺構出土遺物 .....         | 222 | 第198図 時期別住居跡分布図 .....        | 266 |
| 第184図 R F 01焼土遺構 .....        | 223 | 第199図 住居跡規模 .....            | 267 |
| 第185図 R F 01焼土遺構出土遺物 .....    | 224 | 第200図 カマド方位分布 .....          | 269 |
| 第186図 溝跡断面(1) .....           | 225 | 第201図 カマド作り替えのパターン .....     | 269 |
| 第187図 溝跡断面(2) .....           | 226 | 第202図 カマドのずれ .....           | 269 |
| 第188図 溝跡出土遺物 .....            | 227 | 第203図 横穴状土坑分類 .....          | 270 |
| 第189図 R I 01・02井戸跡 .....      | 228 | 第204図 焼成土坑分布 .....           | 271 |
| 第190図 井戸跡出土遺物 .....           | 229 | 第205図 細谷地遺跡出土灰法量分布 .....     | 272 |
| 第191図 R Z 01・03カマド状遺構 .....   | 231 | 第206図 住居別坏組成 .....           | 273 |
| R Z 02試問状遺構 .....             | 231 | 第207図 細谷地遺跡第I～IV期 .....      | 274 |
| 第192図 R Z 03カマド状遺構出土遺物 .....  | 232 | 第208図 多賀城跡・山干遺跡出土灰法量分布 ..... | 279 |
| 第193図 柱穴状ビット出土遺物 .....        | 233 | 第209図 林崎遺跡・館遺跡出土灰法量分布 .....  | 280 |

## 挿表目次

|                      |     |                       |     |
|----------------------|-----|-----------------------|-----|
| 第1表 周辺の遺跡一覧 .....    | 11  | 第10表 縄文土器観察表 .....    | 259 |
| 第2表 土坑一覧表 .....      | 193 | 第11表 陶磁器観察表 .....     | 259 |
| 第3表 陥し穴状土坑一覧表 .....  | 218 | 第12表 鉄滓観察表 .....      | 259 |
| 第4表 溝跡一覧表 .....      | 225 | 第13表 木製品観察表 .....     | 259 |
| 第5表 柱穴状小ビット一覧表 ..... | 234 | 第14表 住居跡一覧表 .....     | 262 |
| 第6表 土器(古代)観察表 .....  | 239 | 第15表 住居跡カマド一覧表 .....  | 264 |
| 第7表 石器・石製品観察表 .....  | 257 | 第16表 遺構間接合 .....      | 266 |
| 第8表 金属製品観察表 .....    | 258 | 第17表 住居跡出土土器組成 .....  | 277 |
| 第9表 土製品観察表 .....     | 258 | 第18表 住居跡時期区分対照表 ..... | 283 |

## 写真図版目次

|                          |     |                           |     |
|--------------------------|-----|---------------------------|-----|
| 写真図版1 遺跡空撮(1) .....      | 311 | 写真図版8 R A 02住居跡 .....     | 318 |
| 写真図版2 遺跡空撮(2) .....      | 312 | 写真図版9 R A 02・03住居跡 .....  | 319 |
| 写真図版3 調査区の状況(1) .....    | 313 | 写真図版10 R A 04住居跡 .....    | 320 |
| 写真図版4 調査区の状況(2) .....    | 314 | 写真図版11 R A 05住居跡 .....    | 321 |
| 写真図版5 調査区の状況(3) .....    | 315 | 写真図版12 R A 06住居跡 .....    | 322 |
| 写真図版6 R A 01住居跡(1) ..... | 316 | 写真図版13 R A 07・08住居跡 ..... | 323 |
| 写真図版7 R A 01住居跡(2) ..... | 317 | 写真図版14 R A 09住居跡(1) ..... | 324 |

|        |                |     |        |               |     |
|--------|----------------|-----|--------|---------------|-----|
| 写真図版15 | R A09住居跡 (2)   | 325 | 写真図版53 | 土坑 (3)        | 363 |
| 写真図版16 | R A10住居跡       | 326 | 写真図版54 | 土坑 (4)        | 364 |
| 写真図版17 | R A11・12住居跡    | 327 | 写真図版55 | 土坑 (5)        | 365 |
| 写真図版18 | R A13住居跡       | 328 | 写真図版56 | 土坑 (6)        | 366 |
| 写真図版19 | R A14住居跡       | 329 | 写真図版57 | 土坑 (7)        | 367 |
| 写真図版20 | R A15住居跡       | 330 | 写真図版58 | 土坑 (8)        | 368 |
| 写真図版21 | R A16住居跡       | 331 | 写真図版59 | 土坑 (9)        | 369 |
| 写真図版22 | R A17住居跡       | 332 | 写真図版60 | 土坑 (10)       | 370 |
| 写真図版23 | R A18住居跡       | 333 | 写真図版61 | 土坑 (11)       | 371 |
| 写真図版24 | R A19・20住居跡    | 334 | 写真図版62 | 土坑 (12)       | 372 |
| 写真図版25 | R A20住居跡 (2)   | 335 | 写真図版63 | 陥し穴状土坑 (1)    | 373 |
| 写真図版26 | R A21住居跡       | 336 | 写真図版64 | 陥し穴状土坑 (2)    | 374 |
| 写真図版27 | R A22住居跡       | 337 | 写真図版65 | 陥し穴状土坑 (3)    | 375 |
| 写真図版28 | R A23住居跡 (1)   | 338 | 写真図版66 | 竪穴状遺構 (1)     | 376 |
| 写真図版29 | R A23住居跡 (2)   | 339 | 写真図版67 | 竪穴状遺構 (2)     | 377 |
| 写真図版30 | R A24・25住居跡    | 340 | 写真図版68 | 溝跡 (1)        | 378 |
| 写真図版31 | R A26住居跡       | 341 | 写真図版69 | 溝跡 (2)        | 379 |
| 写真図版32 | R A27住居跡       | 342 | 写真図版70 | 溝跡 (3)        | 380 |
| 写真図版33 | R A28住居跡       | 343 | 写真図版71 | 溝跡 (4)        | 381 |
| 写真図版34 | R A29住居跡       | 344 | 写真図版72 | 井戸跡           | 382 |
| 写真図版35 | R A30・31住居跡    | 345 | 写真図版73 | カマド状遺構他       | 383 |
| 写真図版36 | R A32住居跡       | 346 | 写真図版74 | R A01出土遺物 (1) | 384 |
| 写真図版37 | R A33住居跡       | 347 | 写真図版75 | R A01出土遺物 (2) | 385 |
| 写真図版38 | R A34・35住居跡    | 348 | 写真図版76 | R A02出土遺物     | 386 |
| 写真図版39 | R A36住居跡       | 349 | 写真図版77 | R A03・04出土遺物  | 387 |
| 写真図版40 | R A37住居跡 (1)   | 350 | 写真図版78 | R A04・05出土遺物  | 388 |
| 写真図版41 | R A37住居跡 (2)   | 351 | 写真図版79 | R A06・07出土遺物  | 389 |
| 写真図版42 | R A37住居跡 (3)   | 352 | 写真図版80 | R A09出土遺物     | 390 |
| 写真図版43 | R A38住居跡       | 353 | 写真図版81 | R A09・10出土遺物  | 391 |
| 写真図版44 | R A39住居跡 (1)   | 354 | 写真図版82 | R A10出土遺物 (2) | 392 |
| 写真図版45 | R A39住居跡 (2)   | 355 | 写真図版83 | R A10出土遺物 (3) | 393 |
| 写真図版46 | R A39住居跡 (3)   | 356 | 写真図版84 | R A11出土遺物     | 394 |
| 写真図版47 | R B01掘立柱建物跡    | 357 | 写真図版85 | R A12・13出土遺物  | 395 |
| 写真図版48 | R B02・03掘立柱建物跡 | 358 | 写真図版86 | R A14出土遺物 (1) | 396 |
| 写真図版49 | R B04掘立柱建物跡    | 359 | 写真図版87 | R A14出土遺物 (2) | 397 |
| 写真図版50 | R B05・06掘立柱建物跡 | 360 | 写真図版88 | R A15出土遺物 (1) | 398 |
| 写真図版51 | 土坑 (1)         | 361 | 写真図版89 | R A15出土遺物 (2) | 399 |
| 写真図版52 | 土坑 (2)         | 362 | 写真図版90 | R A16出土遺物     | 400 |

|         |                  |     |         |               |     |
|---------|------------------|-----|---------|---------------|-----|
| 写真図版91  | R A 17・18出土遺物    | 401 | 写真図版105 | R A 37・38出土遺物 | 415 |
| 写真図版92  | R A 19・20出土遺物    | 402 | 写真図版106 | R A 39出土遺物    | 416 |
| 写真図版93  | R A 21出土遺物       | 403 | 写真図版107 | 掘立柱建物跡出土遺物    | 417 |
| 写真図版94  | R A 22出土遺物       | 404 | 写真図版108 | 土坑出土遺物(1)     | 418 |
| 写真図版95  | R A 23出土遺物       | 405 | 写真図版109 | 土坑出土遺物(2)     | 419 |
| 写真図版96  | R A 24出土遺物       | 406 | 写真図版110 | 土坑・壁穴状出土遺物(3) | 420 |
| 写真図版97  | R A 25出土遺物       | 407 | 写真図版111 | 溝跡出土遺物        | 421 |
| 写真図版98  | R A 26・27・28出土遺物 | 408 | 写真図版112 | 井戸跡出土遺物       | 422 |
| 写真図版99  | R A 28・29出土遺物    | 409 | 写真図版113 | 遺構外出土遺物(1)    | 423 |
| 写真図版100 | R A 29出土遺物       | 410 | 写真図版114 | 遺構外出土遺物(2)    | 424 |
| 写真図版101 | R A 30・31出土遺物    | 411 | 写真図版115 | 土器底面(1)       | 425 |
| 写真図版102 | R A 32・33出土遺物    | 412 | 写真図版116 | 土器底面(2)       | 426 |
| 写真図版103 | R A 33・34・35出土遺物 | 413 | 写真図版117 | 土器底面(3)       | 427 |
| 写真図版104 | R A 36・37出土遺物    | 414 |         |               |     |

## 第I章 調査経緯

### 第1節 調査に至る経過

盛岡市新都市開発計画は、現在の既成市街地の他に市域の南部地域を新市街地として開発し、両者が有機的に結びついた軸状都市を形成するために策定された土地区画整理事業である。平成3年度から平成17年度までの15年間で事業予定期間として、対象面積313haに及ぶ土地区画整理事業が進められている。

この間、事業の対象地域に係わる埋蔵文化財の取り扱いについても協議を重ねられた。その結果、盛岡市教育委員会が試掘調査を行い調査必要範囲を確定し、本調査は財団法人岩手県文化振興事業団の受託事業として実施することとなった。

平成5年度から13年度までに当事業団では、今回報告する細谷地遺跡第4・5次調査を含め、合計14遺跡、44次分、約248,000㎡の調査を実施している。細谷地遺跡は盛岡市教育委員会により第1～3次調査が実施されている。今回の第4次調査は、平成11年度に行われた第3次調査（試掘調査）の結果、古代の遺構が濃密に分布する区域が明らかになったことから、平成12年度の事業団受託事業として実施した。

当初は、第4次調査区の北側に位置する一段低い水田部分は調査対象範囲から除外されていたが、第4次調査の結果、この部分においても古代の遺構が残存することが確認され、岩手県教育委員会・盛岡市教育委員会との協議により調査必要範囲が拡大されることとなった。これを受けて、盛岡市委託の5,805㎡について、平成13年度に第5次調査を実施した。なお南西側に隣接する都市計画道路南仙北滝沢線と開運橋飯岡線の交差点用地190㎡については、地域振興整備公団委託分として同年5月23日～6月5日にかけて第6次調査を実施した。第6次調査の成果については『岩手県埋蔵文化財調査略報（平成13年度）』に収録しているが、第5次調査区西側区域と一体となる部分であり、本書にも抜粋・再録した。

### 第2節 調査要項

1. 遺跡名・所在地 細谷地遺跡（岩手県遺跡台帳番号I.E.24-0214）

盛岡市飯岡新田第2地割71-10ほか

2. 調査期間・調査面積・調査略号

第4次調査：平成12年（2000年）6月14日～11月8日 3,342㎡ 略号OHY-00

第5次調査：平成13年（2001年）4月16日～7月31日 5,805㎡ 略号OHY-01

（面積合計9,147㎡）

3. 調査委託者 盛岡市
4. 調査担当機関 （財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
5. 調査協力機関 盛岡市教育委員会
6. 調査担当者 第4次調査 文化財専門調査員 阿部眞澄 岩淵 計 高木 晃  
第5次調査 文化財調査員 高木 晃 八木勲枝

（高木）

## 第Ⅱ章 遺跡の立地・環境

### 第1節 遺跡の位置

細谷地遺跡は岩手県盛岡市飯岡新山2地割67ほかに所在し、国土地理院発行の2万5千分の地形図「盛岡」N J-54 13-14-2（盛岡新庄14号-2）の図幅に含まれ、北緯39° 40' 27"、東経141° 8' 24"に位置する。調査区はJR東北本線仙北町駅から南西約1.5kmの場所にあり、磐石川右岸の中段段丘～低位段丘上に立地する。

盛岡市は南部氏の城下町として発展をとげ、現在岩手県の県庁所在地である。東側は下関伊郡岩泉町および川井村、西側が岩手郡雫石町、南側が紫波郡紫波町および稗貫郡大迫町、北側が岩手郡滝沢村および玉山村の4町3村と隣接している。総面積は489.15km<sup>2</sup>、人口28万8千人（平成14年）を有する北東北における中核都市である。

調査区は各調査次に記述する。第4次調査区は南東部の東西85m南北30mの長方形で、面積は3,342m<sup>2</sup>である。標高は123m弱で、現況は水田である。第5次調査区は東西220m南北5～60mで面積は5,805m<sup>2</sup>である。標高は約122m、現況は南に張り出す第4次調査区西側に隣接する区域が畑地である以外は水田である。第6次調査区は道路交差点建設部分にあたり、V字状の調査区となっている。標高は122mで現況は水田、面積は190m<sup>2</sup>である。今回の調査前に岩手県教育委員会が把握していた細谷地遺跡の範囲は北は第4次調査区までで、第5次調査区西側および第6次調査区は遺跡範囲外とされている。

細谷地遺跡の約50m北には飯岡才川遺跡が位置している。飯岡才川遺跡の標高は122m前後で、細谷地遺跡とほぼ同じであるが、両遺跡は1m程標高の低い水田によって分離されている。

### 第2節 地形環境

岩手県盛岡市は、市域の中央部を北上川が支流の中津川・築川・磐石川を合わせて南流し、東西を山々に挟まれ盛岡盆地を形成している。盛岡周辺の山で特筆されるのは、北西側には古来から「南部片富士」や「麗鷲山」と呼ばれる岩手山（標高2,038.2m）、北東には姫神山（標高1,124.5m）、南東側には北上山地の最高峰である早池峰山（標高1,913.5m）が挙げられる。盆地西縁の篠木山地から東根山山地にかけては、志和構造線などの第四紀に発生した南北方向の断層を伴う隆起により標高500mを越す山地を形成し、磐石盆地と盛岡盆地を分離している。

北上川は主流部の延長294m、流域面積10,250km<sup>2</sup>、支流数216を数える東北最大の河川で、西側に連なる奥羽脊梁山脈と東側に広がる北上山地の間の低地帯を南流し、宮城県石巻湾に注いでいる。この地域は盛岡市北部の四十四田峡谷と一関市狐禪寺峡谷を境にして上・中・下流に分けられ、盛岡市は中流域の上部にあたる。細谷地遺跡は北上川の西側、磐石川右岸に位置する。磐石川は延長40kmで、JR盛岡駅付近で北上川と合流する。

磐石川は盛岡盆地に抜ける一帯では大規模な扇状地を形成せず、右岸に広範囲に渡って沖積地を形成している。北上川右岸、磐石川以南には磐石川の下刻・堆積作用により上位から順に砂礫段丘Ⅰ、砂礫段丘Ⅱ、



第1圖 遺跡位置

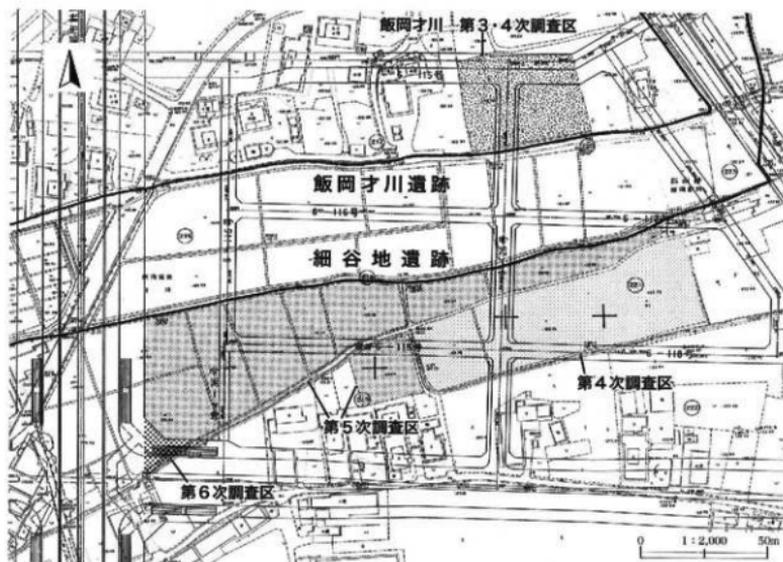
5万分の1地形圖 昭和・日整

砂礫段丘Ⅲの沖積段丘面が形成されている。砂礫段丘Ⅲ面には礫石川の大きく4期の河道変遷が確認されており、広域な沖積地に位置する盛南開発計画範囲内は低位段丘（砂礫段丘Ⅲ）と氾濫原である旧河道が複雑に入り組んでいる。氾濫原である旧河道は細谷地遺跡の調査範囲内だけでなく、周辺遺跡からも検出されている。第3図に50cm等高線を入れた地形図を図示した。これによると、標高の低い部分が旧河道の可能性が強く、現在低い部分は水田に、高い部分は畑や宅地として利用されていることが分かる。

第5・6次調査区で確認した旧河道は湧き水が絶えず、それを利用していたと考えられるR I 01井戸跡が作られているものの、古代集落の広がりとは認められない。

細谷地遺跡を含む周辺の古代集落は、旧河道を避け低位段丘（砂礫段丘Ⅲ）面上に立地することが多く、第6図に図示した古代集落の立地を見ると、大部分が低位段丘の縁を遺地しており、各集落は旧河道によって分離されていることが推測される。細谷地遺跡から見て北の低位段丘上に立地する飯岡才川遺跡は9世紀代の古代集落であるが、細谷地遺跡とは旧河道によって分離されていると考えられ、第5次調査区で検出したR A 39が細谷地遺跡古代集落の北限といえる。南側は低位段丘が続き、古代集落が広がるのが予想される。

旧河道の存在は志波城跡遺跡に関しても例外ではなく、遺跡範囲内北側に旧河道が入り込んでいる（盛南市教委1999）。このことは志波城が造営されてわずか約10年後に、矢町町徳田に所在する徳丹城に主要な機能を移転したことの一因となった、礫石川の氾濫の裏付になるといえる。



第2図 調査区位置



第3圖 遺跡周辺の地形

### 第3節 基本層序 (第4図)

調査区内は南東から北西に向けて傾斜があるため、第4次調査区と第5・6次調査区では確認した基本層序が若干異なる。

第4次調査区は礫石川の堆積作用によって形成された低位段丘(砂礫段丘Ⅲ)上に立地する。水成堆積作用による砂礫層を基盤として、その上位をシルト層が覆うことを基本とする。このような堆積状況は第4次調査区および第5次調査区の南張り出し部と北東部で確認される。古代遺構の検出面は第Ⅱ層上面～第Ⅳ層である。

第Ⅰ層：灰黄褐色土(10YR4/2)で、現在の耕作土である。層厚は10～20cmである。

第Ⅱ層：黒色土(7.5YR2/1～1.7/1)である。層厚は10～40cmである。

第Ⅲ層：黒褐色土(10YR2/2～2/3)である。層厚はかなりばらつきがあり、第Ⅱ層と第Ⅳ層との層界は漸変している。

第Ⅳ層：にぶい黄褐色土(10YR5/6)である。基本的に粘土質で締まりが強い、部分的に砂質の地点がある。いわゆる地山である。地山の標高は、調査区南から北へ向けて緩やかに傾斜している。調査区南では下位の砂礫層が露出している地点も認められる。

第5・6次調査区は礫石川の氾濫によって形成された旧河道が大部分を占める。古代の遺構が立地する、調査区北東・南西地点の基本層序は第4次調査区と同様である。

第Ⅰ層：暗褐色土(7.5YR3/3)で、現在の水田耕作土である。層厚は20cm程度である。

第Ⅱ層：黒褐色土(10YR2/2)である。上面が近世遺構検出面となる。層厚は20～30cmである。

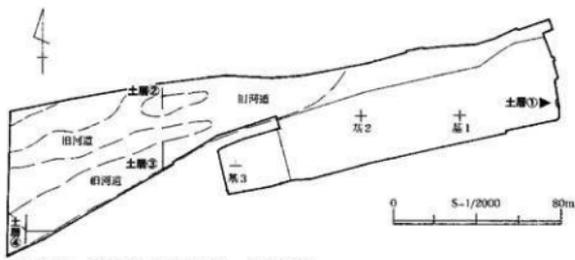
第Ⅲ層：黒色土(10YR2/1)である。部分的に灰白色火山灰粒子を含む古代遺物包含層である。層厚は20～30cm。

第Ⅳ層：黒褐色土(10YR3/1)で、漸移層である。上面が古代～縄文時代の遺構検出面となる。

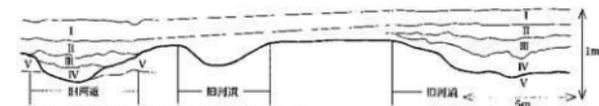
第Ⅴ層：褐色土(10YR4/6)である。基本的に粘土質で締まりが強い。いわゆる地山を形成する。第Ⅴ層以下の土層は砂質シルト層、礫層となっている。第6次調査区のR102井戸跡の底面で確認される。

第Ⅲ・Ⅳ層は微高地よりも旧河道に厚く堆積している。第5・6次調査区内の旧河道(幅2.5～3m)が調査区西から北東に向けて低位段丘に平行して3条確認された。北端の旧河道は調査区北へ延びる。南の2条は複雑に入り組み、調査区内で合流して北東へ延びている。

第4次調査区と第5次調査区の層序は、第4次Ⅱ層と第5次Ⅲ層、第4次Ⅲ層と第5次Ⅳ層、第4次Ⅳ層と第5次Ⅴ層がそれぞれ対応する。



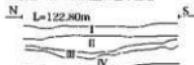
土層①～③ 断面模式図 水平方向1/300 垂直方向1/60  
N, L=122.80m



土層① 断面模式図 水平方向1/300 垂直方向1/60  
N, L=122.80m



土層① 第4次調査区基本土層



土層② 第5次調査区基本土層



土層③ 第6次調査区基本土層



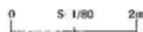
土層④ 第5・6次調査区基本土層



- 第5次調査区基本土層 ①・②・③・④河溝
- 第I層 7.5YR3/3 黄褐色土 粘性强 締まり密 表土(現代耕作土)
- 第II層 10YR2/2 黄褐色土 粘性强 締まり疎(上部近世遺構柱石間)
- 第III層 10YR2/1 黒色土 粘性やや中 締まり密  
(灰白色火山灰磁子を含む、古代遺構包有層)
- 第IV層 10YR3/1 黄褐色土 粘性やや中 締まり密  
(陶器層、上面古代～縄文遺構柱石間)
- 第V層 10YR4/6 褐色土 (地山シルト層)
- \*V層以下の層は砂質シルト層、礫層となっている

第4次調査区基本土層

- 第I層 10YR4/2 黄褐色土 表土
- 第II層 7.5YR2/1～1.7/1 黒色土 シルト質
- 第III層 10YR2/2～2/3 黄褐色土 シルト質 上下2の層間は漸変
- 第IV層 10YR5/6 に近い黄褐色土 粘十質(部分的に砂質)  
しまり強 いわゆる地山



第4図 基本土層

## 第4節 歴史的環境

平成12年度の岩手県教育委員会のまとめでは、盛岡市内には約500ヶ所の遺跡が確認されている。第5図には雫石川右岸を中心とする範囲に所在する206ヶ所の遺跡分布を示した。

これらの遺跡の分布状況を見ると、雫石川左岸と右岸では相対的な様相を示している。左岸の台地上には大館遺跡群をはじめとした縄文時代の集落遺跡が数多く分布しているが、右岸の縄文時代遺跡は陥し穴状土坑が散在する程度となり、熊堂A遺跡の縄文時代晩期の竪穴住居跡1棟を除き、居住遺跡が認められない。一方で古代の遺跡は太山蝦夷森古墳群、803年に造営された志波城、その周辺の古代集落遺跡が数多く分布するという特徴がある。

雫石川左岸に位置する大館遺跡群は、岩手山の火砕流によって形成された火山灰砂台地（滝沢台地）の縁辺に立地し、その標高は130～140mを測る。遺跡群は縄文時代中期中葉から後半を中心時期とする大規模遺跡であることが盛岡市教育委員会の調査で明らかにされている。ほかに古代の集落跡も確認されているが、調査事例が少ない点も考慮しなければならないものの、右岸の密度とははるかに開きがある。

雫石川右岸の縄文時代の遺構は、木宮熊堂A遺跡に晩期中頃の竪穴住居跡1棟がある。他は陥し穴状遺構が散見される程度で、遺物は旧河道の落ち際にまとまる傾向にある。遺物の大部分は縄文時代晩期中葉～末葉であり、陥し穴状遺構の時期とほぼ合致する。細谷地遺跡に関しても同様で、陥し穴状遺構が旧河道の落ち際に並び、遺構外から少量の晩期中葉～末葉の土器片が出土している。

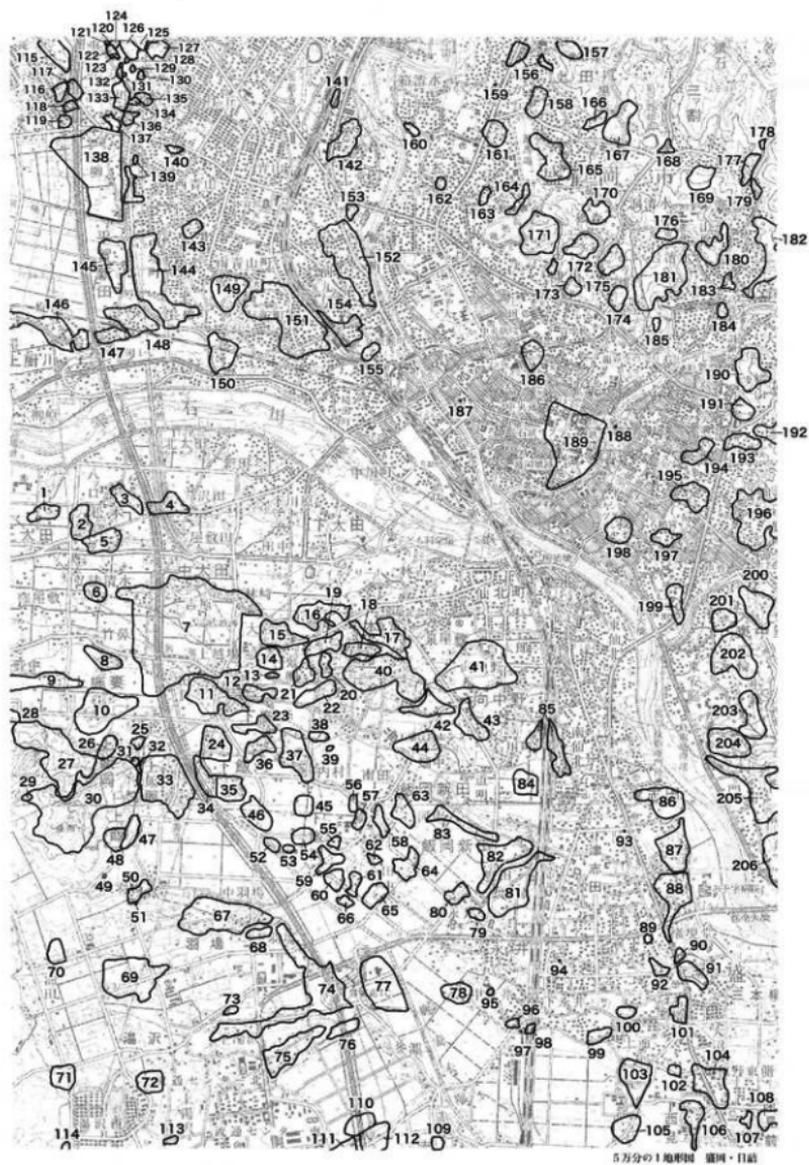
近年、雫石川右岸は盛岡南新都市計画整備事業に伴い発掘調査事例が急増し、志波城周辺の古代集落の様相が明らかにされつつある。その分布を見ると古代集落は旧河道を避け、雫石川によって形成された低位段丘（砂礫段丘Ⅲ）上を選地しており、その標高は120～125m付近であることが多い点はさきに指摘したとおりである。

細谷地遺跡の古代集落は出土土器から9世紀後半～10世紀前半の時期が考えられ、ほぼ同時期と考えられる周辺遺跡は、向中野館遺跡（84）・台太郎遺跡（41）・本宮熊堂B遺跡（17）・飯岡才川遺跡（42）・飯岡沢田遺跡・野古A遺跡（40）・南仙北遺跡（85）・飯岡林崎遺跡（46・52）等の集落遺跡がある。

台太郎遺跡は細谷地遺跡の北東に10haという広大な広がりを持つ古代を中心とした集落遺跡である。30次以上の調査が行われ、古代の拠点的な集落であったことが判明している。竪穴住居跡500棟以上が検出されており、特に7世紀後半～8世紀前半、9世紀後半～10世紀前半にかけての遺構密度が著しい。

細谷地遺跡の北50m地点に隣接する飯岡才川遺跡は9世紀後半を中心時期とする集落遺跡である。平成13年度に報告書が発刊され、調査の結果、竪穴住居跡・竪立柱建物跡・土坑・円形周溝・溝跡等の古代集落の構成要素が報告されている。報告書では円形周溝の存在から飯岡沢田遺跡との関連が示唆されている。しかし平成14年度の飯岡才川遺跡寄り地点の飯岡沢田遺跡発掘調査で、竪穴住居跡は検出されているが円形周溝は確認されていないこと、飯岡沢田遺跡の円形周溝は低位段丘の最頂部付近にまとまり両遺跡の間には旧河道が入る可能性が高いことから、飯岡才川遺跡の円形周溝は飯岡沢田遺跡の円形周溝とは別のまとまりである可能性がある。

細谷地遺跡の東に隣接する向中野館遺跡は9世紀後半～10世紀前半を中心時期とする古代集落である。これまでの調査で竪穴住居跡が12棟調査されており、飯岡才川遺跡の古代集落と同一面にあたること、ほぼ同時期であることから、飯岡才川遺跡の古代集落と一体となっていた可能性がある。

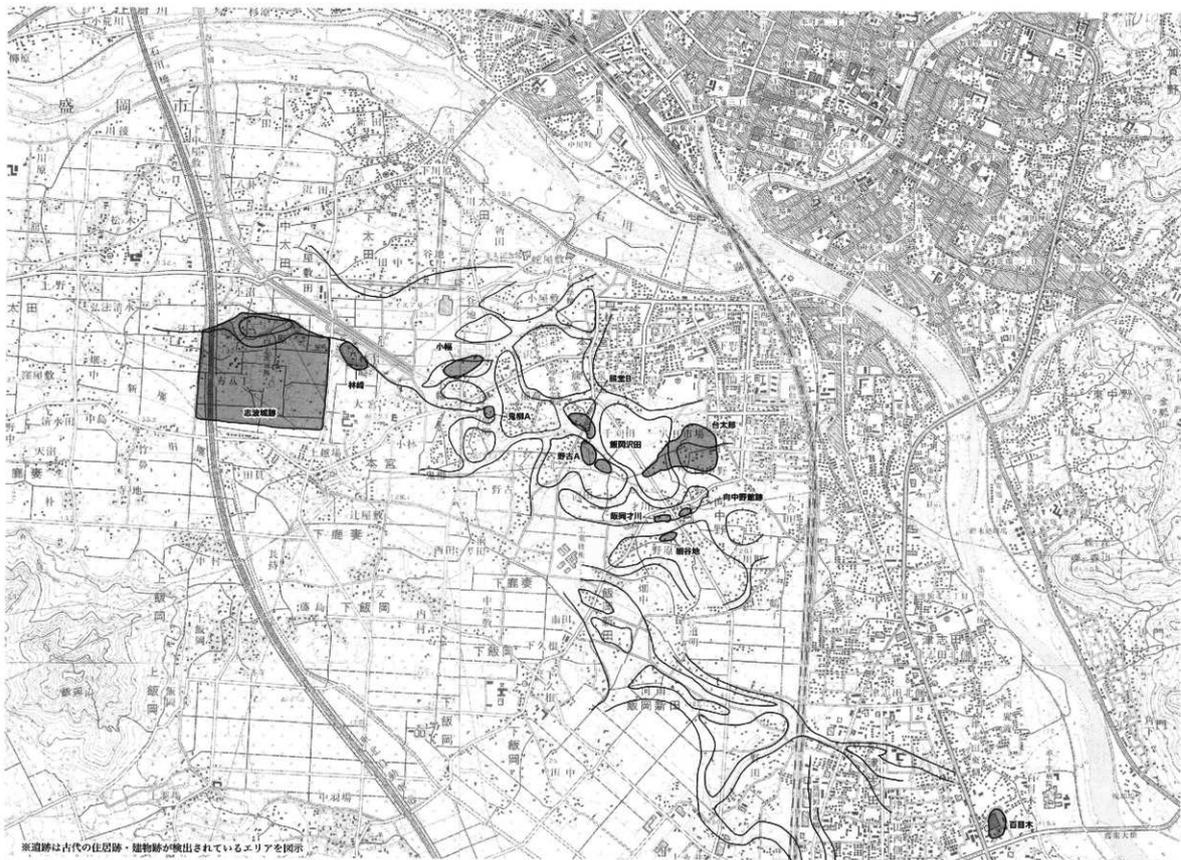


第5図 周辺の選跡

第1表 周辺の遺跡一覧

| 番号 | 遺跡名     | 時代        | 種別  | 番号  | 遺跡名  | 時代    | 種別     |
|----|---------|-----------|-----|-----|------|-------|--------|
| 1  | 稲田      | 古代・平安     | 散布地 | 54  | 深淵Ⅱ  | 古代・平安 | 集落跡    |
| 2  | 館(太田館)  | 古代(平安)    | 集落跡 | 55  | 西    | 古代・平安 | 集落跡    |
| 3  | 八ノ口     | 古代        | 散布地 | 56  | 高屋敷Ⅰ | 古代    | 散布地    |
| 4  | 八掛      | 古代(奈良・平安) | 集落跡 | 57  | 高屋敷Ⅱ | 古代・平安 | 散布地    |
| 5  | 上野屋敷    | 古代        | 散布地 | 58  | 下久根Ⅰ | 縄文・古代 | 散布地    |
| 6  | 畑中      | 古代        | 集落跡 | 59  | 熊堂Ⅰ  | 縄文・古代 | 集落跡    |
| 7  | 小沼      | 古代・平安     | 集落跡 | 60  | 熊堂Ⅱ  | 古代・平安 | 集落跡    |
| 8  | 五兵衛新山   | 古代        | 集落跡 | 61  | 熊堂Ⅲ  | 古代・平安 | 集落跡    |
| 9  | 天沼      | 古代        | 集落跡 | 62  | 下久根Ⅱ | 縄文・古代 | 散布地    |
| 10 | 竹鼻      | 古代        | 集落跡 | 63  | 石持   | 古代    | 散布地    |
| 11 | 石仏      | 古代        | 集落跡 | 64  | 松島   | 古代    | 集落跡    |
| 12 | 水門      | 古代        | 集落跡 | 65  | 山中   | 古代・平安 | 集落跡    |
| 13 | 小林      | 古代        | 集落跡 | 66  | 南谷地  | 古代・平安 | 集落跡    |
| 14 | 大宮      | 古代・中世     | 集落跡 | 67  | 因幡   | 縄文・古代 | 散布地    |
| 15 | 大宮北     | 古代        | 集落跡 | 68  | 新井田Ⅱ | 古代    | 散布地    |
| 16 | 小幡      | 古代        | 集落跡 | 69  | 木節   | 古代・平安 | 集落跡    |
| 17 | 木宮熊堂    | 古代        | 集落跡 | 70  | 7ノ野  | 縄文    | 散布地    |
| 18 | 願黄      | 古代        | 集落跡 | 71  | 湯壺   | 縄文    | 散布地    |
| 19 | 東橋A     | 古代        | 集落跡 | 72  | 後島   | 縄文    | 散布地    |
| 20 | 鬼橋C     | 古代        | 集落跡 | 73  | 小田Ⅰ  | 古代    | 散布地    |
| 21 | 鬼橋B     | 古代        | 集落跡 | 74  | 新田   | 古代・平安 | 集落跡    |
| 22 | 野古B     | 古代        | 散布地 | 75  | 湯沢大館 | 古代～中世 | 散布地    |
| 23 | 上越場B    | 古代        | 集落跡 | 76  | 一本松  | 平安    | 散布地    |
| 24 | 辻屋敷     | 古代        | 集落跡 | 77  | 大島   | 古代    | 散布地    |
| 25 | 堤       | 縄文・古代     | 散布地 | 78  | 間木   | 古代    | 散布地    |
| 26 | 月見山     | 縄文・古代     | 散布地 | 79  | 境田   | 古代    | 散布地    |
| 27 | 山中      | 縄文・古代     | 散布地 | 80  | 碓本   | 古代    | 散布地    |
| 28 | 蟹沢下     | 古代        | 散布地 | 81  | 陸当   | 古代    | 集落跡    |
| 29 | 細越      | 縄文        | 散布地 | 82  | 牛野   | 古代    | 集落跡    |
| 30 | 飯岡山館    | 中世        | 散布地 | 83  | 夕覚   | 古代    | 散布地    |
| 31 | 高橋古墳路   | 奈良～平安     | 古墳  | 84  | 向中野福 | 古代    | 集落跡    |
| 32 | 高館      | 縄文        | 散布地 | 85  | 南仙北  | 縄文・古代 | 集落跡    |
| 33 | 大柳Ⅰ     | 古代        | 集落跡 | 86  | 碓塚   | 古代・奈良 | 集落跡    |
| 34 | 藤島Ⅱ     | 平安?       | 散布地 | 87  | 西鹿渡  | 古代    | 集落跡    |
| 35 | 藤島      | 縄文・平安     | 集落跡 | 88  | 百口木  | 縄文・古代 | 集落跡    |
| 36 | 二又      | 古代・平安     | 散布地 | 89  | 坂の下  | 縄文    | 散布地    |
| 37 | 西田A     | 古代        | 集落跡 | 90  | 中島   | 古代    | 集落跡    |
| 38 | 西田B     | 古代        | 集落跡 | 91  | 三本柳福 | 縄文・古代 | 集落跡    |
| 39 | 前田      | 古代        | 集落跡 | 92  | 下永林  | 縄文・古代 | 散布地    |
| 40 | 野古A     | 古代・平安     | 集落跡 | 93  | いたこ塚 | 近世    | 祭祀跡    |
| 41 | 台太郎     | 古代        | 散布地 | 94  | 永井経屋 | 古代    | 祭祀跡    |
| 42 | 飯岡才川    | 古代        | 集落跡 | 95  | 永井前田 | 古代    | 散布地    |
| 43 | 細谷地     | 古代        | 集落跡 | 96  | 神田   | 古代    | 散布地    |
| 44 | 矢蔵      | 古代        | 散布地 | 97  | 神田塚  | 近世    | 祭祀跡    |
| 45 | 深澤Ⅰ     | 古代・平安     | 集落跡 | 98  | 下永井  | 近世    | 散布地    |
| 46 | 飯岡林崎Ⅱ   | 古代        | 集落跡 | 99  | 荒原   | 古代    | 集落跡    |
| 47 | 赤坂Ⅱ     | 平安?       | 散布地 | 100 | 高橋A  | 古代    | 集落跡    |
| 48 | 飯岡赤坂    | 古代        | 散布地 | 101 | 高橋B  | 古代    | 散布地    |
| 49 | いたこ塚    | 近世        | 祭祀跡 | 102 | 和野   | 古代    | 散布地    |
| 50 | 小館(羽場館) | 中世        | 散布地 | 103 | 三白刈田 | 古代・中世 | 集落跡    |
| 51 | 砂子塚     | 古代        | 散布地 | 104 | 古観   | 中世    | 散布地    |
| 52 | 飯岡林崎Ⅰ   | 古代        | 集落跡 | 105 | 見前館  | 古代    | 集落跡・城跡 |
| 53 | 上新田     | 古代・平安     | 集落跡 | 106 | 見前中島 | 古代    | 散布地    |

| 番号  | 遺跡名      | 時代             | 種別  | 番号  | 遺跡名      | 時代       | 種別      |
|-----|----------|----------------|-----|-----|----------|----------|---------|
| 107 | 伊志田      | 古代             | 散布地 | 161 | 大京長根     | 縄文       | 散布地     |
| 108 | 大板前      | 古代             | 集落跡 | 162 | 八幡森      | 縄文       | 散布地     |
| 109 | 上段下      | 古代             | 散布地 | 163 | 高松神社裏    | 縄文       | 散布地     |
| 110 | 大波野Ⅰ     | 古代・縄文          | 散布地 | 164 | 高松       | 縄文・古代    | 散布地     |
| 111 | 大波野Ⅱ     | 縄文             | 散布地 | 165 | 上堤頭      | 縄文       | 散布地     |
| 112 | 赤林・里塚    | 江戸             | 散布地 | 166 | 長根       | 縄文       | 散布地     |
| 113 | 島        | 不明             | 散布地 | 167 | 宇登坂      | 縄文       | 散布地     |
| 114 | 湯沢       | 縄文             | 散布地 | 168 | 遷石       | 縄文       | 散布地     |
| 115 | 白石       | 縄文             | 散布地 | 169 | 洞清水      | 縄文       | 散布地     |
| 116 | 滝沢佐森     | 縄文・奈良・平安       | 散布地 | 170 | 福荷窪      | 縄文       | 散布地     |
| 117 | 大塚       | 縄文・平安          | 散布地 | 171 | 上山山      | 縄文・古代    | 散布地     |
| 118 | 別当森      | 縄文・平安          | 散布地 | 172 | 金比羅前     | 縄文       | 散布地     |
| 119 | 笹森       | 縄文             | 散布地 | 173 | 南部家墓所    | 近世       | 散布地     |
| 120 | 室小路 8    | 縄文             | 散布地 | 175 | 久保屋敷A    | 縄文       | 散布地     |
| 121 | 室小路 1 6  | 縄文             | 散布地 | 176 | 岩清水      | 縄文       | 散布地     |
| 122 | 室小路 5    | 縄文・平安          | 散布地 | 177 | 新茶塚      | 縄文       | 散布地     |
| 123 | 室小路 9    | 縄文             | 散布地 | 178 | 歳ノ神      | 縄文       | 散布地     |
| 124 | 室小路 1 5  | 縄文             | 散布地 | 179 | 新基門口     | 縄文       | 散布地     |
| 125 | 室小路Ⅱ     | 縄文・古墳          | 散布地 | 180 | 合間       | 縄文・古代    | 散布地     |
| 126 | 室小路 3    | 縄文・奈良・平安       | 散布地 | 181 | 道下       | 縄文・古代    | 散布地     |
| 127 | 穴口       | 縄文・古代          | 集落跡 | 182 | 甘石       | 縄文       | 散布地     |
| 128 | 室小路 1 0  | 縄文・弥生          | 散布地 | 183 | 塚牛塚      | 縄文・古代    | 散布地     |
| 129 | 室小路 4    | 縄文             | 散布地 | 184 | 桶山田      | 縄文       | 散布地     |
| 130 | 室小路 1 2  | 縄文・平安          | 散布地 | 185 | 愛宕山      | 近世       | 散布地     |
| 131 | 室小路 6    | 縄文             | 散布地 | 186 | 四ノ家      | 古代       | 散布地     |
| 132 | 室小路 1 1  | 縄文・奈良          | 散布地 | 186 | 久保屋敷B    | 縄文       | 散布地     |
| 133 | 室小路 7    | 縄文・古墳・奈良・平安    | 散布地 | 187 | 水窪院跡     | 近世       | 庭跡跡     |
| 134 | 室小路 1 3  | 縄文・古代          | 散布地 | 188 | 鍛冶町      | 近世       | 一里塚     |
| 135 | 室小路 1    | 縄文・平安          | 散布地 | 189 | 盛岡城      | 中世・近世    | 散布地     |
| 136 | 室小路 1 4  | 縄文・古代          | 散布地 | 190 | 獅子が鼻     | 中近世      | 散布地     |
| 137 | 穂巻川      | 縄文・古墳・奈良・平安    | 集落跡 | 191 | 鼻子       | 縄文・弥生    | 散布地     |
| 138 | 高柳       | 縄文・奈良・古墳・奈良・平安 | 集落跡 | 192 | 新庄       | 縄文       | 散布地     |
| 139 | 塩橋       | 縄文・古代          | 散布地 | 193 | 瀬戸       | 縄文・弥生    | 散布地     |
| 140 | 踏碇橋      | 縄文・古代          | 散布地 | 194 | 花垣跡(花坂館) | 中世       | 散布地     |
| 141 | 氏了橋      | 縄文・古代          | 散布地 | 195 | 山王山      | 縄文・古代    | 集落跡     |
| 142 | 上堂頭      | 縄文・古代          | 集落跡 | 196 | 砂溜       | 縄文・古代    | 集落跡     |
| 143 | 小袋       | 縄文・古代          | 散布地 | 197 | 中野館      | 中世       | 散布地     |
| 144 | 長橋町      | 縄文・古代          | 散布地 | 198 | 大慈寺町     | 縄文       | 散布地     |
| 145 | 水道       | 縄文・古代          | 散布地 | 199 | 新山館      | 古代・中世・近世 | 集落跡・城跡跡 |
| 146 | 幅Ⅲ       | 古代             | 集落跡 | 200 | 金勢       | 縄文・古代    | 散布地     |
| 147 | 幅Ⅱ       | 古代             | 集落跡 | 201 | 葛西館      | 縄文・古代    | 散布地     |
| 148 | 幅Ⅰ       | 古代(奈良)         | 集落跡 | 202 | 立石       | 縄文・古代    | 散布地・集落跡 |
| 149 | 大船堤      | 縄文・古代          | 集落跡 | 203 | 畑ノ森      | 縄文・近世    | 散布地     |
| 150 | 稻荷町      | 縄文・古代~近世       | 集落跡 | 204 | 蝶ノ森館     | 中世       | 散布地     |
| 151 | 大新町      | 縄文・古代          | 集落跡 | 205 | 門        | 縄文・古代    | 散布地     |
| 152 | 安信館(册川城) | 縄文・中世          | 散布地 | 206 | 角下       | 縄文・古代    | 散布地     |
| 153 | 上堂       | 縄文・古代          | 散布地 |     |          |          |         |
| 154 | 前九年      | 縄文             | 集落跡 |     |          |          |         |
| 155 | 宿田南      | 中世・近世          | 集落跡 |     |          |          |         |
| 156 | 黒石野平     | 古代(平安)         | 集落跡 |     |          |          |         |
| 158 | 東縁が丘     | 縄文             | 散布地 |     |          |          |         |
| 159 | 上田・里塚    | 近世             | 庭跡跡 |     |          |          |         |
| 160 | 箱清水      | 縄文・古代          | 散布地 |     |          |          |         |



第6図 周辺の古代遺跡と旧河道の分布

以上のように平石川右岸の志波城跡周辺から南東部の本宮、飯岡地区一帯には、志波域に先行する古墳～奈良時代の集落、徳丹城へと城柵機能が移行した後の集落遺跡が集中する。実際には志波域存続期間と併行する時期の集落は少なく、それ以降に大規模な集落を数多く形成するという特徴がある。細谷地遺跡も同様に古代城柵造営以降の集落として注目される。

平石川右岸の中世は台太郎遺跡で礎石を伴う建物跡、土塙墓群や、向中野館跡遺跡で向中野館跡の一部と考えられる堀跡が検出されている。向中野館は中世の時代に当地域を支配下にしていた飯岡氏の館跡の可能性があると考えられている。

周辺における近世遺構としては、台太郎遺跡等で屋敷跡・井戸跡・カマド状遺構が検出されている。カマド状遺構は燃焼部に焚き口と思われる上坑を付属するものが半数以上を占めており、細谷地遺跡のカマド状遺構と類似する。台太郎遺跡のカマド状遺構は伴出遺物がなく時期は不明であるが、隣接する近世の独立柱建物跡群との関連が推測されている。細谷地遺跡は調査区西側に木柱を残す独立柱建物跡が2棟、隣接する地点にカマド状遺構が2基検出されており、遺物の出上がなく時期は不明だが台太郎遺跡の類例を考えると近世の可能性がある。ただし、調査区西側は旧河道が複雑に入り込み居住域には適さない。現在の宅地も一段高い段丘に立地しており、古代以降集落の中心は低位段丘上にあると考えられる。 (八木)

<第II章に関わる引用・参考文献>

- \* (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター「岩埋文：教育委員会→「教委」  
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書→「岩埋文報告書」と略

岩手県企画開発室 1974 『北上川系開発地域土地分類基本調査 一日誌』  
岩手県企画開発室 1978 『北上川系開発地域土地分類基本調査 一盛岡』  
岩手県教委 1982 『東北縦貫自動車道関係文化財調査報告書 一XⅡ-太田方八』遺跡(志波城跡)岩手県文化財調査報告書第68集  
岩埋文 1994 『矢盛遺跡第1次発掘調査報告書』岩埋文報告書第205集  
岩埋文 1995 『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』岩埋文報告書第226集  
岩埋文 1996 『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』岩埋文報告書第244集  
岩埋文 1996 『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』岩埋文報告書第265集  
岩埋文 1998 『小幡遺跡第5次・第7次発掘調査報告書』岩埋文報告書第267集  
岩埋文 1998 『大宮北・本宮熊堂A遺跡発掘調査報告書』岩埋文報告書第281集  
岩埋文 1999 『熊堂B遺跡第5次・台太郎遺跡第16次発掘調査報告書』岩埋文報告書第293集  
岩埋文 1999 『本宮熊堂B遺跡第4次・鬼柳A遺跡第4次発掘調査報告書』岩埋文報告書第308集  
岩埋文 1999 『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』岩埋文報告書第309集  
岩埋文 2000 『向中野館跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』岩埋文報告書第321集  
岩埋文 2000 『向中野館跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書』岩埋文報告書第338集  
岩埋文 2002 『熊堂B遺跡第10次発掘調査報告書』岩埋文報告書第377集  
盛岡市教委 1979 『百目木遺跡発掘調査報告書』  
盛岡市教委 1969 『盛岡市上太田坂夷古墳』盛岡市教育委員会  
盛岡市教委 1981 『大船遺跡群 昭和55年度発掘調査概報一』  
盛岡市教委 1981 『志波城跡I 一太田方八丁遺跡範囲確認調査報告一』  
盛岡市教委 1995 『志波城跡 一平成元年度発掘調査概報一』  
盛岡市教委 1998 『大船遺跡群 大船町遺跡・大新町遺跡 一平成8年度・9年度発掘調査概報一』  
盛岡市教委 1999 『志波城跡 一平成8・9・10年度発掘調査概報一』

## 第三章 調査・整理の方法

### 第1節 調査方法

#### (1) グリッドの設定

調査区全域をカバーするグリッドの設定については盛岡市教育委員会の方針に準じ、平面直角座標第X系を座標変換した調査座標を用いた。細谷地遺跡が含まれる大宮地区の調査座標原点は $X=-35000,000$ 、 $Y=+25000,000$ である。区画割付は委託測量により基準点1～3、補助杭1～4を設置した。基準点の国土座標値は以下の通りである。

基準点1 ( $X=-36,080,000$ 、 $Y=26,400,000$ )

基準点2 ( $X=-36,080,000$ 、 $Y=26,360,000$ )

基準点3 ( $X=-36,100,000$ 、 $Y=26,310,000$ )

すなわち基準点1は大宮地区調査座標原点から東に1,080m、南に1,400mの位置関係にある。

グリッドは1辺50mの大グリッドにより調査区を区割りし、更にこれを1辺2mの小グリッドに分割している。大グリッド名は北から南方向に算用数字の1・2・3・・・、西から東方向にアルファベット大文字のA・B・C・・・を組み合わせ1A、2Bと表示した。小グリッド名は北から南方向に算用数字の1・2・3・・・25、西から東方向にアルファベット小文字のa・b・c・・・yを組み合わせ、1a、2bと表示した。実際のグリッド呼称は大小グリッド表示の組み合わせにより2F1aといった表示とし、グリッド杭名称はグリッド北西隅の点に与えた。

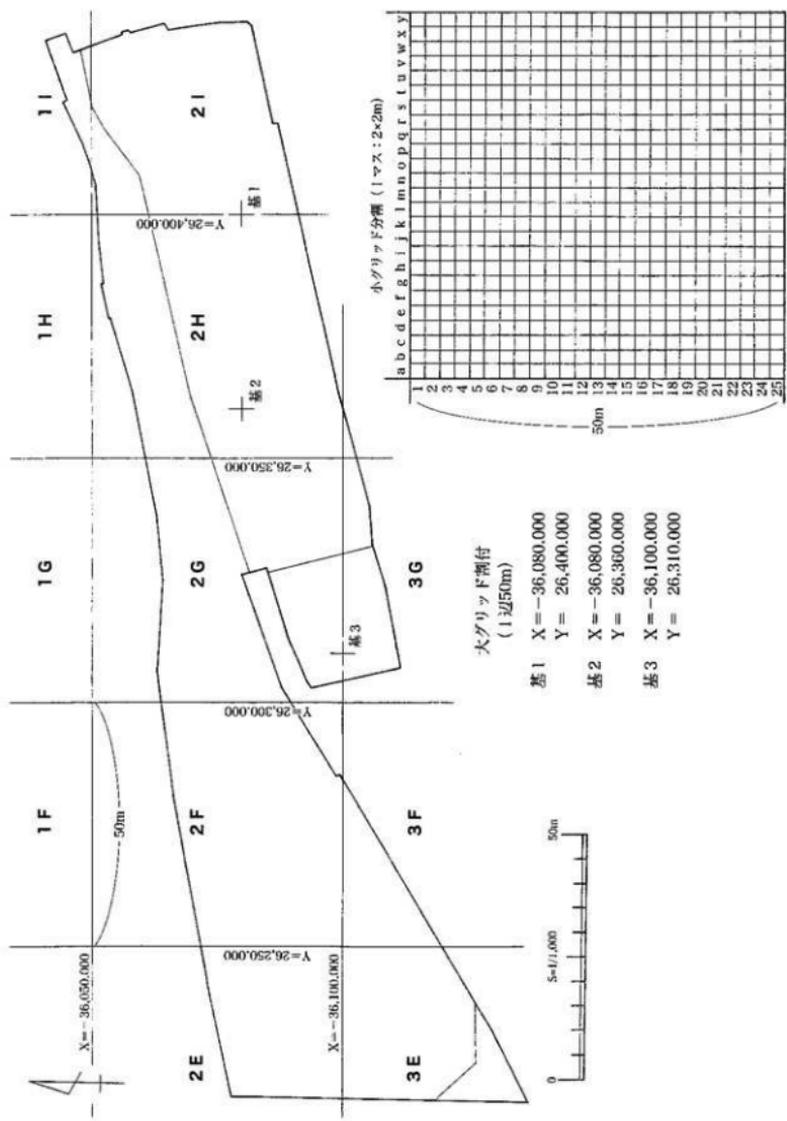
#### (2) 掘削り、遺構検出

段丘上の第4次調査区、及び第5次調査区の東側ではI層表土を重機により除去し、II層黒色土を人力で掘り下げ下面で遺構検出に当たった。この区域はII層の削平が顕著でII層除去時点で黄褐色のIV層が露出する地点も多く、古代の遺構は比較的明瞭に検出できた。IV層粘土層は深掘りトレンチ、あるいは深さのある遺構断面で観察する限りでは、内部に遺構の痕跡、遺物を包含する可能性が見られなかったため、調査はIV層上面で終了としている。

旧河道部分に当たる第5次調査区西側では表土・II層共に遺物の包含が僅少であったため、II層までを重機により除去した。II層下位では旧河道と微高地が東西方向に並列している状況が確認された。微高地ではIV層黒褐色土上面において近世の遺構、及び縄文時代の陥し穴状土坑を検出した。旧河道内では当初、複数のトレンチを入れて底面の状況を確認し終了とする方針であったが、微高地から旧河道内に延びる溝を検出したため旧河道の約70%程について堆積土を重機により除去し底面(V層上面)での遺構検出に当たった。

#### (3) 遺構の命名

遺構名称は盛岡市教育委員会の方針に準じ、細谷地遺跡全体での通し番号としている。遺構種類の略号はRA: 竪穴住居跡、RB: 掘立柱建物跡、RD: 土坑、RE: 竪穴状遺構、RF: 焼上遺構、RG: 溝跡、RI: 井戸跡、RZ: その他、であり、それぞれ2桁の数字と組み合わせで遺構名とした。今回の報告では



第7図 グリッド配置図

RZを用いたものとして第5次調査区で検出したカマド状遺構、竈間状遺構が該当する。登録は精査着手順に行った。精査中に、検出段階で認識した遺構種類と異なることが判明し遺構種類名称を変更したものの、遺構とは確認できず登録抹消にしたものがある。

#### (4) 遺構精査

遺構は4分割、2分割等で埋土を記録する断面を残しながら掘り下げた。竈穴住居跡についてはカマド部分を残し竈穴部分の完掘を先行し、堆積土層断面記録用のベルト記録、除去後にカマド、柱穴等の精査を行った。炭化材、焼土ブロックの残存により焼失家屋と判断できる竈穴住居跡については、焼失状況の記録後に床面を露出した。

本遺跡における竈穴住居跡のカマドは大部分がトンネル式の煙道を伴っており、当初は煙出し部分の掘り下げを先行して完掘後に煙道の半成に着手する方法を採用した。カマド部分を撮影する際にトンネル式煙道の天井を破壊しない状態の写真が得られるという利点はあるものの、この方法では作業効率が悪く、煙道と煙出しとして堆積上の直接的な対比が不可能になるといった難点があった。このため第1次調査の後半からは

煙出し孔の検出→煙出し孔プラン実測→煙道鏡ち割（天井部含めて）→煙道縦断面記録→  
→煙道完掘→煙道横断面記録→煙道・煙出し孔完掘記録

という省力化した方法に切り替えた。これにより作業時間の短縮、及び煙道から煙出しまで連続した断面による土層の把握が可能になった。

焼成面を持つ土坑の精査は焼成面を露出させた段階、掘り方底面まで掘り下げた段階のそれぞれで記録を取った。陥し穴状土坑については、大部分の遺構底面が現在の地下水レベルに達しており水中において手探りで底面を把握するような状態であり、湧水による壁面の崩落も顕著であったことから、底面の認識に曖昧なものを含んでいる。径が30cm程度以下の小規模なピットについては、半鏡により堆積状況の確認を行い、埋土が単層と把握したものについては断面記録を省略した。

#### (5) 遺物の取り上げ

【遺構外出土遺物】 表土・Ⅱ層掘削時点で出土した遺物は大グリッド単位・基本土層単位での取り上げ、遺構精査開始後に遺構に近接して出土した遺物、また直接遺構とは関連しなくとも一定範囲に分布する遺物については小グリッド単位での取り上げを基本とした。ただし、試験段階ではトレンチ名、グリッド設定以前に出土した遺物については大まかな地区名までの記録としている。

【遺構内出土遺物】 遺構埋土掘り下げ段階での出土遺物は堆積土層を把握しながら取り上げることに努めたが徹底できず、概ね上層・中層・下層・床面といった区分を行った。下層～床面、並びにカマド周辺出土の遺物は原位置を図化して番号をつけ取り上げた。

#### (6) 実測記録

遺構他の実測は簡易測り方測量、平板を併用した平面図の作成、及び断面図の作成を行った。縮尺は通常の遺構については1/20を基本とし、竈穴住居跡カマド等の細部記録が必要なものについて1/10、1/5の縮尺、溝跡等長大な遺構については1/40、1/50、1/100の縮尺も用いた。

## (7) 写真記録

野外調査の写真撮影に当たってはメインカメラとして中判カメラ1台(モノクロ)、サブカメラとして35mm判カメラ2台(モノクロ・カラー)、メモ用にインスタントカメラ1台を使用した。遺跡全体、及び遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、第4次調査中盤と第5次調査終盤に小型飛行機により4×5判(モノクロ)、6×7判(カラー)での撮影を行った。

## 第2節 調査経過

### 第4次調査 平成12年度(2000年度)

- 6/13 調査器材搬入 調査員は阿部・岩淵の2名、作業員22名で開始(7月から阿部・高木の2名体制)。
- 6/15~21 試掘トレンチ調査。全体に遺構密度が高い状態が判明。
- 6/21~27 重機稼働し西側から表土除去開始。調査区の西側2/3を終了。排土は東側1/3を仮置き場とする。順次Ⅲ層上面において遺構検出開始。
- 7/7 中央部から遺構精査開始、R A01~。
- 7月末~8月上旬 連日気温35℃を超える暑さに作業ペースダウン。
- 8/2 飯岡中学校職場体験学習、14名参加。整穴件居跡の掘り下げ、遺物取り上げ作業に従事。
- 9/4・5 北側隣接地に遺構分布域が拡大する状況について委託者、盛岡市教育委員会担当者と現地確認。トレンチにより住居跡が検出されたため、次年度の調査範囲とする方向で協議。
- 9/5 西側の精査区域について部分終了確認。同日遺跡空撮。
- 9/6 盛南開発関連調査の進捗状況について委託者に説明。以降の見通しについて協議。
- 9/11~19 重機稼働。東側の排土反転と表土除去。
- 9/18~27 東側区域の遺構検出。こちらも遺構密度濃い。
- 9/19 事業団評議委員現場視察、24名参加。
- 9/27 東側遺構精査開始、R A24~。
- 9/30 現地説明会、飯岡才川遺跡、台太郎遺跡と合同で開催、参加80名。盛岡タイムズ紙の取材。
- 10/23 終了確認。
- 11/2 現場撤収。

### 第5次調査 平成13年度(2001年度)

- 4/16 調査器材搬入、調査員は高木・八木の2名、作業員19名の体制で10月末までの予定で開始。
- 4/17~19 南側区域試掘トレンチ調査。重機により南側区域表土除去。
- 4/23~5/21 南側区域遺構精査。住居跡3棟(R A33・36・37)。
- 4/26~5/2 北側・西側区域試掘トレンチ調査。旧河道と微高地が並列する凹地形であることが判明。
- 5/7~17 北側・西側区域重機により表土除去。遺構検出。
- 5/21~6/22 北側区域遺構精査。住居跡2棟(R A38・39)他。
- 5/22~6/5 細谷地遺跡第6次調査開始。西側区域の南西隅部分。
- 5/30 委託者・県教委と調査の進捗状況について現地協議。遺構密度が低いため調査期間を短縮する方針となる。
- 6/11~ 西側区域の遺構精査。全体に湧水が著しく排水作業と平行しての掘り下げを進める。
- 7/9~24 西側区域旧河道部分重機により掘り下げ。
- 7月中旬 雨天が続き低地部分での湧水が顕著になるため遺構検出・精査とも難航。
- 7/20 現地説明会、57名参加。岩手日報・盛岡タイムズ紙取材。
- 7/25 終了確認。遺跡空撮。
- 7/31 現場撤収。

## 第3節 整理方法

### (1) 遺構記録の整理

遺構実測図は必要に応じて合成等の編集作業を行い第2原図を作成した。遺構図の縮尺、遺構図に用いた記号は第8図を参照されたい。遺構の計測は実測図、第2原図をもとに行った。竪穴住居跡の規模は4辺の全長を記載した。コーナーが丸みを持つものについては竪穴プランと近似する直線を想定し各辺の長さを計測している。住居跡主軸方位は南北軸に近い2辺の方位、もしくは2辺に開きがある場合は2辺の2等分線の方位を座標北からの偏角により示した。床面積は前述の竪穴プランと近似する方形の面積を算出したもので、概算の数値である。遺構写真は複数のカットから報告書掲載用の写真を選択している。

### (2) 遺物の整理

出土遺物は野外作業の合間に水洗、大別仕分け、出土地点の確認・注記を行い、種類毎に以下の基準で選抜し資料化した。遺物実測図縮尺、使用したスクリーンは第8図に示した。遺物写真は図化資料の大部分について35mmフィルムにより撮影したが、その中から選択して掲載している。

【土器類】 遺構単位の接合作業と平行して資料の選択・登録を行った。なお、選択にあたっては全ての個体を登録・分類する時間的余裕がないため、主に次の点に留意した。

- 口縁部破片 推定復原値を含め口径を算出できる個体、及び口縁部の器形が把握できる個体。
- 体部破片 反転実測が可能な個体、及び須恵器裏・瓶類破片で印目等の整形痕が明瞭な個体。
- 底部破片 底径を算出できる個体、底部からの立ち上がり角度が把握できる個体、及びクロ使用土器の底部切り離し手法が判明する個体。

以上により選択した個体を登録し台帳を作成した。更に、1遺構から複数の同一分類に属する個体が出土している場合は、より残存度の良い個体などに絞って二次選抜を行い実測資料とした。土器分類については第IV章に記載している。

【陶磁器】 種類不明の小破片を除き全点登録した。掲載は実測可能なものを中心に選択している。

【石器・石製品・土製品類】 全点登録し、素材剥片、砥石小破片、微細な焼成粘土塊等を除き掲載資料としている。カマド芯材等の竪穴出土自然曝は野外調査中に砥石、台石等の使用痕が認められるもの以外を廃棄したが、一部集中して出土した遺構については石材同定、重量測定を行っている。なお、石材は肉眼による同定を依頼した。

【金属製品類】 鉄製品、銅銭がある。明らかに近現代のものとは判断される個体、小破片で種類を特定できないものを除き全点登録し、掲載資料とした。鉄製品は錆落としの後に実測し、保存処理を外部委託した。

【木製品類】 井戸出土の曲物、杭、角材、柱穴出土の柱根がある。全点登録し掲載資料とした。材の樹種同定、保存処理については外部委託により実施した。

【自然遺物類】 炭化材・炭化種実・骨片がある。住居跡等から出土した炭化材は出土位置を記録して取り上げたものについて肉眼による材同定を依頼した。骨片は微細なものが大部分で同定を行っていない。

## 第4節 整理経過

【平成12年度（2000年度）11月～3月】

第4次調査の遺構記録整理、遺物整理を行った。遺物は土器実測に時間を要したため、トレース、及び他の遺物実測に進むことができず、翌年度夏期に延長整理となる。

【平成13年度（2001年度）8月～10月】

第4次調査出土遺物の整理で持ち越しとなった土器実測図の修正・トレース、石器他遺物の実測・トレース、台帳作成を行った。

【平成13年度（2001年度）11月～3月】

第5次調査の遺構記録整理、遺物の接合・実測・トレース、第4・5次調査の遺構図トレース、遺構図・遺物図版下作成、写真図版作成、原稿執筆を行った。第6次調査については12月に整理を行い当該年度発行の調査略報に掲載している。(高木)

### 遺構図凡例

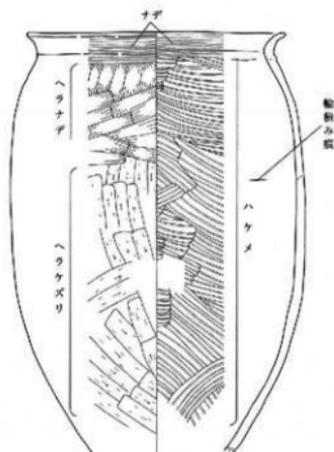
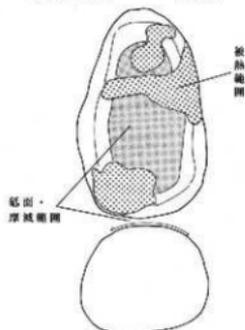
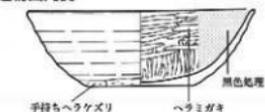


焼土・炭焼部分



カマド天井崩落土

### 遺物図凡例



第8図 遺構・遺物図凡例

## 第IV章 土器の分類

出土土器の総数は40%コンテナで30箱あり、内訳は縄文土器7点、土師器615点、須恵器153点、あかやき上層8点、近世陶磁器27点（登録点数）である。

大部分は平安時代のもので、時期的には9世紀後半～10世紀前半に該当する。須恵器・土師器（黒色処理・非黒色処理）・あかやき土器があり、8割近くを土師器が占める。器種は坏・高台付坏・甕・壺・耳皿・甌などが出土している。土器の分類にあたっては、器種毎の細部の形態によって細分した。法量は大型のものからⅠ・Ⅱ・Ⅲ・…と表した。器種内の大別はA・B・C・…、細別を1・2・3・…、さらにa・bとした。

以下、須恵器・土師器（黒色処理）・土師器（非黒色処理）・あかやき土器の順で概説する。なお、縄文土器・近世陶磁器に関しては出土量が少ないため特に分類を行わない。

### (1) 須恵器

総数153点で大部分が竪穴住居跡から出土している。器種には坏・甕・壺がある。

坏：体部は直線的に立ち上がる。底面調整は回転糸切り無調整個体が主体をなすが、僅かながら手持ちヘラケズリ等の再調整を施すものがある。器厚は土師器坏と比較して薄いものが多いが、口縁内部が肥厚するものがある。口縁端部形態には口縁端部が外反するもの（a類）と口縁端部が直立するもの（b類）があり細分した。

甕：大型の甕を一括した。底部は丸底である。体部成形痕は内面当て具+外面タタキメ成形・内外面タタキメ成形・内外面ナデ成形の3通りがある。口縁端部は上端がつまみ上げられ、やや直立するような形態のものが多い。

壺：なで屑気味の体部から外反する口頸部がつく。全体的に口頸部は短く、長頸帯はない。ロクロ成形のみ（A類）とロクロ成形後、体下半部にヘラケズリ等の再調整を施すもの（B類）がある。底面調整は高台がつくものとつかないものがあるほか、砂底などのバリエーションがある。

### (2) 土師器（黒色処理）

総数150点で器種には坏・高台付坏・甕があり147点を掲載した。土師器（黒色処理）とは内面ヘラミガキ後に内面黒色処理・内外面ヘラミガキ後に内外面黒色処理のいずれかが施されたものを指す。内面黒色処理の坏は129点、高台付坏は19点、内外面黒色処理の坏は11点、高台付坏は8点で、高台付坏は内外面黒色処理される比率が高い。土師器（黒色処理）は坏・高台付坏が主体をなすが、甕2点が黒色処理されている。

坏：体部は直線的に立ち上がるもの（A類）と体下半部に丸みを帯びるもの（B類）がある。A類が少なく、B類が主体を占める。口縁端部形態には口縁端部が外反するもの（a類）と口縁端部が直立するもの（b類）があり細分した。この他底面調整によって細分を行う。

1類：回転ヘラ切りのもの。RA34から1点出土している。体部がやや膨らみ、口縁部内面肥厚する。

2類：回転糸切り後、ヘラケズリ再調整が施されるもの。

3類：回転糸切り無調整のもの。大部分を占める。

高台付坯：体部は直線的に立ち上がるもの（A類）と体下半部に丸みを帯びるもの（B類）がある。環と同様、A類が少なく、B類が主体を占める。口縁端部形態には口縁端部が外反する、環の口縁端部形態に似るもの（a類）と端部が鋭角に外反し、上面が水平に面取り調整される（c類）があり、c類が大部分を占める。c類は高台付坯口縁端部にのみ認められることから口縁部のみ残存している資料でも、形態がc類であったものに関しては、高台付坯に分類した。

斐：RA08・RA29各1点、合計2点ある。RA08-4は小型のロクロ成形で底面は回転系切り無調整である。内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。RA29-29は非ロクロ成形で、底面に木葉痕を残す。内面はハケメ調整だが、黒色処理が施される特殊なものである。

### （3）土師器（非黒色処理）

総数465点で、うち249点を掲載している。器種には坯・高台付坯・斐・耳皿・甌がある。遺物の事実記載では土師器に含め、黒色処理の有無を併せて記載した。

坯：全てロクロ成形である。体部は直線的に立ち上がるもの（A類）と体下半部に丸みを帯びるもの（B類）がある。B類が少なく、A類が主体を占める。口縁端部形態には口縁端部が外反するもの（a類）と口縁端部が直立するもの（b類）があり細分した。底面調整は回転系切りヘラズリ再調整・回転系切り無調整・静止系切りがあり、細分を行った。黒色土師器環に見られた回転ヘラ切りの1類が認められない。

2類：回転系切り後、ヘラズリ再調整が施されるもの。

3類：回転系切り無調整のもの。大部分を占める。

4類：静止系切り。

高台付坯：全てロクロ成形である。高台付坯は全体に対する組成率が2%と低く、齊性が高い。特に口縁端部形態は坯形土器と共通する口縁端部が緩やかに外反する（a類）は極僅かで、端部が鋭角に外反し、上面が水平に面取り調整される（c類）が大部分を占める。このことから口縁部のみ残存している資料でも、形態がc類であったものに関しては、高台付坯に分類している。

底面の高台接合後の調整方法は2者あり、ロクロ整形によるもの（1類）と指オサエによるもの（2類）に分かれる。

斐：ロクロ・非ロクロ成形がある。土師器の甕形土器は器高13cmを境に大小に区分される。法量は大きい方からⅠ類、Ⅱ類とする。外向の調整方法、口縁部形態によって細分を行う。底面調整にはⅡB類に回転系切りが認められる。Ⅰ類の底面調整は木葉痕・砂底・砂+木葉痕等のバリエーションがある。

A類：非ロクロのもの。輪積み成形後にヘラズリ等の調整を行う。口縁部形態は頸部に括れを持ち口縁部が長く口縁端部は緩やかに外反するものと、頸部に括れを持ち口縁部が短く口縁端部は「く」の字状に鋭角で外反するものが主体を占める。

B類：ロクロ使用のもの。無調整。頸部に括れを持ち口縁部が短い。口縁端部は「く」の字状の鋭角に外反するものと、上端がつまみ上げられやや直立するような形状のものがあり、後者が主体を占める。

C類：ロクロ成形後、体下半部にヘラズリ等の調整を行う。口縁端部は「く」の字状の鋭角に外反するものと、上端がつまみ上げられやや直立するような形状のものがあり、後者が主体を

占める。ロクロ成形後に行われるヘラケズリは胴部下半に施されることが多く、口縁部のみ残存する資料に関してはB類とした。

耳皿：ロクロ成形による。RA15-Pit 8から1点出土している。

甕：ロクロ成形後にヘラケズリ再調整を施す。RA33カマド袖から1点出土している。

#### (4) あかやき土器

総数8点出土しており、うち6点掲載した。坏・甕・壺がある。

平安時代における在地生産の土器は製作技法および焼成方法によって土師器と須恵器に分類される。坏のなかに黒色処理が施されない一群があり、「須恵系の土器」(岡田ほか1971)・「須恵系土器」(上藤・桑原1972)・「あかやき土器」(八木1979)と分類されている。これらは細谷地遺跡分類の土師器(非黒色処理)に相当する。「須恵系土器」・「あかやき土器」は、土師器を黒色処理坏に限定しその調整方法が異なる理由から須恵器に分類される立場(桑原1976)と、器形・技法の変遷が基本的に黒色処理される坏と同じであることなどから土師器に分類される立場(小井川1981・村田1995)の二者がある。

細谷地遺跡出土土器を分類する段階で出土器の中に、従来「あかやき土器」と呼ばれていたもの以外に製作技法が須恵器で酸化焼成されている一群があり、器種は須恵器に認められる坏・甕・壺各種がある。細谷地遺跡古代集落が形成された9世紀後半～10世紀前半にかけては土師器(黒色処理)主体から土師器(非黒色処理)主体へと変容と連がる時期にあたる。須恵器と同一の技法で成形され赤く焼成される一群はこの時期に多く認められ、これを当該時期の特殊性と捉え新たに分類した。よって木曜吉書で記述する「あかやき土器」とは須恵器の成形技法で酸化焼成されている一群に限定し、従来「あかやき土器」に分類されている一群は土師器(非黒色処理)であることをお断りしておく。

坏：体部は直線的に立ち上がる。底面調整は回転系切り無調整である。口縁部形態には口縁端部が外反するもの(A類)と口縁端部が直立するもの(B類)があり細分した。全てロクロ成形によるものである。

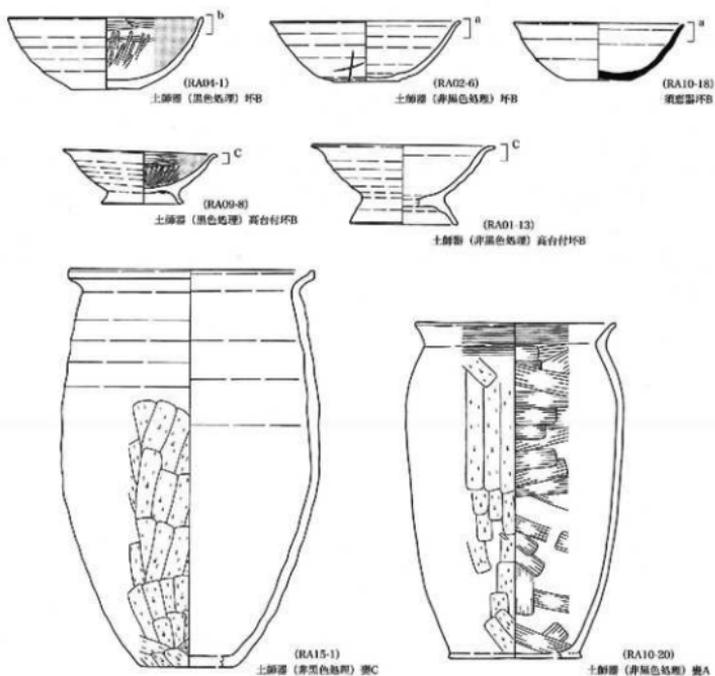
甕：底部は丸底である。体部成形は内外面タタキメ成形である。口縁端部は上端がつまみ上げられ、やや直立するような形態を呈する。

壺：なで肩気味の体部から外反する口頸部がつく。ロクロ成形のみ(A類)とロクロ成形後、体下半部にヘラケズリ等の再調整を施すもの(B類)がある。底面調整は高台を有するもののほか、砂底などのバリエーションがある。(八木)

須恵器・あかやき土器分類

|   |                           | 壺 |                               |
|---|---------------------------|---|-------------------------------|
| 坏 | 体部は直線的に立ち上がる。回転系切りが主体をなす。 | A | なで肩気味の体部から外反する口頸部がつく。ロクロ成形のみ。 |
| 甕 | 大型の甕を一括する。体部はタタキメ等の成形。    | B | ロクロ成形後に体下半部にヘラケズリ等再調整が施される。   |

| 土師器（黒色処理）分類 |   |                                | 土師器（非黒色処理）分類 |                          |                            |
|-------------|---|--------------------------------|--------------|--------------------------|----------------------------|
| 坏           | A | 直線的に立ち上がる器形。                   | 坏            | A                        | 直線的に立ち上がる器形。               |
|             | B | 体下半部に丸みを帯びた器形。                 |              | B                        | 体下半部に丸みを帯びた器形。             |
| 高台付坏        | A | 直線的に立ち上がる器形。                   | 高台付坏         | A                        | 直線的に立ち上がる器形。               |
|             | B | 体下半部に丸みを帯びた器形。                 |              | B                        | 体下半部に丸みを帯びた器形。             |
| 甕           | A | 非ロクロ成形甕。輪積み成形後にヘラケズリ等再調整。1点出土。 | 甕            | A                        | 非ロクロ成形のもの。                 |
|             | B | 小型のロクロ成形甕で、内面にヘラミガキが施される。1点出土。 |              | B                        | ロクロ成形無調整。                  |
|             |   |                                |              | C                        | ロクロ成形後、体下半部にヘラケズリ再調整が施される。 |
|             |   |                                | 耳皿           | ロクロ成形による。1点出土。           |                            |
|             |   |                                | 甕            | ロクロ成形後、体部ヘラケズリ再調整あり。2点出土 |                            |



第9図 土器分類図

## 第V章 検出遺構・出土遺物

### 第1節 調査の概要

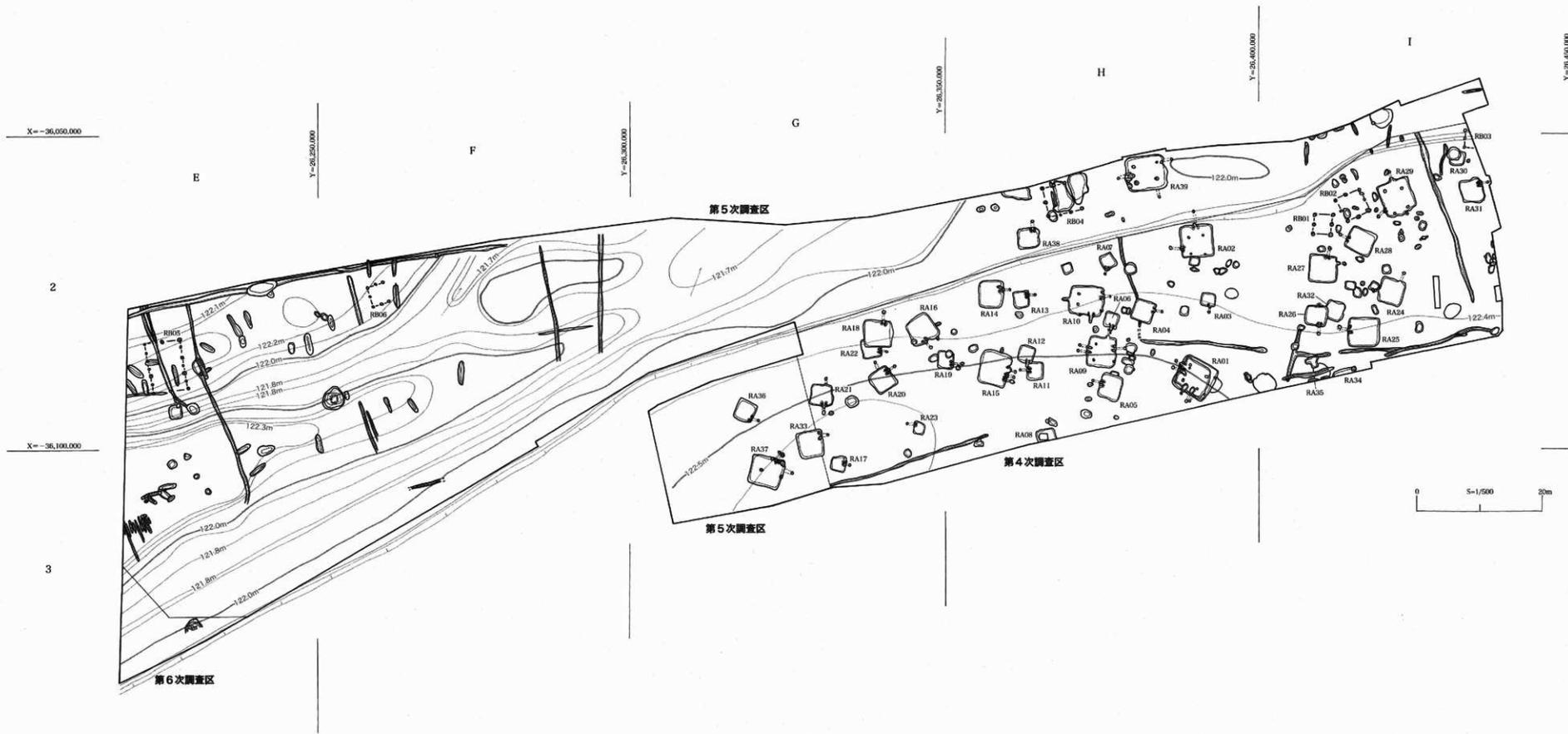
今回の細谷地遺跡第4・5次調査では東側の微高地において平安時代の竪穴住居跡を主体とした集落跡、西側の旧河道部分において縄文時代の陥し穴状土坑、近世の遺構等を検出している。遺構総数は竪穴住居跡39棟（平安時代）、掘立柱建物跡6棟（平安時代4棟、近世2棟）、竪穴状遺構5基、土坑135基（うち陥し穴状土坑23基）、溝跡22条、井戸跡2基（うち1基は第6次調査区検出）、カマド状遺構2基、畝間状遺構1基、柱穴状小ピット238基である。

第4次調査区ではほぼ全域から古代の遺構が検出されており、竪穴住居跡が万遍なく分布する。また東側においては掘立柱建物跡、溝跡、土坑も含めて全体の遺構密度が濃くなっている。しかし、密度の割には遺構の重複は少ない。一方、遺構外からの遺物出土は縄文時代の遺物、古代の遺物を含め非常に少なく、遺物の出土主体は遺構内からのものである。

第5次調査区では、第4次調査区に隣接する北東側の区域、南東側の区域において、第4次調査区と同様に古代を主体とした遺構が検出されたが、西半の旧河道域にあたる部分では明確な古代の遺構は一切検出されていない。この区域では縄文時代と思われる陥し穴状土坑が旧河道に挟まれた微高地に分布する他、近世と考えられる掘立柱建物跡、溝跡、井戸跡、溜池状の土坑などが見られ、第4次調査区とは対照的なあり方を示している。

出土遺物は総数コンテナ60箱で、内訳は縄文土器（7点）、土師器・あかやき土器・須恵器（776点）、金属製品（22点）、鉄滓（12点）、剥片石器（13点）、礫石器・石製品（46点）、土製品（19点）、木製品（12点）である（括弧内は土器類：掲載した遺物点数、その他：登録した遺物点数）。

以下、遺構種別毎に登録順に記載するが、土坑として登録したもののうち、陥し穴状土坑については項目を分けて述べる。（高木）



第10図 遺構配置図

## 第2節 竪穴住居跡

今回の調査で検出した竪穴住居跡は合計39棟である。このうち1棟（R A 01住居跡）は全体を拡張したものでこれを2棟と数えると40棟となる。全て平安時代に属しており、9世紀後半～10世紀初頭の灰白色火山灰降下前後の時期に集中すると捉えられる。住居跡の分布は第4次調査区全域と、これに隣接する第5次調査区北東部と南西部に広がる。第5次調査区西側には分布していないため、該期の居住域については北～西の範囲が把握できる状況にある。個々の住居跡は平面規模から大中小に区分され、規模に応じた住居構造の差異が見られる。これについては第VI章で記載する。 (高木)

### R A 01住居跡

遺構 (第11～14図 写真図版6・7)

〔位置〕 第4次調査区中央部南側の2H21uグリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面である。南東側で風倒木痕を切る。本遺構は精査の結果、竪穴全体を拡張した2時期分の住居跡の重複状態と判断されたことから、古い段階のものを【Ⅰ期】、新しい段階のものを【Ⅱ期】として個別に記載する。

〔R A 01住居跡Ⅱ期〕 (第11図)

〔平面形・規模〕 北西～南東方向にやや長い長方形を呈する。規模は北東壁5.9m、南東壁5.5m、南西壁5.7m、北西壁5.5m。主軸方向はN-30°-E。

〔床積上〕 黒褐色土～黒色土からなる1～5層が主体となる。大きくは床面直上の含有物のごく少ない5層黒色土、上位の褐色上ブロックの混在が目立つ2・3層黒色～黒褐色土と2分される。堆積土中には灰白色火山灰ブロックが少量ではあるが万遍なく含まれる。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。床面はR A 01住居跡Ⅰ期埋土に約5cmの厚さで褐色土の貼床を施しており、上面は全体に硬化している。

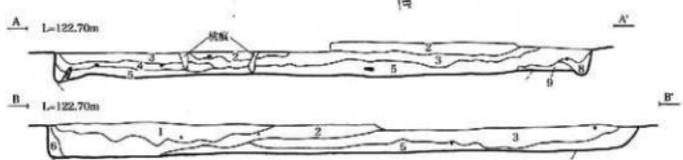
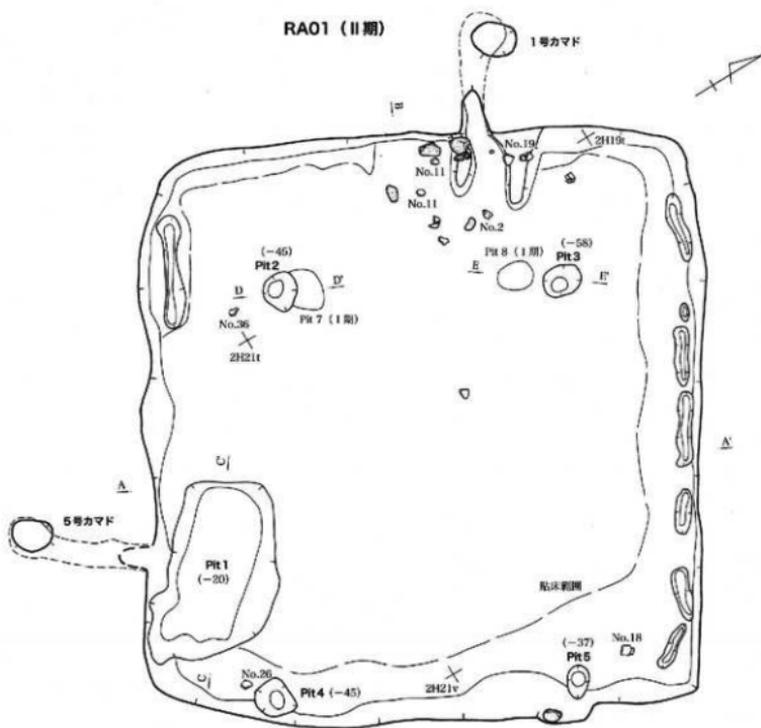
〔カマド〕 1号カマド (北西壁) と5号カマド (南西壁) の2基を検出した。なお2～4号カマドはR A 01住居跡Ⅰ期に所属し、1・5号カマドは2～4号カマドの位置を避けて設置されている。

1号カマドは北西壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-58°-W。袖は褐色土を積み上げて作られており、天井部分の崩落ブロックと思われる同質の褐色土が上部に分布する (第13図スクリーン部分)。燃焼部底面は一部に焼成を受ける部分が見られるがごく狭い範囲にとどまる。埋土中には焼土粒が混じる黒色土が堆積する。煙道は全長125cmで下降しながら先端の径45cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。また、煙道は中間から先端にかけて右にカーブしており煙出し孔も斜めに掘り込まれている。煙道埋土には炭粒、灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色土が堆積しており、天井面、側壁は全体に焼成を受け亦変する。煙出し孔上部には径10cm程度の礫が投げ込まれている。

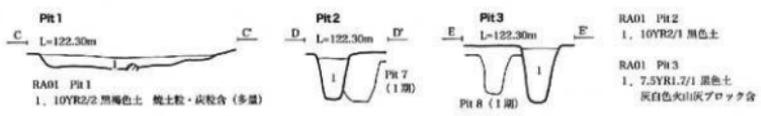
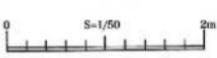
5号カマドは南西壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-137°-W。煙道のみを検出で、燃焼部は消失しており痕跡も確認できない。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径40cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙道埋土は炭粒、焼土粒を含む黒色土が堆積し、煙出し孔上部には径5～15cm程度の礫が投げ込まれている。

〔柱穴〕 Pit 2・3・4・5の4基で長方形の支柱穴配置となる。Pit 4・5は南東壁際に位置する。

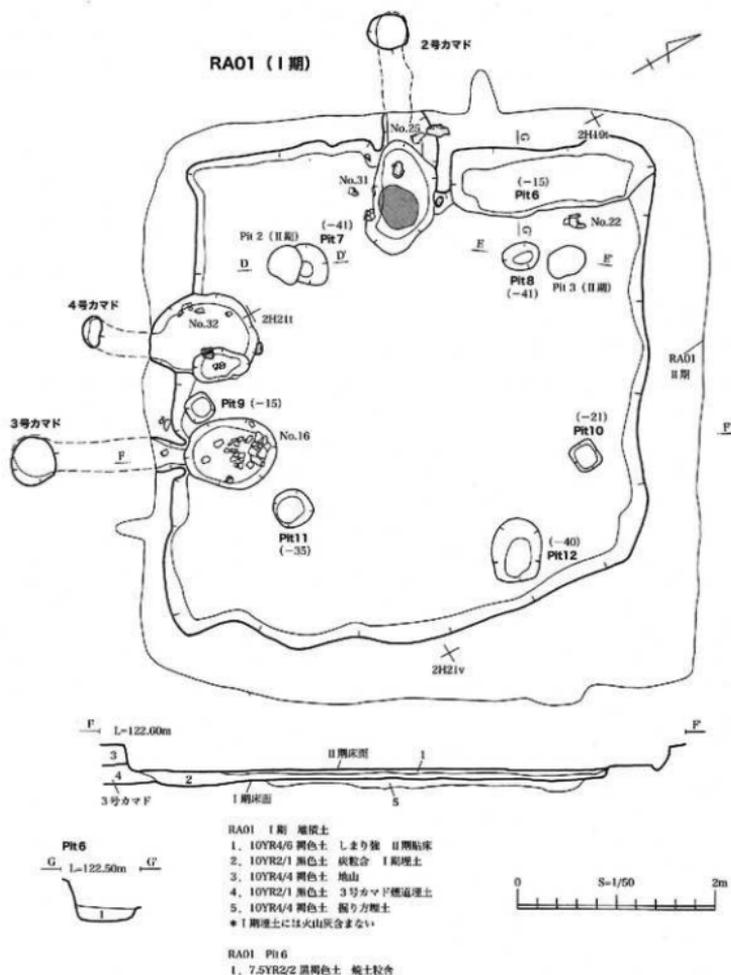
〔土坑〕 5号カマド手前に長方形のPit 1がある。185×115cmの規模で埋土に多量の焼土粒、炭粒を含む。



- RA01 II期 埋藏土
1. 10YR2/2 黒褐色土
  2. 10YR2/1 黒色土 暗褐色土ブロック含 (少量)
  3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
  4. 10YR1.7/1 黒色土 黄土粒・炭粒含 (微量)
  5. 10YR2/1 黒色土
  6. 10YR3/4 暗褐色土 壁面の積層ブロック
  7. 10YR1.7/1 黒色土 均質
  8. 10YR4/4 褐色土 積層ブロック
- \* 1~5層に灰白色火山灰ブロック含 (微量)



第11図 RA01住居跡(1)



第12図 RA01住居跡(2)

[周溝] 北東壁際、及び南西壁際の一部に検出された。壁材等の痕跡は見られない。  
遺物(第15~18図 写真図版74・75)

遺物については後述するRA01住居跡I期の項目でまとめて記載した。

小結 本住居跡はRA01住居跡1期を拡張した4基の主柱穴を持つ大型の住居跡である。カマドは2基設置され、残存状況から5号カマド・1号カマドへの作り替えがなされたものと思われる。埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

#### 【RA01住居跡1期】(第12回)

【平面形・規模】 東コーナーが鈍角に開くやや歪な方形を呈する。規模は北東壁4.2m、南東壁4.7m、南西壁4.9m、北西壁4.7m。主軸方向はN-30° E。

【堆積土】 上部がRA01住居跡II期で作り返えられているため床面直上の2層のみ確認される。炭粒を含む黒色土で火山灰ブロックは見られない。

【壁・床面】 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均10cmの残存。床面は東寄りに貼床を施しており、ほぼ平坦で全体に硬化する。

【カマド】 2号カマド(北西壁)、3・4号カマド(南西壁)の3基を検出した。

2号カマドは北西壁の中央付近に設置される。煙道方位はN-65° W。II期の1号カマドと並列する。袖はシルト積み上げで、楕円形の掘り方を持つ燃焼部に向かって短く伸びる。燃焼部底面には径45×40cmの焼成面が見られる。煙道は全長130cmで下降しながら先端の径10cm深さ60センチの煙出し孔へ削り貫かれる。煙道天井は一部焼成を受け赤変する。煙出し孔には全体に径10～20cmの礫が多数投げ込まれている。

3号カマドは南西壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-152° W。II期の5号カマドと並列する。袖は短く伸び、燃焼部は楕円形の掘り込みとなる。燃焼部底面には径40cmの焼成面が見られ、その上位に焼成面に密着するように土師器変破片が敷き詰められている。土器片は2個体分があり、大部分が内面側を上位にして互いに重ならない状態になっている。また口縁部方向が揃っていない。これらの点から、他所で破碎した破片を焼成面に敷き詰めたものと思われる。これらの内外面には二次被熱がほとんど見られず、カマド廃絶時点で置かれた可能性が高い。煙道は全長165cmでわずかに下降しながら先端の径50cm深さ45cmの煙出し孔へ削り貫かれる。煙道埋土はしまりのない黒褐色土が堆積し、煙出し孔には径10～20cm程の礫が多数投げ込まれている。

4号カマドは南西壁の右寄り、3号カマドと並列して設置される。煙道方位はN-115° W。燃焼部は楕円形の掘り込みで土器片が散在するが焼成面は見られない。煙道は全長100cmで一旦水平に伸びた後、斜めに煙出し孔へ削り貫かれる。煙道の断面形は横長で煙出し孔もしっかりした掘り込みとなっていないが、天井が崩落した痕跡は見られないことから、煙道構築の途中で廃棄された可能性があると思われる。

【柱穴】 Pit 7・8・11・12の4基で歪な方形の主柱穴配置となる。

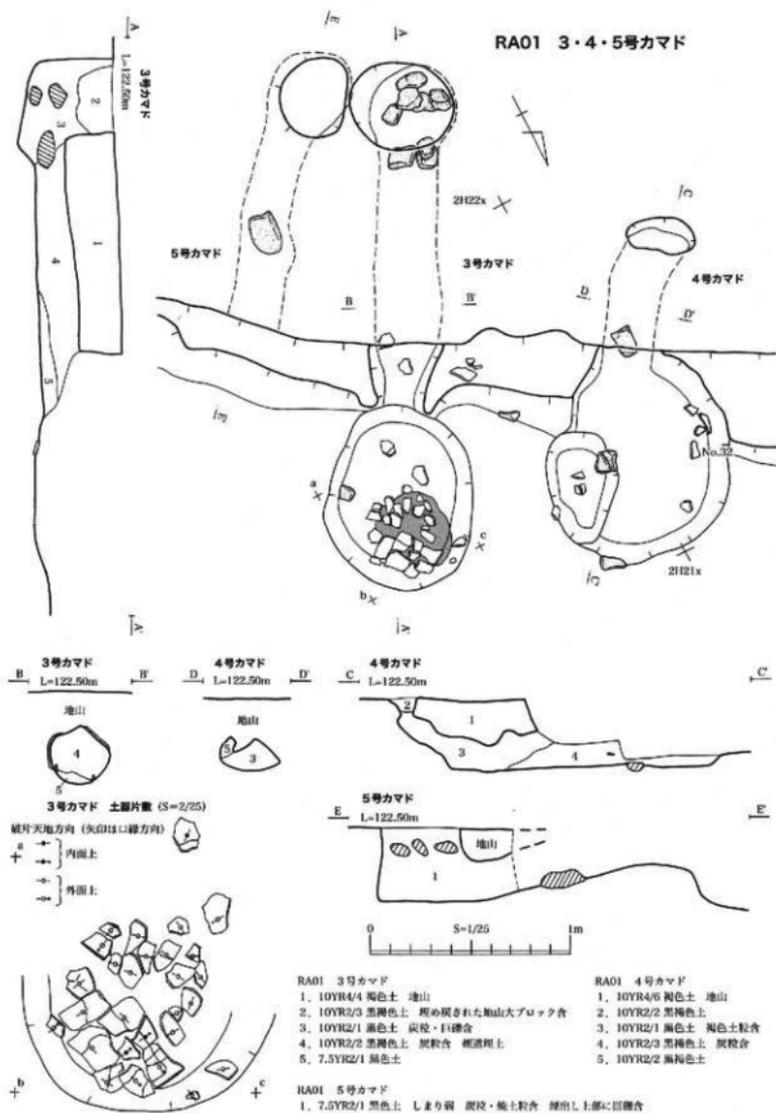
【土坑】 2号カマド右側に長楕円形のPit 6がある。200×75cmの規模で埋土に焼土粒を含む。(高木)

#### 遺物 (第15～18回 写真図版74・75)

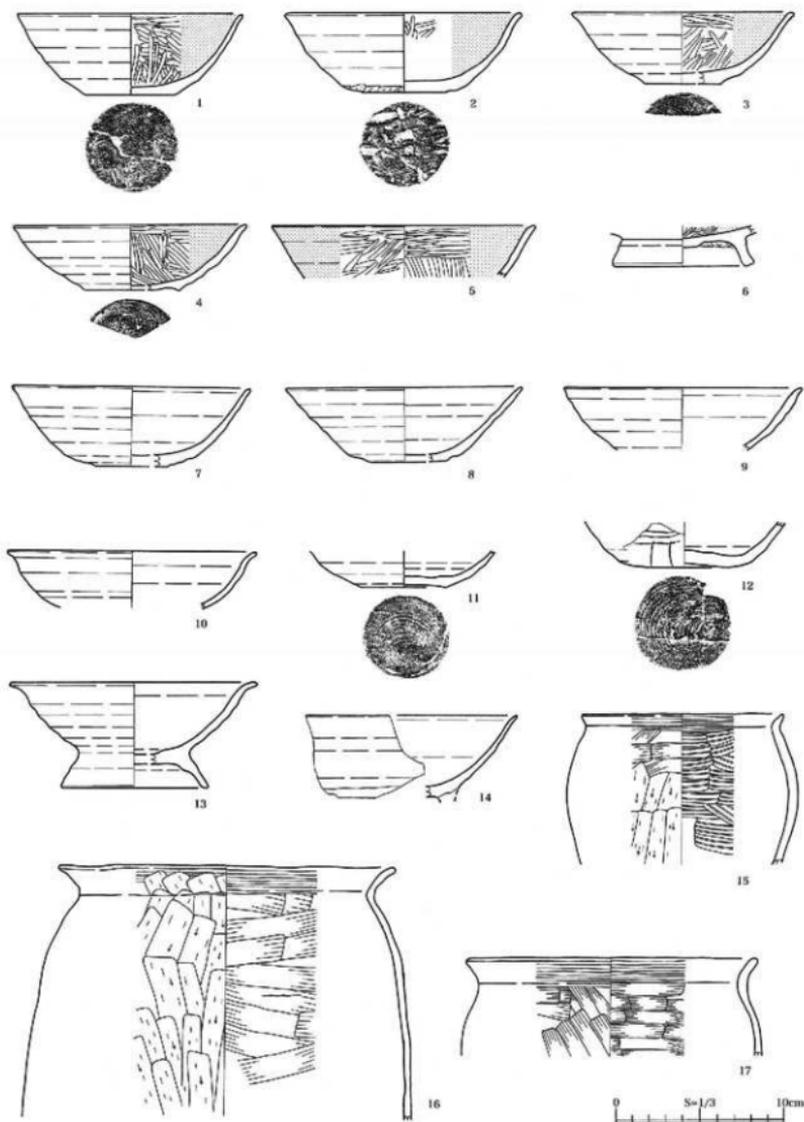
【遺物出土状況】 1期・II期の各住居跡に伴うものをまとめて掲載しているため、出土地点については表を参照いただきたい。両期ともカマド周辺、及び隣接する土坑からの出土が多い。16の土師器変は3号カマド燃焼部に敷き詰められた状態で出土した。前述のように一旦壊された後に敷き詰められたと考えられるが、他の場所からの同一個体破片は確認できない。1期・II期の各住居跡に伴う土器片の接合状況は10点余りで確認される。1期住居跡堆積土とII期床面、土坑、カマドとでの接合関係が多いが、I期床面、カマド燃焼部とII期堆積土上部との接合も認められる(22・32)。遺構間接合では30の須恵器変がRA05カマドと、32・



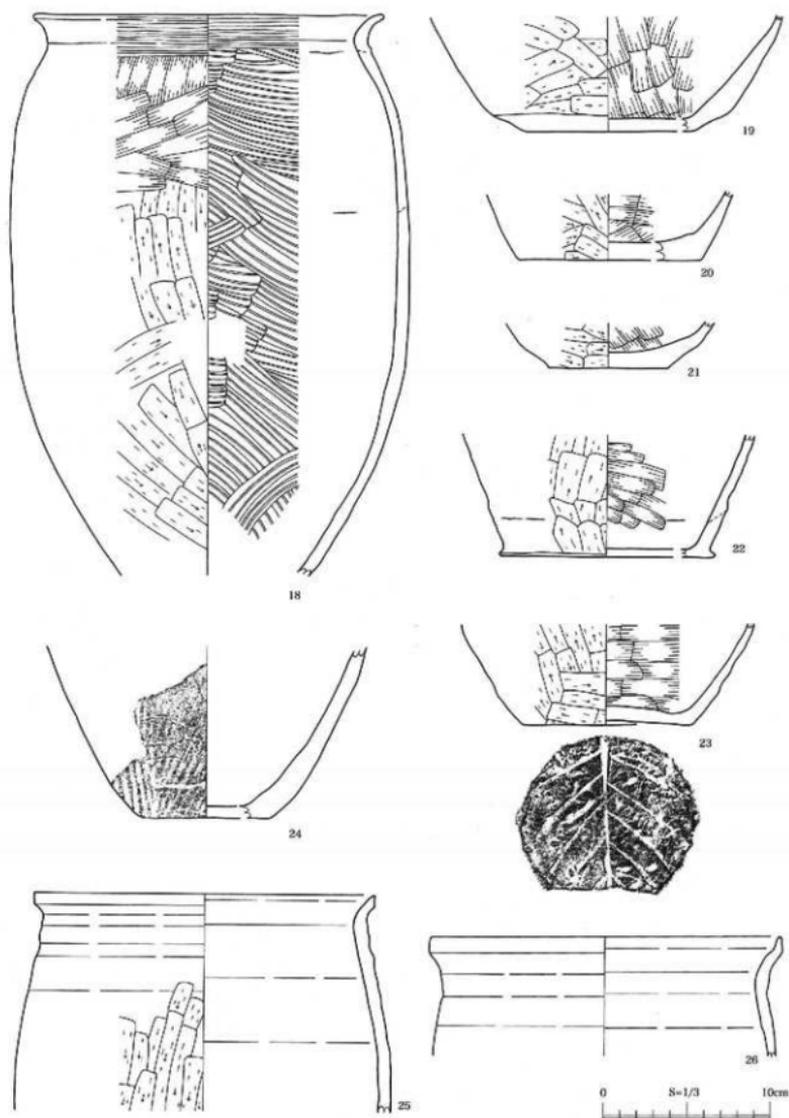
RA01 3・4・5号カマド



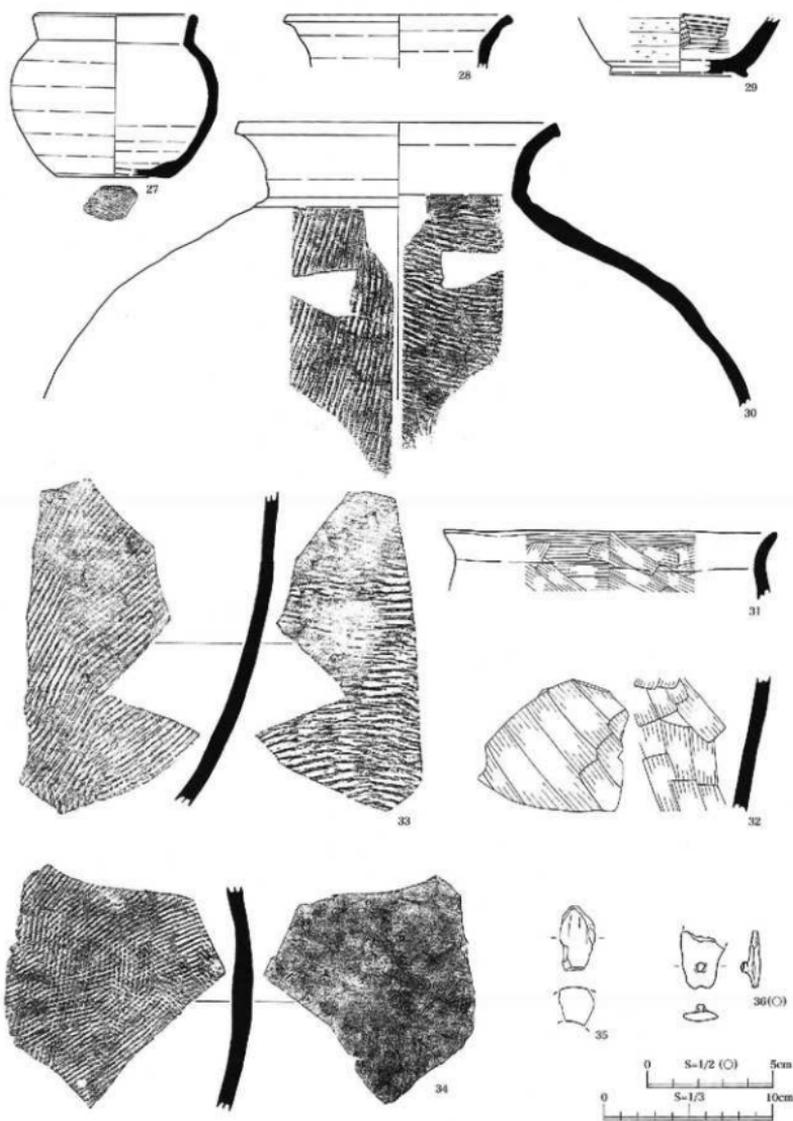
第14図 RA01住居跡(4)



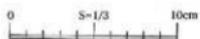
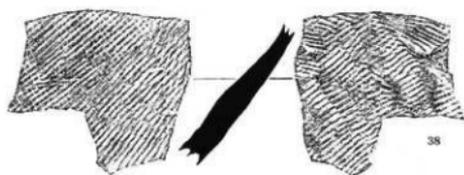
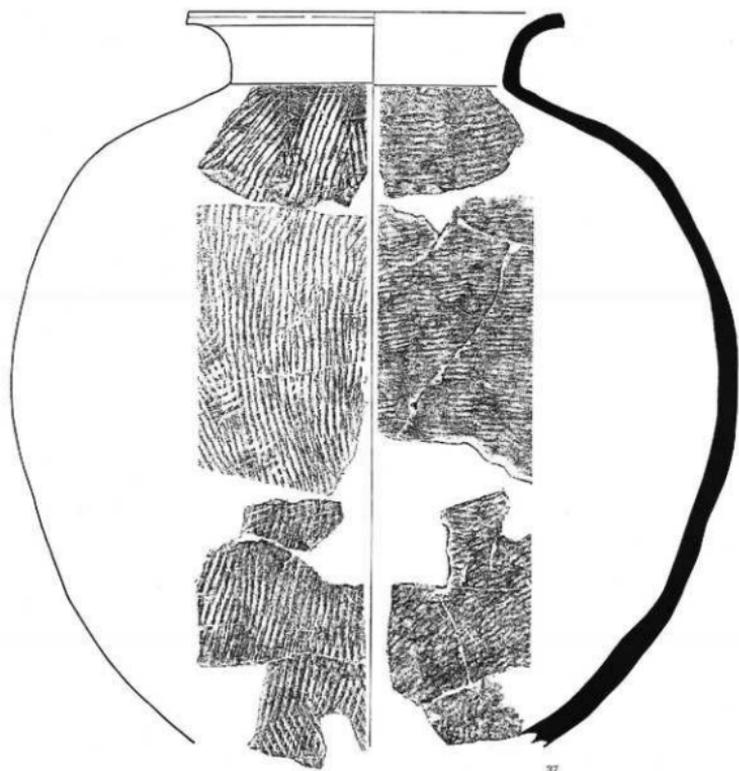
第15圖 R A01住居跡出土遺物 (1)



第16図 RA01住居跡出土遺物(2)



第17図 R A01住居跡出土遺物 (3)



第18図 R A01住居跡出土遺物(4)

33の須恵器甕がそれぞれRD23と、37の甕がRA05・26と接合、同一個体と確認される。

〔土器〕 総数41点の土器が出土しており、内訳は土師器坏11点、土師器高台付坏3点、土師器甕17点、須恵器甕2点、須恵器甕7点、あかやき甕1点である。内38点を掲載した。

1～5の土師器坏および6の土師器高台付坏は、ヘラミガキ後に内面黒色処理が施される（5は内外面ヘラミガキ後に内外面黒色処理）。口縁部形態はヘラミガキおよび内面黒色処理される土師器坏はa型が多く、ロクロ調整のみの土師器坏はa・b類半々となっている。

高台付坏のうちヘラミガキ後に内面黒色処理される6は、高台を指オサエによって接合し、ロクロ調整のみの13は高台接合後もロクロによって調整している。

12の胴下半部に鋭利な工具による線刻が施される。24の土師器甕は胴下半部外面にタタキ目が認められる。土師器甕のうち19・21は砂底で、20・23は木葉痕が観察できる。 (八木)

〔土製品〕 35の羽口片が1層から出土している。破損品で先端の状況は不明である。

〔鉄製品〕 36の日釘式手鎌破片がⅡ期床面から出土している。

小結 本住居跡は4基の主柱穴を持つ大形の住居跡である。カマドは3基設置されるが、最初に設置された4号カマドは何らかの理由により構築途中で廃棄され、2・3号カマドへ作り替えられたものと考えられる。3号カマドは廃絶時点で燃焼部に土器片を敷き詰めている。カマド廃棄に伴う祭祀行為ではないかと考えられ、本遺跡では他にRA14住居跡カマドに類例がある。また竪穴全体をかき上げてRA01住居跡Ⅱ期へ拡張される。時期は床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。 (高木)

## RA02住居跡

遺構（第19～21図 写真図版8・9）

〔位置〕 第4次調査区中央部北端の2H10uグリッド付近に位置し、南側のRA03住居跡からは5mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。南壁側でRD01土坑とほぼ接しており、埋土の状態から本住居跡が新しいものと判断した。なお1号カマド煙道先端は第5次調査で精査を行った。

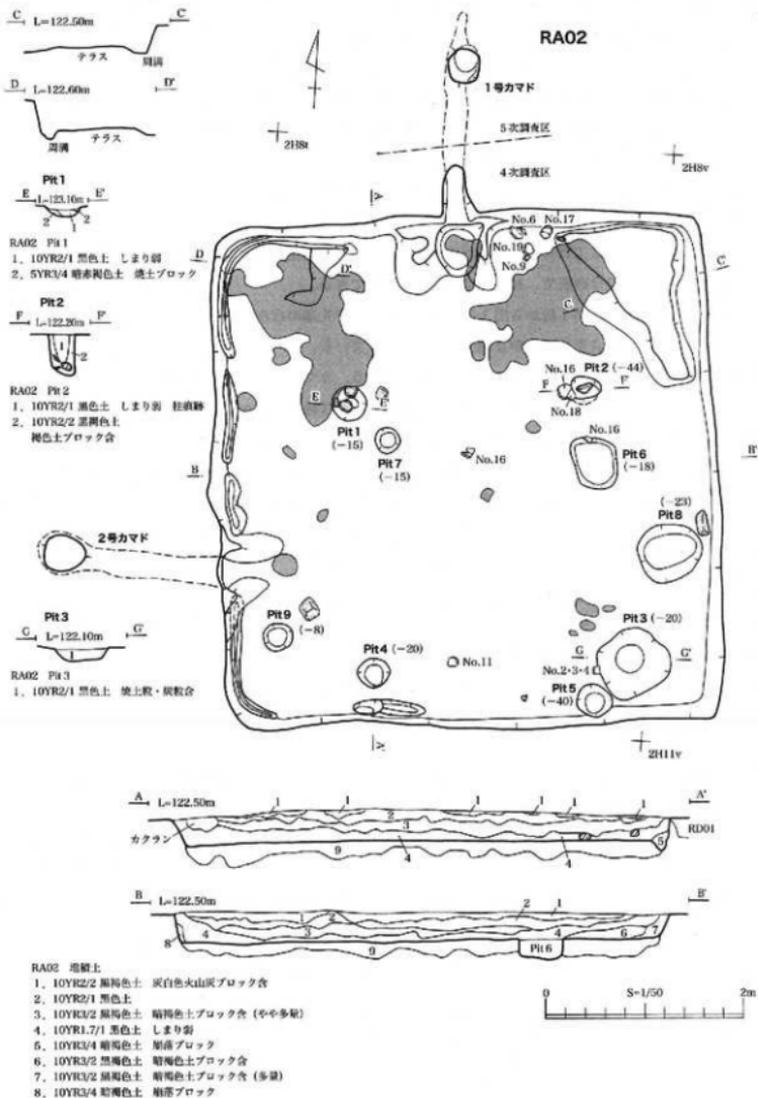
〔平面形・規模〕 均整の取れた正方形を呈し、規模は北壁5.0m、東壁5.2m、南壁5.0m、西壁5.1m。主軸方向はN-05° W。

〔堆積上〕 上位から1層の灰白色火山灰ブロックを含む1層黒褐色土、夾雑物が見られない2層黒色土、暗褐色土ブロックを含む3層黒褐色土、夾雑物が見られない4層黒色土に分類される。壁際床面直上には褐色土のブロックを主体とする5～8層が斜めに堆積する。また、北半では堆積土下部に二次堆積の焼土ブロックが広がり、炭化物が散在する。

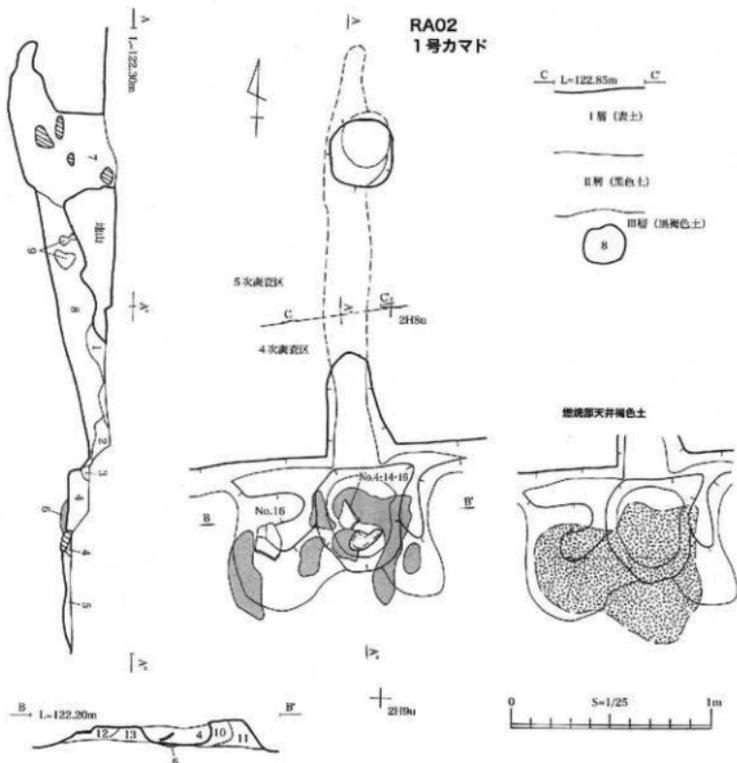
〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦で硬化する。北壁側のコーナー付近が5cm程の段差でテラス状の高まりとなる。

〔カマド〕 1号カマド（北壁）と2号カマド（西壁）の2基を検出した。

1号カマドは北壁の中央に設置される。煙道方位はN-03° -W。袖は褐色土ブロックを含む暗褐色土を積み上げて作られており、天井部分の崩落ブロックと思われる褐色土が上部に分布する（第20図スクリーン部分）。燃焼部は円形の掘り込みで内部に支脚と見られる礎が置かれる。焼成面は燃焼部底面から側壁にかけて形成される。煙道は竪穴壁面から煙出し孔まで全長175cmだが、煙出し孔の先端が横穴状に挟り込まれており、この部分を含めると全長205cmになる。煙道の傾斜は一定で下降しながら掘り込み部分まで



第19図 RA02住居跡(1)



**RA02 1号カマド**

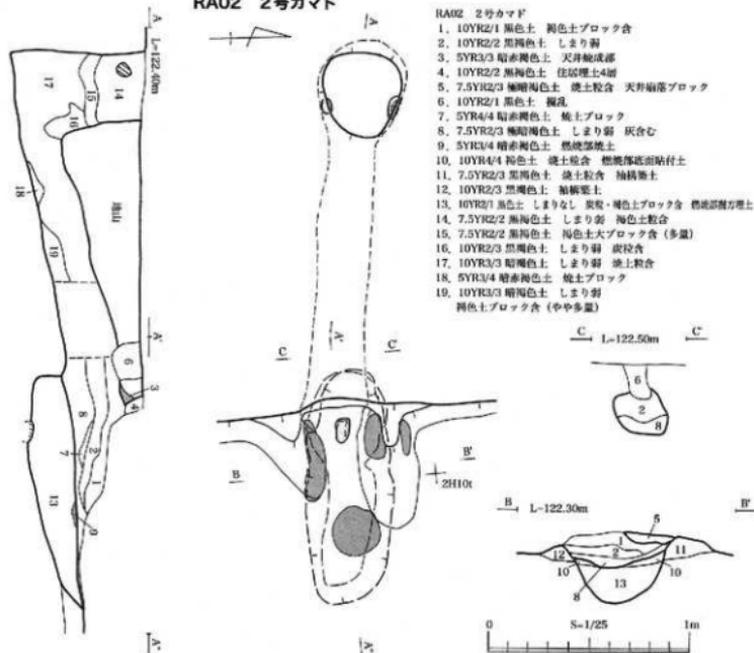
- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 7.5YR2/1 黒色土 しまり街 燃焼埋土</p> <p>2. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり街 黒褐色土ブロック含 燃焼埋土</p> <p>3. 10YR4/4 褐色土 天井面落ブロック</p> <p>4. 7.5YR2/1 黒色土 炭土粒・炭粒含 燃焼埋土</p> <p>5. 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒・炭粒含</p> <p>6. 5YR4/4 暗赤褐色土 燃焼部埋土</p> <p>7. 10YR2/1 黒色土 内壁・炭粒含</p> | <p>8. 7.5YR2/1 黒色土 暗褐色土ブロック含 燃焼埋土</p> <p>9. 10YR4/4 褐色土 加溝ブロック</p> <p>10. 10YR3/3 暗褐色土 しまり街 板土ブロック含 袖溝埋土</p> <p>11. 10YR4/4 褐色土 しまり街 袖溝埋土</p> <p>12. 10YR2/2 黒褐色土 しまり街 褐色土ブロック含 袖溝埋土</p> <p>13. 10YR3/3 暗褐色土 しまり街 袖溝埋土</p> |
|--|--|

第20図 RA02住居跡(2)

連っており、構築時に掘りすぎた部分ではないかと思われる。煙出し孔は径35cm 深さ50cmで埋土中には竪が投げ込まれている。

2号カマドは西壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-87°-W。袖は黒褐色土の積み上げて、左側の袖は周溝を埋めてその上に作られている。燃焼部は長径120cmの楕円形の掘り方を黒色土で埋め戻しており、上位に褐色土が貼り付けられ、その上面、及び側壁の一部に焼成面が見られる。煙道は全長190cmで下降しながら先端の径45cm 深さ65cmの標出し孔へ張り貫かれる。煙道埋土は炭粒、焼土粒を含む暗褐色土を主体と

### RA02 2号カマド



し、煙出し孔上半は埋め戻された状態で褐色土ブロックが含まれる。

〔柱穴〕 Pit 1・2・4・5の4基で長方形の主柱穴配置を取ると思われるが、Pit 1は極端に浅い掘り方しか確認できなかった。位置から見て柱穴であると考えられるため底面は認識の可能性がある。Pit 4・5は南東壁際に位置する。

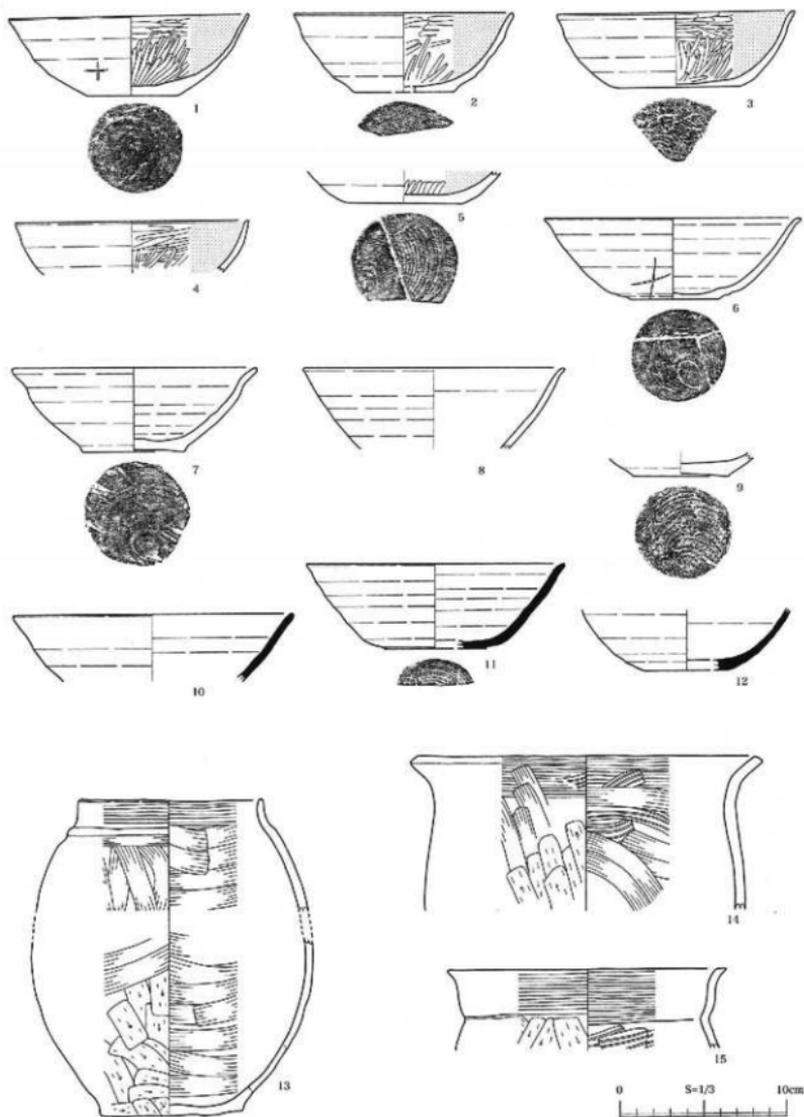
〔土坑〕 東壁際に円形、楕円形のPit 3・8・16がある。いずれも埋土に焼土粒・炭粒を含むもので貯蔵穴と考えられる。

〔周溝〕 北・西壁際、及び東・南壁際の一部に検出された。西側では2号カマドの袖下位に伸びており、周溝と2号カマドの時間差があると判断される。壁材等の痕跡は見られない。(高木)

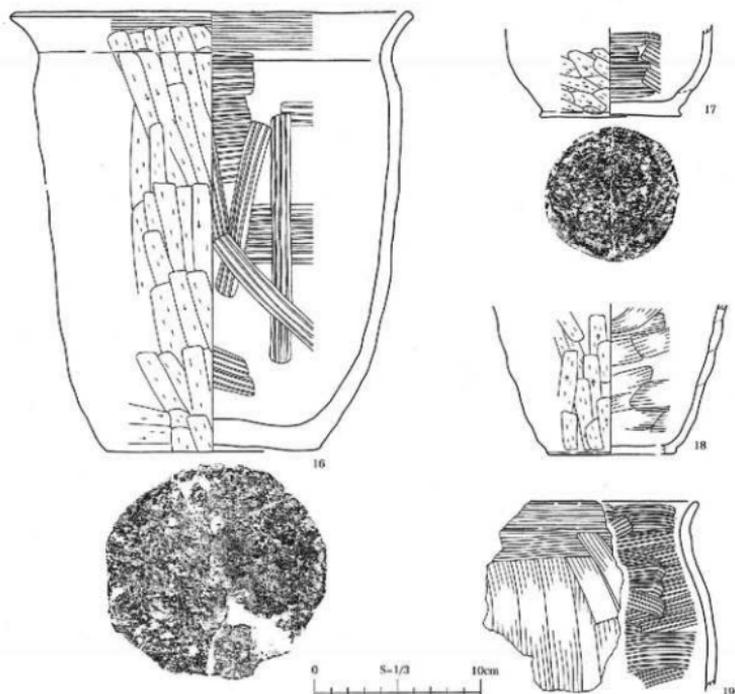
#### 遺物(第22・23回 写真図版76)

〔遺物出土状況〕 1号カマド燃焼部や周辺に多い傾向がある。また柱穴のPit 2からも大破片(16・18)の出土を見る。遺構間接合では1の土師器坏がRA03カマド周辺と、10・12の須恵器坏がRA04・09堆積土と接合関係を持つ。

〔土器〕 21点の土器片が出土しており、内訳は土師器坏9点、土師器甕9点、須恵器坏3点である。うち19点を掲載した。1～5の土師器坏は内面ヘラミガキ後に内面黒色処理を施されている。土師器坏および須



第22図 R A02住居跡出土遺物 (1)



第23図 RA02住居跡出土遺物(2)

恵器杯の口縁部形態は、2がb類である以外はa類である。b類である2にのみ、胎土に金雲母を含む。

1と6の外表面体下半に鋭利な工具によって「×」字状の線刻が施される。

土師器甕は外面ヘラケズリ調整の15・19の頸部が急傾斜で屈曲するのに対し、14・19の外面ヘラナデ調整の頸部はなだらかに成形されている。

(八木)

小結 本住居跡は4基の主柱穴、2基のカマドを持つ大形の焼失住居跡である。カマドの残存状況は両者とも良好だが、周溝との切り合い関係より1号カマド→2号カマドへの作り替えがなされたものと思われる。

時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末の年代が想定される。

(高木)

## RAO3住居跡

遺構（第24図 写真図版9）

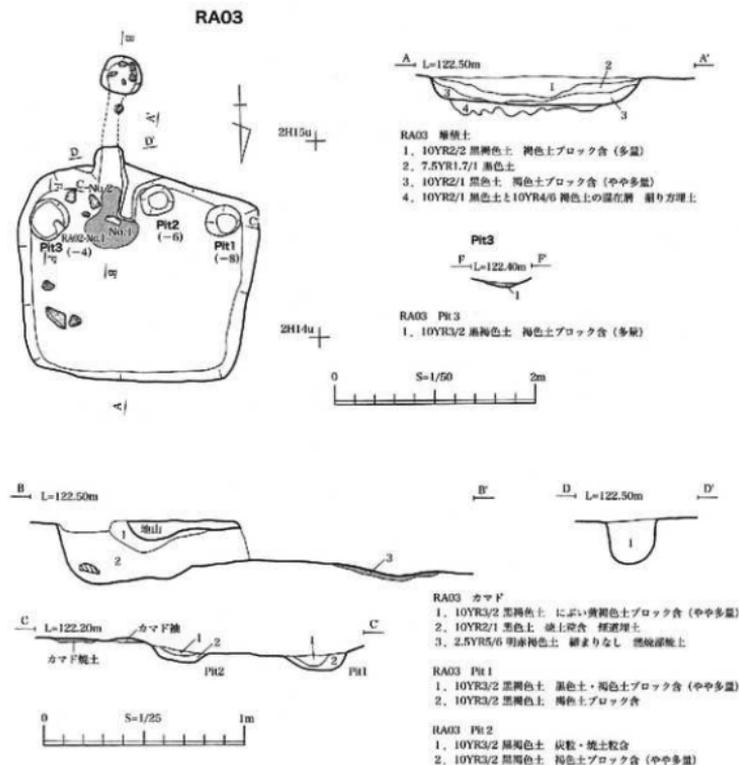
〔位置〕 第4次調査区中央部の2H14vグリッド付近に位置し、南側のRAO1住居跡からは7m、北側のRAO2住居跡からは5mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 南側が広がるやや歪んだ方形で、規模は北壁2.0m、東壁2.1m、南壁2.3m、西壁1.8m。主軸方向はN-05°-E。

〔堆積土〕 3層に分層した。最上部の1層黒褐色土、床面直上の3層黒色土に褐色土ブロックが斑状に含まれているが、中間の2層黒色土には夾雑物が見られない。

〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。硬化が顕著な部分はない。

〔カマド〕 南壁左寄りに設置される。煙道方位はN-173°-W。右側の袖が残る。左側の袖は磨石が芯材に転用された状態でも出土した。燃焼部底面は60×50cmの範囲で焼成面が形成されている。煙道は全長110



第24図 RAO3住居跡

cmで若干下降しながら先端の径40cm 深さ30cmの煙出し孔へ割り貫かれる。煙出し孔には径10cm 前後の礫が投げ込まれている。

〔柱穴〕 なし。

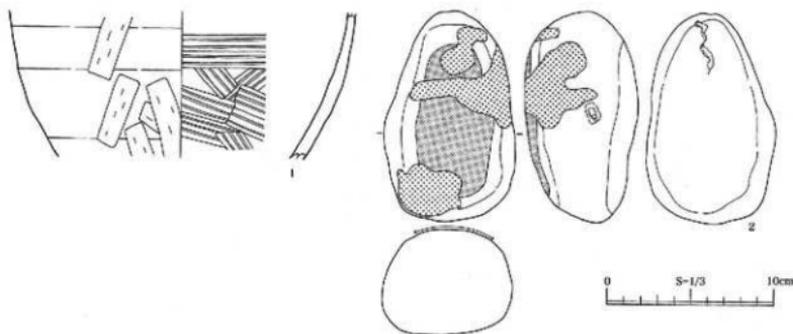
〔土坑〕 南壁際にPit 1～3がある。径40～50cm程の皿状にくぼむ土坑でPit 2 埋土には炭粒、焼土粒が含まれる。Pit 2・3は位置から見て貯蔵穴の可能性はある。

〔周溝〕 なし。

遺物（第25図 写真図版77）

〔出土遺物〕 RA03住居跡は出土遺物が極めて少ない。土器は土師器甕胴部が1点（1）、RA02住居跡と接合した土師器坏（RA02-1）がある。カマド左袖部からは被熱の痕跡が認められる磨石（2）が出土している。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は火山灰を含んでいない点、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。（高木）



第25図 RA03住居跡出土遺物

## RA04住居跡

遺構（第26・27図 写真図版10）

〔位置〕 第4次調査区中央部の2H15qグリッド付近に位置し、西側のRA06住居跡からは2m間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。RG02溝跡を切る。

〔平面形・規模〕 平面形は正方形に近く、規模は北壁3.3m、東壁3.2m、南壁3.2m、西壁3.4m。主軸方向はN-20°-E。

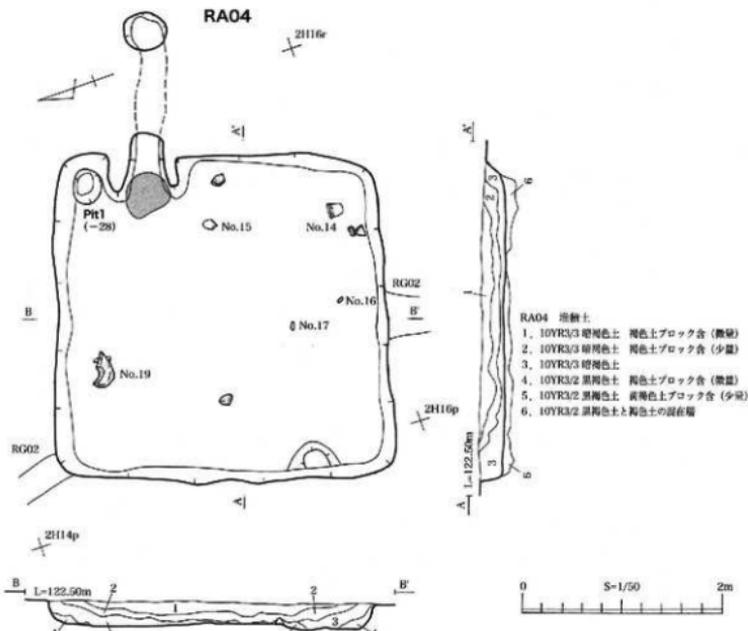
〔堆積土〕 暗褐色～黒褐色土を主体としており5層に分層した。全体に褐色土ブロックが斑状に含まれている。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均25cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。硬化が顕著な部分はない。また西壁際の南寄りには10cmの段差でテラス状に高まる部分がある。

〔カマド〕 東壁左寄りに設置される。煙道方位はN-110°-E。袖はシルト積み上げで平行して伸び、燃焼部底面に65×40cmの範囲の焼成面が形成される。燃焼部には土器片、炭が見られるが支脚は確認できない。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径45cm深さ40cmの煙出し孔へ削り貫かれる。煙道天井、側壁は焼成を受け赤変する。

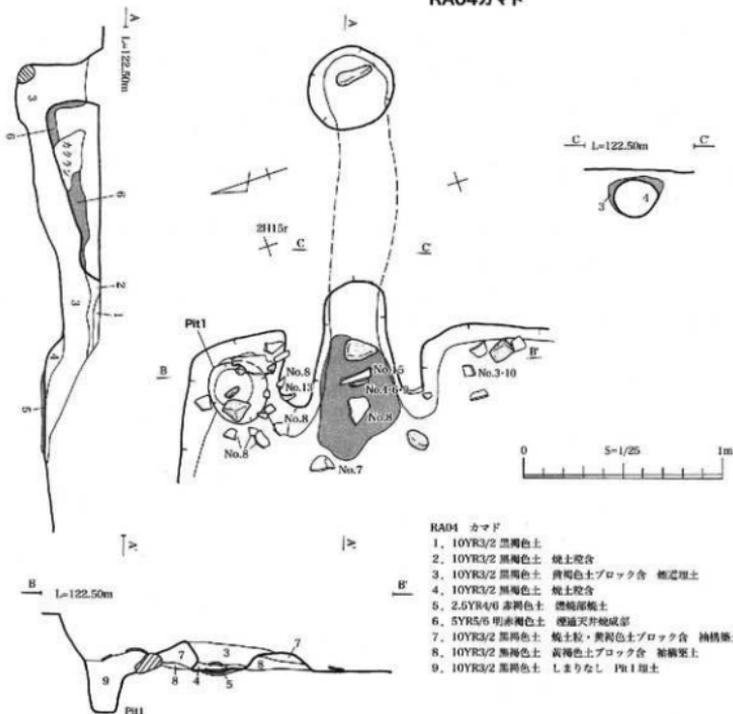
〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド左の北東隅に径30cmのPit1がある。柱穴のように深く掘り込まれるが、位置から見て貯



第26図 RA04住居跡（1）

RA04カマド



RA04 カマド

1. 10YR3/2 黒褐色土
2. 10YR3/2 黒褐色土 焼土包含
3. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック含 細砂埋土
4. 10YR3/2 黒褐色土 焼土包含
5. 2.5YR4/0 赤褐色土 漆喰部焼土
6. 5YR5/0 赤褐色土 漆喰天井焼成部
7. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土ブロック含 焼結黒土
8. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック含 焼結黒土
9. 10YR3/2 黒褐色土 Lマリアなし Pit1埋土

第27図 RA04住居跡(2)

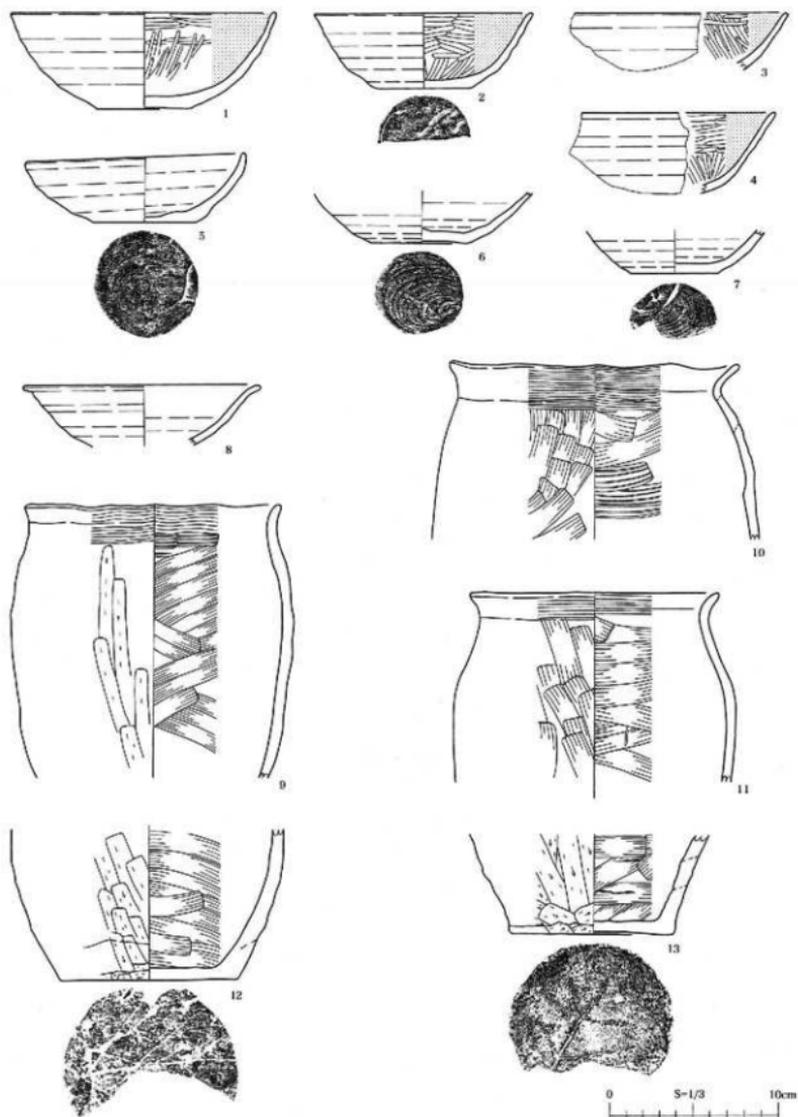
竈穴であろうと思われる。しまりのない黒褐色土が堆積しており、周辺には土器片が散在する。(高木) 遺物(第28・29回 写真図版77・78)

〔遺物出土状況〕 土器は概ねカマド燃焼部及びカマド周辺の床面からの出土が多い。鉄製品は16・17が床面から出土している。

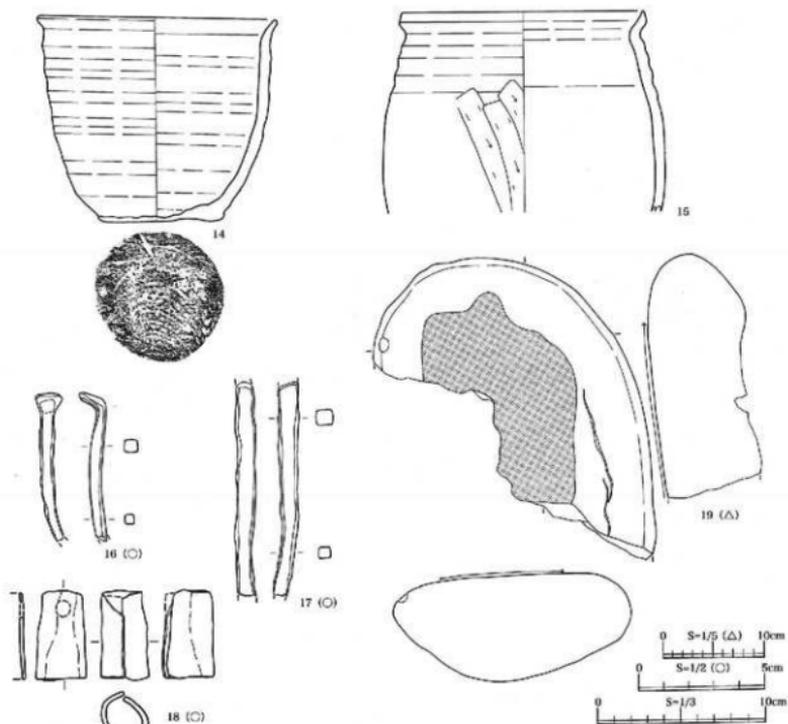
〔土器〕 土器は15点出土している。内訳は、土師器環8点、土師器壺7点である。土師器環の口縁部形態を見ると、2・4・8がa類、1・3・5がb類である。RA04出土土器は、3～7・9・15の胎土に金雲母が含まれており、他住居跡出土土器よりも混入率が高い。2～4は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。8は口縁部形態から高台付坏である可能性がある。

12の底面は木炭痕、13は木炭痕に砂底が付加されている。14のロクロナデ調整土師器壺は回転糸切り調整である。(八木)

〔石器〕 19の台石破損品が床面から出土している。玄武岩質溶岩を使用したもので、平坦面中央がやや磨



第28圖 RA04住居跡出土遺物(1)



第29図 RA04住居跡出土遺物(2)

滅しており、荒砥石の可能性がある。

〔鉄器〕 16の釘、17の棒状鉄製品、18の筒型鉄製品がある。17は釘の一部と思われる。18は薄い板を曲げて筒型にしたものである。当方の手違いにより保存処理委託時に合わせ目の反対側にあった貫通孔を塞いってしまったため判然としないが、錫杖状鉄製品に装着される鉄鐙である可能性が高い(井上2002)。

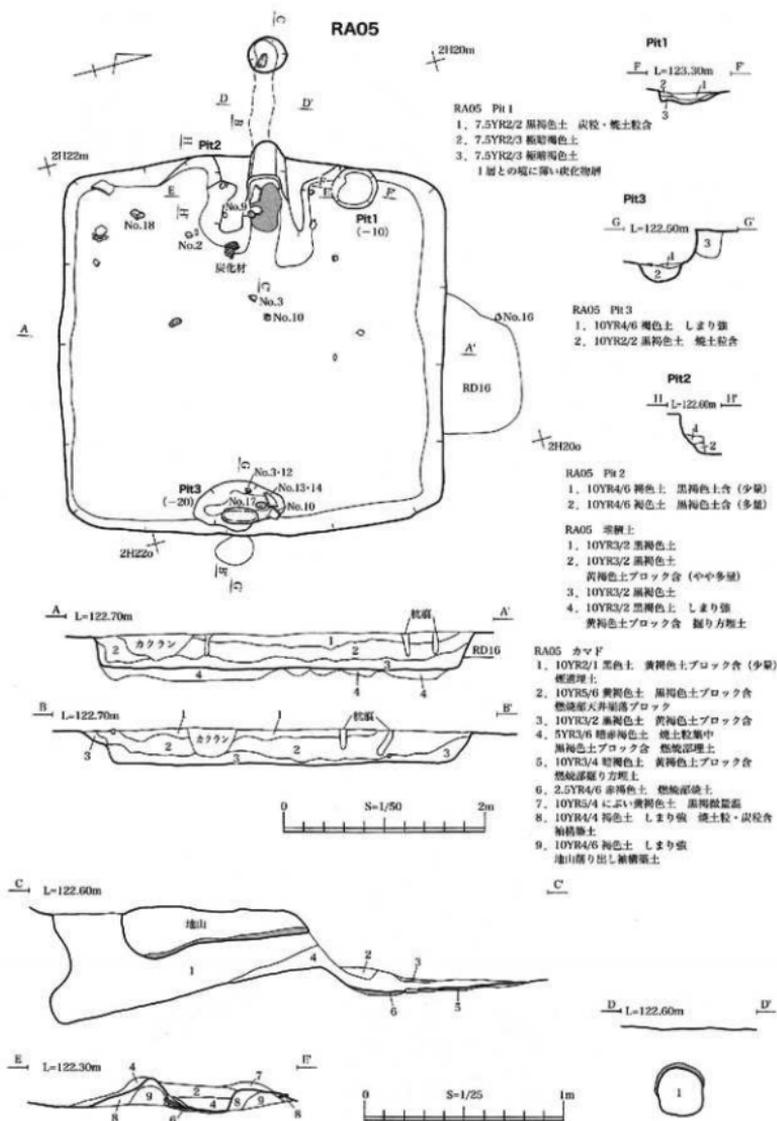
小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。時期は火山灰を含んでいない点、床面出土土器から10世紀前半の年代が想定される。(高木)

### RA05住居跡

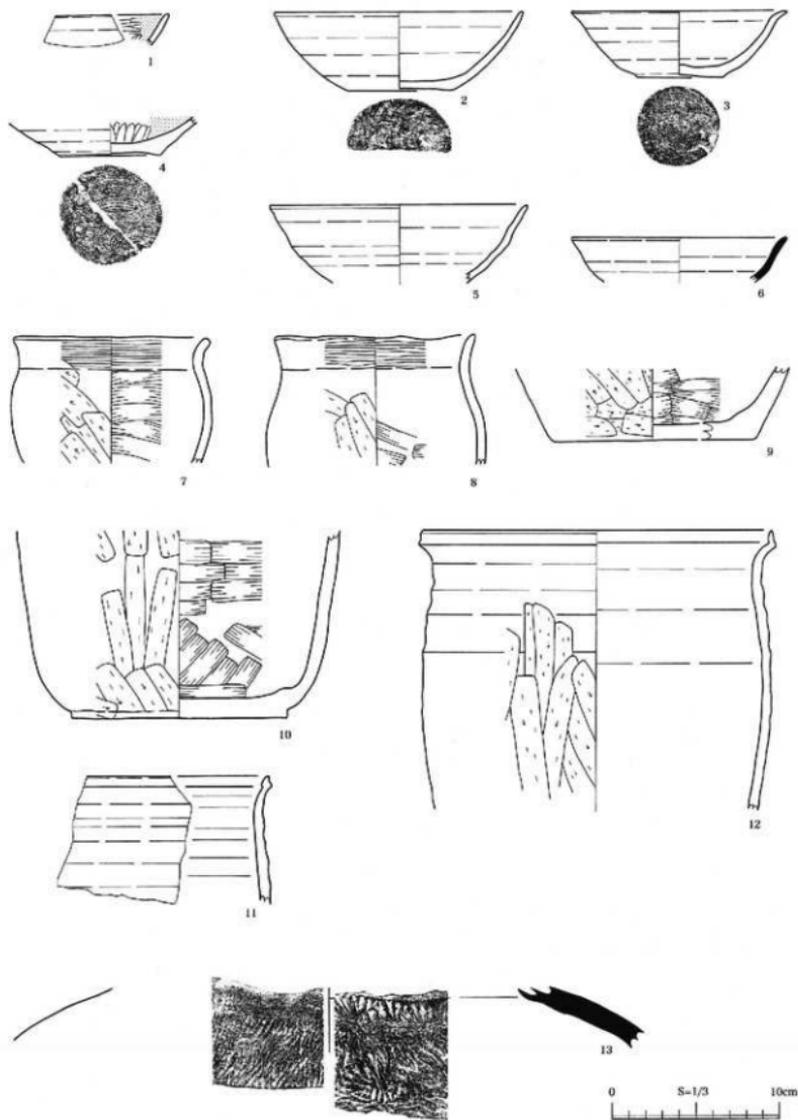
遺構(第30図 写真図版11)

〔位置〕 第4次調査区中央部の2H21nグリッド付近に位置し、北側のRA09住居跡とは0.5mの間隔がある。検出面はⅡ層上面である。北側でRD16土坑を切る。

〔平面形・規模〕 平面形は東壁、西壁がやや張り出す方形で、規模は北壁3.3m、東壁3.7m、南壁3.5m、



第30図 RA05住居跡



第31圖 R A05住居跡出土遺物 (1)

西壁3.8m。主軸方向はN-25°-E。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体とする3層に分層した。上部1層、床面直上の3層は夾雑物がほとんど見られない。中間の2層に黄褐色土ブロックが含まれる。

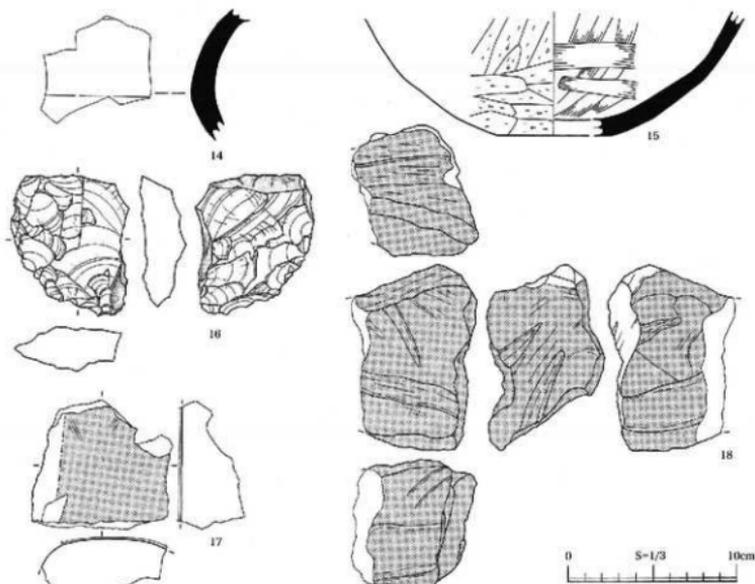
〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 西壁中央に設置される。煙道方位はN-75°-W。袖は褐色のシルト積み上げて平行して伸び、燃焼部底面に50×30cmの範囲の焼成面が形成される。燃焼部には土器片が散在するが支脚は確認できない。煙道は全長120cmで下降しながら先端の径35cm深さ55cmの煙出し孔へ削り貫かれる。煙道天井、側壁は焼成を受け赤変する。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド右側にPit 1、カマド左側に横穴状土坑のPit 2、カマドに対向する東壁中央にPit 3がある。Pit 1は径40cm程の円形で炭化物層、焼土粒を含む貯蔵穴と考えられる。Pit 2はカマド脇の壁面を挟り込んだ横穴状土坑である。天井が残存していたが検出当初に壁面の崩落と誤認し、天井が被さる状態で残存することを把握できず除去してしまった。埋土はしまりがない褐色土で黒褐色土ブロックが含まれる。Pit 3は長軸90cmの楕円形土坑で焼土粒を含む黒褐色土が堆積しており、上面に褐色土が貼り付けられる。またPit 3の中央には楕円形の穢が底面に置かれた状態で出土している。 (高木)

遺物 (第31・32図 写真図版78)



第32図 RA05住居跡出土遺物(2)



## RA06住居跡

遺構 (第33図 写真図版12)

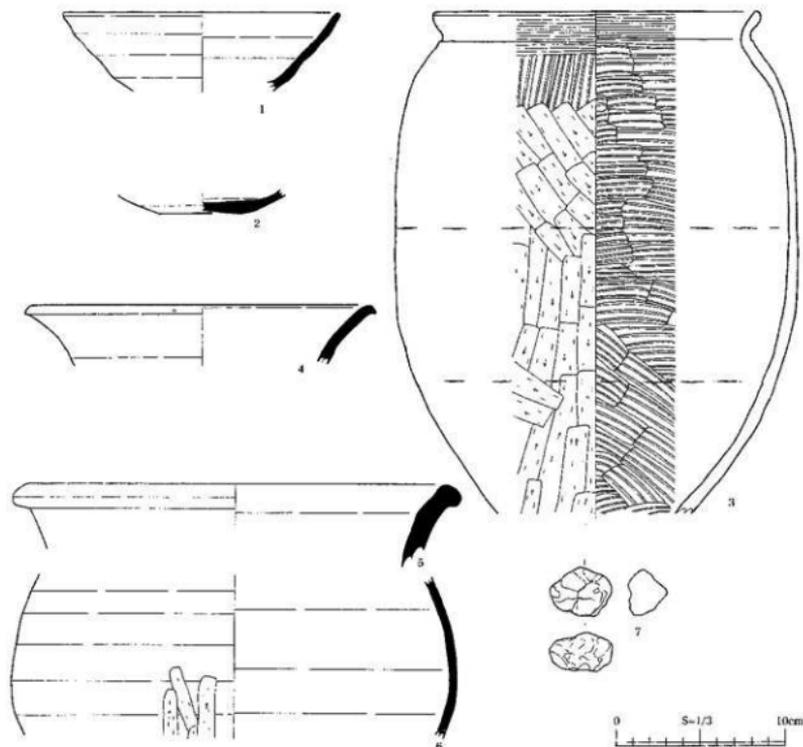
〔位置〕 第4次調査区中央部の2H16nグリッド付近で、RA04、RA09、RA10の各住居跡に囲まれた位置にある。RA09、RA10住居跡からは約1mの間隔となっている。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は正方形に近く、規模は北壁2.3m、東壁2.3m、南壁2.3m、西壁2.2m。主軸方向はN-15°-E。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体としており、褐色土ブロックの混入量より5層に分層した。床面直上の4層を覆う3層、5層に褐色土ブロックが多く見られる。灰白色火山灰ブロックは含まれていない。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 南壁左寄りに設置される。煙道方位はN-165°-W。袖は地山削り出しによって形成され平行して伸びる。燃焼部に焼成面は見られず礎、土器片が散在する。礎は天井石が崩落したものと思われる。



第34図 RA06住居跡出土遺物

煙道は全長100cmでほぼ水平に伸び、先端の径35cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙道埋土には焼土粒、炭粒が含まれる。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 南東隅のカマド左側にPit 1、東壁北側にPit 2がある。Pit 1はカマド袖に平行する長軸を持つ楕円形の土坑で、褐色土ブロックを含む黒色土が堆積する。Pit 2は壁向下部をわずかに抉り込んで掘られており、形態は横穴状土坑に近い。

#### 遺物（第34図 写真図版79）

〔遺物出土状況〕 カマド燃焼部から土師器甕、須恵器環・甕の出土が見られる。

〔土器〕 土器片は6点出土している。内訳は土師器環1点、須恵器環2点、土師器甕1点、須恵器蓋1点、須恵器甕2点である。うち6点を掲載した。7は羽口の一部と思われる。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は火山灰を含んでいない点、床面出土土器から9世紀後半の年代が想定される。

（高木）

### RA07住居跡

#### 遺構（第35図 写真図版13）

〔位置〕 第4次調査区中央部北側の2H11nグリッド付近に位置し、南側のRA10住居跡からは約3mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸方形で、規模は北壁2.2m、東壁2.5m、南壁2.4m、西壁2.5m。主軸方向はN-25°-W。

〔堆積土〕 黒色土～黒褐色土を主体としており、褐色土ブロックの混入量より4層に分層した。床面直上の3層、上部の1層は夾雑物が少なく黒色を呈しており、中間の2層に褐色土ブロックが多く見られる。灰白色火山灰ブロックは含まれていない。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面の硬化は顕著ではない。

〔カマド〕 南西隅に設置される。煙道は住居コーナーから対角線の延長線に沿って伸び、途中で屈曲している。燃焼部よりの煙道方位はN-175° W。袖は粘土質シルト積み上げでコーナーから住居中央に向かって伸びる。上部には燃焼部天井を構築したと思われる褐色土が残存する。燃焼部中央と住居中央寄りには円形の掘り込みがあり、これらの堆積土上面から袖側壁にかけて焼成面が見られる。煙道は全長80cmで下降しながら伸び、中間で右に屈曲し先端の径35cm深さ55cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙道天井の燃焼部寄りには焼成を受け赤変している。

〔柱穴〕 なし。

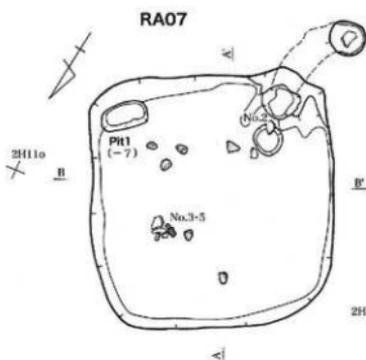
〔土坑〕 南東隅にPit 1がある。楕円形の浅い土坑で焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。

（高木）

#### 遺物（第36図 写真図版79）

〔遺物出土状況〕 カマド燃焼部、床面に土器片、自然礫が散在する。カマド煙出し孔中位には土師器甕底部破片が投げ込まれている。

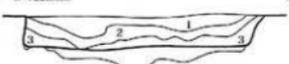
〔土器〕 土器は7点出土している。内訳は土師器環4点、土師器甕2点、須恵器甕1点である。うち6点を掲載した。1～3土師器環と5の土師器甕は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。



A L=122.50m

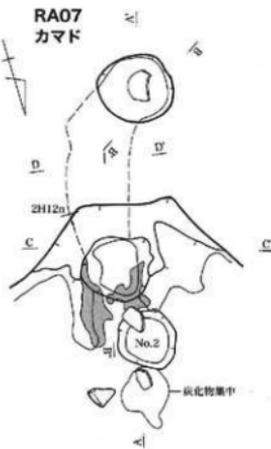
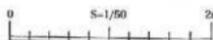


B L=122.50m

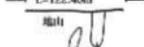


RA07 地層土

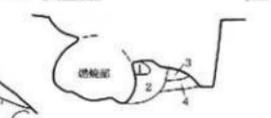
1. 10YR2/1 黒色土 黄褐色土ブロック含
2. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土粒含 (やや多量)
3. 10YR2/1 黒色土 黄褐色土粒含 (少量)
4. 10YR3/2 黒褐色土 黒色土ブロック・黄褐色土粒含



D L=122.40m



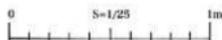
C L=122.40m



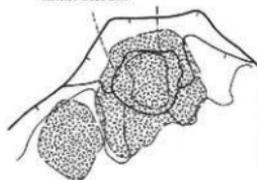
RA07 カマド燃焼層・線道断面

(AA' BB' DD' 断面)

1. 7.5YR2/1 黒色土 炭粒・褐色土粒含
2. 7.5YR2/1 黒色土 炭土粒・褐色土粒含
3. 10YR3/3 暗褐色土 しまりなし
4. 7.5YR2/1 黒色土 しまりなし 炭粒含
5. 7.5YR2/1 黒色土 しまりなし 炭土粒・炭粒含 燃焼層掘り方埋土
6. 7.5YR3/2 黒褐色土 粘土質シルト しまり黄 天井陥付土



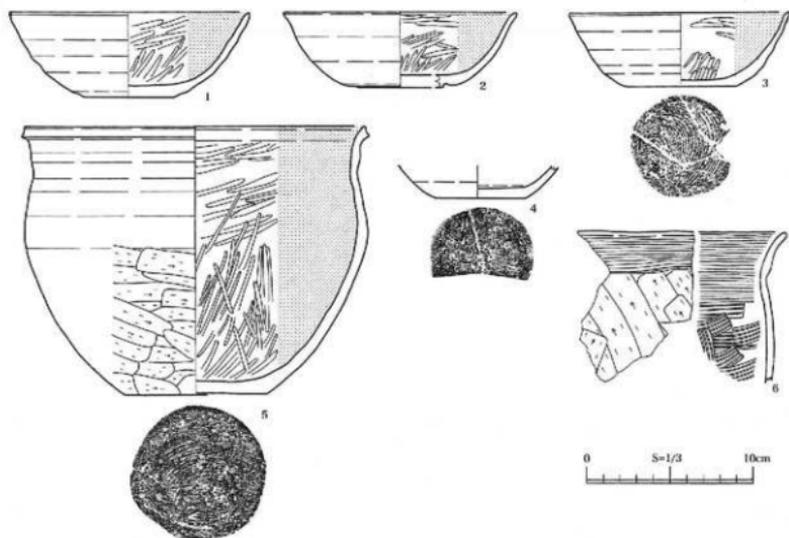
燃焼部天井褐色土



RA07 カマド横断面 (CC' 断面)

1. 10YR4/6 褐色土 砂質シルト 陥付土
2. 7.5YR3/2 黒褐色土 粘土質シルト 陥付土
3. 10YR3/3 暗褐色土 炭粒・黄土粒含 陥付土
4. 10YR2/1 黒色土 しまり新

第35図 RA07住居跡



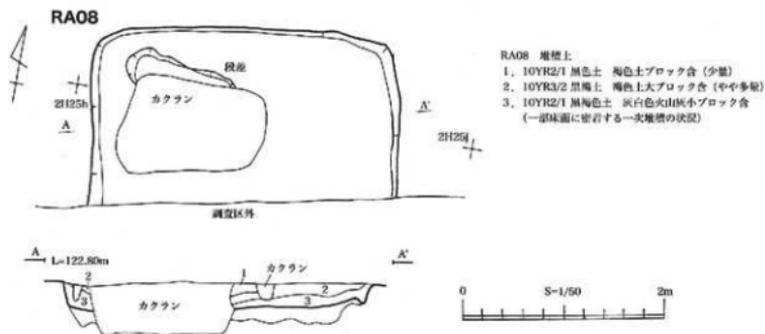
第36図 RA07住居跡出土遺物

環口縁部形推は1がa類、2・3がb類である。

(八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。コーナーに設置されたカマドは今回の調査ではこの1棟のみである。時期は火山灰を含んでいない点、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。

(高木)



- RA08 埋蔵土
- 1, 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
  - 2, 10YR3/2 黒褐色土 褐色土大ブロック含 (やや多量)
  - 3, 10YR2/1 黒褐色土 灰白色火山灰小ブロック含 (一部床面に密着する一次焼成の状況)

第37図 RA08住居跡

## RA08住居跡

遺構 (第37図 写真図版13)

〔位置〕 第4次調査区中央部南端の2H241グリッド付近に位置する。南側の1/2ほどは調査区外に位置するため明らかでない。また中央部西寄りを現代の掘削が切っている。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 検出範囲の平面形は方形を呈し、規模は北壁3.0m。平行する東西壁の方向はN-10°-W。

〔堆積土〕 黒褐色土を主体としており、褐色土ブロックの混入量より3層に分層した。上部1層は褐色土ブロック少ない黒色土、2層は大きめの褐色土ブロックが多く含まれる。床面上位の3層黒褐色土には灰白色火山灰ブロックが含まれており、一部では床面を直接覆う粒粒の一次堆積と思われる状態が観察される。

〔壁・床面〕 3辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、北西コーナー側に5~10cmほどの北壁に平行する段差が見られる。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 検出範囲内にはない。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 なし。

遺物 木遺構に伴う遺物は出土していない。

小結 本遺構はカマドの有無が不明であるが、規模、形状など他の小型住居跡に類似する状態から竪穴住居跡と判断した。時期は床面を覆う火山灰から10世紀初頃の年代が想定される。(高木)

## RA09住居跡

遺構 (第38~41図 写真図版14・15)

〔位置〕 第4次調査区中央部南側の2H18mグリッド付近に位置し、南側のRA05住居跡からは0.5m、北側のRA06住居跡からは約1mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。東壁の1号カマドがR D23土坑を切っている。

〔平面形・規模〕 形状は正方形に近く、規模は北壁4.6m、東壁4.8m、南壁4.6m、西壁4.6m。主軸方向はN-05°-E。

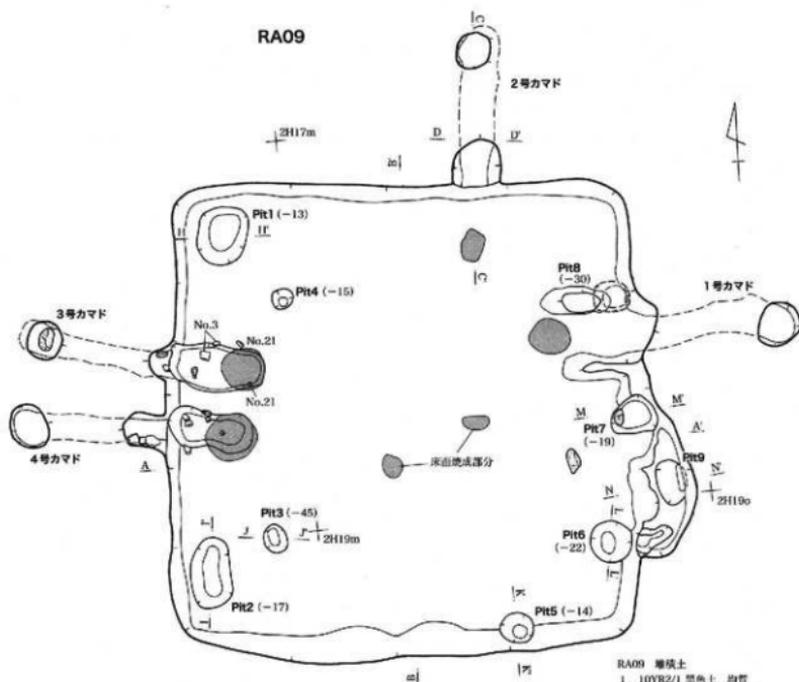
〔堆積土〕 上位から褐色土ブロックを含む1層黒色土、灰白色火山灰ブロックを含む2層黒褐色土、均質な3層黒色土に分層される。床面直上には全体に二次堆積の焼土ブロックが広がり、炭化物が散在する。炭化物は厚さ2~5cm程度の焼上下位に広がるものが多く、中央部ではカヤ状の炭化材が平行して並ぶ状態の部分観察される。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦で中央部の硬化が著しい。東壁の南側は弧状に張り出しており20cmの段差を持ってテラス状になる。床面の中央付近に2ヶ所の焼成面が見られるが、地床ではなく焼失時に被熱したものだと判断している。

〔カマド〕 1号カマド(東壁)、2号カマド(北壁)、3・4号カマド(西壁)の4基を検出した。

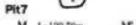
1号カマドは東壁の左寄りに設置される。煙道はS字状に曲がるが燃焼部と煙出し孔を結んだ方位はN-93°-Eとなる。袖は黒色土を積み上げて作られ平行して伸びる。また、左側の袖基部はPil 8の上部に位置し、礫を多量に含む黒褐色土で埋め戻している。燃焼部は手前側に径40cmの焼成面があり、煙道入り口の奥側は長軸50cm程度の楕円形の落ち込みがあり焼土粒、炭化物を多量に含む黒色土が堆積する。この部分は断

RA09



RA09 堆積土

1. 10YR2/1 黒色土 均質  
褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR2/2 黒褐色土  
灰白色火山灰ブロック含 (少量)  
褐色土ブロック含 (微量)
3. 10YR2/1 黒色土 均質 炭屑含



RA09 Pit 1

1. 5YR4/4 赤褐色土 二次堆積焼土ブロック
2. 7.5YR2/1 黒色土 焼土炭屑

RA09 Pit 2

1. 10YR2/1 黒色土
2. 10YR2/3 暗褐色土

RA09 Pit 3

1. 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱 炭屑多量 柱状節
2. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含

RA09 Pit 6

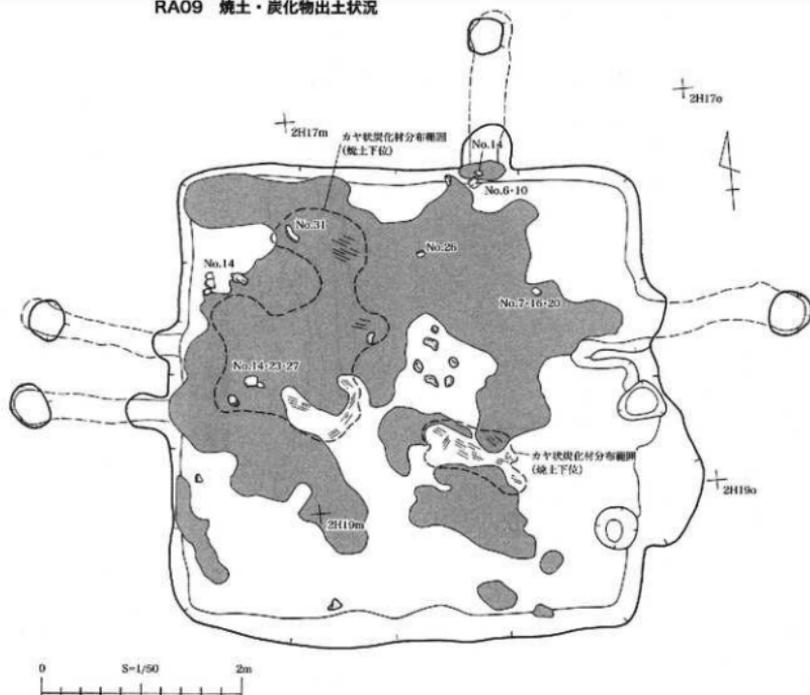
1. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 均質

RA09 Pit 7

1. 10YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
2. 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱

第38図 RA09住居跡 (1)

RA09 焼土・炭化物出土状況



第39図 RA09住居跡(2)

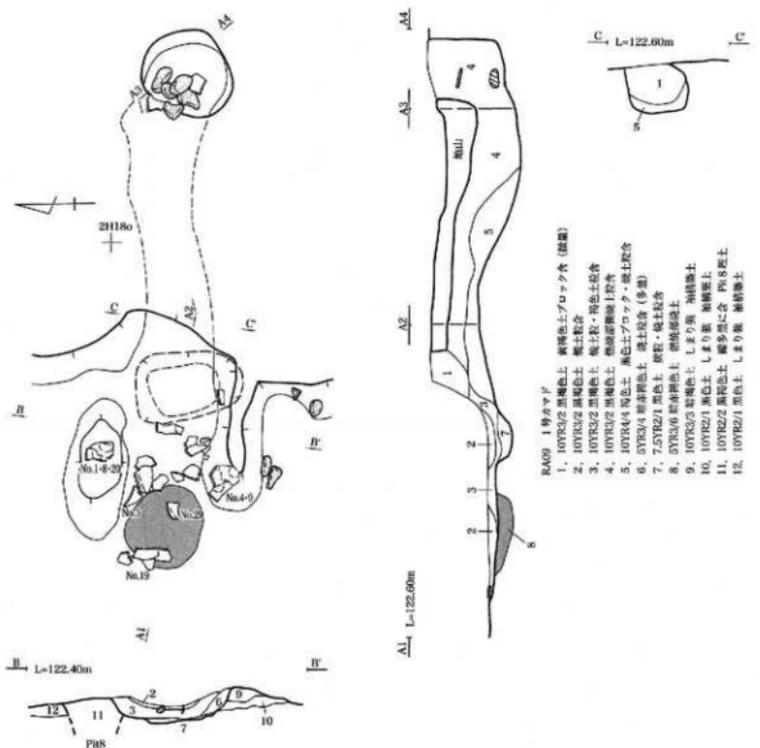
面観察よりカマド機能時点で開口していたと考えられる。煙道は全長160cmで中程まで一旦上り勾配となり先端の煙出し孔に向かい下降に転じ斜り貫かれている。煙出し孔は径45cm深さ40cmで煙道の最深部よりやや浅く掘られる。また埋土には礫、土器片が多数投げ込まれている。

2号カマドは北壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-05°-E。煙道のみで焼成部は消失しており、底面の径30cmの範囲に広がる焼成面のみ確認できる。煙道は全長160cmで下降しながら先端の径35cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙道埋土は炭粒、焼土粒を含む黒褐色土を主体とし、煙出し孔は埋め戻された褐色土ブロックが見られ、最上部に灰白色火山灰ブロックが含まれる。

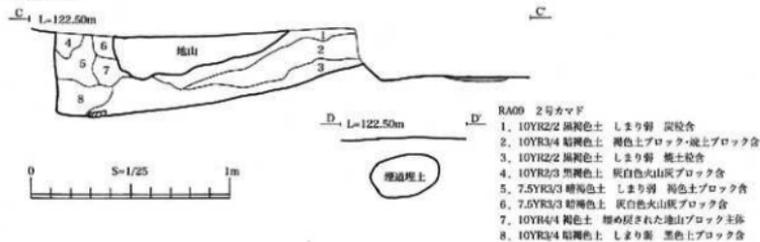
3号カマドは西壁右寄りに設置される。煙道方位はN-75°-W。焼成部軸は残存しておらず底面の楕円形の掘り込みが残る。住居中央寄りに径45cmの焼成面が形成されており奥側には土器片、礫が散在する。煙道は全長150cmで下降しながら先端の径45cm深さ50cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。焼成部寄りの煙道天井は焼成を受け赤変する。

4号カマドは3号カマドの左側、西壁左寄りに設置される。煙道方位はN-82°-Wで3号カマドとほぼ

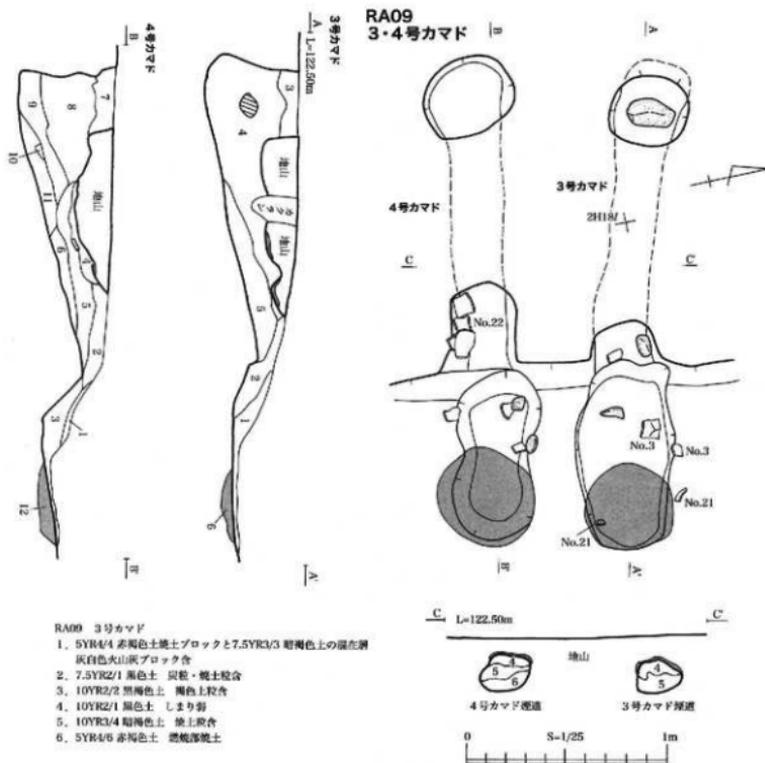
RA09 1号カマド



2号カマド断面



第40図 RA09住居跡 (3)



**RA09 3号カマド**

1. 5YR4/4 赤褐色土焼土ブロックと7.5YR3/3 暗褐色土上の混在層  
灰白色火山灰ブロック含
2. 7.5YR2/1 黒色土 炭粒・焼土粒含
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土粒含
4. 10YR2/1 黒色土 しまり岩
5. 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒含
6. 5YR4/6 赤褐色土 炭粒部焼土

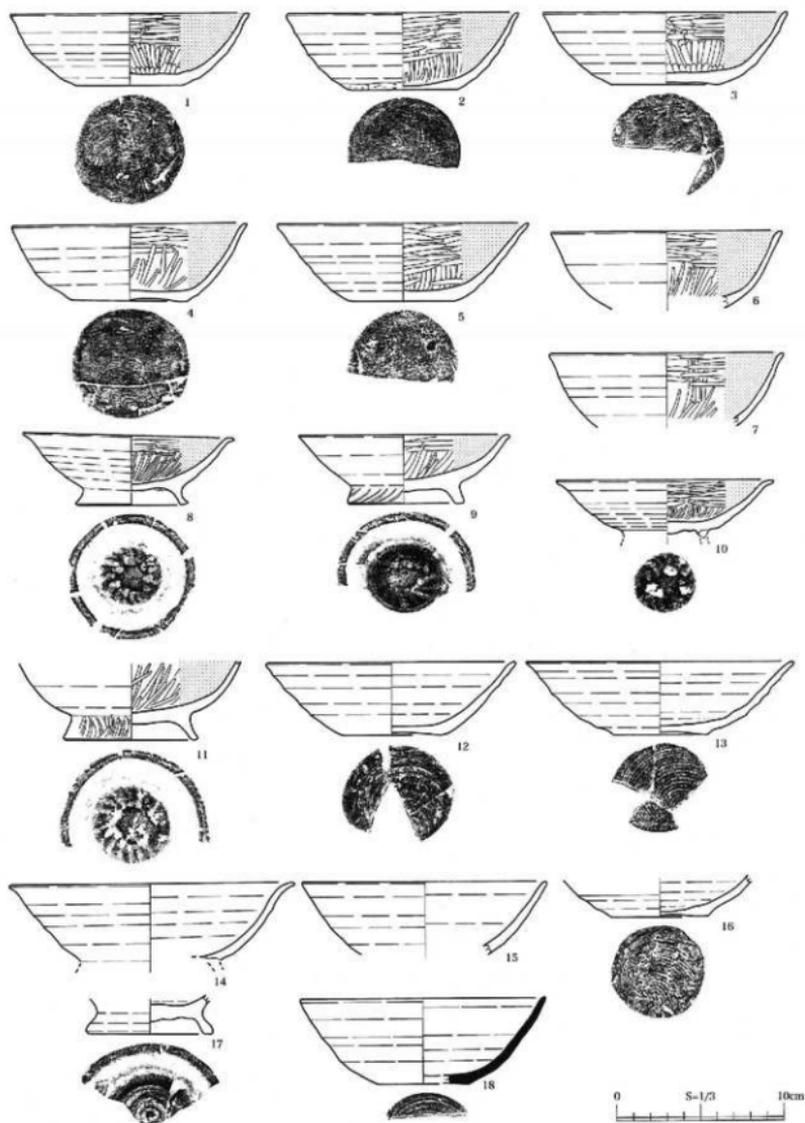
**RA09 4号カマド**

1. 5YR4/6 赤褐色土焼土ブロックと民集申ブロックの混在層  
焼失時の焼土ブロック
2. 10YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック含
3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり岩 焼土ブロック含
4. 10YR2/2 黒褐色土 しまり岩 炭粒含
5. 10YR3/3 暗褐色土 焼土ブロック多量に含
6. 10YR2/2 黒褐色土 しまり岩 炭粒塊中 焼土粒含
7. 10YR2/2 黒褐色土 均質
8. 10YR3/2 黒褐色土 しまり岩 褐色土粒含
9. 10YR2/1 黒色土 しまり岩
10. 10YR4/4 褐色土 天井船漆ブロック
11. 10YR3/4 暗褐色土 しまり岩 焼土粒含
12. 5YR3/6 暗赤褐色土 炭粒部焼土

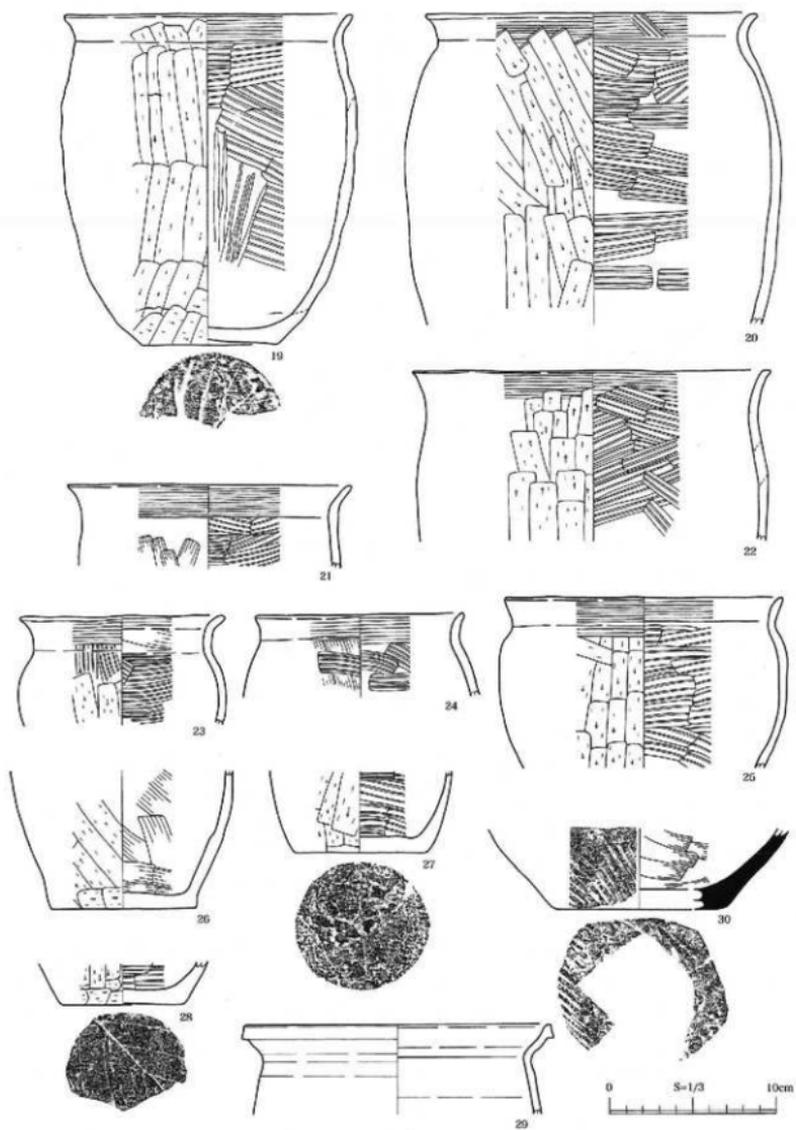
第41図 RA09住居跡(4)

平行する。これも焼焼部袖は残存しておらず平面形が8の字状に掘り込まれた土坑が残り、先端に径50cmの焼成面が形成されている。掘り込みの奥側から煙道入り口にかけて土器片、礫が散在する。煙道は全長160cmで下降しながら先端の径50cm深さ55cmの煙出し孔へ削り貫かれる。煙道埋土には焼土粒が多く含まれ、天井の一部が焼成を受けている。

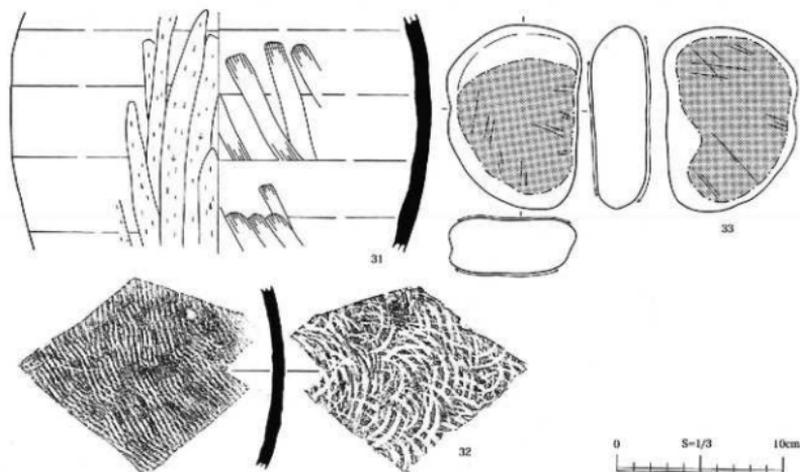
〔柱穴〕 Pit 3・4・6・8の4基で長方形の主柱穴配置を構成すると思われる。Pit 8は1号カマドの袖下位にあたり埋め戻されており、この配置は1号カマドが機能していた段階より古く、3号ないし4号カマ



第42図 R A09住居跡出土遺物 (1)



第43圖 RA09住居跡出土遺物(2)



第44図 R A09住居跡出土遺物(3)

下の機能時点での配置と考えられる。1号カマドと同時期と判断される柱穴は確認できない。Pit 3の断面ではやや斜めに設置された柱痕跡が見られる。

〔土坑〕 北西隅にPit 1、南西隅にPit 2、東壁際の1号カマド右側張り出し部分にPit 7・9、南壁際東寄りにPit 5がある。小径のPit 5を除き、貯蔵穴の可能性が高いが、どのカマド機能時点でのものなのかは不明である。

〔周溝〕 なし。

(高木)

遺物(第42～44図 写真図版80・81)

〔遺物出土状況〕 遺物は各カマド付近に集中するが、特に1号カマド周辺に多い。また中央部床面を覆う焼土層の上位からも一定量の遺物出土がある。遺構間接合では1号カマドから出土した8が隣接するR A06堆積土上部と、11がR A10堆積土下部と、3・4号カマド付近の30がR A01床面と、32がR A10カマドとそれぞれ接合関係にある。

〔土器〕 土器が36点出土している。内訳は土師器坏11点、土師器高台付坏6点、須恵器坏1点、土師器甕15点、須恵器壺1点、須恵器甕2点である。うち32点掲載している。

土師器・須恵器坏の口縁部形態は、b類である3・5を除き全てa類である。土師器坏および高台付坏のうち、1～11は内面ヘラミガキ後、内面黒色処理が施されている。9・11は胎土に金雲母を含有する。土師器高台付坏の高台の接合方法は8～11の内面ヘラミガキ後に黒色処理したものが指オサエ、3号カマドから出土しているロクロ調整の17は高台接合後もロクロナデ調整されている。(八木)

〔石器〕 1号カマド煙出し孔から出土した33は扁平な安山岩の自然礫を利用した磨石で、両面に摩滅部分が認められる。

小結 本住居跡は4基の主柱穴、4基のカマドを持つ大型の焼土住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況、

2号カマド煙出し孔が埋め戻されている状況から見て2・3・4号カマド→1号カマドへの作り替えが想定される。2・3・4号カマド相互の関係は不明だが、これも3・4号カマドの距離が接近していることから同時期ではなく作り替えによるものと思われる。3・4号カマド機能時点での柱穴は、カマド対辺側で壁際に偏る位置に配置される。床面直上で検出した炭化物にはカヤ状の炭化材が並列したものが含まれており、敷物か屋根材の可能性がある。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。

(高木)

## RA10住居跡

遺構 (第45～48図 写真図版16)

〔位置〕 第4次調査区中央部北側の2H141グリッド付近に位置し、南側のRA09住居跡からは3m、東側のRA06住居跡からは約0.5mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長い長方形で、規模は北壁5.4m、東壁4.5m、南壁5.3m、西壁4.3m。主軸方向はN-05°-EでRA09住居跡と揃う。

〔堆積土〕 基本的には1層の夾雑物の少ない黒色土単層と捉えられる。東西の壁際に褐色土ブロックを含む2・4層が見られる。床面直上には全体に二次堆積の焼土ブロックが広がり、炭化物が散在する。焼土は4辺から50cm程の間隔を置いて帯状に連なる状態に残存する。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方土を床面としており、ほぼ平坦で中央部の硬化が著しい。

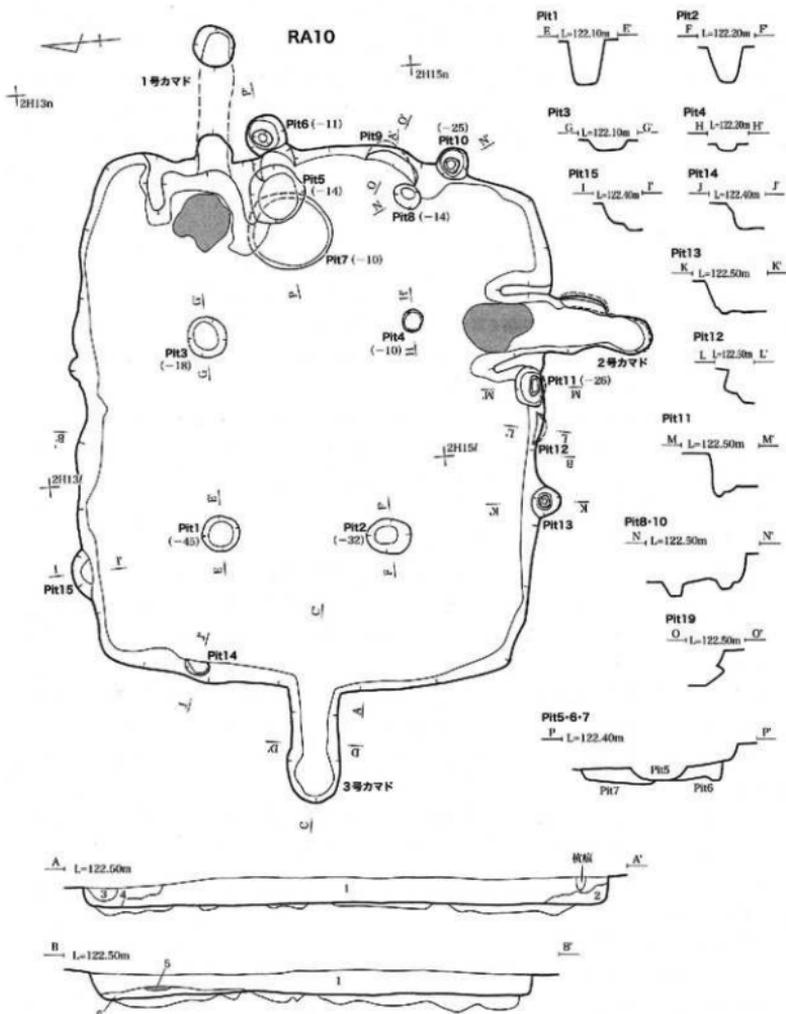
〔カマド〕 1号カマド(東壁)、2号カマド(南壁)、3号カマド(西壁)の3基を検出した。

1号カマドは東壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-98°-E。袖は褐色土と黒褐色土を交互に積み上げて作られ、左側の袖には芯材の礫が残存する。また右側の袖は柱穴状のPitを覆って作られる。燃焼部底面には径60cmの焼成面があり、カマド奥側にかけて土器片が散在している。焼成面の手前には径50cmの円形の掘り込みがあり黒褐色土の堆積が見られる。燃焼部上位には強く焼成を受けた天井部分が残存しているが、平面範囲は記録できなかった。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径45cm深さ45cmの煙出し孔へ割り貫かれる。煙道天井の被熱による赤変部分は燃焼部側で崩落している。煙出し孔には径10～20cmの礫が投げ込まれている。

2号カマドは南壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-173°-W。袖は褐色土積み上げで平行して伸び、燃焼部底面に径70×50cmの範囲で焼成面が形成される。煙道は110cmで先端に向かいやや下降しながら溝状に掘り込まれ天井は残存しない。天井が崩落した痕跡も見られないため本来的に掘り込み式の煙道であったと思われる。煙出し部分は径40cm深さ50cmで礫が投げ込まれている。また煙道部分からも土器片が出土する。煙道の東側壁面は崩落により段差を生じている。

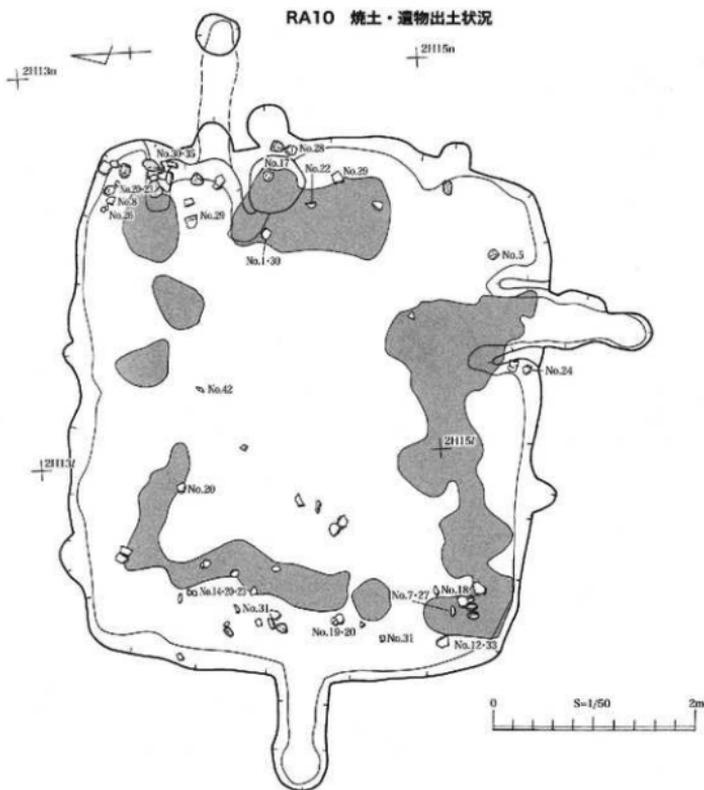
3号カマドは煙道のみを検出で燃焼部は消失しており、焼成面も確認できない。煙道は全長120cmでやや下降しながら溝状に掘り込まれる。2号カマドと同様に天井が崩落した痕跡が見られない点から本来的に掘り込み式の煙道と考えられる。煙出し部分は径45cm深さ45cmで焼土粒を含む煙道と連続した堆積が見られる。

〔柱穴〕 Pit1・2・3・4の4基が中央部で方形の配置を構成しておりこれらが主柱穴ではないかと思われる。東側のPit3・4は深さ10cm程度と浅く底面を誤認している可能性がある。その他、壁際ないし壁面に掘り込まれたPit6・8・10・11・13も柱穴として機能していたかもしれないが、これらを含めた配置は不明



- RA10 遺構土
1. 10YR2/1 黒色土 均質
  2. 10YR2/1 黒色土 破土ブロック・褐色土埋合
  3. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 埋合か?
  4. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 褐色土ブロック含 (中々多量)
  5. 5YR4/6 赤褐色土 二尖常粒破土ブロック
  6. 10YR1/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック含

第45図 RA10住居跡(1)



第46図 RA10住居跡(2)

である。

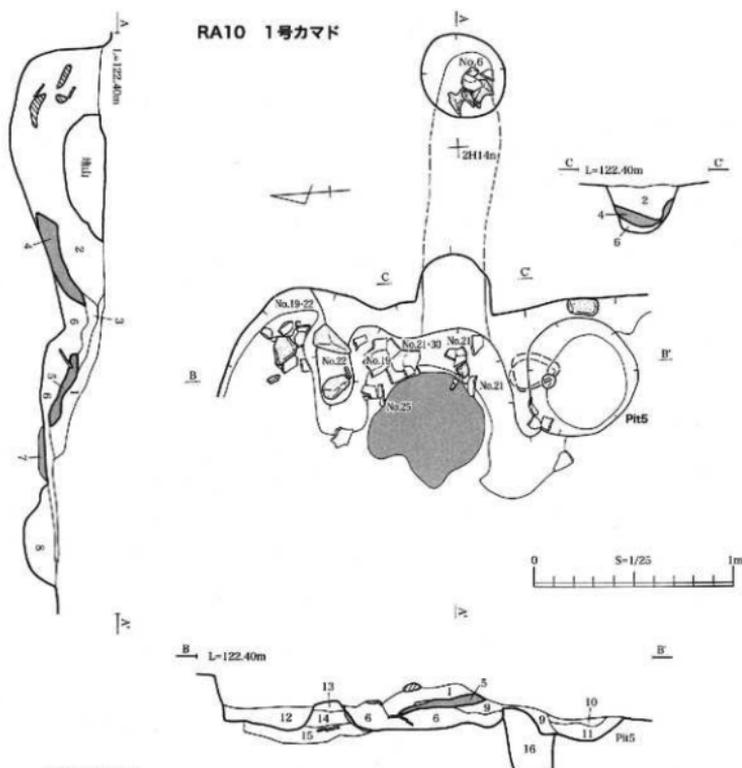
〔土坑〕 1号カマド右が狭いPit 5・7がある。重複しており、Pit 7は1号カマドより古い段階のものでPit 5が1号カマドに伴う貯蔵穴と考えられる。壁面に掘られた横穴状土坑は東壁1号カマド右側のPit19、南壁2号カマド右側のPit12、西壁3号カマド右側のPit14が該当する。

〔厨溝〕 なし。

(高木)

遺物(第49～53図 写真図版81～83)

〔遺物出土状況〕 1～3号カマド付近に遺物が集中する。坏類では堆積土中からの出土も多い。各カマド間での接合では19・20・22の土師器甕が1号カマド燃焼部と3号カマド前の床面、23・26の土師器甕が1号カマド脇床面と2号カマド煙道埋土とで接合している。遺物間接合では35の須恵器甕がRA21と接合関係に

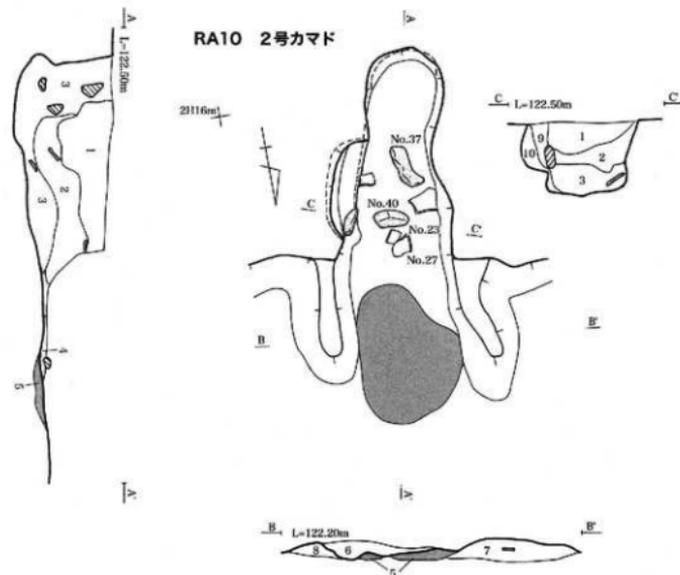


RA10 1号カマド

- |                                    |                                    |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土粒含              | 9. 5YR2/3 暗赤褐色土 黄褐色土粒含 (散見)        |
| 2. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土粒含             | 10. 10YR3/2 黒褐色土 均質                |
| 3. 10YR2/1 黒色土 粘土粒・黄褐色土粒含          | 11. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土粒含            |
| 4. 2.5YR3/6 暗赤褐色土 採掘天井構成部分の割落ブロック  | 12. 10YR2/1 黒色土 粘土粒・炭粒含            |
| 5. 2.5YR3/6 暗赤褐色土 器底部天井構成部分の割落ブロック | 13. 10YR4/3 に近い黄褐色土 しまり窯 粘土粒含 焼腐粘土 |
| 6. 5YR2/3 暗赤褐色土 黄褐色土粒・炭粒含          | 14. 10YR2/3 黒褐色土 しまり窯 粘土粒含 焼腐粘土    |
| 7. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼腐硬土               | 15. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土粒含 (やや多量)     |
| 8. 7.5YR2/2 黒褐色土 均質                | 16. 7.5YR2/1 黒色土 しまり窯 9割に覆われるピット壁土 |

第47図 RA10住居跡 (3)

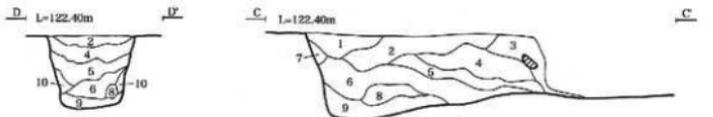
RA10 2号カマド



RA10 2号カマド

- |                                     |                                   |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 7.5YR2/1 黒色土 炭上ブロック・褐色土ブロック含     | 6. 10YR2/1 褐色土 焼土散合               |
| 2. 10YR2/1 黒色土 焼土散合 褐色土ブロック含 (やや多量) | 7. 10YR4/4 褐色土 しまり強 黒色土ブロック含 焼磚散土 |
| 3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 炭粒含 均質         | 8. 10YR4/4 褐色土 しまり強 焼磚散土          |
| 4. 10YR2/1 黒色土 焼土散合                 | 9. 10YR2/1 黒色土                    |
| 5. 5YR3/6 暗赤褐色土 焼結硬質土               | 10. 10YR2/3 黒褐色土                  |

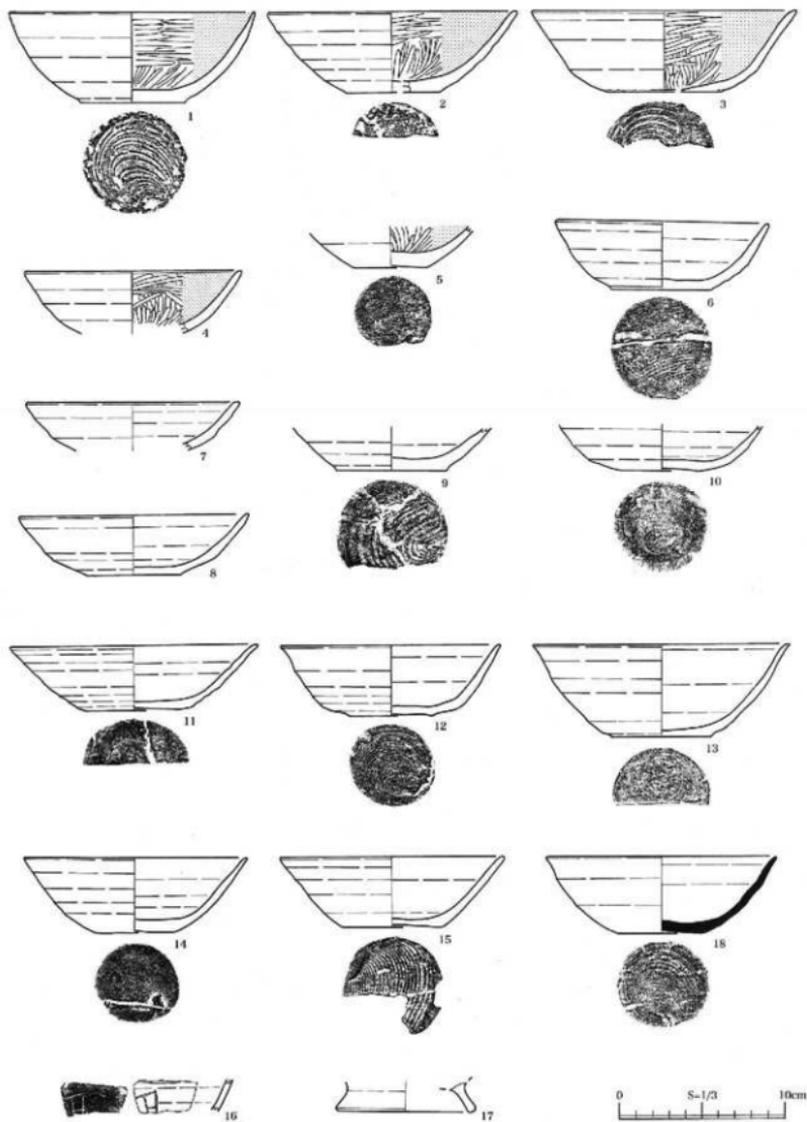
3号カマド断面



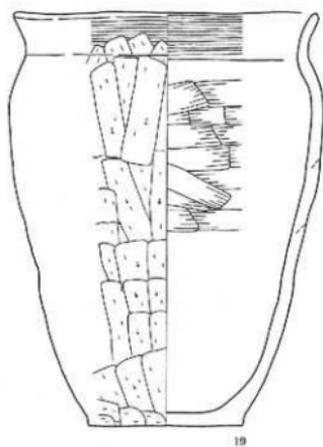
RA10 3号カマド

- |                            |                          |
|----------------------------|--------------------------|
| 1. 10YR2/1 黒色土 しまり弱        | 6. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 均質   |
| 2. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 褐色土粒含 | 7. 10YR2/1 黒色土 褐色土粒含     |
| 3. 10YR2/1 黒色土 焼土散合        | 8. 7.5YR3/3 暗褐色土         |
| 4. 7.5YR1.7/1 黒色土 焼土散合     | 9. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 炭粒含  |
| 5. 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土散合 (多量) | 10. 10YR4/6 褐色土 地山崩潰ブロック |

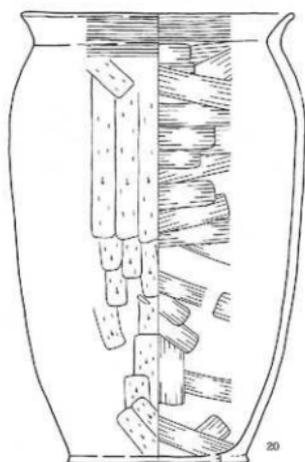
第48図 RA10住居跡(4)



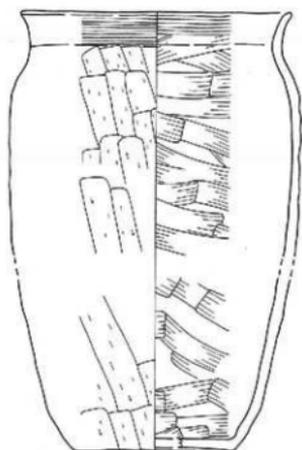
第49図 R A 10住居跡出土遺物 (1)



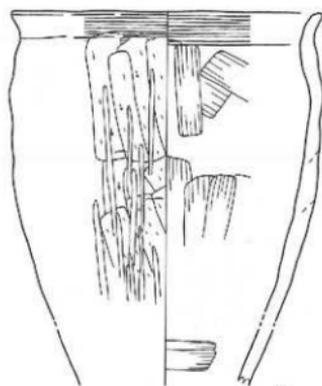
19



20



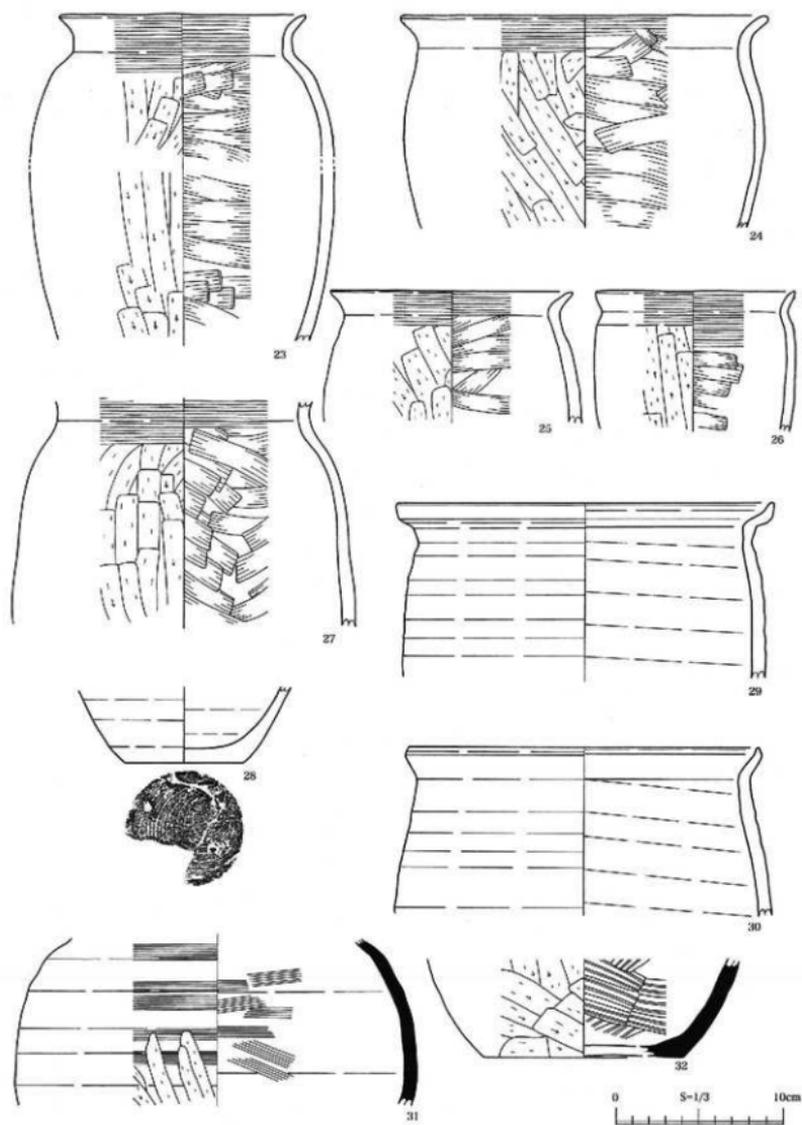
21



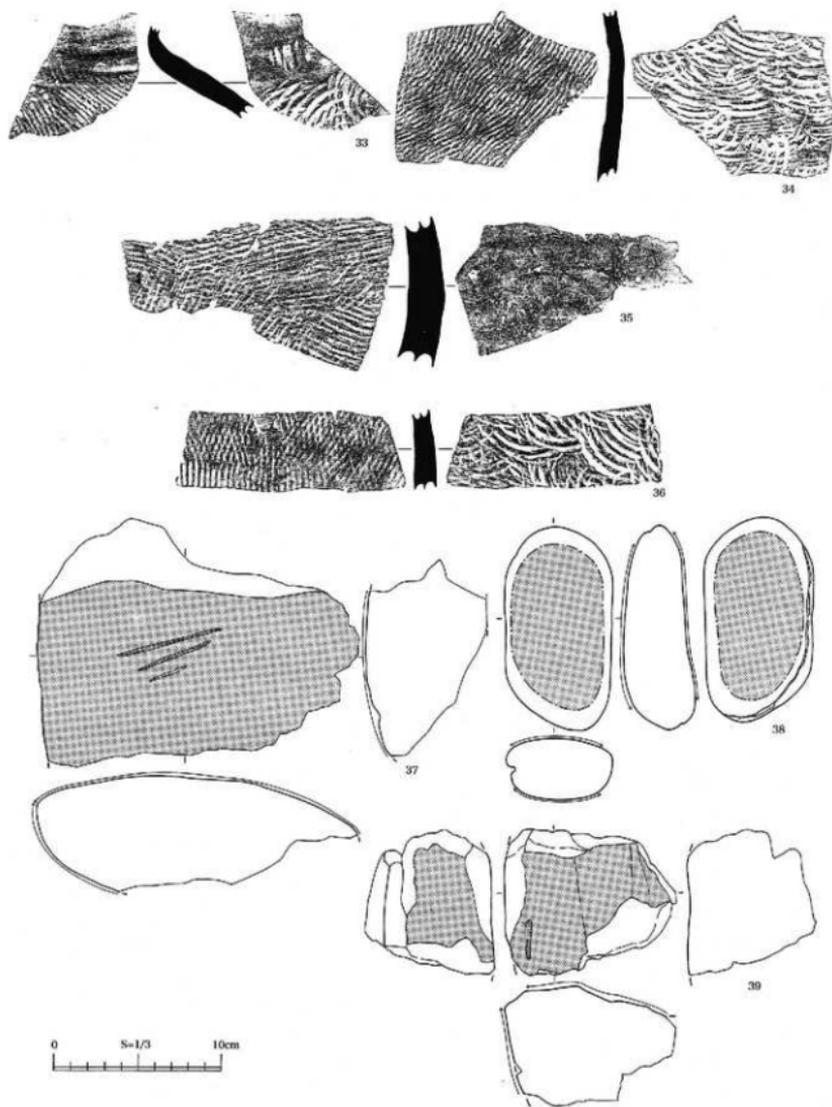
22



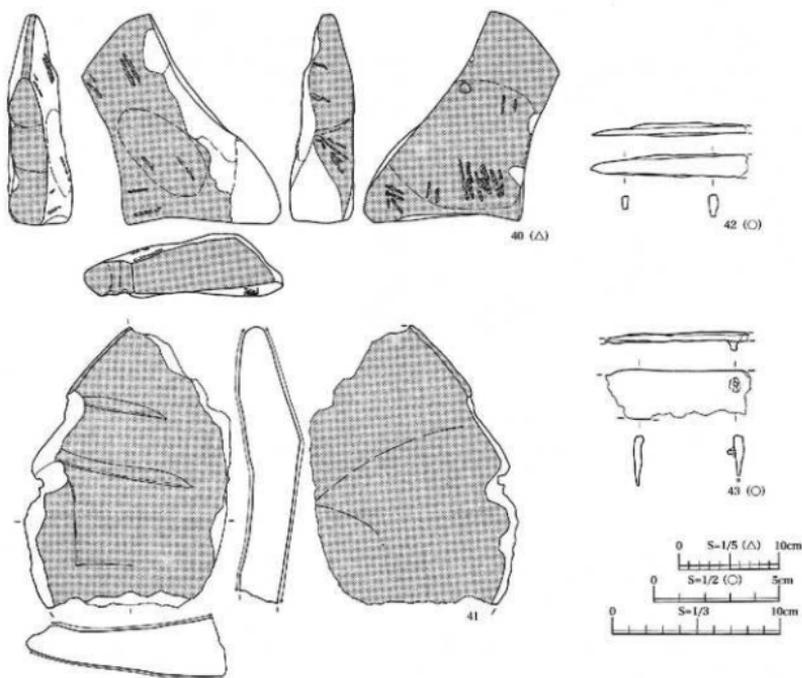
第50図 R A 10住居跡出土遺物 (2)



第51図 RA 10住居跡出土遺物(3)



第52圖 RA 10住居跡出土遺物(4)



第53図 RA10住居跡出土遺物(5)

ある。

【土器】 総数で36点出土している。内訳は土師器環16点、土師器高台付環1点、須恵器環1点、土師器甕12点、須恵器壺2点、須恵器甕4点である。うち36点を掲載した。

土師器環の口縁部形態は、2・4・7・11～13がa類で、1・3・6・8・14・15がb類である。須恵器環はa類である。土師器環のうち1～5は内面へラミガキ後に黒色処理が施されている。土師器環6の底面は2度の静止糸切りが施されている。5・8は胎土に金雲母を含む。16の胴下半部には線刻が認められる。

土師器甕は全点掲載した。28～30はロクロ調整によるものである。28は回転糸切り痕が残る。

須恵器甕の35は内面当て具痕をナデによって平滑に調整されている。

(八木)

【石器】 37・39・40・41の玄武岩質溶岩を利用した荒砥石、38の安山岩偏平礫を使用した磨石が出土している。40は完形品で紙面に溝状に深く抉られた部分が残る。

【鉄器】 床面から42の刀子、堆積土上部から43の目釘式手鎌が出土している。

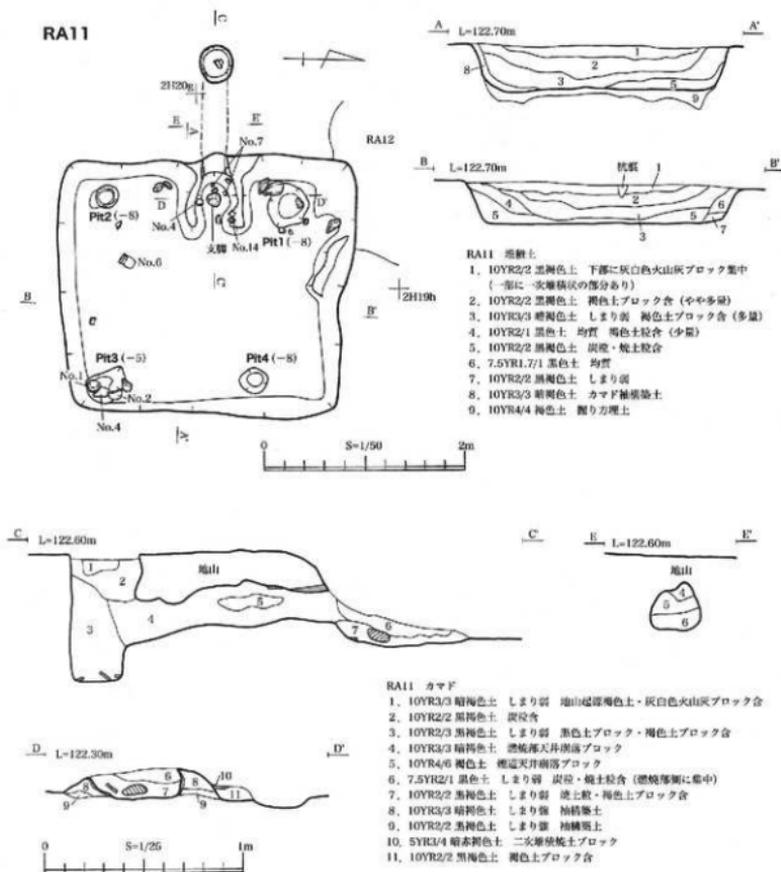
小結 本住居跡は4基の主柱穴、3基のカマドを持つ大型の焼失住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況から見て3号カマド→1・2号カマドへの作り替えが想定される。1・2号カマド相互の関係は不明だが、

Pit 7が2号カマドに伴う貯蔵穴とすれば2号カマド→1号カマドという新旧関係の可能性がある。床面の4基の柱穴は最終段階のものと思われるが、壁面に位置する柱穴を含めた別の配置も存在していたと考えられる。時期は埋土中に火山灰が含まれない点、床面出土土器から10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

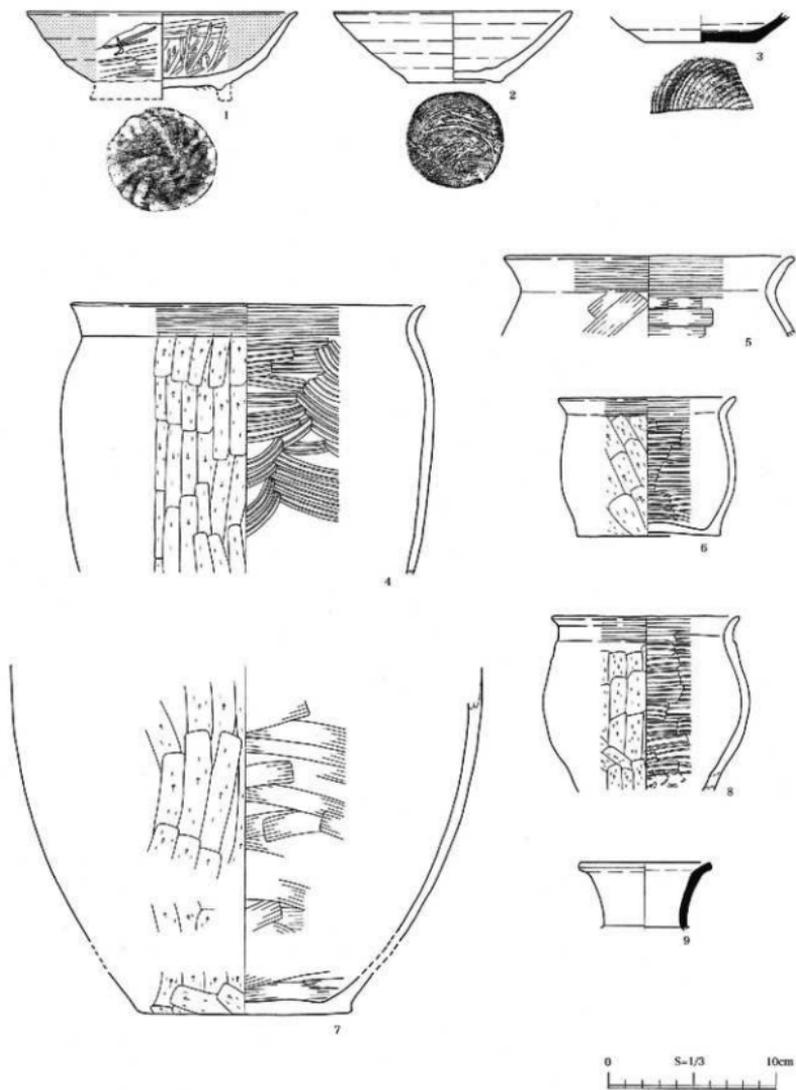
## RA 11住居跡

遺構 (第54図 写真図版17)

[位置] 第4次調査区中央部の2H20gグリッド付近に位置し、西側のRA15住居跡とは2mの間隔がある。北側でRA12住居跡を切る。検出面はⅢ層上面である。



第54図 RA 11住居跡



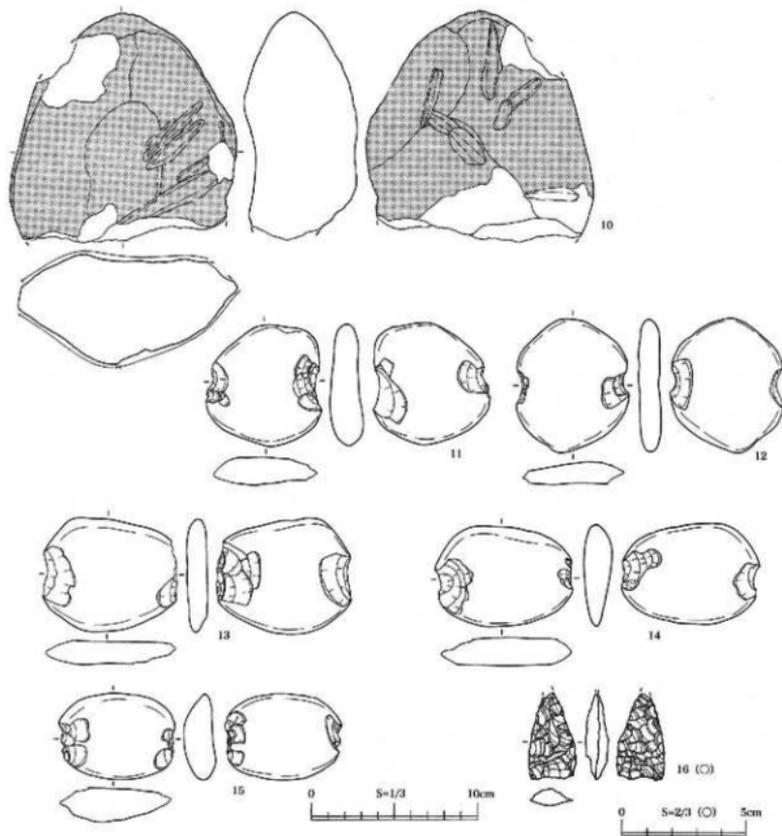
第55図 RA11住居跡出土遺物(1)

〔平面形・規模〕 平面形は南北にやや長い長方形で北西コーナー側が若干張り出す。規模は北壁2.6m、東壁2.7m、南壁2.5m、西壁2.9m。主軸方向はN S。

〔堆積土〕 上位から灰白色火山灰を含む1層黒褐色土、褐色土ブロックを多量に含む2・3層黒褐色～暗褐色土、均質な4層黒色土、炭粒、焼土粒を含む5層黒褐色土に分層した。北壁際では壁面に沿って6・7層があり床面直上の5層に切られる状態となっている。1層の火山灰は一部に粗粒の一次堆積と見られる部分がある。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均45cmの残存。北壁の中央付近は段差が生じている。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 西壁中央に設置される。煙道方位はN-89°-W。軸は暗褐色のシルト積み上げで平行して伸



第56図 RA11住居跡出土遺物(2)

びる。燃焼部底面の焼成は弱く変色が進んでいないため焼成範囲は明らかでない。奥側には破損した粗砥石が支脚として埋め込まれている。煙道は全長115cmでやや下降しながら先端の径40cm 深さ65cmの煙出し孔へ列り貫かれる。煙出し孔底面は煙道から20cmほど深く掘り込まれており段差が生じている。また煙出し孔最上部には灰白色火山灰ブロックが含まれる。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド右側にPit 1、カマド左側住居南西隅にPit 2、東壁際にPit 3・4がある。いずれも浅く小規模なものだが、カマドに近接するPit 1は貯蔵穴と考えられる。Pit 2は二次堆積の焼土ブロックで埋没している。

(高木)

遺物 (第55・56図 写真図版84)

〔遺物出土状況〕 カマド周辺とPit 3に多い。Pit 3では略完形の土師器環が2点出土している。重複するRA12堆積土との接合関係も見られる。

〔土器〕 総数12点出土している。内訳は土師器環1点、土師器高台付環1点、須恵器環1点、土師器甕7点、須恵器甕2点である。うち9点を掲載した。

口縁部形態は土師器環がb類である。1の高台付環は内外面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。高台は指オサエによって接合されている。土師器甕は5以外外面ヘラケズリで調整されている。

(八木)

〔石器〕 カマド支脚に10の荒砥石破損品が転用されている。カマド周辺、および堆積土中からは石錘が5点出土している。偏平磯の2端に敲打剥離で快部を作り出しているものである。16の石礫は堆積土中からの出土で混入と思われる。

小結 木住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。遺物では石錘5点の出土が目立つ。

(高木)

## RA12住居跡

遺構 (第57図 写真図版17)

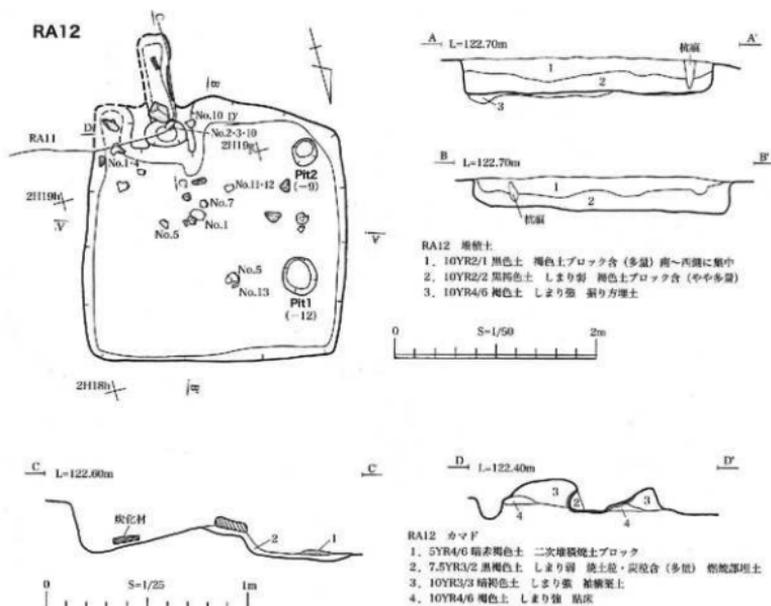
〔位置〕 第4次調査区中央部の2H119gグリッド付近に位置し、西側のRA15住居跡とは1mの間隔がある。カマドを含めた南東コーナー部分がRA11住居跡に切られる。検出面はⅢ層上向である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北壁2.5m、東壁2.6m、南壁2.5m、西壁2.5m。主軸方向はN-15°-E。

〔堆積土〕 上半の1層黒色土、下半の2層黒褐色土に分層した。全体に褐色土ブロックが多量に含まれ、特に上部の南西側に顕著である。隣接するRA11・RA15住居跡構築で生じた排土を埋め戻した状況が考えられる。

〔壁・床面〕 4辺ともほぼ垂直に立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平出である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 南壁左寄りに設置される。煙道方位はN-171° W。燃焼部中央付近から南側をRA11住居跡に切られており、煙道下部、袖基部分が残存している。袖は暗褐色のシルト積み上げで平行して伸びる。燃焼部底面から側壁にかけて焼成面が形成されるが、熱変色は顕著ではなく範囲は明らかでない。燃焼部奥側には礫が残留されており支脚の可能性がある。煙道は全長80cmで下降しながら先端の煙出し孔へ連なる。上半部分が完全に削平されているため天井の有無は不明である。



第57図 RA12住居跡

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 北西部にPit 1、南西コーナーにPit 2がある。両者とも浅い円形の土坑で、黒褐色土で埋没している。

(高木)

遺物 (第58図 写真図版85)

〔遺物出土状況〕 遺物はカマド周辺、床面に多く認められる。

〔土器〕 総数で14点出土している。内訳は土師器杯6点、土師器高台付杯1点、須恵器杯2点、須恵器壺2点、土師器甕3点である。うち12点掲載している。

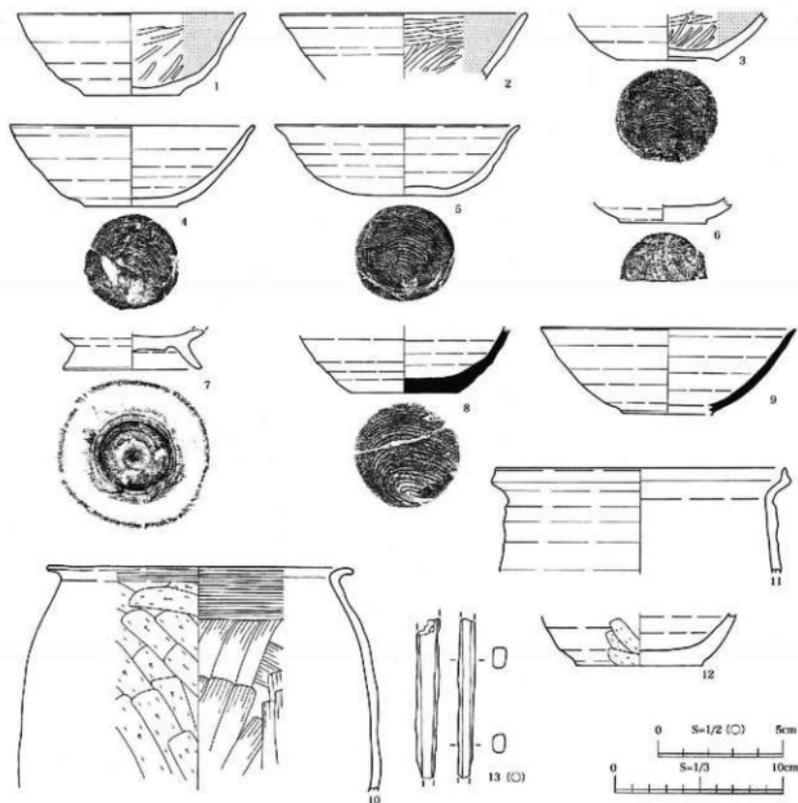
口縁部形態は、土師器杯・須恵器杯のうち、4・5・9がa類、1・2がb類である。1～3の土師器杯は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。土師器高台付杯7は高台接合後もロクロナデによって調整されている。

(八木)

〔鉄器〕 床面出土の13は断面方形の棒状製品で両端を欠損するが釘と思われる。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期はRA11住居跡により切られており、埋土中に火山灰を含まない点、床面出土土器から9世紀後半の年代が想定される。

(高木)



第58図 RA 12住居跡出土遺物

### RA 13住居跡

遺構 (第59図 写真図版18)

〔位置〕 第4次調査区中央部北側の2 H14g グリッド付近に位置し、西側のRA14住居跡とは2mの間隔がある。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は方形で、規模は北壁2.5m、東壁2.6m、南壁2.3m、西壁2.5m。主軸方向はN-08°-E。

〔堆積土〕 褐色土ブロックを含む黒色土の堆積で、上半1層に褐色土ブロックが多量に含まれる。

〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均25cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 東壁左寄りに設置される。煙道方位はN-87°-E。袖にはふい貴褐色のシルト積み上げで、

内部に芯材として土器片、礫が埋め込まれている。燃焼部底面は焼成範囲が明確でない。煙道は全長115cmで下降しながら先端の径30cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙道埋土には全体に焼土粒が含まれる。

〔柱穴〕 なし。

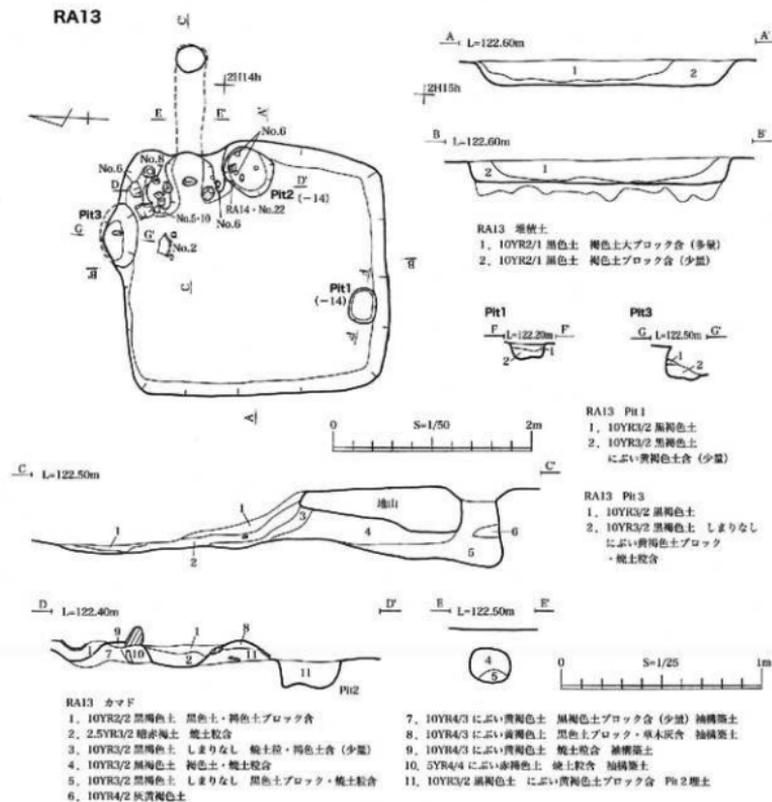
〔土坑〕 南壁際にPit1、東壁カマド右にPit2、北壁に横穴状土坑のPit3がある。Pit2はカマド袖に隣接した円形の土坑で貯蔵穴と考えられる。Pit3は壁面を抉り込んで掘られており焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。 (高木)

遺物 (第60図 写真図版85)

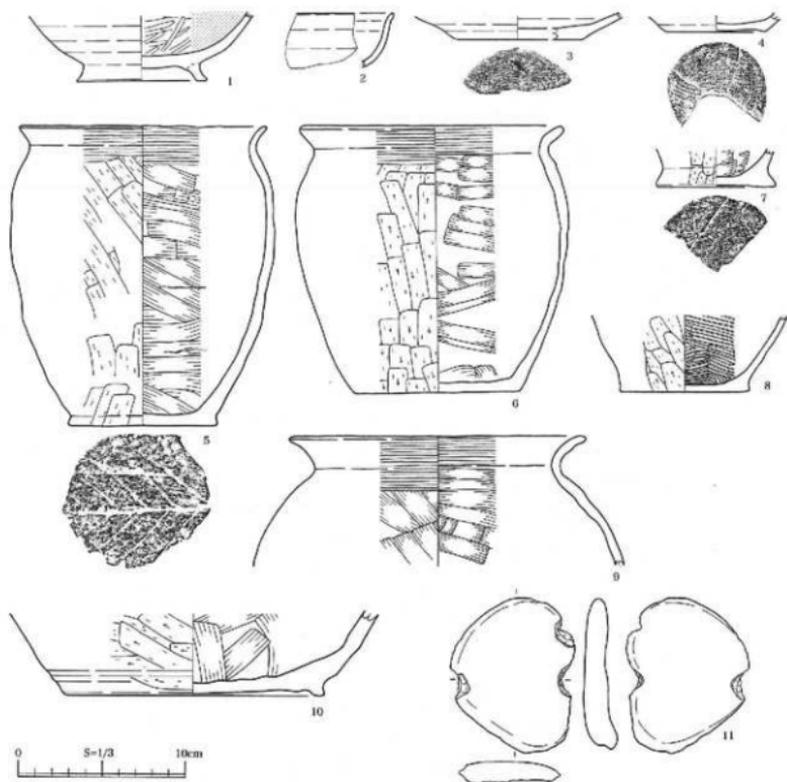
〔遺物出土状況〕

カマド周辺および隣接するPit2付近に集中する。

〔土器〕 総数10点出土している。内訳は土師器坏3点、土師器高台付坏1点、土師器甕5点、あかやき壺



第59図 RA13住居跡



第60図 RA13住居跡出土遺物

1点である。うち10点を掲載している。

口縁部形態は2が1類である。1の土師器高台付坏高台が指オサエによって調整され、内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。1・3は胎土に金雲母が含まれる。あかやき壺の10の高台部分はナデによって接合し、底面はヘラケズリで調整されている。 (八木)

〔石器〕 地横土から石鏝が1点出土している。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は埋土に火山灰を含まない点、床面出土土器から9世紀後半の年代が想定される。 (高木)

## RA14住居跡

遺構 (第61・62図 写真図版19)

[位置] 第4次調査区中央部北側の2H13dグリッド付近に位置し、東側のRA13住居跡からは2mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

[平面形・規模] 平面形はやや南北に長い長方形で、規模は北壁3.7m、東壁4.3m、南壁3.7m、西壁4.1m。主軸方向はNSである。

[堆積土] 1～7層に分層した。主体となるのは上部の灰白色火山灰ブロックが含まれる2層黒色土、中位の褐色土ブロックを多量に含む3層黒褐色土、床面上位の焼土粒、炭化物を含む6層黒色土である。東西壁際では壁面に沿って火雑物を含まない7層黒色土が立ち上がる。3層に含まれる褐色土ブロックは東側に集中する傾向が指摘できる。

[壁・床面] 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進む。また東壁中央のカマド南側にPit 8に伴い張り出す部分がある。

[カマド] 東壁左寄りに設置される。煙道方位はN-90°-E。袖は黒褐色、褐色のシルト積み上げで中央に向かってやや開き気味に伸び、燃焼部底面に50×40cmの範囲の焼成面が形成される。燃焼部中央には径10cmほどの垂円礫が埋め込まれ、その上に土師器甕下半を倒立状態で被せて支脚としている。焼成面上面には土師器甕1個体分の破片が敷き詰められている。土器片は互いに重ならないようにほぼ外面側を上にして隙間無く並べられており、上面、下面とも二次焼成の痕跡は顕著ではなく、カマド機能停止後に敷かれたものと判断される。また出土状態での口縁部方向が揃っていない点、復元した時に接する破片が食い違う点から、他所で破砕した土器片を移動した可能性が高い。煙道は全長135cmで下降しながら先端の径35cm深さ60cmの煙出し孔へ傾り貫かれる。煙道天井の崩落は手前側で顕著である。また煙出し孔には須恵器片が投げ込まれている。

[柱穴] 床面に比較的多数の土坑が開口しているが、柱穴と判断されるものは含まれていない。

[土坑] カマド右側の東壁中央にPit 8・11、その南寄りにPit 6・7、南壁際にPit 5・10、南西コーナーにPit 3、西壁際にPit 1・2・9、床面中央にPit 4を検出した。規模は径80～50cm程度、深さは40～20cm程度でPit 4・6・8・10には焼土粒が含まれている。Pit 9は南壁面を抉り込んで掘られた横六状土坑で、また周溝に切られる。いずれも貯蔵穴としての機能を備えたものとしても差し支えないと思われるが、周溝との切り合い関係を持つ土坑の存在から複数の時期にわたる土坑群である可能性が高い。

[周溝] 北壁、西壁、南壁際に連続して掘られる。幅20～15cm程、深さ10～5cm程で黒色土が堆積する。壁材の痕跡は見られない。(高木)

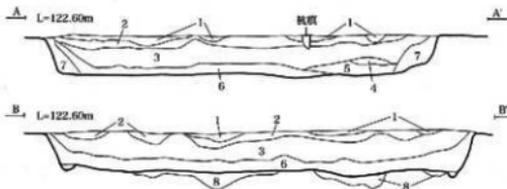
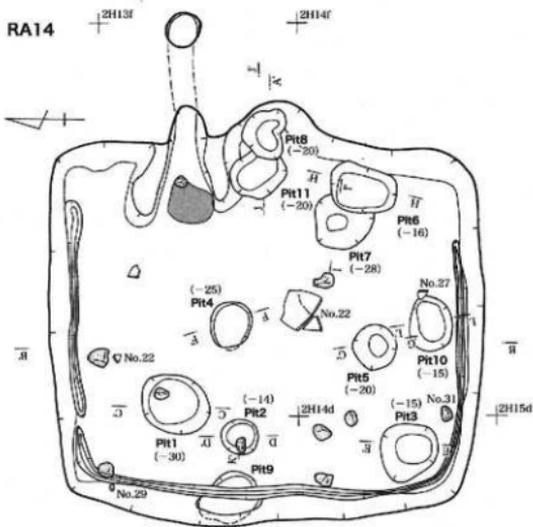
遺物 (第63～65図 写真図版86・87)

[遺物出土状況] カマド燃焼部では焼成面上面に土師器甕13が敷き詰められた状態で出土し、支脚には土師器甕18下半部が使用されている。カマド脇のPit 8・11、中央部のPit 1・3・4等からも土器類大破片の出土が目立つ。また、自然礫が西半床面に散在する。遺構間接合では須恵器甕26がRD32と接合している。

[土器] 総数で32点出土している。内訳は土師器環9点、須恵器環3点、土師器甕12点、あかやき壺1点、須恵器壺3点、須恵器甕3点である。

口縁部形態は5・6がa類、1・4・7・10・12がb類である。土師器環1～3は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施され、胎土に金雲母が含まれている。9の胴部下半部に線刻が施されている。(八木)

RA14



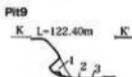
RA14 堀横上

1. 10YR2/1 黒色土 均質
2. 10YR8/2 灰白色火山灰ブロックと10YR2/1 黒色土の混在
3. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (栗葉に集中)
4. 10YR4/4 褐色土 大ブロック
5. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒含
6. 10YR2/1 黒色土 焼土粒・炭粒含
7. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 鉄線物なし



RA14 Pit 7

1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量帯状)
2. 10YR2/2 黒褐色土



RA14 Pit 9

1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
2. 10YR3/2 黒褐色土 栗葉混上
3. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
4. 10YR4/6 褐色土



RA14 Pit 1

1. 10YR3/2 黒褐色土
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



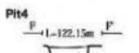
RA14 Pit 2

1. 10YR3/2 黒褐色土 にぶい黄褐色土ブロック含



RA14 Pit 3

1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土・にぶい黄褐色土ブロック含



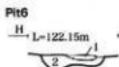
RA14 Pit 4

1. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒・褐色土ブロック含



RA14 Pit 5

1. 10YR3/3 暗褐色土 しまりなし にぶい赤褐色土ブロック含



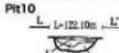
RA14 Pit 6

1. 10YR3/2 黒褐色土 しまりなし 炭粒・焼土粒含
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまりなし 褐色土ブロック含 (やや多量)



RA14 Pit 8

1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
2. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含
3. 10YR3/2 黒褐色土 炭粒・焼土粒含
4. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含

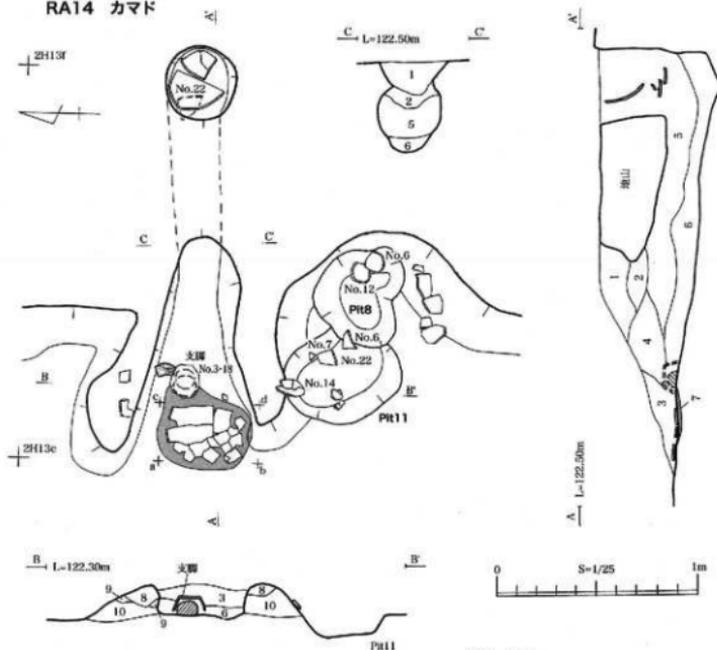


RA14 Pit 10

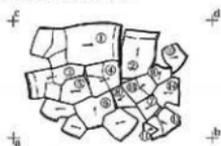
1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
2. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼土粒含
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)

第61図 RA14住居跡(1)

RA14 カマド

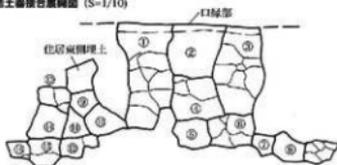


カマド遺構部土器片敷 (S=2/25)



丸数字は鏡片ブロック  
矢印は口縁部方向  
土器片は全て外縁上位

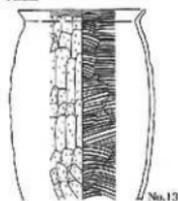
敷土器片接合展開図 (S=1/10)



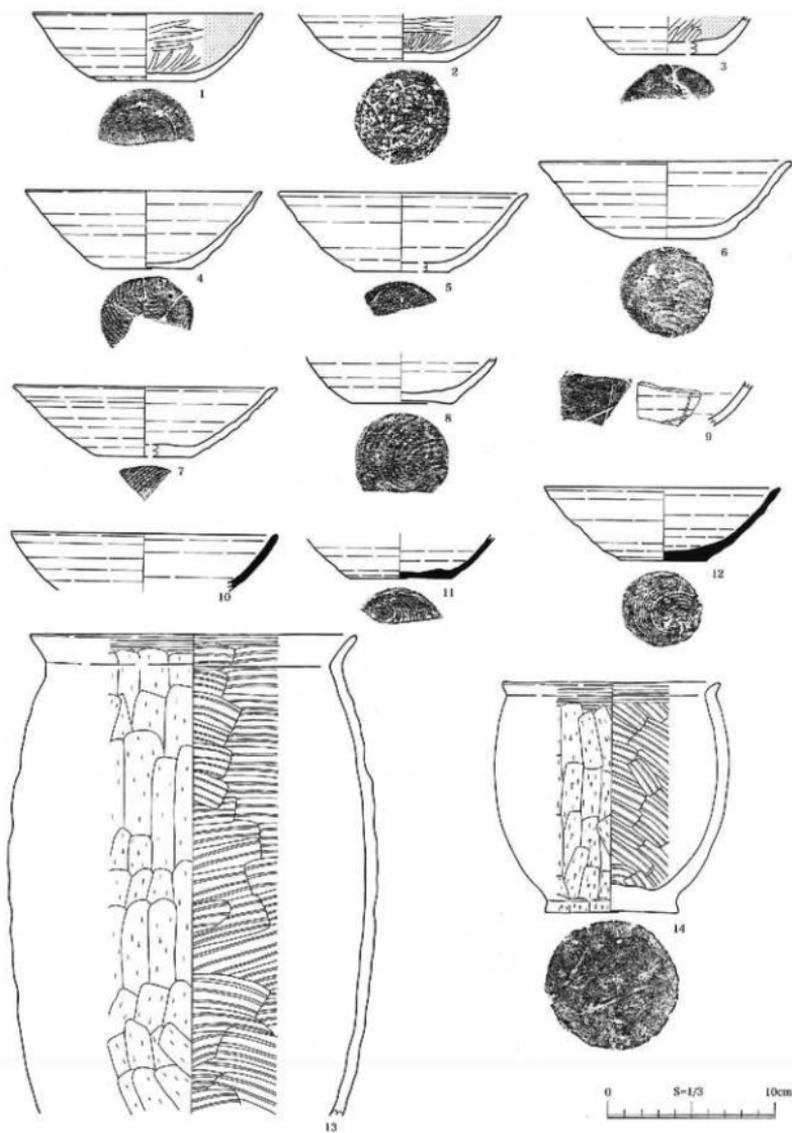
RA14 カマド

1. 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土敷合
2. 10YR3/2 黒褐色土
3. 10YR3/2 黒褐色土 焼土敷合
4. 10YR4/3 にぶ・黄褐色土 天井部崩落ブロック
5. 10YR3/2 黒褐色土 暗褐色土敷合
6. 10YR2/2 黒褐色土 しまり質 黒色土ブロック含
7. 5YR3/4 暗赤褐色土 窓縁部敷土
8. 10YR4/4 黄褐色土 しまり質 袖筒部土
9. 10YR4/3 にぶ・黄褐色土
10. 10YR3/2 黒褐色土 しまり質 袖筒部土

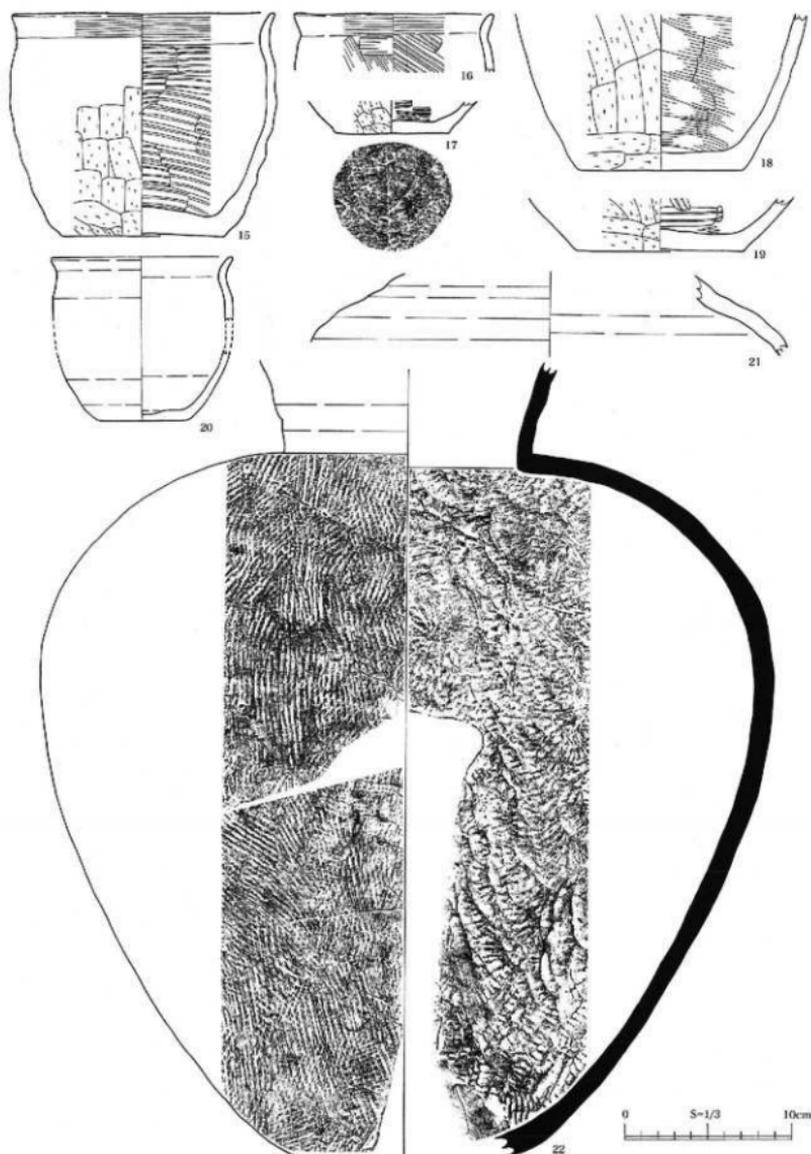
実測図



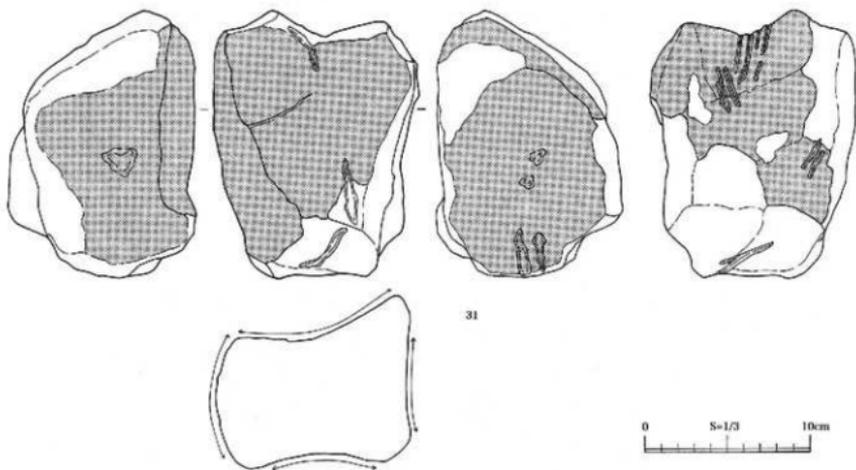
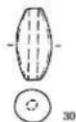
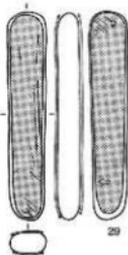
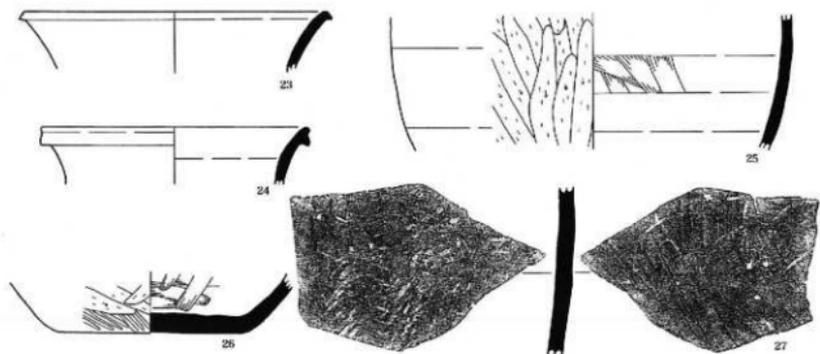
第62図 RA14住居跡(2)



第63圖 RA 14住居跡出土遺物 (1)



第64圖 RA 14住居跡出土遺物 (2)



第65圖 RA14住居跡出土遺物(3)

[石器] 28・31の砥石、29の棒状石製品が出土している。28は凝灰岩使用の仕上げ砥石で全面使用されている。29は扁平棒状の両面に顕著な研磨痕を持つもので砥石に類するものかも知れない。31は玄武岩質溶岩使用の荒砥石である。

[土製品] 30の土鉢が出土している。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマド燃焼部にはRA01住居跡(1期)3号カマドと同様にカマド機能停止後の土器片敷き詰めが見られる。これもカマド廃絶に伴う祭祀行為の痕跡ではないかと思われる。床面には多数の土坑が開口しているが複数の段階にわたっている可能性が高い。時期は埋土上部の灰白色火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

### RA15住居跡

遺構(第66～68図 写真版20)

[位置] 第4次調査区西側の2H20dグリッド付近に位置し、東側のRA12住居跡からは1mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

[平面形・規模] 形状は若干南北に長い長方形で、規模は北壁4.8m、東壁5.2m、南壁4.4m、西壁5.0m。主軸方向はN-15°-E。

[堆積土] 基本的には上部の灰白色火山灰を含む2層黒色土、下部の褐色土ブロックを含む3層黒褐色土、喫煙床面直上に見られる褐色土ブロックを多量を含む4層暗褐色土に分層される。北半では広範囲に二次堆積の焼上ブロックが広がり(5層暗赤褐色土)、床面との隙間に6層黒褐色土が挟まる。焼上ブロックの上位には炭化材が散在する。

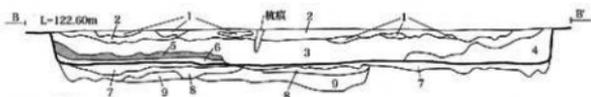
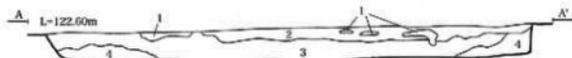
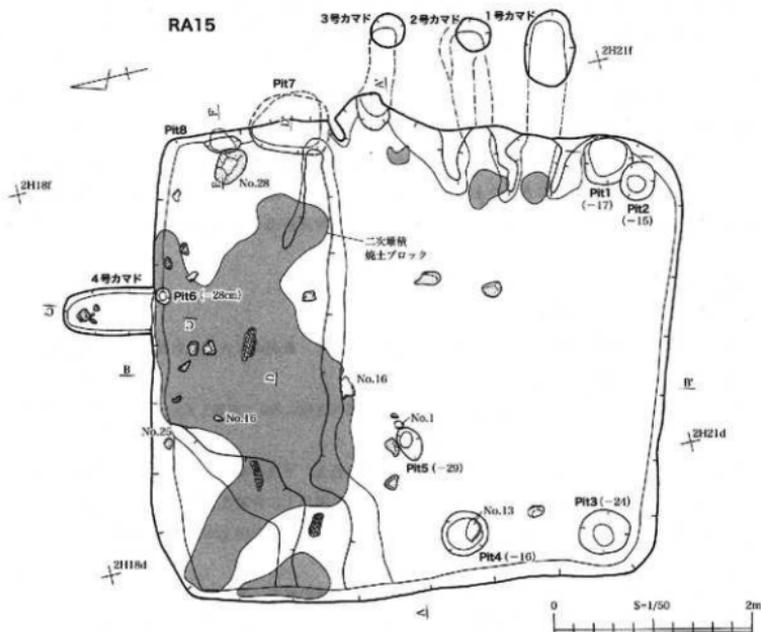
[壁・床面] 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均35cmの残存。北側3/5程は掘り方が一段低く掘り込まれ掘り方土の上に褐色土による貼床が広がる。部分的には黒色土と黄褐色土とが互層をなすように貼床が構築され(D-D'断面)、上面の硬化は顕著である。また北側2/5程は比高差3～5cm程度の段差を持って床面がテラス状に高まる。

[カマド] 1～3号カマド(東壁)、4号カマド(北壁)の4基を検出した。

1号カマドは東壁の右端に設置される。煙道方位はN-110°-E。袖はふい黄褐色シルト積み上げで平行して伸びる。左側の袖は隣接する2号カマド右袖と重複しており、基部側内部には芯材として設置されたと見られる華円礫が残る。燃焼部底面には径35cmの焼成面が形成されている。支脚は残存しない。煙道は全長130cmでほぼ水平に伸び、先端の径50cm深さ40cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道天井の崩落は顕著で煙出し孔の径は本来の大きさより広がっているものと思われる。煙道中間付近からは天井崩落に伴って落ち込んだと見られる礫が出土する。煙出し孔下部からは礫に載せた状態で須恵器上半が出土している。二次被熱等は見られずカマド廃棄時点で煙出し孔に入れられたものと考えられる。

2号カマドは1号カマドに隣接して東壁右寄りに設置される。煙道方位はN-98°-E。燃焼部の残存状況は比較的良好で、径20～30cm大の礫を芯材とし、褐色土、暗褐色土を貼り付けた袖が伸びる。右側の袖は1号カマド左袖と重複するが、作り替えの痕跡や新旧関係を判断する根拠は明らかにできなかった。燃焼部底面には径40cmの焼成面が形成され焼土上面、及び燃焼部周辺に礫、土器片が集中する。焼成面裏側から出土した径30cm大の礫は天井石が落下したものと思われる。煙道は全長115cmで、南寄りが段々浅くなるように掘り込まれ、底面は下降しながら先端の径35cm深さ50cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道天井は

RA15



RA15 埋藏土

1. 7.5YR2/1 黒色土 灰白色水山灰ブロック集巾部分
2. 7.5YR2/1 黒色土 均質
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含(少量)
4. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック集巾(多数) 焼土粒含
5. 2.5YR3/6 暗赤褐色土 二次焼成焼土ブロック
6. 7.5YR2/2 黒褐色土
7. 10YR4/4 褐色土 しまり強 筋灰
8. 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱
9. 10YR4/6 褐色土 しまり強

結核断面



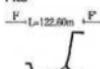
RA15 結核断面

- ① 黄褐色土 しまり強
- ② 黒色土
- ③ 黄褐色土
- ④ 黒色土
- ⑤ 黄褐色土
- ⑥ 黒色土
- ⑦ 黄褐色土

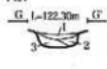
Pit 7



Pit 8



Pit 1



RA15 Pit 1

1. 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱 位取層上下層と同相
2. 10YR4/6 褐色土 しまり弱 焼土粒含 埋の戻し土
3. 7.5YR4/4 褐色土 しまり弱 焼土粒含中 埋の戻し土

RA15 Pit 7

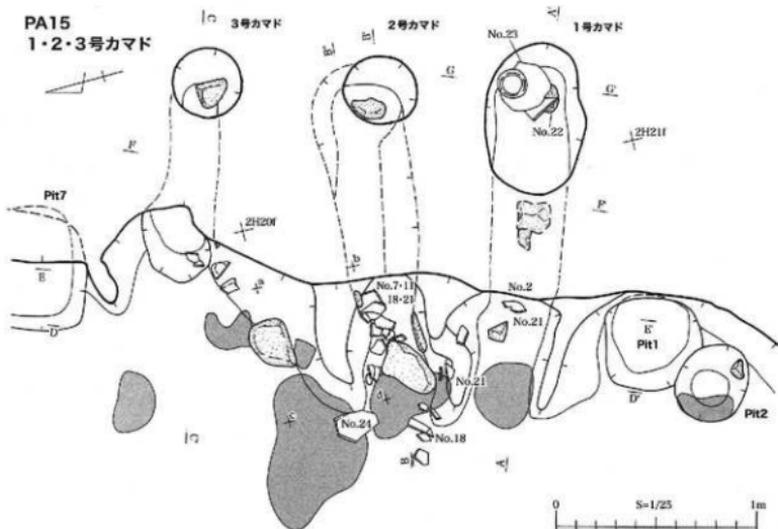
1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 褐色土ブロック・焼土・炭粒含
2. 10YR3/3 暗褐色土 埴山天井部陥落ブロック

RA15 Pit 8

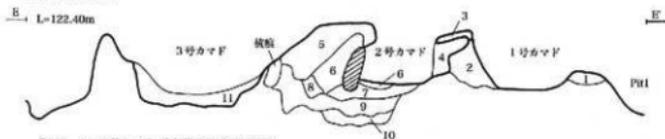
1. 5YR3/4 暗赤褐色土 しまり弱 焼土粒含

第66図 RA15住居跡(1)

PA15  
1・2・3号カマド



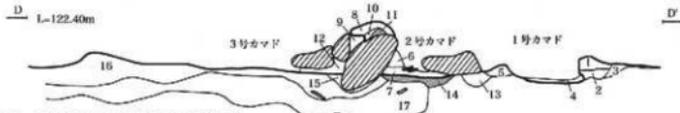
燃焼部奥側横断面



RA15 1～3号カマド 奥側横断面 (B-B' 断面)

- |                                 |                                      |
|---------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒含            | 7. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 燃焼部下掘り方埋土       |
| 2. 10YR3/4 暗褐色土 しまり強 2号カマド基礎築土  | 8. 5YR4/6 赤褐色土 焼土ブロック (天井掘削部)        |
| 3. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強            | 9. 10YR4/6 褐色土 均質 粘床                 |
| 4. 5YR3/4 暗赤褐色土 しまり強            | 10. 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱 焼土ブロック含        |
| 5. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 焼土粒・暗褐色土粒含 | 11. 10YR3/4 暗褐色土 焼土粒・褐色土粒含 3号カマド埋土埋土 |
| 6. 10YR4/4 褐色土 しまり強 2号カマド基礎築土   |                                      |

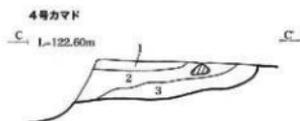
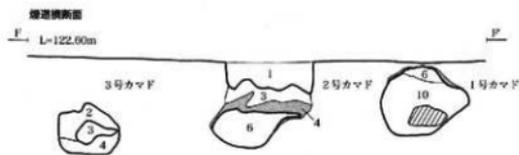
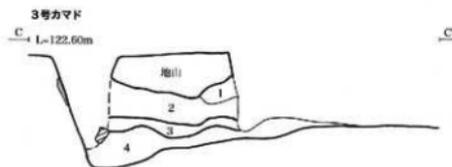
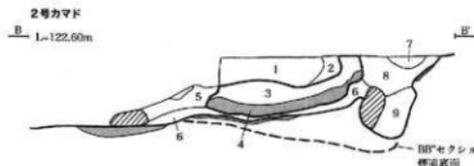
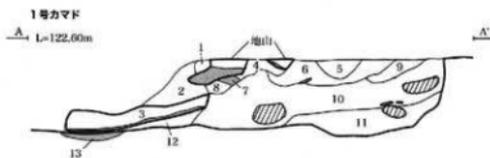
燃焼部手前側横断面



RA15 1～3号カマド 燃焼部手前側横断面 (D-D' 断面)

- |   |  |
|---|--|
| 1. 10YR4/3 に近い褐色土 しまり強 1号カマド基礎築土        | 10. 10YR4/4 褐色土 しまり強 粘床築土                |
| 2. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼土粒・炭粒含                 | 11. 5YR3/6 暗赤褐色土 燧石埋込部                   |
| 3. 10YR3/3 暗褐色土 しまり強 粘床                 | 12. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり弱 焼土粒埋込部 3号カマド燃焼部埋土 |
| 4. 10YR2/1 褐色土 炭屑中 1号カマド燃焼部埋土           | 13. 10YR4/4 褐色土 しまり弱 剛板取り痕               |
| 5. 10YR4/4 褐色土 しまり強 1・2号カマド基礎築土         | 14. 5YR4/6 赤褐色土 2号カマド燃焼部埋土               |
| 6. 10YR4/4 褐色土 焼土粒含 2号カマド燃焼部埋土          | 15. 10YR3/4 暗褐色土 しまり弱 薪心材埋込方埋土           |
| 7. 5YR3/4 暗赤褐色土 しまり強 焼土粒埋込部 2号カマド燃焼部埋土  | 16. 10YR4/4 褐色土 しまり強 粘床                  |
| 8. 7.5YR4/4 褐色土 しまり強 2号カマド基礎築土 3号カマド天井部 | 17. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり強 焼土粒・褐色土粒含         |
| 9. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 3号カマド燃焼部埋土         |  |

第67図 RA15住居跡 (2)

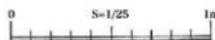
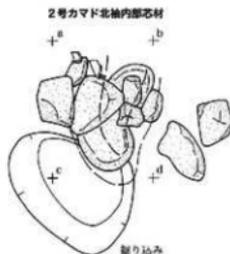


- RA15 4号カマド
1. 7.5YR2/1 黒色土 炭粉含
  2. 7.5YR2/1 黒色土 しまり腐 焼土粒含
  3. 10YR2/1 黒色土 しまり腐 焼土粒含

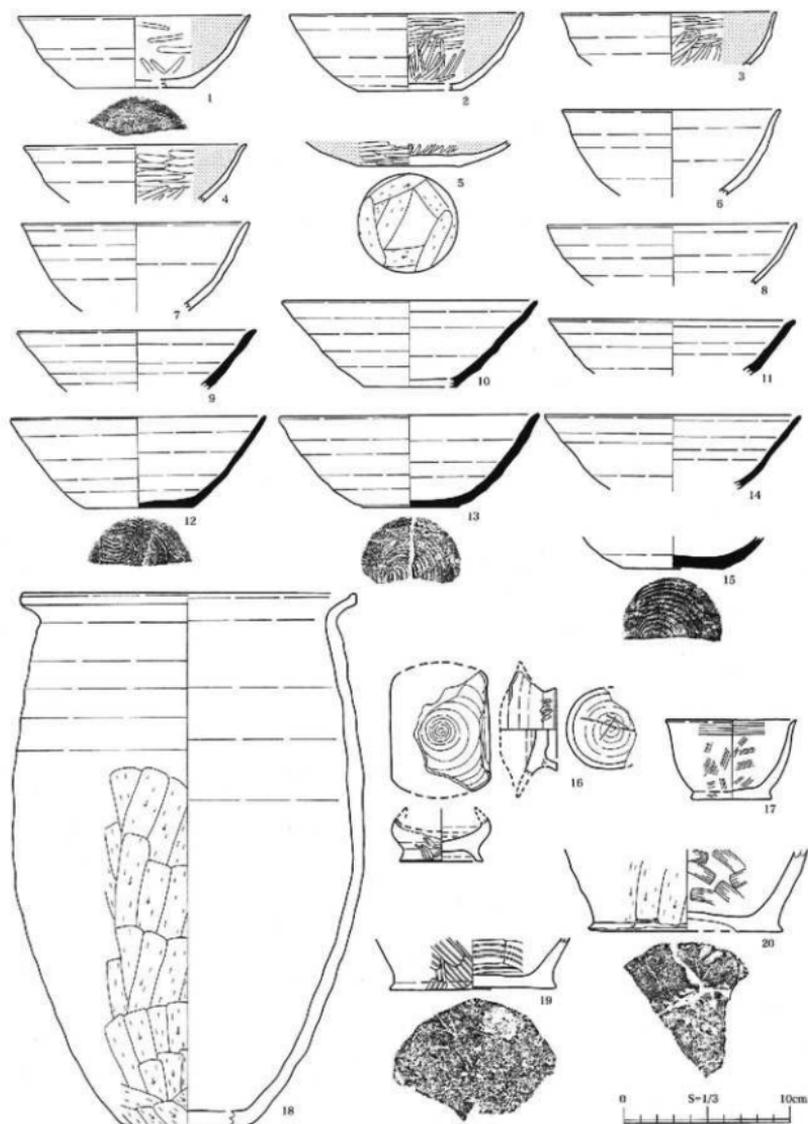
- RA15 1号カマド AA' 断面
1. 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土粒含
  2. 7.5YR2/1 黒色土 しまり腐 褐色土粒含  
天井幅状底の埋土
  3. 10YR4/6 褐色土 しまり腐 天井落部ブロック  
下面埋成
  4. 7.5YR2/1 黒色土 しまり腐 焼土粒含
  5. 7.5YR3/3 黒褐色土 しまり腐 焼土粒含
  6. 5YR2/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒含
  7. 5YR4/6 赤褐色土 天井埋成部分の埋成ブロック
  8. 7.5YR2/1 黒色土 しまり腐 焼土粒含
  9. 5YR3/4 暗赤褐色土 二次層灰土ブロック
  10. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒・炭粉含
  11. 5YR2/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒・炭粉含
  12. 5YR2/3 暗赤褐色土 しまりなし 焼土粒・炭粉含
  13. 5YR3/4 暗赤褐色土 色底埋成土
- 4~11層：埋成埋土 12層：煙道埋土

- RA15 2号カマド BB' 断面
1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・焼土粒含  
天井幅状部分埋土
  2. 7.5YR2/1 黒色土
  3. 10YR4/4 褐色土 天井落部ブロック
  4. 5YR4/6 赤褐色土 天井埋成部
  5. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒含(多量)
  6. 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒・炭粉含
  7. 5YR2/2 黒褐色土 焼土粒含
  8. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり腐 焼土粒・炭粉含
  9. 7.5YR2/3 暗褐色土 しまり腐 焼土粒含

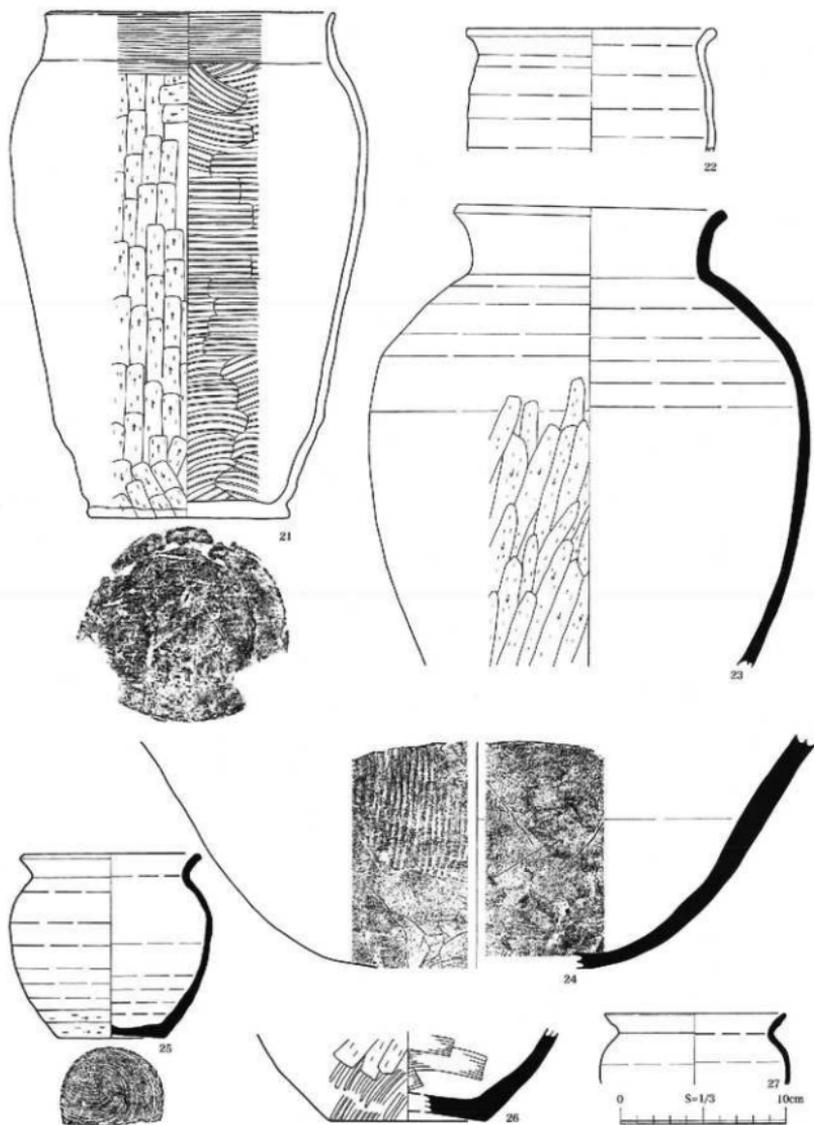
- RA15 3号カマド CC' 断面
1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含
  2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
  3. 10YR4/6 褐色土 天井落部ブロック
  4. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒含 埋成埋土



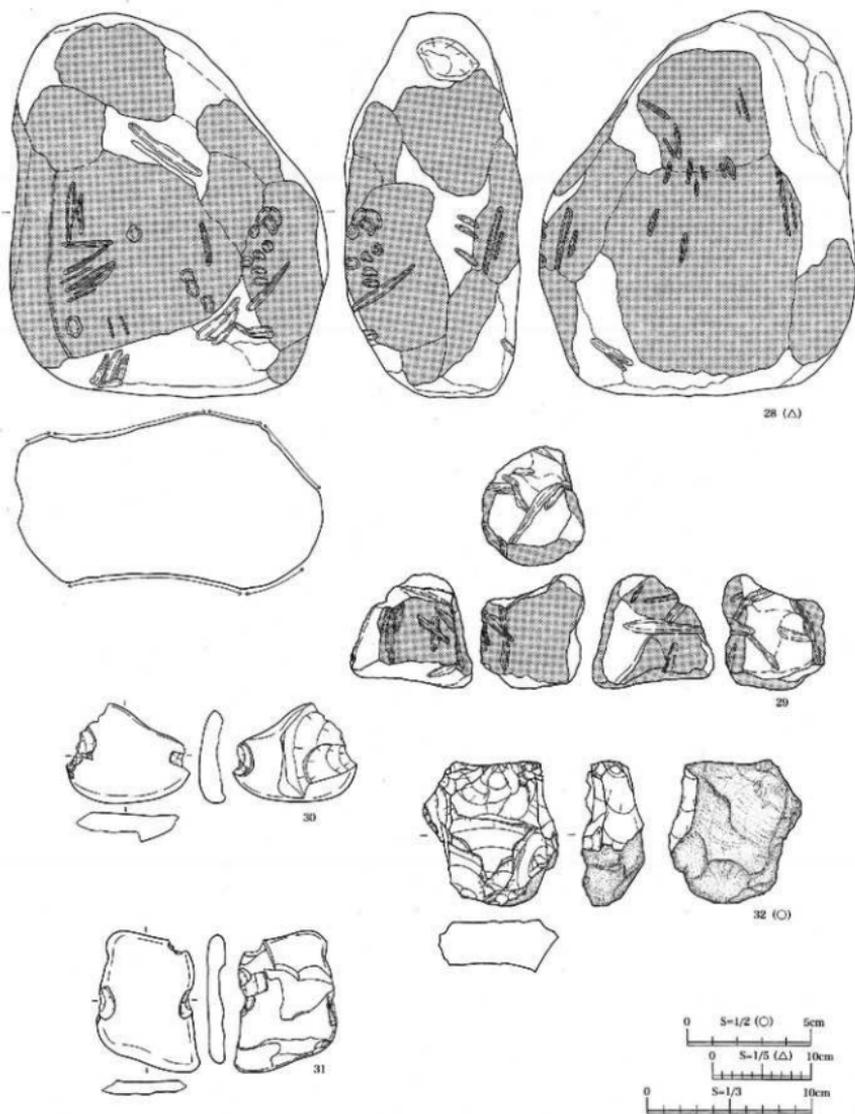
第68図 RA15住居跡(3)



第69圖 R A 15住居跡出土遺物 (1)



第70圖 RA 15住居跡出土遺物（2）



第71圖 RA 15住居跡出土遺物(3)

被熱による赤変が顕著で、また全体が崩落し陥没している。

3号カマドは2号カマドの北側、東壁左寄りに設置される。煙道方位はN-112° E。燃焼部の残存状況は悪く、袖は失われている。煙道の延長上にある焼成面が当該カマドの燃焼部である可能性を持つ。煙道は全長90cmで下降しながら先端の径35cm深さ55cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。天井は全体に崩落するが検出面での陥没は見られない。

4号カマドは北壁の中央からやや右寄りに設置される。煙道方位はN 13° - E。燃焼部は残存しておらず、溝状に掘り込まれた煙道のみの検出である。煙道は全長90cmで先端に向かって浅くなる。堆積土には炭化物、焼土粒が含まれるが、天井の有無を示す痕跡はなく本来的に掘り込み式であった可能性が高い。

〔柱穴〕 西壁寄り中央付近に位置するPit 5は30cm弱の深さとなり柱穴の可能性はあるが、対応する他の柱穴は見当たらず配置は不明である。

〔土坑〕 東壁際の1号カマド右にPit 1・2、同じく東壁際の3号カマド左にPit 7・8、西壁際にPit 3・4がある。Pit 1は下部に焼土粒が集中して含まれる。Pit 7・8は壁面を抉り込んで掘られた横穴状土坑である。両者とも堆積土に焼土粒を含む。これらはいずれも貯蔵穴的なものと考えられる。他に北壁際の4号カマド手前に小径のPit 6があるが、カマドに付随する施設かどうかは不明である。

〔円溝〕 なし。 (高木)

#### 遺物 (第69～71図 写真図版88・89)

〔遺物出土状況〕 土器類は東壁に並ぶ3基のカマド周辺に集中する。特に土師器・須恵器類では複数のカマド燃焼部にまたがって接合関係を持つもの、煙道、煙出し孔と接合関係を持つものが見られる。

〔土器〕 総数で31点が出土している。内訳は土師器壺8点、須恵器壺7点、土師器耳皿1点、土師器甕8点、須恵器壺3点、須恵器甕4点で、うち27点を掲載した。

口縁部形態は1・4・6・7・9・13・14がa類、2・3・8・10～12がb類である。底面調整は、1・12・13・15・25が回転系切り、5が手持ちヘラケズリ、19に砂底、20に木炭痕が認められる。

16の耳皿はハの字状の高台が付き、底部外面に線刻が施される。口縁部は一部しか残存しないため形状は推定である。 (高木)

〔石器〕 28・29の荒砥石、30・31の石錐、32の石核がある。28は北東隅のPit 8手前床面に置かれていた。両面に砥面が形成されている。32の貞岩製石核は両極打法が使用されており片面が自然面のままである。縄文時代遺物の混入と思われる。

小結 本住居跡は4基のカマドを持つ大型の焼失住居跡である。北側に床面が一段高いテラス状の部分がある。東壁に3基並列している1～3号カマド、及び北壁の4号カマドについては燃焼部の残存状況から3・4号カマド→1・2号カマドへの作り替えがなされたものと思われるが、1・2号カマドの新旧関係は不明である。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

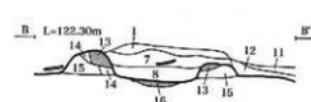
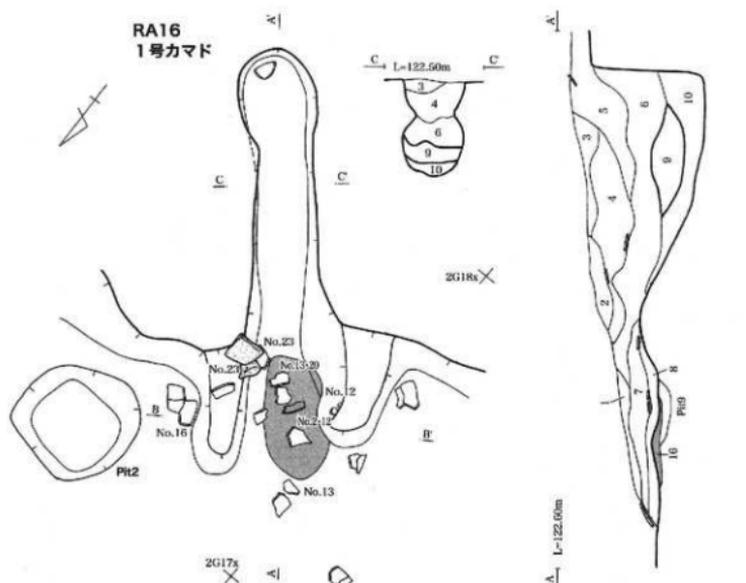
#### RA16住居跡

##### 遺構 (第72・73図 写真図版21)

〔位置〕 第4次調査区北西部の2G16xグリッド付近に位置し、南側のRA19住居跡から2m、西側のRA18住居跡から2mの間隔を置く。南コーナー付近でRD39土坑に切られる。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 形状は若干南側が開く歪な方形で、規模は北東壁4.1m、南東壁4.8m、南西壁3.8m、北



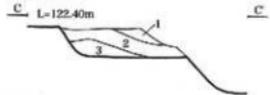


RA16 1号カマド

1. 10YR2/2 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・焼土粒含
3. 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
4. 10YR2/1 黒色土 焼土粒含
5. 7.5YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック層中
6. 7.5YR2/1 黒色土 しまり卵 砂質
7. 5YR3/4 暗赤褐色土 二次堆積焼土ブロックの層中
8. 10YR2/1 黒色土 焼土粒含

9. 10YR6/5 明黄褐色土 掘道天井の扉高ブロック
10. 10YR2/2 黒褐色土 しまり卵 粒土粒含
11. 5YR4/4 にぶい赤褐色土 二次堆積焼土ブロック
12. 10YR3/1 黒褐色土 粒土粒含
13. 5YR4/3 にぶい赤褐色土 袖筒部土 焼成受けの部分
14. 10YR2/1 黒色土 粒土粒含
15. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含
16. 5YR4/6 赤褐色土 焼成部焼土

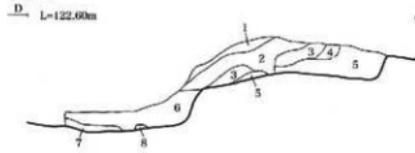
2号カマド



RA16 2号カマド

1. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒含
2. 5YR4/4 にぶい赤褐色土 二次堆積焼土 灰白色火山灰ブロック含
3. 10YR3/2 黒褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒含
4. 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒含
5. 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土ブロック・灰白色火山灰ブロック含

3号カマド



RA16 3号カマド

1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
2. 5YR4/6 黄褐色土 焼土粒含
3. 10YR5/6 黄褐色土 黒褐色土ブロック含
4. 10YR6/6 黄褐色土 黒褐色土・黒色土ブロック含
5. 10YR3/2 黒褐色土 炭粒含
6. 10YR2/3 黒褐色土
7. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含

第73図 RA16住居跡(2)

西壁3.9m。主軸方向はN-35°-W。

〔堆積上〕 上半の褐色土ブロックを含む1層黒色土と、下半の灰白色火山灰ブロックを含む2層黒色土に大別される。北東壁際、及び南東壁際では2層下位に粘土ブロックを含む3・4層黒褐色土、焼土と褐色土ブロックを互層状に複数枚合わせた状態の5層黒褐色土が見られる。4層上面には薄く二次堆積の焼土が広がる。また5層上面は堆積土としては硬化が顕著であるが、床面とは捉えられない。

〔壁・床面〕 北東壁・北西壁は急角度で立ち上がるのに対し、南東壁・南西壁は緩い傾斜の立ち上がりとなる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としておりほぼ平坦である。中央部を中心に床面の硬化が進んでいる。

〔カマド〕 南東壁で1号カマドを検出した。その他、東コーナー付近にカマド煙道状に伸びる浅い掘り込みを2ヶ所確認しており、カマドである確証はないが2号カマド(南東壁)、3号カマド(北東壁)として記載する。

1号カマドは南東壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-140°-E。袖は褐色土ブロックを含む黒色シルト積み上げて平行して伸びる。燃焼部底面には60×30cmの範囲で焼成面が形成されており、上面には土器片が散在する。燃焼部下位はPit 9とした門形の掘り込みがあり黒色土が堆積する。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径40cm深さ55cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道天井はほぼ全体が崩落、陥没しており、崩落後に堆積した上部の黒褐色土には灰白色火山灰が含まれる。

2号カマドは南東壁左端の住居東コーナーに近い位置に設置される。床面から25cm程高いレベルで全長80cmの煙道状の掘り込みが伸び、先端が右に屈曲する。方位はN-140°-E。焼土粒と灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色土が堆積する。燃焼部の痕跡は残存しない。

3号カマドは北東壁右寄りの住居東コーナーに近い位置に設置される。床面から30cm程高いレベルで全長90cmの煙道状の掘り込みが伸びる。方位はN-57°-E。焼土粒、黄褐色土ブロックが混在する黒褐色土が堆積する。こちらも燃焼部の痕跡は残存しない。

〔柱穴〕 北西壁側に径が小さいPit 6・7・8があるが、これらを柱穴とした場合には全体の配置が不明で、柱穴かどうかの判断も根拠を欠く。

〔土坑〕 西コーナーにPit 1、東コーナーから南東壁際にPit 2・3・4、南コーナーにPit 5がある。Pit 1は円筒形に掘り込まれ、黄褐色土で埋め戻された堆積状況である。Pit 2～5はいずれも浅い皿状の土坑で焼土粒が含まれる。これらはカマドに隣接する位置から見て貯蔵穴である可能性が高い。

〔厨溝〕 なし。

(高木)

遺物(第74・75図 写真図版90)

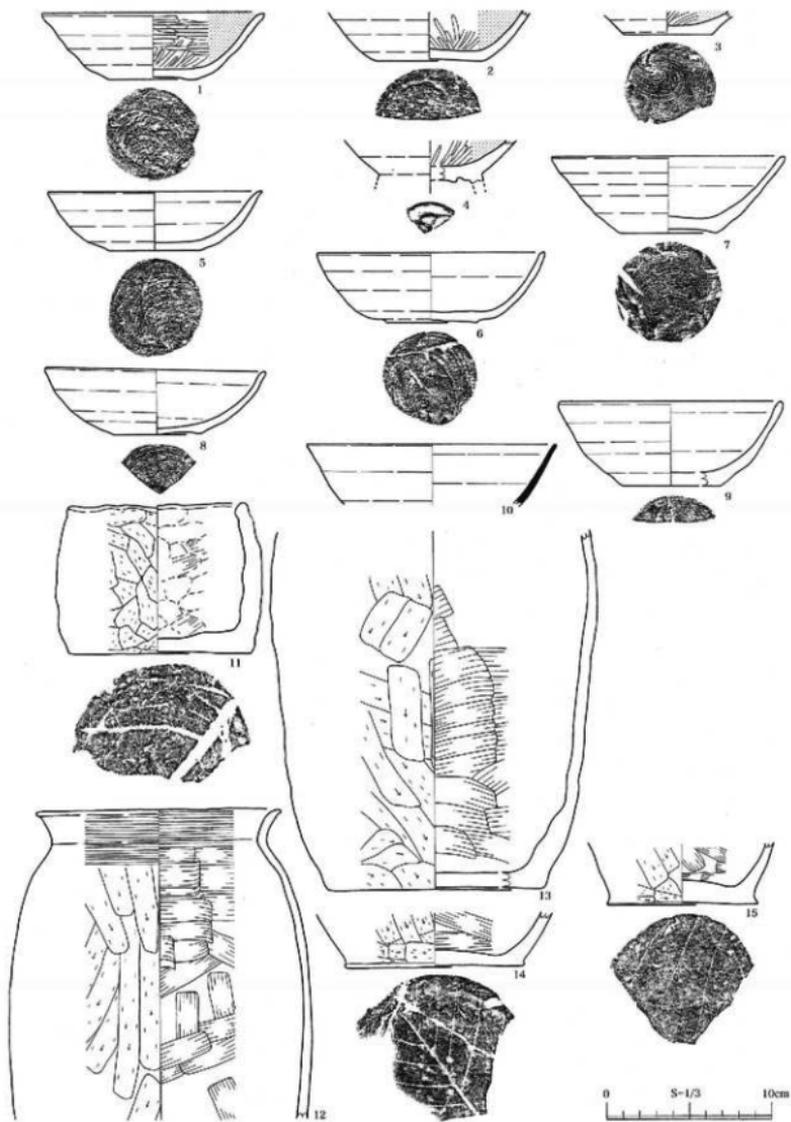
〔遺物出土状況〕 土器片は1号カマド周辺、2・3号カマド前床面に集中する。土坑ではPit 1・5・6に若干の出土がある。

〔土器〕 総数で24点出土している。内訳は土師器環8点、土師器高台付環1点、須恵器環1点、土師器壺9点、須恵器壺5点で、うち22点を掲載した。

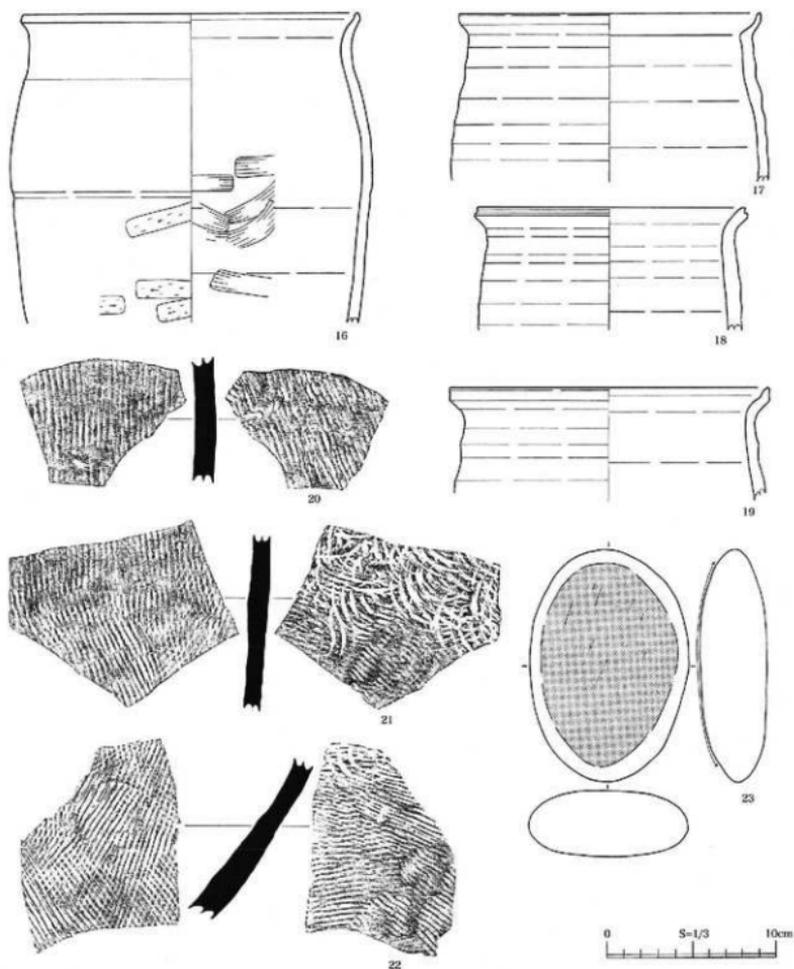
口縁部形態は土師器環1と須恵器環10がa類である以外は全てb類である。1～4は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。2・8は粘土に金雲母が含まれる。

底面調整は、環は全て回転糸切り、高台付環は指オサエ、土師器壺のうち11・14・15には木葉痕が認められる。

(八木)



第74図 RA 16住居跡出土遺物 (1)



第75図 RA 16住居跡出土遺物（2）

【石器】 23の磨石が1号カマド燃焼部から出土している。偏平な雑で片面のみ研磨痕が認められる。  
 小結 本住居跡は3基のカマドを持つ中型の住居跡である。堆積土下部に焼土層が見られることから焼失住居と考えられる。東コーナー付近に設置された2・3号カマドについては、煙道と思われる溝底面のレベルが住居床面よりかなり高くなることから、本住居跡に伴って設置されたものかどうか疑問が残る。時期は埋

土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。

(高木)

## RA17住居跡

遺構 (第76図 写真版22)

〔位置〕 第4次調査区南西部の3G2qグリッド付近に位置し、西側のRA33住居跡とは1mの間隔がある。検出面はⅢ層上面である。

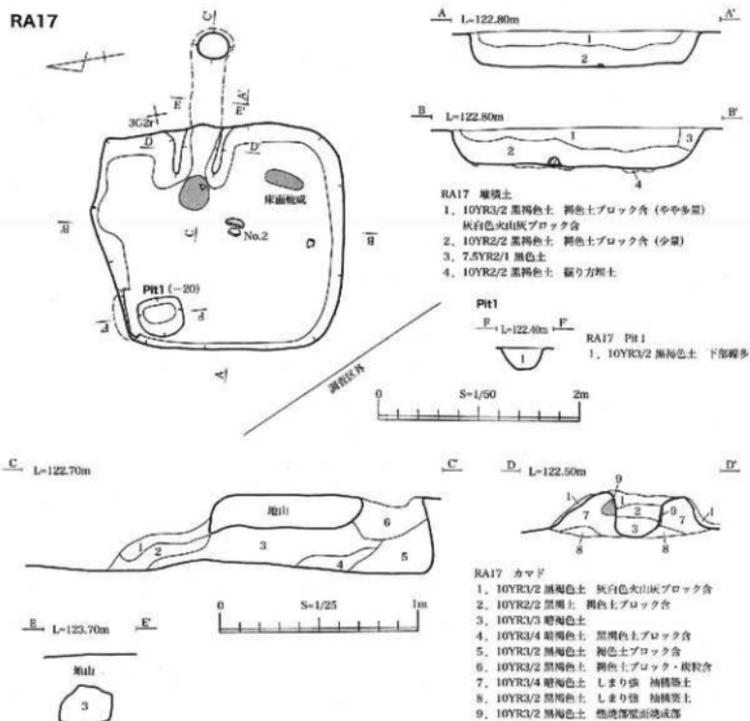
〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な隅丸方形で、規模は北壁2.1m、東壁2.3m、南壁2.3m、西壁2.0m。主軸方向はN-08°-E。

〔堆積土〕 褐色土ブロックを含む黒褐色土の堆積で、上半1層に褐色土ブロックが多量に含まれる。1層には灰白色火山灰ブロックも含まれる。

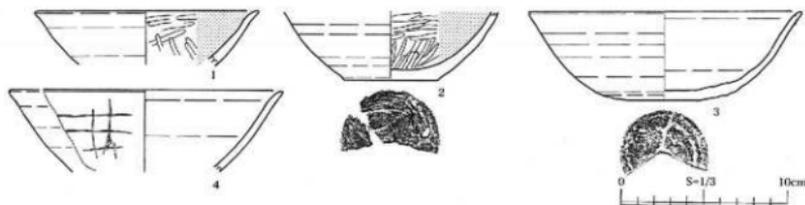
〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。北壁は中央付近がやや張り出す。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面の硬化はあまり顕著ではない。

〔カマド〕 東壁中央付近に設置される。煙道方位はN-107°-E。袖は暗褐色シルト積み上げて平行に

RA17



第76図 RA17住居跡



第77図 RA17住居跡出土遺物

伸びる。燃焼部底面には径35cm程の焼成面が形成される。燃焼部上部には灰白色火山灰ブロックが含まれる。煙道は全長100cmでわずかに下降しながら先端の径30cm深さ40cmの煙出し孔へ斜り貫かれる。煙出し孔は褐色土ブロックと炭化物を含む黒褐色土が堆積する。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 北西コーナーにPit 1がある。径50cm程で黒褐色土が堆積する。

(高木)

遺物 (第77図 写真図版91)

〔遺物出土状況〕 遺物量は少なく床面出土は2の土師器杯のみである。

〔土器〕 土師器杯が4点出土しており、うち4点を掲載した。

口縁部形態は3がa類で、1・4がb類である。1・2は内面へラミガキ後に黒色処理が施されている。

2・3の底面調整はヘラナデによる。4の胴部に線刻が施されている。

(八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。

(高木)

## RA 18住居跡

遺構 (第78・79図 写真図版23)

〔位置〕 第4次調査区北西部の2 G17uグリッド付近に位置し、南側でRA 22住居跡を切る。

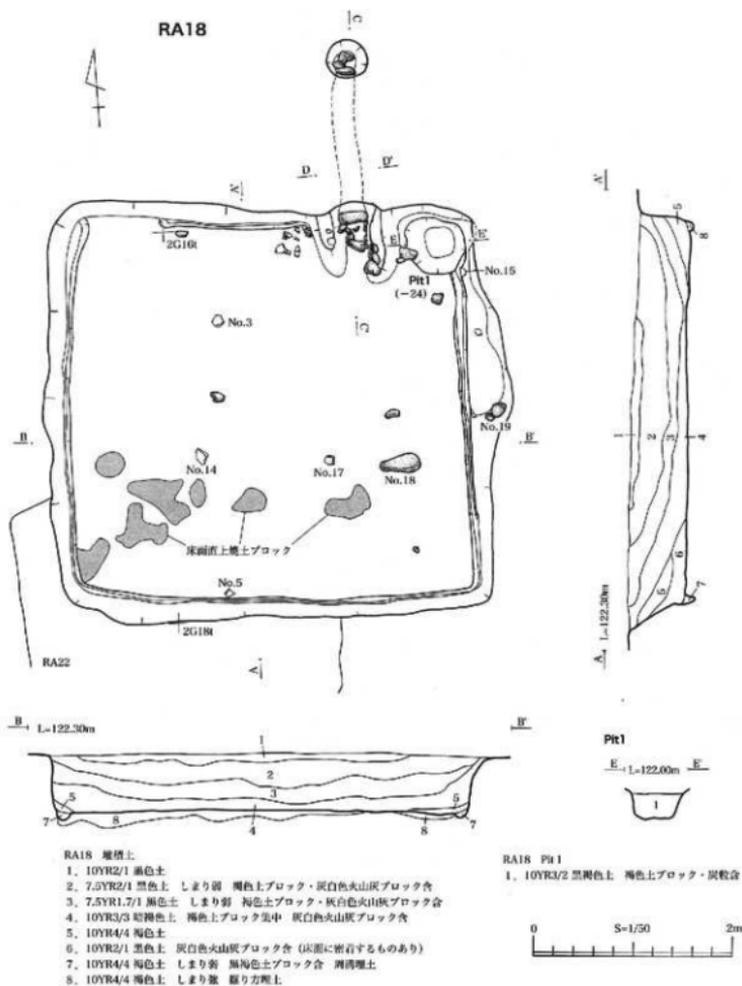
東側のRA 16住居跡からは2mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は正方形に近く、規模は北壁4.2m、東壁4.1m、南壁4.2m、西壁4.2m。主軸方向はNSである。

〔堆積土〕 上部1～3層の黒色土と床面直上の4層暗褐色土が主体となる。中央部がくぼむレンズ状の堆積状況を示している。2～4層、6層には灰白色火山灰ブロックが含まれており、一部は床面に密着する状態となる。また下部4層には褐色土ブロックが多量に含まれる。南半では床面直上に二次堆積の焼土ブロックが散在する。これらは薄く広がるもので、焼失により形成されたものかどうかは不明である。

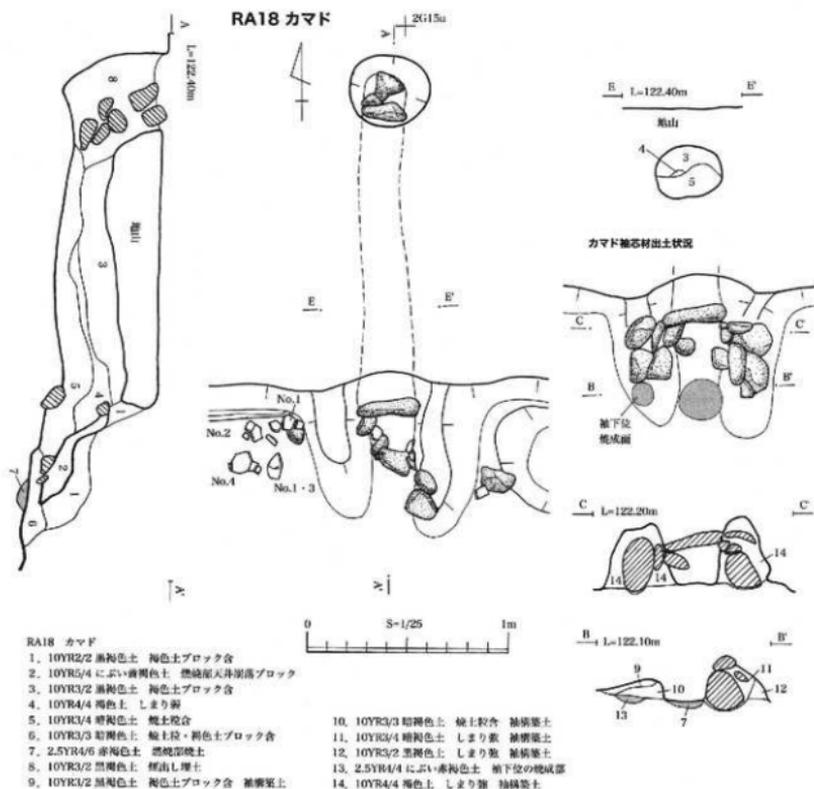
〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均60cmの残存で今回の調査では最も深い。東壁の中央付近は若干外に張り出す部分がある。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 北壁右寄りに設置される。煙道方位はNS。袖は径20～30cm大の垂円礫を芯材として組み上げ、それより小径の礫を隙間に入れて補強し、棒状礫による天井石を支える。芯材の礫外側には褐色シルトが貼り付けられている。天井石の手前側にはぶい黄褐色土からなる燃焼部天井が陥没した状態で残存する。燃焼



第78図 RA18住居跡(1)

部底面には径20cmの焼成面が形成される。また左側袖を裁ち割った所、基底面にも小径の焼成面が見られ、この上に袖が構築されている。煙道は全長160cmで、底面は若干起伏があるが概ね水平に伸びる。先端の煙出し孔は径40cm深さ55cmでやや斜めに掘り込まれ、埋土には多数の礫が投げ込まれる。



第79図 RA18住居跡(2)

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド右側の住居北東コーナーにPit1がある。径60cm程で炭化物を含む黒褐色土が堆積する。位置から見て貯蔵穴であろうと思われる。

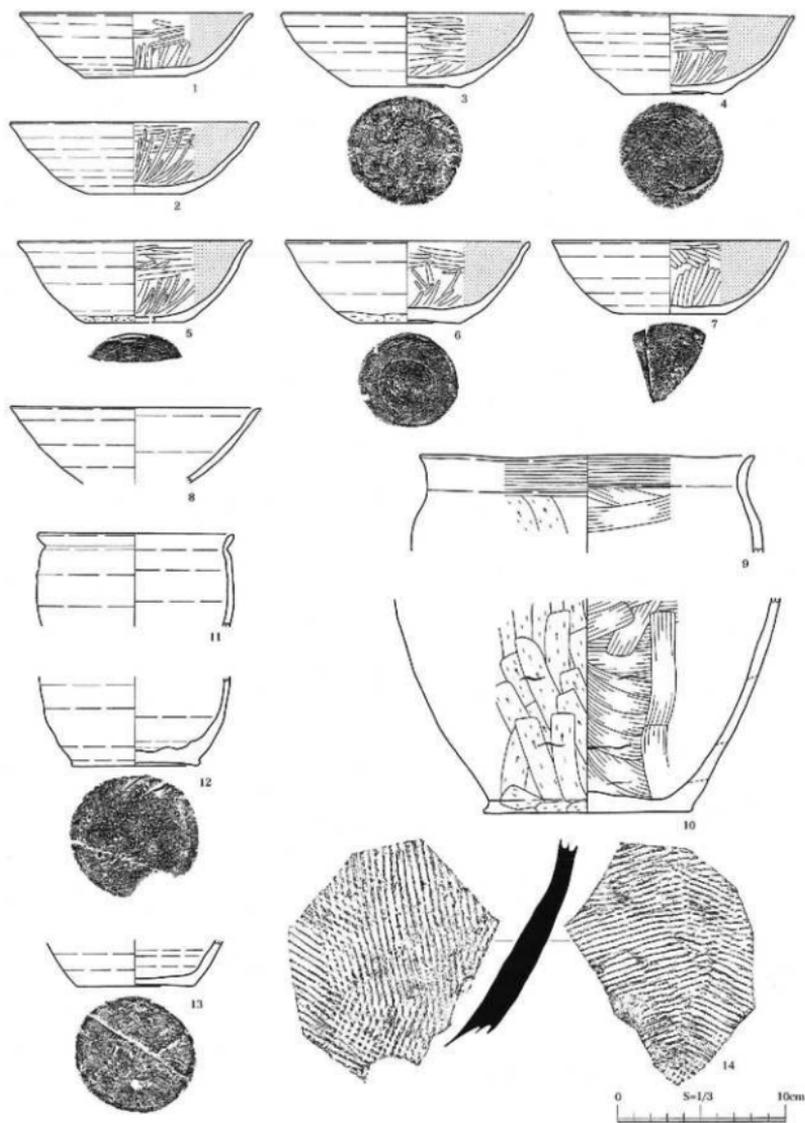
〔周溝〕 北壁のカマド部分、北西コーナー付近を除きほぼ全周して連続して掘られる。幅は10cm未満、深さ10cm程でしまりのない褐色土が堆積する。壁材の痕跡は見られない。

(高木)

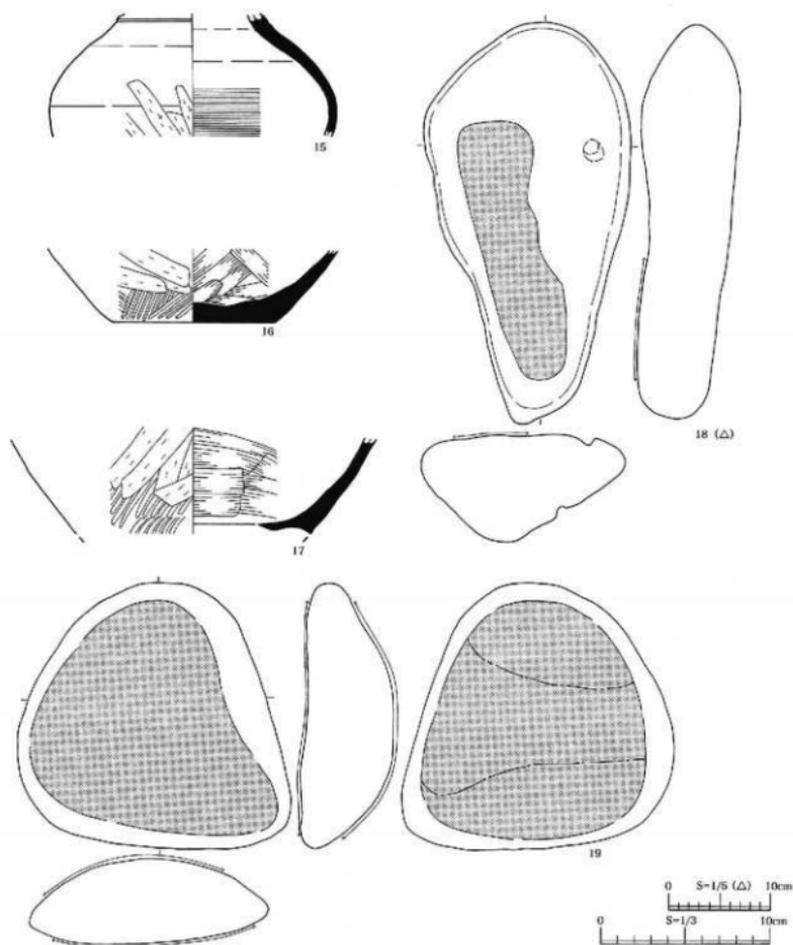
遺物(第80・81図 写真図版91)

〔遺物出土状況〕 遺物はカマド周辺に多く認められる。特にカマド左側の床面に土師器坏類が集まる。遺構間接合では16がRA20の1号カマドと接合関係を持つ。

〔土器〕 総数で18点出土している。内訳は土師器坏8点、土師器壺5点、須恵器壺1点、須恵器甕4点で、うち17点を掲載した。



第80圖 RA 18住居跡出土遺物 (1)



第81図 RA18住居跡出土遺物(2)

口縁部形態は1・4～6がa類、2・3・7・8がb類である。1～7は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。3・5・6は胎土に金雲母を含む。底面調整は3・4のみ回転糸切りで、それ以外はヘラケズリによる。(八木)

〔石器〕 東側から18の台石、19の磨石が出土している。自然礫利用で平坦面に摩滅痕が認められる。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマド燃焼部は石組みが良好に残存しており

天井石も見られる。また竪穴の壁高も60cmで今回の調査では最も深く残る住居跡である。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末~10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

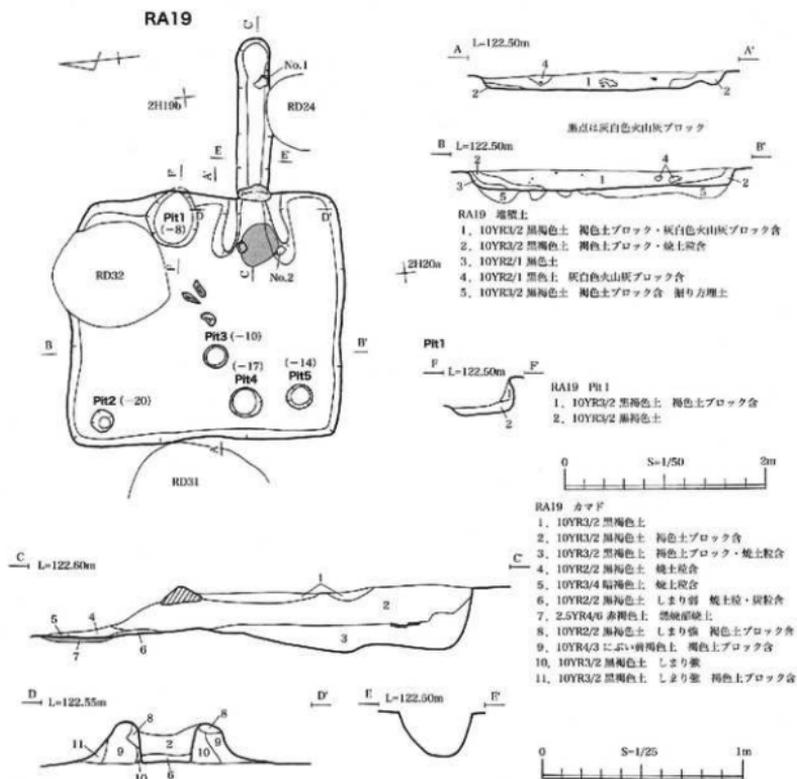
## RA19住居跡

遺構(第82図 写真図版24)

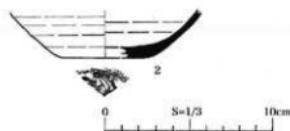
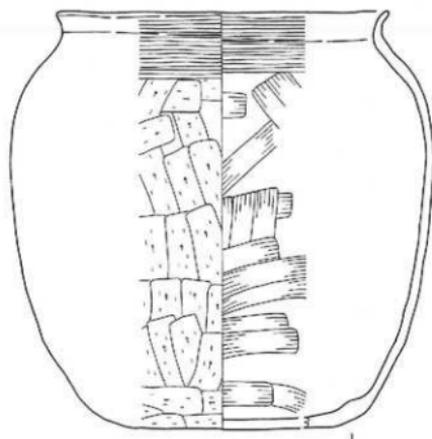
〔位置〕 第4次調査区北西部の2H19aグリッド付近に位置し、北側のRA16住居跡とは2mの間隔がある。またRD24、RD31、RD32土坑に切られる。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な隅丸方形で、規模は北壁2.5m、東壁2.6m、南壁2.5m、西壁2.7m。主軸方向はN-05°-E。

〔堆積土〕 褐色土ブロック、灰白色火山灰ブロックを含む黒褐色土の堆積で、北壁際夾雑物のない黒色土が見られる。



第82図 RA19住居跡



第83図 RA19住居跡出土遺物

〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均20cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面の硬化はあまり顕著ではない。

〔カマド〕 東壁右寄りに設置される。煙道方位はN-97°-E。袖は黒褐色土とにふい黄褐色シルト積み上げで先端がやや開き気味に伸びる。袖に芯材は持たないが、煙道入り口付近に長さ40cm程の亜角礫を横に渡した天井石が残存する。燃焼部底面には径40×30cm程の焼成面が形成される。煙道は溝状の掘り込みとして確認された。全長160cmで若干下降しながら伸びる。堆積土下部には焼土粒が含まれている。天井崩落の痕跡は見られず本来的に掘り込み式のカマドと考えられる。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 東壁際のカマド左にPit 1、西壁寄りにPit 2～5がある。Pit 1は壁面をやや抉り込んで掘られた横穴状土坑である。位置から見て貯蔵穴と考えられる。Pit 2～5は小径で浅いため柱穴や貯蔵穴とは考えにくく、性格は不明である。

遺物（第83図 写真図版92）

〔遺物出土状況〕 遺物量は少ない。カマド周辺に若干の土器類がある他は、床面中央部に自然礫が散在する。

〔土器〕 総数3点出土している。内訳は土師器杯1点、土師器甕1点、須恵器杯1点のうち2点を掲載している。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。

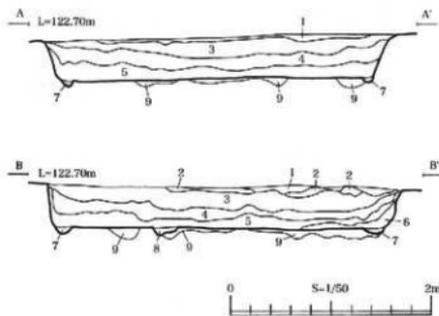
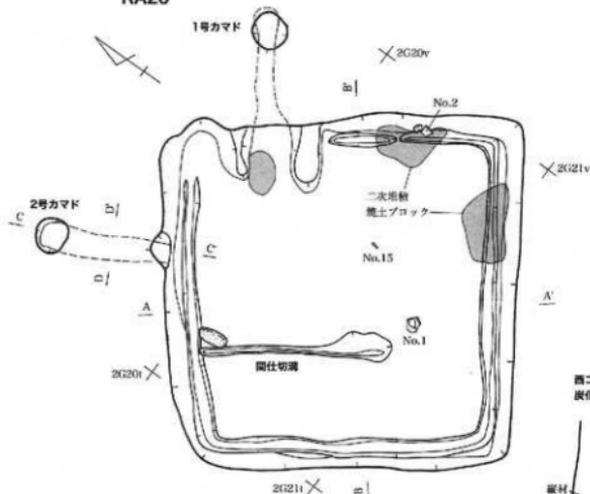
（高木）

## RA20住居跡

遺構（第84・85図 写真図版24・25）

〔位置〕 第4次調査区西側のG20uグリッド付近に位置し、北側のRA22住居跡からは2mの間隔を置

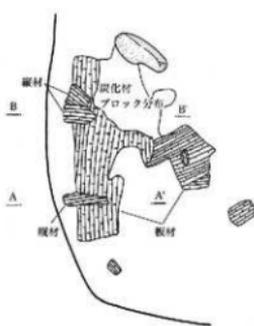
RA20



RA20 層積土

1. 10YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
2. 10YR8/2 灰白色火山灰ブロック
3. 7.5YR2/1 黒色土 陶器・褐色土ブロック含
4. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック(タミナ状)含
5. 7.5YR2/1 黒色土 炭化材含(多量) 焼土較・褐色土混含
6. 10YR3/2 黒褐色土 しまり藁 床面に密着して炭化材分布 焼土混含
7. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含 踏跡埋土
8. 10YR2/2 黒褐色土 踏仕切溝埋土
9. 10YR2/2 黒褐色土 しまり藁 褐色土大ブロック含 廻り方埋土

西コーナー部  
炭化材出土状況



A L=122.60m A'

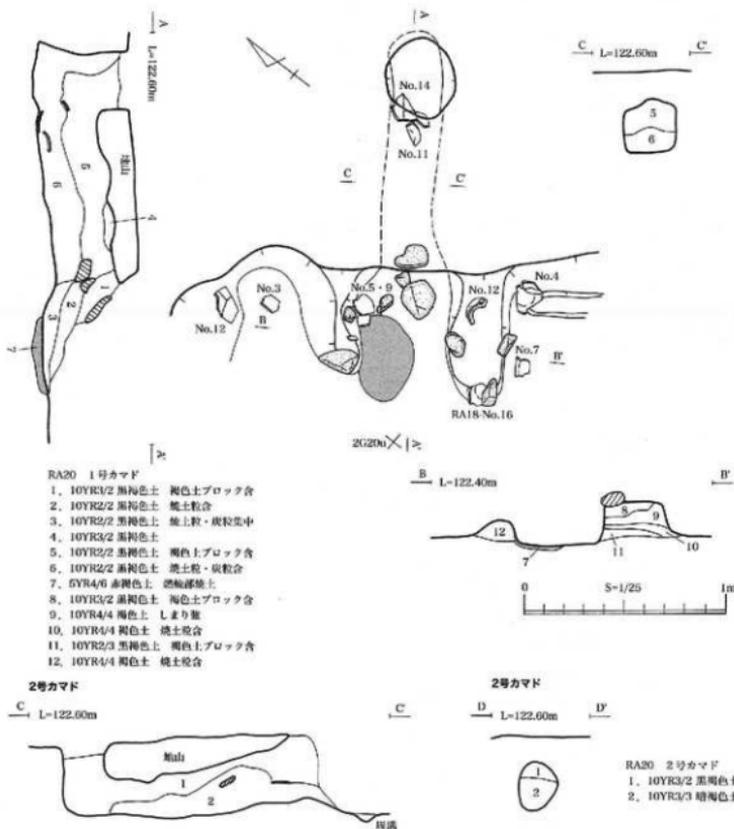


B L=122.60m B'



0 S=1/25 1m

第84図 RA20住居跡(1)

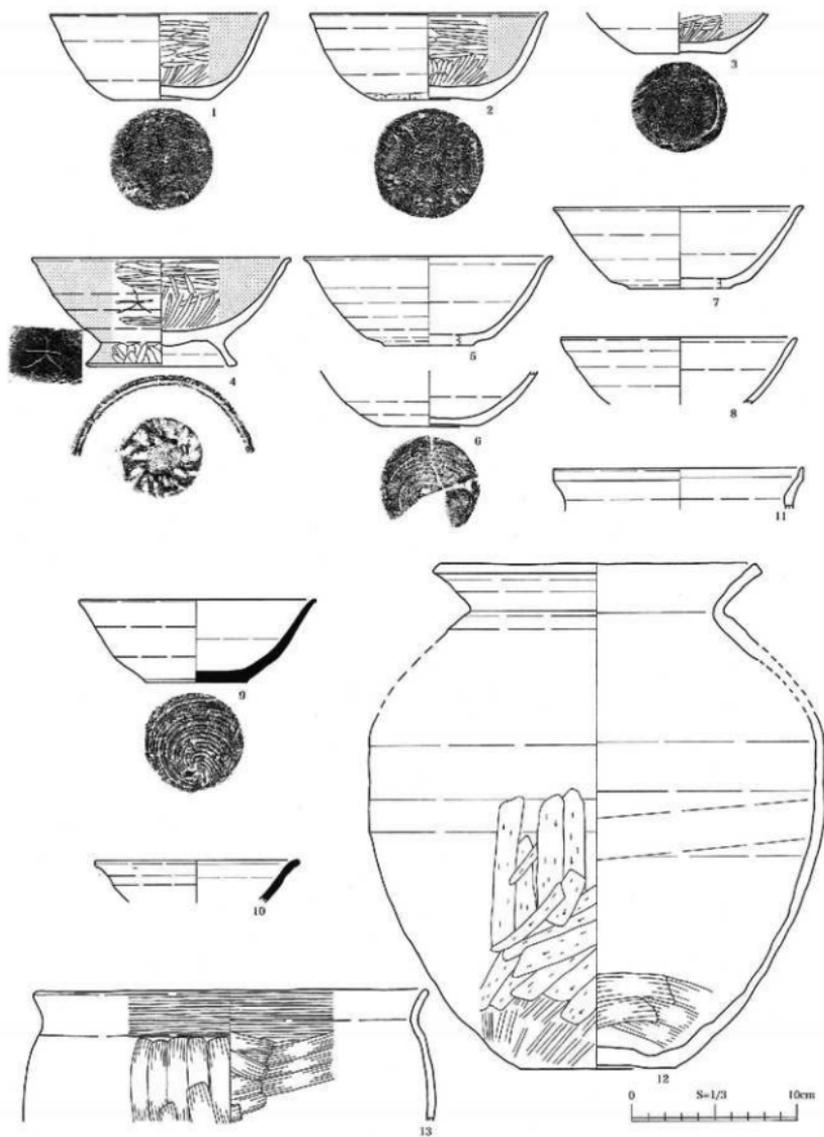


第85図 RA20住居跡(2)

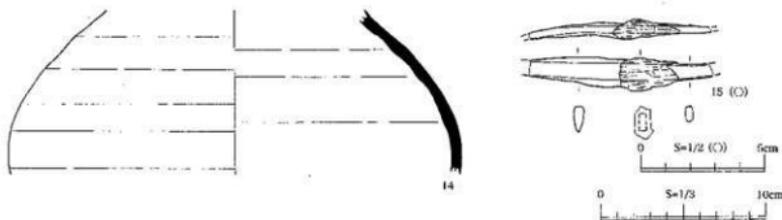
く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北西壁3.5m、北東壁3.7m、南東壁3.5m、南西壁3.2m。主軸方向はN-37°-Wである。

〔堆積土〕 最上部の検出面に灰白色火山灰ブロックを含む1層黒色土が堆積する。火山灰は部分的に集中する。以下、3層黒色土、4層黒褐色土、5層黒褐色土、6層黒褐色土に分層される。褐色土ブロックは全体に含まれるが特に4層に多く、断面ではラミナ状の堆積を示す部分がある。床面直上の5・6層には焼失に伴う二次堆積の焼土ブロック、炭化材が多い。炭化材は残存長93cm幅22cmの一連の板材を、長さ30cm幅7cm厚さ1cmと長さ27cm幅12cm厚さ5cmの丸木半割材を使い、2ヶ所で壁面に止めるように置かれている。壁材



第86回 R A 20住居跡出土遺物 (1)



第87図 RA20住居跡出土遺物(2)

とそれを留めた支柱ではないかと考えられる。

【壁・床面】 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均45cmの残存。掘り方埋上を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

【カマド】 1号カマド(北東壁)、2号カマド(北西壁)の2基がある。

1号カマドは北東壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-55°-E。袖は褐色シルトを主体として積み上げられ平行して伸びる。袖上面、周辺に礫が散在するが、芯材として設置されたものは確認できない。燃焼部底面には径45×25cmの焼成面が形成される。燃焼部内部から煙道入り口にかけても礫があるが、天井付近の石組みが崩壊したものと思われる。煙道は全長120cmで若干下降しながら先端の径40cm深さ50cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。燃焼部から煙道、煙出し孔にかけての堆積土には炭化物、焼土粒が含まれる。

2号カマドは北西壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-28°-W。燃焼部は残存せず、焼成面の痕跡も確認できない。煙道は全長130cmで若干下降しながら先端の径30cm深さ35cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。堆積土は黒褐色土、暗褐色土で焼土粒は含まれていない。

【柱穴】 なし。

【土坑】 1号カマド左側の住居北コーナーで壁面がやや張り出す部分があり、明確に土坑としては把握できなかったが、この部分に浅い掘り込みがあった可能性がある。

【周溝】 1号カマド付近を除きほぼ全周して連続して掘られる。2号カマド手前でも途切れないため、2号カマド廃絶後に1号カマドと同時に構築されたものと考えられる。幅は20cm程度、深さは10cm程度で黒褐色土が堆積する。壁材の痕跡は見られない。

【開仕切り溝】 北西壁際の間から住居中央に向かって伸びる、周溝と同様の埋土で堆積する溝を検出した。南西壁と平行で、先端が幅がやや広がる。深さは10cm程度である。(高木)

#### 遺物(第86・87図 写真図版92)

【遺物出土状況】 1号カマド周辺に集中しており、2号カマドに伴う遺物は少ない。

【土器】 総数で14点出土している。内訳は上師器杯7点、上師器高台付杯1点、須恵器杯2点、土師器甕3点、須恵器甕1点である。うち、14点を掲載している。

口縁部形態は2・5・9・10がa類、1・7・8がb類である。1～3は内面に、4は内外面にヘラミガキ後黒色処理が施されている。1～4全ての胎土に金雲母が含まれる。4の土師器高台付杯の体下半部に線刻が刻まれている。高台は指オサエによって接合されている。(八木)

【鉄器】 15の刀子は床面出土である。刃部、柄部両端が欠損しているが、木質が残る。

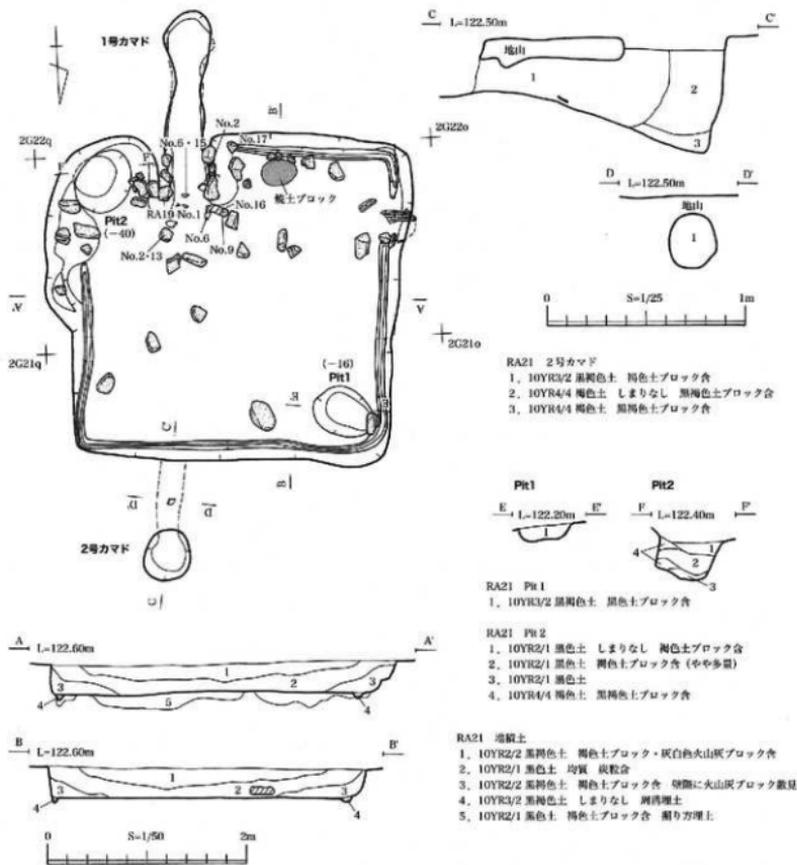
小結 本住居跡は2基のカマドを備えた中型の焼失住居跡である。炭化材は北西コーナー付近で板材と丸木

材が残っており、壁材を留めた痕跡と見られる。カマドは燃焼部の残存状況と周溝との重複関係より2号カマド→1号カマドへ作り替えたものと判断される。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。  
(高木)

### RA21住居跡

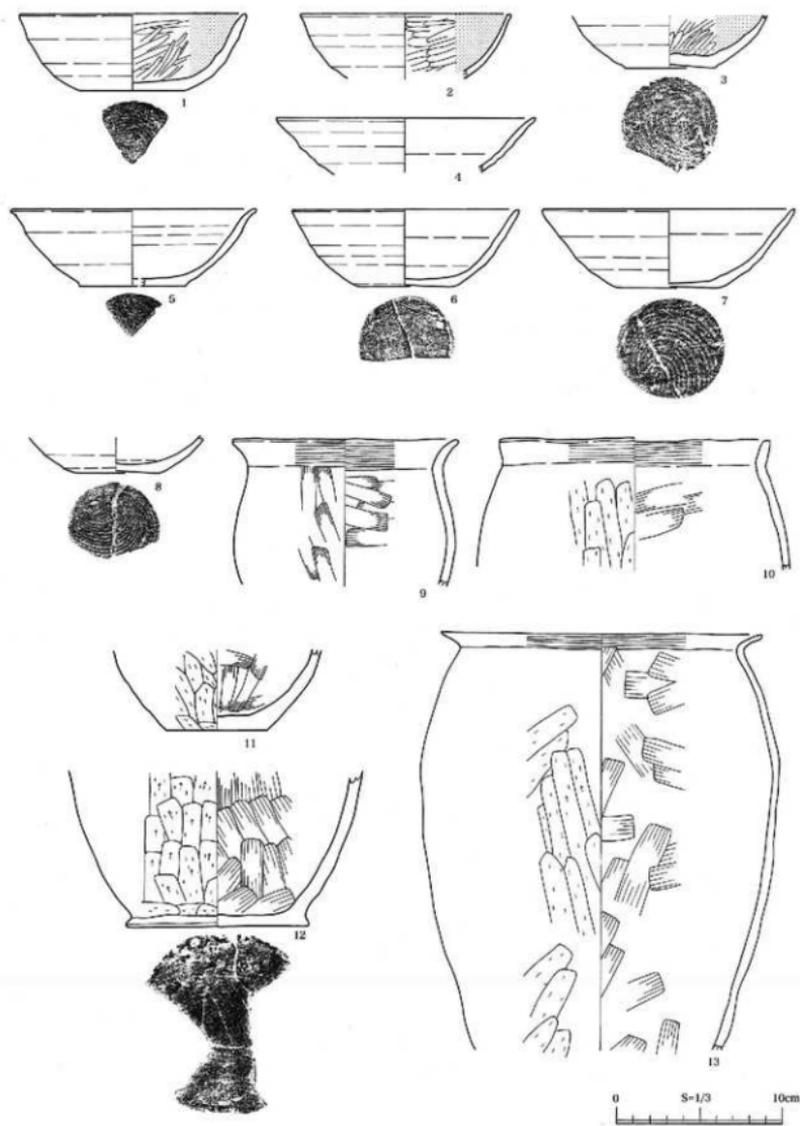
遺構 (第88・89図 写真図版26)

[位置] 第4次調査区西端の2G21pグリッド付近に位置し、南側のRA33住居跡からは3mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。



第88図 RA21住居跡(1)





第90図 RA21住居跡出土遺物(1)

径の礫を隙間に充填し補強している。燃焼部は袖に囲まれた部分で床面より5cm程の段差で低くなり、中央に径35cmの焼成面が形成される。焼成面の奥側には径15cmの垂円礫があり、表面の被熱が著しいことから支脚として設置されたものと考えられる。煙道は全長120cmで底面は階段状に煙出し孔に向かい下降して斜り貫かれる。煙道天井は全体に崩落しており上部は陥没部分が溝状に連なる。煙出し孔は径50cm深さ55cmで多数の礫が投げ込まれている。

2号カマドは北壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-07°-E。燃焼部は現存せず、焼成面の痕跡も確認できない。煙道は全長120cmで下降しながら先端の径45cm深さ60cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。堆積土は黒褐色土、褐色土で焼土粒は含まれていない。

〔柱穴〕 なし。

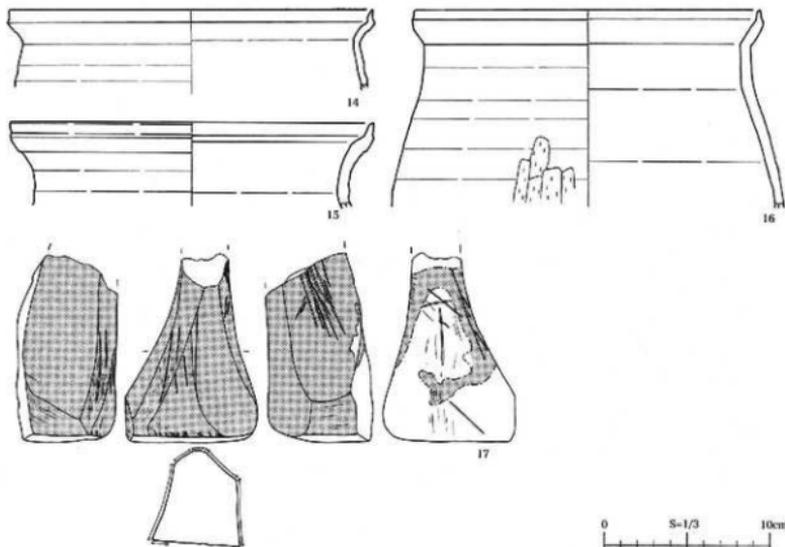
〔土坑〕 北西コーナーにPit 1、1号カマド左側の住居南東コーナーにPit 2、西壁南寄りに横穴状土坑のPit 3がある。Pit 2は深さ40cm程になり褐色土ブロックが含まれる黒色土が堆積する。位置から見て貯蔵穴であろうと思われる。

〔周溝〕 1号カマド、Pit 2付近を除きほぼ全周して連続して掘られる。2号カマド手前でも途切れないため、2号カマド廃絶後に1号カマドと同時に構築されたものと考えられる。幅は10~15cm程度、深さは10cm程で黒褐色土が堆積する。壁材の痕跡は見られない。

(高木)

遺物 (第90・91図 写真図版93)

〔遺物出土状況〕 1号カマド燃焼部、及びカマド手前、周辺の床面に集中する。2号カマドに伴う遺物は少量である。またカマド構成礫と見られる自然礫が1号カマドを中心とした住居南半床面に散乱する。大部分が径10~30cm程になる石英安山岩の垂角礫である。



第91図 RA21住居跡出土遺物(2)

【土器】 総数で19点出土している。内訳は土師器坏7点、あかやき坏1点、土師器甕11点で、うち16点を掲載している。

口縁部形態は2・5がa類、1・4・6・7がb類である。1～3は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。1は胎土に金雲母が含まれる。(八木)

【石器】 17は1号カマド脇から出土した砂岩の仕上げ砥石で、使い込まれて中央から破損している。一部に被熱痕が認められる。

小結 本住居跡は2基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況と周溝との重複関係より2号カマド・1号カマドへ作り替えたものと判断される。1号カマドの袖芯材には糠が多用され、周辺の床面からも多数の糠が出土する。これらはカマドを破壊した際に散乱したものの可能性がある。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

## RA22住居跡

遺構(第92図 写真図版27)

【位置】 第4次調査区北西部の2G181グリッド付近に位置し、北半をRA18住居跡に切られる。南側のRA20住居跡からは2mの間隔がある。検出面はⅢ層上面である。

【平面形・規模】 残存部分から推定して平面形はほぼ方形になると思われる。規模は南壁2.7m、西壁3.0m。主軸方向はN-06°-W。

【堆積土】 上部に褐色土ブロックを多量に含む1層黒色土、下部から壁際にかけて褐色土を含まない2層黒色土に分層できる。床面を一定の厚さで覆う4層黒褐色土は貼床のように上面が硬化する部分がある。灰白色火山灰は見られない。壁際床面に部分的に二次堆積の焼土ブロックがある。

【壁・床面】 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。4層を除去した床面での硬化はあまり顕著ではない。

【カマド】 東壁右寄りに設置される。煙道方位はN-87°-E。袖は長さ30～40cmほどの重円錐を立てた状態で並べ芯材とし、褐色土が貼り付けられる。煙道入り口には芯材の礫に支えられた天井石が残存する。燃焼部は中央に径25cmの焼成面が形成される。焼成面上位の燃焼部堆積土中に礫、土器片が散在するが支脚は確認できない。燃焼部手前には掛口に設置されていたものが転落した状態と考えられる。煙道は全長100cmで下降しながら先端の径40cm深さ60cmの煙出し孔へ向かって削り削られる。煙道天井は被熱による赤変が著しい。煙出し孔下部は煙道より一段深く掘り込まれている。

【柱穴】 なし。

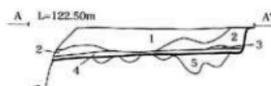
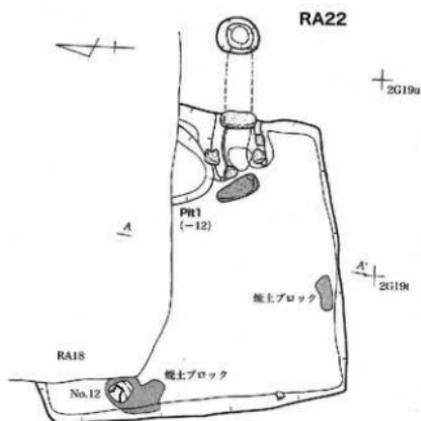
【土坑】 カマド左にPit1がある。北半を重複するRA18住居跡に切られており全体の規模は不明である。位置から見て貯蔵穴と考えられる。(高木)

遺物(第93・94図 写真図版94)

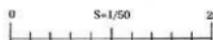
【遺物出土状況】 カマド燃焼部、Pit1にまとまって出土している。12の須恵器甕は北西側床面の焼土上面に横転の状態出土した。

【土器】 総数15点出土している。内訳は土師器坏4点、土師器甕9点、須恵器2点で、うち12点掲載している。

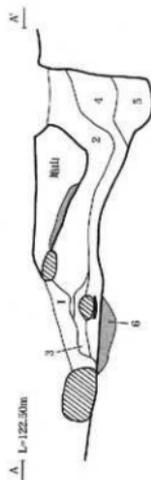
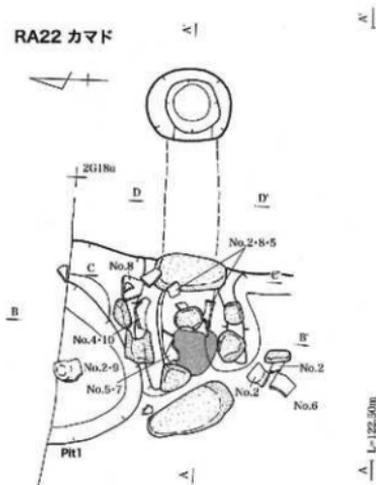
口縁部形態は3がa類、2・4がb類である。1は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。3の胴



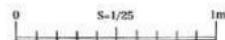
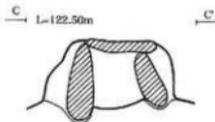
- RA22 堆積土
1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (多量)
  2. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土較なし 炭粒含
  3. 5YR3/6 暗赤褐色土 二次堆積焼土ブロック
  4. 10YR2/3 黒褐色土 しまり部分的に強褐色土較含 (やや多量) 団床状
  5. 10YR4/4 褐色土 しまり強 廻り方埋土



**RA22 カマド**



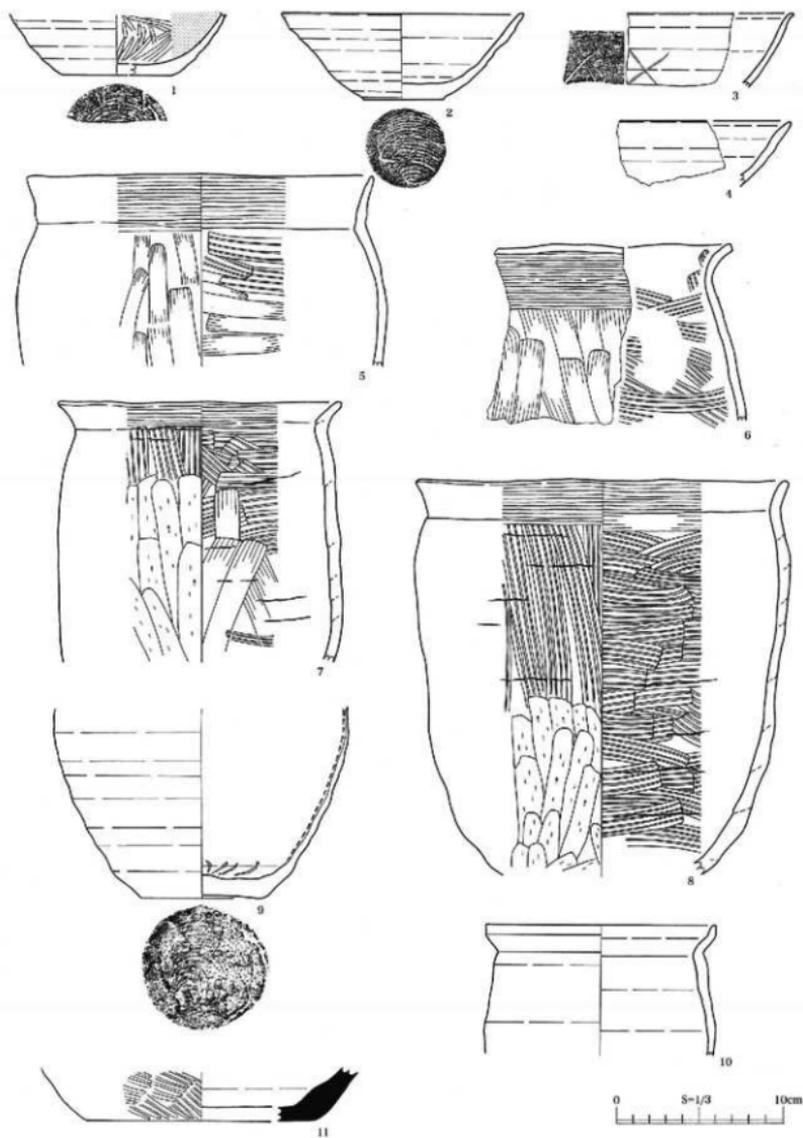
D L=122.50m



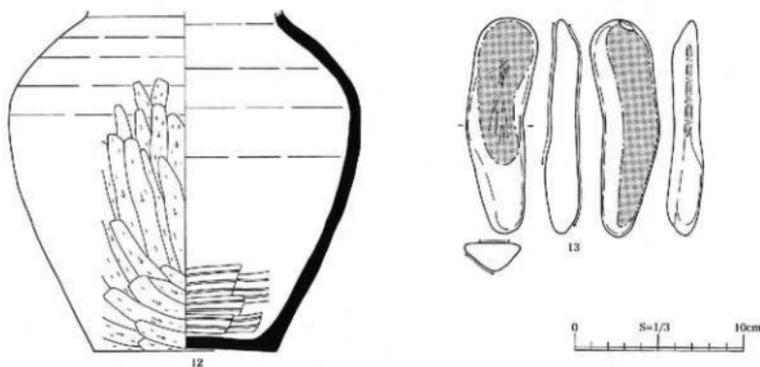
RA22カマド

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック (天井輪郭部) 含
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
3. 10YR2/1 黒色土 しまり弱
4. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒含
5. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱
6. 5YR4/4 赤褐色土 焼土粒含
7. 10YR4/4 褐色土 しまり強 焼土
8. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 PR1埋土
9. 10YR2/2 黒褐色土

第92図 RA22住居跡



第93図 RA22住居跡出土遺物(1)



第94図 RA 22住居跡出土遺物(2)

下半部に線刻が刻まれている。

土師器壺5～8・須恵器壺12は内面にハケ目調整が施される。9のロクロ調整土師器壺は、底部内面に指オサエ痕が認められる。 (八木)

〔石器〕 13は頁岩製の磨石で平坦面に摩滅痕が見られる。

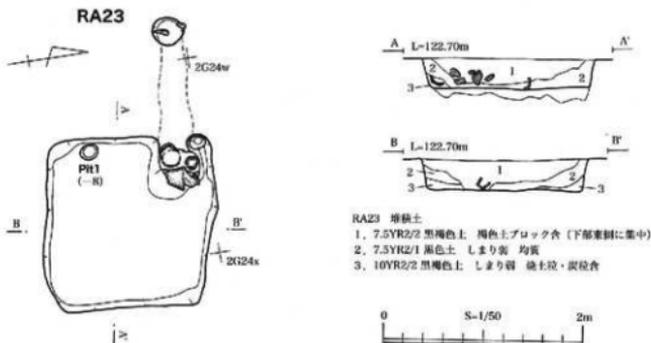
小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。カマドの石組みが良好な状態で残る。時期はRA 18住居跡との新旧関係、埋土中に火山灰を含んでいない点、床面出土土器から9世紀後半の年代が想定される。 (高木)

### RA 23住居跡

遺構(第95・96図 写真図版28・29)

〔位置〕 第4次調査区南西部の2G24Wグリッド付近に位置し、最も近い北西側のRA 20住居跡からは約6mの距離があり、周辺の住居跡群からやや離れた状態となっている。検出面はⅢ層上面である。

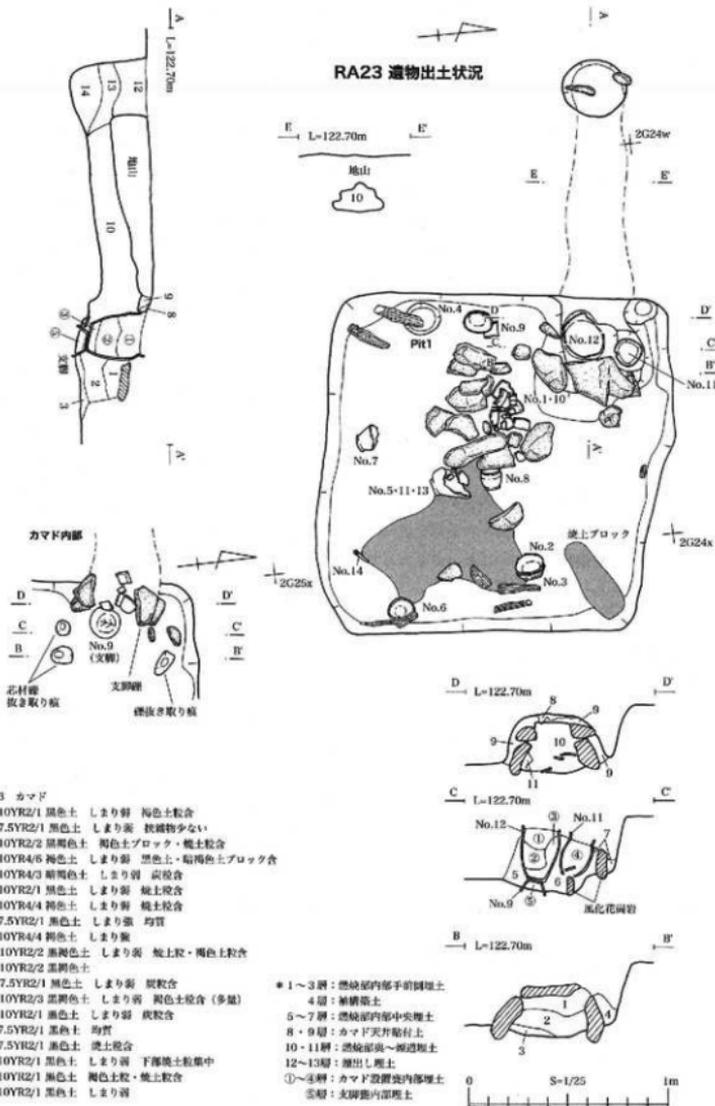
〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北壁1.7m、東壁1.5m、南壁1.7m、西壁1.6m。今回



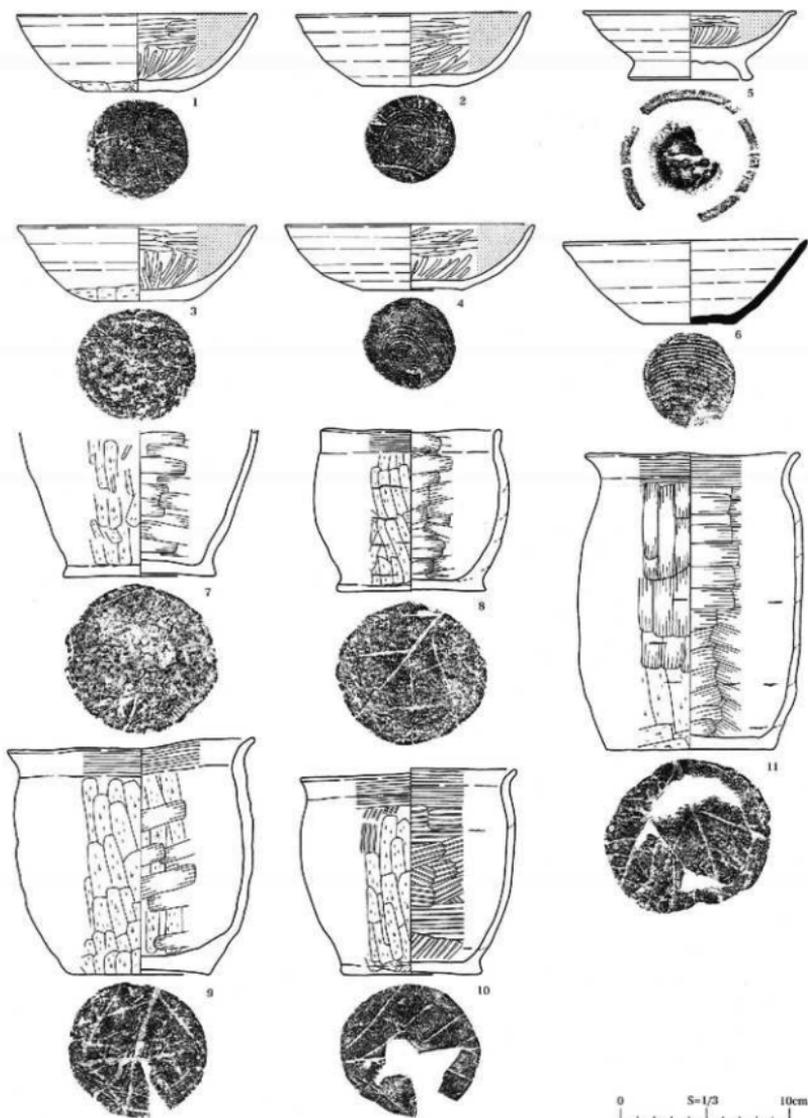
- RA23 埋積土
1. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含(下部塞封に集中)
  2. 7.5YR2/1 黒色土 しまり密 均質
  3. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 焼木炭・炭粒含

第95図 RA 23住居跡(1)

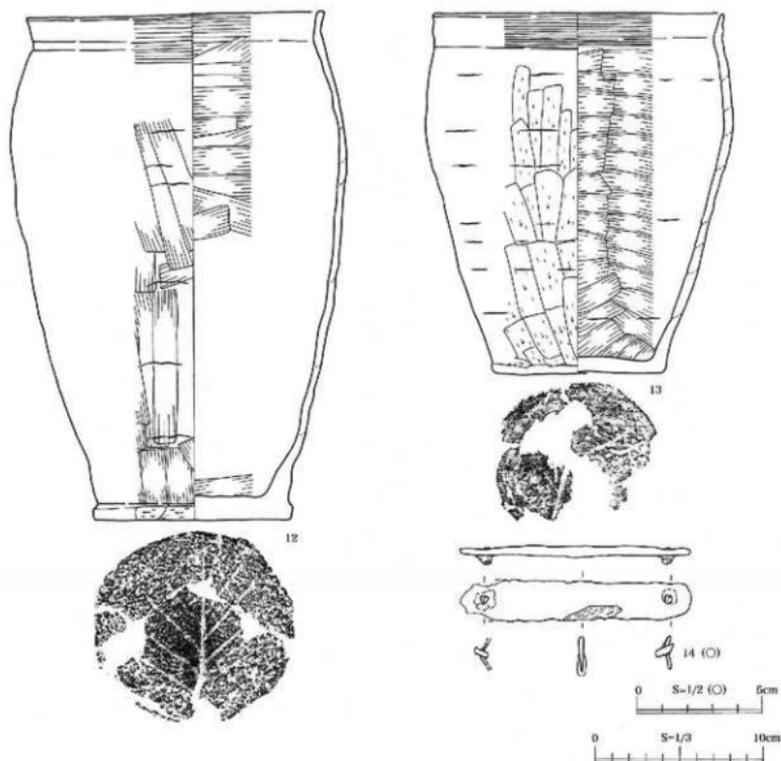
RA23 遺物出土状況



第96図 RA23住居跡(2)



第97圖 R A 23住居跡出土遺物 (1)



第98図 R A 23住居跡出土遺物（2）

の調査区では最も小規模な住居跡である。主軸方向はN-07° - E。

〔堆積土〕 上半の褐色土ブロックを含む1層黒褐色土、下部の壁跡を中心に堆積する2層黒色土、焼土粒を含む3層黒褐色土に分類した。中央がくぼむレンズ状の層界である。灰白色火山灰ブロックは見られない。竪穴東半には二次堆積の焼土ブロックが広がる。また炭化材が散在しており焼失状態と捉えられる。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 西壁右端に設置される。煙道方位はN-83° - W。燃焼部はほぼ原形をとどめた状態で残る。手前側は袖に楕円形の礎を向側に配し、扁平礎を上部に架けて天井としている。掛け口には2個体の土師器甕が設置された状態のまま残る。左側が中～大型の甕で、支脚は別個体の甕下半部分を倒立させた状態で埋め込んでいる。右側は小型の甕で、支脚は長さ10cm程の楕円形の礎を埋め込んでいる。掛け口から煙道入り口にかけては袖に垂円礎を積み上げ、外側と天井に褐色土を貼り付けてドームを構成している。燃焼部底面

には焼成面の形成が見られないが、支脚の土器表面は二次被熱により劣化している。煙道は全長120cmでやや下降しながら先端の径30cm 深さ40cmの煙出し孔へ向かって斜り貫かれる。煙道から煙出し孔にかけての埋土には炭粒、焼上粒が含まれている。

〔柱穴〕 なし。

〔上坑〕 西壁際の南寄りにPit1がある。径20cm程で内部から棒状の炭化材が上方へ伸びる。 (高木)

遺物 (第97・98図 写真図版95)

〔遺物出土状況〕 住居規模に比して遺物量は多く、完形に近い土器も複数出土している。カマドでは2個体の土師器甕が原位置を保っている。床面では西壁際、東壁際に2・3・4・6といった土師器・須恵器杯の完形個体があり、中央付近には多数の自然礫と土師器甕類が見られる。

〔土器〕 総数15点出土している。内訳は土師器杯4点、土師器高台付杯1点、須恵器杯1点、土師器甕9点で、うち13点掲載している。

口縁部形態は全てb類である。1～4の内面はヘラミガキ後に黒色処理が施されている。1・2・5は胎土に金雲母を含む。

杯の底面は1・2・4が回転系切り、6は静止系切り、1は回転系切り後にヘラケズリ、3はヘラケズリで調整されている。5の高台は指オサエによって接合されている。甕の底面は、8・1・2が砂底と木葉痕が重なり、7・9～11・13は木葉痕のみ認められる。 (八木)

〔鉄器〕 14の目釘式手鎌が南東部床面から出土している。ほぼ完存しており一部に木質が残存する。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の焼失住居跡である。他の小型住居跡よりも規模は一回り小さい。カマドの残存状況は非常に良好で、掛け口の土器2個体が原位置のまま残る。時期は埋土中に火山灰を含んでいない点、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頃の年代が想定される。 (高木)

## RA24住居跡

遺構 (第99・100図 写真図版30)

〔位置〕 第4次調査区南東部の2I13kグリッド付近に位置し、南側のRA25住居跡からは2.5mの間隔を置く。西側でRD61十坑を切る。検出面はⅢ層上面である。

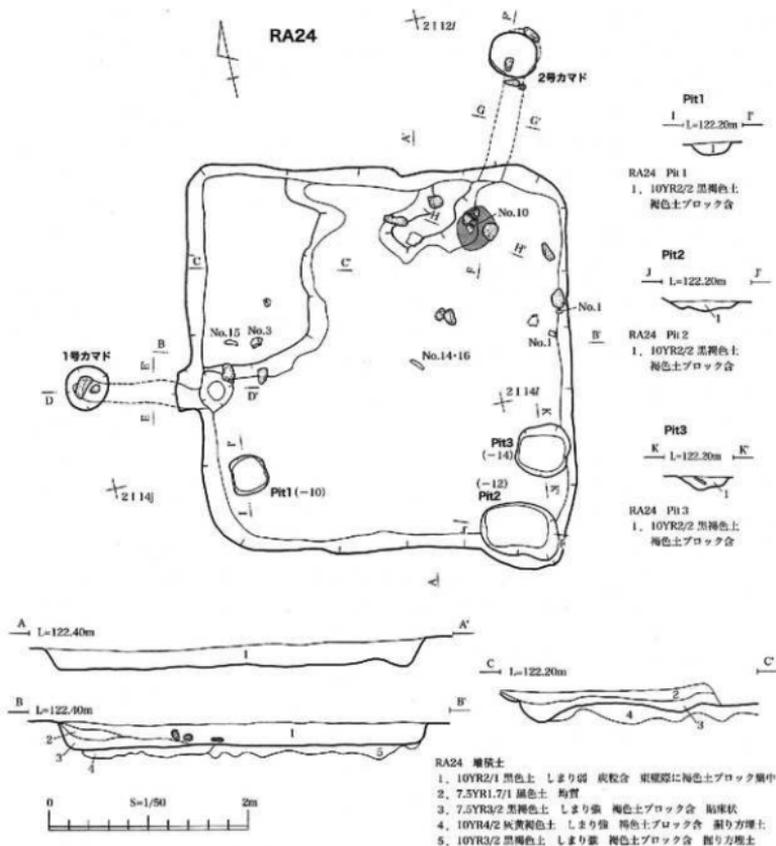
〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北壁3.8m、東壁4.0m、南壁3.7m、西壁3.9m。主軸方向はN-12°-E。

〔堆積土〕 西壁際を除き1層黒色土の単層と捉えられる。炭化物を含み東壁際には褐色土ブロックが多く含まれる。西壁際の下部では、テラス状の床面の高まりを夾雑物のない2層黒色土が覆う。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均25cmの残存。南東コーナーのPit2部分では南壁が外に張り出す。床面は掘り方埋土上面で、ほぼ平坦である。北西部では2×1.5mの範囲で10cm程の段差で高くなる部分がある。しまりの強い黒褐色土が平坦に貼り付けられた状態で上面も硬化する。

〔カマド〕 1号カマド(西壁)、2号カマド(北壁)の2基がある。

1号カマドは西壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-78°-W。燃焼部は残存せず底面の浅い掘り込みのみ確認できる。煙道は全長125cmで下降しながら先端の径40cm深さ45cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道埋土には全体に焼上粒が含まれる。また煙出し孔上部は褐色土ブロックが集中し埋め戻された状態と捉えられる。

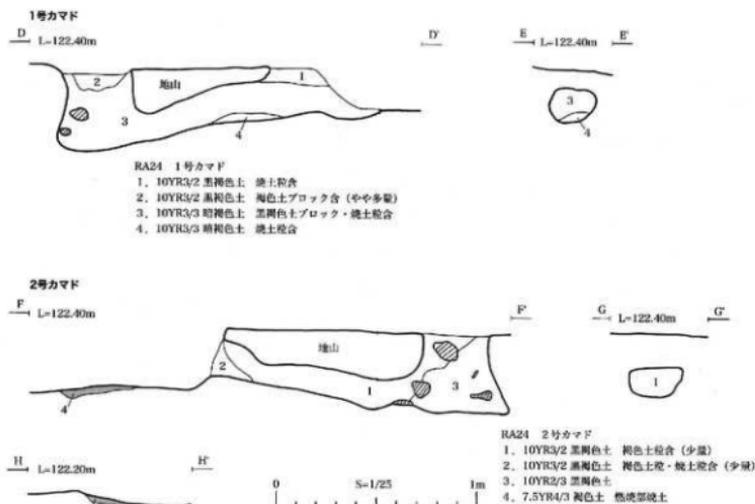


第99図 RA24住居跡(1)

2号カマドは北壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-24°-Eで北壁とは直交せず斜めに伸びる。袖は左側のみ残る。暗褐色シルト積み上げて煙道と同じく斜めに伸びている。燃焼部底面から袖側壁にかけて径40cmの焼成面が形成される。燃焼部周辺に糠、土器片が散在するが支脚は確認できない。煙道は全長140cmで緩く下降しながら先端の45cm深さ40cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道埋土には褐色土ブロック、焼土粒が含まれる。

【柱穴】 なし。

【土坑】 1号カマド左の西壁際にPit1、南東コーナーにPit2、東壁際南寄りにPit3がある。いずれも浅く皿状に掘り込まれたもので褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。(高木)



第100図 RA24住居跡(2)

遺物 (第101図 写真図版96)

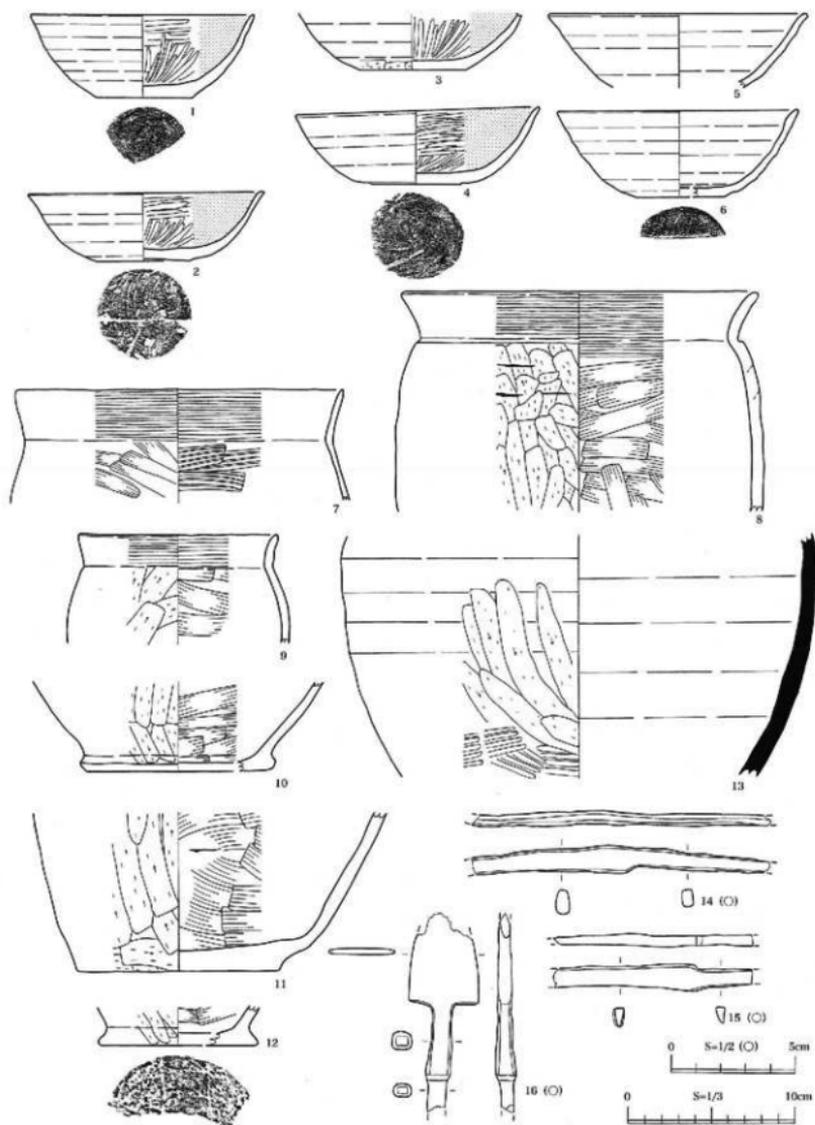
〔遺物出土状況〕 土器片は2号カマド燃焼部周辺にやや集まる。鉄製品の14～16が床面出土である。遺構間接合では8の土師器甕がRA25床面出土片と接合している。

〔土器〕 総数17点出土している。内訳は土師器坏6点、土師器甕9点、須恵器甕2点で、うち13点掲載している。

口縁部形態は2・4がa類、1・5・6がb類である。1～4は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されている。1～4はいずれも胎土に金雲母を含む。(八木)

〔鉄器〕 14・15の刀子、16の鉄鏝がある。14・15の刀子はいずれも刃部・柄部先端を欠く。15は両側に刃がある。16の鉄鏝は鏝身先端と茎を欠損するが、篋被部が鏝身よりも短い短茎鏝と捉えられる。鏝身は長三角形の平面形状を呈し、断面は扁平な両刃である。篋被部は両側の状態となっている。

小結 本住居跡は2基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況と周溝との重複関係より1号カマド→2号カマドへ作り替えたものと判断される。2号カマド燃道は住居軸線からずれた方向に伸びている。床面北西部はテラス状の高まりが見られる。時期は埋土中に火山灰を含まない点、床面出土土器から9世紀後半の年代が想定される。(高木)



第101図 RA 24住居跡出土遺物

## RA25住居跡

遺構 (第102・103図 写真図版30)

〔位置〕 第4次調査区南東部の2 I 16hグリッド付近に位置し、北側のRA24住居跡からは2.5m、北西側のRA32住居跡からは1mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北壁4.5m、東壁4.3m、南壁4.7m、西壁4.5m。主軸方向はNS。

〔堆積上〕 壁際を除いては灰白色火山灰、暗褐色土ブロックを含む1層黒褐色土が主体となる。床面直上の8層黒色土、東壁際の4・5・7層黒色～黒褐色土、西壁際の10・11層黒色～黒褐色土はいずれもしまりが弱く灰雑物が少ない状態である。北壁際を中心に床面にほぼ接して二次堆積の焼土ブロックが薄く広がる。焼土上位には細かい炭化材が集中する部分も見られ、焼失に伴うものと判断される。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。西壁際のカマド左側では浅く張り出す部分があるが、本住居跡を切る小規模な土坑を一連のものと誤認しているかも知れない。床面は掘り方埋土上面でほぼ平坦である。中央の3×2mの範囲で床面の硬化が著しい。

〔カマド〕 西壁のやや右寄りに設置される。煙道方位はN-82°-W。袖はにぶい黄褐色シルト積み上げでハの字状に開き気味に伸びる。先端付近では土師器甕破片が芯材として埋め込まれている。燃焼部底面から袖側壁にかけて径50×40cmの焼成面が形成されている。周辺には土器片、礫が散在するが支脚は確認できない。煙道は全長180cmで下降しながら先端の径60cm深さ50cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道埋土には焼土粒、炭化材が含まれ、煙出し孔上半は大小の礫を伴う褐色土によって埋め戻された状態である。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド右側にPit 3、左側に横穴状土坑のPit 5、中央部にPit 2・4、東壁際にPit 1と横穴状土坑のPit 6・7がある。Pit 3は浅く長方形に掘り込まれるもので埋土に焼土粒、炭化材が含まれ、土器片が散在する。位置から見て貯蔵穴と考えられる。Pit 2はにぶい黄褐色土で埋め戻された状態である。横穴状土坑のPit 5～7は壁面下部を掘り込んでおり、灰白色火山灰を埋土に含む。(高木)

遺物 (第104・105図 写真図版97)

〔遺物出土状況〕 遺物はカマド付近およびカマド脇のPit 3に多い。土師器甕でカマド袖の芯材とした破片が見られる(25・27・28)。遺構間接合では17の土師器甕がRA24出土片と接合する。

〔土器〕 総数37点出土している。内訳は土師器坏12点、土師器高台付坏2点、須恵器坏2点、土師器甕20点、須恵器甕1点で、うち29点を掲載している。

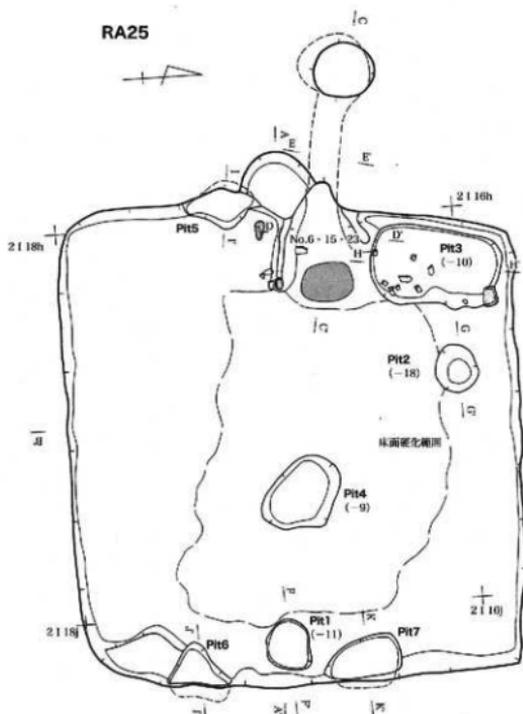
口縁部形態は2・10・11がa類、1・3～7・12・13がb類である。1～7の土師器の土師器内面はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。8・9の高台付坏は内外面黒色処理が施され、胎土に金雲母を含む。高台は指オサエによって接合されている。

ロクロ調整でない土師器甕の口縁部は外傾が緩やかなものが多い。(八木)

〔鉄器〕 30の刀子が堆積土上部から出土している。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた大型の焼失住居跡である。カマドの作り替えが見られない住居跡としては最も規模が大きい。時期は堆積上、土坑埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

RA25



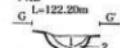
Pit1



RA25 Pit 1

- 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含 (少量)

Pit2



RA25 Pit 2

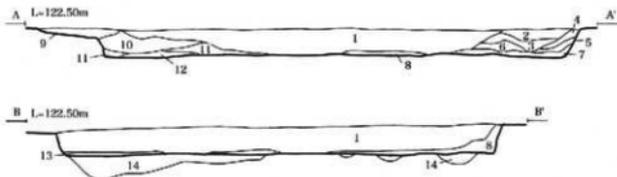
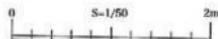
- 10YR4/3 ぶい・黄褐色土 しまり藪 均質 埋の灰し土
- 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含

Pit3



RA25 Pit 3

- 5YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭粒含 (やや多量) 灰白色火山灰ブロック含
- 7.5YR3/2 黒褐色土 焼土粒含
- 7.5YR2/1 黒色土 褐色土粒含



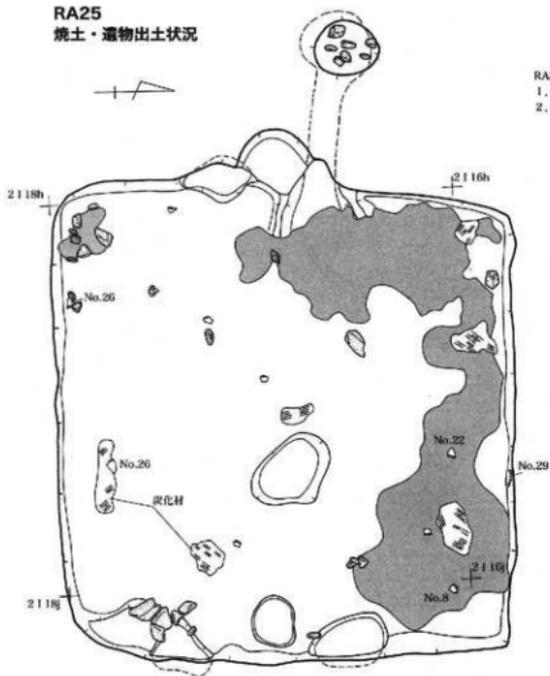
RA25 地質土

- 10YR2/2 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含 (微量) 暗褐色土ブロック含
- 10YR2/2 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含 (微量)
- 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含 (少量)
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり藪
- 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり藪
- 10YR2/3 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含
- 10YR2/1 黒色土 しまり藪
- 10YR2/1 黒色土 均質 しまり藪
- 10YR2/2 黒褐色土 しまり藪 一部に赤い焼成灰
- 7.5YR2/1 黒色土 しまり藪 褐色土ブロック含
- 10YR2/2 黒褐色土 均質
- 10YR2/3 黒褐色土 焼土ブロック含
- 10YR2/3 黒褐色土 炭化材・炭土粒含
- 10YR3/2 黒褐色土 しまり藪 褐色土ブロック含 藪り方埋土

第102図 RA25住居跡(1)

RA25

焼土・遺物出土状況



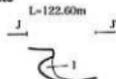
PIt5



RA25 Pit 5

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり弱 褐色土ブロック含
2. 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含

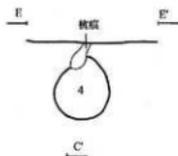
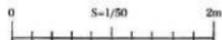
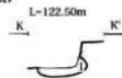
PIt6



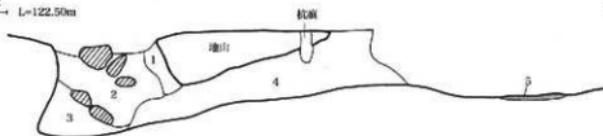
RA25 Pit 6

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含

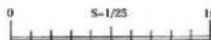
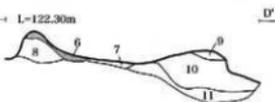
PIt7



C L=122.50m



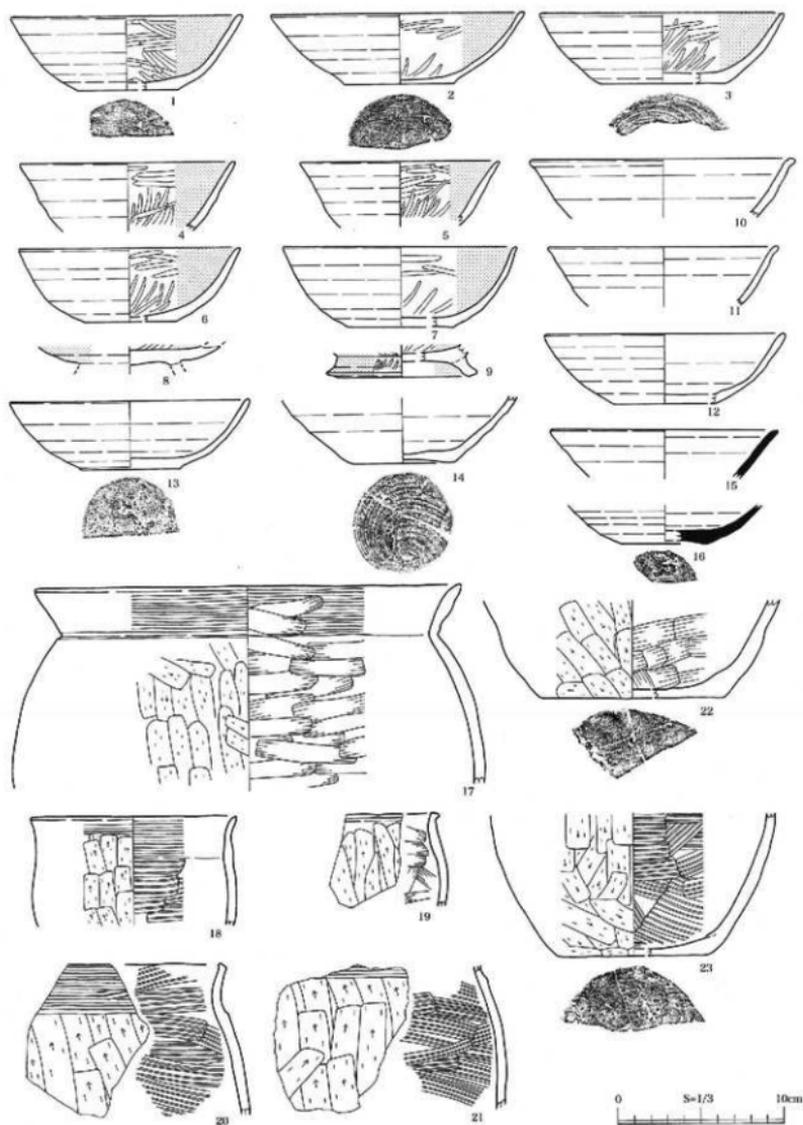
D L=122.30m



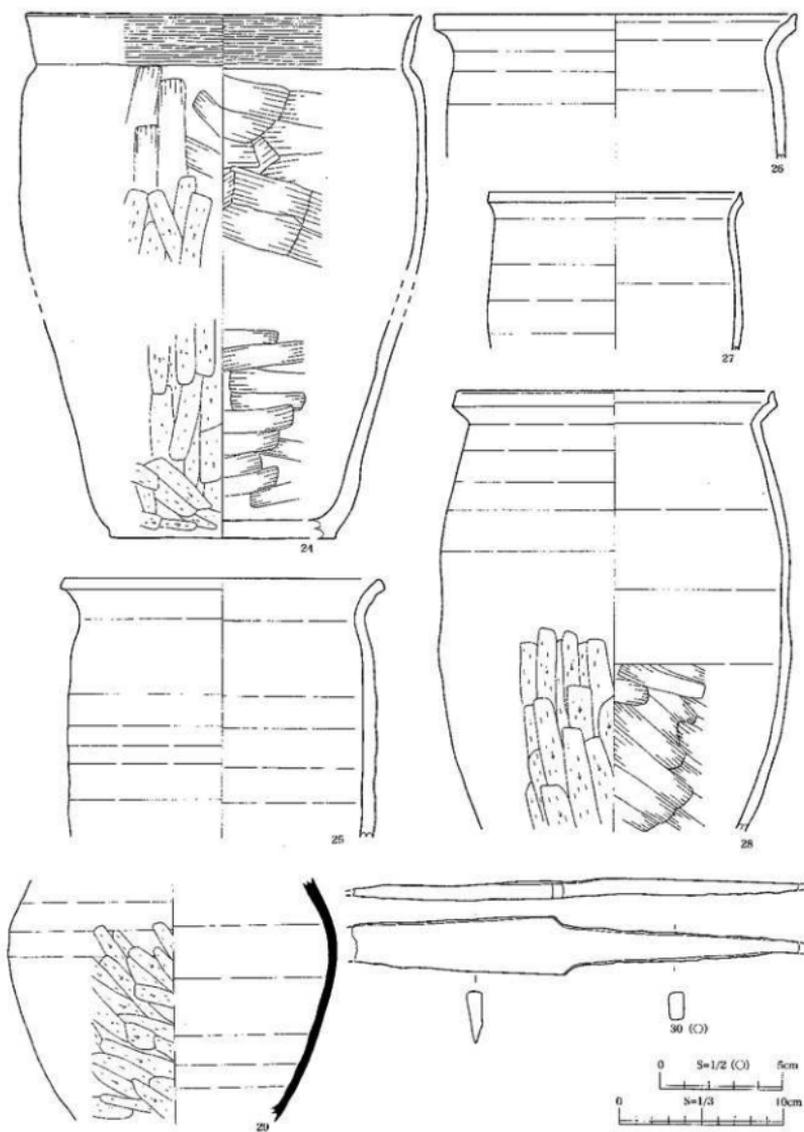
RA25 カマド断面

1. 7.5YR3/3 暗褐色土 しまり弱 褐色土ブロック・炭粒含
2. 10YR4/4 褐色土 しまり弱 均質 埋されたブロック
3. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり弱 褐色土粒含
4. 7.5YR2/3 熟暗褐色土 しまり弱 褐色土粒・焼土粒・炭粒含
5. 5YR4/4 にぶい赤褐色土 熟焼硬結土
6. 5YR4/6 赤褐色土 熟焼硬結面焼土
7. 10YR4/4 褐色土 しまり強 熟焼硬結面焼土
8. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 褐色土ブロック含 袖状壁土
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 褐色土ブロック含 袖状壁土
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり強 袖状壁土
11. 10YR4/4 褐色土 黒褐色土ブロック含

第103図 RA25住居跡(2)



第104圖 RA25住居跡出土遺物(1)



第105圖 R A 25住居跡出土遺物 (2)

## RA26住居跡

遺構 (第106・107図 写真図版31)

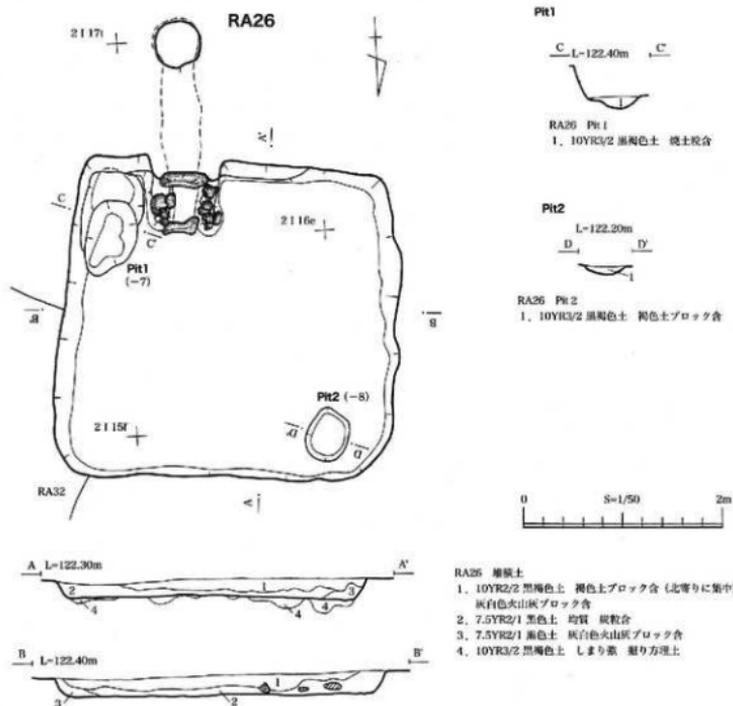
〔位置〕 第4次調査区南東部の2 I 15eグリッド付近に位置し、北側でRA32住居跡を切る。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は若干東西に長い方形で、規模は北壁3.3m、東壁3.2m、南壁3.1m、西壁3.0m。主軸方向はN-07°-Eである。

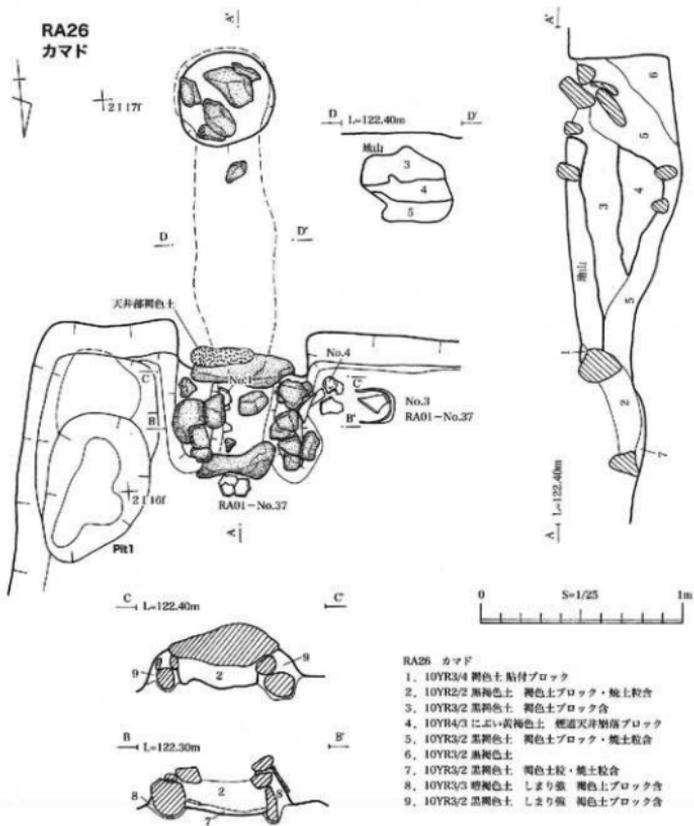
〔堆積土〕 上半の褐色土ブロック、灰白色火山灰を含む1層黒褐色土、下半の炭化物を含む2層黒色土が主体となる。南西側の床面直上に堆積する3層黒色土にも灰白色火山灰が含まれる。

〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均20cmの残存。床面は掘り方埋土上面で、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 南壁の左寄りに設置される。煙道方位はNS。軸は径20cm程の垂角礫を組み上げて芯材とし、外側に暗褐色シルトが貼り付けられる。天井石が手前側の焚き口上部と奥側の煙道入り口に架けられた状態で残る。奥側の天井石上面にはカマド天井の一部と思われる褐色土が残存する。燃焼部内部には土器片、礫



第106図 RA26住居跡(1)



第107図 RA26住居跡(2)

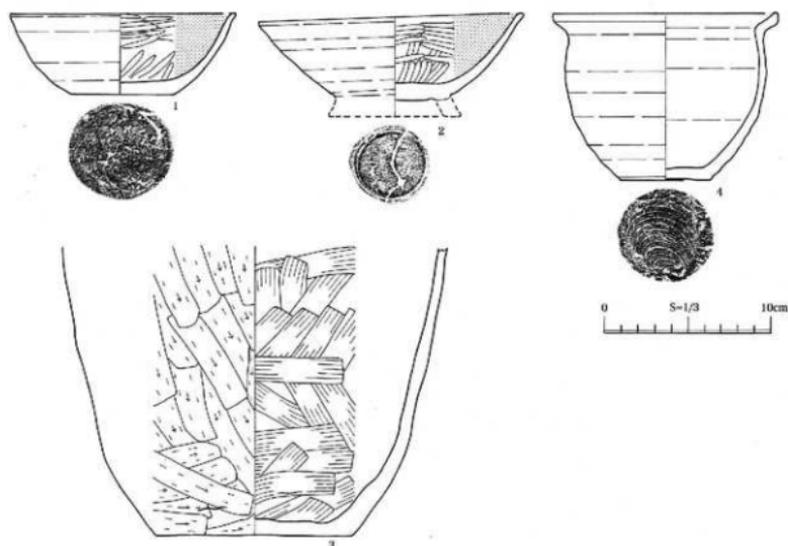
が散在するが、焼成面の形成は見られず支脚も確認できない。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径50cm深さ50cmの煙出し孔に向かって割り貫かれる。煙道天井は大きく崩落し陥没部分に黒褐色土が堆積する。煙出し孔には多数の礫が投げ込まれている。

【柱穴】 なし。

【土坑】 カマド左側の住居南東コーナーにPit1、北西コーナーにPit2がある。両者とも浅い皿状に掘り込まれたもので、Pit1には焼土粒が含まれる。位置から見ていずれも貯蔵穴と考えられる。(高木)

遺物(第108図 写真図版98)

【遺物出土状況】 カマドの残存状況が良好な反面、遺物は少ないが、燃焼部内部、及び袖外側の床面にま



第108図 R A 26住居跡出土遺物

とまる傾向が見られる。

〔土器〕 土師器坏1点、土師器高台付坏が1点、土師器甕が2点出土している。1の口縁部形態はa類、2はb類で、どちらの底面もナデ調整、土師器甕の底面は回転糸切りによって調整されている。1・2の内面はヘラミガキ後に黒色処理が施されている。 (八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマドは燃焼部の石組みが良好に残存しており、調査区東側では唯一の例である。R A 32住居跡との重複関係、埋土中の火山灰、床面出土土器より9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。 (高木)

## R A 27住居跡

遺構 (第109・110図 写真図版32)

〔位置〕 第4次調査区東側中央部の2111fグリッド付近に位置し、南側のR A 32住居跡から2m、北東側のR A 28住居跡から2mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや歪な方形で、規模は北壁4.2m、東壁4.0m、南壁4.3m、西壁4.2m。主軸方向はN-05°-E。

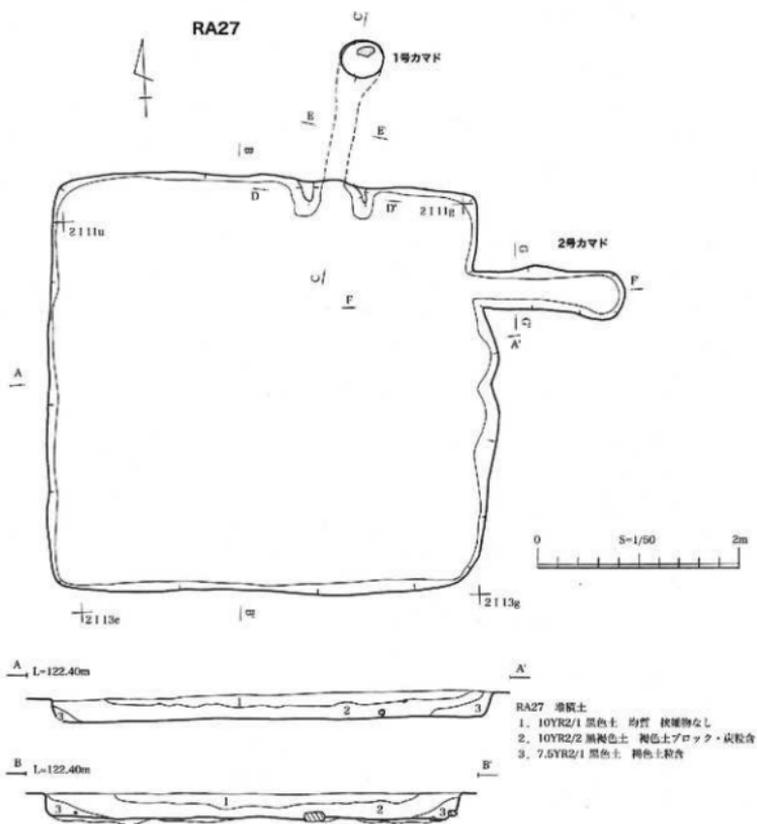
〔堆積土〕 黒褐色土～黒色土を主体にした3層に区分される。上半1層は披離物が少ない黒色土。下半2層は褐色土ブロック・炭化物を含む。壁際には3層黒色土が堆積している。火山灰は見られない。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均25cmの残存。床面は掘り方埋土上部でほぼ平坦である。北東部は地山礫層上部に薄く貼床が施される。全体に硬化が進んでいる。

[カマド] 1号カマド(北壁)と2号カマド(東壁)の2基がある。

1号カマドは北壁の東寄りに設置される。カマド煙道方位は $N-12^{\circ}-E$ 。袖は地山褐色シルトを削り出して作られ、平行して短く伸びる。燃烧部底面の焼成範囲は明確でない。埋土中には焼土粒・炭粒・灰が混じる5層暗褐色土が堆積する。上部4層暗褐色土は燃烧部天井下部が落ち込んだものと思われる。煙道は全長150cmで緩く下降しながら先端の径35cm深さ45cmの煙出し孔へ向かって斜り貫かれる。煙道埋土には焼土粒・炭化物が含まれ、天井面は煙出し孔寄り部分が被熱により赤変する。煙出し孔下層には、径10cm程の礫が投げ込まれている。

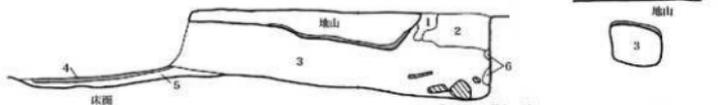
2号カマドは東壁の北寄りに設置される。煙道方位は $N-95^{\circ}-E$ 。袖は失われており、燃烧部底面に形成された径40cm程の焼成面のみ確認できる。煙道は全長150cmでほぼ水平に伸びる。溝状に掘り込まれた状



第109図 RA27住居跡(1)

1号カマド

C L=122.50m



D L=122.30m

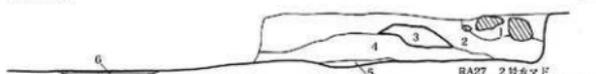


RA27 1号カマド

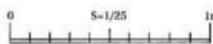
1. 10YR4/6 褐色土 天井崩落ブロック
2. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック舎
3. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭粒舎
4. 7.5YR3/4 暗褐色土 斜め傾斜を受ける二次焼成焼土ブロック
5. 10YR3/3 暗褐色土 しまり岩 炭粒・焼土粒・炭舎
6. 10YR4/6 褐色土 崩落ブロック
7. 5YR3/3 暗赤褐色土 しまり岩 焼土粒主体の層
8. 10YR4/6 褐色土 しまり岩 惣焼新天井
9. 10YR4/6 褐色土 しまり岩 地山崩り出しの塊
10. 10YR4/4 褐色土 玉色土ブロック舎

2号カマド

F L=122.40m



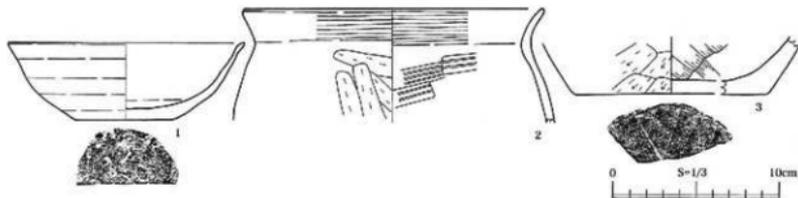
G L=122.40m



RA27 2号カマド

1. 10YR3/4 暗褐色土 しまり岩
2. 10YR2/1 黒色土 焼土粒舎
3. 7.5YR3/3 暗褐色土 傾斜を受けた焼成天井崩落ブロック
4. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり岩 炭粒・焼土粒舎
5. 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒舎
6. 5YR3/3 暗赤褐色土 惣焼新天井

第110図 RA27住居跡(2)



第111図 RA27住居跡出土遺物

態となっているが、埋土中に天井部が崩落したと見られるブロックがあり、削り貫き式と判断される。煙出し孔上部には径10~20cm程の礫が投げ込まれている。

【柱穴】 なし。

【土坑】 なし。

(高木)

遺物(第111図 写真図版98)

【遺物出土状況】 床面で数点の土器が見られるのみで全体に遺物量は少ない。

【土器】 土師器坏1点、土師器甕2点が出土している。土師器坏1の口縁部形態はb類である。底面調整は1がヘラナデ、3が木葉痕を残す。

(八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。カマドは焼成部の残存状況より2号カマドー

1号カマドの作り替えと考えられる。床面を精査したが柱穴、貯蔵穴の類は一切検出できなかった。確認不足か、掘り込みが浅く残存しないのかは不明である。時期は埋土中に火山灰を含まない点、床面出土土器より9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

## RA28住居跡

遺構(第112図 写真図版33)

〔位置〕 第4次調査区北東部の2191グリッド付近に位置し、南西側のRA28住居跡からは2m、北東側のRA29住居跡からは3mの間隔を置く。東壁側で2ヶ所の擾乱を受ける。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形は東西に長い長方形で、規模は北壁4.0m、東壁3.6m、南壁4.1m、西壁3.5m。主軸方向はN-22°-E。

〔堆積土〕 上部から少量の褐色土ブロックを含む1層黒色土、褐色土ブロックが集中する2層黒褐色土、夾雑物が少ない3・4層黒色～黒褐色土と分類される。火山灰は含まれていない。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均25cmの残存。床面は掘り方埋土上面で、ほぼ平坦である。中央部で硬化が進んでいる。

〔カマド〕 西壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-62°-W。袖はにぶい黄褐色シルト積み上げで一部は内部に芯材の礫が埋め込まれている。壁から15cm程の基部側のみ残存し短く伸びる。燃焼部底面には径25cm程の焼成面が形成されており、周辺には土器片が散在するが支脚は確認できない。煙道は全長150cmで下降しながら先端の径30cm深さ50cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道埋土には焼土粒が含まれる。

〔柱穴〕 なし。

〔上坑〕 北西コーナーにPit1、北壁中央部に横穴状土坑のPit2がある。Pit1は径50cm程の浅い掘り込みで褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。Pit2は壁面下部を挟り込んで掘られており、底面は床面より低い。(高木)

遺物(第113図 写真図版98・99)

〔遺物出土状況〕 カマド周辺、及び東壁際床面の2ヶ所に遺物が集まる傾向が見られる。

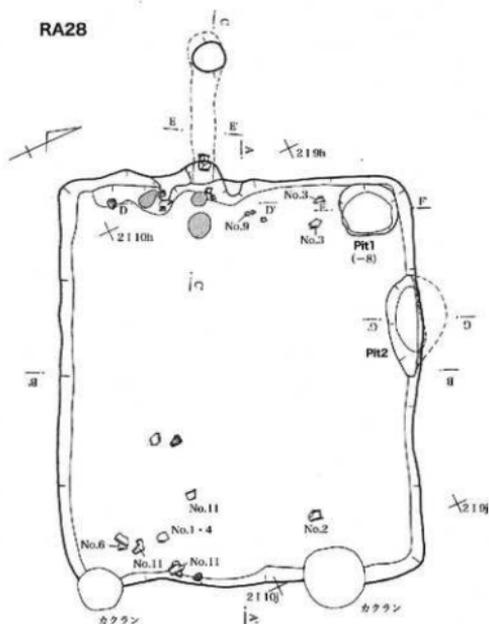
〔土器〕 総数11点出土している。内訳は土師器壺8点、土師器甕2点、あかやき壺1点で全点掲載している。

口縁部形態は4・6・7がa類、1・3・5がb類である。1・2の内面はヘラミガキ後に黒色処理が施されている。

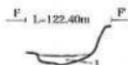
底面調整は2が手持ちヘラケズリで、それ以外は回転糸切りが中心となっている。あかやき壺(11)は砂底である。土師器甕は外面がヘラケズリ、内面がハケ目で調整されている。あかやき壺(11)はロクロ調整後、外面がヘラケズリ、内面がハケ目で調整されており、須恵器甕の製作技法に似る。8の胴下半部に線刻が刻まれている。土師器甕の口縁部は直立気味となるものが主体である。(八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。平面形は長方形で短辺にカマドがある。時期は埋土中に火山灰を含まない点、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

RA28



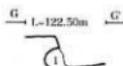
PH1



RA28 PH1

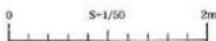
1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含

PH2



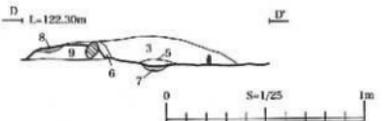
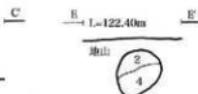
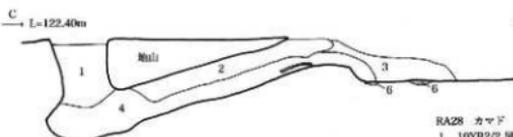
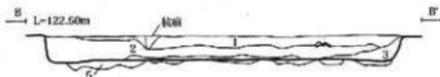
RA28 PH2

1. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含



RA28 遺跡上

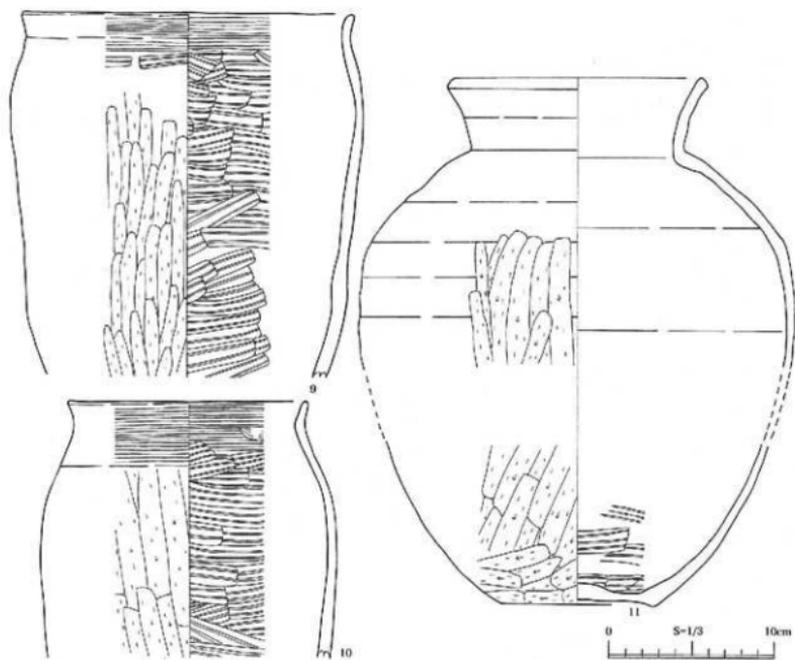
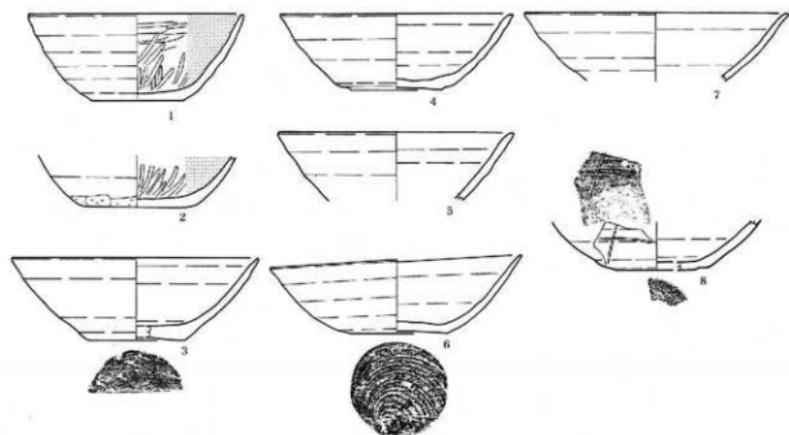
1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (多量)
3. 10YR2/1 黒色土 しまり強 柱線物少ない
4. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
5. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 張り方理上



RA28 カマド

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強
2. 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 褐色土ブロック・粘土粒含
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 遺構物上ブロック含
4. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック・粘土粒含
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色土 天井知源ブロック含
6. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒含
7. 5YR4/6 赤褐色土 遺構物上
8. 5YR3/6 暗赤褐色土 二次準硬焼土ブロック
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色土 焼結質土

第112図 R A 28住居跡



第113図 RA 28住居跡出土遺物

## RA29住居跡

遺構 (第114・115図 写真図版34)

〔位置〕 第4次調査区北東部の215kグリッド付近に位置し、南西側のRA28住居跡からは3mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ正方形に近いが、南壁の東寄りに張り出す部分がありこれを合わせると台形状になる。規模は北壁5.2m、東壁6.0m、南壁4.8m、西壁5.2m。主軸方向はN-20°-E。

〔堆積土〕 上部1層と下部3層の夾雑物を含まない黒色土で、中間の褐色土ブロック、灰白色火山灰ブロック、焼土粒が含まれる2層黒褐色土が主体となる。層界は中央が窪むレンズ状となる。中央部の床面直上には二次堆積の焼土ブロックが散在する。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。南壁側では中央から東側に15cmの段差をもって一段高いテラス状の張り出しがある。3号カマドは内側の段差に設置されており、これの廃絶後に掘り広げられたものと考えられる。床面は掘り方壇土上面で、ほぼ平坦となり中央部の硬化が著しい。

〔カマド〕 1号カマド(北壁)、2号カマド(西壁)、3号カマド(南壁)の3基を検出した。

1号カマドは北壁のほぼ中央に設置される。煙道方位はN-20°-W。燃燒部は底面に形成された径30cm程の焼成面のみ残存する。土器片が散在するが支脚は確認できない。煙道は全長180cmで下降しながら先端の径35cm深さ60cmの煙出し孔へ傾り貫かれる。手前側の煙道天井は崩落し、陥没部分に黒色土が堆積する。煙出し孔は煙道先端に向かって斜めに掘り込まれている。

2号カマドは西壁の左寄り、南西コーナーに近い位置に設置される。煙道方位はN-75°-W。軸は褐色シルト積み上げて短く削り、燃燒部底面に径50cmの範囲で焼成面が形成される。焼成面の奥側には径15cmの円筒が置かれ、上部に土器片が被せられた状態で出土しており、支脚と判断される。煙道は全長150cmで下降しながら先端の径40cm深さ45cmの煙出し孔に向かって傾り貫かれる。煙道天井は全体に被熱により赤変するが変色部分が崩落する。また煙道埋土には灰白色火山灰の混入が認められる。煙出し孔上半には径10~20cm程の礫が集中的に投げ込まれている。

3号カマドは南壁の左寄り張り出し部で、もとの壁穴壁面と考えられる段差部分に設置される。煙道方位はN-170°-E。燃燒部は底面に掘られた楕円形の掘り込みのみ残存する。煙道は全長50cmで極めて短く傾り貫かれる。煙出し孔は張り出し部分の内部に開口しており径30cm深さ40cmの規模となる。埋土には焼土粒が含まれていることからカマド煙道と判断した。

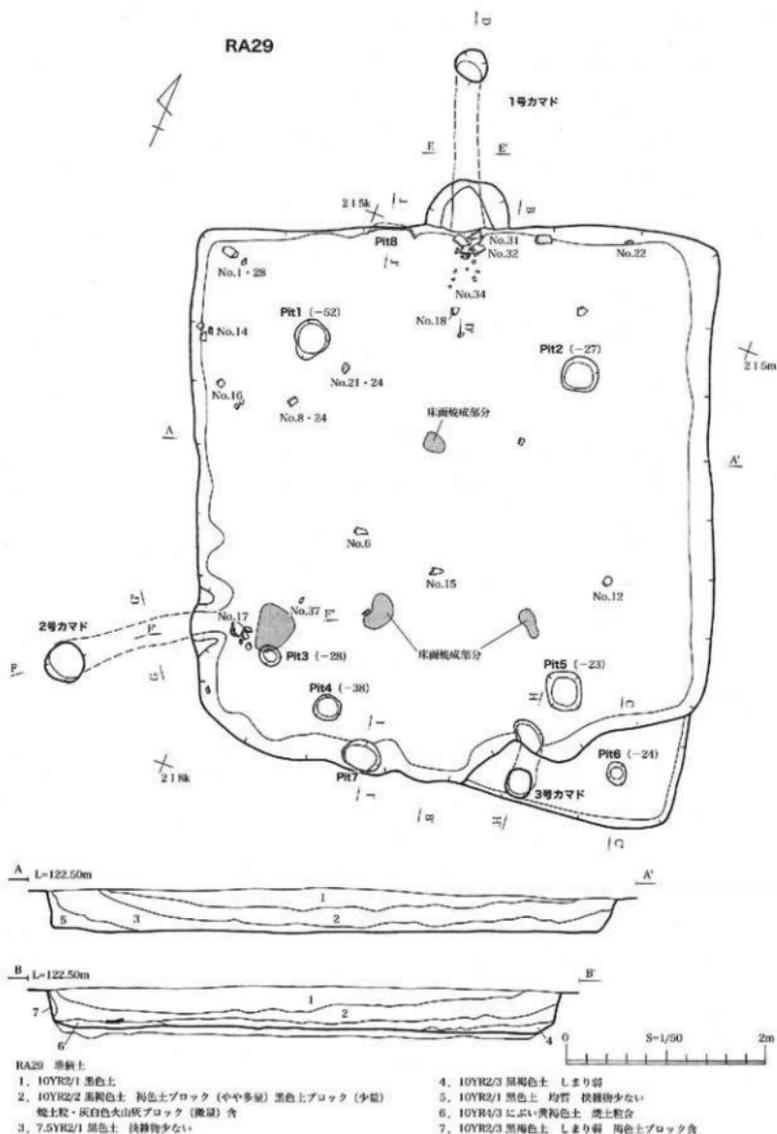
〔柱穴〕 Pit1・2・4・5の4基が中央部で方形の配置を構成しており、柱痕跡は確認していないが深さは20~50cmと深く掘られたもので、これらが土柱穴ではないかと思われる。南側のPit4・5は南壁にごく近い場所に位置する。2号カマド脇のPit3、南東コーナー付近の張り出し部分にあるPit6も小径で柱穴の可能性はあるが、主柱穴との関連は不明である。

〔土坑〕 南壁際にPit1、北壁際の1号カマド左にPit2の横穴状土坑がある。両者とも壁面下部を掘り込んで掘られており黒色土が堆積する。横穴状土坑以外の土坑は確認していない。(高木)

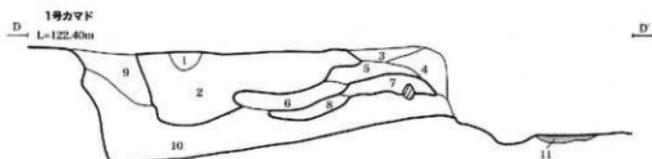
遺物 (第116~118図 写真図版99・100)

〔遺物出土状況〕 1・2号カマド周辺にある程度集中する他、北西部~中央部床面に散在する。遺構間接合は18の土師器帯がRG08清跡と接合する。

〔土器〕 総数で55点出土している。内訳は土師器帯16点、土師器高台付杯5点、須恵器杯4点、土師器甕



第114図 RA29住居跡(1)



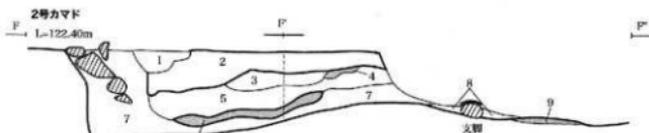
E— L=122.40m —E'

池山



RA29 1号カマド

1. 10YR2/3 黒褐色土 柱穴Pit (明道棟理上)
2. 10YR4/4 褐色土 池山
3. 10YR2/1 黒色土
4. 10YR2/2 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含 (少量)
5. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含
6. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり割 褐色土ブロック含 (少量)
7. 10YR2/3 黒褐色土 樫産天井筋部ブロック
8. 10YR4/4 褐色土 樫産天井筋部ブロック
9. 7.5YR2/2 黒褐色土 均質
10. 7.5YR3/2 黒褐色土 しまり割 褐色土ブロック・焼土粒含
11. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼産部焼土



G— L=122.40m —G'

池山



RA29 2号カマド

1. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含  
焼出し縁辺の筋部深もしくは別遺構理上
2. 10YR4/4 褐色土 池山
3. 10YR2/3 黒褐色土 しまり割 焼土粒・褐色土ブロック含
4. 5YR3/4 暗赤褐色土 樫産天井筋部筋部ブロック
5. 7.5YR2/1 黒色土 しまり割 均質 柱建物少ない  
池山筋部に灰白色火山灰ブロック含
6. 5YR3/3 暗赤褐色土 樫産天井筋部筋部ブロック
7. 7.5YR2/1 黒色土 しまり割 均質
8. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり割 焼土粒含
9. 5YR3/4 暗赤褐色土 焼産部焼土



南壁張り出し部

C— L=122.50m —C'



Pit 7

L=122.40m



Pit 8

L=122.40m

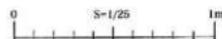
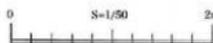


RA29 Pit 7

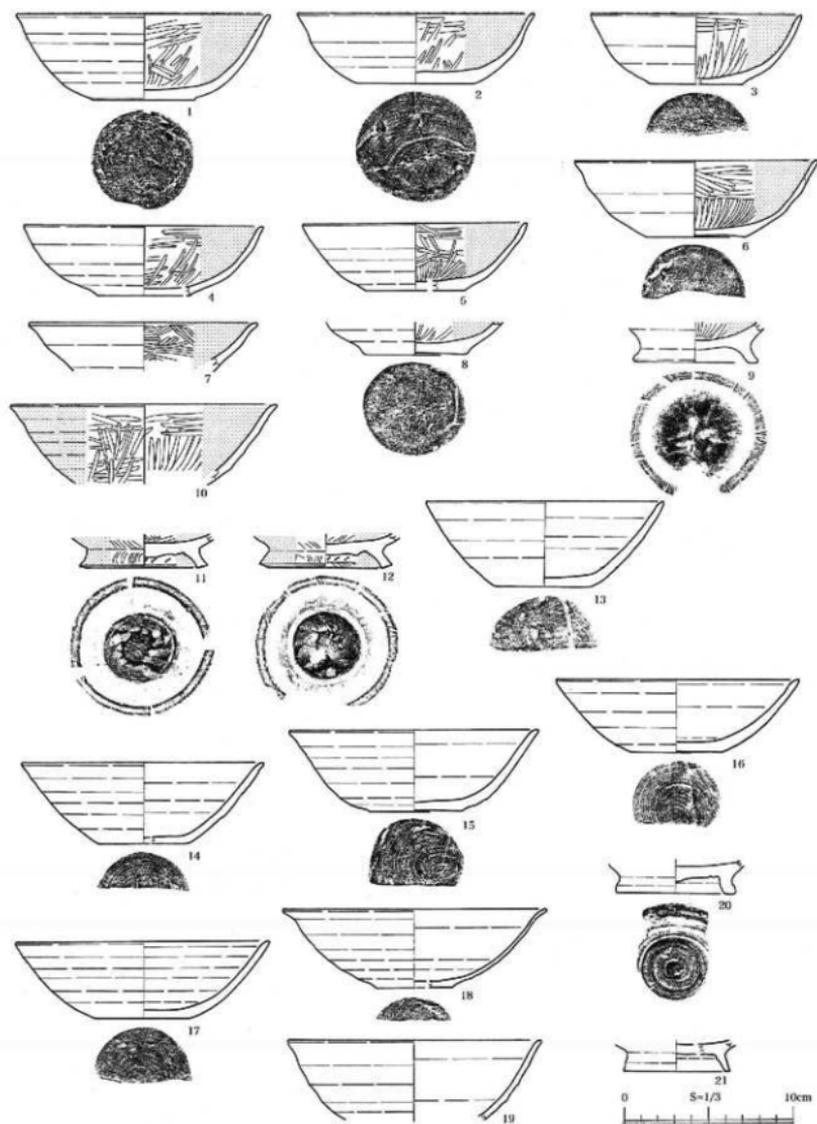
1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含

RA29 Pit 8

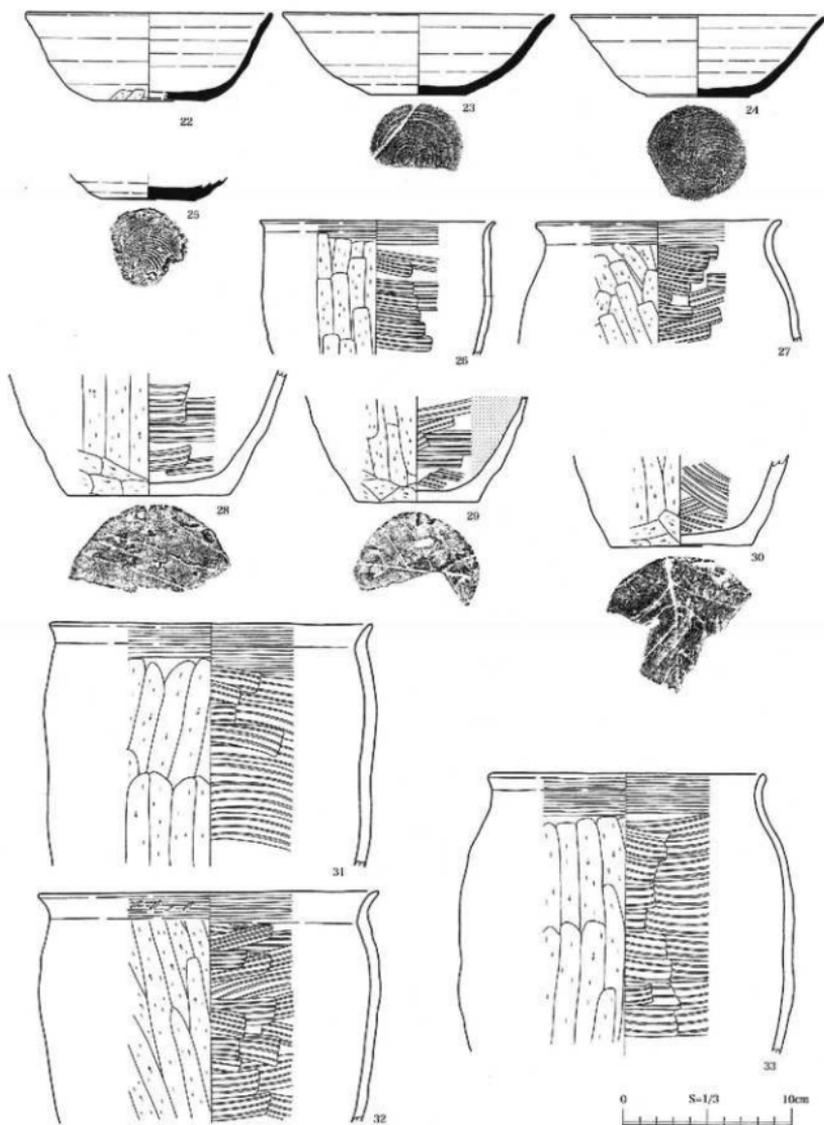
1. 10YR2/2 黒褐色土 均質



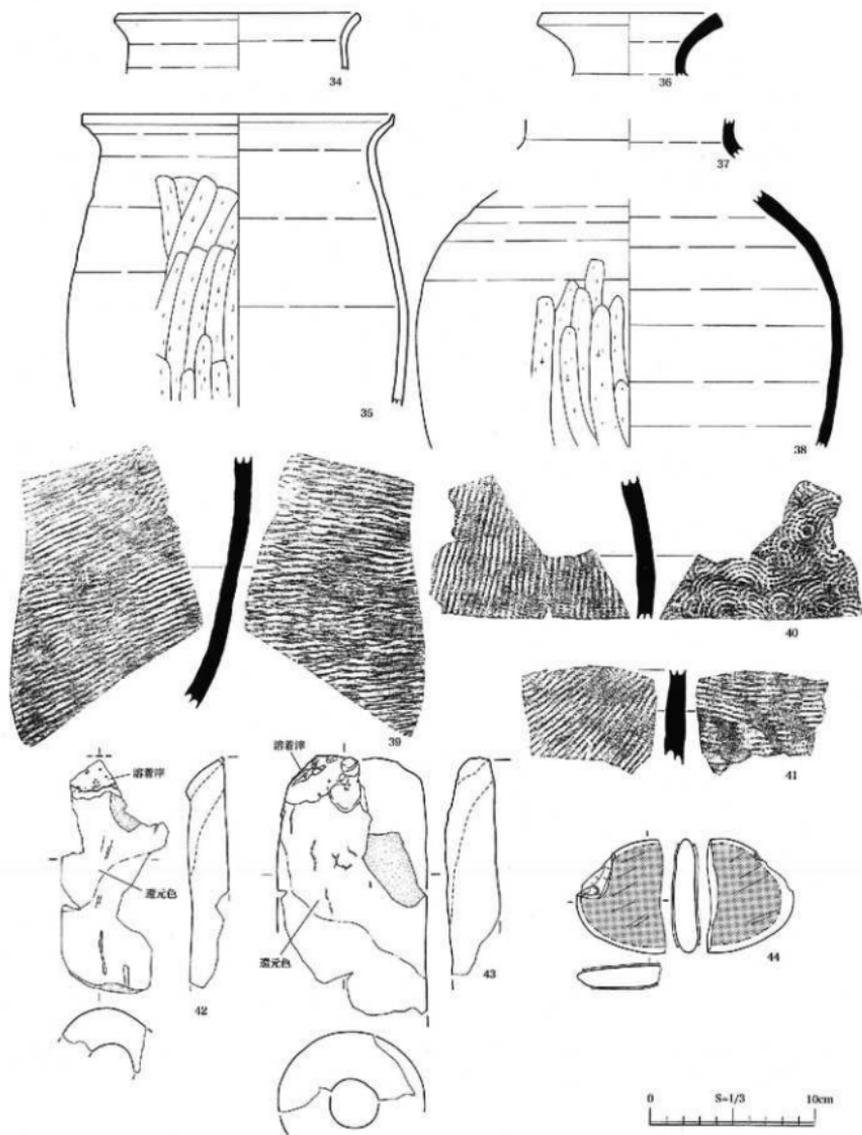
第115図 RA29住居跡(2)



第116図 R A 29住居跡出土遺物 (1)



第117图 RA 29住居跡出土遺物(2)



第118圖 RA29住居跡出土遺物(3)

22点、須恵器壺4点、須恵器甕4点で、うち41点を掲載している。

口縁部形態は1～3・7・10・17～19・23・24がa類、4～6・13～16・22がb類である。1～9の内面はヘラミガキ後に黒色処理が施されている。10・11は内外面に黒色処理が施されている。

上師器高台付杯の9・11・12は指オサエ、20・21は高台接合後ロクロナデによって調整されている。

土師器甕はいずれも外面ヘラケズリ、内面ハケ目によって調整されている。底面は木炭痕が多い。(八木)  
 [土製品] 42・43の羽口がある。同一個体かも知れない。先端に溶着滓が見られる。他に羽口小片が堆積土下部から複数出土している。

[石器] 41は凝灰岩の偏平礫を使用した小型の磨石で、両面に摩滅痕が見られる。

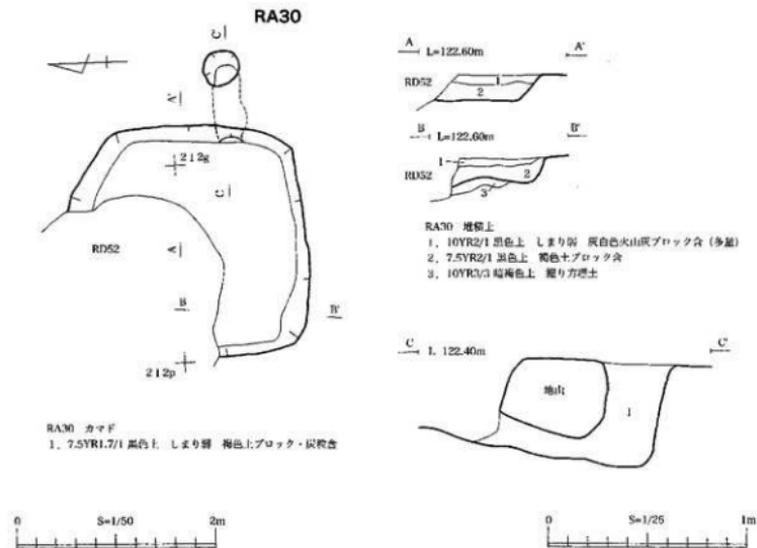
[鉄滓] 図示していないが複数の鍛冶滓が床面～堆積土下部にかけて出土している。

小結 本住居跡は4本の主柱穴、3基のカマドを持つ大型の住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況から見て1号カマド→2号カマドへの作り替えが想定される。3号カマドはごく小さな煙道を持つもので、主たるカマドとして機能していたかどうかは疑問がある。また南東部は3号カマド廃絶後にテラス状に張り出させたものと考えられる。主柱穴とした4基のピットは1・2号カマド両者の位置と整合しており、上屋構造を大きく変えないでカマドのみ作り替えられた可能性がある。時期は埋土中の灰白色火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

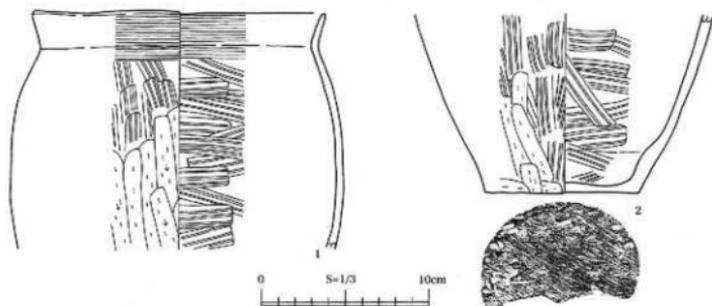
## RA30住居跡

遺構 (第119図 写真図版35)

[位置] 第4次調査区北東端の2I2pグリッド付近に位置し、南側のRA31住居跡からは2.5mの間隔



第119図 RA30住居跡



第120図 R A30住居跡出土遺物

を置く。北西側がRD52土坑に切られる。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 残存部分から推定して、全体の平面形は北壁が張り出す歪な方形と捉えられる。規模は東壁1.9m、南壁2.1m。主軸方向はN-03° - E。

〔堆積土〕 上部の灰白色火山灰を多量に含む1層黒色土、下部の褐色土ブロックを含む2層黒色土と分層される。

〔壁・床面〕 4辺ともやや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。床面は掘り方埋土上面で、ほぼ平坦である。硬化部分は見られない。

〔カマド〕 東壁の右寄りに設置される。煙道方位はN-90° - E。燃焼部は残存せず焼成面の痕跡も確認できない。煙道は全長80cmと短く、下降しながら先端の径35cm深さ55cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道埋土には炭化物が含まれる。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 なし。

遺物(第120図 写真図版101)

〔土器〕 土師器甕2点、須恵器甕1点が出土しており土師器甕2点を掲載している。土師器甕の内外面にハケ目、外面の胴下半部にヘラケズリが施されている。2の底面もハケ目によって調整されている。

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。カマドの残存状況は不良で破壊された可能性がある。時期は埋土中の火山灰、床面出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。(高木)

### R A 3 1 住居跡

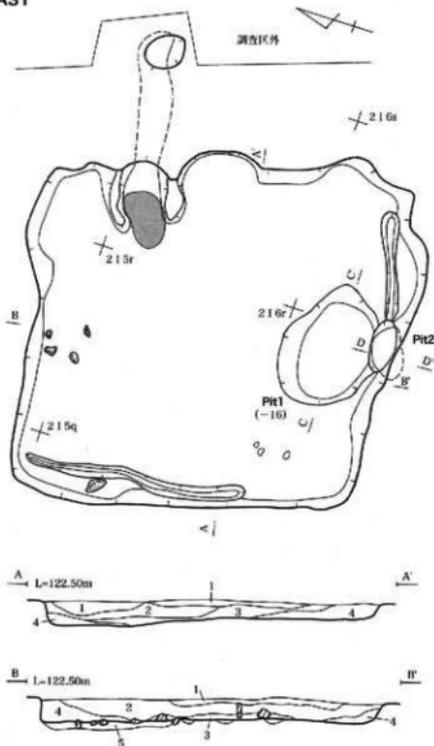
遺構(第121・122図 写真図版35)

〔位置〕 第4次調査区北東端の215pグリッド付近に位置し、北側のR A30住居跡からは2.5mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

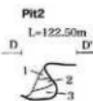
〔平面形・規模〕 平面形は北東・南西コーナーが鈍角になり全体では平行四辺形と捉えられる。規模は北壁3.4m、東壁3.8m、南壁3.6m、西壁3.4m。主軸方向は平行する東西壁の方向としてN-17° - W。

〔堆積土〕 上部の灰白色火山灰起源と思われる火山ガラス粒子を含む1層黒色土、中位の褐色土ブロック

RA31



- RA31 Pit 1  
 1. 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱 均質  
 2. 10YR2/3 黒褐色土 しまり弱 褐色土ブロック含



- RA31 Pit 2  
 1. 10YR3/2 黒褐色土  
 2. 10YR4/6 褐色土 黒褐色土ブロック含  
 3. 10YR3/2 黒褐色土 炭粒・焼土粒含

- RA31 層成土  
 1. 7.5YR2/1 黒色土 均質 火山ガラス粒子含  
 2. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (多量)  
 3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土粒含 (少量)  
 4. 7.5YR2/1 黒色土 しまり弱 均質 炭屑物少ない  
 5. 10YR4/4 褐色土 しまり強 振り方粗土

第121図 RA31住居跡(1)

を含む2・3層暗褐色～黒褐色土、壁寄り床面直上の均質で夾雑物が少ない4層黒色土に分類した。

〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均20cmの残存。床面は掘り方埋土上面で、南側は地山礫層上に薄く貼床を施した状態である。床面は全体に硬化が進みほぼ平坦となる。

〔カマド〕 東壁の左寄りに設置される。煙道方位はN-76°-E。袖は角礫と土器片を芯材として埋め込み、暗褐色シルトが貼り付けられる。弧状に伸びる袖に囲まれた燃焼部底面には径60×40cmの焼成面が形成され、中央に礫が置かれる。表面の被熱が顕著で支脚として使用されたと見られる。また燃焼部埋土には天井面の被熱部分が落ち込んだ状態で残存する。煙道は全長140cmで下降しながら先端の径40cm深さ40cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道横断面形状は潰れた状態だが、天井が崩落した痕跡は見られない。煙道埋土には焼土粒が含まれ、煙出し孔には礫が多数投げ込まれている。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 南壁際中央にPit1、これに隣接して南壁を挟り込んで掘られた横穴状土坑のPit2がある。Pit

1は皿状に浅く掘り込まれ、褐色土ブロックを含む黒褐色土が堆積する。Pit 2は下部に炭化物、焼土粒が含まれる。

[周溝] 西壁際と南壁際の東寄りに浅い溝が伸びる。幅10~15cm程で住居堆積土と同様の黒色土で埋没しており、壁材等の痕跡は確認できない。(高木)

遺物(第123・124図 写真図版101)

[遺物出土状況] 遺物の大部分はカマド周辺に集中する。特に左袖外側床面にまとまった出土がある。カマド部分以外の床面からの遺物出土はほとんどない。

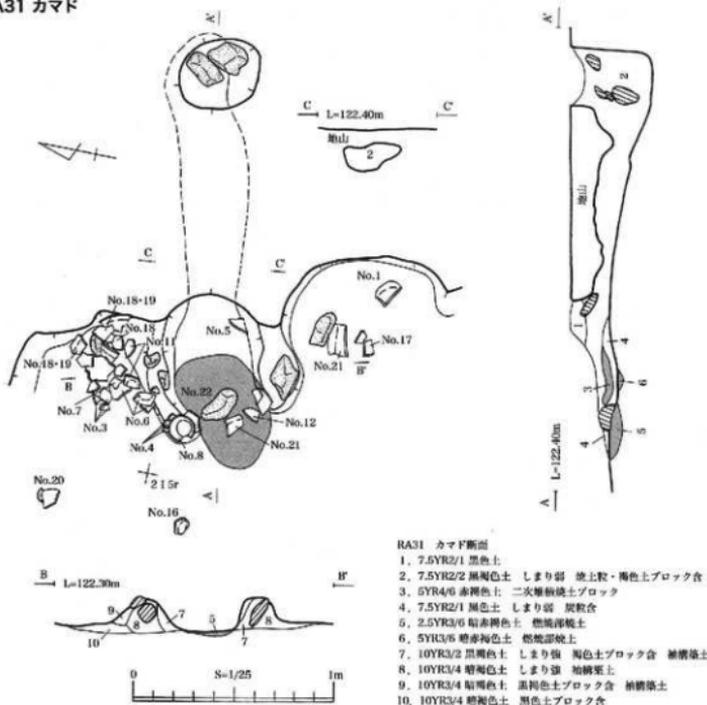
[土器] 総数26点出土している。内訳は土師器坏14点、土師器高台付坏2点、土師器甕7点、須恵器甕2点で、うち23点掲載している。

口縁形態は2・3・8・12~14がa類、1・4・5・9・10・11がb類である。1~5の内面はヘラミガキ後黒色処理が施され、6~8は内外面に同様の処理が施されている。7・8は胎土に金雲母を含む。

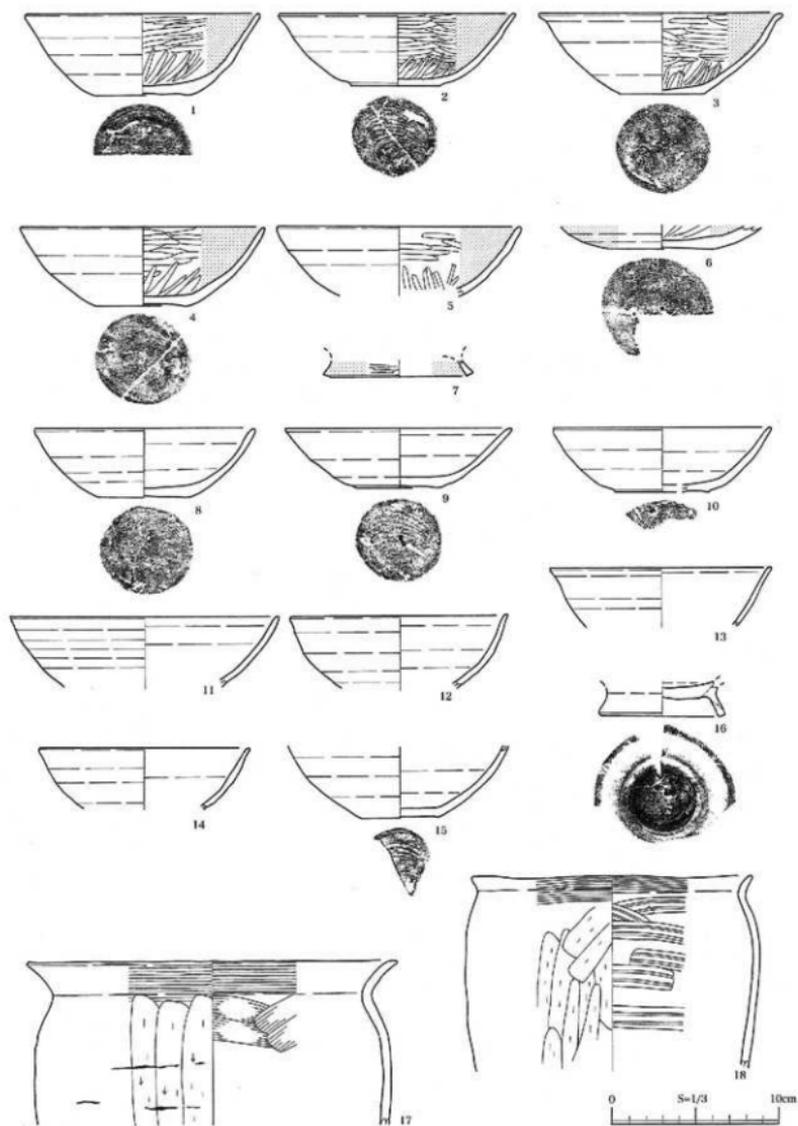
土師器高台付坏の高台は、底面を回転糸切りで切断した後に接合されている。(八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の住居跡である。時期は埋土上部の火山灰、床面出土土器より

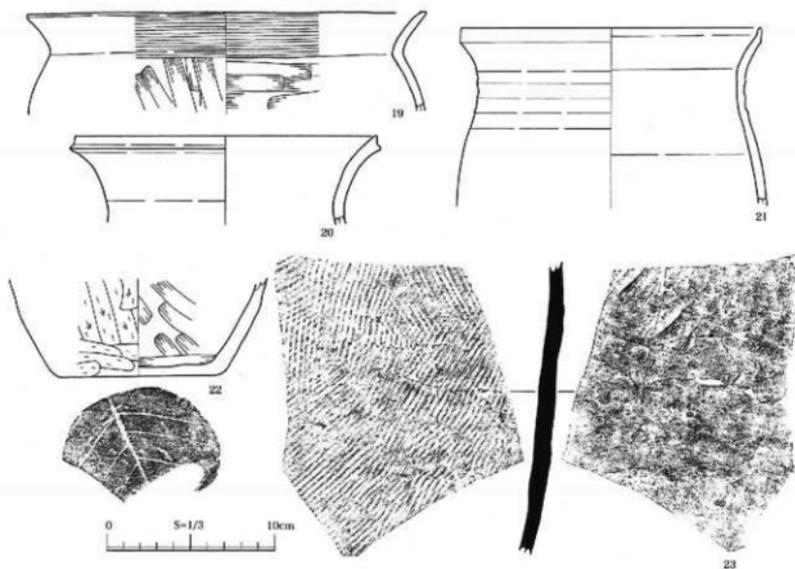
### RA31 カマド



第122図 RA31住居跡(2)



第123圖 RA31住居跡出土遺物(1)



第124図 RA 31住居跡出土遺物(2)

10世紀初頭の年代が想定される。

(高木)

### RA 3 2 住居跡

遺構(第125図 写真図版36)

〔位置〕 第4次調査区南東部の2 I 15eグリッド付近に位置し、南西部をRA 26住居跡に切られる。また、南東側のRA 25住居跡からは1mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

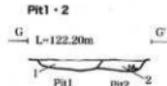
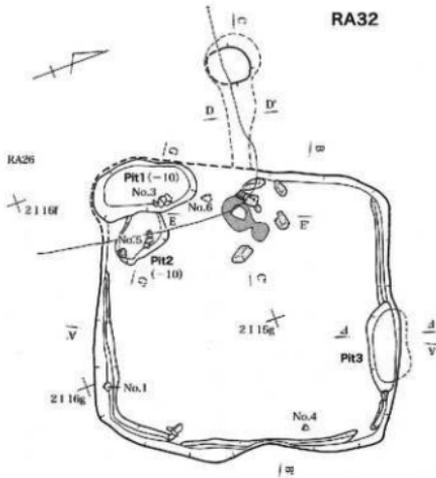
〔平面形・規模〕 RA 26住居跡との重複部分では、本住居跡の方が床面が低いため形状が判明する。平面形はやや歪な方形で、規模は北壁2.7m、東壁2.9m、南壁2.7m、西壁2.7m。主軸方向はN-24°-E。

〔堆積土〕 上半の炭化物を含む1層黒褐色土、下半の褐色土ブロックを含む2層黒色土に分離した。2層の褐色土ブロックはRA 26住居跡に隣接する南西側に集中する。

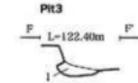
〔壁・床面〕 4辺とも急角度で立ち上がる。壁高は平均30cmの残存。床面は掘り方理土上面でほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

〔カマド〕 西壁のほぼ中央に設置される。煙道方位はN-73°-Wで西壁とは直交せず斜めに伸びる。袖は褐色シルト積み上げでごく低い高まりとして残存する。燃焼部底面には径40×25cmの焼成面が形成され、周囲にカマド構成材とみられる角礫が散在する。この中には支脚として設置されたものが含まれている可能性があるが特定できない。煙道は南側半分をRA 26住居跡に切られるが、縦断面形状は概ね把握できる。全長140cmで下降しながら先端の径40cm深さ55cmの煙出し孔に向かって割り貫かれる。煙道天井の手前側は被熱により赤変する。煙出し孔下部は煙道の延長線上で奥に扶られた状態となっている。

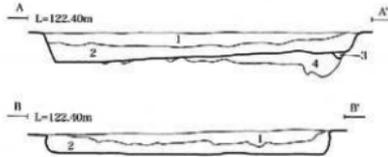
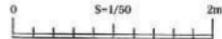
RA32



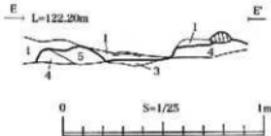
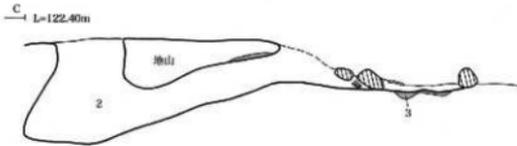
- RA32 PH1  
1. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック・焼土粒含
- RA32 PH2  
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含



- RA32 PH3  
1. 10YR2/2 黒褐色土 下部に褐色土ブロック含

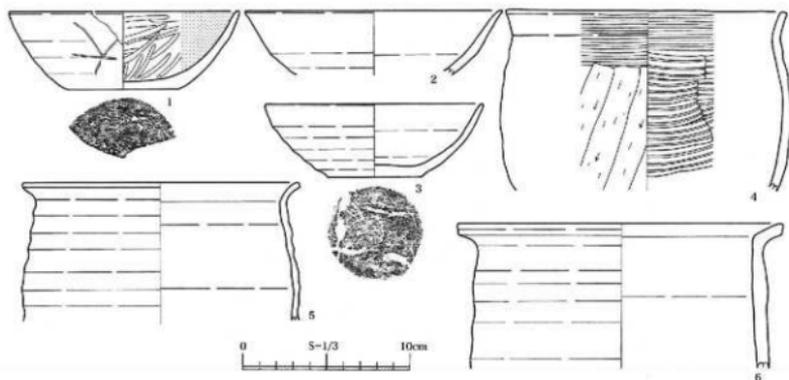


- RA32 塋塚土
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭粒含
  - 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (沿側に傾在)
  - 10YR3/2 黒褐色土 河砂混
  - 10YR3/2 黒褐色土 しまり強 褐色土ブロック含 磁り方り土



- RA32 カマド
- 10YR3/2 黒褐色土
  - 7.5YR1.7/1 赤色土
  - 5YR4/4 に近い赤褐色土 焼灰混
  - 10YR4/4 褐色土 磁器片土
  - 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒含

第125図 R A 32住居跡



第126図 RA32住居跡出土遺物

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 カマド左側の住居南西コーナーにPit1・2、北壁際中央に横穴状土坑のPit3がある。Pit1は楕円形で浅く掘り込まれており、焼土粒を含む黒褐色土が堆積する。Pit2はPit1と接しており、Pit1より古いものと判断したが確定ではない。同様に浅く掘られた皿状の土坑で黒褐色土が堆積する。Pit3は壁面下部を掘り込んで掘られる。堆積土には褐色土ブロックが含まれる。

〔周溝〕 北・東・南壁際の3辺にほぼ連続して浅い溝が伸びる。幅10cm以下で黒褐色土が堆積する。壁材等の痕跡は確認できない。 (高木)

遺物 (第126図 写真図版102)

〔遺物出土状況〕 Pit1・2、床面から土器が出土している。他にカマド周辺に自然礫が散乱する。

〔土器〕 土師器坏3点、土師器甕3点が出土している。土師器坏3点の口縁部形態は全てb類である。1は内面ヘラミガキ後、黒色処理が施されている。胴下半部に線刻が刻まれている。 (八木)

小結 本住居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。RA26住居跡との新旧関係、埋土中に火山灰を含まない点、床面出土土器より9世紀後半の年代が想定される。 (高木)

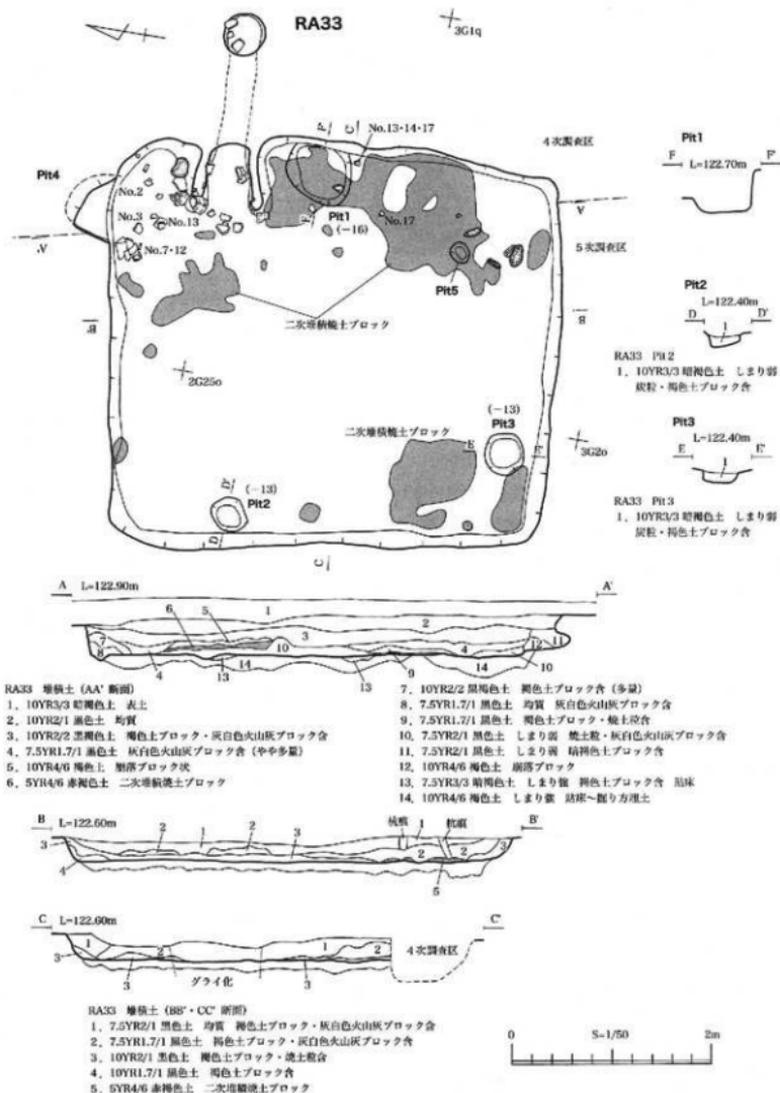
### RA33住居跡

遺構 (第127・128図 写真図版36)

〔位置〕 第4・5次調査区にまたがる2G25グリッド付近に位置し、カマドを含めた東側1/3は第4次調査、西側2/3は第5次調査で精査を行った。南東側のRA17住居跡からは1m、南西側のRA37住居跡からは2mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 平面形はやや南北に長い長方形で、規模は北壁4.1m、東壁4.4m、南壁3.8m、西壁4.2m。主軸方向はN-10°-Wである。

〔堆積土〕 上部から床面直上まで灰白色火山灰ブロックを含む黒色土(AA' 断面3・4・8・10層、B'・C' 断面1・2層)が主体となる。下半〜床面直上では二次堆積の焼土ブロック(AA' 断面6層、

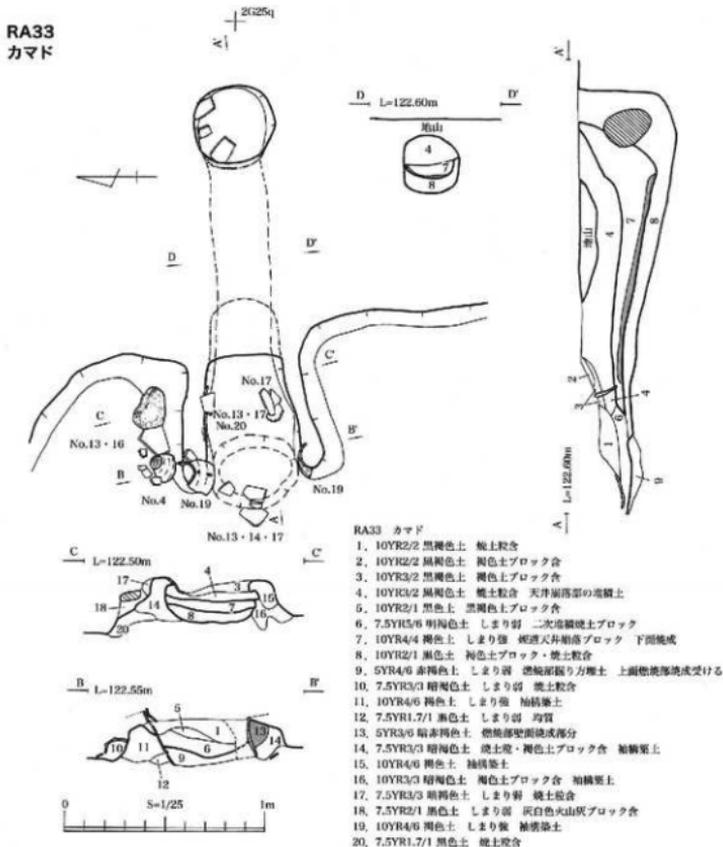


第127図 RA33住居跡(1)

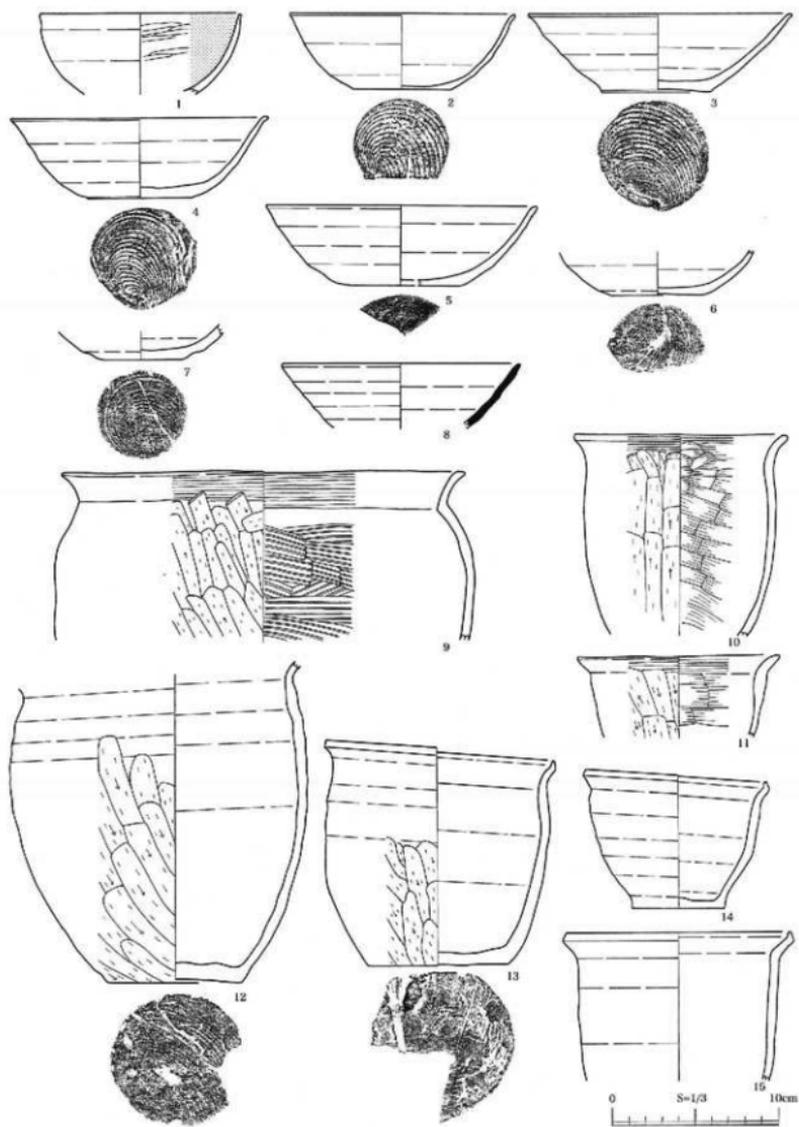
B B' 断面5層)が薄く堆積する。またこれと前後して焼土粒を含む黒色土、崩落した褐色土ブロックが見られる。焼土ブロックは住居東半を中心として一部西壁際に広がる。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土上面に暗褐色粘土による貼床が施され、ほぼ平坦である。床面は全体に硬化が進んでいる。

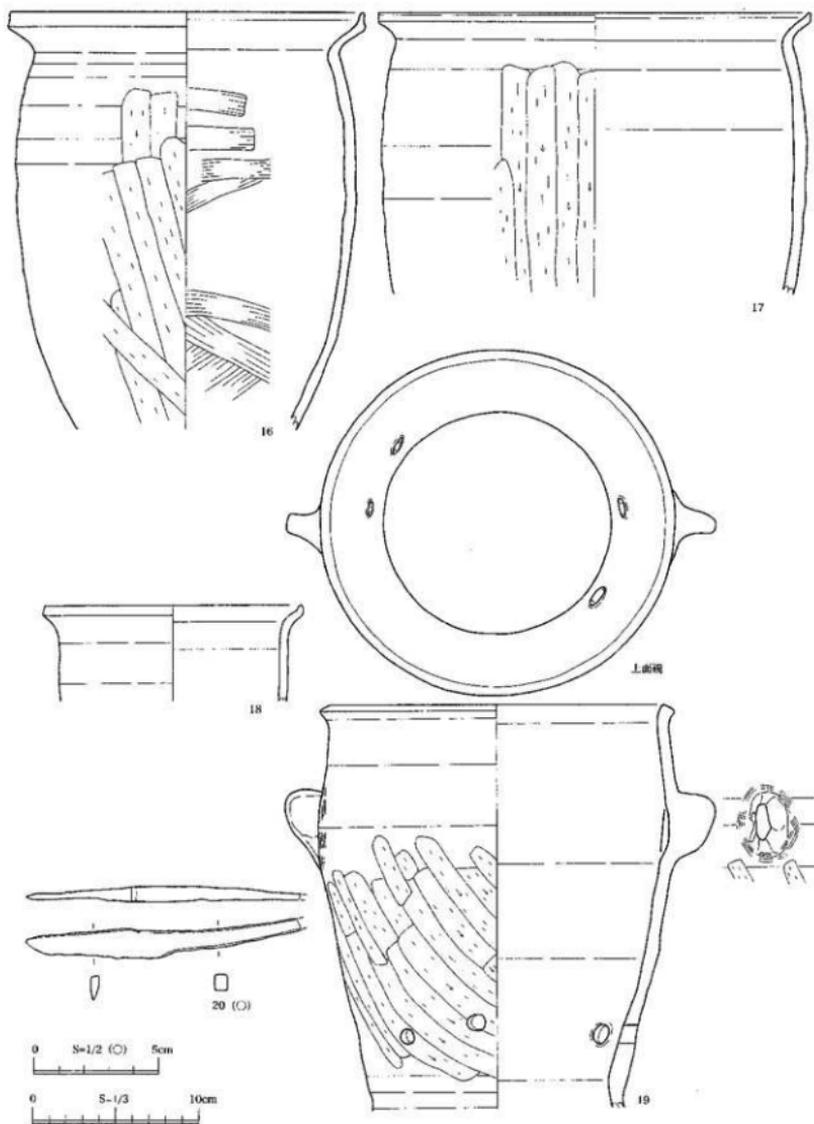
〔カマド〕 東壁左寄りに設置される。煙道方位はN-87°-E。袖は褐色、暗褐色シルトを積み上げて構築しており、両袖の先端内側には土師器甕破片が貼り付けられている。甕は縦に2分割したものを使用し、それぞれ倒立させ外面側を燃焼部内側に向けた状態となる。燃焼部内部は径40cmの浅い掘り込みがあり、埋め戻した上面に焼成面が形成される。燃焼部内部を含めカマド周辺に土器片、礫が散在するが、支脚は確認できない。煙道は全長130cmで下降しながら先端の径40cm深さ50cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙



第128図 RA33住居跡(2)



第129圖 RA33住居跡出土遺物(1)



第130圖 R A 33住居跡出土遺物 (2)

道天井は全体が崩落陥没しており、煙出し孔開口部の径は推定値である。また煙道天井は被熱による変色が顕著に見られる。煙出し孔上部には土器片、礫が投げ込まれている。

〔柱穴〕 なし。

〔上坑〕 カマド右側の東壁中央にPit 1、西壁際にPit 2・3、カマド左側の北壁に横穴状土坑のPit 4がある。Pit 1は位置から見て貯蔵穴と考えられる。Pit 4は北壁から大きく張り出しており下部で壁面を挟り込んで掘られる。堆積土下部に褐色土ブロックがあり天井部が崩落したものと思われる。 (高木)

遺物 (第129・130図 写真図版102・103)

〔遺物出土状況〕 カマド周辺に遺物が集中する。特にカマド燃焼部と左袖外側床面で顕著である。一方、住居西側からはほとんど遺物の出土が見られない。

〔上坑〕 総数22点出土している。内訳は土師器環7点、須恵器環1点、土師器甕13点、甗1点で、うち19点を掲載している。

環類の口縁部形態は全てa類である。1の上師器環は口縁部径が小さく器高が高い。内面調整はヘラミガキ後、黒色処理が施されている。環・甕どちらも底面の残る資料は回転系切り痕が認められる。

19の甗は下端を欠損する。削下半に椀木渡しの孔が4ヶ所開けられており、上半には耳状の把手が2単位つく。孔は2対になっており×字状に椀木を渡したと思われる。突起は上面観に見るように2対の孔のうち向かって右側のもの上部に位置する。 (高木)

〔鉄器〕 20の刀子がカマド燃焼部内部から出土した。

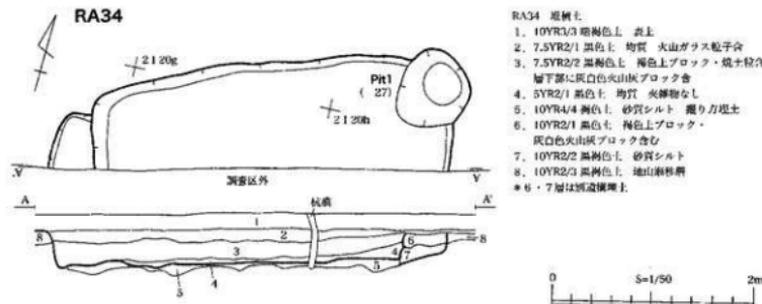
小結 本住居跡は1基のカマドを備えた中型の焼土住居跡である。カマド袖先端は土師器甕を縦分割した破片が設置される唯一の例となる。時期は埋土上部から床面直上にかけて含まれる灰白色火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。 (高木)

### RA 34 住居跡

遺構 (第131図 写真図版38)

〔位置〕 第4次調査区南東部の2120gグリッド付近に位置する。南側2/3ほどは調査以外に位置するため明らかでない。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 検出範囲の平面形は歪な方形を呈し、規模は北壁3.7m。西側で張り出し状の部分があ



第131図 RA 34住居跡

り、土坑等の別遺構を切っている可能性がある。北壁に直交する方向を主軸とするとN-20°-W。

【堆積土】 上部から均質な2層黒色土、褐色土ブロック、灰白色火山灰ブロックを含む3層黒褐色土、床面直上を覆う夾雑物の少ない4層黒色土と分層した。西側の張り出し、もしくは別遺構埋土にも火山灰ブロックが含まれる。

【壁・床面】 3辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面の硬化はあまり顕著ではない。

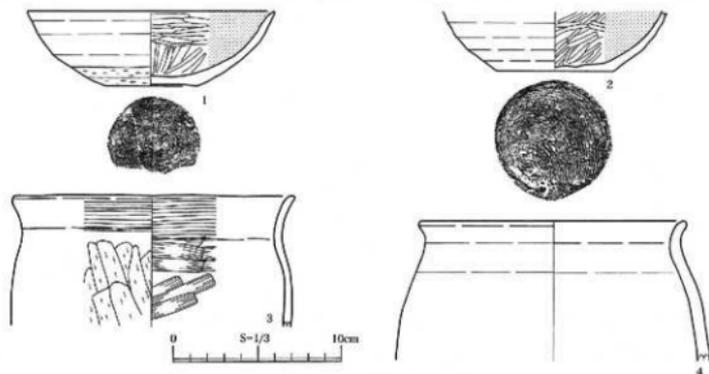
【カマド】 検出範囲内にはない。

【柱穴】 なし。

【土坑】 北東コーナーに張り出す状態にPit 1がある。住居跡を切る土坑とも思われたが、堆積土が堅穴と一連であり付属する土坑と判断した。床面から30cm弱掘り込まれており貯蔵穴の可能性はある。(高木) 遺物(第132図 写真図版103)

【遺物出土状況】 Pit 1、及び堆積土から若干の土器が出土している。

【土器】 土師器環2点、土師器甕2点がある。土師器環2点どちらも内面ヘラミガキ後黒色処理が施され



第132図 RA34住居跡出土遺物

る。口縁部形態は1がB類である。1の底面は回転ヘラ切り、2は回転糸切りで処理されている。(八木)

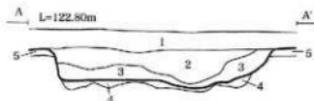
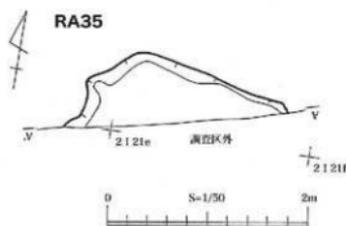
小結 本遺構はカマドの有無が不明であるが、規模、形状など他の小型住居跡に類似する状態から堅穴住居跡と判断した。時期は埋土中の火山灰、出土土器から9世紀末～10世紀初頃の年代が想定される。(高木)

### RA35住居跡

遺構(第133図 写真図版38)

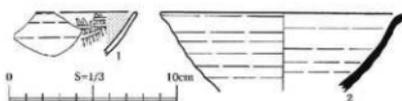
【位置】 第4次調査区南東部の2120cグリッド付近に位置する。調査区内では北壁側のごく一部のみ検出しており、大部分は調査区外となる。東側でRD78土坑とほぼ接しており、北側では風倒木痕を切る。検出面はⅢ層上面である。

【平面形・規模】 検出部分で見ると鈍角に開く北西コーナーがあり、北壁、西壁が伸びるが、全体の平面形、規模は不明である。主軸方向がやや東に振れる状態と考えられる。



- RA35 地層土
1. 10YR3/3 暗褐色土 表土
  2. 10YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
  3. 7.5YR1.7/1 褐色土 均質 夾雜物なし
  4. 10YR3/3~3/4 暗褐色土 しまり致 掘り方埋土
  5. 10YR2/3 黄褐色土 堆山面砂層

第133図 RA35住居跡



第134図 RA35住居跡出土遺物

【堆積土】 上半の灰白色火山灰ブロックを含む2層黒色土、下半の夾雑物が少ない3層黒色土に分層した。

【壁・床面】 やや緩い傾斜で立ち上がる。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土を床面としており、ほぼ平坦である。床面の硬化はあまり顕著ではない。

【カマド】 検出範囲内にはない。

【柱穴】 なし。

【土坑】 なし。

(高木)

遺物 (第134図 写真図版103)

【土器】 土師器杯1点、須恵器杯1点、須恵器甕1点出土している。口縁部形態は1がb類、2がa類である。1の内面はヘラミガキ後黒色処理が施されている。1の胎土には金雲母が含まれる。 (八木)

小結 本遺構は全体の形状、規模が不明であるため堅穴住居跡と断定するには躊躇せざるを得ないが、平坦な床面、掘り方を伴う点、方形と考えられる形状等、住居跡の一部分である可能性が高いと判断した。時期は埋土中の火山灰、出土土器から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。 (高木)

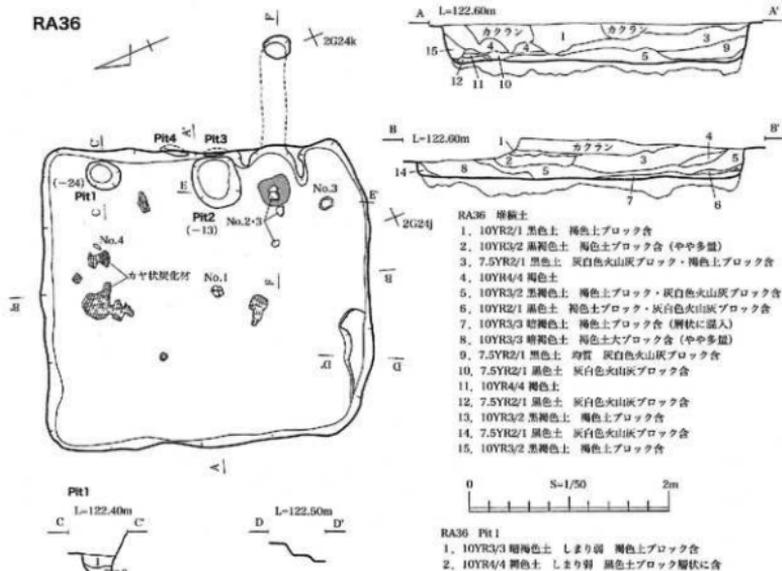
### RA36住居跡

遺構 (第135・136図 写真図版39)

【位置】 第5次調査区南西部の2G23jグリッド付近に位置し、南側のRA37住居跡からは5mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。

【平面形・規模】 平面形は若干歪な方形で、規模は北壁3.1m、東壁3.0m、南壁3.0m、西壁3.0m。主軸方向はN-22°-Eである。

【堆積土】 灰白色火山灰ブロックを含む黒色土と褐色土ブロックを含む黒褐色土、暗褐色土が互層状に堆積し複雑な層相を呈する。床面を覆う5・12・14層にも火山灰ブロックが含まれる。褐色土は上部の2・4層、下部の7・8層、壁際の15層等に集中し複数回にわたって流入した状況が想定される。中央部～北壁側の床面直上では炭化したカヤ類のまとまりが散在する。縦横の方向は概ね北壁に平行する。



第135図 RA36住居跡(1)

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均40cmの残存。掘り方埋土上面を床面としておりほぼ平坦で中央部の硬化が進んでいる。南壁際で10cm弱の段差を持つ部分がある。

〔カマド〕 東壁右寄りに設置される。煙道方位はN-112°-E。袖は褐色シルト積み上げで基部側のみ残存しており短く伸びる。燃焼部底面には径30cmの焼成面が形成されており、周辺には草木灰と思われる灰層集中ブロック(6層)も見られる。燃焼部奥側では天井部分の構築土と思われる褐色土ブロックが落ち込んだ状態で分布する。煙道は全長110cmで下降しながら先端の径30cm深さ55cmの煙出し孔に向かって斜り貫かれる。煙道横断面形状は潰れた状態だが天井が崩落した痕跡は見られない。煙道天井から煙出し孔側壁にかけては被熱による変色が顕著である。煙出し孔埋土には灰白色火山灰ブロックが含まれている。

〔柱穴〕 なし。

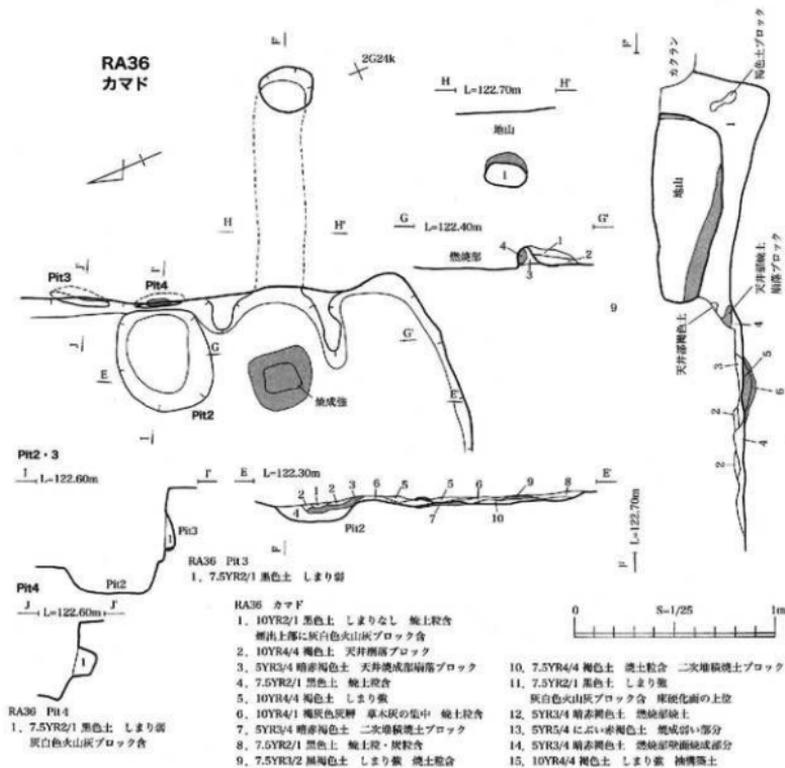
〔土坑〕 東壁際北寄りにPit 1、カマド左側に隣接してPit 2、東壁のカマド左に横六状土坑のPit 3・4がある。Pit 1は褐色土主体の堆積土、Pit 2は焼土粒を含む黒色土が堆積する。Pit 3・4共に壁面の中段を折り込んだ状態でPit 3底面はわずかに焼成を受けた痕跡を残す。(高木)

遺物(第137図 写真図版104)

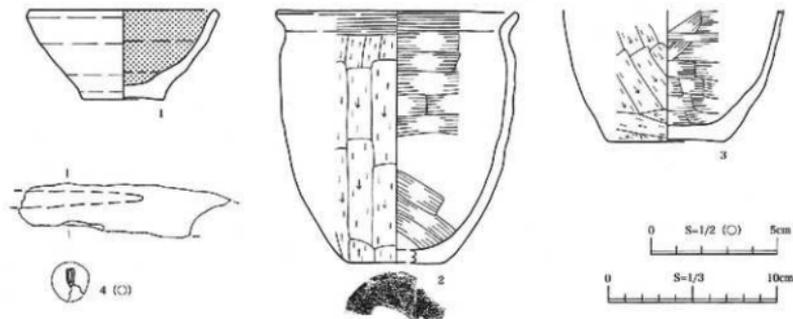
〔遺物出土状況〕 カマド周辺にやままとまった土器片の出土がある。

〔土器〕 総数で6点出土している。内訳は土師器杯1点、土師器甕5点、うち3点掲載している。1の口縁部形態はb類である。内面に付着物が認められる。底面は1・3がヘラナデ、2に木葉痕が残る。

(八木)

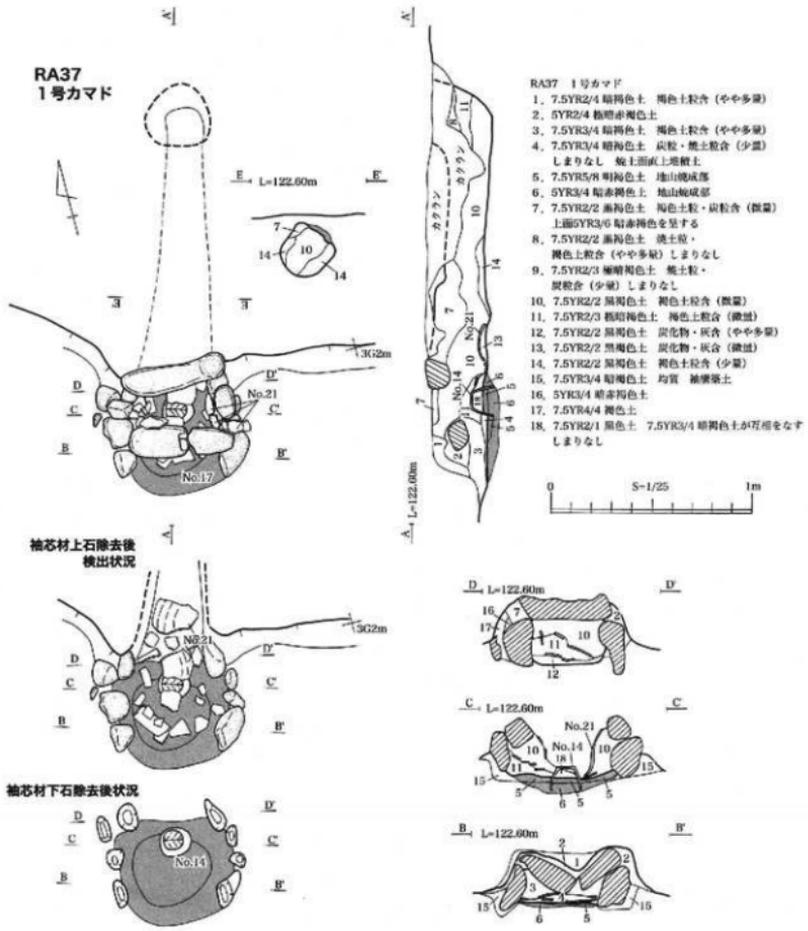


第136図 RA36住居跡(2)



第137図 RA36住居跡出土遺物

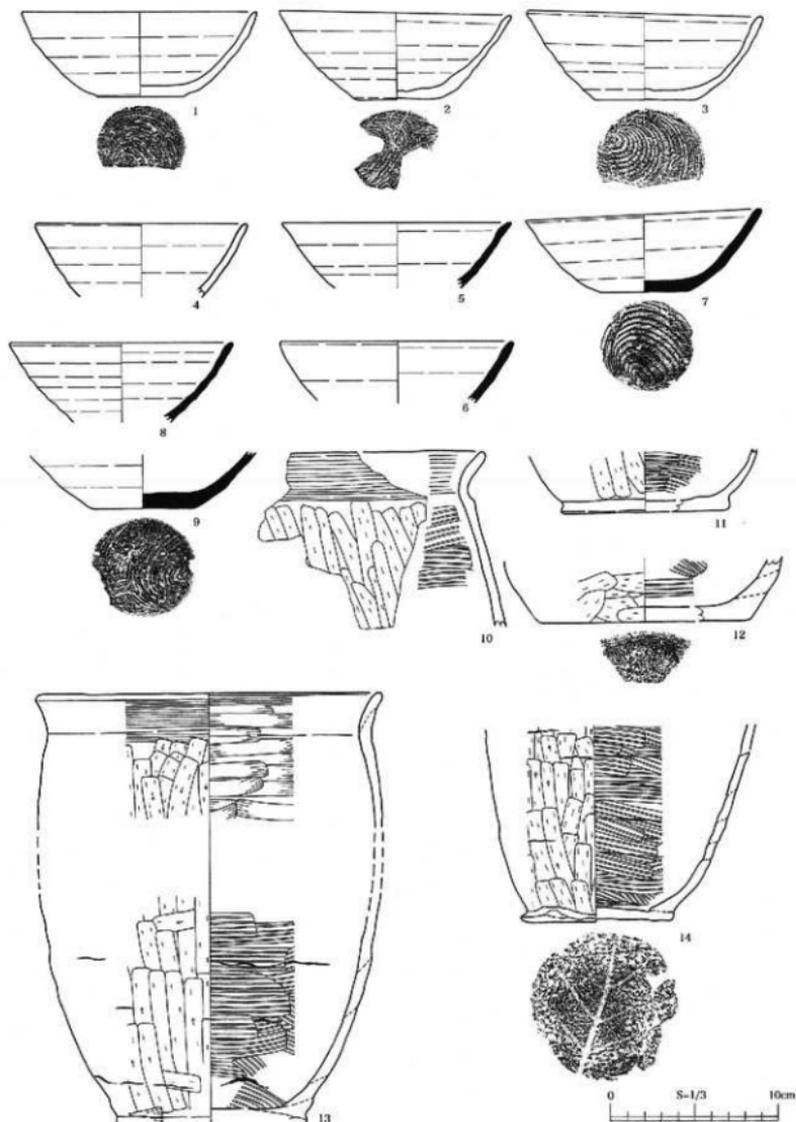




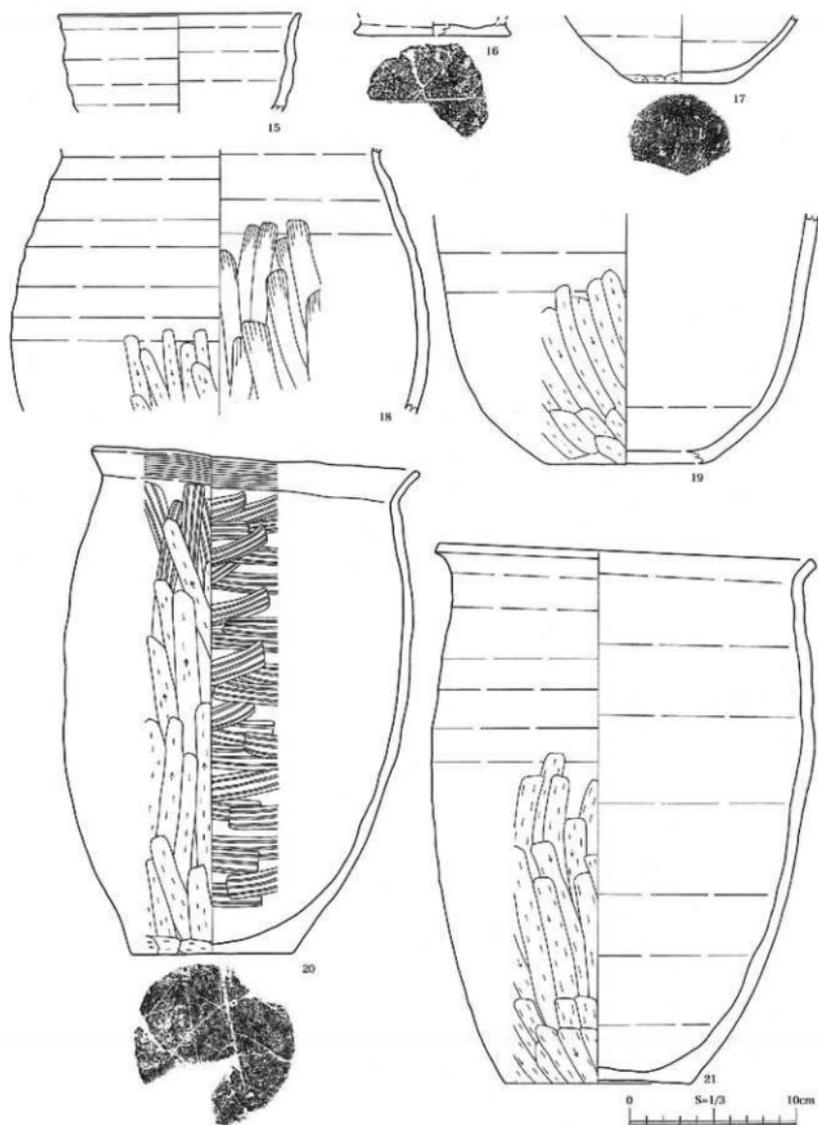
第139図 RA37住居跡(2)

ら5.4mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面である。  
 [平面形・規模] 平面形は若干歪な方形で、規模は北壁5.3m、東壁4.8m、南壁4.8m、西壁4.6m。主軸方向はN-18°-Wである。  
 [堆積土] 灰白色火山灰主体となる黒色土と黒色土、褐色土ブロックを微量含む黒褐色土が互層をなす。灰白色火山灰主体となる黒色土は1層にのみ認められる。東壁付近に堆積する4層は褐色土ブロックを含ま

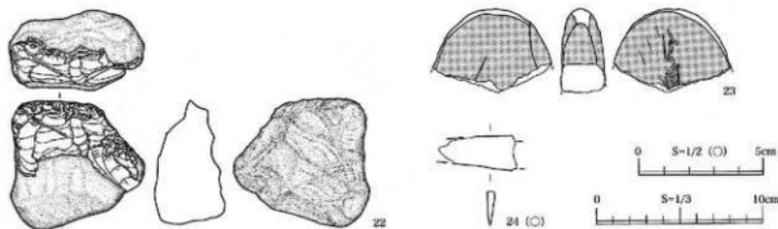




第141圖 R A37住居跡出土遺物(1)



第142圖 RA37住居跡出土遺物(2)



第143図 R A37住居跡出土遺物(3)

〔柱穴〕 中央西寄りと東壁際に認められる。柱の痕跡(径5×深さ20cm)を残す柱穴で、径18cm深さ25cmである。貼り床除去後に検出され、掘立柱建物跡との切り合いを考慮して住居周辺の検出作業を十分に行ったが、他にこのような柱穴は見つからなかった。貼り床の下で検出されたことから2号カマド使用時のもの、あるいは本住居跡に伴うものではない可能性がある。

〔土坑〕 2号カマド南脇にPit1、1号カマド西脇にPit2、東脇にPit4、さらに北奥にPit3を確認した。位置から見てPit1は2号カマドに、それ以外は1号カマドに伴うものと考えられる。Pit3は環(1)が逆位で1点のみ出土した。Pit4からは遺物が多く出土している。

遺物(第141～143図 写真図版104・105)

〔遺物出土状況〕 1号カマドと東脇のPit4から遺物がまとめて出土している。土師器甕(14)は、1号カマド燃焼部に逆位で支脚に転用されていた。20・21の甕は1号カマド内側、芯材礫のとして利用されている。3がRA38と、20がRA39出土片と接合している。一方カマドおよびカマド周辺以外の地点からの遺物出土はない。

〔土器〕 総数で21点出土している。内訳は土師器環5点、須恵器環5点、土師器甕11点で、うち21点を掲載している。環の口縁部形態は2・5がa類、1・3・4・6～8がb類で、b類が多い。底面調整は環が回転糸切り、甕は砂底が目立つ。

〔石器〕 石核、仕上げ砥石各1点出土している。石核は2号カマド燃焼部から出土しているが混入の可能性が考えられる。

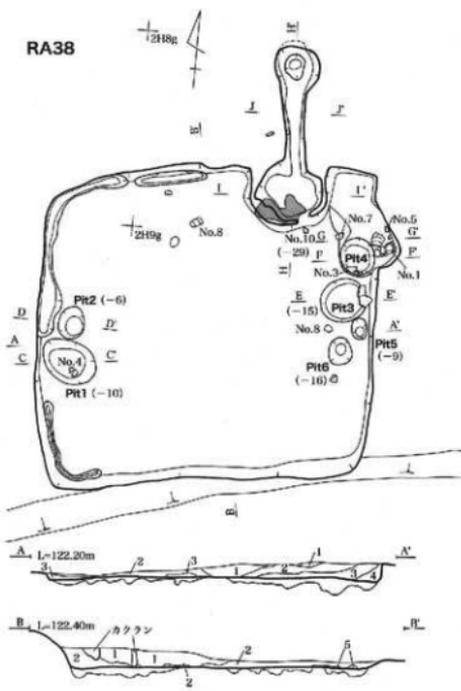
〔鉄器〕 24は床面出土の刀子刃部破片である。

小結 本住居跡は2基のカマドを備えた大型の住居跡である。2号カマドの袖は壊されているが、袖部分に鏝と鏝抜き取り痕が認められることから、カマドは2基とも芯材に鏝を用いている可能性がある。また1号カマドは甕を半壊し、燃焼部内側に据えられておりRA33の甕同様の使用形態を呈している。時期は埋土中に含まれる灰白色火山灰、床面出土土器から9世紀末～10世紀初頭の年代が想定される。(八木)

### R A 3 8 住居跡

遺構(第144図 写真図版43)

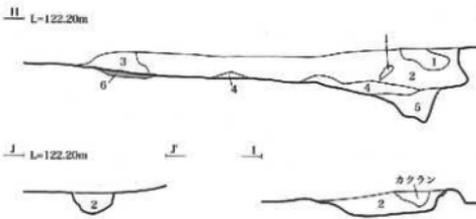
〔位置〕 第5次調査区北東部の2H9gグリッド付近に位置し、南東側のRA07住居跡からは10m、南側のRA13住居跡からは6mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面だが、一帯が近年の農地造成による削平を受けている場所にあり、竪穴上半の残存状況は不良である。



RA38

RA38 雑土上

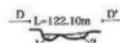
1. 10YR3/4 暗褐色土 しまり密 褐色土ブロック含 (多量)
2. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック・炭粒含
3. 10YR3/4 暗褐色土 しまり密 褐色土ブロック含 (多量)
4. 7.5YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (多量)
5. 10YR4/6 褐色土 腐落大ブロック 炭粒・焼土粒含



Pit1



Pit2



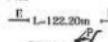
RA38 Pit1

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック・炭粒含

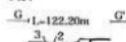
RA38 周溝・Pit2

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 腐落粘土
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (多量)

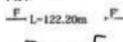
Pit3



Pit4



Pit4

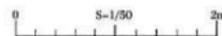


RA38 Pit3

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (多量)
2. 10YR4/4 褐色土 腐落大ブロック

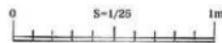
RA38 Pit4

1. 7.5YR2/1 黒色土 しまり密 炭粒・焼土粒含
2. 10YR3/4 暗褐色土 砂質シルト しまり密
3. 7.5YR4/4 褐色土 密く炭粒受ける
4. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭粒含
5. 5YR3/2 暗褐色土 しまりなし 焼土粒・炭粒含 (上部に集中)

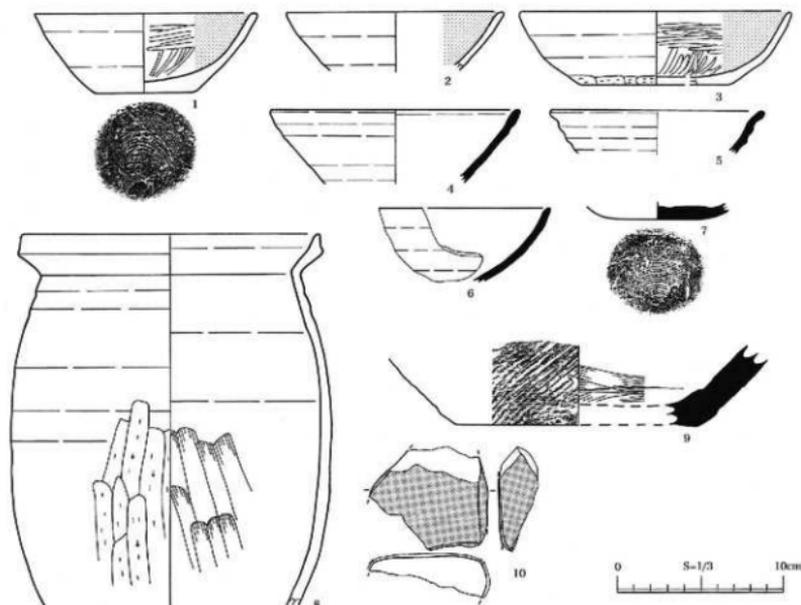


RA38 カマド

1. 10YR3/4 暗褐色土 しまり密 焼土粒含
2. 10YR2/2 黒褐色土 燃焼部内焼土粒含
3. 10YR2/2 黒褐色土 焼土粒集中
4. 10YR4/6 褐色土 しまり密 均質
5. 10YR3/4 暗褐色土 しまり密 黒色土ブロック含
6. 5YR3/4 暗褐色土 燃焼層粘土



第144図 RA38住居跡



第145回 R A 38住居跡出土遺物

〔平面形・規模〕 平面形は若干歪な方形で、規模は北壁3.3m、東壁3.1m、南壁3.2m、西壁3.2m。主軸方向はN-02°-Wである。

〔堆積土〕 上部1層暗褐色土と下部から壁際にかけて堆積する3・4層暗褐色土に褐色土ブロックが多量に含まれている。中間の2層黒色土は褐色土粒、炭化物を含む。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がるが北側はごく浅い立ち上がりのみ残る。壁高は南側で35cmの残存。掘り方埋土上面を床面としておりほぼ平坦で中央部の硬化が進んでいる。掘り方底面には半月状の掘削痕が明瞭に見られた。4辺の壁寄りに分布し中央部は空白となる。掘削作業の進行方向は把握できない。東壁の北寄りには一部張り出す部分がある。

〔カマド〕 北壁右寄りに設置される。煙道方位はN-10°-W。袖は地山褐色砂質シルト削り出して環状に残存する。焚き口側は若干低くなるが途切れてはいない。燃烧部底面には50×30cm程の焼成面が形成されている。燃烧部埋土には焼土粒が含まれる。煙道は全長130cmでやや下降しながら先端の径45cm深さ40cmの煙出し孔に向かって伸びる。上部を削平された位置にあり溝状の掘り込みとして確認したが、天井の有無は不明である。煙出し孔下部は中央を一旦掘り下げてから埋め戻している。

〔柱穴〕 なし。

〔土坑〕 西壁際中央にPit 1・2、東壁際中央にPit 3～6がある。いずれも円形で小型の浅い土坑である。Pit 4は上部がやや広がり炭化物、焼土粒を含む堆積土が見られる。下部は一段低く小径の土坑となり、上面

に炭化物が集中している。

(高木)

#### 遺物 (第145図 写真図版105)

〔遺物出土状況〕 カマド脇にあるPit 4、及びその周辺に土器片が集中する。

〔土器〕 総数15点出土している。土師器環3点、須恵器環3点、土師器甕8点、須恵器甕1点で、うち9点を掲載している。

Ⅰ縁部形態は1～4がb類、5・6がa類である。内面調整は1・3がヘラミガキ後、黒色処理が施されている。2もヘラミガキ後に黒色処理が施されている。

(八木)

〔石器〕 10の玄武岩質溶岩を用いた荒砥石破片が出土している。

小結 本件居跡は1基のカマドを備えた小型の住居跡である。環状に廻る袖を持つカマドは上半が削平を受けており、柄り貫き式の煙道かどうかは判断がつかない。時期は埋土中に火山灰を含まない点、床面出土器から9世紀後半～10世紀前半の年代が想定される。

(高木)

### RA39住居跡

#### 遺構 (第146～150図 写真図版106)

〔位置〕 第5次調査区北東部の2H4sグリッド付近に位置し、東側のRA38住居跡から16.3m、南側のRA02住居跡から6.9mの間隔を置く。検出面はⅢ層上面で、住居壁が深いため残存状況は良好である。

〔平面形・規模〕 平面形は若干歪な方形で、規模は北壁5.8m、東壁5.05m、南壁6.1m、西壁5.6mである。主軸方向はN-97°-Wである。

〔堆積上〕 黒褐色土を主体とし、層毎に密度が異なるが褐色土粒を含む層が互層をなす。壁際は黒色土が堆積し、壁の崩落に伴うものと考えられる。中央南壁際の11層は灰白色火山灰粒を含む。壁付近を取り巻くように焼土が認められる。焼土は床面直上に堆積しており、焼土に伴う住居構築材料の崩落と考えられる。

〔壁・床面〕 4辺とも急傾斜で立ち上がる。壁高は平均して26cm残存する。掘り方埋土上面を床面としており、ほぼ平坦で中央部の硬化が進んでいる。掘り方は壁周辺と南東側が深い傾向にある。

〔カマド〕 1号カマド(西壁)・2号カマド(東壁)・3号カマド(南壁)の3基を検出した。

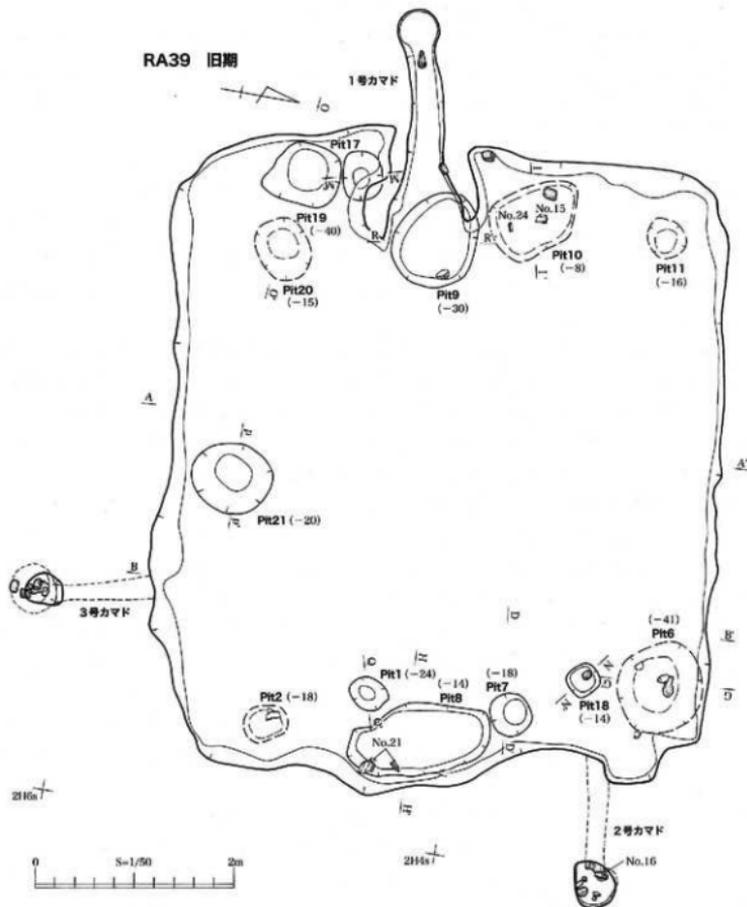
1号カマドは西壁中央や南寄りで検出した。煙道方位はN-102°-W。袖は灰白色火山灰粒を含む黒色土・ブロック状に黒色土が含まれる褐色土・褐色土粒を少量含む黒色土が互層をなす。燃焼部底面には径約30cmの焼成面が形成されている。燃焼部から煙道Ⅱにかけて天井部分の構築土と思われる焼土粒を含む褐色土が落ち込んだ状態で分布する。煙道は全長140cmで下降している。煙出し孔は煙道天井崩落により形状が判然としませんが、崩落天井分布範囲から煙出し孔の径は25cmと推定、深さは55cmである。煙道天井から煙出し孔側壁にかけては被熱による変色が顕著である。

2号カマドは東壁南寄りで検出した。煙道方向はN-86°-E。袖は2号カマド使用時に削平されている。煙道は全長135cmで下降しながら先端の径37.5cm深さ57.5cmの煙出し孔に向かって柄り貫かれる。煙道断面形状は潰れた状態だが、天井が崩落した痕跡は認められない。煙道口天井部は被熱痕が顕著である。堆積土は黒褐色土と暗褐色土があり、土器および礫が底面～3層上面にかけて投げ込まれた状態で検出した。

3号カマドは南壁東寄りで検出した。煙道方向はN-167°-E。袖は3号カマド使用時に削平されており検出されない。煙道は全長125cmで下降しながら先端の径37.5cm深さ65cmの煙出し孔に向かって柄り貫かれる。煙道断面形状は潰れた状態で、天井崩落土が認められる。天井崩落後に礫が投げ込まれている。

【柱穴】 袖・燃焼部は1号カマドのみ残存するため1号カマドを新期、2・3号カマドを旧期と考える。

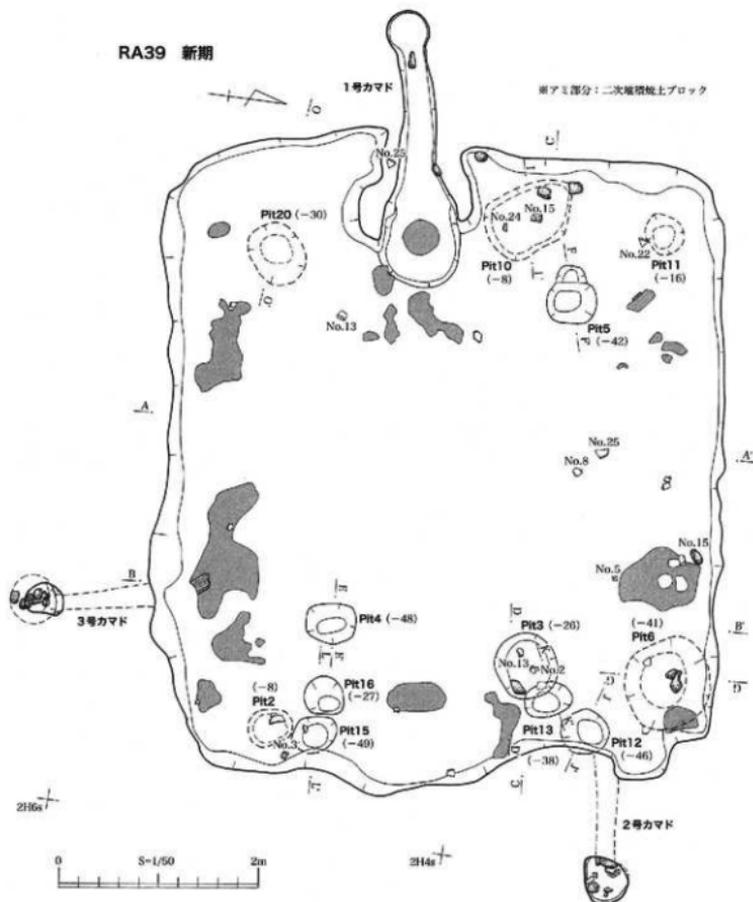
1号カマド以前に伴うと考えられる旧期の主柱穴は、Pit1・17がある。これらはいずれも灰白色火山灰を含まない黒色土で構成されている。2基であるため深さ16cmのPit11・18の底面を誤認している可能性がある。この他Pit7・19も主柱穴として機能していた可能性があるが、これらを含めた旧期の配置は不明である。1号カマドに伴うと考えられる新期の柱穴はPit4・5・13・15・16・21である。これらは埋土に灰白色火山灰を含むものが多い。埋土の状況からPit4・5は同時期に存在したのと考えられる。Pit20は調査時の不手際で埋土を確認できなかったがPit4・5とともに主柱穴を構成するのと考えられ、延長上にあるはずの主柱穴



第146図 RA39住居跡(1)

が認められない。床面掘り方は住居東側が深くなっていたため、調査員の誤認であった可能性がある。この他東壁際のPit13・16とPit15・21はそれぞれ主柱穴を構成すると思われるがこれらに対応する柱穴が西側に見当たらない。新期に主柱穴の掘え換えが行われていたとすれば、Pit13・16、Pit15・21がそれぞれPit5・20と組み合わせ、最終的にPit4・5・20が使用された可能性がある。

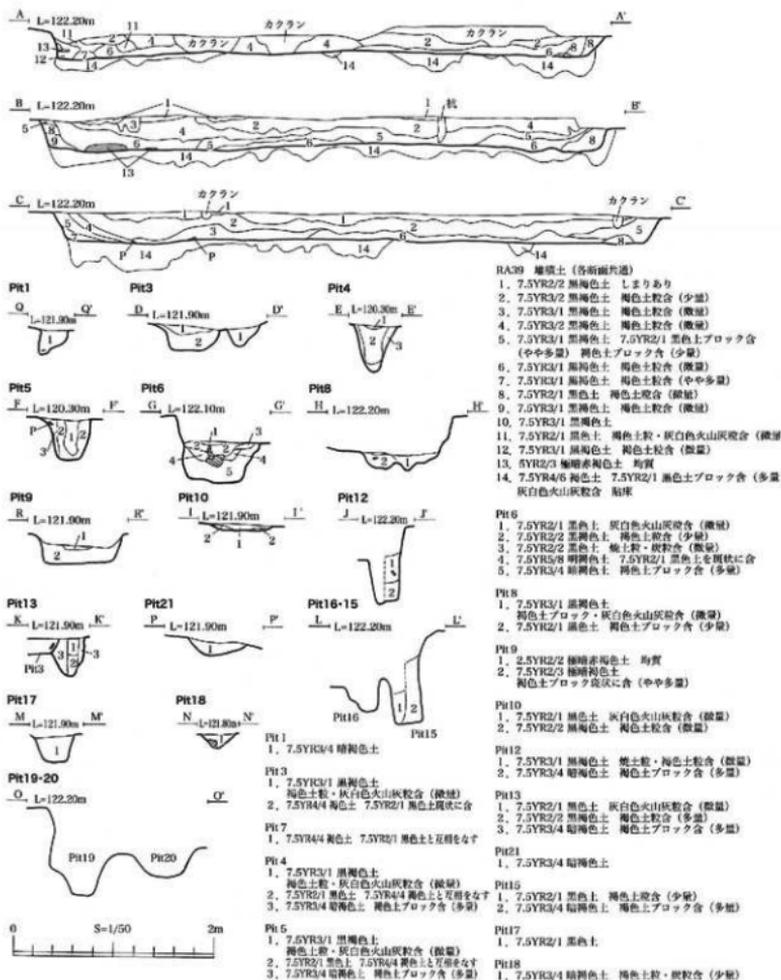
〔土坑〕 柱穴同様旧期と新期に分ける。Pit2・6・10・11は判然としな。Pit6は2号カマドに近接しているため、1・3号カマドのいずれかに伴うものと考えられる。旧期の土坑はPit8・9・21がある。



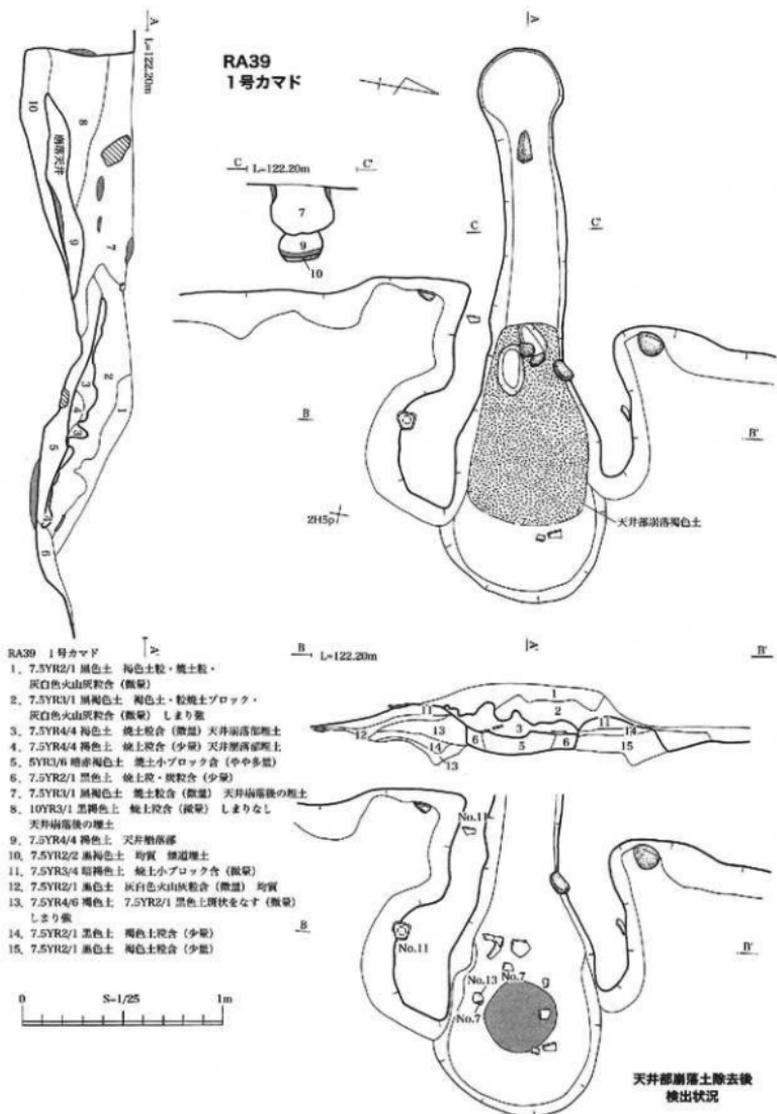
第147図 RA39住居跡(2)

遺物 (第151~153図 写真図版106)

〔遺物出土状況〕 遺物は1号カマド周辺・床面およびピットから多く出土している。この他、須惠器片はPit 8上面に多く、土師器甕16および荒砥石26・27は2号カマド煙出に投げ込まれた状態で出土している。



第148図 RA39住居跡(3)



第149図 RA39住居跡(4)

【石器】 総数で25点出土している。内訳は土師器8点、土師器高台付環1点、土師器甕16点、須恵器壺5点、須恵器甕4点で、うち25点掲載している。口縁部形態は1・2・5がa類、7がb類である。

1は内面ヘラミガキ後に黒色処理が施されているが、焼成前に暗文が施されている。5つの花弁をモチーフとし、底面を中心にヘラ状工具によって極浅く施文されている。本住居跡から出土している他の環と比較すると、口径に対し器高が高く口縁部があまり外傾しない。内面ヘラミガキは体下半部は放射状、上半が口縁部に平行に施されており、他の環と違いないが、底面には2度の回転糸切り痕が認められる。胎土は緻密である。高台付環5の高台接合後は指オサエによって調整されており、底面に爪痕が残存する。土師器甕16は2号カマド煙出し孔底面から出土した。ロクロ整形で底面は回転糸切り痕が認められる。

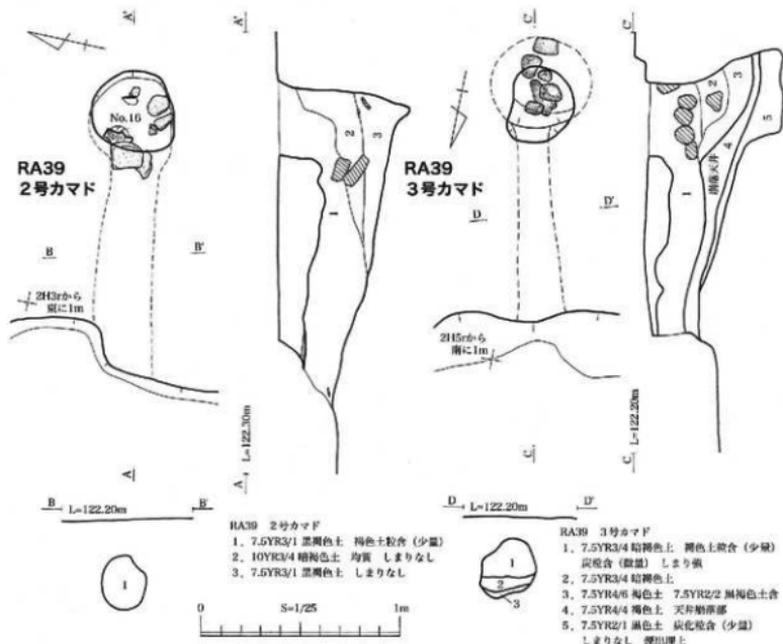
【石器】 26・27は玄武岩質溶岩を用いた荒砥石である。両者とも底面中に溝状の痕跡が刻まれている。

【土製品】 30の土製紡錘車が床面中央北寄りから出土している。半分欠損している。

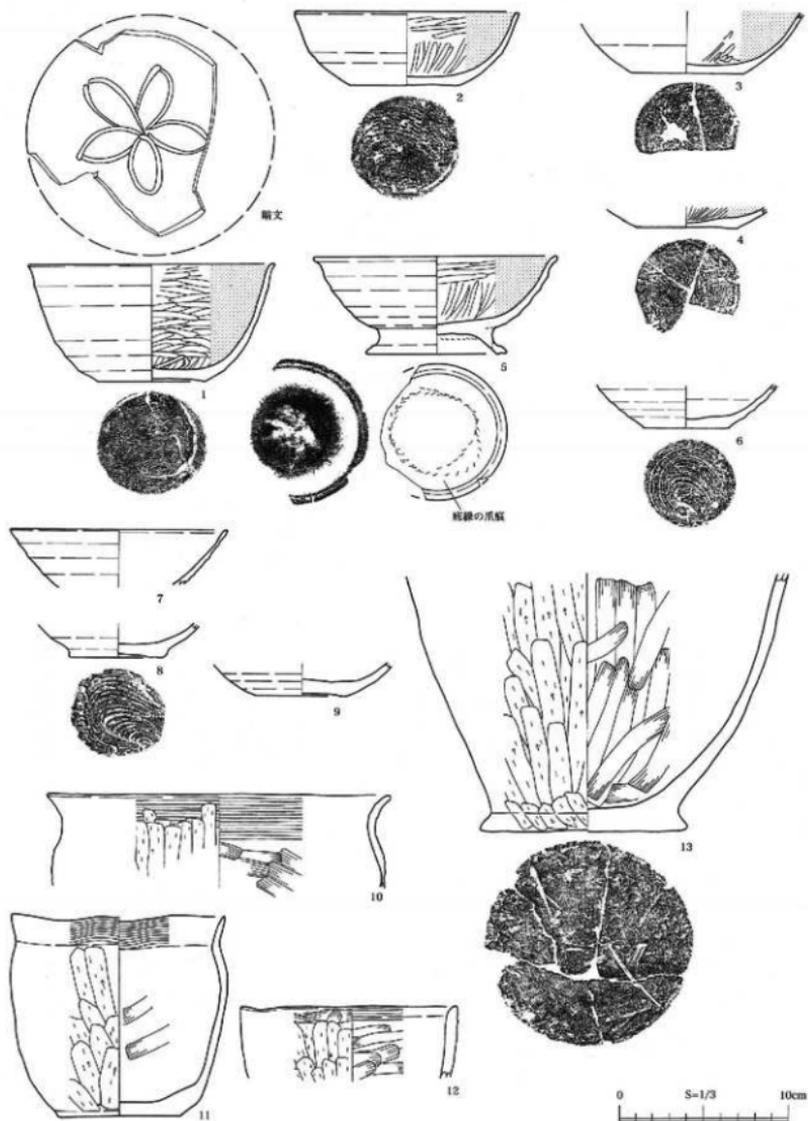
【鉄器】 28の刀子破片、29の足金具がある。29は環付単脚足金物に分類される（瀧瀬1991）が、板状貴金物の背側に鞘に平行する帯鉄環の連結部があり、円形の帯鉄環が鞘に直交して取り付けられる。

小結 本住居跡は3基のカマドを備えた大型の焼失住居跡である。カマドは燃焼部の残存状況から見て1号カマドが新期、2・3号カマドが旧期と考えられる。カマドの作り替えに伴い、3～4回の支柱配置の変更があった可能性がある。本住居跡の時期は掘り方埋土中および柱穴から火山灰を検出している点、床面出土土器から10世紀初頭の年代が想定される。

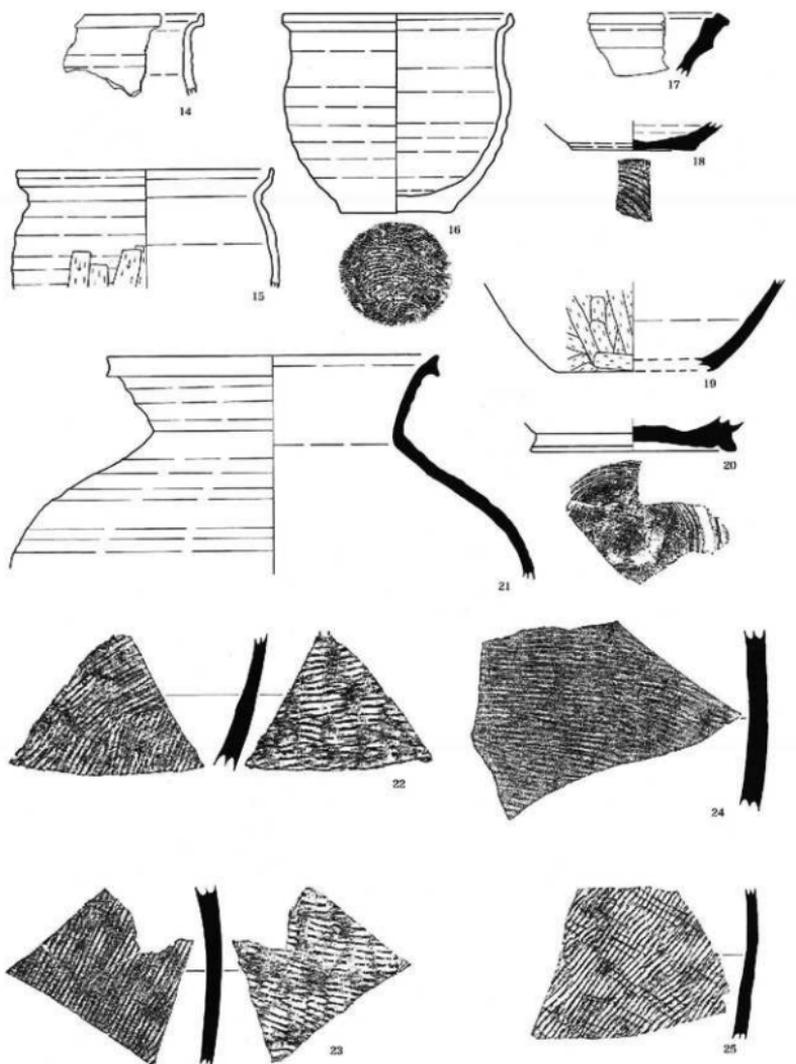
(八木)



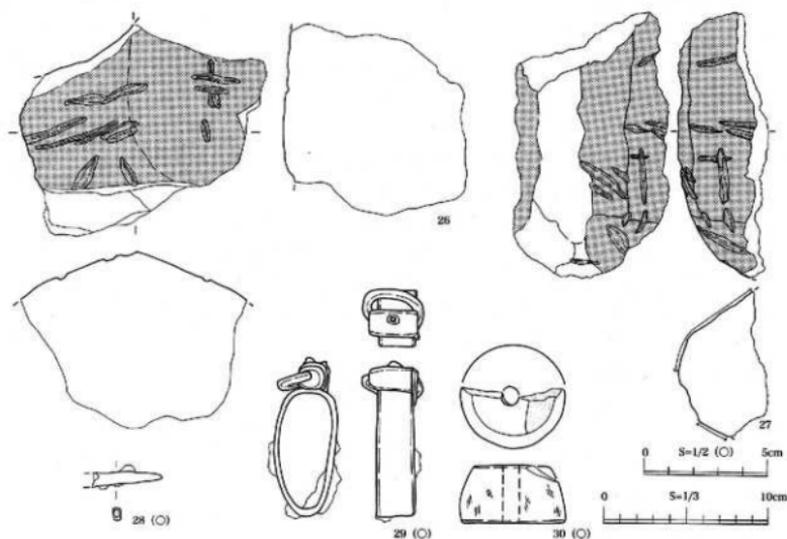
第150図 RA39住居跡(5)



第151図 RA 39住居跡出土遺物 (1)



第152圖 RA39住居跡出土遺物(2)



第153図 RA39住居跡出土遺物(3)

### 第3節 掘立柱建物跡

古代の掘立柱建物跡として第4次調査区北東部で3棟、第5次調査区北東部で1棟、近世の掘立柱建物跡としては第5次調査区北西部で2棟を確認した。この他にも柱穴と思われる小径のビット群を調査区東側で多数検出しており、報告した以外にも建物跡が存在していた可能性が高い。なお、規模、柱間距離は柱痕跡中心間、もしくは柱穴中央間の測定値で表した。

#### R B 0 1 掘立柱建物跡

遺構(第154図 写真図版47)

〔位置〕 第4次調査区北東部の218fグリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面である。重複はなし。

〔平面形式・規模〕 桁行2間、梁行1間の南北棟建物跡である。規模は桁行総長3.2m、梁行総長2.9m。

軸方位はN-4°-E。柱間距離は桁方向で1.55~1.6m。

〔柱穴〕 掘り方は円形ないし隅丸方形で径50~60cm、深さ30~60cm程の規模である。P5を除いて径30cm程の黒色土からなる柱痕跡が確認された。また灰白色火山灰ブロックがP2・4・5・6では掘り方埋土に、P3・4では柱痕跡の黒色土中に混入している。

遺物 なし。

小結 時期を決定できる遺物を欠くが柱穴埋土中に灰白色火山灰の混入が見られる点から9世紀後半~10世紀初頭の年代が想定される。

## R B 0 2 掘立柱建物跡

遺構 (第155図 写真図版48)

〔位置〕 第4次調査区北東部の2 I 6 h グリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面である。R D 68土坑と重複するが新旧は不明である。

〔平面形式・規模〕 南北2間、東西2間の南北棟建物跡である。東西柱列は北側、南側共に直線上に配列ではなく中央の柱穴が外側にずれ、全体として歪んだ形状となる。規模は南北柱列総長3.7~3.8m、東西柱列総長3.9~4.2m。軸方位は概ねN-30° - E付近。柱間は1.8~2.3mで1.9~2.0mの値に集中する。

〔柱穴〕 掘り方は円形ないし隅丸方形で径40~80cm、深さ40~70cm程の規模である。P 7を除いて径20cm程の黒色土からなる柱痕跡が確認された。埋土は褐色土ブロックを含む黒褐色土である。P 5は埋土に灰白色火山灰ブロックが混入しており、またP 6柱痕跡黒色土は火山灰起源の微細なガラス粒子を含んでいる。P 2・4・6は柱穴掘り方と同規模の一段浅い掘り込みが外側に見られ、いずれも柱穴に切られている。同位置での建て替えが想定される。

遺物 (第159図 写真図版107)

〔土器〕 P 1埋土上部から1の須恵器片が出上している。

小結 柱穴埋土中に灰白色火山灰の混入が見られる点から9世紀後半~10世紀初頭の年代が想定される。

## R B 0 3 掘立柱建物跡

遺構 (第154図 写真図版48)

〔位置〕 第4次調査区北東端の2 I 1 g グリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面。北東部は調査区外に位置しており、南北の直線上に配列された3基の柱穴のみ検出した。

〔平面形式・規模〕 全体の規模、形状は不明で、P 1が南西隅の柱という点のみ確定である。P 1~P 3の径長は2.9m。軸方位はN-6° - E。柱間は1.45~1.5mとなる。

〔柱穴〕 掘り方は円形で径40cm、深さ50cm程の規模である。P 3では径20cm弱の黒色土からなる柱痕跡が確認された。埋土は褐色土ブロックを含む黒褐色土である。灰白色火山灰ブロックの混入は見られない。

遺物 なし。

小結 建物としての構造は不明で、検出範囲では柱穴列とする方が妥当であろうが、R B 01・02建物跡との柱穴の類似から掘立柱建物跡とした。時期を決定できる遺物を欠き年代は不明である。

## R B 0 4 掘立柱建物跡

遺構 (第156図 写真図版49)

〔位置〕 第5次調査区北東部の2 H 6 j グリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面である。R D 85土坑、R E 02・03竪穴状遺構に切られる。

〔平面形式・規模〕 桁行3間、梁行2間の東西棟建物跡である。東側柱列の2本はR E 03との重複部分にあたり検出していない。規模は桁行総長5.7m、梁行総長4.6m。軸方位はN-75° - E。柱間距離は桁方向で1.9~2.05m、梁方向で2.3~2.35mとなる。

〔柱穴〕 掘り方は概ね円形で径50~60cm、深さ30~50cm程の規模である。柱痕跡は径20cm程度の横断面円形で、掘り方底面に酸化鉄層が形成されている。P 8埋土上部には灰白色火山灰ブロックの混入が見られる。

**遺物** (第159図 写真図版107)

〔遺物出土状況〕 P 2・3・5・6 から土器片の出土を見る。

〔土器〕 2・3の上師器坏、4の須恵器坏口縁部片、5の土師器甕口縁部片がある。

**小結** 柱穴埋土中の遺物、灰白色火山灰の混入が見られる点から9世紀後半～10世紀初頭の年代が想定される。

**R B O 5 掘立柱建物跡**

**遺構** (第157図 写真図版50)

〔位置〕 第5次調査区北西部の2 E16mグリッド付近に位置する。検出面はⅡ層上面である。R G11・14溝跡を切っている。

〔平面形式・規模〕 桁行3間、梁行2間の南北棟建物跡である。桁の柱穴は東西の対応にずれが生じている。また、柱穴の中間に補助柱と見られる小径で浅い柱穴状ピットが配置される。規模は桁行総長8.2m、梁行総長5.4m、軸方位はN-9°-W。柱間は桁方向で2.6～2.9m、梁方向で2.7～2.85m。

〔柱穴〕 掘り方は概ね円形で径30～60cm、深さ50～80cm程の規模である。東側柱列のP 1・3・5・7は抜き取り痕がある。柱痕跡は径20cm程度の横断面円形。P 3は柱根が残存する。小径のピットは径20～30cm、深さ20～30cm程で柱痕跡は見られない。

**遺物** (第159図 写真図版107)

〔木製品〕 P 3から柱根(6)が出土している。樹種はクリ材で先端が切り取られた状態となっている。

**小結** 近世後半と見られるR G11溝跡を切っていることから、近世末～近代の遺構と想定される。

**R B O 6 掘立柱建物跡**

**遺構** (第158図 写真図版50)

〔位置〕 第5次調査区北西部の2 F13fグリッド付近に位置する。検出面はⅡ層上面である。

〔平面形式・規模〕 南北2間、東西2間の建物跡と見られるが、南側柱列の中央には柱穴が見当たらず更に南に伸びる可能性もある。規模は南北柱列総長2.7m、東西柱列総長3.1m、軸方位はN-18°-W。柱間は1.1～1.55m。

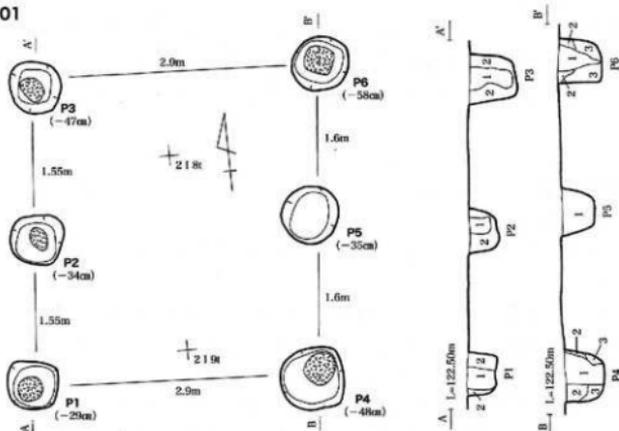
〔柱穴〕 掘り方は概ね円形で径20～30cm、深さ20～50cm程の規模である。埋土は黒褐色土で柱痕跡は確認できない。

**遺物** なし。

**小結** 遺物がなく正確な時期は不明だがR B 05建物跡と柱穴埋土が類似する点から近世～近代の遺構である可能性が高い。

(高木)

### RB01



#### RB01 P1

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 しまり弱 均質 柱痕跡
2. 10YR14/4 暗褐色土 褐色土ブロック含 (多量)

#### RB01 P2

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 しまり弱 均質 柱痕跡
2. 7.5YR2/1 黒色土 上部灰白色火山灰ブロック含 下部褐色土ブロック含 (多量)

#### RB01 P3

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 しまり弱 均質 灰白色火山灰ブロック含 柱痕跡
2. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (多量)

#### RB01 P4

1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり弱 均質 灰白色火山灰ブロック含 柱痕跡
2. 7.5YR1.7/1 黒色土 褐色土ブロック含 灰白色火山灰ブロック含
3. 10YR3/4 暗褐色土 褐色土ブロック含 (多量)

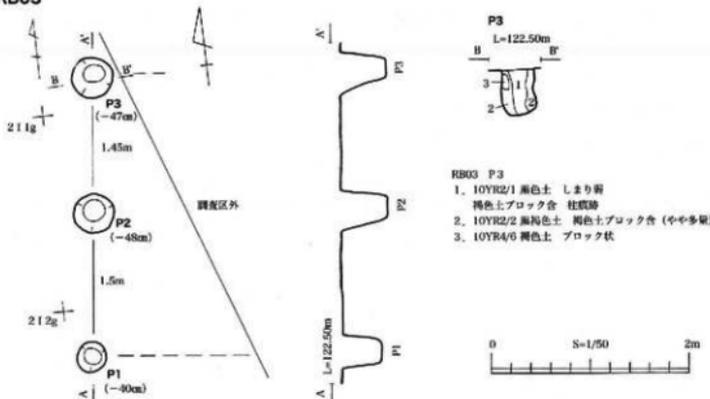
#### RB01 P5

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 灰白色火山灰ブロック含

#### RB01 P6

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 しまり弱 均質 柱痕跡
2. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 灰白色火山灰ブロック含
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (多量)

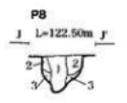
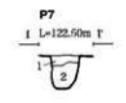
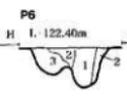
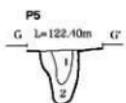
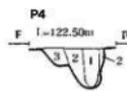
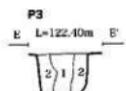
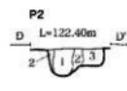
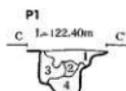
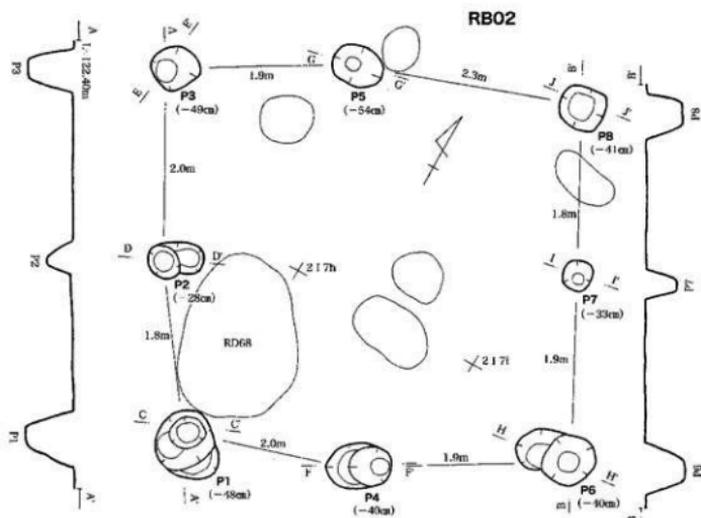
### RB03



#### RB03 P3

1. 10YR2/1 褐色土 しまり弱 褐色土ブロック含 柱痕跡
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
3. 10YR4/6 褐色土 ブロック状

第154図 R B01・03掘立柱建物跡



**RB02 P1**

1. 10YR2/1 黒色土 均質 柱痕跡
2. 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック舎
3. 10YR3/4 暗褐色土 褐色土ブロック舎
4. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 柱痕跡

**RB02 P2**

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 柱痕跡
2. 10YR2/3 暗褐色土 褐色土ブロック舎
3. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 溝遺構埋土か

**RB02 P3**

1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり野 均質 柱痕跡
2. 10YR2/2 暗褐色土 褐色土ブロック舎

**RB02 P4**

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 柱痕跡
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック舎
3. 7.5YR1.7/1 黒色土 褐色土ブロック舎 (多量) 須成構埋土か

**RB02 P5**

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 柱痕跡
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック舎 灰白色火山灰ブロック上部に含

**RB02 P6**

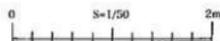
1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質 火山ガラス粒子含 柱痕跡
2. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック舎
3. 10YR2/2 暗褐色土 褐色土ブロック舎 須成構埋土か

**RB02 P7**

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 均質
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック舎

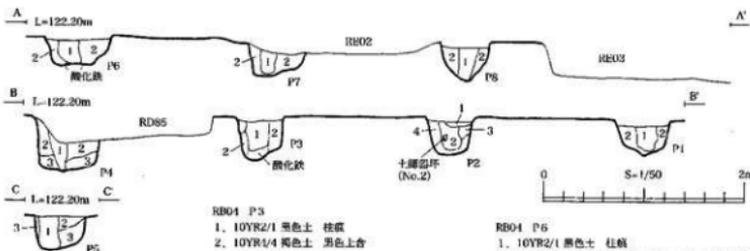
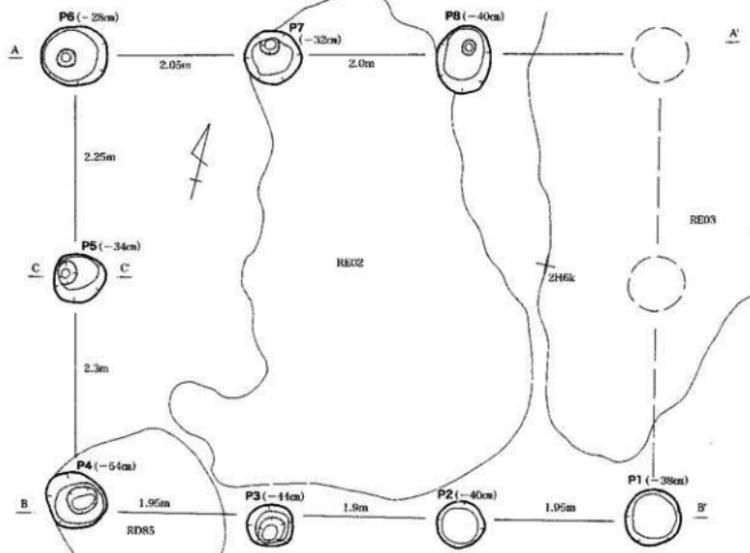
**RB02 P8**

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 上部に褐色土ブロック集中 柱痕跡
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック舎 (やや多量)
3. 10YR3/2 暗褐色土 褐色土ブロック舎



第155図 R B02獨立柱建物跡

RBO4



RD04 P1

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR4/4 褐色土 褐色土ブロック含

RD04 P2

1. 10YR4/4 褐色土 縦棒
2. 10YR2/1 黒色土 柱状
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
4. 10YR4/4 褐色土 黒色土含

RD04 P3

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR1/4 褐色土 黄色土含

RD04 P4

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
3. 10YR4/6 褐色土 底面黒色土 しまりなし

RD04 P5

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
3. 10YR3/4 暗褐色土 黒色土・褐色土ブロック混入

RD04 P6

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)

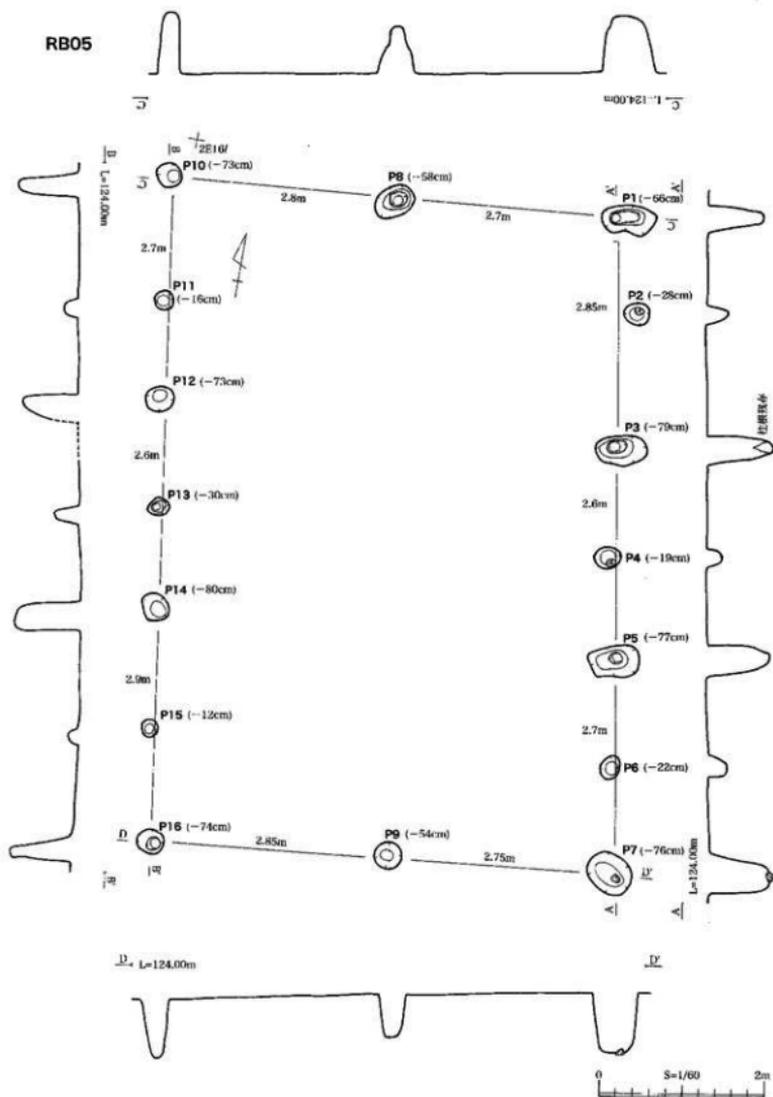
RD04 P7

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)

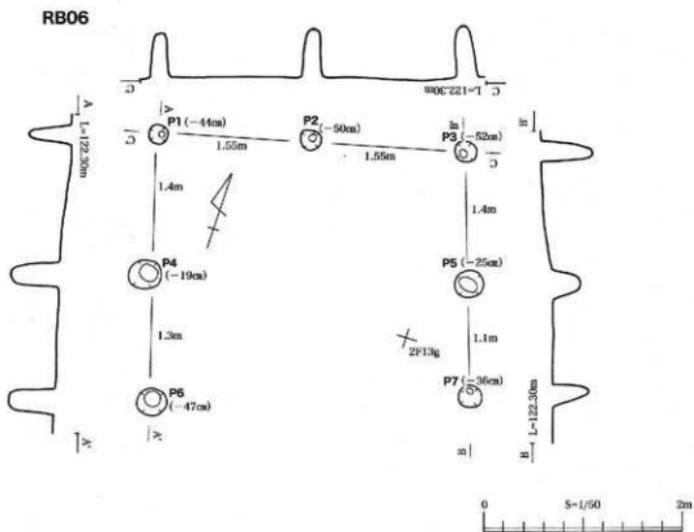
RD04 P8

1. 10YR2/1 黒色土 柱状
2. 10YR2/1 黒色土 上部灰白色火山灰粒含 (少量) 褐色土ブロック含 (少量)

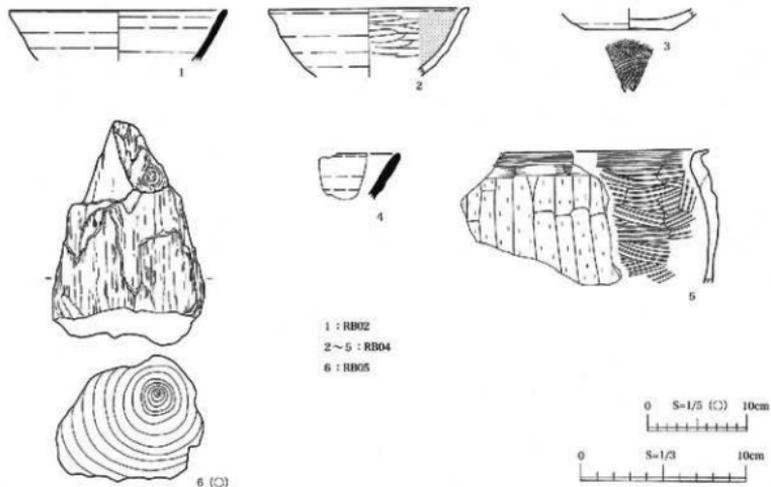
第156図 R B04掘立柱建物跡



第157圖 R B05掘立柱建物跡



第158图 R B 06掘立柱建物跡



第159图 掘立柱建物跡出土遺物

## 第4節 土坑 (第160～171図 写真図版51～62)

跡し穴と見られる溝状土坑を除いた検出数は第4次調査で80基、第5次調査で32基の合計112基を登録した。出土遺物、他遺構との重複関係から古代と捉えられるものが多い一方、時期、用途共に不明とせざるを得ない土坑も一定数にのぼる。分布は第4次調査区東半で一定数集中する他、第5次調査区西側に散在する。このうち、平安時代の可能性が高い土坑は第4次調査区と第5次調査区東側の住居跡集中区域周辺に限定され、第5次調査区西側に分布する土坑は近世～近代に比定されるものと考えられる。

本節では個別の土坑についての記載は省略し、焼成の痕跡が見られる土坑、墓塚の可能性のある土坑、溝と連結され溜池としての機能が想定される土坑、特異な形状となる土坑について説明を加える。本文中で触れていないものについては第2表に各土坑の概要を一覧表としてまとめている。

### (1) 焼成土坑

方形、長方形に掘り込まれ、底面から側壁にかけて焼成面が形成されているもので、RD01・11・16・25・41・42土坑の6基が該当する。また、ある程度埋没ないし埋め戻された後にレンズ状の焼土層が形成されているものでは、RD05・09・20・32・46・86・109土坑の7基が焼成に関わる可能性を持つ土坑として挙げられる。ここでは前者を「一次焼成土坑」、後者を「二次焼成土坑」と仮称する。分布は第5次調査区東側のRD86土坑を含めて、大部分が調査区東半の住居跡集中区域に集まっており、RD109土坑のみ第5次調査区西側の旧河道域から検出されている。時期は出土遺物、他遺構との重複関係より大部分が平安時代の遺構と見られる。

規模は長軸が100～170cm、短軸が80～150cmの範囲に分布する。検出面から底面までの深さは20～30cm前後で近似した値となる。形状はRD05・20・32土坑が円形ないし楕円形と捉えられるが、それ以外の10基は方形ないし長方形を呈する。RD09・11土坑は長軸方向の片側が一段浅い掘り込みとなり深い部分に焼成痕がある。

一次焼成土坑の焼成状態は強く、底面～側壁に厚さ5cm前後の焼成層が形成される。RD25土坑のみ底面には焼成面が形成されず炭化物層が堆積し、側壁下部を焼成面が巡る。概ね堆積土中に炭化物、焼土粒が含まれる。

一方、二次焼成土坑の場合は黒色土等が堆積した後に、上部に生じた隙みに焼土層が形成される。非現地性の二次堆積焼土層という可能性もあるが、灰層を伴いレンズ状の断面を示す点が共通しており、埋没後の窪み上面で焼成が行われたものと想定される。

出土遺物はRD05・41・42土坑でまとまった土器の出土が見られる。このうちRD05土坑では焼土層上面に土器片が集まっている。しかし、焼成作業の具体的な内容を示すような遺物出土状態ではない。

### (2) 墓塚

平面形が方形基調であり人為的に埋め戻されているもので、RD21・22土坑の2基が該当する。人骨、副葬品が出土し確実に墓塚と判断されたものではなく、堆積状況、形状から墓塚の可能性のあるものとして捉えている。2基は第4次調査区中央部の住居跡集中区域に並ぶ。両者とも平安時代の遺構である。

RD21土坑は長軸180cm、短軸84cmの長方形で深さは35cm。全体に地山起源の褐色土ブロックを多量に含

む土層が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと見られる。底面の片側から完形の土師器杯 (No.29・34) が出土している。これらの完形土器については副葬品の可能性があると思われる。

RD22土坑はRD21土坑を切っており、やや寸詰まりの方形となる。規模は長軸150cm、短軸132cm、深さ31cm。堆積土は暗褐色土単層としたが全体に褐色土ブロックが多く含まれており、人為的に埋め戻された可能性が高い。完形土器の出土はない。

### (3) 貯蔵穴

平面形は方形、円形と多様ながら、一定以上の規模を持ち掘り込みも深いものについて、屋外に設けられた貯蔵穴の可能性のあるものとして一括する。RD10・17・23・47・52・56土坑の6基が挙げられる。分布は第4次調査区東側の住居跡密集区域と重なる分布を示し、RD23・52土坑は堅穴住居跡と重複関係を持つ。時期は重複関係、川土遺物より全て平安時代の所産と考えられる。なおRD56土坑は堆積土中に灰白色火山灰ブロックの混入がある。

形状はRD10土坑が円形、RD23・52土坑が楕円形、RD17土坑が方形、RD48・49土坑が長方形と捉えられ、規則性は見出せない。規模はRD52土坑の長軸220cm、短軸200cmを筆頭に1m後半代の規模となるものが大部分で、他の土坑よりも一回り大きいサイズとなる。深さはRD23土坑で63cmとなる他、50cm以上の掘り込みを持つものが過半数の4基である。

堆積状況は概ね中央が窪む層界となる自然堆積の様相を示しており、黒褐色土、暗褐色土が堆積上の主体となる。一部に褐色土ブロックの混入が見られるが、人為的に埋め戻された状況とは断言できない。RD23土坑については最上部で二次堆積の焼土層が形成されており、これについては前述の二次焼成土坑に類似する状態と見られる。

### (4) 溜池

比較的規模が大きく、水路と考えられる溝と連結されているもので、RD96・103・135土坑の3基が該当する。いずれも第5次調査区西側の旧河道域に分布する。RD96土坑は南北に旧河道から微高地を横断するRG13溝跡の中間に位置し、規模は220×195cmである。RD103土坑はRG13溝跡と平行して西側を走るRG12溝跡の南側末端に位置し、規模は235×210cmである。RD135土坑はRG12溝跡を改修したと思われるRG11溝跡の南側末端に位置し、規模は230×185cmである。この他、これらより一回り大きく堅穴状遺構として登録したRE05も東西に走るRG10溝跡の中間にあり、規模の点で違いがあるものの同様な性格を持つものと考えられる。

堆積土は基本土層Ⅲ層と同様の漆黒を呈する黒色土で埋没しており、RD135土坑は下部が湛水の状態であったことを示す酸化鉄層が断面に水平に伸びる。

出土遺物からの時期比定はできないが、RD135土坑については近世後半と想定されるRG11溝跡と同時期と考えられる。他もこれに近い時期の所産である可能性が高い。

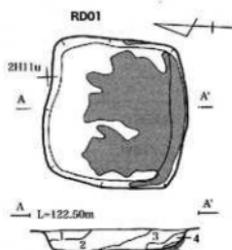
第2表 土坑一覧表

計測値単位: cm 褐ブ: 褐色土ブロック  
灰白: 灰白色火山灰

| 遺構名    | 遺構図 | 位置      | 種別     | 平面形   | 長軸・短軸    | 深さ | 堆積土                          | 遺物図     | 備考                    |
|--------|-----|---------|--------|-------|----------|----|------------------------------|---------|-----------------------|
| RD 0 1 | 160 | 2 H11u  | 一次焼成土坑 | 方形    | 152×144  | 24 | 上部北半黒褐色土褐ブ集中下部黒色土            | 175     | 底面焼成(南半)炭化物分析 RA02より古 |
| RD 0 2 | 160 | 2 H12w  |        | 楕円形   | 120×100  | 24 | 黒褐色土 褐ブ含                     |         | 底面副穴 RD03より新          |
| RD 0 3 | 160 | 2 H12v  |        | 楕円形   | 122×90   | 22 | 上部・下部黒褐色土褐ブ含                 |         | 底面副穴 RD02より古          |
| RD 0 4 | 160 | 2 H11x  |        | 楕円形   | 130×70   | 20 | 黒色土主体                        |         | 底面副穴                  |
| RD 0 5 | 160 | 2 H11x  | 二次焼成土坑 | 円形    | 102×98   | 22 | 上部焼土 下部黒色土                   | 175     | 埋没後上部焼成               |
| RD 0 6 | 160 | 2 H20y  |        | 円形    | 62×62    | 34 | 上部黒色土 下部黒褐色土                 |         | RD07より古               |
| RD 0 7 | 160 | 2 H20y  |        | 楕円形   | 110×82   | 40 | 上部黒褐色土 下部暗褐色土                | 175     | RD06・08より新            |
| RD 0 8 | 160 | 2 H20y  |        | 円形    | 78×78    | 30 | 黒褐色土 褐ブ含                     |         | RD07より古               |
| RD 0 9 | 160 | 2 H15p  | 二次焼成土坑 | 方形    | 142×118  | 28 | 黒褐色土主体 上層に灰白 中層に草木灰と焼土       |         | 埋没後上部焼成               |
| RD 1 0 | 160 | 2 H11p  | 貯蔵穴    | 円形    | 190×190  | 56 | 黒褐色土主体 暗褐色土主体 褐ブ含            | 175     |                       |
| RD 1 1 | 161 | 2 H16a  | 一次焼成土坑 | 方形    | 142×130  | 28 | 黒褐色土 焼土粒・炭化物含                | 175     | 南半底面焼成                |
| RD 1 2 | 161 | 2 H23i  |        | 楕円形   | 150×128  | 22 | 黒色土主体                        | 175・176 | 底面副穴                  |
| RD 1 3 | 161 | 2 H22l  |        | 円形    | 94×84    | 40 | 黒色土主体 褐ブ含                    | 176     |                       |
| RD 1 4 | 161 | 2 H24o  |        | 円形    | 60×60    | 18 | 黒色土主体                        |         |                       |
| RD 1 5 | 161 | 2 H21l  |        | 円形    | 88×70    | 28 | 黒色土主体                        | 176     | 2段階り込み                |
| RD 1 6 | 161 | 2 H20o  | 一次焼成土坑 | 方形    | 112×(84) | 26 | 黒色土主体 炭化物含                   | 176     | 底面～壁面焼成 RA05より古       |
| RD 1 7 | 161 | 2 H11k  | 貯蔵穴    | 方形    | 177×168  | 56 | 暗褐色土主体 褐ブ多量 底面黒色土            | 176     |                       |
| RD 1 8 | 161 | 2 H24j  |        | 不整楕円形 | 180×96   | 30 | 黒色土主体                        |         |                       |
| RD 1 9 | 161 | 2 H118r |        | 楕円形   | 100×67   | 36 | 黒褐色土                         | 176     |                       |
| RD 2 0 | 162 | 2 H19p  | 二次焼成土坑 | 楕円形   | 190×77   | 27 | 黒色土主体 焼土粒・炭化物含               |         | 底面直上焼土層               |
| RD 2 1 | 162 | 2 H19p  | 竈壇     | 長方形   | 180×84   | 35 | 暗褐色土主体 褐ブ上半多量                | 176     | RD22より古               |
| RD 2 2 | 162 | 2 H19p  | 竈壇     | 方形    | 150×132  | 31 | 暗褐色土 褐ブ多量                    | 177     | RD21より新               |
| RD 2 3 | 162 | 2 H19p  | 貯蔵穴    | 楕円形   | 168×156  | 63 | 上部二次焼成焼土ブロック 中～下部黒褐色土主体 レンズ状 | 177     | RD30より新               |
| RD 2 4 | 162 | 2 H20b  |        | 楕円形   | 85×76    | 33 | 黒褐色土                         |         |                       |
| RD 2 5 | 162 | 2 H19b  | 一次焼成土坑 | 長方形   | 150×112  | 35 | 黒色土主体                        |         | 下部壁面焼成 底面上炭化物集中       |
| RD 2 6 | 162 | 2 H17a  |        | 楕円形   | 113×92   | 22 | 黒色土主体                        | 177     |                       |
| RD 2 7 | 162 | 2 H13s  |        | 楕円形   | 100×80   | 20 | 黒色土主体                        |         | 底面副穴                  |
| RD 2 8 | 162 | 2 H13u  |        | 不整楕円形 | 140×55   | 24 | 黒褐色土主体                       |         |                       |
| RD 2 9 | 162 | 2 H16f  |        | 楕円形   | 145×112  | 25 | 上層黒褐色土灰・焼土粒含 下層暗褐色土          |         |                       |
| RD 3 0 | 162 | 2 H19p  |        | 方形?   | 100×(40) | 18 | 黒色土主体                        | 177     | RD23より古               |
| RD 3 1 | 163 | 2 C19y  |        | 楕円形   | 140×122  | 10 | 黒色土主体                        | 178     |                       |
| RD 3 2 | 163 | 2 H19a  | 二次焼成土坑 | 円形    | 120×120  | 33 | 黒色土主体 上部二次焼成焼土ブロック           |         | RA19より新               |
| RD 3 3 | 163 | 2 I17m  |        | 円形    | 75×70    | 25 | 黒色土主体                        | 178     |                       |
| RD 3 4 | 163 | 2 I17n  |        | 円形    | 110×100  | 20 | 黒色土主体                        | 178     |                       |
| RD 3 5 | 163 | 3 I11c  |        | 不整楕円形 | 143×72   | 25 | 上層黒色土 下層黒褐色土                 |         |                       |

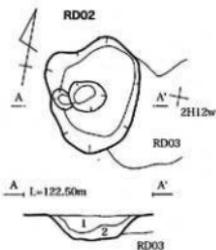
| 遺構名  | 遺構図 | 位置     | 種別         | 平面形       | 長軸・短軸   | 深さ | 堆積上                      | 遺物区 | 備考                    |
|------|-----|--------|------------|-----------|---------|----|--------------------------|-----|-----------------------|
| RD36 | 163 | 2 G2w  |            | 不整<br>円形  | 135×120 | 34 | 上層黒色土灰白ブ含<br>下層黒褐色土      | 178 |                       |
| RD37 | 163 | 2 C23r |            | 方形        | 194×170 | 22 | 上層黒色土 下層暗褐色<br>～褐色土      |     | 底面削穴                  |
| RD38 | 163 | 2 G23q |            | 円形        | 70×68   | 10 | 黒褐色土 焼土粒・炭化<br>物含        | 178 |                       |
| RD39 | 163 | 2 G18w |            | 楕円形       | 93×70   | 20 | 黒色～黒褐色土主体<br>下部焼土粒含      |     | R A16より新              |
| RD40 | 163 | 2 G25q | 水穴か?       | 斜位        | 60×55   | 70 | 黒褐色土主体                   | 178 |                       |
| RD41 | 164 | 2 I11k | 一次焼成<br>土坑 | 方形        | 150×150 | 28 | 上層黒色土 二次堆積焼土<br>含 下層黒褐色土 | 179 | 南半底面・壁面焼成             |
| RD42 | 164 | 2 I14h | 一次焼成<br>土坑 | 長方形       | 172×130 | 35 | 黒色～黒褐色土主体<br>下部焼土粒含      | 179 | 北半底面・壁面焼成<br>R D47より古 |
| RD43 | 164 | 2 I13i |            | 楕円形       | 70×65   | 20 | 黒色土 焼土粒含                 |     |                       |
| RD44 | 164 | 2 I18d |            | 長方形       | 130×80  | 24 | 黒色～黒褐色土主体<br>褐ブ含         |     |                       |
| RD45 | 164 | 2 I16d |            | 長方形       | 150×78  | 18 | 黒色土 褐ブ含                  |     |                       |
| RD46 | 164 | 2 I19f | 二次焼成<br>土坑 | 方形        | 110×100 | 20 | 上層黒褐色土灰・焼土粒<br>含 下層黒色土   |     | 埋没後上部焼成               |
| RD47 | 164 | 2 I13h | 貯蔵穴        | 長方形       | 166×140 | 36 | 上層黒褐色土 焼土粒含<br>下層黒色土主体   | 179 |                       |
| RD48 | 164 | 2 H16m |            | 不整方<br>形  | 166×100 | 24 | 黒色～暗褐色土                  | 179 | 底面2段掘り込み              |
| RD49 | 164 | 2 I19g |            | 楕円形       | 116×94  | 18 | 黒色土主体 灰白含                |     |                       |
| RD50 | 165 | 2 I19l |            | 円形        | 102×102 | 74 | 黒色土主体 灰白含                | 179 | R D67より新              |
| RD51 | 165 | 2 I19a |            | 楕円形       | 147×100 | 28 | 黒色土主体 焼土粒・炭<br>化物含       |     |                       |
| RD52 | 165 | 2 I2p  | 貯蔵穴        | 円形        | 220×200 | 52 | 上層黒色土 下層黒褐色<br>土焼土粒含     | 179 | R A30より新              |
| RD53 | 165 | 2 I11i |            | 楕円形       | 115×82  | 26 | 黒色土主体 灰白含                |     |                       |
| RD54 | 165 | 2 I5o  |            | 不整楕<br>円形 | 150×70  | 44 | 黒褐色土主体 褐ブ含               |     |                       |
| RD55 | 165 | 2 I10s |            | 楕円形       | 93×80   | 10 | 黒色土 上部灰層・炭化<br>物含        |     |                       |
| RD56 | 165 | 2 I16s | 貯蔵穴        | 楕円形       | 150×105 | 26 | 黒色～黒褐色土主体<br>灰白含         |     |                       |
| RD57 | 165 | 2 I12s |            | 長方形       | 120×100 | 30 | 黒褐色土主体                   |     | R D58より古              |
| RD58 | 165 | 2 I12s |            | 楕円形       | 104×75  | 30 | 上層黒褐色土 下層灰黄<br>褐色土       |     | R D57・59より新           |
| RD59 | 165 | 2 I12s |            | 円形        | 50×50   | 24 | 黒褐色土                     |     | R D60より新<br>R D58より古  |
| RD60 | 165 | 2 I12s |            | 不整楕<br>円形 | 135×65  | 22 | 黒褐色土                     |     | 底面埋没掘り込み<br>R D59より古  |
| RD61 | 166 | 2 I13j |            | 不整方<br>形  | 150×145 | 10 | 黒色土 灰白・焼土粒含              |     | 南端突出部<br>R A24より古     |
| RD62 | 166 | 2 I15j |            | 楕円形       | 150×75  | 16 | 黒色土 褐ブ含                  |     | 底面削穴                  |
| RD63 | 166 | 2 I5h  |            | 円形        | 80×75   | 58 | 黒褐色土主体 底面黒色<br>土 褐ブ含     |     | R D64より古              |
| RD64 | 166 | 2 I5h  |            | 円形        | 60×60   | 40 | 黒色～黒褐色土主体<br>下部灰白含       |     | R D63より新              |
| RD65 | 166 | 2 I5g  |            | 楕円形       | 133×100 | 44 | 黒色～黒褐色土主体                | 180 |                       |
| RD66 | 166 | 2 I7h  |            | 楕円形       | 170×110 | 42 | 黒褐色土主体 焼土粒含              |     |                       |
| RD67 | 166 | 2 I9l  |            | 不整方<br>形  | 90×50   | 12 | 黒色土                      |     | R D50より古              |
| RD68 | 166 | 2 I9n  |            | 楕円形       | 78×60   | 24 | 黒色～暗褐色土                  |     | 小ビットより新               |
| RD69 | 166 | 2 I10s |            | 楕円形       | 85×(38) | 40 | 黒褐色土 褐ブ含                 |     | 東半調査区外                |
| RD70 | 166 | 2 I10s |            | 楕円形       | 95×(25) | 42 | 黒褐色土                     |     | 東半調査区外                |
| RD72 | 167 | 2 I14j |            | 楕円形       | 125×60  | 40 | 黒色土 褐ブ含                  |     |                       |

| 遺構名   | 遺構区 | 位 置    | 種 別     | 平面形   | 長軸・短軸      | 深さ | 堆 積 土           | 遺物  | 備 考                        |
|-------|-----|--------|---------|-------|------------|----|-----------------|-----|----------------------------|
| RD73  | 167 | 2 I9c  |         | 円形    | 85×85      | 32 | 黒色～黒褐色土 褐プ含     |     |                            |
| RD74  | 167 | 2 I7i  |         | 楕円形   | 82×53      | 20 | 黒色土 褐プ含         |     |                            |
| RD75  | 167 | 2 I7j  |         | 円形    | 72×72      | 24 | 黒色土             |     |                            |
| RD76  | 167 | 2 I6j  |         | 不整楕円形 | 157×80     | 45 | 黒褐色土主体 褐プ含      |     | 底面削穴                       |
| RD77  | 167 | 2 I2j  |         | 楕円形   | (52)×32    | 40 | 黒色土             |     | 北半削平                       |
| RD78  | 167 | 2 I2if |         | 長方形   | 130×(55)   | 30 | 黒色土 褐プ含         |     | 南半調査区外                     |
| RD79  | 167 | 2 I8l  |         | 長方形   | 80×40      | 20 | 黒褐色土 褐プ含        |     |                            |
| RD80  | 167 | 2 I8n  |         | 楕円形   | 70×62      | 27 | 黒褐色土 褐プ含        |     | 小ビットより古                    |
| RD81  | 167 | 2 I8n  |         | 楕円形   | 96×50      | 24 | 黒褐色土            |     |                            |
| RD82  | 168 | 2 G25m |         | 楕円形   | 72×62      | 30 | 黒色～黒褐色土主体 褐プ含   |     |                            |
| RD83  | 168 | 2 H7c  |         | 円形    | 110×107    | 16 | 黒褐色～暗褐色土        |     |                            |
| RD84  | 168 | 2 H7d  |         | 楕円形   | 152×107    | 16 | 黒色土主体 炭化物含      |     |                            |
| RD85  | 168 | 2 H7i  |         | 楕円形   | 172×162    | 26 | 黒色土主体 上層灰白含     | 180 | R B04より新                   |
| RD86  | 168 | 2 H7n  | 二次焼成土坑  | 長方形   | 132×86     | 22 | 黒色土主体 上層焼土・灰層   |     | 埋没後上部焼成                    |
| RD87  | 168 | 2 H7o  |         | 楕円形   | 66×42      | 12 | 黒色土 褐プ含         |     |                            |
| RD88  | 168 | 2 I1e  |         | 楕円形   | (165)×(90) | 24 | 黒色～褐色土          |     | 北半調査区外                     |
| RD89  | 168 | 2 I1f  |         | 楕円形   | (172)×(80) | 28 | 黒色土主体 下部褐プ含     |     | 北半調査区外                     |
| RD90  | 168 | 1 I25g |         | 楕円形   | (170)×(46) | 12 | 黒色土主体           |     | 北半調査区外                     |
| RD94  | 168 | 2 E19k | 陥し穴上部か? | 長楕円形  | 257×88     | 20 | 黒色土             |     | R G19より古                   |
| RD96  | 169 | 2 F18p | 溜池      | 楕円形   | 220×195    | 54 | 黒色土             |     | R G18と連結                   |
| RD99  | 169 | 2 F16s |         | 楕円形   | 205×118    | 26 | 黒色土             |     | R D97より新                   |
| RD103 | 169 | 2 E21n | 溜池      | 長方形   | 235×210    | 50 | 黒色土主体           |     | R G12と連結                   |
| RD105 | 169 | 3 E11  |         | 楕円形   | 90×78      | 14 | 黒色土主体           |     |                            |
| RD106 | 169 | 3 E5k  |         | 長楕円形  | 104×50     | 10 | 黒色土主体           |     | R Z02より新                   |
| RD107 | 169 | 3 F4k  |         | 楕円形   | 80×55      | 10 | 黒色土主体           |     |                            |
| RD108 | 169 | 3 E1o  |         | 楕円形   | 70×50      | 12 | 黒色土主体           |     |                            |
| RD109 | 169 | 2 F25m | 二次焼成土坑  | 長方形   | 145×110    | 18 | 黒色土主体 上層焼土・ブロック |     | 埋没後上部焼成                    |
| RD110 | 169 | 3 E3p  |         | 楕円形   | 93×80      | 10 | 黒色土 焼土粉含        |     |                            |
| RD111 | 169 | 3 E3a  |         | 楕円形   | 133×63     | 20 | 黒色土 炭化物含        |     | RD112より新                   |
| RD112 | 170 | 3 E3a  | 陥し穴上部か? | 長楕円形  | (230)×95   | 48 | 黒褐色土と褐色土の互層     |     | RD111・R Z01より古<br>RD124より新 |
| RD113 | 170 | 2 E24o |         | 楕円形   | 116×(100)  | 12 | 黒色土 炭化物含        |     | 北半掘削により削平                  |
| RD115 | 170 | 2 E12n |         | 楕円形   | (104)×88   | 20 | 黒色土             |     | R E05より古                   |
| RD118 | 170 | 2 E16w |         | 長方形   | 178×100    | 15 | 黒色土 褐プ含         |     |                            |
| RD117 | 170 | 2 F24u |         | 楕円形   | 270×170    | 25 | 黒褐色土            |     | 陥し穴の下汲見通ごしか?               |
| RD118 | 170 | 2 F14b | 溜池?     | 長方形   | 135×108    | 56 | 黒色土主体           | 180 | 上部周縁に浅い掘り込み                |
| RD119 | 170 | 2 F14a | 溜池?     | 楕円形   | 150×110    | 45 | 黒色～黒褐色土 褐プ含     |     | RD118との新旧不明                |
| RD124 | 171 | 3 E2m  | 陥し穴上部か? | 溝状    | 285×70     | 24 | 黒褐色土主体          |     | RD112より古                   |
| RD125 | 170 | 2 F14y |         | 楕円形   | (95)×60    | 16 | 黒色土 褐プ含         |     | RD119より古                   |
| RD126 | 171 | 2 F20d |         | 楕円形   | 135×64     | 34 | 黒色土             |     |                            |
| RD131 | 171 | 2 F9j  |         | 楕円形   | 65×50      | 35 | 黒色土 褐プ含         |     | R G10より古                   |
| RD135 | 171 | 2 F21o | 溜池      | 楕円形   | 230×185    | 72 | 黒色土主体 下半に酸化鉄凝集層 |     | R G11と連結                   |



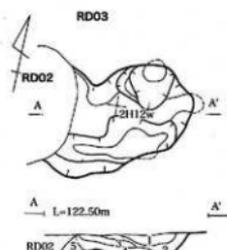
RD01

1. 10YR2/2 黒褐色土 しまり強  
褐色土ブロック含 (多量)
2. 10YR2/2 黒褐色土 暗褐色土ブロック含
3. 10YR2/1 黒色土 夾雑物なし
4. 10YR1.7/1 黒色土 夾雑物なし
5. 5YR4/6 赤褐色土 粘土粒の集中ブロック
6. 5YR4/6 赤褐色土 底面~埋面の縁成部分



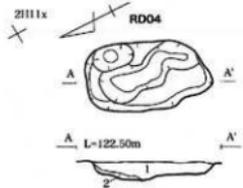
RD02

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



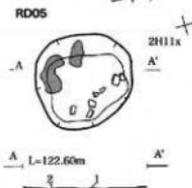
RD03

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭粒含
3. 10YR2/1 黒色土 しまり強
4. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
5. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



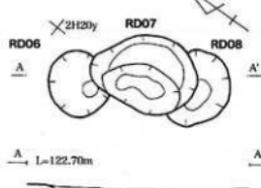
RD04

1. 10YR2/1 黒色土 暗褐色土ブロック含
2. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



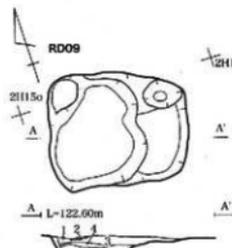
RD05

1. 10YR1.7/1 黒色土 しまり弱
2. 5YR4/6 赤褐色土 二次堆積粘土
3. 10YR1.7/1 黒色土 しまり弱  
下半褐色土ブロック含



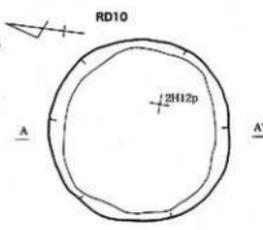
RD06-07・08

1. 10YR2/1 黒色土と10YR2/2 黒褐色土の混在  
褐色土ブロック含
2. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
3. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
4. 10YR1.7/1 黒褐色土 しまり弱 夾雑物なし
5. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭化物粒含
6. 10YR3/4 暗褐色土 黒褐色土ブロック含 (やや多量)
7. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
8. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
9. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
- \* 1-2層: RD06埋土  
3-7層: RD07埋土  
8-9層: RD08埋土



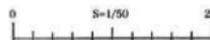
RD09

1. 10YR2/1 黒褐色土 しまりなし  
焼出部灰白色火山灰ブロック含
2. 5YR4/4 赤褐色土 しまりなし  
二次堆積粘土ブロック含
3. 10YR3/2 黒褐色土 灰白色火山灰ブロック含
4. 10YR4/4 褐色土 しまりなし 草木灰少量含
5. 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック・炭粒含
6. 10YR3/3 暗褐色土 夾雑物なし

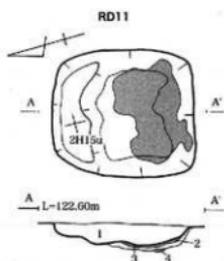


RD10

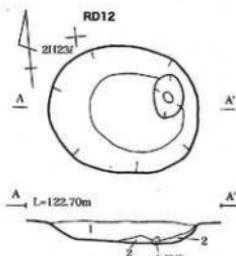
1. 10YR2/1 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR2/1 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
3. 10YR3/2 暗褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
4. 10YR3/2 暗褐色土 褐色土ブロック含 (多量)



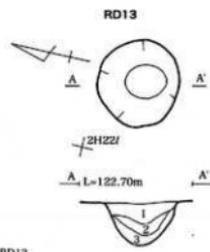
第160図 土坑(1)



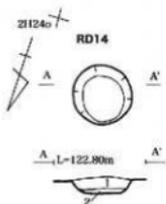
- RD11
- 10YR2/2 黒褐色土  
炭粒・細土粒・褐色土ブロック含
  - 5YR4/6 赤褐色土 庭面埋設部
  - 7.5YR3/2 黒褐色土 振り方埋土
  - 7.5YR3/3 暗褐色土 強い相成を受けたブロック



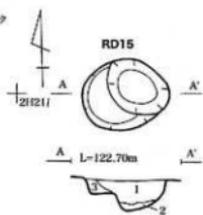
- RD12
- 10YR2/1 黒色土 均質 夾雑物なし
  - 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック混



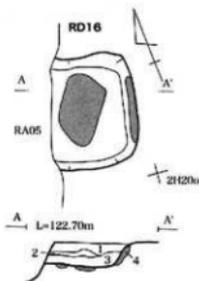
- RD13
- 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含
  - 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (中や多量)
  - 10YR3/3 暗褐色土



- RD14
- 10YR2/1 黒色土
  - 10YR3/2 黒褐色土



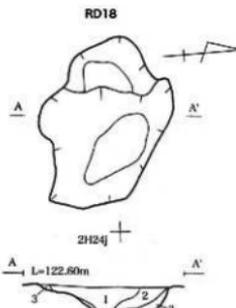
- RD15
- 10YR2/1 黒色土 しまり弱 褐色土ブロック含 (少量)
  - 10YR2/2 黒褐色土 均質
  - 10YR2/1 黒色土 しまり弱 褐色土ブロック含



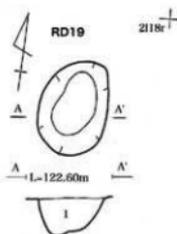
- RD16
- 7.5YR2/1 黒色土
  - 10YR2/1 黒褐色土 炭粒含
  - 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
  - 5YR4/4 暗褐色土 庭面・壁面埋設部



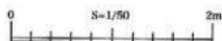
- RD17
- 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱 褐色土ブロック含 (多量)
  - 10YR2/1 黒色土 しまり弱
  - 10YR3/3 暗褐色土 しまり弱



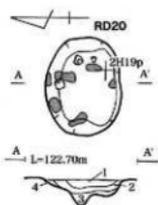
- RD18
- 10YR2/1 黒色土
  - 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック混
  - 10YR3/4 暗褐色土



- RD19
- 10YR2/2 黒褐色土

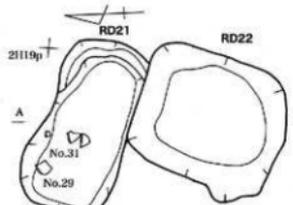


第161図 土坑 (2)



RD20

1. 7.5YR2/1 黒色土 焼土粒含
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土ブロック・炭粒含
3. 10YR2/1 黒色土 しまり部 褐色土ブロック含
4. 10YR3/4 暗褐色土

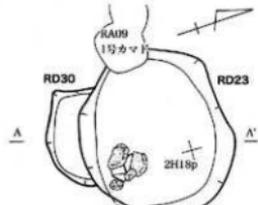


RD21

1. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
2. 10YR5/6 黄褐色土 しまりなし
3. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
4. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
5. 10YR3/3 暗褐色土 しまりなし

RD22

1. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)

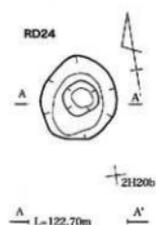


RD23

1. 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土ブロック・焼土粒含
2. 10YR2/3 黒褐色土
3. 2.5YR4/6 赤褐色土 しまりなし 二次焼結焼土ブロック
4. 10YR2/3 黒褐色土
5. 10YR2/3 黒褐色土 黄褐色土ブロック含 (やや多量)
6. 10YR2/1 黒色土 黄褐色土ブロック含 (少量)
7. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (少量)

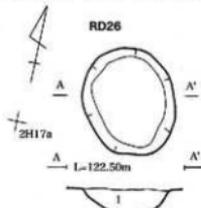
RD30

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR2/2 黒褐色土



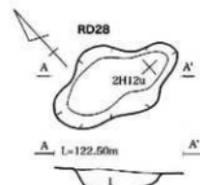
RD24

1. 10YR2/1 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)



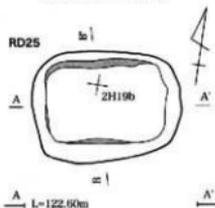
RD26

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)



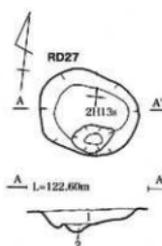
RD28

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)



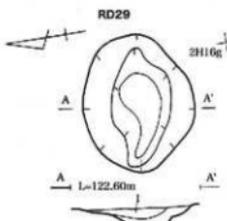
RD25

1. 10YR2/1 黒褐色土
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
3. 7.5YR2/1 黒色土 炭化材集中



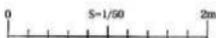
RD27

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR3/4 暗褐色土

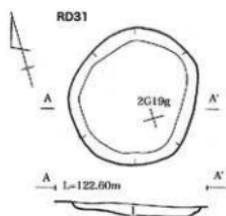


RD29

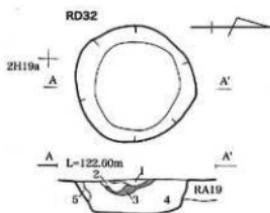
1. 10YR3/2 黒褐色土 草木灰・焼土粒含
2. 10YR3/3 暗褐色土
3. 10YR4/3 に近い黄褐色土



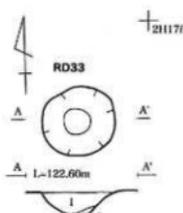
第162図 土坑 (3)



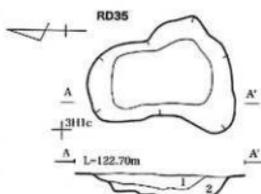
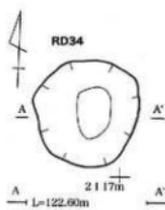
RD31  
1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)



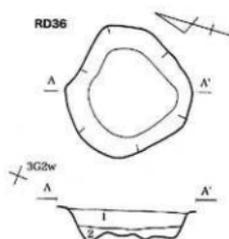
RD32  
1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含  
2. 10YR2/2 黒褐色土 灰ブロック・焼土粒・炭粒含  
3. 5YR4/4 に近い赤褐色土 二次風化焼土ブロック  
4. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含  
5. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



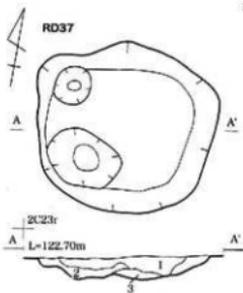
RD33  
1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)  
2. 10YR2/3 黒褐色土



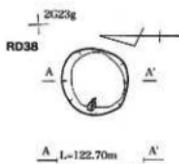
RD35  
1. 7.5YR1.7/1 黒色土 褐色土ブロック含  
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)



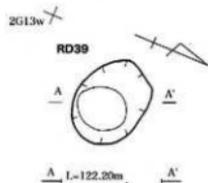
RD36  
1. 10YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック散在  
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含



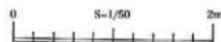
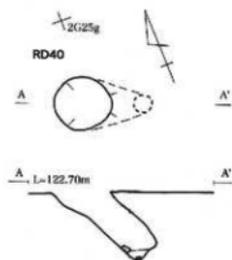
RD37  
1. 10YR2/1 黒色土  
2. 10YR3/3 暗褐色土 黒色土ブロック含  
3. 10YR4/4 褐色土 地山起源の大ブロック  
4. 7.5YR2/1 黒色土



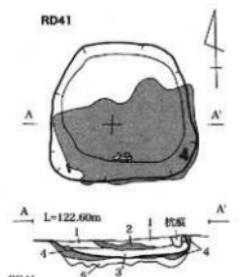
RD38  
1. 10YR2/2 黒褐色土 炭・硬土粒含



RD39  
1. 10YR2/1 黒色土  
2. 10YR2/3 高褐色土 黄褐色土ブロック含  
3. 10YR2/1 黒色土  
4. 10YR4/4 褐色土 暗褐色土ブロック・焼土粒含  
5. 10YR3/2 黒褐色土 下位焼土粒含

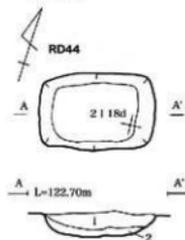


第163図 土坑(4)



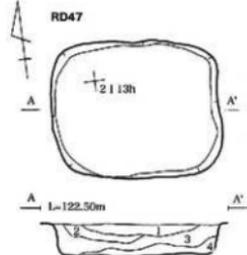
RD41

1. 7.5YR2/1 黒色土 焼土粒含
2. 5YR4/6 赤褐色土 2次埋藏焼土ブロック
3. 7.5YR2/2 黒褐色土 しまり弱 焼土混
4. 5YR4/4 にぶい赤褐色土 意匠模成部 破成に強弱あり
5. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック含 (少量) 覆り方埋土



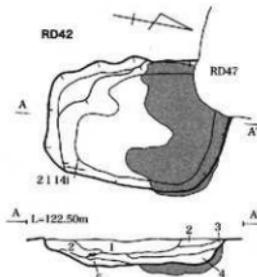
RD44

1. 7.5YR1.7/1 黒色土 上部に褐色土ブロック含
2. 10YR2/3 暗褐色土 褐色土ブロック含



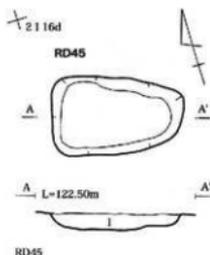
RD47

1. 10YR2/2 黒褐色土 全体に褐色土ブロック含 (やや多量) 焼土粒含
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒含
3. 10YR2/1 黒色土 しまり弱 均質
4. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量) 炭粒含



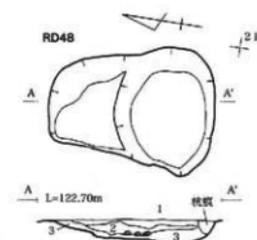
RD42

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR2/1 黒色土 夾層物なし
3. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒・褐色土ブロック含
4. 7.5YR2/2 黒褐色土 焼土粒・炭粒含
5. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)



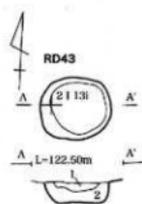
RD45

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含



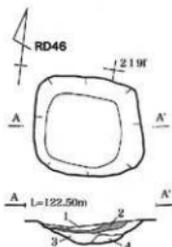
RD48

1. 10YR2/1 黒色土
2. 10YR3/4 暗褐色土 均質
3. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)



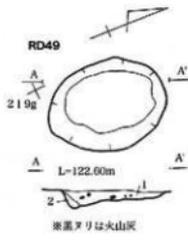
RD43

1. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
2. 10YR1.7/1 黒色土 焼土粒含



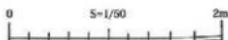
RD46

1. 7.5YR2/2 黒褐色土 灰・焼土粒含
2. 5YR2/2 黒褐色土 炭含 全体に強い焼成を受ける
3. 7.5YR2/1 黒色土 暗褐色土ブロック含
4. 7.5YR2/1 黒色土と褐色土ブロックの混在

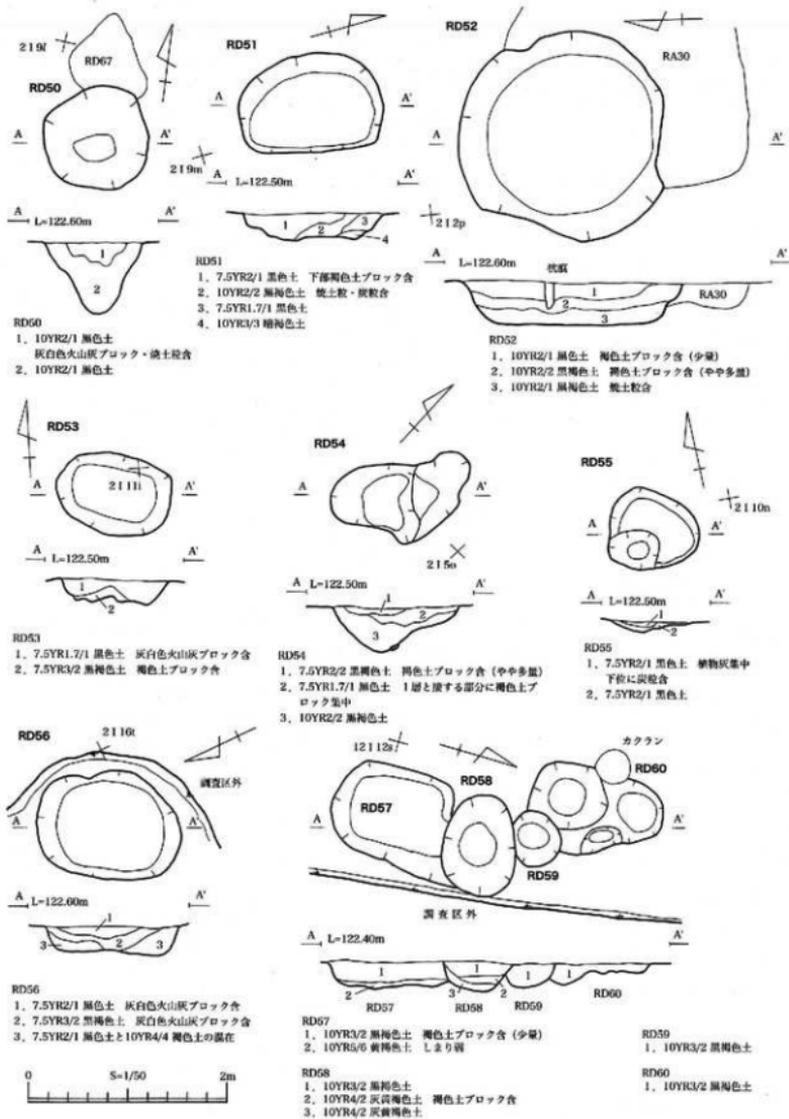


RD49

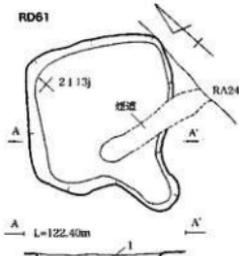
1. 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
2. 10YR2/2 暗褐色土



第164図 土坑 (5)

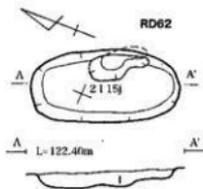


第165図 土坑(6)



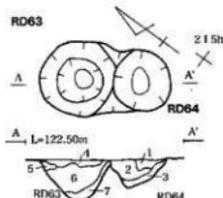
RD61

1. 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック・焼土粒含



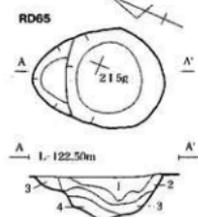
RD62

1. 10YR11.7/1 黒色土 褐色土ブロック含



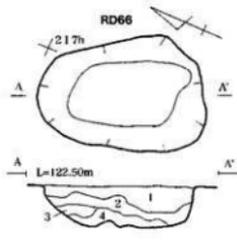
RD63・64

- 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック含 (少量)
- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック・灰白色火山灰ブロック含
- 7.5YR2/1 黒色土 灰白色火山灰ブロック含
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (やや多量)
- 10YR4/6 褐色土 大ブロック
- 10YR2/3 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
- 7.5YR2/1 黒色土



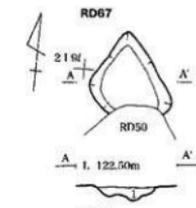
RD65

- 10YR2/1 黒色土
- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)
- 10YR4/4 褐色土 流れ込みブロック
- 7.5YR2/1 黒色土



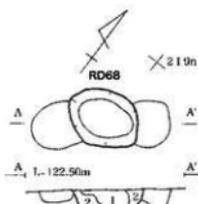
RD66

- 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック含
- 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒含
- 10YR2/2 黒褐色土
- 10YR4/3 紅褐色土~10YR4/4 褐色土



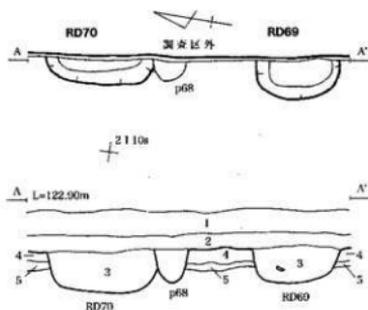
RD67

1. 7.5YR2/1 黒色土



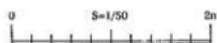
RD68

- 7.5YR1.7/1 黒色土 褐色土ブロック含
- 10YR3/4 黒褐色土 褐色土ブロック含

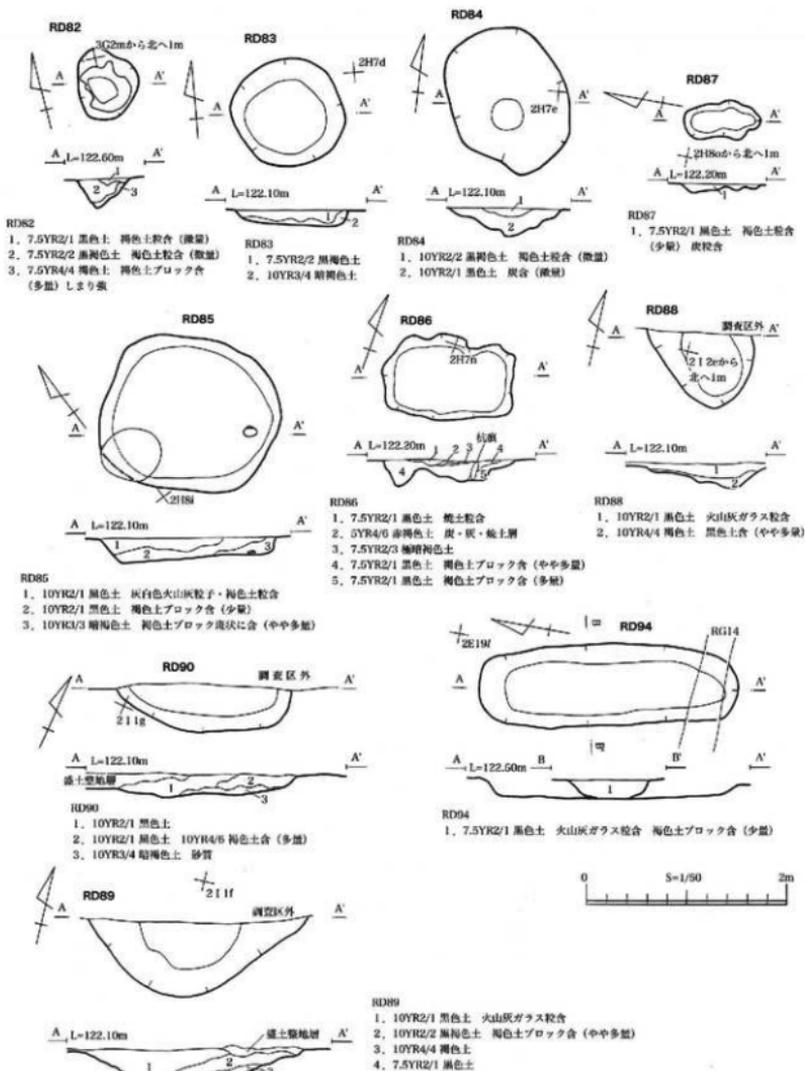


RD09・70

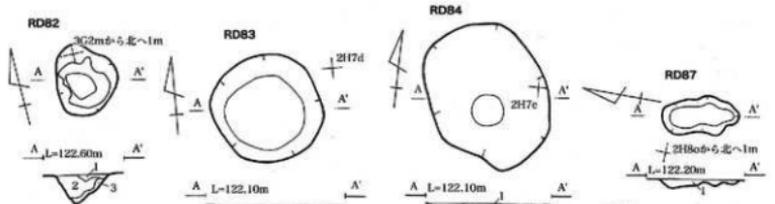
- 10YR3/2 灰黄褐色土 表土
- 10YR3/2 黒褐色土
- 10YR3/2 黒褐色土 褐色土ブロック含 土坑底土
- 10Y13/2 黒褐色土
- 10YR4/2 灰黄褐色土 溝砂層



第166図 土坑 (7)



第167図 土坑(8)



RD82

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土胶合 (微量)
2. 7.5YR2/2 黒褐色土 褐色土胶合 (微量)
3. 7.5YR4/4 褐色土 褐色土ブロック合 (多量) しまり灰

RD83

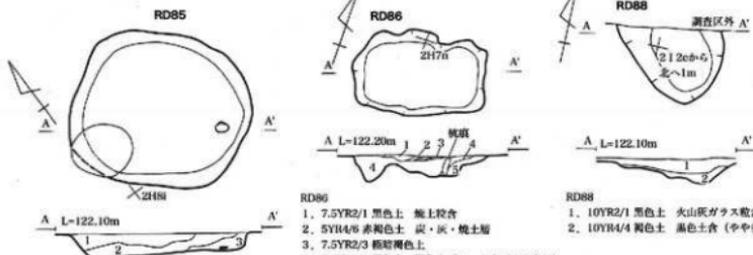
1. 7.5YR2/2 黒褐色土
2. 10YR3/4 暗褐色土

RD84

1. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土胶合 (微量)
2. 10YR2/1 黒色土 灰合 (多量)

RD87

1. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土胶合 (少量) 炭胶合



RD85

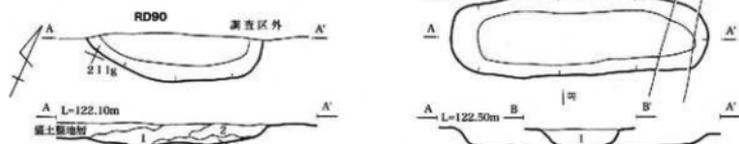
1. 10YR2/1 黒色土 灰白色火山灰砂子・褐色土胶合
2. 10YR2/1 黒色土 褐色土ブロック合 (少量)
3. 10YR3/3 暗褐色土 褐色土ブロック灰状合 (中・多量)

RD86

1. 7.5YR2/1 黒色土 無土胶合
2. 5YH4/6 赤褐色土 灰・焼土層
3. 7.5YR2/3 暗褐色土
4. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック合 (中・多量)
5. 7.5YR2/1 黒色土 褐色土ブロック合 (多量)

RD88

1. 10YR2/1 黒色土 火山灰ガラス胶合
2. 10YR4/4 褐色土 黒色土合 (中・多量)

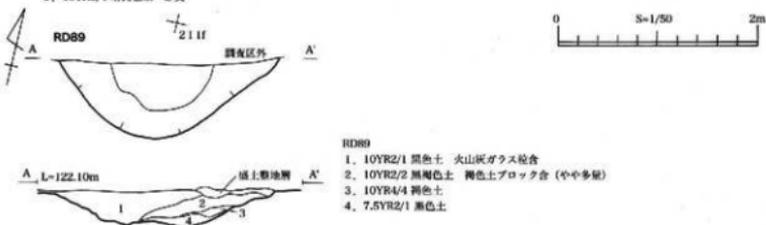


RD90

1. 10YR2/1 黒色土
2. 10YR2/1 黒色土 10YR4/6 褐色土合 (多量)
3. 10YR3/4 暗褐色土 砂質

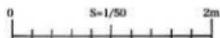
RD94

1. 7.5YR2/1 黒色土 火山灰ガラス胶合 褐色土ブロック合 (少量)



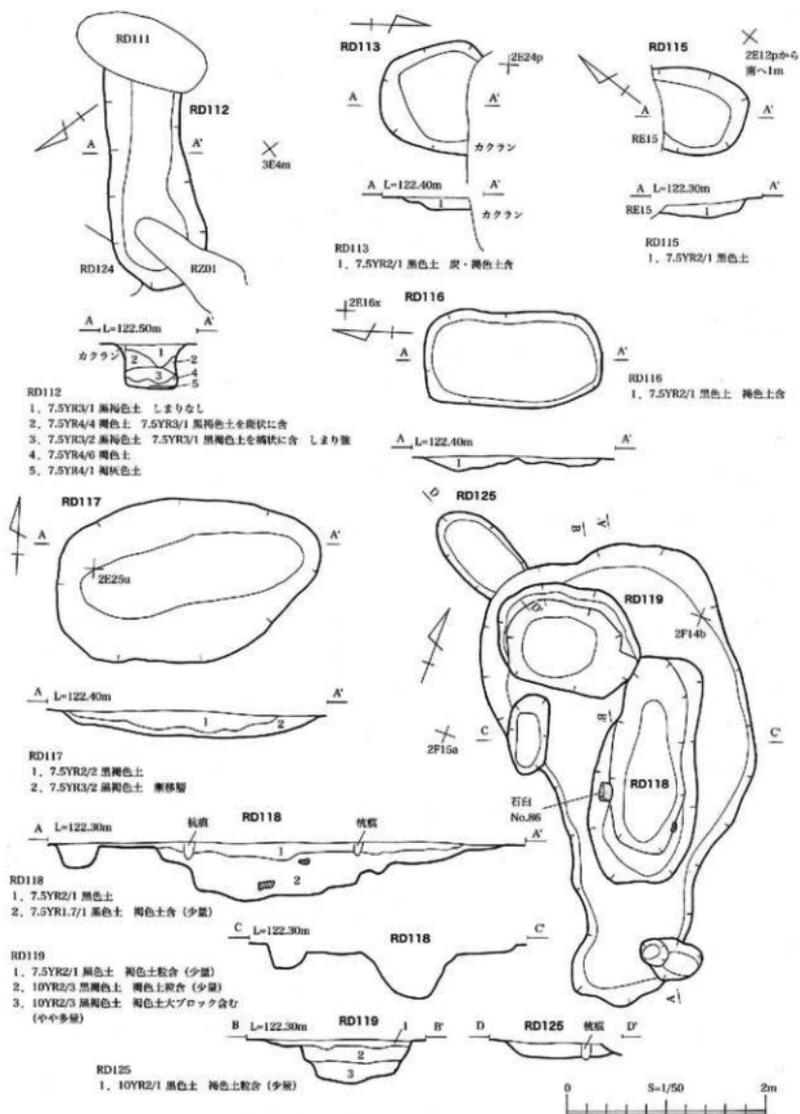
RD89

1. 10YR2/1 黒色土 火山灰ガラス胶合
2. 10YR2/2 黒褐色土 褐色土ブロック合 (中・多量)
3. 10YR4/4 褐色土
4. 7.5YR2/1 黒色土

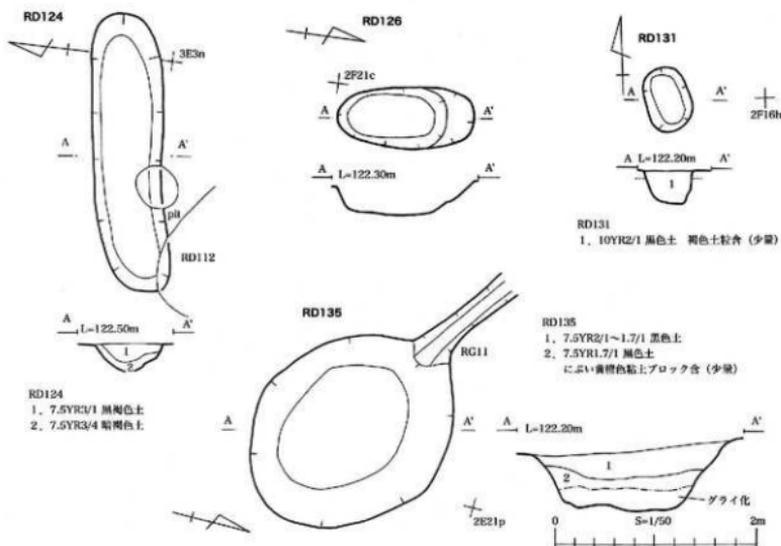


第168図 土坑 (9)





第170図 土坑 (11)



第171図 土坑 (12)

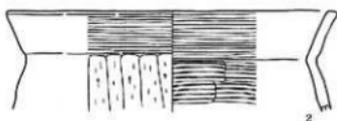
(5) 土坑出土遺物 (第172~177図 写真図版108・110)

〔遺物出土状況〕 土坑からの遺物出土は住居跡に比較が少ないが、幾つかの土坑においてはある程度まとまった数の土器が出土しているものが見受けられる。RD05・10・19・21・23・31・33・38・41・42・47・48・52・85土坑では土師器を中心として一定量の古代の土器が出土しており、選抜して掲載している。特にRD21・23土坑など墓塚、貯蔵穴と推定したもの等が多い。近世の遺物が出土している土坑はRD118土坑からの石臼が挙げられるのみである。

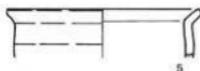
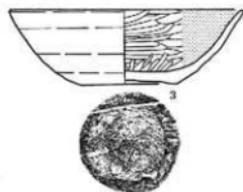
〔土器〕 11のロクロ使用土師器費はRD10出土破片が主体だが、RD15・21・29土坑から出土した破片と接合する。27は高台付環で内面黒色処理を施す。外面体部下半に鋭利な工具による縦横の線刻が刻まれる。66は内面黒色処理を施す土師器環で口縁端部に刻み目が巡る。68は無底式甔の底部破片である。

〔石器・石製品〕 86はRD118土坑出土の石臼である。上臼で1/4が残存する。図のスクリーン・トーン部分は被熱痕跡である。 (高木)

RD01



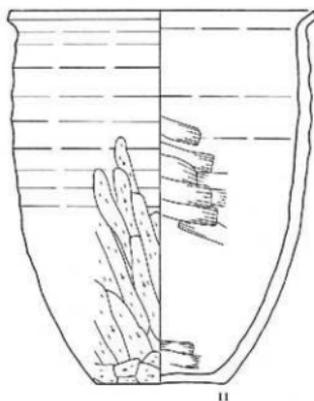
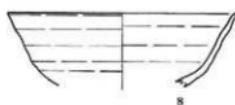
RD05



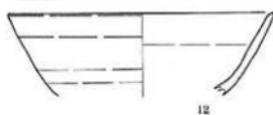
RD07



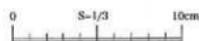
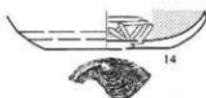
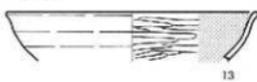
RD10



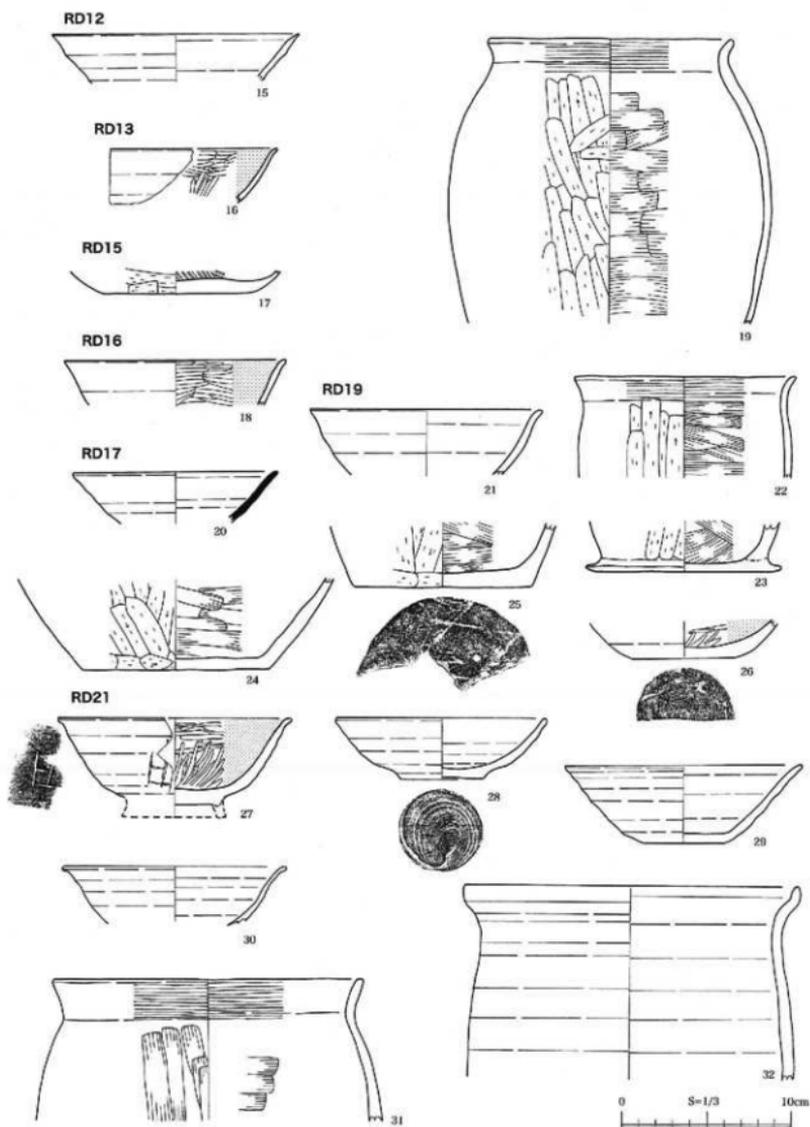
RD11



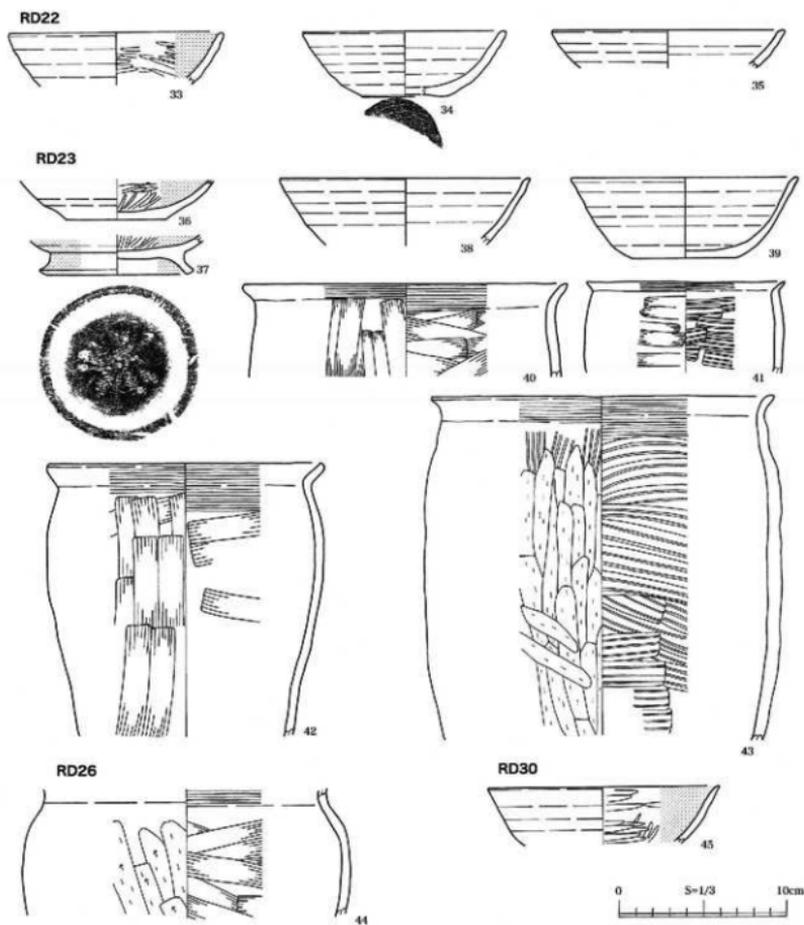
RD12



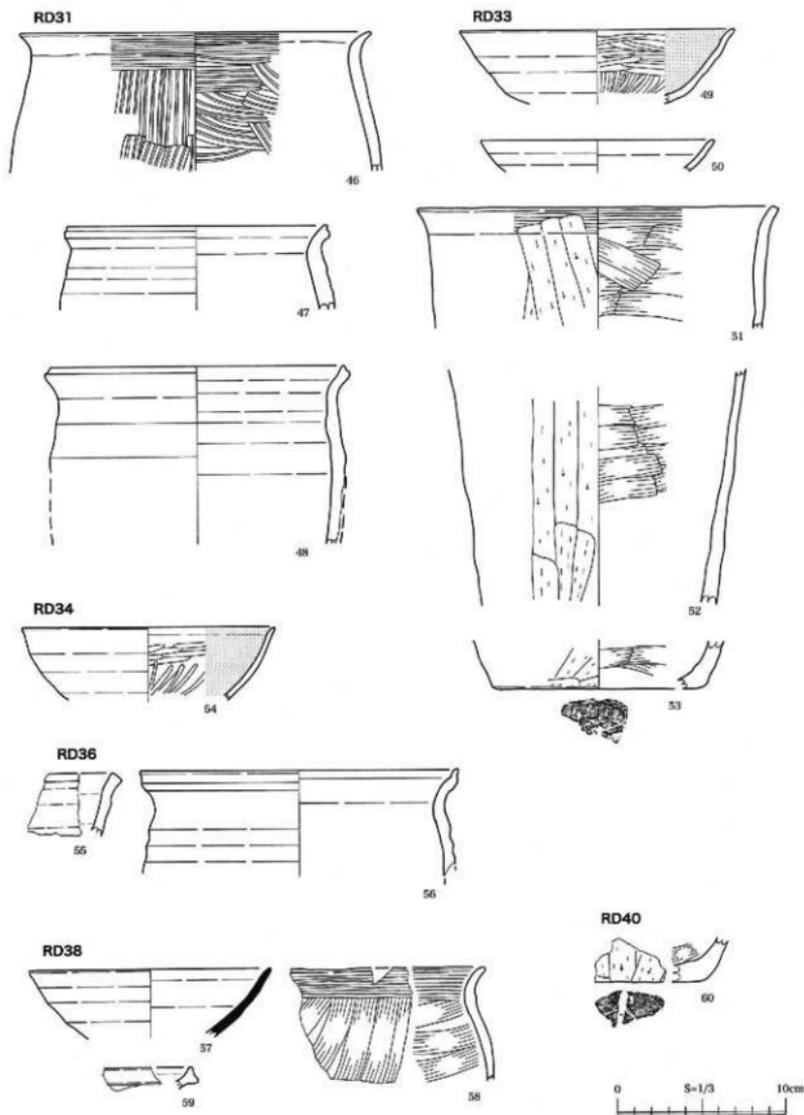
第172图 土坑出土遗物(1)



第173図 土坑出土遺物(2)

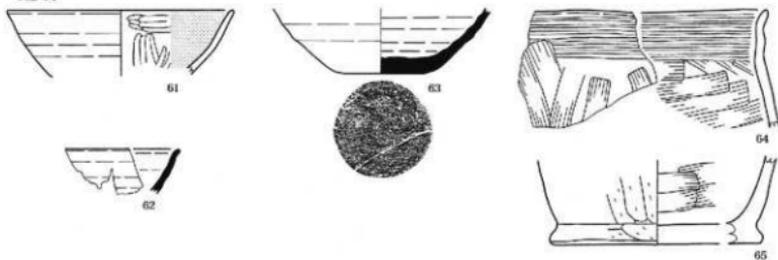


第174圖 土坑出土遺物(3)

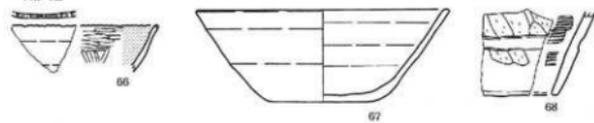


第175図 土坑出土遺物(4)

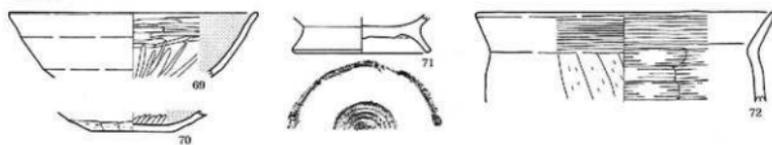
RD41



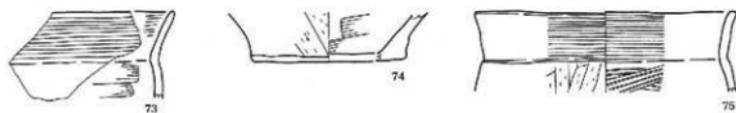
RD42



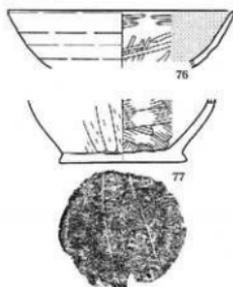
RD47



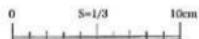
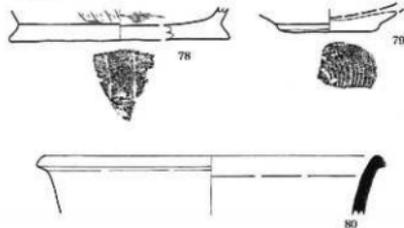
RD48



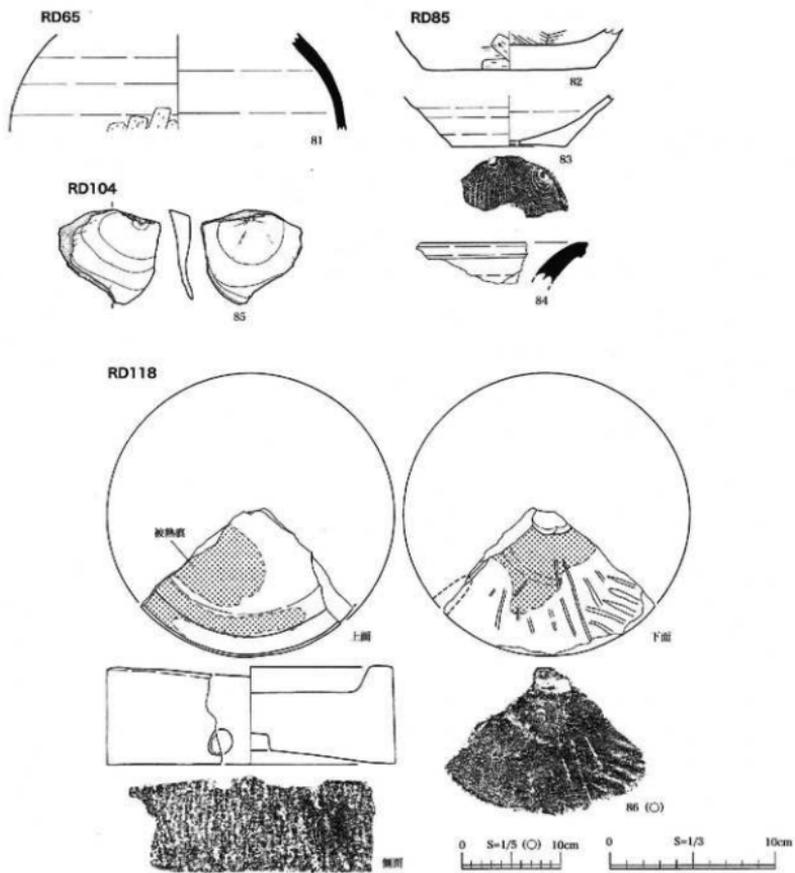
RD50



RD52



第176圖 土坑出土遺物（5）



第177圖 土坑出土遺物(6)

## 第5節 陥し穴状土坑 (第178～180図 写真図版63～65)

溝状に深く掘り込まれ陥し穴としての機能が想定される土坑で、RD71・91・92・93・95・97・98・100・101・102・104・114・120・121・122・123・127・128・129・130・132・133・134土坑の合計23基を検出した。分布は第4次調査区北東部にRD71土坑の1基、第5次調査区東端付近にRD91～93土坑の3基、第5次調査区西側の旧河道に挟まれた微高地にRD95～134土坑の19基となる。第4次調査区の堅穴住居跡分布域には見られない。陥し穴状土坑からの出土遺物は、わずかにRD104土坑底面から頁岩製の薄片が1点(土坑出土遺物-85)出土したのみであり、遺物による時期比定はできない。検出状況は古代の堅穴住居跡、土坑に比較し不明瞭なプランとして確認される場合が大部分であり、古代以前、恐らく縄文時代の可能性が高いと思われる。

〔形状〕 形状は全て溝状の平面形を呈する。開口部では壁面の崩落によりやや幅が広がる楕円形に近いものも見受けられる(RD100・127・129土坑他)が、下半部分では硬い粘土層に達していることから壁面の残存状況が良く、極めて幅の狭い溝状に掘り込まれている。縦断面形状は、両端の下半が大きくオーバーハングするものと、突端から垂直に立ち上がり上部で外傾するものがあるが、崩落の影響が少なくないと考えられるため両者の厳密な区分は困難である。

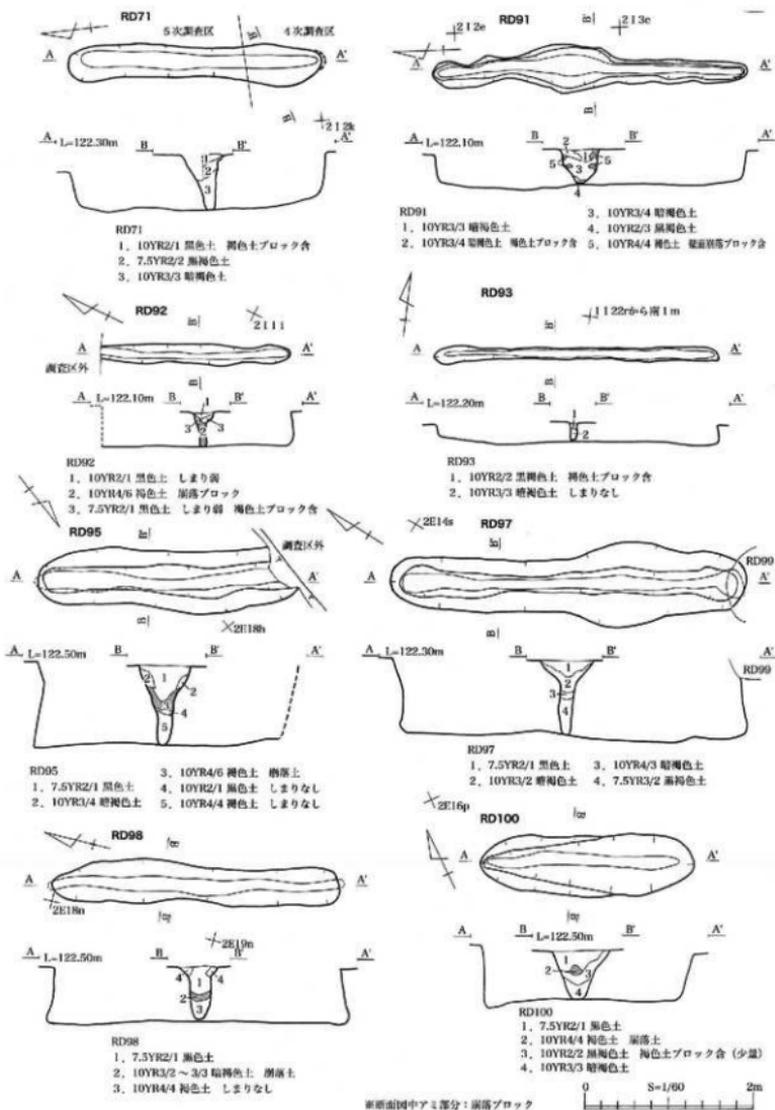
〔規模〕 規模は長軸の長さが250～450cmの範囲に集中する。最大はRD97土坑の426cm、最小はRD134土坑の242cmである。検出面での幅の数値は50～110cmの範囲に分布し、個々の遺構でやや差がある状態だが、底面の幅は5～15cm程度の数値に集中する。深さは70～110cmが多く、最も深く残るRD122土坑で120cmの数値となる。なお、第5次調査区北東部の陥し穴状土坑は水田造成に伴う削平により深さ30～70cmの残存となっている。

〔堆積土〕 堆積状況は、ほぼ全ての陥し穴状土坑で最下部にしまりのない黒褐色～暗褐色の砂質土が堆積し、その上位に上部壁面から崩落したと思われる褐色～黄褐色土ブロックが乗る。最上部は浅い窪地となった部分に均質な黒色土層が形成されている。いずれも自然に埋没した状況と捉えられる。

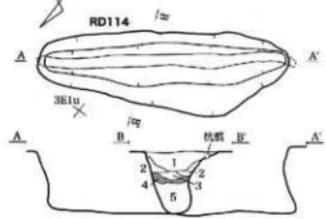
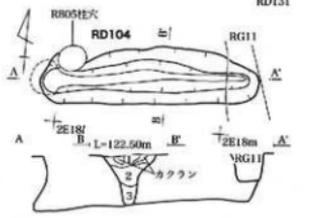
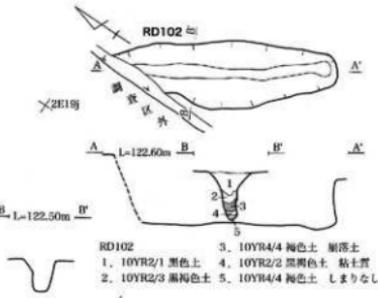
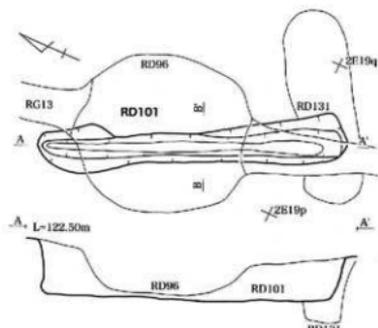
〔配置〕 個々の陥し穴状土坑の位置関係を見ると、第5次調査区西側旧河道域では、北側の微高地、南側の微高地に分かれて配置されている。北側微高地の東半では長軸方位がほぼ南北となるRD120・121・122土坑が平行し、西側になると北西～南東の長軸方位となるものが主体となり、東西長軸のRD101・134土坑が含まれる。RD134土坑は北西～南東長軸のRD96土坑に切られることから長軸方位の違いが年代差を示している可能性もある。南側微高地では同様に東半で南北に近い長軸方位のRD127・128・129・130土坑が平行し、西半では東西長軸のRD114・123土坑の2基がある。東西長軸の陥し穴状土坑が西側に分布する点は旧河道を挟んで南北の微高地間で共通する。東西長軸の4基を除けば、概ね微高地を横断するように設置されているが、間隔は一定ではなく隣接した陥し穴間で長軸方位がややずれている場合が目立つ。

第5次調査区北東部の陥し穴状土坑4基は東端のRD93土坑を除いた3基が南北に近い長軸方位を取る。

(高木)

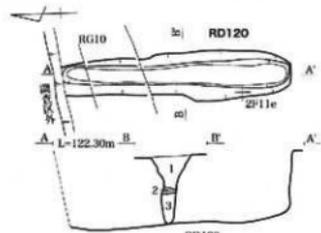


第178図 陥し穴状土坑 (1)



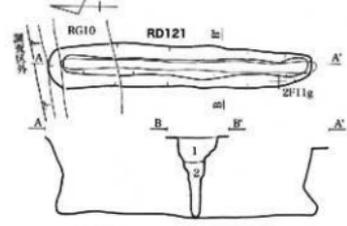
RD104 1. 10YR3/2 黒褐色土 2. 10YR4/3 暗褐色土 しまり強  
3. 10YR3/3 暗褐色土

RD102 1. 10YR2/1 黒色土 2. 10YR2/3 黒褐色土 3. 10YR4/4 褐色土 崩落土  
4. 10YR2/2 黒褐色土 粘土質 5. 10YR4/4 褐色土 しまりなし

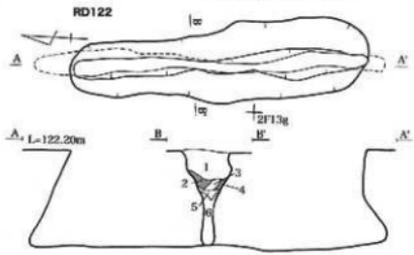


RD114 1. 7.5YR2/1 黒色土 2. 7.5YR3/2 黒褐色土 3. 7.5YR2/2 黒褐色土  
4. 7.5YR4/3 褐色土 5. 7.5YR4/4 褐色土

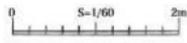
RD120 1. 7.5YR2/1 黒色土 2. 10YR4/4 褐色土  
3. 7.5YR2/1 黒色土 粘土質



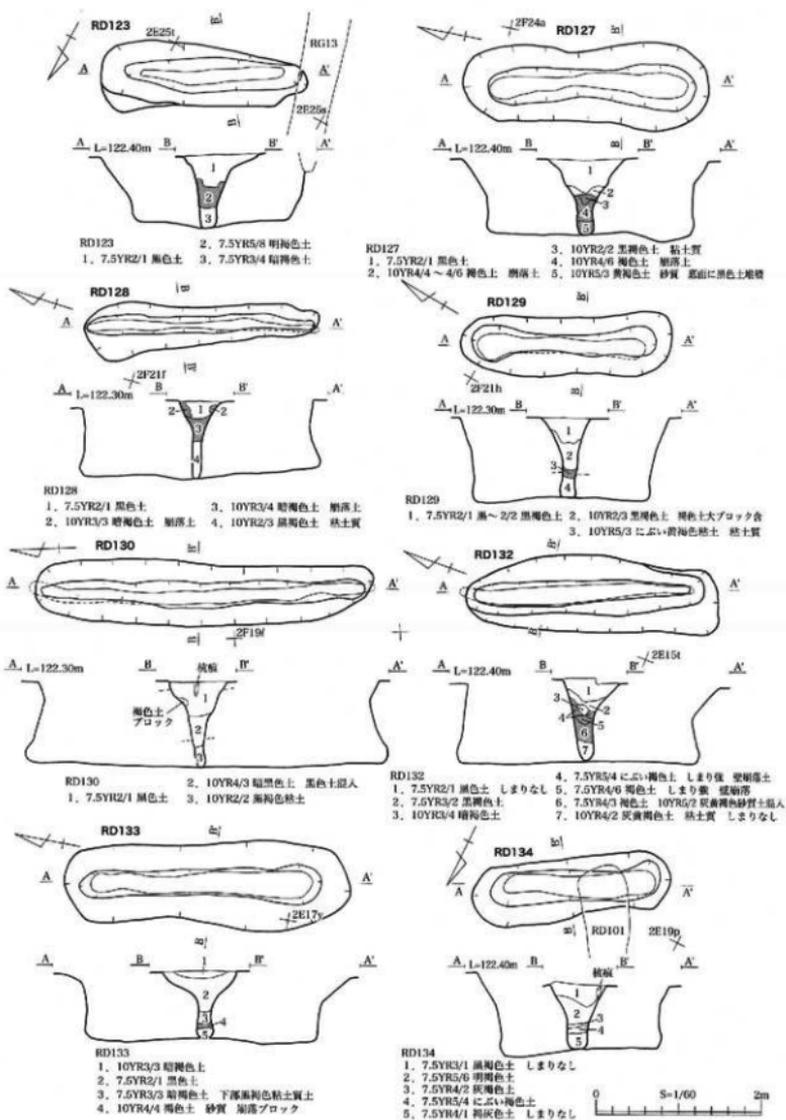
RD121 1. 7.5YR2/1 黒色土 2. 10YR4/4 褐色土・7.5YR2/2 黒褐色土混在



RD122 1. 7.5YR2/1 黒色土 2. 10YR4/0 褐色土 崩落土  
3. 10YR2/2 黒褐色土 4. 10YR4/0 褐色土 崩落土  
5. 7.5YR2/1 黒色土 粘土質



第179図 陥し穴状土坑(2)



第180圖 陥し穴状土坑（3）

第3表 陥し穴状土坑一覧表

| 遺構名   | 遺構図 | 位置           | 長   | 幅   | 深さ  | 長軸方位   | 備考                  |
|-------|-----|--------------|-----|-----|-----|--------|---------------------|
| RD71  | 178 | 2 I1k        | 308 | 52  | 68  | N05° E |                     |
| RD91  | 178 | 2 I2f        | 377 | 60  | 48  | N02° W |                     |
| RD92  | 178 | 1 I25h (228) | 25  | 44  | 44  | N27° W | 北西端調査区外             |
| RD93  | 178 | 1 I22q       | 342 | 20  | 28  | N84° E |                     |
| RD95  | 178 | 2 E18h (316) | 80  | 106 | 106 | N50° W | 北西端調査区外             |
| RD97  | 178 | 2 E14s       | 426 | 105 | 100 | N32° W | RD99より古             |
| RD98  | 178 | 2 E18n       | 360 | 54  | 70  | N14° W |                     |
| RD100 | 178 | 2 E16p       | 256 | 76  | 75  | N65° W |                     |
| RD101 | 179 | 2 E18p       | 372 | 62  | 78  | N34° W | RD96より古 RD131より新    |
| RD102 | 179 | 2 E19k (270) | 84  | 70  | 70  | N34° W | 北西端調査区外             |
| RD104 | 179 | 2 E17l       | 276 | 70  | 70  | N86° E | RB05・RG11より古 炭面剥片出土 |
| RD114 | 179 | 3 E1t        | 310 | 102 | 85  | N55° E |                     |
| RD120 | 179 | 2 F10c (275) | 60  | 98  | 98  | N02° E | 北端調査区外 RG10より古      |
| RD121 | 179 | 2 F10g       | 320 | 55  | 98  | N S    | RG10より古             |
| RD122 | 179 | 2 F12g       | 422 | 106 | 120 | N03° W | 両端ハンク               |
| RD123 | 180 | 2 E24s       | 250 | 90  | 90  | N62° E | RG13より古             |
| RD127 | 180 | 2 E24y       | 300 | 108 | 105 | N12° W |                     |
| RD128 | 180 | 2 F21f       | 285 | 73  | 100 | N17° W |                     |
| RD129 | 180 | 2 F21h       | 255 | 80  | 105 | N30° W |                     |
| RD130 | 180 | 2 F18l       | 418 | 83  | 108 | N03° E | 両端ハンク               |
| RD132 | 180 | 2 E14t       | 314 | 100 | 106 | N22° W |                     |
| RD133 | 180 | 2 E16y       | 346 | 112 | 90  | N11° W |                     |
| RD134 | 180 | 2 E19p       | 242 | 78  | 104 | N65° E | RD101より古            |

## 第6節 陥穴状遺構

概ね長軸方向で3mを超える規模を持ち、カマド、炉等の火処を持たない掘り込みを陥穴状遺構とした。形状は多様で遺構の機能も同一ではないと考えられる。第5次調査区北東部で4基、第5次調査区北西部で1基の計5基を検出した。

### RE01 陥穴状遺構

遺構 (第181図 写真図版66)

〔位置〕 第5次調査区北東部の2 I16 f グリッド付近に位置する。北側1/2は調査区外に伸びる。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 全体形状は不明だが、南東部が突出し北西～南東に主軸を持つ歪な楕円形と捉えられる。規模は検出範囲で長軸4.7m以上、深さは最大15cmである。

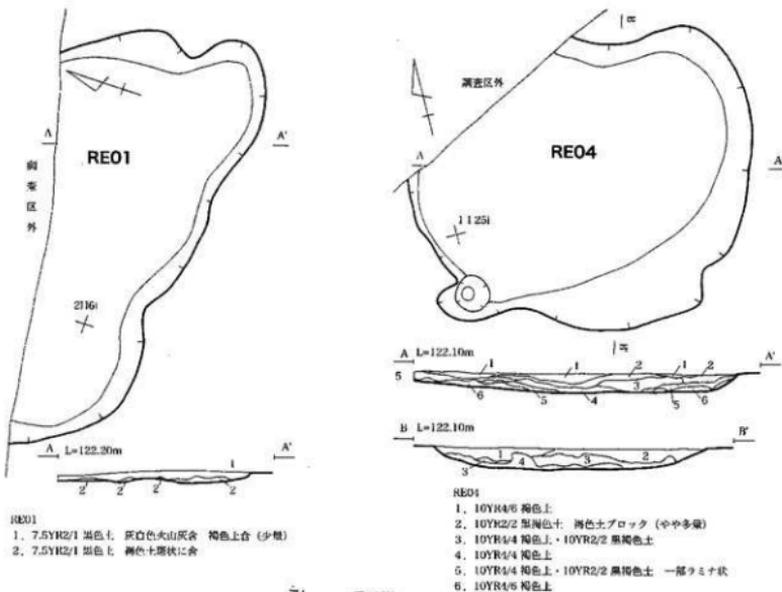
〔堆積土〕 灰白色火山灰ブロック、褐色土ブロックが含まれる黒色土が主体となる。

〔壁・床面〕 断面形状は浅い皿状を呈しており、壁面は緩やかな立ち上がりとなっている。やや凹凸がある底面では硬化は見られない。

遺物 (第183図 写真図版110)

〔土器〕 堆積土中から1の土師器片が出ている。RE02竪穴状遺構出土片と接合する。

小結 削平が進んだ区域のため残存状況は不良だが、本来はもっと深い掘り込みがなされていたものと思われる。プランが不整形で竪穴住居跡の可能性は考えにくく遺構の性格は不明である。時期は埋土中の火山灰から平安時代の遺構である可能性が高い。



第181図 RE01・04・05竪穴状遺構

## RE02 竪穴状遺構

遺構 (第182図 写真図版66)

〔位置〕 第5次調査区北東部の2116 J グリッド付近に位置する。東側に隣接してRE03竪穴状遺構が並び、北側ではRB04掘立柱建物跡の柱穴P7・8を切る。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 形状は南北に長く南側の幅が広がる不整な楕円形と捉えられる。遺構の輪郭線は出入りが著しい。西側では遺構本体と同様の堆積土で検出された溝が平行する。一部途切れるが竪穴状遺構と一連のものと考えられる。規模は南北の長軸線上で5.2m、東西の幅が3.7m、深さは最大28cm。

〔堆積土〕 黒色の砂質シルトが主体となり褐色土ブロックの混入が目立つ。下半の2層は水中で攪拌を受けているような層相を呈している。

〔壁・床面〕 断面形状は浅い皿状を呈しており、壁面は緩やかな立ち上がりとなっている。底面はやや凹凸があり、北側で小径の掘り込みが見られる。

遺物 (第183図 写真図版110)

〔土器〕 RE01竪穴状遺構と接合関係にある1の土器器環が堆積土中から出土している。

小結 プランが不整形で遺構の性格は不明だが、漏水の状態を覆わせる堆積土の状態から見て、隣接するRE03竪穴状遺構と一体で水利に関連する溜池のような施設であった可能性が考えられる。時期はRB04との重複関係から平安時代以降と思われるが、下限は不明である。

## RE03 竪穴状遺構

遺構 (第182図 写真図版66)

〔位置〕 第5次調査区北東部の2H5 k グリッド付近に位置する。RE02竪穴状遺構の東に隣接する。本遺構もRB04掘立柱建物跡の柱穴が想定される位置にあり、恐らく柱穴を切って構築されたものと思われる。検出面はⅢ層上面である。

〔平面形・規模〕 形状は南北に長く北側の幅が広い楕円形である。南端はごく浅い掘り込みが1m程外側に伸び、また南東部では段差を持って半円形に突出する部分がある。規模は南端の浅い部分を含めて南北の長軸が5.25m、東西の幅が3.1m。深さは最大45cm。

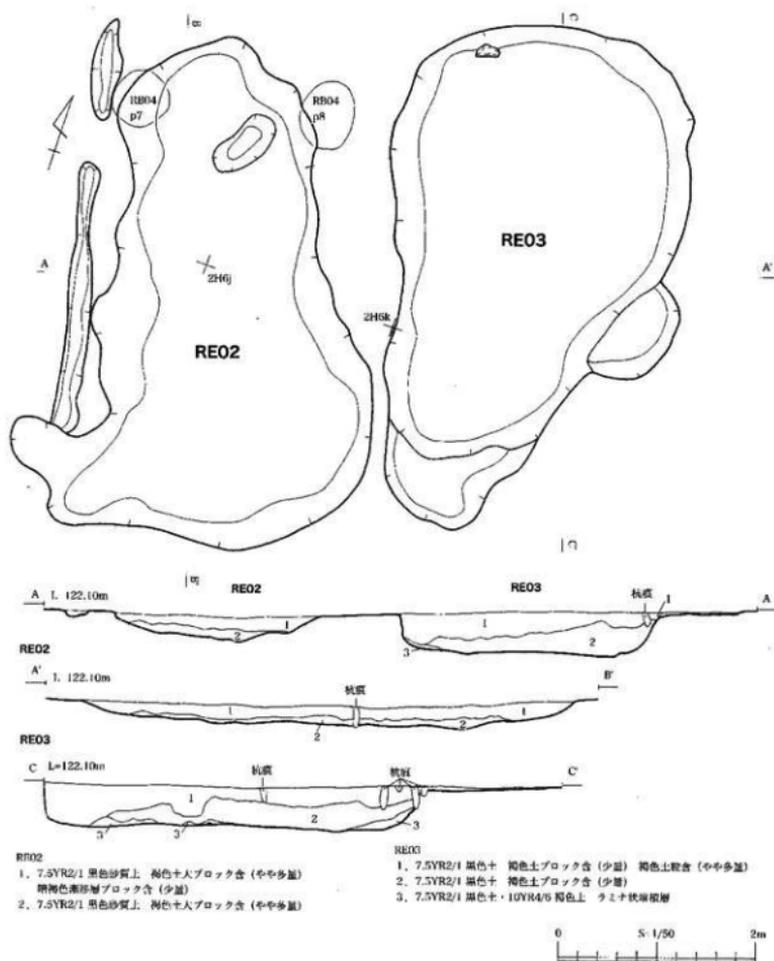
〔堆積土〕 RE02竪穴状遺構と同様に黒色の砂質シルトが主体となり褐色土ブロックの混入が見られる。底面付近では黒色土と褐色土がラミナ状の互層を形成している。

〔壁・床面〕 断面形状は箱形に掘り込まれており、壁面は急角度で立ち上がる。底面はほぼ平坦で酸化鉄層の集積に覆われる。

遺物 (第183図 写真図版110)

〔土器〕 堆積土中から2の土器器環口縁部片が出土している。

小結 底面の酸化鉄層、ラミナ状の堆積が見られる点から漏水の状態であった可能性が高く、RE02竪穴状遺構と一体で溜池のような施設ではないかと考えられる。時期はRB04との重複関係から平安時代以降と思われるが、これも下限は不明である。



第182図 RE02・03竪穴状遺構

### RE04 竪穴状遺構

遺構 (第181図 写真図版67)

【位置】 第5次調査区北東部の1I25iグリッド付近に位置する。北西端が調査区外に伸びる。検出面はⅢ層上面である。

[平面形・規模] 北東部がやや突出するものの全体では東西に長い楕円形と捉えられる。南西部壁際に小径のピットがあるが本遺構との関連は不明である。規模は3.4×3.2m、深さは最大20cmである。

[堆積土] 概ね褐色砂質土を主体とする。地山褐色砂層との区別は黒褐色土がラミナ状に含まれている点、全体にしまりが弱い点から判断した。水性堆積の状況と思われる。

[壁・床面] 断面形状は浅い皿状を呈しており、壁面は緩やかに立ち上がる。底面は平坦で硬化部分は見られない。

遺物 なし。

小結 ブランが不整形で堅穴住居跡の可能性は考えにくく遺構の性格は不明である。出土遺物が皆無であり時期も不明である。

### RE05 堅穴状遺構

遺構 (第181図 写真図版67)

[位置] 第5次調査区北西部の2E12uグリッド付近、北側の調査区境界に位置する。検出面はⅢ層上面である。東西に調査区境を走るRG10溝跡の途中にあり、当初は重複を想定して精査を進めたが堆積土の区別ができず、溝と一連のものとして判断した。

[平面形・規模] 東西に長い楕円形を呈する。規模は4.85×2.3m、深さは最大45cmである。

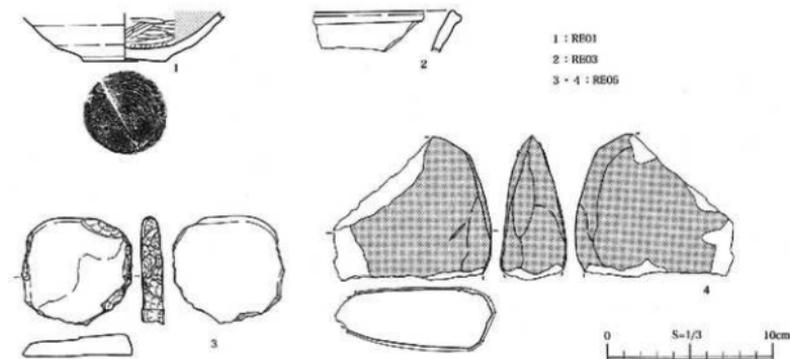
[堆積土] 褐色土ブロックを若干含む黒色土、黒褐色土が堆積する。自然堆積の状況と見られる。

[壁・床面] 断面形状は逆台形に近く壁面は外傾して立ち上がる。底面は概ね平坦である。

遺物 (第183図 写真図版110)

[石器] 堆積土中から3の円盤状石製品、4の砥石が出土している。3は自然礫の側縁を敲打刺離により円形に整形しているが、用途は不明である。4は玄武岩質溶岩を使用した荒砥石の破損品である。

小結 水路の可能性のある溝と一連の掘り込みであり、第4節(4)で述べた溜池と同一の性格を持つ遺構と考えられる。時期は溝の年代が近世と考えられることから本遺構も近世に属する可能性が高い。(高木)



第183図 堅穴状遺構出土遺物

## 第7節 焼土遺構

第4次調査区で1基(RF01焼土遺構)確認した。なお現地調査時点では本遺構はRF02焼土遺構として登録しており、これとは別にRD29土坑上部の焼土をRF01焼土遺構として精査したが、下部土坑埋土中の焼土と判明したため抹消している。現地記録類でRF02としているのが掲載したRF01焼土遺構に関わるものである。

### RF01 焼土遺構

#### 遺構 (第184図)

[位置] 第4次調査区中央の遺構密集域、2H18pグリッド付近に位置する。RD23土坑の直上にあたる。

[形状・規模] 径75×60cmの不整形を呈する範囲で厚さ最大10cmなる現地性の焼土が見られる。焼成は良好で赤褐色に変色している。また周辺の楕円形を呈する2×1.5mの範囲に焼土粒が散乱する状態となっており、これはRD23土坑プランとほぼ一致するが、焼土遺構周辺部の状況として捉えた。

#### 遺物 (第185図)

[遺物出土状況] 焼成面付近に土器片が多数分布する。

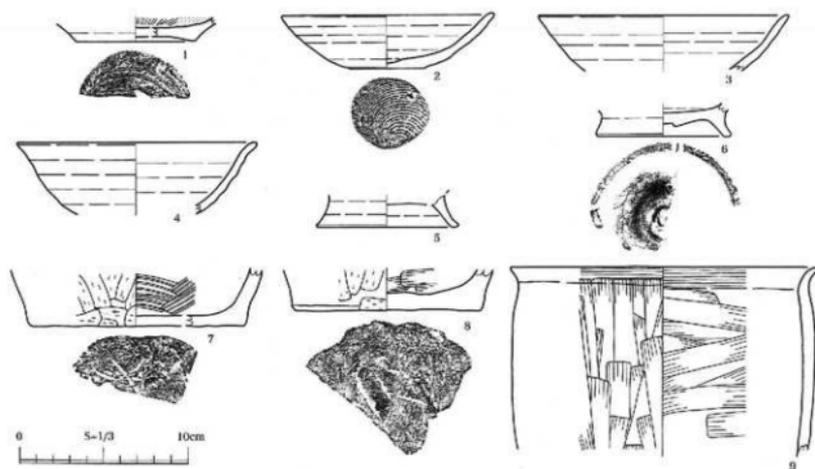
[土器] 土師器坏4点、土師器高台付坏2点、土師器甕2点を掲載した。

小結 現地性の焼土と判断し焼土遺構として登録した。RD23土坑の開口部プランと範囲が一致することから、土坑最上部での何らかの焼成行為によるものかも知れない。時期は重複関係、出土土器より9世紀後半～10世紀初頭の年代が考えられる。

(高木)



第184図 RF01焼土遺構



第185図 R F 01焼土遺構出土遺物

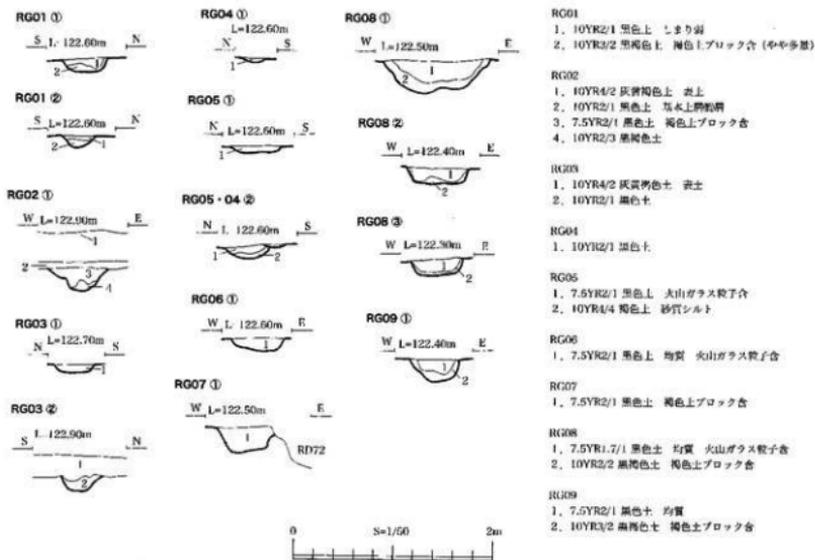
## 第8節 溝跡

遺構（付図 第186・187図 写真図版68～71）

第4次調査区で9条、第5次調査区で13条の計22条を登録した。個々の平面図は付図遺構配置図を参照されたい。時期は第4次調査区では平安時代、近世以降の両者を含み、第5次調査区では近世以降の溝が大部分となるようである。

R G 01・R G 02・R G 05・R G 06・R G 08溝跡の5条については、住居跡、土坑との重複、R G 08溝跡からの出土遺物から平安時代と判断した。東西に南北方向のR G 02・08溝跡、南側に東西方向のR G 01・05溝跡が位置し、全体では住居跡集中区域をコの字状に囲む配置を取っている。南辺中央では南北方向のR G 06溝跡があり、これはR G 05溝跡と同時期と判断される。北側に隣接する第5次調査区北東部では一段低く削平されたことによりR G 02・08溝跡の延長部分が消失しているものと考えられ、不整形な方形の区画が構成されていた可能性がある。なお区画の内外では遺構の種類、密度に差はない。遺物はR G 08溝跡中央部で埋土中より土師器甕、須恵器壺の出土があるが、1ヶ所に集中的に廃棄したような状況は見られない。

第5次調査区では南北方向に旧河道を横断するように南北に伸びるものが、20～30mという一定の間隔を開けて複数平行する。R G 11・12・13・15・16・17・18・19・20溝跡が該当する。また、現況の地割となる北側調査区境をR G 10溝跡、北側旧河道沿いをR G 14・21がそれぞれ東西方向に走る。南側旧河道中央部底面ではR G 22溝跡が旧河道の方向に沿って伸びている。これらは互いに切り合い関係を持つものを含むが、堆積土の状態から総じて近世以降の水路として掘られたものが主体となると思われる。溝の間隔はこれに伴う水田区画に対応する可能性がある。

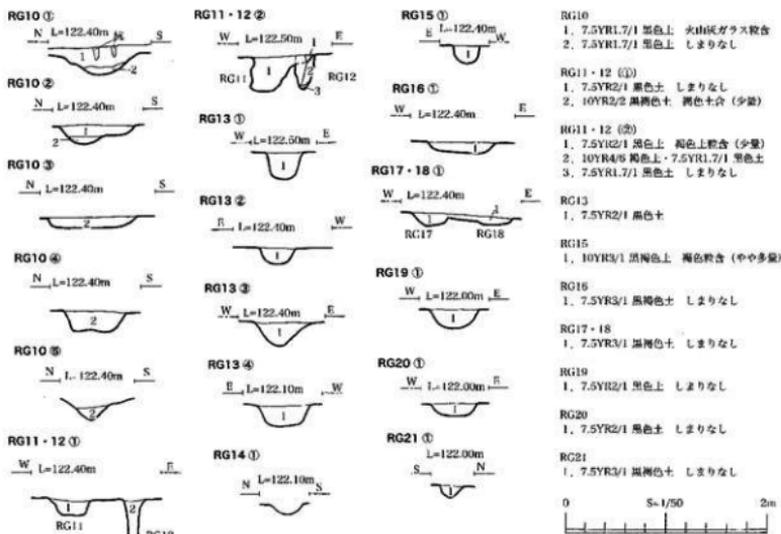


第186図 溝跡断面(1)

第4表 溝跡一覧表

裾ブ:褐色土ブロック  
ガラス:火山灰起源ガラス粒子

| 遺跡名  | 区域    | 走向 | 延長(m) | 幅(cm)  | 深(cm) | 地積土                  | 新旧関係  | 時代    | 備考   |
|------|-------|----|-------|--------|-------|----------------------|---|-------|------|
| RG01 | 4次中央部 | 東西 | 20.0  | 30~60  | 15    | 上半黒色土 下半黒褐色土(裾ブ含)    |   | 古代    | 区画溝  |
| RG02 | 4次中央部 | 南北 | 16.0  | 20~40  | 24    | 上半黒色土(裾ブ含)<br>下部黒褐色土 | RA04, RD10より古                                   | 古代    | 区画溝  |
| RG03 | 4次南西部 | 東西 | 25.7  | 40~50  | 14    | 黒色土                  |   | 近世~近代 |      |
| RG04 | 4次南東部 | 東西 | 30.0  | 30~40  | 4     | 黒色土                  | RG05より新   | 近世~近代 |      |
| RG05 | 4次南東部 | 東西 | 31.2  | 50~60  | 14    | 褐色土(ガラス含)            | RG04, RD56より古                                   | 古代    | 区画溝  |
| RG06 | 4次南東部 | 南北 | 8.5   | 50~60  | 12    | 褐色土(ガラス含)            | RD44-45, RG04より古                                | 古代    | 区画溝  |
| RG07 | 4次北東部 | 南北 | 5.0   | 30~50  | 28    | 褐色土(褐色土ブロック含)        | RD52より古   | 古代    | 雨裂か? |
| RG08 | 4次北東部 | 南北 | 28.5  | 50~100 | 32    | 褐色土(ガラス含)            |   | 古代    | 区画溝  |
| RG09 | 4次北東部 | 南北 | 2.0   | 50     | 24    | 上半黒色土 下半黒褐色土(裾ブ含)    |   | 古代    | 雨裂か? |
| RG10 | 5次北西部 | 東西 | 62.0  | 90~60  | 30    | 褐色土(ガラス含)            | RE05と同時期<br>RD115・120・121・131,<br>RG11・12・13より新 | 近世~?  | 水路   |



第187図 溝跡断面 (2)

第4表 溝跡一覧表

補注：褐色土ブロック

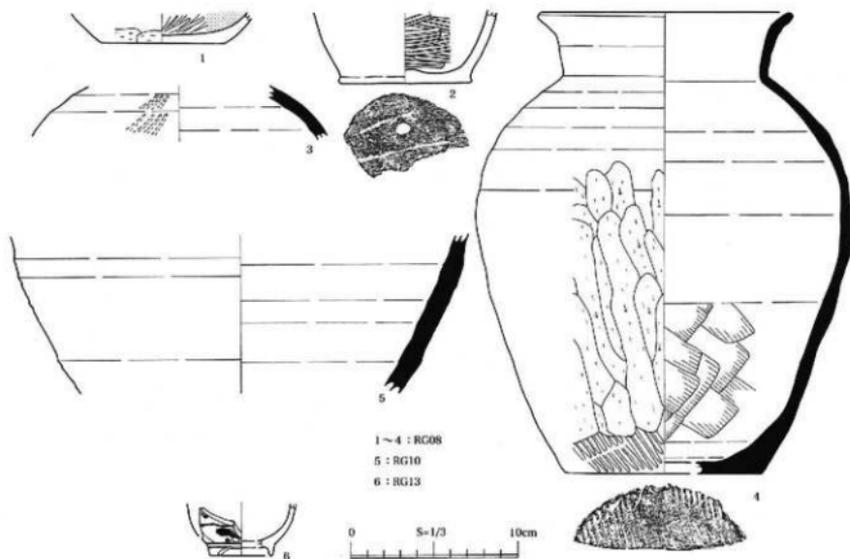
| 遺構名  | 区域    | 走向 | 延長(m) | 幅(cm) | 深(cm) | 堆積土       | 新旧関係  | 時代   | 備考 |
|------|-------|----|-------|-------|-------|-----------|---|------|----|
| RG11 | 5次北西部 | 南北 | 18.0  | 60~30 | 35    | 黒色土(褐フ含)  | R D135と同時期 R D104, R G12より新 R B05, R G10より古 | 近世   | 水路 |
| RG12 | 5次北西部 | 南北 | 16.7  | 30~20 | 42    | 黒色土・褐色土混在 | R D103と同時期 R G10・11より古                      | 近世   | 水路 |
| RG13 | 5次北西部 | 南北 | 55.0  | 70~30 | 28    | 黒色土       | R D96と同時期 R D101・123・134より新 R G10より古        | 近世   | 水路 |
| RG14 | 5次北西部 | 東西 | 6.5   | 30    | 10    | 黒色土       | R D94・102より新 R B05より古                       | 近世   |    |
| RG15 | 5次南西部 | 南北 | 8.0   | 30    | 18    | 黒褐色土(褐フ含) |   | 近世~? |    |
| RG16 | 5次北西部 | 南北 | 8.5   | 70    | 10    | 黒褐色土      |   | 近世~? |    |
| RG17 | 5次南西部 | 南北 | 9.0   | 30    | 13    | 黒褐色土      |   | 近世~? |    |
| RG18 | 5次南西部 | 南北 | 6.0   | 30    | 10    | 黒褐色土      |   | 近世~? |    |
| RG19 | 5次中央部 | 南北 | 20.0  | 60~30 | 20    | 黒色土       | R G21より新                                    | 近世~? |    |
| RG20 | 5次中央部 | 南北 | 20.5  | 60    | 13    | 黒色土       |   | 近世~? |    |
| RG21 | 5次中央部 | 東西 | 9.3   | 30    | 12    | 黒褐色土      | R G19より古                                    | 近世~? |    |
| RG22 | 5次南西部 | 東西 | 6.0   | 50    | 15    | 黒色土       |   | 近世~? |    |

遺物 (第188図 写真図版111)

【土器】 RG08清跡から1~4の土師器甕、須恵器壺が出土している。4は体部下半にヘラケズリが加えられるもので、底部付近にタタキメが残る。

【陶磁器】 RG13清跡から6の磁器染付桶が出土している。草花文を描くもので近世後半と考えられる。

(高木)



第188図 清跡出土遺物

## 第9節 井戸跡

第5次調査区西側で石組を伴うR101井戸跡を検出した。この他に南西端の第6次調査区でR102井戸跡を調査しており、調査略報で「R102井戸状遺構」として既に報告済みであるが合わせて記載する。

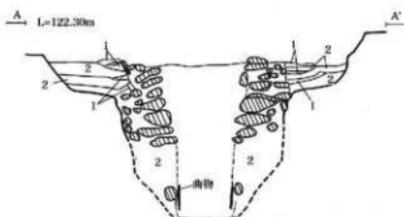
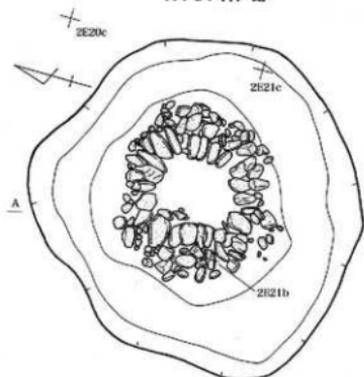
### R101井戸跡

遺構 (第189図 写真図版72)

【位置】 第5次調査区西側で平行する旧河道のうち、北側の旧河道内、2E20aグリッド付近に位置する。検出面はⅢ層上面である。

【形状・規模】 深さは検出面から底面まで1.9mである。上部は径3.6×3.2mの歪んだ円形に掘り広げられ、中間は円筒形、下部は漏斗形に掘り込まれる。上部から中間、底面から0.7~1.6cmの間には石組が構

### R101 井戸跡

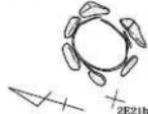


R101

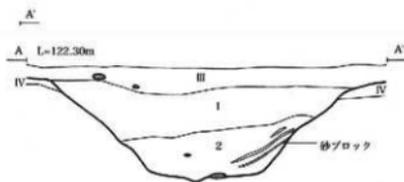
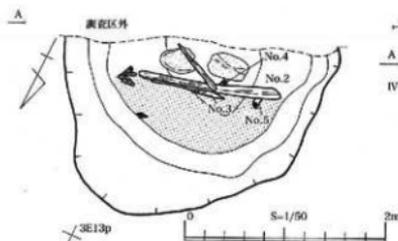
1. 10YR4/6 褐色粘土 裏込粘土

2. 7.5YR2/1 黒色土

基礎水溜曲物出土状況



### R102 井戸跡



R102

1. 7.5YR3/1 黒褐色土 褐色土ブロック含 (少量)

2. 7.5YR2/1 黒色土 部分的に砂の混れ込みあり

第189図 R101・02井戸跡

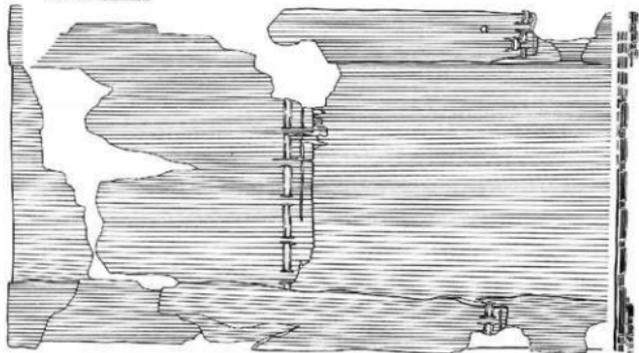
築され、径70cmの井戸穴を囲む。使用される礫は長30～40cm程度の細長い角礫を主体とした自然礫で、内側が面的に揃うように放射状に組まれている。また、石組外側の隙間には裏込の小石が充填される。上部掘り込み部分の石組外側は石に接するように補強の褐色粘土が貼り付けられ、外側は黒色土により埋め戻されている。中間から下部は素掘りの状態で中央の井戸穴を囲み黒色土により埋め戻されており、最下部の底面中央には水溜として径45cmの曲物が設置される。曲物の上部周囲は長30cm程の礫数個で囲み固定している。なお底面は礫層に塗していたが、湧水が著しく精査不能の状態であった。

#### 遺物 (第190図 写真図版112)

本井戸跡からの出土遺物は1の曲物1点である。スギ材を使用した(付編3参照)径45cm、高さ28cmの円形曲物で、桎目材を2周半させ樺皮で綴じている。上下に幅5cmの補強帯が通り、釘穴のような円孔が見られるが、底板を結合していた痕跡は確認できない。内面には斜格子状の切り込みが施されている。

小結 検出面、及び石組と曲物による水溜の状態から見て中世～近世にかけての井戸と考えられる。年代を示す陶磁器、銭貨等の遺物は出土していない。

R101井戸跡出土遺物

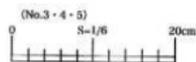


厚板内面

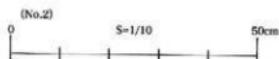
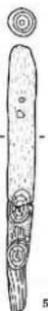
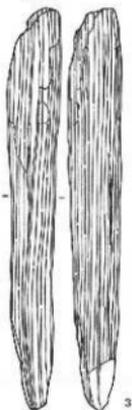
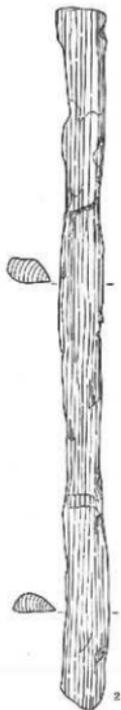


釘穴

補強帯内面



R102井戸跡出土材



第190図 井戸跡出土遺物

## R102井戸跡

遺構（第189図 写真図版72）

〔位置〕 第5次調査区の南西に隣接する第6次調査区南東部調査区境、3E13〇グリッド付近に位置する。南東側約1/2は現行の水路保護のため掘削不可能と判断した範囲に含まれており、調査を行っていないため、全体の形状、規模は推定である。検出面はⅢ層上面。

〔形状・規模〕 断面形状が逆台形に掘り込まれた素掘りの井戸跡で、開口部径は2.7m、深さは1m。堆積上は上部が黒褐色シルトで地山の褐色土ブロックが含まれ、下部はラミナ状の堆積を示す砂ブロックを含む黒色シルトである。壁面では北側の側壁に沿って径10～20cm前後の礫が階段状に敷かれたような状態で分布する。礫群の下端には長さ140cmの角材が置かれ、これを支える杭が4本検出されている。恐らく礫群の崩落を止める目的で設置された材と考えられる。また、底面からは40×25cm程の扁平な礫が2点出土する。全体の状況が判明しないため確実ではないが、側壁、底面の礫群は足場として配置された可能性がある。

遺物（第190図 写真図版112）

本井戸跡からの出土遺物は前述のように構造物の一部として2の角材、3・4・5の杭がある。樹種は角材がコナラ属コナラ亜属コナラ節、3の杭がマンサクである（付編2参照）。

小結 素掘りの井戸で年代は不明であるが、検出層位から中世～近世にかけてのものと考えられる。（高木）

## 第10節 カマド状遺構

焼成を受ける溝状の掘り込みとして検出される遺構をカマド状遺構とした。第5次調査区西端で2基検出している。検出当初、遺構の種類が判明しなかったため「RZ」の略号を使用した。

### RZ01カマド状遺構

遺構（第191図 写真図版73）

〔位置〕 第5次調査区の西端、3E31グリッド付近に位置する。中央部でRZ03カマド状遺構に切られる。また、東端はRD112土坑を切っている。検出面はⅢ層上面。

〔形状・規模〕 東西に細長い溝状の掘り込みで、東側の側壁に焼成が見られるため東寄りが燃焼部、西寄りが前底部と捉えられる。西側1/3は角度を変えて浅くなり末端に平っており、この部分については他遺構の重複も考慮されたが判然としない。規模は長さ3.8m、幅55cm、中央部での深さ35cm。堆積上は焼土粒、若干の褐色土ブロックを含む黒色土である。

〔焼成の状況〕 燃焼部の側壁上部から燃焼部奥側にかけて、馬蹄形に焼成を受ける部分がある。内部では堆積土中に75×35cmの範囲で焼土層、その下位に炭化物層が見られる。焼土層は厚さ平均5cmで広がっているが、本来の焼成面に形成されたものかどうかははっきりしない。天井部分の焼成層が陥没した部分の可能性もある。

遺物 なし。

小結 焼成を伴う遺構であることは明らかで、焼成土坑とも異なるタイプであるが、具体的な機能、年代は不明である。



### RZ03カマド状遺構

遺構 (第191図 写真図版73)

〔位置〕 第5次調査区の西端、3E41グリッド付近に位置する。北西端がRZ01カマド状遺構を切る。検出面はⅢ層上面。

〔形状・規模〕 北西～南東方向に長軸を持つ溝状の掘り込みで、南東寄りが燃焼部、北西寄りが前底部と捉えられる。規模は長さ2.3m、幅40cm、中央部での深さ30cm、堆積土は粘土粒、若干の褐色土ブロックを含む黒褐色土である。

〔焼成の状況〕 中央部南東寄りが馬蹄形の焼成面を持つ。側壁の焼成はRZ01カマド状遺構ほど顕著ではない。また焼成面に囲まれるように炭化物の集中が見られる。下部の4層にも焼土ブロックが散見される。

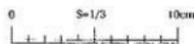


遺物 (第192図)

〔土製品〕 1は底面から出土した焼成粘土塊である。土器類の出土はない。

小結 規模、形状、焼成の状況はRZ01カマド状遺構と類似する。同様に、年代、遺構の性格は不明である。

(高木)



第192図 RZ03カマド状遺構出土遺物

## 第11節 畝間状遺構

第5次調査区西端で9条の浅い溝状掘り込みが平行している状態が見られ、耕作に関わる痕跡の可能性があると判断し、RZ02畝間状遺構として登録した。

### RZ02畝間状遺構

遺構 (第191図 写真図版73)

〔位置〕 第5次調査区西端の3E5jグリッド付近にあり、東西4.5m、南北3.5mの範囲に9条の溝が平行する。西側でRG15溝跡に切られる。検出面はⅢ層上面である。

〔形状・規模〕 溝の長さは4.4～1.1mまでと差があるが概ね2.5m前後のものが多い。幅は20～40cm程、深さは5cm未満で浅いU字状に掘られている。溝底面は起伏が見られるが顕著な鬮削痕としては確認できない。平行する溝の間隔は20～30cm前後だが一部接する場所もある。方向はN-20°-W付近に揃う。

〔堆積土〕 暗褐色の均質なシルトで、RG15溝跡埋土の黒褐色土より明色である。

遺物 なし。

小結 年代、遺構の性格ともに不明とせざるを得ないが、畝耕作による畝間の溝と判断した。しかし、土壌の花粉分析等を実施していないため確実ではない。検出範囲は旧河道に挟まれた微高地にあたり、旧河道部分での畝作は現実的には考えにくい。そのため、本来の分布範囲が検出範囲よりも南北に更に広がっていたのか、微高地に限定されて東西に細長く分布していたのかという点については、後者の可能性が高いとされる。

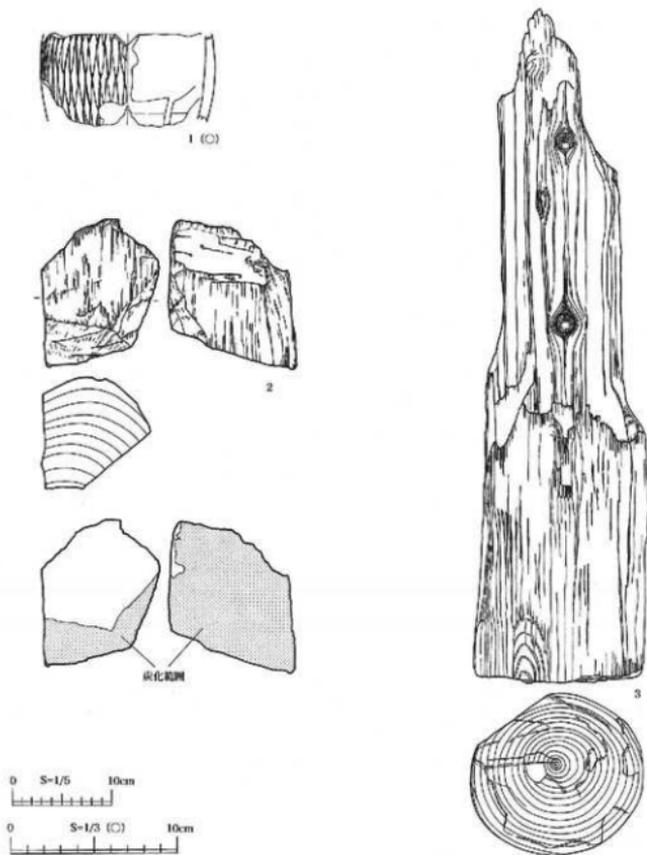
(高木)

## 第12節 柱穴状小ピット (付図 遺構配置図)

概ね径が50cm未満の小径のピット類を柱穴状小ピットとして一括した。合計238基を登録している。掘立柱建物跡に組みなかったが確実に柱穴と判断されるものを含む一方、柱穴以外の攪乱、近現代の杭跡、地山変色部分を遺構と誤認したものも相当数含まれていると思われる。こうした点での区別ができていない部分もあるが、第5表に概要を示した。

分布は第4次調査区東半、第5次調査区北東部に集中しており、本来、平安時代の建物跡を構成するものも含まれる可能性が高い。第5次調査区西部では近世以降の建物跡になり得る柱穴が複数検出された。

埋土はⅡ層に相当する均質な黒色土：A、黄褐色ブロックを含む黒褐色土：B、地山褐色土層との漸移層



第193図 柱穴状ピット出土遺物

に相当する暗褐色土：Cと区別しており、Aは近世～近代、Bは古代、Cは古代以前（縄文時代）の可能性が高いものと捉えている。第4次調査区では大部分がBであるが、第5次調査区北東部ではCが一定数含まれる。

遺物（第193図 写真図版107）

遺物はP120埋土上部から磁器染付類の破片（1）、P108・118から柱根（2・3）が出土している。2はクリ材で部分的に炭化している。3はスギ材で下部は樹皮を剥がしたままの状態である。（高木）

第5表 柱穴状小ピット一覧表

| No. | グリッド  | 径  | 深さ | 底面標高   | 埋土 | 遺物 |
|-----|-------|----|----|--------|----|----|
| 1   | 2G25x | 44 | 22 | 122.38 |    |    |
| 2   | 2H9w  | 30 | 14 | 122.21 |    |    |
| 3   | 2H9w  | 64 | 20 | 122.19 |    |    |
| 4   | 2H10w | 31 | 19 | 122.17 |    |    |
| 5   | 2H9x  | 53 | 21 | 122.13 |    |    |
| 6   | 2H10x | 42 | 23 | 122.13 |    |    |
| 7   | 2H11s | 64 | 20 | 122.14 |    |    |
| 8   | 2H11u | 31 | 28 | 122.02 |    |    |
| 9   | 2H12u | 33 | 10 | 122.17 |    |    |
| 10  | 2H11y | 40 | 16 | 122.12 |    |    |
| 11  | 2H13s | 42 | 13 | 122.24 |    |    |
| 12  | 2H12u | 85 | 14 | 122.16 |    |    |
| 13  | 2H14x | 50 | 6  | 122.31 |    |    |
| 14  | 2H15w | 58 | 22 | 122.16 |    |    |
| 15  | 2H17p | 56 | 38 | 122.09 |    |    |
| 16  | 2H18q | 49 | 25 | 122.29 |    |    |
| 17  | 2H20o | 25 | 32 | 122.22 |    |    |
| 18  | 2H20o | 44 | 31 | 122.21 |    |    |
| 19  | 2H20p | 33 | 20 | 122.32 |    |    |
| 20  | 2H19p | 49 | 55 | 121.98 |    |    |
| 21  | 2H20o | 40 | 28 | 122.22 |    |    |
| 22  | 2H21o | 29 | 22 | 122.28 |    |    |
| 23  | 2H21o | 40 | 28 | 122.22 |    |    |
| 24  | 2H21p | 37 | 38 | 121.94 |    |    |
| 25  | 2H21p | 38 | 14 | 122.37 |    |    |
| 26  | 2H20p | 71 | 18 | 122.35 |    |    |
| 27  | 2H20q | 21 | 13 | 122.38 |    |    |
| 28  | 2H21p | 38 | 33 | 122.18 |    |    |
| 29  | 2H21l | 28 | 10 | 122.31 |    |    |
| 30  | 2H22w | 33 | 24 | 122.22 |    |    |
| 31  | 2H22w | 20 | 19 | 122.27 |    |    |
| 32  | 2H22n | 25 | 27 | 122.21 |    |    |
| 33  | 2I3k  | 30 |    |        |    |    |
| 34  | 2I3l  | 28 |    |        |    |    |
| 35  | 2I4h  | 61 | 18 | 122.18 |    |    |
| 36  | 2I4i  | 45 | 15 | 122.24 |    |    |
| 37  | 2I5i  | 25 | 19 | 122.21 |    |    |
| 38  | 2I5g  | 48 | 35 | 122.00 |    |    |
| 39  | 2I5h  | 70 | 19 | 122.19 |    |    |
| 40  | 2I6g  | 55 | 28 | 122.08 |    |    |
| 41  | 2I6h  | 56 | 13 | 122.24 |    |    |
| 42  | 2I5m  | 70 | 18 | 122.17 |    |    |
| 43  | 2I7b  | 29 | 16 | 122.15 |    |    |
| 44  | 2I7b  | 29 | 26 | 122.14 |    |    |
| 45  | 2I9b  | 25 | 15 | 122.12 |    |    |
| 46  |       |    |    |        |    |    |
| 47  | 2I6d  | 28 | 28 | 122.01 |    |    |
| 48  | 2I7c  | 15 | 13 | 122.16 |    |    |
| 49  | 2I7d  | 32 | 23 | 122.07 |    |    |
| 50  | 2I7d  | 13 | 14 | 122.17 |    |    |
| 51  | 2I7d  | 20 | 21 | 122.10 |    |    |
| 52  | 2I8d  | 20 | 20 | 122.12 |    |    |
| 53  | 2I8d  | 66 | 22 | 122.08 |    |    |
| 54  | 2I8d  | 23 | 19 | 122.11 |    |    |
| 55  | 2I8d  | 19 | 16 | 122.16 |    |    |
| 56  | 2I9d  | 24 | 15 | 122.18 |    |    |
| 57  | 2I10d | 30 | 23 | 122.18 |    |    |
| 58  | 2I6f  | 32 | 15 | 122.16 |    |    |
| 59  | 2I6e  | 69 | 24 | 122.05 |    |    |
| 60  | 2I7f  | 28 | 21 | 122.18 |    |    |
| 61  | 2I8j  | 67 | 33 | 121.99 |    |    |
| 62  | 2H8k  | 51 | 22 | 122.07 |    |    |
| 63  | 2I7i  | 41 | 15 | 122.31 |    |    |
| 64  | 2I9r  | 45 | 28 | 121.93 |    |    |
| 65  | 2I9s  | 52 | 22 | 122.18 |    |    |
| 66  | 2I9s  | 37 | 7  | 122.08 |    |    |
| 67  | 2I10s | 35 | 17 | 122.00 |    |    |
| 68  | 2I10s | 27 | 12 | 122.05 |    |    |
| 69  | 2I10r | 50 | 30 | 121.88 |    |    |
| 70  | 2I10r | 30 | 9  | 122.12 |    |    |
| 71  | 2I11d | 30 | 15 | 122.18 |    |    |
| 72  | 2I12c | 34 | 18 | 122.10 |    |    |
| 73  | 2I13c | 24 | 12 | 122.17 |    |    |
| 74  | 2I13d | 25 | 7  | 122.21 |    |    |
| 75  | 2I13e | 35 | 6  | 122.25 |    |    |
| 76  | 2I13c | 28 | 14 | 122.19 |    |    |
| 77  | 2I12h | 53 | 20 | 122.13 |    |    |
| 78  | 2I12i | 52 | 12 | 122.19 |    |    |
| 79  | 2I12i | 40 | 35 | 121.96 |    |    |
| 80  | 2I13i | 61 | 15 | 122.16 |    |    |
| 81  | 2I11n |    |    |        |    |    |
| 82  | 2I11r | 31 | 12 | 122.09 |    |    |
| 83  | 2I11r | 39 | 29 | 121.91 |    |    |
| 84  | 2I11r | 27 | 13 | 122.07 |    |    |
| 85  | 2I11r | 25 | 29 | 121.93 |    |    |
| 86  | 2I12r | 21 | 13 | 122.11 |    |    |
| 87  | 2I12s | 47 | 20 | 122.04 |    |    |
| 88  | 2I16n | 27 | 13 | 122.34 |    |    |
| 89  | 2I16n | 29 | 35 | 122.12 |    |    |
| 90  | 2I160 | 42 | 10 | 122.34 |    |    |
| 91  | 2I16s | 39 | 21 | 122.21 |    |    |
| 92  | 2I16s | 24 | 13 | 122.27 |    |    |
| 93  | 2I17r | 31 | 17 | 122.26 |    |    |
| 94  | 2H15p | 37 | 37 | 121.97 |    |    |
| 95  | 2E14y | 35 | 16 | 122.12 |    |    |
| 96  | 2E13c | 24 | 13 | 122.07 |    |    |

| No. | グリッド  | 径  | 深さ | 底面標高   | 埋土 | 遺物 |
|-----|-------|----|----|--------|----|----|
| 97  | 2E14e | 25 | 15 | 122.10 |    |    |
| 98  | 2E14d | 50 | 28 | 121.94 |    |    |
| 99  | 2E14d | 61 | 10 | 122.11 |    |    |
| 100 | 2E15d | 25 | 22 | 122.00 |    |    |
| 101 | 2E14c | 40 | 23 | 122.00 |    |    |
| 102 | 2E13c | 33 | 48 | 121.74 |    |    |
| 103 | 2E16o | 25 | 36 | 122.01 |    |    |
| 104 | 2E16o | 21 | 22 | 122.15 |    |    |
| 105 | 2E16o | 35 | 35 | 122.03 |    |    |
| 106 | 2E18o | 30 | 37 | 122.00 |    |    |
| 107 | 2E18q | 38 | 54 | 121.80 |    |    |
| 108 | 2E18r | 34 | 17 | 121.82 | 柱根 |    |
| 109 | 2E18r | 26 | 52 | 121.77 |    |    |
| 110 | 2E17s | 37 | 60 | 121.73 |    |    |
| 111 | 2E18t | 35 | 32 | 122.03 |    |    |
| 112 | 2E17x | 25 | 22 | 122.08 |    |    |
| 113 | 2E20o | 61 | 36 | 122.01 |    |    |
| 114 | 2E20q | 29 | 31 | 121.84 |    |    |
| 115 | 2E20q | 46 | 60 | 121.72 |    |    |
| 116 | 2E19r | 40 | 51 | 121.80 |    |    |
| 117 | 2E19s | 28 | 39 | 121.88 |    |    |
| 118 | 2E21p | 45 | 41 | 121.72 | 柱根 |    |
| 119 | 2E21q | 46 | 72 | 121.61 |    |    |
| 120 | 2E21r | 46 | 45 | 121.81 | 礎石 |    |
| 121 | 2E22q | 35 | 48 | 121.48 |    |    |
| 122 | 2E22r | 46 | 51 | 121.54 |    |    |
| 123 | 3E2k  | 40 | 57 | 121.83 |    |    |
| 124 | 3E3k  | 32 | 47 | 122.38 |    |    |
| 125 | 3E3k  | 23 | 36 | 122.03 |    |    |
| 126 | 3E2l  | 30 | 46 | 121.91 |    |    |
| 127 | 3E2l  | 32 | 36 | 122.04 |    |    |
| 128 | 3E4o  | 21 | 24 | 122.12 |    |    |
| 129 | 3E6j  | 38 | 33 | 122.03 |    |    |
| 130 | 3E5l  | 35 | 48 | 122.36 |    |    |
| 131 | 3E6l  | 24 | 26 | 122.08 |    |    |
| 132 | 3E5m  | 31 | 38 | 121.98 |    |    |
| 133 | 3E5m  | 28 | 42 | 121.95 |    |    |
| 134 | 3E5n  | 28 | 50 | 121.86 |    |    |
| 135 | 3E5n  | 24 | 18 | 122.18 |    |    |
| 136 | 3E5o  | 23 | 17 | 122.18 |    |    |
| 137 | 3E7j  | 23 | 22 | 122.00 |    |    |
| 138 | 3E6j  | 21 | 22 | 122.08 |    |    |
| 139 | 3E6k  | 28 | 31 | 122.03 |    |    |
| 140 | 3E7k  | 28 | 21 | 122.07 |    |    |
| 141 | 3E7k  | 37 | 47 | 121.88 |    |    |
| 142 | 3E6k  | 22 | 32 | 122.01 |    |    |
| 143 | 2H6c  | 20 | 16 | 121.86 | A  |    |
| 144 | 2H7d  | 46 | 12 | 121.88 | C  |    |
| 145 | 2H7e  | 50 | 23 | 122.04 | B  |    |
| 146 | 2H6f  | 54 | 10 | 121.93 | C  |    |
| 147 | 2H6g  | 50 | 15 | 121.90 | C  |    |
| 148 | 2H6g  | 46 | 15 | 121.90 | C  |    |
| 149 | 2H7k  | 29 | 25 | 121.80 |    |    |

| No. | グリッド | 径    | 深さ | 底面標高   | 埋土 | 遺物 |
|-----|------|------|----|--------|----|----|
| 150 | 2H5m | 30   | 17 | 121.88 | B  |    |
| 151 | 2H5m | 30   | 17 | 121.95 | B  |    |
| 152 | 2H6m | 48   | 25 | 121.92 | C  |    |
| 153 | 2H5n | 34   | 15 | 121.98 | A  |    |
| 154 | 2H6l | 30   | 14 | 121.93 | A  |    |
| 155 | 2H6l | 52   | 17 | 121.89 | C  |    |
| 156 | 2H6a | 32   | 21 | 121.93 | C  |    |
| 157 | 2H6n | 28   | 17 | 121.99 | D  |    |
| 158 | 2H6o | 31   | 24 | 122.15 | A  |    |
| 159 | 2H6p | 42   | 22 | 121.91 | A  |    |
| 160 | 2H6q | 22   | 8  | 122.04 | C  |    |
| 161 | 2H6q | 18   | 6  | 122.10 | B  |    |
| 162 | 2H6q | 30   | 15 | 121.95 | B  |    |
| 163 | 2H6r | 26   | 8  | 122.08 | C  |    |
| 164 | 2H6r | 30   | 17 | 122.01 | C  |    |
| 165 | 2H7r | 22   | 9  | 122.06 | B  |    |
| 166 | 2H8a | 40   | 22 | 121.70 | C  |    |
| 167 | 2H8b | 20   | 14 | 121.81 | C  |    |
| 168 | 2H8b | 16   | 8  | 121.88 | C  |    |
| 169 | 2H8c | 20   | 15 | 121.83 | C  |    |
| 170 | 2H9c | 20   | 16 | 121.84 | C  |    |
| 171 | 2H9c | 20   | 13 | 121.86 | C  |    |
| 172 | 2H9b | 30   | 16 | 121.80 | C  |    |
| 173 | 2H8d | 20   | 10 | 121.94 | C  |    |
| 174 | 2H9e | 28   | 16 | 122.04 | C  |    |
| 175 | 2H9e | 30   | 12 | 121.94 | C  |    |
| 176 | 2H8f | 20   | 12 | 121.87 | C  |    |
| 177 | 2H8f | 24   | 22 | 121.78 | C  |    |
| 178 | 2H8f | 22   | 16 | 121.86 | C  |    |
| 179 | 2H8f | 14   | 6  | 121.97 | C  |    |
| 180 | 2H7l | 22   | 10 | 122.02 | A  |    |
| 181 | 2H8l | 16   | 9  | 122.05 | C  |    |
| 182 | 2H8m | 24   | 3  | 122.09 | C  |    |
| 183 | 2H8m | 32   | 12 | 122.03 | C  |    |
| 184 | 2H7m | 66   | 17 | 121.94 | C  |    |
| 185 | 2H7m | 40   | 13 | 121.98 | C  |    |
| 186 | 2H7n | 26   | 8  | 122.06 | B  |    |
| 187 | 2H7n | 34   | 14 | 122.04 | B  |    |
| 188 | 2H7n | 32   | 14 | 122.03 | C  |    |
| 189 | 2H8n | 32   | 10 | 122.06 | B  |    |
| 190 | 2H8n | 32   | 10 | 122.06 | C  |    |
| 191 | 2H3s | 34   | 20 | 121.95 | D  |    |
| 192 | 2H3t | 37   | 14 | 121.99 | C  |    |
| 193 | 2H3t | 35   | 17 | 121.98 | C  |    |
| 194 | 2H3u | 23   | 20 | 121.95 | B  |    |
| 195 | 2H2c | 27   | 13 | 121.99 | D  |    |
| 196 | 2H3b | 37   | 14 | 122.08 | D  |    |
| 197 | 2H3b | 35   | 10 | 122.03 | C  |    |
| 198 | 2H4t | 18.4 | 10 | 121.93 | A  |    |
| 199 | 2H4t | 36   | 10 | 122.03 | C  |    |
| 200 | 2H4u | 18   | 19 | 121.95 | B  |    |
| 201 | 2H3v | 31   | 19 | 121.94 | B  |    |
| 202 | 2H4a | 23   | 7  | 122.01 | C  |    |

| No. | グリッド  | 径  | 深さ | 底面標高   | 埋土 | 遺物 |
|-----|-------|----|----|--------|----|----|
| 203 | 2H15s | 24 | 17 | 121.93 | D  |    |
| 204 | 2H16s | 41 | 21 | 121.93 | C  |    |
| 205 | 2H15t | 34 | 15 | 121.92 | B  |    |
| 206 | 2H15u | 32 | 10 | 122.00 | C  |    |
| 207 | 2H4w  | 26 | 13 | 121.95 | B  |    |
| 208 | 2H4c  | 38 | 17 | 121.97 | C  |    |
| 209 |       |    |    |        |    |    |
| 210 | 2H5u  | 33 | 11 | 122.02 | C  |    |
| 211 | 2H5u  | 30 | 12 | 122.02 | C  |    |
| 212 | 2H5v  | 33 | 10 | 121.98 | B  |    |
| 213 | 2H5w  | 30 | 13 | 121.98 | B  |    |
| 214 | 2H4x  | 31 | 17 | 121.91 | B  |    |
| 215 | 2H5x  | 27 | 11 | 122.04 | B  |    |
| 216 | 2H5c  | 51 | 20 | 121.97 | C  |    |
| 217 | 2H5c  | 31 | 17 | 121.99 | C  |    |
| 218 | 2H5d  | 32 | 13 | 122.03 | B  |    |
| 219 | 2H6u  | 34 | 42 | 121.71 | A  |    |
| 220 | 2H5u  | 35 | 11 | 122.02 | C  |    |

| No. | グリッド  | 径  | 深さ | 底面標高   | 埋土 | 遺物 |
|-----|-------|----|----|--------|----|----|
| 221 | 2H5u  | 62 | 23 | 121.91 | C  |    |
| 222 | 2H5v  | 29 | 17 | 121.96 | C  |    |
| 223 | 2H5x  | 23 | 10 | 122.06 | B  |    |
| 224 | 2H5w  | 33 | 16 | 122.10 | B  |    |
| 225 | 2H5x  | 26 | 15 | 121.98 | B  |    |
| 226 | 2H6y  | 25 | 32 | 122.16 | A  |    |
| 227 | 2H5y  | 36 | 16 | 121.92 | A  |    |
| 228 | 2H5a  | 38 | 23 | 121.90 | A  |    |
| 229 | 2H5a  | 35 | 23 | 121.92 | C  |    |
| 230 | 2H5a  | 33 | 17 | 121.95 | C  |    |
| 231 | 2H5a  | 31 | 16 | 121.96 | D  |    |
| 232 | 2H5b  | 26 | 17 | 121.97 | B  |    |
| 233 | 2H6w  | 25 | 11 | 122.05 | C  |    |
| 234 | 2H6u  | 43 | 23 | 121.92 | C  |    |
| 235 | 2H6w  | 44 | 17 | 121.98 | C  |    |
| 236 | 2H6w  | 27 | 11 | 122.05 | C  |    |
| 237 | 2H12i | 52 | 12 | 122.21 |    |    |
| 238 | 2H14c | 39 | 15 | 122.14 |    |    |

### 第13節 遺構外出土遺物 (第194・195図 写真図版113・114)

#### 〔縄文土器〕 (1～7)

図示した合計7点の出土がある。RA17住居跡検出面で2～5の小片がまとめて出土した。1は「字文を施すする鉢形土器で縄文晩期後葉大割A式に比定される。3～5は平行沈線と外反する11條突起部の状態から縄文後期前葉土器片と考えられる。地文のみの2・6・7は縄文後期～晩期の可能性が高い。

#### 〔古代の土器〕 (8～14)

遺構外から出土した古代の土器類は遺構内からの量に比較して極端に少ない。8・9は調査区南西部から出土した。旧河道域からの古代土器の出土はこの他に須恵器細片が数点確認されるのみである。10～15は調査区北東部の古代遺構集中域I・II層から出土したもので土師器甕(10)、須恵器坏(11)、須恵器壺(14)、須恵器甕(12・13・15)がある。遺構内出土土器と時期差を持つものは見られない。

#### 〔陶磁器〕 (15～28)

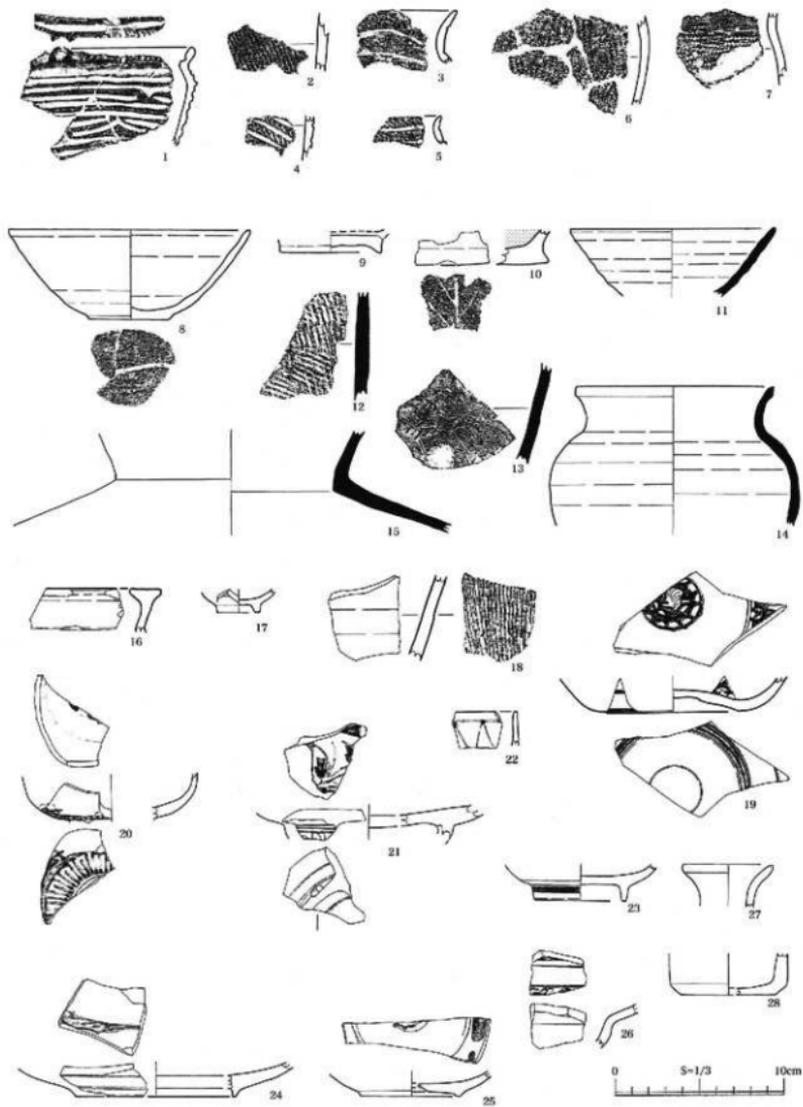
陶器は16～18。16は時期、産地不明の鉢口縁部。17は小椀底部で粗馬産と思われる。18は鉄釉の楕鉢鉢片。磁器は19～28。近世後半の肥前産染付桶皿類が主体となる。

#### 〔石器・石製品〕 (29・30)

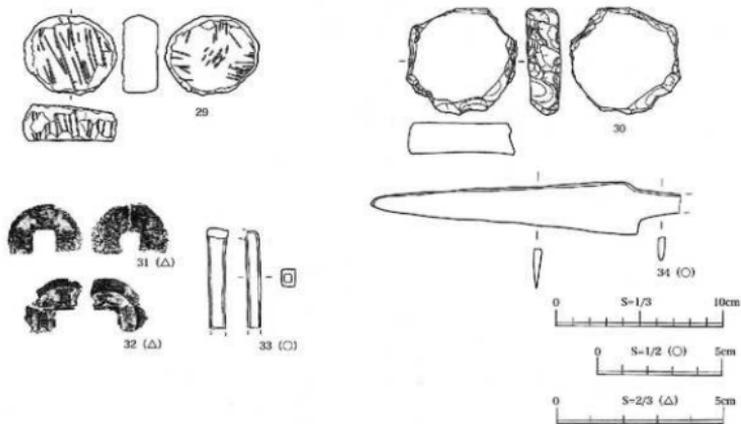
29は扁平な礫を利用した仕上げ砥石で、平坦面、周縁ともに溝状の使用痕跡が残る。30は自然礫の周縁を敲打剥離することで全体を円盤状の形態にしたもので、平坦面への加工、使用痕跡は観察されない。両者とも製作年代は不明である。

#### 〔金属製品〕 (31～34)

調査区北東端から鉄貨2点が出土している。31は鉄銭寛永通寶、32は銅銭寛永通寶文銭である。33は頭釘の角釘、34は刀子刃部である。他に調査区西部では表土から器種不明の鉄製品の出土が若干あるが、近現代のものとは区別が困難なため取り扱っていない。(高木)



第194圖 遺構外出土遺物(1)



第195圖 遺構外出土遺物(2)

第6表 土器(古代)観察表

R A 01【第15～18図】

\*計測値の-は推定値

| No. | 出土地点   | 種類  | 形状   | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 高さ<br>(cm) | 胎厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整           | 底面調整            | 色割   | 備考                |
|-----|--|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|----------------|-----------------|------|-------------------|
| 1   | Ⅱ期5層～床面, Ⅰ期掘り方   | 土師器 | 坏    | B  | -13.4      | 5.4        |            | 2~7        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  | 内面紫色処理            |
| 2   | Ⅱ期1号カマド前床面   | 土師器 | 坏    | B  | 14.2       | 5.0        | 4.7        | 3~7        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切・<br>持ヘラケズリ | にふい橙 | 内面紫色処理            |
| 3   | Ⅱ期3層   | 土師器 | 坏    | B  | 13.4       | 4.5        | 4.4        | 3~8        | 5          | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  | 内面紫色処理            |
| 4   | Ⅱ期2層   | 土師器 | 坏    | B  | 14.0       | 5.8        | 4.0        | 3~5        | 5          | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切            | にふい橙 | 内面紫色処理            |
| 5   | Ⅱ期1号カマド燃焼部<br>Ⅰ期埋土   | 土師器 | 坏    |    | -15.8      |            |            | 4.0        | 30         | ヘラミガキ | ロクロナデ          |                 | 黒    | 内面紫色処理            |
| 6   | Ⅱ期埋土上部   | 土師器 | 高台付坏 |    |            | 7.4        |            | 4~8        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 指オサエ            | 明褐色  | 内面紫色処理・<br>台座縁8cm |
| 7   | Ⅱ期3層   | 土師器 | 坏    | B  | -14.3      | -4.3       | -4.9       | 2~7        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  |                   |
| 8   | Ⅱ期埋土上部   | 土師器 | 坏    | A  | 14.2       | 4.8        | 4.5        | 2~6        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  |                   |
| 9   | Ⅱ期Pit1, Ⅰ期埋土   | 土師器 | 坏    | B  | -14.2      |            |            | 3~5        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                 | 黄橙   |                   |
| 10  | Ⅱ期2号カマド前床面   | 土師器 | 坏    | B  | -15.0      |            |            | 2~3        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                 | 浅黄橙  | 金室母含む             |
| 11  | Ⅱ期1号カマド両辺床面  | 土師器 | 坏    | B  |            | 5.2        |            | 2~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  |                   |
| 12  | Ⅱ期Pit1, Ⅰ期埋土   | 土師器 | 坏    | B  |            | 5.5        |            | 4~7        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 浅黄橙  | 縦割                |
| 13  | Ⅱ期5層   | 土師器 | 高台付坏 | B  | -14.9      | -6.7       | 6.3        | 3~9        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ          | ロクロナデ           | 浅黄橙  | 台座縁8.5cm          |
| 14  | Ⅰ期埋土   | 土師器 | 高台付坏 | B  |            |            |            | 3.0        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                 | 浅黄橙  |                   |
| 15  | Ⅰ期掘り方  | 土師器 | 甕    | C  | -12.0      |            |            | 6.0        | 20         | ハケメ   | ヘラケズリ          |                 | 浅黄橙  |                   |
| 16  | Ⅰ期3号カマド敷土器   | 土師器 | 甕    | C  | -20.2      |            |            | 3~5        |            | ヘラナデ  | ヘラケズリ          |                 | にふい橙 |                   |
| 17  | Ⅱ期床面   | 土師器 | 甕    | C  | -17.5      |            |            | 7.0        | 15         | ヘラナデ  | ヘラナデ           |                 | にふい橙 |                   |
| 18  | Ⅱ期1号カマド以<br>床面, Ⅱ期埋土   | 土師器 | 甕    | C  | 21.0       |            |            | 5~7        | 5          | ハケメ   | ヘラナデ・<br>ヘラケズリ |                 | にふい橙 |                   |
| 19  | Ⅰ期2号カマド燃土<br>Ⅱ期1号カマド袖上面  | 土師器 | 甕    | C  |            | 10.0       |            | 14.0       | 15         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          | 砂底              | にふい橙 |                   |
| 20  | Ⅱ期5層～床面  | 土師器 | 甕    | C  |            | 11.0       |            | 12.0       | 30         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          | 木葉痕             | にふい橙 |                   |
| 21  | Ⅱ期1号カマド袖上面   | 土師器 | 甕    | C  |            | 7.2        |            | 11.0       | 50         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          | 砂底              | 黄黄橙  |                   |
| 22  | Ⅰ期床面, Ⅱ期3層   | 土師器 | 甕    | C  |            | -13.0      |            | 7.0        | 25         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          |                 | にふい橙 |                   |
| 23  | Ⅰ期2号カマド焼出  | 土師器 | 甕    | C  |            | 10.2       |            | 7.0        | 70         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          | 木葉痕             | にふい橙 |                   |
| 24  | Ⅱ期Pit1, Ⅱ期1・2層   | 土師器 | 甕    |    |            | -7.8       |            | 10.0       | 5          | ヘラナデ? | タタキメ           |                 | 浅黄橙  |                   |
| 25  | Ⅰ期2号カマド燃焼部<br>Ⅱ期1号カマド燃焼部・<br>焼山, Ⅱ期埋土・<br>床面                       | 土師器 | 甕    | A  | -20.4      |            |            |            | 8.0        |       | ヘラケズリ          |                 | 灰黄橙  |                   |
| 26  | Ⅱ期床面, Ⅰ期掘り方  | 土師器 | 甕    | B  | -21.4      |            |            |            | 8.0        | 20    | ロクロナデ          | ロクロナデ           | にふい橙 |                   |
| 27  | Ⅱ期1号カマド燃焼部,<br>Ⅱ期1~3層  | 酒志器 | 甕    | A  | -9.9       | 6.5        | 10.0       | 5~6        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切            | 灰    |                   |
| 28  | Ⅱ期埋土   | 酒志器 | 甕    | A  | -13.7      |            |            | 4~6        | 22.5       | ロクロナデ | ロクロナデ          |                 | 灰    |                   |
| 29  | Ⅱ期3層   | 酒志器 | 甕    | B  |            | 8.2        |            | 7~10       | 20         | ハケメ   | ヘラケズリ          |                 | 灰    |                   |
| 30  | Ⅱ期北側床面, Ⅱ期1<br>層, Ⅰ期2号カマド燃<br>焼, R A 05カマド袖上<br>面                  | 酒志器 | 甕    |    | 19.0       |            |            | 7~12       | 35         | タタキメ  | タタキメ           |                 | 灰    |                   |
| 31  | Ⅰ期2号カマド脇床面   | 須恵器 | 甕    | A  | -20.4      |            |            | 4~7        | 15.5       | ヘラナデ  | ヘラナデ           |                 | 浅黄橙  |                   |
| 32  | Ⅰ期4号カマド燃焼部<br>Ⅱ期1層, R D 23上部<br>焼上                                 | 須恵器 | 甕    | A  |            |            |            |            |            | ヘラナデ  | ヘラナデ           |                 | 浅黄橙  |                   |
| 33  | Ⅰ期2号カマド焼出<br>Ⅰ期床面, Ⅱ期5層～<br>床面, R D 23埋土                           | 須恵器 | 甕    | A  |            |            |            | 6~9        |            | タタキメ  | タタキメ           |                 | 灰    |                   |
| 34  | Ⅰ期埋土   | 須恵器 | 甕    | A  |            |            |            | 7~11       |            | ヘラナデ  | タタキメ           |                 | 灰    |                   |
| 35  | R A 01Ⅱ期5号カマド<br>燃土・9層, R A 05-2<br>層・Pit3, R A 28-カ<br>マド燃焼部・埋土下部 | おかけ | 甕    | A  | -22.4      |            |            | 7~15       | 2.5        | タタキメ  | タタキメ           |                 | 浅黄橙  |                   |
| 36  | 2層, 5層   | 酒志器 | 甕    | A  |            |            |            | 7~15       |            | タタキメ  | タタキメ           |                 | 灰    |                   |

RA02【第22・23図】

| No. | 出土地点   | 種類  | 器種 | 層分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整          | 外面調整          | 底面調整 | 色調   | 備考               |
|-----|--|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|---------------|---------------|------|------|------------------|
| 1   | RA02-3層, RA03<br>カマド周辺床面                           | 土師器 | 坏  | B  | 14.4       | 5.5        | 5.0        | 3.0        | 100        | ヘラミガキ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 | 内面黒色処理<br>・黒褐色   |
| 2   | 床面   | 土師器 | 坏  | B  | -13.2      | -6.0       | 4.9        | 5.0        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 | 内面黒色処理・<br>金雲母含む |
| 3   | 床面   | 土師器 | 坏  | B  | 14.3       | 7.4        | 4.8        | 6.0        | 10         | ヘラミガキ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 | 内面黒色処理           |
| 4   | 1号カマド燃焼部, 床面                                       | 土師器 | 坏  | B  | -14.0      |            |            | 4.0        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ         |      | にふい橙 | 内面黒色処理           |
| 5   | 4層～床面  | 土師器 | 坏  | B  |            | 6.9        |            | 6.0        | 65         | ヘラミガキ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | 浅黄緑  | 内面黒色処理           |
| 6   | 床面   | 土師器 | 坏  | B  | 15.1       | 3.3        | 5.1        | 4.0        | 100        | ロクロナデ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 |                  |
| 7   | 4層～床面  | 土師器 | 坏  | B  | 14.6       | 6.2        | 5.1        | 5.0        | 100        | ロクロナデ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 |                  |
| 8   | 4層～床面  | 土師器 | 坏  | A  | 15.8       |            |            | 5.0        | 15         | ロクロナデ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | にふい橙 |                  |
| 9   | 床面   | 土師器 | 坏  | B  |            | 5.8        |            | 8.0        | 100        | ロクロナデ         | ロクロナデ         |      | にふい橙 |                  |
| 10  | RA02-1層, RA04<br>検出部, RA09埋土                       | 酒器  | 坏  |    | -16.8      |            |            | 2~4        | 30         | ロクロナデ         | ロクロナデ         |      | 灰    |                  |
| 11  | 床面   | 酒器  | 坏  |    | -13.5      | 6.0        | 5.2        | 2~5        | 25         | ロクロナデ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | 灰    |                  |
| 12  | RA02-1層, RA04<br>検出部                               | 酒器  | 坏  |    |            | 4.9        |            | 3~4        | 10         | ロクロナデ         | ロクロナデ         | 回転糸切 | 灰    |                  |
| 13  | 3~4層   | 土師器 | 甕  | C  | -11.2      | 8.6        | -19.2      | 3~7        | 15         | ヘラナデ<br>ヘラケズリ | ヘラナデ<br>ヘラケズリ |      | にふい橙 |                  |
| 14  | 1号カマド燃焼部   | 土師器 | 甕  | C  | -21.2      |            |            | 6~7        | 80         | ヘラナデ<br>ハケメ   | ヘラナデ<br>ヘラケズリ |      | にふい橙 |                  |
| 15  | 1層   | 土師器 | 甕  | C  | -16.7      |            |            | 6.0        | 25         | ハケメ           | ヘラケズリ         |      | にふい橙 |                  |
| 16  | 1号カマド燃焼部・袖<br>上面, Pit2下部, Pit<br>8上部, 床面, 埋土上<br>層 | 土師器 | 甕  | C  | 24.2       | 12.6       | 27.0       | 8.0        | 25         | ハケメ           | ヘラケズリ         |      | にふい橙 |                  |
| 17  | 床面   | 土師器 | 甕  | C  |            | 8.4        |            | 7.0        | 100        | ハケメ           | ヘラケズリ         |      | にふい橙 |                  |
| 18  | Pit2上部, 3層～床面                                      | 土師器 | 甕  | C  |            | -7.6       |            | 5.0        | 100        | ヘラナデ          | ヘラケズリ         |      | にふい橙 |                  |
| 19  | 床面   | 土師器 | 甕  | C  |            |            |            | 6.0        | 25         | ハケメ           | ヘラナデ          |      | にふい橙 |                  |

RA03【第25図】

| No. | 出土地点 | 種類  | 器種 | 層分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整 | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考 |
|-----|------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|------|------|----|
| 1   | Pit3 | 土師器 | 甕  | C  |            |            |            | 8.0        | 5          | ハケメ  | ヘラケズリ |      | にふい橙 |    |

RA04【第28・29図】

| No. | 出土地点               | 種類  | 器種 | 層分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整        | 外面調整   | 底面調整   | 色調   | 備考               |
|-----|--------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|--------|--------|------|------------------|
| 1   | 2層                 | 土師器 | 坏  | B  | 13.8       | 5.6        | 5.9        | 5.0        |            | ヘラミガキ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | にふい橙 | 内面黒色処理<br>・金雲母含む |
| 2   | 1層                 | 土師器 | 坏  | B  | 13.0       | 5.6        | 4.6        | 5.0        | 100        | ヘラミガキ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | 浅黄緑  | 内面黒色処理・<br>金雲母含む |
| 3   | カマド燃焼部             | 土師器 | 坏  | B  |            |            |            | 3~5        | 50         | ヘラミガキ       | ロクロナデ  |        | にふい橙 | 内面黒色処理・<br>金雲母含む |
| 4   | カマド燃焼部             | 土師器 | 坏  | B  |            |            |            | 3~5        | 15         | ヘラミガキ       | ロクロナデ  |        | 灰黄緑  | 内面黒色処理・<br>金雲母含む |
| 5   | 2層                 | 土師器 | 坏  | B  | 13.3       | 6.2        | 4.3        | 5.0        | 10         | ロクロナデ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | にふい橙 | 金雲母含む            |
| 6   | カマド燃焼部, 2層,<br>掘り方 | 土師器 | 坏  | A  |            | 5.3        |            | 5~7        | 100        | ロクロナデ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | 灰黄緑  | 金雲母含む            |
| 7   | 2層                 | 土師器 | 坏  | A  |            | 5.1        |            | 6.0        | 100        | ロクロナデ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | 浅黄緑  |                  |
| 8   | カマド脇床面, 2層         | 土師器 | 坏  | B  | 14.2       |            |            | 4.0        | 30         | ロクロナデ       | ロクロナデ  |        | にふい橙 | 金雲母含む            |
| 9   | カマド燃焼部             | 土師器 | 甕  | C  | -15.4      |            |            | 7.0        | 65         | ヘラナデ<br>ハケメ | ヘラナデ   |        | にふい橙 |                  |
| 10  | 2層                 | 土師器 | 甕  | C  | -17.3      |            |            | 6.0        | 30         | ヘラナデ<br>ハケメ | ヘラナデ   |        | 灰    |                  |
| 11  | 掘り方                | 土師器 | 甕  | C  | -15.0      |            |            | 4~6        | 65         | ヘラナデ        | ヘラナデ   |        | にふい橙 |                  |
| 12  | 2層                 | 土師器 | 甕  | C  |            | 10.6       |            | 11.0       | 15         | ヘラナデ        | ヘラケズリ  | 木炭痕    | にふい橙 |                  |
| 13  | カマド袖上面             | 土師器 | 甕  | C  |            | 9.7        |            | 8~13       | 60         | ヘラナデ        | ヘラケズリ  | 砂底+木炭痕 | にふい橙 |                  |
| 14  | 2層                 | 土師器 | 甕  | B  | 14.4       | 7.2        | 12.5       | 4~11       | 70         | ロクロナデ       | ロクロナデ  | 回転糸切   | にふい橙 | 金雲母含む            |
| 15  | Pit1, 床面, 2層       | 土師器 | 甕  | A  | 14.5       |            |            | 7.0        | 100        |             | 一部ヘラナデ |        | にふい橙 |                  |

RA05【第31・32図】

| No. | 出土地点     | 種類 | 器種  | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調    | 備考              |      |
|-----|----------|----|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|-------|-----------------|------|
| 1   | Pit3     |    | 土師器 | 坏  |            |            |            | 3.0        | 50         | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | 浅黄橙   | 内面黒色処理          |      |
| 2   | カマド脇床面   |    | 土師器 | 坏  | -14.8      | -6.1       | 4.8        | 5.0        |            | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 浅黄橙   |                 |      |
| 3   | 床面, Pit3 |    | 土師器 | 坏  | B          | 12.9       |            | 5.0        | 4.1        | 2~7   | 10    | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切            | にふい橙 |
| 4   | Pit3, 2層 |    | 土師器 | 坏  |            | 6.0        |            | 6.0        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | にふい黄橙 | 内面黒色処理<br>金箔付含む |      |
| 5   | 3層       |    | 土師器 | 坏  | -15.4      |            |            | 4.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 浅黄橙   |                 |      |
| 6   | 3層       |    | 須恵器 | 坏  | 12.9       |            |            | 4.0        | 12.5       | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰白    |                 |      |
| 7   | 2層       |    | 土師器 | 甕  | C          | 11.8       |            | 4~6        | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |       | にふい黄橙 |                 |      |
| 8   | 3層       |    | 土師器 | 甕  | C          | -12.0      |            | 7.0        | 17.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ |       | にふい黄橙 |                 |      |
| 9   | カマド軸上面   |    | 土師器 | 甕  | C          | -12.0      |            | 16.0       | 20         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | にふい橙  |                 |      |
| 10  | 床面, Pit3 |    | 土師器 | 甕  | C          | 13.0       |            | 8.0        | 12.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | 灰黄    |                 |      |
| 11  | 3層       |    | 土師器 | 甕  | B          |            |            | 3~7        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ |       | にふい橙  |                 |      |
| 12  | Pit3     |    | 土師器 | 甕  | A          | 21.0       |            | 3~6        |            |       | ヘラケズリ |       | にふい黄橙 |                 |      |
| 13  | Pit3     |    | 須恵器 | 甕  |            |            |            | 11~12      | 27.5       | 当て具履  | タタキメ  |       | 灰     |                 |      |
| 14  | Pit3     |    | 須恵器 | 甕  |            |            |            | 9~14       |            | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰     |                 |      |
| 15  | 2層       |    | 須恵器 | 甕  | B          | -6.6       |            | 7~11       |            | ヘラナデ  | ヘラケズリ |       | 灰     |                 |      |

RA06【第34図】

| No. | 出土地点   | 種類 | 器種  | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整      | 底面調整 | 色調    | 備考 |
|-----|--------|----|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-----------|------|-------|----|
| 1   | カマド燃焼部 |    | 須恵器 | 坏  | -16.6      |            |            | 3~5        |            | ロクロナデ | ロクロナデ     |      | にふい橙  |    |
| 2   | カマド燃焼部 |    | 須恵器 | 坏  |            | -5.4       |            | 5.0        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ     |      | にふい黄橙 |    |
| 3   | 床面, 1層 |    | 土師器 | 甕  | C          | 19.6       |            | 8.0        | 35         | ハケメ   | ハケメ、ヘラケズリ |      | にふい橙  |    |
| 4   | カマド燃焼部 |    | 須恵器 | 甕  |            | -21.0      |            | 5~6        | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ     |      | 橙     |    |
| 5   | カマド燃焼部 |    | 須恵器 | 甕  |            | -26.8      |            | 11~14      | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ     |      | にふい黄橙 |    |
| 6   | 床面     |    | 須恵器 | 甕  | B          |            |            | 4~5        | 7.5        |       | ヘラケズリ     |      | 灰灰    |    |

RA07【第36図】

| No. | 出土地点   | 種類 | 器種  | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調   | 備考     |        |
|-----|--------|----|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|------|--------|--------|
| 1   | 1層     |    | 土師器 | 坏  | B          | -14.4      | 3.2        | 3.2        | 4.0        |       | ヘラミガキ | ロクロナデ | 灰    | 内面黒色処理 |        |
| 2   | カマド燃焼部 |    | 土師器 | 坏  | B          | 14.4       | -5.2       | 4.7        | 4.0        | 100   | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | 灰      |        |
| 3   | 床面, 1層 |    | 土師器 | 坏  | B          | -13.4      | 6.4        | 6.0        | 30         | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | にふい橙 | 内面黒色処理 |        |
| 4   | 1層     |    | 土師器 | 坏  | B          |            | -5.2       | 4.0        | 80         | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰    |        |        |
| 5   | 床面     |    | 土師器 | 甕  | C          | -20.8      | 8.4        | 16.5       | 6.0        | 60    | ヘラミガキ | ヘラケズリ | 回転糸切 | 灰      | 内面黒色処理 |
| 6   | 1層     |    | 土師器 | 甕  | C          |            |            | 4~6        | 100        | ハケメ   | ヘラケズリ |       | 灰    |        |        |

RA09【第42~44図】

| No. | 出土地点                   | 種類 | 器種  | 細分   | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整          | 色調    | 備考                          |
|-----|------------------------|----|-----|------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------------|-------|-----------------------------|
| 1   | 1号カマド軸上面               |    | 土師器 | 坏    | B          | -14.4      | 6.4        | 4.4        | 3~7        | 12.5  | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切  | にふい黄橙                       |
| 2   | 1号カマド周辺床面              |    | 土師器 | 坏    | B          | -13.9      | -6.3       | 4.7        | 3~6        | 100   | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切  | にふい黄                        |
| 3   | 1号カマド燃焼部, 3号カマド燃焼部     |    | 土師器 | 坏    | B          | 14.6       | 6.6        | 4.4        | 3~7        | 55    | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切  | 灰黄橙                         |
| 4   | 1号カマド軸上面               |    | 土師器 | 坏    | B          | 14.1       | 7.0        | 3~6        | 60         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切<br>ヘラケズリ | 浅黄橙   | 内面黒色処理                      |
| 5   | 2層                     |    | 土師器 | 坏    | A          | 16.0       | -6.0       | 4.8        | 3~8        | 100   | ヘラミガキ | ロクロナデ         | にふい黄橙 | 内面黒色処理                      |
| 6   | 2号カマド燃焼部, 2~3層         |    | 土師器 | 坏    | B          | 13.8       |            | 3~6        | 40         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にふい黄橙 | 内面黒色処理                      |
| 7   | 床面上部上面                 |    | 土師器 | 坏    | B          | 14.0       |            | 3~5        | 17.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にふい黄橙 | 内面黒色処理                      |
| 8   | RA09-1号カマド軸上面, RA09-1層 |    | 土師器 | 高台付坏 | B          | 12.7       | 5.9        | 3~6        | 15         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 指オサエ          | にふい黄橙 | 内面黒色処理                      |
| 9   | 1号カマド軸上面               |    | 土師器 | 高台付坏 | B          | -12.7      | 6.6        | 4.2        | 3~8        | 100   | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 指オサエ  | 内面黒色処理<br>金箔付含む・台<br>径7.1cm |
| 10  | 3号カマド上部                |    | 土師器 | 高台付坏 | B          | 13.0       | 5.3        | 3~7        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 指オサエ          | にふい黄  | 内面黒色処理                      |

| No. | 出上地点                                | 種類  | 階層        | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整          | 底面調整           | 色調     | 備考                            |
|-----|-------------------------------------|-----|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|---------------|----------------|--------|-------------------------------|
| 11  | RA09-1号カマド、<br>RA10-2層              | 土師器 | 高台付<br>付環 | B          | -7.2       |            | 3~9        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 指オサエ           | にぶい黄褐色 | 内面黒色焼成・<br>金銅付含む・台<br>部径8.1cm |
| 12  | 9層                                  | 土師器 | 環         | A          | 15.0       | 6.0        | 4.5        | 3~7        | 100   | ロクロナデ         | ロクロナデ          | 回転糸切   | 橙                             |
| 13  | 2層                                  | 土師器 | 環         | B          | -16.0      | 5.6        | 4.5        | 3~8        | 80    | ロクロナデ         | ロクロナデ          | 回転糸切   | にぶい黄褐色                        |
| 14  | 床面上部上上面、2層                          | 土師器 | 高台付<br>付環 | B          | 17.2       | 8.5        | 2~5        | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ         |                | にぶい橙   |                               |
| 15  | 2号カマド煙道                             | 土師器 | 環         | A          | -11.8      |            | 4~6        | 85         | ロクロナデ | ロクロナデ         |                | 浅黄褐色   |                               |
| 16  | 床面上部上上面                             | 土師器 | 環         |            | 5.8        |            | 4~7        | 27.5       | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切           | にぶい黄褐色 |                               |
| 17  | 3号カマド上部                             | 土師器 | 高台付<br>付環 |            | 6.4        |            | 4~7        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ         | ロクロナデ          | 浅黄褐色   | 内部径7.6cm                      |
| 18  | 煙十                                  | 須恵器 | 環         | A          | 14.8       | 5.4        | 5.3        | 2~5        | 45    | ロクロナデ         | ロクロナデ          | 回転糸切   | 黄灰                            |
| 19  | 1号カマド煙道                             | 土師器 | 壺         | C          | 17.2       | -8.0       | 20.2       | 4~6        | 30    | ハケメ           | ヘラケズリ          | 木炭灰    | にぶい黄褐色                        |
| 20  | 1号カマド床上面                            | 土師器 | 壺         | C          | -20.0      |            | 7.0        | 45         | ハケメ   | ヘラケズリ         |                | 橙      |                               |
| 21  | 3号カマド煙道、2層                          | 土師器 | 壺         | C          | -17.0      |            | 6.0        | 45         | ハケメ   | ヘラケズリ         |                | 橙      |                               |
| 22  | 4号カマド煙道                             | 土師器 | 壺         | C          | 21.5       |            | 5.0        | 30         | ハケメ   | ヘラケズリ         |                | 橙      |                               |
| 23  | 床面上部上上面                             | 土師器 | 壺         | C          | -12.4      |            | 4~5        | 30         | ハケメ   | ハケメ・ヘ<br>ラケズリ |                | 橙      |                               |
| 24  | 床面                                  | 土師器 | 壺         | C          | -12.5      |            | 3~6        | 25         | ハケメ   | ヘラケズリ・<br>ハケメ |                | にぶい黄褐色 |                               |
| 25  | 1号カマド周辺床面                           | 土師器 | 壺         | C          | -16.7      |            | 6.0        | 40         | ハケメ   | ヘラケズリ         |                | 灰黄褐色   |                               |
| 26  | 2層                                  | 土師器 | 壺         | C          |            | 8.8        | 8.0        | 20         | ヘラケズリ | ヘラケズリ         | ヘラケズリ          | 橙      |                               |
| 27  | 1号カマド煙道、床<br>面上部上上面                 | 土師器 | 壺         | C          |            | 7.8        | 8.0        | 45         | ハケメ   | ヘラケズリ         | 砂土・木炭灰         | 灰黄褐色   |                               |
| 28  | 煙十                                  | 土師器 | 壺         | C          |            | -7.3       | 9.0        | 100        | ハケメ   | ヘラケズリ         | 木炭灰            | 黄灰     |                               |
| 29  | 1号カマド煙道                             | 土師器 | 壺         | B          | -18.8      |            | 4~7        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ         |                | 橙      |                               |
| 30  | RA09-3号カマド上<br>部、RA01-II層床面         | 須恵器 | 壺         |            | -9.3       |            | 7~11       | 15         | ヘラケズリ | タタキメ          | タタキメ・<br>ヘラケズリ | 灰      |                               |
| 31  | 床面上部上上面                             | 須恵器 | 壺         | B          |            |            | 7~9        | 20         | ヘラケズリ | ヘラケズリ         |                | 灰      |                               |
| 32  | RA09-3・4号カマ<br>ド上部、RA10-1号<br>カマド煙道 | 須恵器 | 壺         |            |            |            | 5~7        | 30         |       | タタキメ          |                | 灰黄     |                               |

#### RA10 [第49~52層]

| No. | 出上地点                  | 種類  | 階層        | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整          | 色調     | 備考              |        |
|-----|-----------------------|-----|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------------|--------|-----------------|--------|
| 1   | 1号カマド床上面、1層           | 土師器 | 環         | B          | -14.7      | 6.2        | 3.5        | 7.0        |       | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切   | にぶい黄褐色          | 内面黒色焼成 |
| 2   | 1層                    | 土師器 | 環         | A          | -14.9      | -5.6       | 3.0        | 4~6        | 100   | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 灰               | 内面黒色焼成 |
| 3   | 1層                    | 土師器 | 環         | B          | -13.9      | -7.1       | 5.0        | 2~6        | 20    | ヘラミガキ | ロクロナデ         | 回転糸切   | にぶい黄褐色          | 内面黒色焼成 |
| 4   | 2号カマド煙道               | 土師器 | 環         | B          | -12.0      |            | 4~6        | 50         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい橙   | 内面黒色焼成          |        |
| 5   | 2号カマド周辺床面             | 土師器 | 環         | A          |            | 4.3        | 4~9        | 32.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切          | にぶい橙   | 内面黒色焼成・<br>金銅含む |        |
| 6   | 1号カマド煙道               | 土師器 | 環         | B          | 12.9       | 6.0        | 4.0        | 8.0        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ         | 静止糸切   | 橙               |        |
| 7   | 床面                    | 土師器 | 環         | B          | -12.8      |            | 5.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい橙   |                 |        |
| 8   | 1号カマド周辺床面             | 土師器 | 環         | B          | -13.2      | 5.5        | 3.7        | 6.0        | 40    | ロクロナデ | ロクロナデ         |        | にぶい橙            | 金銅含む   |
| 9   | 1層                    | 土師器 | 環         | A          |            | 6.6        | 6.0        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切          | 灰黄褐色   |                 |        |
| 10  | 1層                    | 土師器 | 環         | B          |            | 4.6        | 4.0        | 46         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切<br>ヘラケズリ | 灰黄     |                 |        |
| 11  | 床面、1層                 | 土師器 | 環         | A          | 14.8       | 5.8        | 4.0        | 4.0        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 浅黄褐色            |        |
| 12  | 床面                    | 土師器 | 環         | B          | -13.2      | 5.1        | 4.4        | 6.0        | 50    | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | にぶい黄褐色          |        |
| 13  | 埋土                    | 土師器 | 環         | B          | -15.3      | 6.0        | 3.7        | 6.0        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 橙               |        |
| 14  | 床面、1層                 | 土師器 | 環         | A          | -13.3      | 4.6        | 4.6        | 5.0        | 40    | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 橙               |        |
| 15  | 1層                    | 土師器 | 環         | A          | -13.6      | 6.0        | 4.4        | 6.0        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 橙               |        |
| 16  | 1層                    | 土師器 | 環         |            |            |            | 3.0        | 70         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい黄褐色 | 網割              |        |
| 17  | Pit5 上部               | 土師器 | 高台付<br>付環 |            | 7.2        |            | 4~5        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 浅黄褐色   | 内部径8.3cm        |        |
| 18  | 床面、1層                 | 須恵器 | 環         | B          | 13.8       | 5.0        | 4.7        | 2~5        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ         | 回転糸切   | 灰               |        |
| 19  | 1号カマド煙道、3<br>号カマド前床面  | 土師器 | 壺         | C          | 18.2       | -9.2       | 25.4       | 8.0        | 100   | ヘラケズリ | ヘラケズリ         | ヘラケズリ  | にぶい橙            |        |
| 20  | 1号カマド床上面、3<br>号カマド前床面 | 土師器 | 壺         | C          | 16.4       | 19.9       | 27.4       | 8.0        | 100   | ヘラケズリ | ヘラケズリ         | ヘラケズリ  | 浅黄褐色            |        |

| No. | 出土地点                          | 種類  | 器種 | 種分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整      | 外面調整  | 底面調整     | 色調 | 備考 |
|-----|-------------------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-------|----------|----|----|
| 21  | 1号カマド燃焼部                      | 十脚器 | 壺  | C  | 16.2       | 9.5        | 30.0       | 4~7        | 60         | ヘラナデ      | ヘラケズリ | 木裏板・ヘラナデ | 褐灰 |    |
| 22  | 1号カマド袖上座、3号カマド前座面             | 土師器 | 壺  | C  | 18.6       |            | 10.0       | 30         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | 灰黄橙      |    |    |
| 23  | 1号カマド脇床面、2号カマド煙道、廻り方床面        | 十脚器 | 壺  | C  | 14.7       |            | 7~8        | 65         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | にぶい黄橙    |    |    |
| 24  | 2号カマド脇床面                      | 土師器 | 壺  | C  | 22.0       |            | 5~7        | 45         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | 橙        |    |    |
| 25  | 1号カマド燃焼部                      | 土師器 | 壺  | C  | 14.4       |            | 4~8        | 15         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | 黄橙       |    |    |
| 26  | 1号カマド脇床面、2号カマド煙道              | 土師器 | 壺  | C  | 12.0       |            | 4~6        | 40         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | にぶい橙     |    |    |
| 27  | 2号カマド煙道、床面                    | 土師器 | 壺  | C  |            |            | 6~8        | 10         | ヘラナデ       | ヘラケズリ     |       | にぶい橙     |    |    |
| 28  | 1号カマド脇床面                      | 土師器 | 壺  | B  |            | 6.9        | 11.0       | 30         | ロクロナデ      | ロクロナデ     | 回転糸切  | 橙        |    |    |
| 29  | 1号カマド燃焼部、床面                   | 土師器 | 壺  | B  | 22.6       |            | 6~8        | 20         | ロクロナデ      | ロクロナデ     |       | 浅黄橙      |    |    |
| 30  | 1号カマド燃焼部                      | 土師器 | 壺  | B  | 21.4       |            | 5~8        | 20         | ロクロナデ      | ロクロナデ     |       | にぶい橙     |    |    |
| 31  | 3号カマド周辺床面                     | 須恵器 | 壺  | B  |            |            | 4~7        | 70         | カキメ        | カキメ・ヘラケズリ |       | 灰        |    |    |
| 32  | 1層                            | 須恵器 | 壺  | B  |            | 12.0       | 7~10       | 45         | ハケメ        | ヘラケズリ     |       | 灰        |    |    |
| 33  | 床面                            | 須恵器 | 壺  | A  |            |            | 5~12       | 20         | 当て具痕       | タタキメ      |       | 灰        |    |    |
| 34  | 廻り方                           | 須恵器 | 壺  | A  |            |            | 8~11       |            | 当て具痕       | タタキメ      |       | 灰        |    |    |
| 35  | R A 10-1 1号カマド燃焼部、R A 21 座十下部 | 須恵器 | 壺  | A  |            |            | 17~21      | 30         | ヘラナデ       | タタキメ      |       | 灰        |    |    |
| 36  | 2号カマド煙出                       | 須恵器 | 壺  | A  |            |            | 9~12       |            | 当て具痕       | タタキメ      |       | 灰        |    |    |

#### R A 11 【第55・56図】

| No. | 出土地点           | 種類  | 器種   | 種分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調    | 備考     |
|-----|----------------|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|-------|--------|
| 1   | Pit 3          | 土師器 | 高台付杯 | B  | 16.2       | 8.2        |            | 6.0        |            | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 指オサエ  | 灰     | 内面黒色処理 |
| 2   | Pit 3          | 土師器 | 杯    | A  | 14.2       | 5.6        | 4.3        | 6.0        |            | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 橙     |        |
| 3   | R A 11-12 埋土   | 須恵器 | 杯    | A  |            | 6.8        |            | 5.0        |            | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄橙 |        |
| 4   | カマド燃焼部、Pit 3   | 土師器 | 壺    | C  | 21.2       |            | 6.0        | 100        | ハケメ        | ヘラケズリ |       | にぶい橙  |       |        |
| 5   | カマド煙出、床面       | 土師器 | 壺    | C  | 17.4       |            | 6.0        | 100        | ヘラナデ       | ヘラナデ  |       | 浅黄橙   |       |        |
| 6   | 床面             | 土師器 | 壺    | C  | 10.6       | 8.5        | 8.5        | 5.0        | 40         | ハケメ   | ヘラケズリ | ヘラケズリ | にぶい橙  |        |
| 7   | カマド燃焼部・煙出、1・2層 | 土師器 | 壺    | C  |            | 12.8       |            | 5~9        | 22.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | 橙     |        |
| 8   | 1~2層、5層        | 土師器 | 壺    | C  | 11.2       |            | 5.0        | 35         | ハケメ        | ヘラケズリ |       | 褐灰    |       |        |
| 9   | R A 11-12 埋土   | 須恵器 | 壺    | C  | 7.9        |            | 3~5        | 70         | ロクロナデ      | ロクロナデ |       | 灰     |       |        |

#### R A 12 【第58図】

| No. | 出土地点       | 種類  | 器種   | 種分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調     | 備考       |
|-----|------------|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|--------|----------|
| 1   | 床面、2層      | 土師器 | 杯    | B  | 13.7       | 5.7        | 5.0        | 4.0        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラケズリ | 浅黄橙    | 内面黒色処理   |
| 2   | カマド燃焼部     | 土師器 | 杯    | A  | 14.8       |            | 3~4        | 35         | ヘラミガキ      | ロクロナデ |       | にぶい黄橙 | 内面黒色処理 |          |
| 3   | カマド燃焼部     | 土師器 | 杯    | B  |            | 6.0        |            | 5~7        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄橙  | 内面黒色処理   |
| 4   | カマド脇床面     | 土師器 | 杯    | B  | 14.8       | 5.5        | 5.0        | 7.0        | 60         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 橙      |          |
| 5   | 床面         | 土師器 | 杯    | B  | 14.6       | 5.5        | 4.3        | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 橙      |          |
| 6   | 埋土         | 土師器 | 杯    |    |            | 5.1        |            | 9.0        | 30         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 橙      |          |
| 7   | 床面         | 土師器 | 高台付杯 |    |            | 6.9        |            | 5.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ | 橙      | 台座径8.3cm |
| 8   | 埋土         | 須恵器 | 杯    | B  |            | 6.4        |            | 4~8        | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 灰オリーブ  |          |
| 9   | 1層         | 須恵器 | 杯    | B  |            | 15.2       |            | 2~4        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰白     |          |
| 10  | カマド燃焼部・袖上座 | 土師器 | 壺    | C  | 18.4       |            | 4~6        | 50         | ヘラナデ       | ヘラケズリ |       | にぶい黄橙 |        |          |
| 11  | カマド燃焼部、床面  | 土師器 | 壺    | B  | 18.0       |            | 6.0        | 100        | ロクロナデ      | ロクロナデ |       | 橙     |        |          |
| 12  | 床面、1・2層    | 土師器 | 壺    | A  |            | 7.5        |            | 11.0       | 100        |       | ヘラケズリ | ヘラケズリ | 橙      |          |

#### R A 13 【第60図】

| No. | 出土地点         | 種類  | 器種   | 種分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考                       |
|-----|--------------|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|--------------------------|
| 1   | カマド袖上座、Pit 3 | 土師器 | 高台付杯 | B  |            | 7.0        |            | 4~6        | 10         | ヘラケズリ | ロクロナデ | 指オサエ | にぶい黄橙 | 内面黒色処理・台座径7.8cm・台座径7.8cm |

| No | 出土地点                     | 種類   | 器種 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 高さ<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調              | 備考     |  |
|----|--------------------------|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|-----------------|--------|--|
| 2  | 床面                       | 土師器  | 坏  | B          |            |            |            | 3.0        | ロクロナデ | ロクロナデ |       | にぶい黄橙           |        |  |
| 3  | 1層                       | 土師器  | 坏  | B          | 7.5        |            |            | 4~9        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄橙           | 金雲母を含む |  |
| 4  | 1層                       | 土師器  | 坏  | B          | 6.0        |            |            | 5~7        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄橙           |        |  |
| 5  | カマド池上面、1層                | 土師器  | 甕  | C          | 14.8       | 9.0        | 18.4       | 3~8        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉底   | 橙               |        |  |
| 6  | カマド池上面、Pit2、<br>カマド脇埋上下部 | 土師器  | 甕  | C          | 15.9       | 9.8        | 16.3       | 3~8        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | にぶい橙            |        |  |
| 7  | 1層                       | 土師器  | 甕  | C          |            | 7.2        |            | 5~8        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉底   | にぶい黄橙           |        |  |
| 8  | カマド池上面、1層                | 土師器  | 甕  | C          |            | 7.8        |            | 3~5        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | にぶい黄橙           |        |  |
| 9  | カマド脇埋上下部                 | 土師器  | 甕  | C          | 17.8       |            |            | 4~7        | 100   | ヘラナデ  | ヘラナデ  |                 | にぶい黄橙  |  |
| 10 | カマド池上面                   | あかやぶ | 甕  | B          |            | 15.5       |            | 8~10       | 100   | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ、<br>合部分ナデ | 浅黄橙    |  |

#### R A 14 【第63~65図】

| No | 出土地点          | 種類   | 器種 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 高さ<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整 | 外面調整  | 底面調整                    | 色調               | 備考    |                  |
|----|---------------|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|-------------------------|------------------|-------|------------------|
| 1  | 床面            | 土師器  | 坏  | B          | -13.8      | -5.8       | 4.2        | 3~5        | 25   | ヘラミガキ | ロクロナデ                   | 手付ヘラケズリ          | にぶい黄橙 | 内面黒色処理、<br>金雲母含む |
| 2  | 床面            | 土師器  | 坏  | B          |            | 5.6        |            | 3~6        | 100  | ヘラミガキ | ロクロナデ                   | ヘラケズリ(?)         | にぶい黄橙 | 内面黒色処理、<br>金雲母含む |
| 3  | カマド燃焼部、Pit7   | 土師器  | 坏  | B          |            | -6.0       |            | 4~8        | 10   | ヘラミガキ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | にぶい橙  | 内面黒色処理、<br>金雲母含む |
| 4  | 床面            | 土師器  | 坏  | A          | 14.2       | 3.4        | 4.8        | 8.0        | 50   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | にぶい橙  |                  |
| 5  | Pit4          | 土師器  | 坏  | A          | -15.0      | 5.8        | 4.9        | 2~7        | 55   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 手付ヘラケズリ          | にぶい橙  |                  |
| 6  | Pit8          | 土師器  | 坏  | A          | 15.2       | 5.1        | 4.8        | 4~8        | 100  | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 目取糸切・手<br>付ヘラケズリ | にぶい橙  |                  |
| 7  | Pit4・11       | 土師器  | 坏  | A          | -15.8      | -5.6       | 4.3        | 2~8        | 30   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | にぶい黄橙 |                  |
| 8  | Pit1          | 土師器  | 坏  | A          |            | 6.0        |            | 4~9        | 65   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | 橙     |                  |
| 9  | Pit3          | 土師器  | 坏  |            |            |            |            | 4.0        | 35   | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | にぶい黄橙 | 磨削               |
| 10 | 掘り方           | 須恵器  | 甕  | C          | -16.0      |            |            | 3~4        | 100  | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | 灰     |                  |
| 11 | 6層~床面         | 須恵器  | 坏  |            | -6.0       |            |            | 3.0        | 10   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | 灰     |                  |
| 12 | Pit8          | 須恵器  | 坏  |            | 14.2       | 5.0        | 4.6        | 3~6        | 65   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | 回転糸切             | 灰     |                  |
| 13 | カマド燃焼部敷土層     | 土師器  | 甕  | C          | -19.6      |            |            | 4~7        |      | ハケメ   | ヘラケズリ                   |                  | 浅黄橙   |                  |
| 14 | Pit11、1・6層    | 土師器  | 甕  | C          | 13.0       | 8.0        | 14.1       | 6.0        | 10   | ハケメ   | ヘラケズリ                   |                  | にぶい橙  |                  |
| 15 | Pit4          | 土師器  | 甕  | C          | 15.8       | 9.6        | 13.7       | 5.0        | 30   | ハケメ   | ヘラケズリ                   | ヘラケズリ            | にぶい黄橙 |                  |
| 16 | 掘り方           | 土師器  | 甕  | C          | 12.0       |            |            | 4.0        | 100  | ハケメ   | ヘラナデ                    |                  | にぶい黄橙 |                  |
| 17 | Pit1          | 土師器  | 甕  | C          |            | 6.9        |            | 7.0        | 35   | ハケメ   | ロクロナデ                   | 木葉底              | にぶい黄橙 |                  |
| 18 | カマド支脚         | 土師器  | 甕  | C          |            | 10.0       |            | 8.0        | 100  | ヘラナデ  | ヘラケズリ                   | ヘラケズリ            | にぶい黄橙 |                  |
| 19 | 床面            | 土師器  | 甕  | C          |            | 10.0       |            | 10.0       | 45   | ハケメ   | ヘラケズリ                   | 砂底               | にぶい黄橙 |                  |
| 20 | 6層~床面         | 土師器  | 甕  | B          | -10.7      | -5.2       | 10.0       | 5~7        | 25   | ロクロナデ | ロクロナデ                   | ヘラケズリ            | にぶい黄橙 |                  |
| 21 | 6層~床面         | あかやぶ | 甕  | A          |            |            |            | 8~10       | 100  | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | 橙     |                  |
| 22 | 床面            | 須恵器  | 甕  | C          |            |            |            | 10~14      | 60   | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | にぶい黄橙 |                  |
| 23 | 掘り方           | 須恵器  | 甕  | C          | -18.7      |            |            | 5~6        | 70   | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | にぶい黄橙 |                  |
| 24 | Pit3          | 須恵器  | 甕  | C          | -16.1      |            |            | 5~6        | 15   | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | 黄灰    |                  |
| 25 | Pit1          | 須恵器  | 甕  | C          |            |            |            | 6~7        |      | ヘラナデ  | ヘラケズリ                   |                  | 灰     |                  |
| 26 | R A 14、R D 32 | 須恵器  | 甕  | C          | -10.4      |            |            | 7~9        | 70   | ヘラナデ  | タタキメ、<br>ヘラケズリ<br>(ナデ?) | ヘラケズリ            | 灰     |                  |
| 27 | 床面            | 須恵器  | 甕  | C          |            |            |            | 8~9        | 35   | ロクロナデ | ロクロナデ                   |                  | 灰     |                  |

#### R A 15 【第69~70図】

| No | 出土地点      | 種類  | 器種 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 高さ<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整 | 外面調整  | 底面調整  | 色調    | 備考     |                   |
|----|-----------|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|-------|-------|--------|-------------------|
| 1  | 床面        | 土師器 | 坏  | B          | -14.0      | -7.0       | 4.4        | 2~6        | 10   | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | 内面黒色処理 |                   |
| 2  | 1号カマド燃焼部  | 土師器 | 坏  | B          | -14.0      | 6.2        | 4.7        | 3~5        |      | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | 内面黒色処理 |                   |
| 3  | Pit4      | 土師器 | 坏  | B          | -13.0      |            |            | 2~3        | 35   | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | 内面黒色処理 |                   |
| 4  | 床面        | 土師器 | 坏  | B          | -13.4      |            |            | 2~3        |      | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | 内面黒色処理 |                   |
| 5  | 3号カマド前掘り方 | 土師器 | 坏  | B          |            | 6.0        |            | 4~6        | 15   | ヘラミガキ | ヘラミガキ | ヘラケズリ | 黒釉     | 内面黒色処理、<br>金雲母を含む |
| 6  | 3層        | 土師器 | 坏  | B          | -13.2      |            |            | 3~5        | 35   | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 橙      |                   |
| 7  | 2号カマド燃焼部  | 土師器 | 坏  | B          | -13.7      |            |            | 4.6        | 20   | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 橙      |                   |

| No. | 出土地点                                   | 種類  | 設<br>法 | 掘<br>分 | 口<br>径<br>(cm) | 底<br>径<br>(cm) | 深<br>高<br>(cm) | 掘<br>径<br>(cm) | 残<br>存<br>率<br>(%) | 内<br>面<br>調<br>整 | 外<br>面<br>調<br>整 | 底<br>面<br>調<br>整 | 色<br>調 | 備<br>考          |
|-----|--|-----|--------|--------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|------------------|------------------|------------------|--------|-----------------|
| 8   | Pit 8、3層                               | 土師器 | 坏      | B      | -15.0          |                |                | 3.0            | 20                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 橙      |                 |
| 9   | 1号カマド煙道                                | 須惠器 | 坏      |        | -14.4          |                |                | 3~5            | 100                | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 灰      |                 |
| 10  | 2号カマド燃焼部                               | 須惠器 | 坏      |        | 15.8           | 5.6            | 5.3            | 2~5            | 17.5               | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | にぶい黄褐色 |                 |
| 11  | 北側帖床下位8層                               | 須惠器 | 坏      |        | -14.8          |                |                | 3~5            | 10                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 灰      |                 |
| 12  | Pit 4                                  | 須惠器 | 坏      |        | -13.4          | -6.6           | 5.6            | 3~5            | 10                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい黄褐色 |                 |
| 13  | 床面                                     | 須惠器 | 坏      |        | 15.6           | 5.8            | 5.7            | 3~5            | 17.5               | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | 灰白     |                 |
| 14  | 埋土                                     | 須惠器 | 坏      |        | -13.4          |                |                | 3~4            | 62.5               | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 灰白     |                 |
| 15  | 埋土                                     | 須惠器 | 坏      |        |                | 6.0            |                | 4.0            | 5                  | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | 灰白     |                 |
| 16  | Pit 3                                  | 土師器 | 瓦皿     |        |                | -4.6           |                | 5~8            | 45                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 橙      | 縁刻・台部<br>径5.0cm |
| 17  | 床面                                     | 土師器 | 甕      |        | 7.8            | 4.8            | 4.9            | 3~6            | 60                 | カキメ              | カキメ              | ヘラナデ             | 黄褐色    |                 |
| 18  | 2号カマド燃焼部、3号カマド燃焼部 Pit 7                | 土師器 | 甕      | A      | 20.2           | -7.2           | 32.7           | 6~10           | 10                 |                  | ヘラケズリ            | ヘラナデ             | 橙      |                 |
| 19  | 埋土                                     | 土師器 | 甕      | C      |                | -10.0          |                | 4~8            | 45                 | ハケメ              | ハケメ              | 砂底               | にぶい橙   |                 |
| 20  | 3号カマド筋切り方                              | 土師器 | 甕      | C      |                | 11.6           |                | 8~10           | 30                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            | 木炭痕              | にぶい黄褐色 |                 |
| 21  | 1号カマド燃焼部・煙道、2号カマド燃焼部・煙道、3号カマド燃焼部 Pit 7 | 土師器 | 甕      | C      | -17.3          | 11.8           | 31.0           | 5.0            | 100                | ハケメ              | ヘラケズリ            | ヘラケズリ            | 橙      |                 |
| 22  | 1・2号カマド燃焼部                             | 土師器 | 甕      | B      | -15.0          |                |                | 3~6            | 80                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 橙      |                 |
| 23  | 1号カマド掘出                                | 須惠器 | 甕      | B      | 16.3           |                |                | 4~7            | 45                 |                  | ヘラケズリ            |                  | オリーブ黒  |                 |
| 24  | 2号カマド袖先端                               | 須惠器 | 甕      |        |                |                |                | 7~15           | 35                 | ヘラナデ             | タタキメ             |                  | 灰白     |                 |
| 25  | 壁際床面、北側帖床下位8層                          | 須惠器 | 甕      | A      | -11.0          | 6.4            | 11.3           | 3~6            | 50                 |                  | ヘラケズリ            | 回転糸切             | 灰      |                 |
| 26  | 1号カマド煙道                                | 須惠器 | 甕      |        |                | -9.4           |                | 7~13           | 25                 | ヘラナデ             | タタキメ・ヘラケズリ       | ヘラケズリ            | 灰      |                 |
| 27  | 北側帖床下位8層                               | 須惠器 | 甕      | A      | -11.0          |                |                | 2~4            | 100                | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 灰      |                 |

R A 16 [第74~75図]

| No. | 出土地点           | 種類  | 設<br>法   | 掘<br>分 | 口<br>径<br>(cm) | 底<br>径<br>(cm) | 深<br>高<br>(cm) | 掘<br>径<br>(cm) | 残<br>存<br>率<br>(%) | 内<br>面<br>調<br>整 | 外<br>面<br>調<br>整 | 底<br>面<br>調<br>整 | 色<br>調 | 備<br>考       |
|-----|----------------|-----|----------|--------|----------------|----------------|----------------|----------------|--------------------|------------------|------------------|------------------|--------|--------------|
| 1   | 1号カマド掘出        | 土師器 | 坏        | B      | -13.4          | 5.4            | 4.1            | 4.0            |                    | ヘラミガキ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理       |
| 2   | 1号カマド燃焼部       | 土師器 | 坏        | B      |                | -6.5           |                | 4~6            | 50                 | ヘラミガキ            | ロクロナデ            |                  | 明黄褐色   | 内面黒色処理・金雲母含む |
| 3   | 埋土             | 土師器 | 坏        |        |                | -5.3           |                | 4~7            | 65                 | ヘラミガキ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | 橙      | 内面黒色処理       |
| 4   | 埋土             | 土師器 | 高台<br>付坏 |        |                | -6.3           |                | 4~9            |                    | ヘラミガキ            | ロクロナデ            | 指オサエ・<br>ロクナ     | 橙      | 内面黒色処理       |
| 5   | 1層             | 土師器 | 坏        | B      | -13.0          | 5.5            | 3.3            | 5.0            | 100                | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい黄褐色 |              |
| 6   | 埋土             | 土師器 | 坏        | B      | -13.8          | 5.5            | 4.3            | 5.0            | 50                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい橙   |              |
| 7   | Pit 1, Pit 6   | 土師器 | 坏        | A      | -14.2          | 5.8            | 4.7            | 7.0            | 65                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | 橙      |              |
| 8   | 3号カマド前床面       | 土師器 | 坏        | B      | 13.4           | -5.2           | 4.2            | 3~6            | 25                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい橙   | 金雲母含む        |
| 9   | 1・2層           | 土師器 | 坏        | B      | 13.6           | 5.8            | 5.2            | 4~9            | 100                | ロクロナデ            | ロクロナデ            | 回転糸切             | にぶい橙   |              |
| 10  | 1号カマド煙道        | 須惠器 | 坏        |        | -15.2          |                |                | 2~4            | 100                | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | 灰      |              |
| 11  | 床面、埋土          | 土師器 | 甕        |        | -10.4          | -11.0          | 9.3            | 10.0           | 100                | ヘラナデ             | ヘラケズリ            | 木炭痕              | にぶい橙   |              |
| 12  | 1号カマド燃焼部       | 土師器 | 甕        | C      | -14.9          |                |                | 6.0            | 20                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            |                  | 橙      |              |
| 13  | 1号カマド燃焼部・煙道、埋土 | 土師器 | 甕        | C      |                | -13.0          |                | 7.0            | 20                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            |                  | にぶい黄褐色 |              |
| 14  | 2号カマド上部        | 土師器 | 甕        | C      |                | -10.8          |                | 11.0           | 50                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            | 木炭痕              | にぶい黄褐色 |              |
| 15  | Pit 6          | 土師器 | 甕        | C      |                | -9.2           |                | 11.0           | 15                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            | 木炭痕              | にぶい橙   |              |
| 16  | 1号カマド筋切り方      | 土師器 | 甕        | A      | 20.2           |                |                | 6.0            | 30                 | ヘラナデ             | ヘラケズリ            |                  | にぶい橙   |              |
| 17  | 2号カマド前床面       | 土師器 | 甕        | B      | -18.2          |                |                | 8.0            | 37.5               | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | にぶい橙   |              |
| 18  | 掘り方            | 土師器 | 甕        | B      | -16.4          |                |                | 8.0            | 30                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | にぶい橙   |              |
| 19  | 1号カマド煙道        | 土師器 | 甕        | B      | -19.2          |                |                | 6.0            | 35                 | ロクロナデ            | ロクロナデ            |                  | にぶい橙   |              |
| 20  | 1号カマド燃焼部、南東部床面 | 須惠器 | 甕        |        |                |                |                | 11~12          | 5                  | タタキメ             | タタキメ             |                  | 黒      |              |
| 21  | 埋土             | 須惠器 | 甕        |        |                |                |                | 10~12          | 12.5               | タタキメ +<br>当て具痕   | タタキメ             |                  | 灰      |              |
| 22  | Pit 5          | 須惠器 | 甕        |        |                |                |                | 10~17          | 22.5               | タタキメ +<br>当て具痕   | タタキメ             |                  | 黒      |              |

R A 17【第77図】

| No. | 出土地点   | 種類  | 添付 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考     |
|-----|--------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|--------|
| 1   | 埋土     | 土師器 | 環  | A  | 13.3       |            |            | 3~6        | 15         | ヘラミガキ | ロクロナデ |      | にふい橙  | 内面黒色処理 |
| 2   | 床面, 1層 | 土師器 | 環  | A  |            | 5.7        |            | 4~7        |            | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラナデ | にふい黄橙 | 内面黒色処理 |
| 3   | 1層     | 土師器 | 環  | A  | 16.4       | 4.2        | 5.4        | 3~7        |            | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | にふい橙  |        |
| 4   | 1層     | 土師器 | 環  | A  | 16.3       |            |            | 4.0        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にふい黄橙 | 磨削     |

R A 18【第80・81図】

| No. | 出土地点                         | 種類  | 添付 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整           | 底面調整             | 色調    | 備考               |
|-----|------------------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|----------------|------------------|-------|------------------|
| 1   | カマド脇床面                       | 土師器 | 環  | A  | 13.9       | 6.0        | 4.7        | 3~6        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | ヘラナデ             | 浅黄橙   | 内面黒色処理<br>金葉付含む  |
| 2   | カマド脇床面                       | 土師器 | 環  | B  | 14.8       | 5.6        | 4.4        | 3~6        | 50         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | ヘラケズリ            | にふい黄橙 | 内面黒色処理           |
| 3   | カマド脇床面                       | 土師器 | 環  | B  | 15.0       | 6.5        | 4.5        | 3~7        | 55         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 磨削糸切・手<br>持ヘラケズリ | にふい黄橙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む |
| 4   | カマド脇床面                       | 土師器 | 環  | B  | 14.1       | 6.2        | 4.9        | 2~7        | 22.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切             | にふい黄橙 | 内面黒色処理           |
| 5   | 床面                           | 土師器 | 環  | B  | 14.0       | 5.8        | 5.0        | 3~5        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 手持ヘラケズリ          | にふい黄橙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む |
| 6   | カマド燃焼部                       | 土師器 | 環  | B  | 14.6       | 6.0        | 5.1        | 3~9        | 35         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 手持ヘラケズリ          | にふい黄橙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む |
| 7   | 埋土                           | 土師器 | 環  | B  | 14.1       | 6.4        | 4.3        | 3~6        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ          | ヘラケズリ            | 橙     | 内面黒色処理           |
| 8   | 埋土                           | 土師器 | 環  | A  | 15.0       |            |            | 2~4        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          |                  | 浅黄橙   |                  |
| 9   | 埋土                           | 土師器 | 環  | C  | 20.0       |            |            | 3~6        | 15         | ヘラナデ  | ヘラケズリ          |                  | にふい黄橙 |                  |
| 10  | 3・4層, 掘り方                    | 土師器 | 環  | C  |            | 12.1       |            | 5~10       | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ          | ヘラケズリ            | 灰黄橙   |                  |
| 11  | カマド燃焼部                       | 土師器 | 環  | B  | 11.7       |            |            | 2~5        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                  | 灰黄橙   |                  |
| 12  | カマド燃焼部, 3・4層                 | 土師器 | 環  | B  |            | 7.5        |            | 3~9        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ          | ヘラケズリ            | にふい黄橙 |                  |
| 13  | 床面                           | 土師器 | 環  | B  |            | 7.0        |            | 5~6        | 27.5       | ロクロナデ | ロクロナデ          | ヘラケズリ            | 橙     |                  |
| 14  | 床面                           | 須恵器 | 環  | B  |            |            |            | 10~17      | 50         | タタキメ  | タタキメ           |                  | オリーブ黒 |                  |
| 15  | 壁跡床面                         | 須恵器 | 環  | B  |            |            |            | 6~10       | 15         | ヘラケズリ |                |                  | 灰     |                  |
| 16  | RA18・3・4層, RA<br>20-1号カマド地上部 | 須恵器 | 環  | A  |            | 10.0       |            | 5~13       | 85         | ヘラナデ  | タタキメ・ヘ<br>ラケズリ |                  | オリーブ黒 |                  |
| 17  | 床面                           | 須恵器 | 環  | A  |            |            |            | 7~9        | 100        | ヘラナデ  | タタキメ・ヘ<br>ラケズリ |                  | 灰     |                  |

R A 19【第83図】

| No. | 出土地点      | 種類  | 添付 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考 |
|-----|-----------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|----|
| 1   | カマド煙道, 1層 | 土師器 | 環  | C  | 19.8       | 12.4       | 25.5       |            | 4~7        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にふい橙  |    |
| 2   | カマド袖上面    | 須恵器 | 環  | A  | -4.9       |            |            |            | 3~5        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 灰オリーブ |    |

R A 20【第86・87図】

| No. | 出土地点                    | 種類  | 添付 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整           | 底面調整             | 色調    | 備考                               |
|-----|-------------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|----------------|------------------|-------|----------------------------------|
| 1   | 床面                      | 土師器 | 環  | B  | 13.0       | 6.0        | 5.3        | 4.0        | 90         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切             | にふい橙  | 内面黒色処理・<br>金葉付含む                 |
| 2   | 壁跡床面, 2層                | 土師器 | 環  | B  | 14.0       | 6.6        | 5.0        | 3~8        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切・手<br>持ヘラケズリ | 浅黄橙   | 内面黒色処理・<br>金葉付含む                 |
| 3   | 1号カマド脇床面                | 土師器 | 環  | A  |            | 5.6        |            | 5.0        | 30         | ヘラミガキ | ロクロナデ          | 回転糸切             | 橙     | 内面黒色処理・<br>金葉付含む                 |
| 4   | 1号カマド脇床面, 埋土            | 土師器 | 環  | B  | 15.5       | 7.5        | 6.7        | 6.0        | 10         | ヘラミガキ | ヘラミガキ          | 指オサエ             | 黒     | 内外黒色処理・<br>金葉付含む・磨削・台座<br>径5.1cm |
| 5   | 1号カマド燃焼部,<br>1・2層       | 土師器 | 環  | B  | 15.1       | -5.4       | 5.5        | 5.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          | ヘラケズリ<br>(?)     | にふい橙  |                                  |
| 6   | 2・3層                    | 土師器 | 環  | A  |            | 5.9        |            | 6.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切             | にふい橙  |                                  |
| 7   | 1号カマド脇床面, 埋土            | 土師器 | 環  | A  | 14.4       | -6.1       | 5.0        | 7.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          | ヘラケズリ            | にふい黄橙 |                                  |
| 8   | 埋土                      | 土師器 | 環  | A  | 14.3       |            |            | 5.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ          |                  | 橙     |                                  |
| 9   | 1号カマド燃焼部, 2層            | 須恵器 | 環  | A  | 14.2       | 6.2        | 5.1        | 2~6        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ          | 回転糸切             | 灰     |                                  |
| 10  | 2層                      | 須恵器 | 環  | A  | -12.4      |            |            | 4.0        | 75         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                  | 灰     |                                  |
| 11  | 1号カマド煙道                 | 土師器 | 環  | B  | -14.9      |            |            | 5.0        | 35         | ロクロナデ | ロクロナデ          |                  | 橙     |                                  |
| 12  | 1号カマド袖上面,<br>壁跡床面, 1・2層 | 土師器 | 環  | A  | 19.8       | -9.2       | -31.0      | 7~9        | 30         | ヘラナデ  | タタキメ・ヘ<br>ラケズリ |                  | にふい黄橙 |                                  |

| No. | 出土地点    | 種類  | 部種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考 |
|-----|---------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|----|
| 13  | 1層      | 土師器 | 甕  | C  | 23.7       |            |            |            | 5.0        | 10    | ヘラナデ  | ヘラナデ | にぶい黄橙 |    |
| 14  | 1号カマド煙出 | 須恵器 | 甕  | A  |            |            |            | 3~7        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ | 灰    |       |    |

#### R A 16 【第74~75図】

| No. | 出土地点             | 種類  | 部種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考           |
|-----|------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|--------------|
| 1   | 1号カマド燃焼部         | 土師器 | 坏  | B  | 13.6       | 6.2        | 4.7        | 5.0        | 27.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄橙 | 内面黒色処理・金箔付含む |
| 2   | 1号カマド燃焼部<br>2・3層 | 土師器 | 坏  | B  | -12.6      |            |            | 4.0        | 40         | ヘラミガキ | ロクロナデ |      | 灰黄褐   | 内面黒色処理       |
| 3   | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 坏  | B  |            | 5.5        |            | 6.0        | 20         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄橙 | 内面黒色処理       |
| 4   | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 甕  | A  | 15.6       |            |            | 3~4        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい黄橙 |              |
| 5   | 1・2層             | 土師器 | 坏  | A  | -14.6      | -6.4       | 4.7        | 5.0        | 12.5       | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 橙     |              |
| 6   | 1号カマド燃焼部         | 土師器 | 坏  | B  | -13.6      | -5.6       | 4.8        | 4.0        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 橙     |              |
| 7   | 1号カマド燃焼部         | 土師器 | 坏  | A  | 15.2       | 6.2        | 4.8        | 5.0        | 80         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 橙     |              |
| 8   | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 坏  |    |            | -5.2       |            | 6.0        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 橙     |              |
| 9   | 1号カマド脇床面, 2層     | 土師器 | 甕  | C  | -13.6      |            |            | 6.0        | 15         | ヘラナデ  | ヘラナデ  |      | 橙     |              |
| 10  | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 甕  | C  | 16.2       |            |            | 7.0        | 50         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい黄橙 |              |
| 11  | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 甕  | C  |            | -6.0       |            | 10.0       | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラナデ | にぶい黄橙 |              |
| 12  | 2・3層             | 土師器 | 甕  | C  |            | 11.0       |            | 7.0        | 50         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい黄  |              |
| 13  | 1号カマド燃焼部         | 土師器 | 甕  | C  | -19.3      |            |            | 3~6        | 7.5        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい黄  |              |
| 14  | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 甕  | B  | 22.2       |            |            | 5.0        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい橙  |              |
| 15  | 1号カマド脇床面         | 土師器 | 甕  | B  | 22.0       |            |            | 9.0        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 洗黄橙   |              |
| 16  | 1号カマド脇床面, 1層     | 土師器 | 甕  | A  | -21.2      |            |            | 8.0        | 40         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい黄橙 |              |

#### R A 22 【第93・94図】

| No. | 出土地点          | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整      | 外面調整      | 底面調整  | 色調    | 備考     |
|-----|---------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|-------|-------|--------|
| 1   | 1層            | 土師器 | 坏  | B  |            | -6.6       |            | 3~9        | 15         | ヘラミガキ     | ロクロナデ     | 回転糸切  | にぶい橙  | 内面黒色処理 |
| 2   | カマド脇上面, Pit 1 | 土師器 | 坏  | A  | 14.5       | 4.8        | 5.3        | 2~10       | 5          | ロクロナデ     | ロクロナデ     | 回転糸切  | にぶい黄橙 |        |
| 3   | カマド煙道         | 土師器 | 坏  |    |            |            |            | 2~4        | 15         | ロクロナデ     | ロクロナデ     |       | 洗黄橙   | 線割     |
| 4   | カマド袖上面        | 土師器 | 坏  |    |            |            |            | 4~5        | 15         | ロクロナデ     | ロクロナデ     |       | 橙     |        |
| 5   | カマド燃焼部        | 土師器 | 甕  | C  | 21.9       |            |            | 4~6        | 50         | ヘラナデ・ハケメ  | ヘラナデ      |       | にぶい黄橙 |        |
| 6   | カマド脇床面        | 土師器 | 甕  | C  |            |            |            | 4~5        | 100        | ハケメ       | ヘラナデ      |       | にぶい黄橙 |        |
| 7   | カマド燃焼部        | 土師器 | 甕  | C  | -17.0      |            |            | 5~8        | 12.5       | ハケメ・ヘラケズリ | ハケメ・ヘラケズリ |       | 橙     |        |
| 8   | カマド燃焼部・袖上面    | 土師器 | 甕  | C  | -22.4      |            |            | 5~10       | 10         | ハケメ       | ハケメ・ヘラケズリ |       | にぶい黄橙 |        |
| 9   | Pit 1         | 土師器 | 甕  | B  |            | 7.4        |            | 6~13       | 25         | ロクロナデ     | ロクロナデ     |       | にぶい黄橙 |        |
| 10  | カマド袖上面        | 土師器 | 甕  | B  | -13.8      |            |            | 4~7        | 12.5       | ロクロナデ     | ロクロナデ     |       | にぶい黄  |        |
| 11  | 2層一床面         | 須恵器 | 甕  | B  |            | -13.6      |            | 4~16       | 25         |           | タタキメ      | ヘラナデ  | 黒     |        |
| 12  | 床面            | 須恵器 | 甕  | B  |            | 10.5       |            | 5~9        | 100        | ハケメ       | ヘラケズリ     | ヘラケズリ | オリーブ黒 |        |

#### R A 23 【第97・98図】

| No. | 出土地点 | 種類  | 器種   | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整         | 色調    | 備考             |
|-----|------|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|-------|----------------|
| 1   | 床面   | 土師器 | 坏    | B  | 14.3       | 5.5        | 4.8        | 3.0        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切・子母ヘラケズリ | 灰黄褐   | 内面黒色処理・金箔付含む   |
| 2   | 床面   | 土師器 | 坏    | B  | 14.0       | 5.7        | 4.6        | 6.0        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切         | にぶい黄  |                |
| 3   | 床面   | 土師器 | 坏    | B  | 14.3       | 6.0        | 4.6        | 4~8        | 40         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切         | にぶい黄  |                |
| 4   | 床面   | 土師器 | 坏    | B  | 14.9       | 6.0        | 4.0        | 5.0        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切         | にぶい黄  | 内面黒色処理         |
| 5   | 床面   | 土師器 | 高穴付坏 | B  | -12.8      | 6.6        | 4.2        | 7.0        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 指オサエ         | にぶい黄橙 | 金箔付含む・背面27.4cm |
| 6   | 埋蔵床面 | 須恵器 | 坏    |    | 14.6       | 5.4        | 5.2        | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 静止糸切り        | オリーブ黒 |                |
| 7   | 床面   | 土師器 | 甕    | C  |            | 9.0        |            | 5~6        | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |              | にぶい黄  | 木炭灰・平坦な敷物      |
| 8   | 床面   | 土師器 | 甕    | C  | 10.8       | 9.0        | 9.8        | 5~7        | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 砂灰・木炭灰       | にぶい黄  |                |

| No. | 出土地点      | 種類  | 部材 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 深高<br>(cm) | 壁厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整       | 外面調整  | 底面調整   | 色調    | 備考 |
|-----|-----------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|--------|-------|----|
| 9   | カマド文庫 床面  | 土師器 | 甕  | C  | -14.9      | 8.4        | 14.5       | 5~8        | 100        | ヘラケズリ・ヘラナデ | ヘラケズリ | 木炭痕    | 橙     |    |
| 10  | 床面        | 土師器 | 甕  | C  | 13.1       | 8.0        | 12.5       | 5.0        | 100        | ハケメ        | ヘラケズリ | 木炭痕    | 橙     |    |
| 11  | カマド架け口 床面 | 土師器 | 甕  | C  | 12.8       | 10.0       | 18.2       | 4~6        | 100        | ヘラナデ       | ヘラケズリ | 木炭痕    | 黒     |    |
| 12  | カマド架け口    | 土師器 | 甕  | C  | 17.8       | 11.8       | 31.1       | 3~15       | 100        | ヘラナデ       | ヘラナデ  | 砂灰・木炭痕 | にぶい・橙 |    |
| 13  | 床面        | 土師器 | 甕  | C  | -17.4      | -10.0      | 22.1       | 6.0        | 95         | ヘラナデ       | ヘラケズリ | 木炭痕    | 灰褐色   |    |

#### R A 24 [第101図]

| No. | 出土地点         | 種類  | 部材 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 深高<br>(cm) | 壁厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整     | 外面調整  | 底面調整   | 色調      | 備考           |
|-----|--------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|----------|-------|--------|---------|--------------|
| 1   | 壁障床面         | 土師器 | 坏  | B  | -13.4      | -5.9       | 5.1        | 3~10       | 90         | ヘラミガキ    | ロクロナデ | 回転糸切   | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理・金灰付含む |
| 2   | 北西部床面 1層     | 土師器 | 坏  | B  | 14.2       | 5.5        | 4.2        | 3~7        | 100        | ヘラミガキ    | ロクロナデ | 回転糸切   | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理・金灰付含む |
| 3   | 北西部床面        | 土師器 | 坏  | B  |            | 6.2        |            | 3~5        | 100        | ヘラミガキ    | ロクロナデ | 回転糸切   | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理・金灰付含む |
| 4   | 1層 振り力       | 土師器 | 坏  | B  | -14.5      | 5.4        | 4.8        | 3~6        | 100        | ヘラミガキ    | ロクロナデ | ヘラケズリ  | にぶい・橙   |              |
| 5   | 1層下部~床面      | 土師器 | 坏  | A  | -15.5      |            |            | 3~5        | 25         | ロクロナデ    | ロクロナデ |        | にぶい・橙   |              |
| 6   | 1層下部~床面      | 土師器 | 坏  | B  | -14.5      | -5.2       | 5.3        | 4~5        | 100        | ロクロナデ    | ロクロナデ | 回転糸切   | にぶい・橙   |              |
| 7   | 1層           | 土師器 | 甕  | C  | -19.7      |            |            | 3~6        | 50         | ハケメ      | ヘラナデ  |        | にぶい・橙   |              |
| 8   | RA計1層 RA25床面 | 土師器 | 甕  | C  | 21.4       |            |            | 4~7        | 100        | ヘラナデ     | ヘラケズリ |        | 黄褐色     |              |
| 9   | 1層           | 土師器 | 甕  | C  | -12.0      |            |            | 4~6        | 35         | ヘラナデ     | ヘラケズリ |        | 黄褐色     |              |
| 10  | 2号カマド燃焼部     | 土師器 | 甕  | C  |            | -11.0      |            | 4~5        | 25         | ヘラナデ     | ヘラケズリ | ヘラケズリ  | にぶい・黄褐色 |              |
| 11  | Pit 3        | 土師器 | 甕  | C  |            | 12.0       |            | 6~8        | 20         | ヘラナデ     | ヘラケズリ | ヘラケズリ  | 灰黄褐色    |              |
| 12  | 北西部床面        | 土師器 | 甕  | C  |            | -9.6       |            | 6~8        | 15         | ヘラナデ     | ヘラケズリ | 砂灰・木炭痕 | にぶい・赤褐色 |              |
| 13  | 1層           | 須恵系 | 甕  | B  |            |            |            | 6~11       | 10         | ケズリ・クタクメ |       |        | 黒       |              |

#### R A 25 [第104・105図]

| No. | 出土地点         | 種類  | 部材   | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 深高<br>(cm) | 壁厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調      | 備考            |
|-----|--------------|-----|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|---------|---------------|
| 1   | 床面           | 土師器 | 坏    | B  | -14.0      | -8.0       | 5.5        | 3~7        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | 灰       | 内面黒色処理        |
| 2   | 床面           | 土師器 | 坏    | A  | 15.1       | -6.6       | 4.3        | 3~6        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい・橙   | 内面黒色処理        |
| 3   | Pit 3        | 土師器 | 坏    | B  | 14.6       | 7.4        | 4.3        | 3~8        | 35         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい・橙   | 内面黒色処理        |
| 4   | 床面           | 土師器 | 坏    | B  | -13.0      |            |            | 3~5        | 5          | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理        |
| 5   | 1層           | 土師器 | 坏    | B  | 12.0       |            |            | 3~4        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理        |
| 6   | カマド燃焼部       | 土師器 | 坏    | B  | 13.3       | -5.6       | 4.6        | 3~6        | 50         | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラケズリ | にぶい・橙   | 内面黒色処理        |
| 7   | 床面           | 土師器 | 坏    | B  | -14.0      | 6.4        | 4.9        | 3~6        | 25         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 摩滅    | にぶい・黄褐色 | 内面黒色処理        |
| 8   | 北西部焼土上面      | 土師器 | 高台付坏 | B  |            | 6.1        |            | 5~7        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 指オサエ  | 黒       | 内外面黒色処理・金灰付含む |
| 9   | 1層           | 土師器 | 高台付坏 | B  |            | 7.7        |            | 7.0        | 7.5        | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 指オサエ  | 黒       | 内外面黒色処理・金灰付含む |
| 10  | Pit 6        | 土師器 | 坏    | A  | -16.0      |            |            | 4~5        | 30         | ロクロナデ | ロクロナデ |       | にぶい・黄褐色 |               |
| 11  | 床面           | 土師器 | 坏    | A  | 13.8       |            |            | 3~4        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ |       | にぶい・黄褐色 |               |
| 12  | 床面           | 土師器 | 坏    | A  | -14.5      | 6.0        | 4.3        | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラケズリ | にぶい・橙   |               |
| 13  | 床面           | 土師器 | 坏    | B  | -14.4      | -6.0       | 4.2        | 3~4        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 灰白      |               |
| 14  | カマド内部        | 土師器 | 坏    | A  |            | 6.0        |            | 4~5        | 12.5       | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 機       |               |
| 15  | カマド燃焼部       | 須恵系 | 坏    | B  |            | -13.8      |            | 4.0        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰       |               |
| 16  | 床面           | 須恵系 | 甕    | C  |            | 5.2        |            | 3~6        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 灰黄褐色    |               |
| 17  | RA計1層 RA25床面 | 土師器 | 甕    | C  | -25.6      | -28.8      |            | 5~8        | 50         |       | ヘラケズリ |       | 灰黄褐色    |               |
| 18  | 1層           | 土師器 | 甕    | C  | -12.4      |            |            | 4~5        | 100        | ハケメ   | ヘラケズリ |       | 橙       |               |
| 19  | 1層下部         | 土師器 | 甕    | C  |            |            |            | 4~6        | 25         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |       | にぶい・黄褐色 |               |
| 20  | Pit 5        | 須恵系 | 甕    | C  |            |            |            | 4~7        | 40         | ハケメ   | ヘラケズリ |       | にぶい・橙   |               |
| 21  | Pit 5        | 土師器 | 甕    | C  |            |            |            | 4~6        | 20         | ハケメ   | ヘラケズリ |       | 橙       |               |
| 22  | 床面 北側焼土上面    | 土師器 | 甕    | C  |            | -11.0      |            | 6~9        | 20         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木炭痕   | 橙       |               |

| No. | 出土地点              | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考 |
|-----|-------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|------|----|
| 23  | カマド燃焼部、カマド<br>脇床面 | 土師器 | 甕  | C  |            | -9.0       |            | 5~9        | 5          | ハケメ   | ヘラケズリ | 木炭煎  | にぶい煙 |    |
| 24  | 床面、P113           | 土師器 | 甕  | C  | -24.0      | -13.8      | 32.1       | 6~9        | 5          | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木炭煎  | にぶい煙 |    |
| 25  | カマド袖内部            | 土師器 | 甕  | B  | -19.6      |            |            | 5~9        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 煙    |    |
| 26  | 床面                | 土師器 | 甕  | B  | 22.0       |            |            | 5~7        | 35         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 炭焼   |    |
| 27  | カマド袖内部            | 土師器 | 甕  | B  | -15.4      |            |            | 4~5        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい煙 |    |
| 28  | カマド袖内部、床面、1層      | 土師器 | 甕  | A  | -19.8      |            |            | 5~7        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい煙 |    |
| 29  | 壁敷床面              | 酒器器 | 甕  | B  |            |            |            | 3~6        | 35         |       | ヘラケズリ |      | 灰    |    |

#### R A 26 【第108図】

| No. | 出土地点      | 種類  | 器種       | 細分 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調  | 備考     |
|-----|-----------|-----|----------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|-----|--------|
| 1   | カマド燃焼部、壁土 | 土師器 | 坏        | B  | 13.3       | 6.0        | 5.1        | 3~8        | 45         | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラナデ  | 炭灰煙 | 内面黒色処理 |
| 2   | 埋土        | 土師器 | 高台付<br>杯 | A  | 16.0       | 6.9        |            | 3~7        | 17.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ | ロクロナデ | 炭灰煙 | 内面黒色処理 |
| 3   | カマド脇床面    | 土師器 | 甕        | B  | 11.8       |            |            | 5~12       | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ | 炭焼  |        |
| 4   | カマド脇床面    | 土師器 | 甕        | C  | -13.6      | 3.4        | 10.3       | 4~7        |            | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切  | 炭焼  |        |

#### R A 27 【第111図】

| No. | 出土地点 | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考 |
|-----|------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|------|----|
| 1   | 床面   | 土師器 | 坏  | B  | -14.2      | 5.6        | 4.7        | 3~9        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | にぶい煙 |    |
| 2   | 床面   | 土師器 | 甕  | C  | -18.1      |            |            | 3~6        | 100        | ハケメ   | ヘラケズリ |      | にぶい煙 |    |
| 3   | 掘り方  | 土師器 | 甕  | C  |            | -11.5      |            | 6~13       | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木炭煎  | 炭灰煙  |    |

#### R A 28 【第113図】

| No. | 出土地点              | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整          | 色調   | 備考     |
|-----|-------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------------|------|--------|
| 1   | 床面、1・2層           | 土師器 | 坏  | B  | 13.0       | 5.6        | 4.3        | 3~5        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切・<br>ヘラナデ | 煙    | 内面黒色処理 |
| 2   | 床面                | 土師器 | 坏  | B  |            | -6.2       |            | 3~6        | 50         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切・<br>ヘラナデ | にぶい煙 | 内面黒色処理 |
| 3   | 床面                | 土師器 | 坏  | A  | -15.0      | 5.8        | 5.1        | 4.0        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切・<br>ヘラナデ | 煙    |        |
| 4   | 床面                | 土師器 | 坏  | A  | 14.0       | 5.4        | 4.6        | 3~6        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ          | 煙    |        |
| 5   | 床面                | 土師器 | 坏  | A  | -14.2      |            |            | 4.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい煙 |        |
| 6   | 床面、1・2層           | 土師器 | 坏  | B  | -15.2      | 3.8        | 4.9        | 5.0        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切          | 煙    |        |
| 7   | 2層~床面             | 土師器 | 坏  | A  | -16.0      |            |            | 3~5        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 煙    |        |
| 8   | 1層                | 土師器 | 坏  | A  |            | -4.8       |            | 6.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切          | 煙    | 磨刻     |
| 9   | カマド燃焼部、カマド<br>脇床面 | 土師器 | 甕  | C  | -20.2      |            |            | 5.0        | 30         | ハケメ   | ヘラケズリ |               | にぶい煙 |        |
| 10  | カマド燃焼部            | 土師器 | 甕  | C  | -14.6      |            |            | 5~7        | 100        | ハケメ   | ヘラケズリ |               | 煙灰   |        |
| 11  | 床面、1・2層           | 土師器 | 甕  | B  | 13.7       | -6.3       | -22.4      | 4~9        | 17.5       | ハケメ   | ヘラケズリ | 砂盛            | にぶい煙 |        |

#### R A 29 【第116~118図】

| No. | 出土地点     | 種類  | 器種       | 細分 | 口径<br>(cm) | 口径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整          | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考                           |
|-----|----------|-----|----------|----|------------|------------|------------|------------|------------|---------------|-------|------|------|------------------------------|
| 1   | 床面       | 土師器 | 坏        | B  | -15.2      | 6.1        | 5.3        | 3~8        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ | 回転糸切 | 炭灰煙  | 内面黒色処理・<br>金葉付含む             |
| 2   | 3層~床面    | 土師器 | 坏        | B  | -14.2      | 7.2        | 4.3        | 3~7        | 10         | ヘラミガキ         | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい煙 | 内面黒色処理                       |
| 3   | 3層~床面    | 土師器 | 坏        | B  | -12.7      | -5.5       | 4.3        | 3~7        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ | ヘラナデ | 炭灰煙  | 内面黒色処理                       |
| 4   | 埋土       | 土師器 | 坏        | B  | -14.4      | -5.5       | 4.3        | 3~6        | 85         | ヘラミガキ         | ロクロナデ |      | にぶい煙 |                              |
| 5   | 1号カマド燃焼部 | 土師器 | 坏        | B  | 13.4       | -6.0       | 4.2        | 3~5        | 100        | ヘラミガキ         | ロクロナデ | ヘラナデ | にぶい煙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む             |
| 6   | 床面       | 土師器 | 坏        | B  | -14.6      | 5.8        | 4.7        | 3~6        | 100        | ヘラミガキ<br>(幅広) | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい煙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む             |
| 7   | 埋土       | 土師器 | 坏        |    | -13.8      |            |            | 3~6        | 30         | ヘラミガキ         | ロクロナデ |      | にぶい煙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む             |
| 8   | 床面       | 土師器 | 坏        |    | 6.0        |            |            | 4~9        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ | 回転糸切 | 煙    | 内面黒色処理・<br>金葉付含む             |
| 9   | 埋土       | 土師器 | 高台付<br>杯 |    | 6.4        |            |            | 5~6        | 15         | ヘラミガキ         | ロクロナデ | 指オサエ | にぶい煙 | 内面黒色処理・<br>金葉付含む・台<br>部付、4cm |
| 10  | 3層~床面    | 土師器 | 坏        | B  | -16.0      |            |            | 4~5        | 50         | ヘラミガキ         | ヘラミガキ |      | 黒    | 内面黒色処理                       |

| No. | 出土地点                      | 種類  | 回転<br>部分  | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調           | 備考                  |          |
|-----|---------------------------|-----|-----------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|--------------|---------------------|----------|
| 11  | 埋土                        | 土師器 | 高台付<br>付付 |            | 6.7        |            | 4~6        | 25         | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 指オサエ  | 黒            | 内外黒色処理・<br>付付部7.1cm |          |
| 12  | 床面                        | 土師器 | 高台付<br>付付 |            | 6.8        |            | 6~9        | 100        | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 指オサエ  | 黒            | 内外黒色処理・<br>付付部7.8cm |          |
| 13  | 3層~床面                     | 土師器 | 環         | A          | 14.4       | -5.7       | 5.3        | 3~7        | 85    | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ         | 橙                   |          |
| 14  | 3層~床面                     | 土師器 | 環         | A          | -14.6      | -5.4       | 5.0        | 3~6        | 15    | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切         | 橙                   |          |
| 15  | 床面                        | 土師器 | 環         | A          | -15.0      | -5.5       | 5.0        | 4~7        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切         | 橙                   |          |
| 16  | 床面、埋土                     | 土師器 | 環         | A          | -14.5      | -5.3       | 4.5        | 4~7        | 100   | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切<br>ヘラナデ | 橙                   |          |
| 17  | 2号カマド焼部                   | 土師器 | 環         | A          | -15.4      | -5.6       | 4.7        | 4~6        | 50    | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ         | 橙                   |          |
| 18  | RA29 1号カマド前<br>床面、RG08-埋土 | 土師器 | 環         | B          | -15.9      | -4.6       | 4.8        | 2~5        | 35    | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切         | 浅黄橙                 |          |
| 19  | 3層~床面                     | 土師器 | 環         | B          | -15.2      |            |            | 3~5        | 50    | ロクロナデ | ロクロナデ |              | にぶい橙                |          |
| 20  | 3層~床面                     | 土師器 | 高台付<br>付付 |            | -6.7       |            |            | 4~11       | 75    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ        | 浅黄橙                 | 台部径7.1cm |
| 21  | 床面                        | 土師器 | 高台付<br>付付 |            | -5.9       |            |            | 4~7        | 50    | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ?       | にぶい黄橙               | 台部径6.4cm |
| 22  | 埋土                        | 須恵器 | 環         |            | 14.8       | 6.8        | 5.4        | 3~4        | 20    | ロクロナデ | ロクロナデ | 字持ヘラズリ       | 灰                   |          |
| 23  | 埋土                        | 須恵器 | 環         |            | -18.3      | -5.6       | 5.0        | 3~6        | 15    | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ         | にぶい黄橙               |          |
| 24  | 床面                        | 須恵器 | 環         |            | 15.3       | 6.2        | 5.0        | 2~5        | 20    | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切         | 灰                   |          |
| 25  | 3層~床面                     | 須恵器 | 環         |            | -5.6       |            |            | 6.0        | 30    | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切         | 灰                   |          |
| 26  | 1号カマド焼部、床<br>面、埋土         | 土師器 | 環         | C          | 14.0       |            |            | 4.0        | 25    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | にぶい黄橙               |          |
| 27  | 埋土                        | 土師器 | 環         | C          | -14.8      |            |            | 4~5        | 55    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | 橙                   |          |
| 28  | 1号カマド焼部、床面                | 土師器 | 環         | C          |            | 9.6        |            | 5~9        | 100   | ハケメ   | ヘラケズリ | 木炭灰          | にぶい黄橙               |          |
| 29  | 3層~床面                     | 土師器 | 環         | C          |            | -7.4       |            | 3~8        | 45    | ハケメ   | ヘラケズリ | 木炭灰          | 黄橙                  | 内面黒色処理   |
| 30  | 3層~床面                     | 土師器 | 環         | C          |            | -8.4       |            | 7~10       | 40    | ハケメ   | ヘラケズリ | 木炭灰          | 灰黄                  |          |
| 31  | 1号カマド焼部、床<br>面、埋土         | 土師器 | 環         | C          | -19.4      |            |            | 3~7        | 20    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | 橙                   |          |
| 32  | 1号カマド焼部、2<br>号カマド前床面      | 土師器 | 環         | C          | -20.6      |            |            | 5~7        | 50    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | 橙                   |          |
| 33  | 1層                        | 土師器 | 環         | C          | 16.2       |            |            | 4~6        | 60    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | 灰黄橙                 |          |
| 34  | 1号カマド焼部、床面                | 土師器 | 環         | C          | -15.0      |            |            | 3~5        | 55    | ハケメ   | ヘラケズリ |              | 橙                   |          |
| 35  | 2号カマド焼部、床面                | 土師器 | 環         | A          | -18.8      |            |            | 4~6        | 75    | ヘラケズリ | ヘラケズリ |              | 灰黄橙                 |          |
| 36  | 床面、1~3層                   | 須恵器 | 環         |            | 11.3       |            |            | 5~8        | 35    | ロクロナデ | ロクロナデ |              | 黄橙                  |          |
| 37  | 2号カマド前床面                  | 須恵器 | 環         |            |            |            |            | 6~7        | 35    | ロクロナデ | ロクロナデ |              | 灰                   |          |
| 38  | 3層                        | 須恵器 | 環         | B          |            |            |            | 4~8        | 50    | ロクロナデ | ロクロナデ |              | 灰                   |          |
| 39  | 床面、1~3層                   | 須恵器 | 環         |            |            |            |            | 9~11       | 15    | タタキメ  | タタキメ  |              | 灰                   |          |
| 40  | 埋土                        | 須恵器 | 環         |            |            |            |            | 8~11       | 12.5  | 当て具組  | タタキメ  |              | 灰                   |          |
| 41  | 埋土                        | 須恵器 | 環         |            |            |            |            | 7~10       |       | タタキメ  | タタキメ  |              | 灰                   |          |

### RA30【第120回】

| No. | 出土地点  | 種類  | 回転<br>部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整 | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考 |
|-----|-------|-----|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|------|-------|----|
| 1   | カマド煙道 | 土師器 | 環        | C          | 17.5       |            | 5.0        |            | ハケメ  | ヘラケズリ |      | にぶい黄橙 |    |
| 2   | カマド煙道 | 土師器 | 環        | C          | 9.4        |            |            | 4~11       | ハケメ  | ヘラケズリ |      | 黄橙    |    |

### RA31【第123・124回】

| No. | 出土地点      | 種類  | 回転<br>部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整 | 外面調整  | 底面調整  | 色調    | 備考    |                 |
|-----|-----------|-----|----------|------------|------------|------------|------------|------------|------|-------|-------|-------|-------|-----------------|
| 1   | カマド脇床面    | 土師器 | 環        | B          | -14.2      | -5.8       | 5.0        | 3~6        |      | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい橙  | 内面黒色処理          |
| 2   | 埋土        | 土師器 | 環        | B          | -14.2      | -5.3       | 4.5        | 3~4        |      | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい橙  | 内面黒色処理          |
| 3   | カマド脇床面、埋土 | 土師器 | 環        | B          | -14.7      | -5.2       | 5.0        | 4~5        | 12.3 | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄橙 | 内面黒色処理          |
| 4   | カマド袖上面    | 土師器 | 環        | B          | -14.7      | -5.6       | 4.9        | 3~5        | 60   | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラナデ  | 橙     | 内面黒色処理          |
| 5   | カマド焼部     | 土師器 | 環        | B          | 14.8       |            |            | 4~5        | 50   | ヘラミガキ | ロクロナデ |       | にぶい橙  | 内面黒色処理・<br>金堂部付 |
| 6   | カマド脇床面    | 土師器 | 環        |            | 6.4        |            |            | 8.0        | 100  | ヘラミガキ | ロクロナデ | ヘラケズリ | 灰     | 内外黒色処理・<br>金堂部付 |

| No. | 出土地点          | 種類   | 器種   | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整       | 色調    | 備考                |
|-----|---------------|------|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------------|-------|-------------------|
| 7   | カマド脇床面        | 土師器  | 高台付環 |    |            | -7.9       |            | 6.0        | 100        |       | ヘラミガキ |            | 黒     | 内面黒色処理・高台付環 3.5cm |
| 8   | カマド袖上面        | 土師器  | 環    | B  | 13.3       | 5.5        | 4.3        | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切       | にぶい橙  |                   |
| 9   | 埋土            | 土師器  | 環    | A  | -15.6      | 5.2        | 3.7        | 3~5        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切       | にぶい橙  |                   |
| 10  | カマド燃焼部        | 土師器  | 環    | B  | 13.0       | 5.7        | 4.0        | 3~5        | 65         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切       | にぶい橙  |                   |
| 11  | カマド脇床面        | 土師器  | 環    | B  | -16.1      |            |            | 3~4        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ |            | にぶい橙  |                   |
| 12  | カマド燃焼部        | 土師器  | 環    | B  | -13.2      |            |            | 4.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |            | にぶい橙  |                   |
| 13  | Pit 2         | 土師器  | 環    | B  | 13.3       |            |            | 3.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |            | 灰緑    | 金雲母含む             |
| 14  | 埋土            | 土師器  | 環    | B  | -12.8      |            |            | 2~4        | 12.5       | ロクロナデ | ロクロナデ |            | にぶい橙  |                   |
| 15  | 埋土            | 土師器  | 環    | B  |            | 4.6        |            | 3~4        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切       | 橙     |                   |
| 16  | カマド前床面        | 土師器  | 高台付環 |    |            | 6.5        |            | 4~7        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切・ロクロナデ | 橙     | 内径7.6cm           |
| 17  | カマド脇床面        | 土師器  | 甕    | C  | -22.2      |            |            | 3.0        | 12.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ |            | にぶい黄緑 |                   |
| 18  | カマド脇床面        | 土師器  | 甕    | C  | -16.8      |            |            | 3~5        | 20         | ハケメ   | ヘラケズリ |            | にぶい黄  |                   |
| 19  | カマド脇床面        | 土師器  | 甕    | C  | 23.8       |            |            | 5~9        | 20         | ヘラナデ  | ヘラナデ  |            | にぶい黄  |                   |
| 20  | カマド上部         | あかやぶ | 甕    | B  | -18.6      |            |            | 8.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |            | 明赤褐   |                   |
| 21  | カマド燃焼部、カマド脇床面 | 土師器  | 甕    | B  | -18.0      |            |            | 5~7        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ |            | にぶい黄  |                   |
| 22  | カマド袖上面、埋土     | 土師器  | 甕    | C  |            | 9.6        |            | 6~10       | 17.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木炭灰        | にぶい黄  |                   |
| 23  | 埋土            | 須恵器  | 甕    |    |            |            |            | 7~10       | 15         | ヘラナデ  | タタキメ  |            | 灰     |                   |

#### R A32 [第126図]

| No. | 出土地点        | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考        |
|-----|-------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|------|-----------|
| 1   | 壁床面         | 土師器 | 環  | B  | -13.8      | 6.6        | 4.8        | 3~5        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄 | 内面黒色処理・線刻 |
| 2   | Pit 1       | 土師器 | 環  | B  | -15.4      |            |            | 3~5        | 40         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 橙    |           |
| 3   | Pit 1、2層~床面 | 土師器 | 環  | B  | 13.1       | 5.7        | 4.6        | 3~6        | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄 |           |
| 4   | 2層~床面       | 土師器 | 甕  | C  | -16.8      |            |            | 4~6        |            | ハケメ   | ヘラケズリ |      | 灰黄褐  |           |
| 5   | Pit 2、床面    | 土師器 | 甕  | B  | -16.6      |            |            | 3~5        | 40         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 灰灰   |           |
| 6   | カマド脇床面      | 土師器 | 甕  | B  | -19.5      |            |            | 7~10       | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 橙    |           |

#### R A33 [第129・130図]

| No. | 出土地点          | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調   | 備考     |
|-----|---------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|------|--------|
| 1   | 床面、袖子上面       | 土師器 | 環  | B  | -12.0      |            |            | 3.0        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ |      | 黄    | 内面黒色処理 |
| 2   | カマド脇床面、袖子上面   | 土師器 | 環  | B  | -13.5      | 5.8        | 4.7        | 2~4        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 黄    |        |
| 3   | カマド脇床面        | 土師器 | 環  | B  | 15.4       | 6.2        | 4.9        | 3~5        | 35         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄 |        |
| 4   | カマド脇床面        | 土師器 | 環  | S  | 15.8       | 6.6        | 4.8        | 3~5        | 12.5       | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄 |        |
| 5   | カマド前床面、袖子上面   | 土師器 | 環  | B  | -16.2      | 6.6        | 4.0        | 4~7        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい黄 |        |
| 6   | カマド袖上面        | 土師器 | 環  | B  |            | 5.6        |            | 3~5        | 60         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | 橙    |        |
| 7   | カマド前床面、壁床面    | 土師器 | 環  | B  |            | 4.8        |            | 6.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい橙 |        |
| 8   | Pit 1、袖子上面    | 須恵器 | 環  | B  | -14.4      |            |            | 2~4        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 灰    |        |
| 9   | カマド袖先淵床面      | 土師器 | 甕  | C  | 24.2       |            |            | 3~8        | 30         | ハケメ   | ヘラケズリ |      | 明赤褐  |        |
| 10  | 袖土上面          | 土師器 | 甕  | C  | -12.8      |            |            | 4~6        | 30         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい橙 |        |
| 11  | 2層            | 土師器 | 甕  | C  | -12.1      |            |            | 4~7        | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい黄 |        |
| 12  | 壁床面、袖土上面      | 土師器 | 甕  | A  |            | 8.0        |            | 5~7        | 10         |       | ヘラケズリ | 回転糸切 | にぶい橙 |        |
| 13  | カマド燃焼部、カマド脇床面 | 土師器 | 甕  | A  | -13.8      | 8.4        | 13.0       | 2~6        | 20         |       | ヘラケズリ | 回転糸切 | にぶい黄 |        |
| 14  | カマド燃焼部        | 土師器 | 甕  | B  | -11.2      | 3.6        | 8.6        | 3~6        | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい橙 |        |
| 15  | Pit 1下層       | 土師器 | 甕  | B  | -13.8      |            |            | 4~6        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい黄 |        |
| 16  | カマド脇床面        | 土師器 | 甕  | A  | 21.4       |            |            | 5~7        | 85         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |      | にぶい橙 |        |
| 17  | カマド燃焼部        | 土師器 | 甕  | A  | -26.0      |            |            | 3~7        | 100        | ヘラケズリ | ヘラケズリ |      | にぶい橙 |        |
| 18  | 袖土上面          | 土師器 | 甕  | B  | -15.6      |            |            | 5.0        | 25         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | にぶい黄 |        |
| 19  | カマド袖先淵        | 土師器 | 甕  | B  | 21.2       | 15.0       | 24.7       | 7~11       | 20         |       | ヘラケズリ |      | にぶい橙 |        |

R A 34 [第132図]

| No. | 出土地点       | 種類  | 器種 | 部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整   | 底面調整   | 色調    | 備考     |
|-----|------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|--------|--------|-------|--------|
| 1   | Pit1 上部、埋土 | 土師器 | 坏  | B  | -11.8      | -5.4       | 4.6        | 4~6        |            | ヘラミガキ | 回転ヘラズリ | 回転ヘラズリ | にふい貴輪 | 内面黒色処理 |
| 2   | Pit1 上部    | 土師器 | 坏  | B  |            | 7.0        |            | 3~6        | 40         | ヘラミガキ | ロクロナデ  | 回転糸切   | にふい貴輪 | 内面黒色処理 |
| 3   | 埋土         | 土師器 | 甕  | C  | -16.9      |            |            | 4~5        | 15         | ハケメ?  | ヘラケズリ  |        | にふい貴輪 |        |
| 4   | 埋土         | 土師器 | 甕  | B  | -16.0      |            |            | 5~9        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ  |        | にふい貴輪 |        |

R A 35 [第134図]

| No. | 出土地点 | 種類  | 器種 | 部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考               |
|-----|------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|------------------|
| 1   | 埋土   | 土師器 | 坏  |    |            |            |            | 3.0        | 60         | ヘラミガキ | ロクロナデ |      | にふい貴輪 | 内面黒色処理・<br>金象母含む |
| 2   | 埋土   | 須恵器 | 坏  |    | 14.6       |            |            | 2~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 灰     |                  |

R A 36 [第137図]

| No. | 出土地点                   | 種類  | 器種 | 部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調    | 備考     |
|-----|------------------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|-------|--------|
| 1   | 床面                     | 土師器 | 坏  | B  | 11.5       | 4.8        | 5.5        | 4~6        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ | 灰白    | 内面付着物有 |
| 2   | カマド燃焼部、Pit2、<br>床面     | 土師器 | 甕  | C  | 14.5       | 5.6        | -15.4      | 4~8        | 20         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木炭痕  | にふい貴輪 |        |
| 3   | カマド燃焼部、カマド<br>脚床面、Pit2 | 土師器 | 甕  | C  |            | 7.0        |            | 3~8        |            | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラナデ | 灰     |        |

R A 37 [第141~142図]

| No. | 出土地点                                      | 種類  | 器種 | 部分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整         | 外面調整         | 底面調整           | 色調    | 備考  |
|-----|---|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|--------------|----------------|-------|-----|
| 1   | pit3                                      | 土師器 | 坏  | B  | 14.0       | 5.2        | 5.2        | 4~7        | 5          | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切           | 灰     |     |
| 2   | 1号カマド内脚床面、<br>Pit2                        | 土師器 | 坏  | A  | 13.9       | 5.0        | 5.6        | 3~8        | 100        | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切           | にふい貴輪 |     |
| 3   | 1号カマド燃焼部、<br>R38床面                        | 土師器 | 坏  | B  | -14.1      | 6.0        | 5.5        | 3~8        | 40         | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切           | 灰     |     |
| 4   | 1号カマド燃焼部、1<br>号カマド支脚                      | 土師器 | 坏  | A  | -12.8      |            |            | 4~5        | 100        | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | 灰     |     |
| 5   | pit2、2層                                   | 須恵器 | 坏  |    | -13.8      |            |            | 3~5        | 55         | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | 灰オリーブ |     |
| 6   | 1号カマド付近床面                                 | 須恵器 | 坏  |    | -14.0      |            |            | 4~5        | 40         | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | 灰     |     |
| 7   | 1号カマド付近埋土下位                               | 須恵器 | 坏  |    | -14.0      | 5.0        | 5.0        | 4~7        | 47.5       | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切           | 灰     |     |
| 8   | pit2                                      | 須恵器 | 坏  |    | -13.5      |            |            | 3~5        | 25         | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | 灰オリーブ |     |
| 9   | 2層  | 須恵器 | 坏  |    |            | 6.0        |            | 4~7        | 15         | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切           | 灰オリーブ |     |
| 10  | 北カマド西袖外側、pit4                             | 土師器 | 甕  | C  |            |            |            | 3~6        | 15         | ハケメ          | ヘラケズリ        |                | 灰     |     |
| 11  | 床面  | 土師器 | 甕  | C  |            | 10.0       |            | 3~5        | 100        | ハケメ          | ヘラケズリ        | ヘラナデ           | 灰     |     |
| 12  | 床面  | 土師器 | 甕  | C  |            | -12.4      |            | 8~10       | 50         | ハケメ          | ヘラケズリ        | 砂底             | にふい貴輪 |     |
| 13  | 1号カマド燃焼部                                  | 土師器 | 甕  | C  | -20.8      |            |            | 8~6        | 100        | ヘラナデ、<br>ハケメ | ヘラケズリ        |                | 灰     |     |
| 14  | 1号カマド支脚                                   | 土師器 | 甕  | C  |            | 9.1        |            | 4~7        | 5          | ハケメ          | ヘラケズリ        | 砂底・木炭痕         | 赤黒    |     |
| 15  | 2層  | 土師器 | 甕  | B  | -14.6      |            |            | 5~6        | 20         | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | にふい貴輪 |     |
| 16  | 1号カマド東床面                                  | 土師器 | 甕  | C  |            | -9.4       |            | 6.0        | 30         | ロクロナデ        | ロクロナデ        |                | 灰・木炭痕 | 明赤黒 |
| 17  | 1号カマド袖石上面                                 | 土師器 | 坏  | A  |            | 5.6        |            | 3~7        | 15         | ロクロナデ        | ロクロナデ        | 回転糸切、<br>丹ヘラズリ | 明赤黒   |     |
| 18  | 1号カマド西袖・燃焼<br>部、床面                        | 土師器 | 甕  | A  |            |            |            | 3~6        | 100        | ヘラナデ         | ヘラケズリ        |                | 灰     |     |
| 19  | 2号カマド内袖・燃焼<br>部                           | 土師器 | 甕  | A  |            | -9.4       |            | 8.0        | 5          |              | ヘラケズリ        |                | 灰     |     |
| 20  | 1号カマド燃焼部、<br>Pit4 上部、床面 R A<br>38 - No.21 | 土師器 | 甕  | C  | 19.7       | 9.8        | 31.3       | 4~7        | 60         | ハケメ          | ハケメ・<br>ラケズリ | 木炭痕<br>(葉2枚)   | 浅黄緑   |     |
| 21  | 1号カマド東袖・燃焼<br>部、1号カマド周辺                   | 土師器 | 甕  | A  | -22.8      | 11.0       | 33.2       | 5~18       | 47.5       |              | ヘラケズリ        | 砂底             | 浅黄緑   |     |

## R A 38 【第145図】

| No. | 出土地点         | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調査  | 外面調査  | 底面調査    | 色調     | 備考     |
|-----|--------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------|--------|--------|
| 1   | Pit 4        | 土師器 | 環  | A  | 13.3       | 5.8        | 4.9        | 4~7        |            | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切    | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理 |
| 2   | Pit 3, Pit 4 | 土師器 | 環  | A  | 13.0       |            |            | 4.0        | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ |         | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理 |
| 3   | Pit 4        | 土師器 | 環  | B  | 16.4       | 9.0        | 4.5        | 4~6        | 95         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 手持ヘラケズリ | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理 |
| 4   | Pit 1        | 須恵器 | 環  |    | 15.0       |            |            | 4~5        | 75         | ロクロナデ | ロクロナデ |         | 灰      |        |
| 5   | Pit 4        | 須恵器 | 環  |    |            |            |            | 3~4        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |         | 灰      |        |
| 6   | Pit 4        | 須恵器 | 環  |    |            |            |            | 3~4        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ |         | 灰黄褐色   |        |
| 7   | 床面           | 須恵器 | 環  |    |            |            |            | 3.0        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切    | 灰      |        |
| 8   | 床面           | 土師器 | 甕  | A  | 18.0       |            |            | 5~8        | 25         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |         | 緑      |        |
| 9   | I 留          | 須恵器 | 甕  |    |            | -14.5      |            | 12~19      | 10         | ヘラナデ  | タタキメ  |         |        |        |

## R A 39 【第151~152図】

| No. | 出土地点                  | 種類  | 器種       | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調査  | 外面調査  | 底面調査           | 色調     | 備考                  |
|-----|-----------------------|-----|----------|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|----------------|--------|---------------------|
| 1   | 遺構検出面                 | 土師器 | 環        | A  | 14.6       | 6.4        | 7.2        | 3~6        | 5          | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切           | 浅黄褐色   | 内面黒色処理・<br>鍍金付      |
| 2   | pit3                  | 土師器 | 環        | A  | 13.4       | 6.4        | 4.6        | 2~6        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切           | にぶい緑   | 内面黒色処理・<br>鍍金付含む    |
| 3   | 床面                    | 土師器 | 環        | A  |            | 6.4        |            | 2~7        | 22.5       | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切           | 緑      | 内面黒色処理              |
| 4   | 埋上                    | 土師器 | 環        |    |            | 6.0        |            | 3~5        | 20         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切           | 緑      | 内面黒色処理              |
| 5   | 床面                    | 土師器 | 高台<br>付環 | A  | 14.6       | 6.7        | 6.0        | 3~6        | 100        | ヘラミガキ | ロクロナデ | 指オサエ<br>ロクロナデ  | にぶい緑   | 内面黒色処理・<br>台座径4.5cm |
| 6   | 埋上                    | 土師器 | 環        |    |            | 5.1        |            | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切           | 赤褐色    |                     |
| 7   | I号カマド                 | 土師器 | 環        | A  | 13.0       |            |            | 2~4        | 50         | ロクロナデ | ロクロナデ |                | にぶい黄褐色 |                     |
| 8   | 床面                    | 土師器 | 環        |    |            | 5.9        |            | 4~5        | 65         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切           | 緑      |                     |
| 9   | 3号カマド周辺盛り土            | 土師器 | 環        |    |            | 5.4        |            | 3~5        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ           | にぶい黄褐色 | 鍍金付含む               |
| 10  | 埋上                    | 土師器 | 甕        | C  | 20.6       |            |            | 2~5        | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |                | 緑      |                     |
| 11  | 埋上、床、I号カマド、<br>R002床面 | 土師器 | 甕        | C  | 12.8       | 7.2        | 12.5       | 6~8        | 12.5       | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラナデ           | 黄褐色    |                     |
| 12  | 埋上                    | 土師器 | 甕        | C  | 13.0       |            |            | 6~7        | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ |                | 黄褐色    |                     |
| 13  | pit3, I号カマド、床面        | 土師器 | 甕        | C  |            | 12.5       |            | 6~14       | 100        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木蓋・ヘラ<br>ナデ    | にぶい緑   |                     |
| 14  | 埋上                    | 土師器 | 甕        | B  |            |            |            | 4~6        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |                | にぶい黄褐色 |                     |
| 15  | pit10                 | 土師器 | 甕        | A  | 15.4       |            |            | 3~5        | 100        |       | ヘラケズリ |                | にぶい緑   |                     |
| 16  | 2号カマド底面               | 土師器 | 甕        | B  | 13.3       | 6.6        | 12.2       | 4~7        | 20         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切           | にぶい黄褐色 |                     |
| 17  | 遺構検出面                 | 須恵器 | 甕        |    |            |            |            | 6~10       | 85         | ロクロナデ | ロクロナデ |                | 黒褐色    |                     |
| 18  | pit8                  | 須恵器 | 甕        | A  |            | -7.4       |            | 6~9        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切           | 灰      |                     |
| 19  | 埋上                    | 須恵器 | 甕        | B  |            | 9.2        |            | 5~7        | 20         |       | ヘラケズリ |                | 灰      |                     |
| 20  | 粘土                    | 須恵器 | 甕        |    |            | -12.2      |            | 13.0       | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ・<br>ヘラケズリ | 灰      |                     |
| 21  | 埋上                    | 須恵器 | 甕        | A  | 19.9       |            |            | 5~8        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ |                | 灰      |                     |
| 22  | 床面                    | 須恵器 | 甕        |    |            |            |            | 6~11       | 5          | タタキメ  | タタキメ  |                | 灰      |                     |
| 23  | I号カマド袖1階、床面           | 須恵器 | 甕        |    |            |            |            | 7~9        | 5          | タタキメ  | タタキメ  |                | にぶい黄褐色 |                     |
| 24  | pit10                 | 須恵器 | 甕        |    |            |            |            | 11~12      | 5          | ヘラナデ  | タタキメ  |                | 灰白     |                     |
| 25  | 床面                    | 須恵器 | 甕        |    |            |            |            | 5~7        |            | ヘラナデ  | タタキメ  |                | オリーブ黒  |                     |

## R B 02 - 04 【第171図】

| No. | 出土地点         | 種類  | 器種 | 細分 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調査  | 外面調査  | 底面調査 | 色調     | 備考     |
|-----|--------------|-----|----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|--------|--------|
| 1   | R002 - I埋上上部 | 須恵器 | 環  | A  | 13.2       |            |            | 4~3        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |      | オリーブ黒  |        |
| 2   | R004-P2      | 土師器 | 環  | B  | 12.2       |            |            | 4.0        |            | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい黄褐色 | 内面黒色処理 |
| 3   | R004-P6      | 土師器 | 環  |    |            | 5.4        |            | 5~6        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 明黄褐色   |        |
| 4   | R004 P5      | 須恵器 | 環  |    |            |            |            | 4~5        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 灰白     |        |
| 5   | R004-P3      | 土師器 | 甕  | C  |            |            |            | 3~9        | 7.5        | ハケメ   | ヘラケズリ |      | にぶい黄褐色 |        |

土坑出土土器【第172～177図】

| No. | 出土地点                     | 種類  | 形状   | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 胴高 (cm) | 器厚 (cm) | 内容率 (%) | 内面調整    | 外面調整      | 底部調整  | 色調    | 備考               |                  |
|-----|--------------------------|-----|------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|-------|-------|------------------|------------------|
| 1   | RD01底面                   | 土師器 | 坏    |         |         |         | 3.0     | 10      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | 浅黄褐色  | 内面黒色処理           |                  |
| 2   | RD01底面                   | 土師器 | 甕    | C       | -19.8   |         | 5-6     | 10      | ハケメ     | ヘラケズリ     |       | にぶい橙  |                  |                  |
| 3   | RD05坑土上面                 | 土師器 | 坏    | A       | 14.0    | 5.8     | 4.5     | 3-5     | 2.5     | ヘラミガキ     | ロクロナデ | 回転糸切  | 橙                | 内面黒色処理・<br>赤黄緑含む |
| 4   | RD05埋土                   | 土師器 | 坏    |         | -5.1    |         | 3-7     | 5       | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | にぶい橙  | 内面黒色処理           |                  |
| 5   | RD05埋土                   | 土師器 | 甕    | A       | -11.6   |         |         | 6.0     | 7.5     | ロクロナデ     | ロクロナデ |       | 橙                |                  |
| 6   | RD05埋土                   | 須恵器 | 甕    |         |         |         | 10-16   | 15      | 当て具痕    | タタキメ      |       | 灰     |                  |                  |
| 7   | RD07埋土                   | 土師器 | 甕    | C       |         |         | 3-7     | 100     | ヘラナデ    | ヘラナデ      |       | にぶい黄緑 |                  |                  |
| 8   | RD10-1・2層                | 土師器 | 坏    | A       | -13.8   |         |         | 2-5     | 50      | ロクロナデ     | ロクロナデ |       | 黄緑               |                  |
| 9   | RD10-1・2層                | 土師器 | 高台付坏 |         | 6.4     |         | 4-9     | 10      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | にぶい黄緑 | 片厚7.4cm          |                  |
| 10  | RD10-1・2層                | 須恵器 | 坏    |         |         |         | 4.0     |         | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | 灰     |                  |                  |
| 11  | RD10, RD15, RD21, RD29埋土 | 土師器 | 甕    | B       | 16.5    | 7.8     | 23.0    | 5-9     | 10      | ヘラナデ      | ヘラケズリ | ヘラナデ  | 橙                |                  |
| 12  | RD11坑土上面                 | 土師器 | 坏    | A       | 16.0    |         |         | 4-6     | 10      | ロクロナデ     | ロクロナデ |       | 黄緑               |                  |
| 13  | RD12埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | -15.2   |         | 3.0     | 25      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | 黄緑    | 内面黒色処理・<br>赤黄緑含む |                  |
| 14  | RD12埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | -7.4    |         | 3-7     | 2.5     | ヘラミガキ   | ロクロナデ     | 回転糸切  | にぶい黄緑 | 内面黒色処理           |                  |
| 15  | RD12埋土                   | あかや | 坏    | A       |         |         | 2-4     | 35      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | にぶい黄緑 | 内面黒色処理           |                  |
| 16  | RD13-1層                  | 土師器 | 甕    | B       | -9.0    |         | 2-5     | 7.5     | 手摺ヘラケズリ | ハケメ・ヘラナデ  |       | 黄緑    |                  |                  |
| 17  | RD12埋土, RD15埋土上面         | 土師器 | 甕    | C       |         |         |         | 10      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | にぶい黄緑 |                  |                  |
| 18  | RD16埋土                   | 土師器 | 坏    |         | -13.4   |         | 4.0     | 35      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | にぶい橙  | 内面黒色処理           |                  |
| 19  | RD16埋土                   | 土師器 | 甕    | C       | -14.7   |         | 3-7     | 10      | ヘラナデ    | ヘラケズリ     |       | 橙     |                  |                  |
| 20  | RD17-2・3層                | 須恵器 | 坏    | A       | 12.4    |         | 3-4     | 100     | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | 灰     |                  |                  |
| 21  | RD19埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | -14.0   |         | 4.0     |         | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | にぶい橙  |                  |                  |
| 22  | RD19埋土                   | 土師器 | 甕    | C       | -13.2   |         | 4.0     | 15      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | 黄緑    |                  |                  |
| 23  | RD19埋土                   | 土師器 | 甕    | C       |         | -11.7   | 9-10    | 10      | ヘラナデ    | ヘラケズリ     | 砂底    | にぶい橙  |                  |                  |
| 24  | RD19埋土                   | 土師器 | 甕    | C       |         | 11.2    | 4-9     | 15      | ヘラナデ    | ヘラケズリ     |       | にぶい黄  |                  |                  |
| 25  | RD19埋土                   | 土師器 | 甕    | C       |         | -10.6   | 8-10    | 10      | ヘラナデ    | ヘラケズリ     |       | にぶい黄緑 |                  |                  |
| 26  | RD21-5層                  | 土師器 | 坏    |         | 6.0     |         | 5-8     | 50      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     | 回転糸切  | にぶい黄緑 | 内面黒色処理・<br>赤黄緑含む |                  |
| 27  | RD21-1層                  | 土師器 | 高台付坏 | B       | -14.0   | -6.0    | 3-10    | 15      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     | ロクロナデ | にぶい黄緑 | 内面黒色処理・<br>黄緑・黄  |                  |
| 28  | RD21埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | -12.7   | -5.0    | 4.7     | 4-8     | 55      | ロクロナデ     | ロクロナデ | 回転糸切  | にぶい黄緑            |                  |
| 29  | RD21底面                   | 土師器 | 坏    | A       | 14.1    | 4.8     | 4.8     | 3-6     | 85      | ロクロナデ     | ロクロナデ |       | 橙                |                  |
| 30  | RD21埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | 13.6    |         | 3-4     | 50      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | にぶい橙  |                  |                  |
| 31  | RD21底面                   | 土師器 | 甕    | C       | -18.6   |         | 4-7     | 100     | ヘラナデ    | ヘラナデ      |       | にぶい橙  |                  |                  |
| 32  | RD21-5層                  | 土師器 | 甕    | A       | -20.2   |         | 6-8     | 100     | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | 橙     |                  |                  |
| 33  | RD22埋土                   | 土師器 | 坏    |         | -13.0   |         | 3-6     | 15      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     |       | にぶい黄緑 | 内面黒色処理           |                  |
| 34  | RD22埋土                   | 土師器 | 坏    | B       | 12.1    | -5.0    | 4.0     | 4-7     | 100     | ロクロナデ     | ロクロナデ | 回転糸切  | 浅黄褐色             |                  |
| 35  | RD22埋土下部                 | 土師器 | 坏    |         | -14.0   |         | 4.0     | 20      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | 浅黄緑   |                  |                  |
| 36  | RD22埋土                   | 土師器 | 坏    |         | 6.0     |         | 3-6     | 17.5    | ヘラミガキ   | ロクロナデ     | 回転糸切  | にぶい橙  | 内面黒色処理・<br>赤黄緑含む |                  |
| 37  | RD22埋土                   | 土師器 | 高台付坏 |         |         |         | 5-6     | 45      | ヘラミガキ   | ロクロナデ     | 指オサエ  | 灰     | 内面黒色処理・<br>赤黄緑含む |                  |
| 38  | RD22埋土                   | 土師器 | 坏    | A       | -15.0   |         | 4-5     | 10      | ロクロナデ   | ロクロナデ     |       | にぶい橙  |                  |                  |
| 39  | RD22埋土                   | 土師器 | 坏    | A       | -13.6   | 6.2     | 5.0     | 3-7     | 10      | ロクロナデ     | ロクロナデ | ヘラケズリ | にぶい黄緑            |                  |
| 40  | RD22埋土                   | 土師器 | 甕    | C       | -19.4   |         | 3-6     | 25      | ヘラナデ    | ヘラナデ      |       | にぶい黄緑 |                  |                  |
| 41  | RD22埋土                   | 土師器 | 甕    | C       | -1.8    |         | 6.0     | 100     | ハケメ     | ヘラナデ      |       | 橙     |                  |                  |
| 42  | RD22埋土, RD19埋土           | 土師器 | 甕    | C       | 16.7    |         | 4-5     | 25      | ヘラナデ    | ヘラナデ      |       | 橙     |                  |                  |
| 43  | RD22埋土上部                 | 土師器 | 甕    | C       | 20.6    |         | 4-9     | 100     | ハケメ     | ハケメ・ヘラケズリ |       | 橙     |                  |                  |
| 44  | RD26埋土                   | 土師器 | 甕    | C       |         |         | 5-6     | 10      | ヘラナデ    | ヘラケズリ     |       | にぶい黄緑 |                  |                  |

| No. | 出土地点       | 種類  | 器種   | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整          | 色調     | 備考                          |
|-----|------------|-----|------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------------|--------|-----------------------------|
| 45  | R D 30埋土   | 土師器 | 坏 B  | 14.0       |            |            | 3~4        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理                      |
| 46  | R D 31埋土上層 | 土師器 | 甕 C  | -21.0      |            |            | 3~8        | 15         | ハケメ   | ハケメ   |               | 橙      |                             |
| 47  | R D 31埋土上部 | 土師器 | 甕 A  | -15.8      |            |            | 7~10       | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  | 金室母倉む                       |
| 48  | R D 31埋土上部 | 土師器 | 甕 A  | 18.2       |            |            | 6~9        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |
| 49  | R D 33埋土   | 土師器 | 坏 B  | -16.5      |            | 3.8        | 4~6        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理・<br>金室母倉む            |
| 50  | R D 33埋土   | 土師器 | 坏 A  | -14.0      |            |            | 3~4        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 橙      |                             |
| 51  | R D 33埋土   | 土師器 | 甕 C  | -21.6      |            |            | 4~7        | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |               | 黒褐     |                             |
| 52  | R D 33埋土   | 土師器 | 甕 C  |            |            |            | 5~9        | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |               | にぶい・赤褐 |                             |
| 53  | R D 33埋土   | 土師器 | 甕 C  |            | -12.6      |            | 9~11       | 40         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ         | 黒褐     |                             |
| 34  | R D 34埋土   | 土師器 | 坏 B  | 15.2       |            |            | 3.0        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理・<br>金室母倉む            |
| 35  | R D 36埋土   | 土師器 | 甕    |            |            |            | 8.0        | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 橙      |                             |
| 56  | R D 36埋土   | 土師器 | 甕 A  | -19.0      |            |            | 3~8        |            | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |
| 57  | R D 38埋土   | 酒器類 | 坏 A  | -14.6      |            |            | 3~5        | 10         | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 灰      |                             |
| 58  | R D 38埋土   | 土師器 | 甕 C  |            |            |            | 3~7        | 10         | ヘラナデ  | ヘラナデ  |               | にぶい・橙  |                             |
| 59  | R D 38埋土   | 土師器 | 甕    |            |            |            | 4~10       | 2.5        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |
| 60  | R D 40埋土   | 土師器 | 甕 C  |            |            |            | 7~12       | 2.5        | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉痕           | にぶい・橙  |                             |
| 61  | R D 41焼土下位 | 土師器 | 坏 A  | 13.8       |            |            | 3~5        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  | 内面黒色処理                      |
| 62  | R D 41埋土   | 須恵器 | 坏    |            |            |            | 3~4        | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 灰黄褐    |                             |
| 63  | R D 41埋土   | 須恵器 | 坏    |            | 5.0        |            | 3~10       |            | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切・<br>ヘラナデ | 灰黄褐    |                             |
| 64  | R D 41埋土   | 土師器 | 甕 C  |            |            |            | 4~6        | 10         | ヘラナデ  | ヘラナデ  |               | にぶい・橙  |                             |
| 65  | R D 41埋土   | 土師器 | 甕 C  |            | -12.8      |            | 6~10       | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ |               | にぶい・橙  |                             |
| 66  | R D 42埋土   | 土師器 | 坏    |            |            |            | 2~3        | 7.5        | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | 黄褐     | 内面黒色処理・<br>口縁部灰褐色・<br>金室母倉む |
| 67  | R D 42埋土   | 土師器 | 坏 A  | -15.0      | 6.4        | 5.6        | 3~6        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ヘラナデ          | 橙      |                             |
| 68  | R D 42埋土   | 土師器 | 甕    |            |            |            | 4~6        | 10         | ハケメ   | ヘラケズリ |               | にぶい・橙  |                             |
| 69  | R D 47埋土   | 土師器 | 坏 B  | -15.0      |            |            | 4.0        | 30         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | 灰褐     | 内面黒色処理・<br>金室母倉む            |
| 70  | R D 47埋土   | 土師器 | 坏    |            | -5.0       |            | 4.0        | 10         | ヘラミガキ | ロクロナデ | 手持ヘラケズリ       | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理                      |
| 71  | R D 47埋土   | 土師器 | 高台付坏 |            | -7.0       |            | 7.0        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ | ロクロナデ         | 橙      | 台座径 8.3cm                   |
| 72  | R D 47埋土   | 土師器 | 甕 C  | -18.0      |            |            | 2~7        | 5          | ヘラナデ  | ヘラケズリ |               | 橙      |                             |
| 73  | R D 48埋土   | 土師器 | 甕 C  |            |            |            | 4~5        | 15         | ヘラナデ  | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |
| 74  | R D 48埋土   | 土師器 | 甕 C  |            | -9.3       |            | 5~11       | 50         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | ヘラケズリ         | にぶい・橙  |                             |
| 75  | R D 48埋土   | 土師器 | 甕 C  | 15.6       |            |            | 4~6        | 50         | ハケメ   | ヘラケズリ |               | にぶい・黄緑 |                             |
| 76  | R D 50-1 煎 | 土師器 | 坏 B  | -13.6      |            |            | 3~4        | 15         | ヘラミガキ | ロクロナデ |               | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理・<br>金室母倉む            |
| 77  | R D 50埋土   | 土師器 | 甕 C  |            | 7.6        |            | 5~7        | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉痕           | 暗赤褐    |                             |
| 78  | R D 52埋土   | 土師器 | 甕 C  | 13.4       |            |            | 6.0        | 25         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉痕           | 暗赤褐    |                             |
| 79  | R D 52埋土   | 土師器 | 甕    |            | -5.3       |            | 20         | ロクロナデ      | ロクロナデ | 回転糸切  |               | にぶい・橙  |                             |
| 80  | R D 52埋土   | 酒器類 | 甕    | -21.0      |            |            | 6~9        | 2.5        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 黒      |                             |
| 81  | R D 65埋土   | 須恵器 | 甕 B  |            |            |            | 4~7        | 100        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |
| 82  | R D 85底面   | 土師器 | 甕 C  |            | -10.5      |            | 12.0       | 10         | ヘラナデ  | ヘラケズリ | 木葉痕・ヘラ<br>ナデ  | にぶい・橙  |                             |
| 83  | R D 85埋土   | 土師器 | 甕    |            |            |            | 5~7        | 15         | ロクロナデ | ロクロナデ | 回転糸切          | にぶい・橙  | 台座径 7.0cm                   |
| 84  | R D 85埋土   | 須恵器 | 甕    |            |            |            | 7~11       | 7.5        | ロクロナデ | ロクロナデ |               | にぶい・橙  |                             |

甕穴状遺構出土土器【第183図】

| No. | 出土地点              | 種類  | 器種 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整 | 色調     | 備考     |
|-----|-------------------|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|------|--------|--------|
| 1   | R E 01埋土・R E 02埋土 | 土師器 | 坏  |            | 5.0        |            | 6.0        |            | ヘラミガキ | ロクロナデ | 回転糸切 | にぶい・黄緑 | 内面黒色処理 |
| 2   | R F 03埋土          | 土師器 | 甕  |            |            |            | 4~6        | 45         | ロクロナデ | ロクロナデ |      | 橙      |        |

焼土遺構出土土器【第185図】

| No. | 出土地点            | 種類  | 器種   | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整 | 底面調整  | 色調        | 備考       |
|-----|-----------------|-----|------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|------|-------|-----------|----------|
| 1   | R F01検出面        | 土師器 | 坏    |            | -7.0       |            | 4~7        | 30         | ヘラミガキ |      | 回転糸切  | にぶい橙      | 内面黒色処理   |
| 2   | R F01検出面        | 土師器 | 坏    | A          | 12.6       | 4.5        | 3.3        | 4~6        | 100   |      | 回転糸切  | にぶい橙      |          |
| 3   | R F01検出面        | 土師器 | 坏    | A          | -15.1      |            |            | 4~5        | 15    |      |       | 橙         |          |
| 4   | R F01検出面        | 土師器 | 坏    | B          | -14.4      |            |            | 4~5        | 15    |      |       | にぶい黄橙     |          |
| 5   | R F01検出面        | 土師器 | 高台付坏 |            | -7.0       |            |            | 4~8        | 90    |      |       | にぶい橙      | 台器径8.6cm |
| 6   | R F01           | 土師器 | 高台付坏 |            | -7.2       |            |            | 7.0        | 55    |      | ロクロナデ | 橙         | 台器径8.2cm |
| 7   | R F01検出面        | 土師器 | 甕    | C          |            | 12.8       |            | 8~9        | 50    | ハケメ  | ヘラケズリ | 水磨肌・ヘラケズリ | にぶい橙     |
| 8   | R F01検出面        | 土師器 | 甕    | C          |            | -11.1      |            | 10.0       | 25    | ヘラナデ | ヘラケズリ | 水磨肌・ヘラナデ  | 黒褐       |
| 9   | R F01・RD21上層検出面 | 土師器 | 甕    | C          | -18.4      |            |            | 5~7        | 15    | ヘラナデ | ヘラナデ  |           | 暗赤褐      |

溝跡出土土器【第188図】

| No. | 出土地点     | 種類  | 器種 | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整          | 色調   | 備考     |
|-----|----------|-----|----|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|---------------|------|--------|
| 1   | RC68埋土   | 土師器 | 甕  |            | -7.4       |            | 5.0        | 30         | ヘラミガキ |       | ヘラナデ          | にぶい橙 | 内面黒色処理 |
| 2   | RC68ベルト  | 土師器 | 甕  |            | -8.0       |            | 5.0        | 45         | ハケメ   |       | 水磨肌           | にぶい橙 |        |
| 3   | RC68埋土上部 | 須恵器 | 甕  | A          |            |            | 5.0        |            |       | タタキメ  |               | 灰    |        |
| 4   | RC68埋土   | 須恵器 | 甕  | B          | 15.4       | 12.0       | 30.3       | 4~10       | 50    | ヘラナデ  | タタキメ<br>ヘラケズリ | タタキメ | 灰      |
| 5   | RC10埋土上部 | 須恵器 | 甕  |            |            |            | 7~12       |            | ロクロナデ | ロクロナデ |               | 黒    |        |

遺構外出土土器【第194図】

| No. | 出土地点        | 種類  | 器種   | 口径<br>(cm) | 底径<br>(cm) | 器高<br>(cm) | 器厚<br>(cm) | 残存率<br>(%) | 内面調整  | 外面調整  | 底面調整  | 色調 | 備考     |
|-----|-------------|-----|------|------------|------------|------------|------------|------------|-------|-------|-------|----|--------|
| 8   | 3Eグリッド埋土層上面 | 土師器 | 坏    | A          | -14.5      | 4.8        | 5.3        | 4~6        | 40    | ロクロナデ | ヘラケズリ | 橙  |        |
| 9   | 3EグリッドI層    | 土師器 | 高台付坏 |            | -6.0       |            |            |            | 50    |       | ロクロナデ | 浅橙 |        |
| 10  | 11グリッドII層   | 土師器 | 甕    | C          |            |            | 5.0        | 10         | ヘラナデ  |       | 水磨肌   | 赤褐 | 内面黒色処理 |
| 11  | 11グリッドI層    | 須恵器 | 坏    | A          | -12.3      |            | 5.0        | 5          | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰褐 |        |
| 12  | 21グリッドI層    | 須恵器 | 甕    |            |            |            | 6~8        |            | ヘラナデ  | タタキメ  |       | 灰  |        |
| 13  | 21グリッドII層   | 須恵器 | 甕    |            |            |            | 6.0        |            | ヘラナデ  | ヘラケズリ |       | 灰  |        |
| 14  | 11グリッドII層   | 須恵器 | 甕    | A          | 11.8       |            | 4~5        | 17.5       | ロクロナデ | ロクロナデ |       | 灰  |        |
| 15  | 11グリッドII層   | 須恵器 | 甕    |            |            |            | 5~12       | 15         |       |       |       | 黒  |        |

第7表 石籍・石製品観察表

| 遺構名   | 相模No. | 出土地点       | 岩種         | 特徴                     | 計測値 (cm)        | 重量 (g)  | 石材    | 登録No. |
|-------|-------|------------|------------|------------------------|-----------------|---------|-------|-------|
| RA03  | 2     | カマド床 (芯材)  | 礫石         | 2面磨滅                   | 長12.9幅8.5厚6.8   | 970.0   | 安山岩   | 118   |
| RA04  | 19    | 北壁床表面      | 台石         | 平坦面敲打痕散在 破損品<br>片状砥石か? | 長42.5幅19.8厚11.9 | 4540.0  | 玄武岩   | 120   |
| RA05  | 16    | 北壁外側       | 不定形<br>石版  | 割縁に両面からの二次加工           | 長5.7幅4.7厚1.7    | 53.0    | 頁岩    | 161   |
| RA05  | 17    | Pit3       | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長8.8幅8.0厚4.1    | 180.0   | 玄武岩   | 122   |
| RA05  | 18    | 西側床面       | 砥石         | 荒砥 砥面6面                | 長12.1幅8.3厚6.4   | 260.0   | 玄武岩   | 121   |
| RA09  | 33    | 1号カマド煙出    | 磨石         | 2面磨滅                   | 長10.3幅8.9厚3.4   | 540.0   | 安山岩   | 124   |
| RA10  | 37    | 1号カマド煙出    | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長19.7幅16.2厚7.1  | 989.0   | 玄武岩   | 127   |
| RA10  | 38    | 埋土中層       | 磨石         | 2面磨滅                   | 長12.7幅6.3厚4.2   | 540.0   | 安山岩   | 128   |
| RA10  | 39    | 埋土中層       | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長10.9幅8.9厚6.2   | 380.0   | 玄武岩   | 130   |
| RA10  | 40    | 2号カマド煙道    | 砥石         | 荒砥 砥面中に溝形成             | 長30.0幅14.9厚6.7  | 1120.0  | 玄武岩   | 126   |
| RA10  | 41    | 埋土中層       | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長18.0幅12.3厚4.9  | 500.0   | 玄武岩   | 123   |
| RA11  | 10    | カマド支脚      | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長13.5幅13.5厚7.0  | 840.0   | 玄武岩   | 131   |
| RA11  | 11    | 埋土         | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長7.4幅7.0厚1.8    | 128.0   | 石英安山岩 | 106   |
| RA11  | 12    | 埋土         | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長8.1幅6.8厚1.8    | 122.0   | 花崗閃長岩 | 110   |
| RA11  | 13    | カマド袖上面     | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長7.9幅8.3厚1.2    | 120.0   | 石英安山岩 | 108   |
| RA11  | 14    | カマド煙道埋土    | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長6.0幅8.2厚1.7    | 128.0   | 砂岩    | 169   |
| RA11  | 15    | 埋土         | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長5.9幅6.8厚1.8    | 76.0    | 凝灰岩   | 107   |
| RA11  | 16    | 2層         | 石版         | 平基無差 欠陥欠損              | 長3.8幅1.8厚0.8    | 4.5     | 頁岩    | 103   |
| RA13  | 11    | 埋土         | 石錐         | 両端敲打割縁                 | 長9.4幅7.4厚1.8    | 105.0   | 凝灰岩   | 111   |
| RA14  | 28    | Pit3       | 砥石         | 仕上げ 中央部折れ              | 長7.9幅5.2厚2.7    | 163.0   | 凝灰岩   | 112   |
| RA14  | 29    | 床面         | 磨石         | 扁平片状面の両面研磨痕            | 長12.7幅2.1厚1.2   | 70.5    | 頁岩    | 114   |
| RA14  | 31    | 床面         | 砥石         | 荒砥 砥面中に溝形成             | 長15.5幅12.0厚11.0 | 1470.0  | 玄武岩   | 132   |
| RA15  | 28    | 北壁床表面      | 砥石         | 荒砥 両面・側縁両面             | 長46.2幅37.5厚19.0 | 19000.0 | 玄武岩   | 134   |
| RA15  | 29    | 埋土下層       | 砥石         | 荒砥                     | 長8.0幅6.2厚6.3    | 200.0   | 玄武岩   | 133   |
| RA15  | 30    | 埋土下層       | 石錐         | 両端敲打割縁 片面割縁            | 長6.1幅7.4厚2.2    | 80.1    | 頁岩    | 149   |
| RA15  | 31    | 北側貼床下      | 石錐         | 両端敲打割縁 片面割縁            | 長8.5幅5.7厚1.0    | 77.9    | 砂岩    | 148   |
| RA15  | 32    | 埋土下層       | 石核         | 両面敲打使用 片面自然面           | 長6.0幅5.4厚2.5    | 84.2    | 頁岩    | 141   |
| RA16  | 23    | 1号カマド燃焼部   | 磨石         | 平坦面敲打痕散在               | 長14.8幅9.8厚4.9   | 700.0   | 安山岩   | 136   |
| RA18  | 18    | 東壁床表面      | 台石         | 平州面磨滅                  | 長46.8幅20.6厚12.3 | 920.0   | 安山岩   | 138   |
| RA18  | 19    | 東壁床        | 磨石         | 平坦面磨滅                  | 長16.8幅16.5厚5.1  | 1640.0  | 石英安山岩 | 137   |
| RA21  | 17    | 1号カマド石袖外側  | 砥石         | 仕上げ 中央から破損<br>擦痕あり     | 長11.3幅8.0厚6.2   | 640.0   | 砂岩    | 115   |
| RA22  | 13    | 埋土中層       | 磨石         | 1面研磨痕・線状痕              | 長13.3幅8.5厚2.2   | 115.0   | 頁岩    | 37    |
| RA29  | 44    | 床面         | 磨石         | 平坦面磨滅                  | 長6.9幅5.1厚1.2    | 30.1    | 凝灰岩   | 150   |
| RA37  | 22    | 2号カマド燃焼部   | 石核         | 1割縁を打面にし複数面の割縁         | 長7.8幅7.6厚4.9    | 333.6   | 頁岩    | 202   |
| RA37  | 23    |            | 砥石         | 仕上げ 破損品                | 長5.0幅7.1厚2.5    | 166.5   | 凝灰岩   | 206   |
| RA38  | 10    | カマド前床面     | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長6.5幅5.5厚2.5    | 36.2    | 玄武岩   | 207   |
| RA39  | 26    | Pit3       | 砥石         | 荒砥 砥面中に溝形成<br>破損品      | 長12.0幅14.5厚11.0 | 1415.0  | 玄武岩   | 209   |
| RA39  | 27    | Pit3       | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長16.5幅9.5厚4.5   | 435.0   | 玄武岩   | 208   |
| RD104 | 84    | RD104 底面   | 割片         | 割縁末端に微細割縁痕             | 長5.9幅6.1厚1.5    | 26.5    | 頁岩    | 201   |
| RD118 | 85    | RD118 上部側壁 | 石臼         | 臼臼 1/4残存               | 径指定28.5厚10      | 2920.0  | 玄武岩   | 210   |
| RE05  | 3     | RE05 埋土    | 円盤状<br>石製品 | 扁平棒の両縁側縁盤形             | 長6.5幅6.5厚1.3    | 83.0    | 砂岩    | 203   |
| RE05  | 4     | RE05 埋土    | 砥石         | 荒砥 破損品                 | 長8.7幅9.5厚5.7    | 299.0   | 玄武岩   | 211   |
| 遺構外   | 29    | 2Eグリッド1層   | 砥石         | 仕上げ 円形に整形 片面<br>溝状砥石   | 長5.9幅4.5厚2.3    | 92.4    | 砂岩    | 204   |
| 遺構外   | 30    | 3Eグリッド1層   | 円盤状<br>石製品 | 扁平棒の両縁側縁盤形             | 長6.3幅6.3厚1.8    | 130.9   | 砂岩    | 205   |

第8表 金属製品観察表

| 遺構名  | 掲載% | 出土地点       | 種別  | 器種    | 長 (mm) | 幅 (mm) | 重量 (g) | 備考          | 登録% |
|------|-----|------------|-----|-------|--------|--------|--------|-------------|-----|
| RA01 | 36  | Ⅱ期床面       | 鉄製品 | 手鎌    | 21     | 18     | 1.9    | 一端のみ残存、目釘式  | 1   |
| RA04 | 17  | 床面         | 鉄製品 | 棒状鉄製品 | 87     | 11     | 11.2   | 釘か？両端欠損     | 2   |
| RA04 | 18  | 2層         | 鉄製品 | 両型鉄製品 | 35     | 21     | 9.3    | 断面長もしくは鉄錐か？ | 3   |
| RA04 | 16  | 床面         | 鉄製品 | 釘     | 60     | 6      | 3.9    | 先端欠損        | 4   |
| RA10 | 43  | 1層         | 鉄製品 | 手鎌    | 56     | 20     | 7.7    | 両端欠損、目釘式    | 5   |
| RA10 | 42  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 59     | 10     | 3.9    | 柄部          | 6   |
| RA12 | 13  | 床面         | 鉄製品 | 棒状鉄製品 | 65     | 10     | 7      | 釘か？両端欠損     | 7   |
| RA20 | 15  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 73     | 14     | 7.2    | 柄部木質残存      | 8   |
| RA23 | 14  | 床面         | 鉄製品 | 手鎌    | 90     | 16     | 7.7    | ほぼ方形、目釘式    | 9   |
| RA24 | 16  | 床面         | 鉄製品 | 鉄線    | 81     | 29     | 12.2   | 基部欠損        | 10  |
| RA24 | 14  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 120    | 12     | 9.4    | 刃部先端欠損      | 11  |
| RA24 | 15  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 79     | 10     | 5.8    | 刃部・基部両端欠損   | 10  |
| RA25 | 30  | 1層         | 鉄製品 | 刀子    | 183    | 33     | 31.5   | 刃部先端欠損      | 12  |
| RA33 | 20  | カマド焼成部     | 鉄製品 | 刀子    | 110    | 12     | 11.7   |             | 13  |
| RA36 | 4   | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 87     | 17     | 13.6   | 柄部          | 102 |
| RA37 | 24  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 30     | 15     | 1.4    | 刃部          | 103 |
| RA39 | 29  | 埋土         | 鉄製品 | 足金具   | 64     | 25     | 22.0   | 厚部腐付        | 104 |
| RA39 | 28  | 床面         | 鉄製品 | 刀子    | 28     | 6      | 0.9    | 柄部          | 105 |
| 遺構外  | 33  | 1 I グリッドⅡ層 | 鉄製品 | 釘     | 43     | 8      | 3.9    | 先端欠損        | 107 |
| 遺構外  | 34  | 2 B グリッドⅠ層 | 鉄製品 | 刀子    | 123    | 21     | 19.3   | 柄部欠損        | 108 |
| 遺構外  | 31  | 1 I グリッドⅡ層 | 鉄製品 | 鉄線    | 径22mm  |        | 0.4    | 寛永通寶        | 110 |
| 遺構外  | 32  | 1 I グリッドⅠ層 | 銅製品 | 銅銭    | 径26mm  |        | 0.8    | 寛永通寶文銭      | 111 |

\*重量は保存処理後の数値

第9表 土製品観察表

| 遺構名  | 掲載% | 出土地点       | 器種    | 計測値 (mm)       | 重量 (g) | 備考            | 登録% |
|------|-----|------------|-------|----------------|--------|---------------|-----|
| RA01 | 35  | Ⅱ期1層       | 羽口    | 長40            | 15.1   | 破片、推定不能       | 47  |
| KA06 | 7   | 1層         | 羽口    | 長36            | 11.2   | 羽口、又は支脚の破損品か？ | 45  |
| RA14 | 30  | Pit6付近床面直上 | 土罨    | 長44、径20、孔径25   | 17.8   | 紡錘形           | 113 |
| KA29 | 42  | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長145、径70、孔径25  | 150.0  | 先端磨光片         | 31  |
| KA29 | 43  | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長70、径85、孔径40   | 135.0  | 一部磨光色         | 32  |
| KA29 | 43  | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長140、径80、孔径25  | 300.0  | 先端磨光片         | 33  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長60、径70、孔径25   | 51.0   |               | 34  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長32            | 29.0   |               | 35  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長50            | 14.0   |               | 36  |
| KA29 |     | 北側掘り方      | 羽口    | 長40、孔径25       | 21.0   |               | 37  |
| KA29 |     | 北側掘り方      | 羽口    | 長25            | 10.8   |               | 38  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長30            | 5.0    |               | 39  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長42            | 20.0   |               | 40  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長23            | 9.3    |               | 41  |
| KA29 |     | 北側掘り方      | 羽口    | 長30、孔径25       | 26.8   |               | 42  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長25            | 2.7    |               | 43  |
| KA29 |     | 埋土下層～床面    | 羽口    | 長40            | 8.6    |               | 45  |
| RA39 | 30  | 床面         | 紡錘車   | 径45、厚23、孔径7    | 24.2   | 破損品           | 101 |
| RZ03 | 1   | RZ03底面     | 焼成粘土塊 | 長4.5、幅4.0、厚2.3 | 15.7   | 砂粒含まない        | 112 |

第10表 縄文土器観察表

| 遺構名 | 掲載No. | 出土地点             | 時期   | 器種 | 文様                 | 登録No. |
|-----|-------|------------------|------|----|--------------------|-------|
| 遺構外 | 1     | 2 I 16 d グリッドII層 | 晩期後葉 | 鉢  | 丁字文, 口縁部内面沈線       | 縄文51  |
| 遺構外 | 2     | RA17検出面          | 後晩期  | 鉢  | R.L.縄文             | 縄文52  |
| 遺構外 | 3     | RA17検出面          | 後期前葉 | 鉢  | 波状口縁, 沈線, R.L.縄文充填 | 縄文53  |
| 遺構外 | 4     | RA17検出面          | 後期前葉 | 鉢  | 平行沈線, R.L.縄文       | 縄文54  |
| 遺構外 | 5     | RA17検出面          | 後期前葉 | 鉢  | 平行沈線, R.L.縄文       | 縄文55  |
| 遺構外 | 6     | 3 F1 d グリッドII層   | 晩期   | 深鉢 | I.R.縄文             | 縄文56  |
| 遺構外 | 7     | 3 F1 d グリッドII層   | 晩期   | 深鉢 | I.R.縄文             | 縄文57  |

第11表 陶磁器観察表

| 遺構名    | 掲載No. | 出土地点             | 種類     | 産地  | 時代     | 特徴     | 登録No. |
|--------|-------|------------------|--------|-----|--------|--------|-------|
| RG13   | 1     | RG13埋上下部         | 磁器染付陶  | 肥前  | 近世後半   | 草花文    | 陶102  |
| 遺構外    | 16    | 2 E グリッドI層       | 陶器鉢    | 不明  | 近代?    |        | 陶113  |
| 遺構外    | 17    | 2 E グリッドI層       | 陶器碗    | 相馬? | 近世後半   | 灰釉     | 陶107  |
| 遺構外    | 18    | 2 E グリッドI層       | 陶器鉢鉢   | 不明  | 近世~近代  | 鉄釉     | 陶114  |
| 遺構外    | 19    | RD10上位層乱         | 磁器染付皿  | 肥前  | 近世後半   | 凹縁の目高台 | 陶65   |
| 遺構外    | 20    | 2 E グリッドI層       | 磁器染付陶  | 肥前  | 近世後半   |        | 陶106  |
| 遺構外    | 21    | 2 E グリッドII層      | 磁器染付皿  | 肥前  |        |        | 陶104  |
| 遺構外    | 22    | 2 E グリッドI層       | 磁器染付陶  | 肥前  | 近世後半   | 網目文    | 陶105  |
| 遺構外    | 23    | 2 G T・81グリッドIII層 | 磁器染付陶  | 肥前  | 近世後半   | 見込目縁   | 陶110  |
| 遺構外    | 24    | 2 H T1グリッドI層     | 磁器鉢    | 肥前  | 近世後半   |        | 陶101  |
| 遺構外    | 25    | 2 E 13mグリッドII層   | 磁器染付皿  | 不明  | 近世末~近代 | 凹縁の目高台 | 陶109  |
| 遺構外    | 26    | 2 E グリッドII層      | 磁器染付皿  | 肥前  | 近世後半   |        | 陶111  |
| 遺構外    | 27    | 2 E グリッドI層       | 磁器染付瓶類 | 不明  | 近世?    |        | 陶112  |
| 遺構外    | 28    | 1 I グリッドII層      | 磁器染付瓶類 | 不明  | 近世?    | 意面吹釉   | 陶103  |
| 柱六状ピット | 1     | P120埋土上部         | 磁器染付瓶類 | 肥前  | 近世後半   | 網目文    | 陶108  |

第12表 鉄滓観察表

| 遺構名  | 登録No. | 出土地点    | 種類  | 計測値 (mm)  | 重量 (g) | 備考  |
|------|-------|---------|-----|-----------|--------|-----|
| RA01 | 14    | II期3層   | 鉄塊系 | 28×24×20  | 13.8   |     |
| RA02 | 15    | 3層      | 鍛冶滓 | 42×32×30  | 30.8   |     |
| RA04 | 16    | 2層      | 鉄塊系 | 24×16×12  | 5.8    |     |
| RA09 | 17    | 2層      | 鉄塊系 | 43×23×23  | 32.9   |     |
| RA24 | 18    | 床面      | 鍛冶滓 | 67×62×38  | 119.3  | 碗形滓 |
| RA29 | 19    | 床面      | 鍛冶滓 | 133×85×50 | 560.6  |     |
| RA14 | 20    | 6層~床面   | 鉄塊系 | 60×30×15  | 34.0   | 碗形滓 |
| RA29 | 22    | 埋土      | 鍛冶滓 | 37×30×20  | 27.6   |     |
| RA29 | 23    | 埋土下部    | 鍛冶滓 | 58×47×20  | 38.7   |     |
| RA29 | 44    | 埋土下部~床面 | 鍛冶滓 | 37×37×20  | 8.0    |     |
| RA29 | 46    | 埋土下部~床面 | 鍛冶滓 | 35×26×20  | 11.1   |     |
| RA39 | 106   | 埋土      | 鍛冶滓 | 31×26×21  | 25.0   |     |

第13表 木製品観察表

| 遺構名    | 掲載No. | 出土地点     | 種類     | 計測値 (cm)    | 樹種            | 備考          | 登録No. |
|--------|-------|----------|--------|-------------|---------------|-------------|-------|
| RI01   | 1     | RI01底面水溝 | 曲物     | 径50.5 高28.0 | スギ            | 本体2両半 縁皮剥じ  | 1     |
| RI02   | 2     | RI02底面   | 角材     | 長70.0 径10.5 | コナラ属 コナラ属コナラ属 | 角材          | 2・3   |
| RI02   | 3     | RI02底面   | 杭      | 長49.0 径6.5  |               | 杭 丸木取り 断面方形 | 4     |
| RI02   | 4     | RI02底面   | 杭      | 長30.5 径4.0  |               | 杭先端 丸木取り    | 5     |
| RI02   | 5     | RI02底面   | 丸木(杭?) | 長34.0 径3.2  | マンサク          | 枝打痕 樹皮残存    | 6     |
| RI02   |       | RI02底面   | 丸木(杭?) | 長36.0 径4.0  |               | 枝打痕         | 7     |
| RI02   |       | RI02底面   | 丸木(杭?) | 長29.0 径3.3  |               | 部炭化         | 8     |
| RI02   |       | RI02底面   | 丸木(杭?) | 径53.5 径5.0  |               | 枝打痕         | 9     |
| RB05   | 6     | RB05-P5  | 柱根     | 長23.0 径14.8 | クリ            | 丸木材         | 10    |
| 柱六状ピット | 3     | P118     | 柱根     | 長69.5 径17.5 | スギ            | 丸木材         | 11    |
| 柱六状ピット | 2     | P108     | 柱根     | 長11.0       | クリ            | 削材 表面一部炭化   | 12    |

## 第VI章 考 察

### 第1節 縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構としては第5次調査区の西半、旧河道域を中心とした部分で検出された陥し穴状土坑23基がある。概ね3～4mの長軸に対し幅1m未満という細長い溝状の平面形を呈するタイプである。

構築時期を示す遺物がないため個々の時期決定は不可能だが、堆積状況は類似しており概ね同じような環境の下で埋没していったと考えられる点、各々の位置関係が規則的で長軸方位が揃っている点から、重複関係にあるもの(RD96・134)を含めて、比較的短期間の内に構築、使用されたものと思われる。円筒形、長方形、溝状という陥し穴における3種のバリエーションの内、溝状のタイプが縄文時代中期以降に当地域を含めた東北北半で主流になることが指摘されており(坂本・杉野森1997)、調査区内で縄文後・晩期の土器片が出土していることから、これらも縄文時代後半段階である可能性が高い。

旧河道域での配列を見ると必ずしも整然とした配置とはなっていないが、南北に長軸を持つものが2列の微高地に5～10m程度の間隔を開けて平行して並ぶ(第196図)。東西長軸のものは旧河道を横断する状態となっている。旧河道の堆積土はシルト質ないし粘土質で、陥し穴が構築された当時には帯水性の窪地であった可能性が高いことから、水場に集まる動物を対象とした罟猟が行われていたものと考えられる。

この他、第5次調査区北東部で検出した柱穴状小ピットの中に、陥し穴状土坑と同様の堆積土が見られるものが複数存在する。竪穴住居跡の柱穴になり得るような規則的な配列を示すものはなく、ピットの性格は不明だが縄文時代の遺構である可能性が大きいと思われる。

遺物は古代の住居跡堆積土などから、縄文時代後期前葉、晩期後葉の土器片、剥片類がいずれもごく少量出土している。縄文時代の住居跡は近隣では北に1km余り離れた本宮館堂A遺跡で晩期後半の住居跡が検出されているが、細谷地遺跡一帯は狩猟を主体とした生業活動が行われていたものと考えられる。(高木)



第196図 陥し穴状土坑の分布

### 第2節 平安時代の遺構

#### (1) 竪穴住居跡

今回の調査で検出された40棟(RA01は竪穴全体を拡張していることから2棟と算定)の竪穴住居跡はいずれも平安時代中葉、9世紀後半～10世紀前半に構築されたもので、該期の集落構成を検討する上での好資料である。ここでは重複関係、堆積土の状態により個々の住居跡の先後関係を検討し特徴をまとめる。

【重複・近接】住居跡同士の重複関係はRA12→RA11、RA22→RA18、RA32→RA26の3ヶ所がある。RA01 I期→II期の拡張を含めても4ヶ所に過ぎず、検出数に比して重複が少ない。しかし、互いの間隔が2m程度に近接した住居跡同士は、実際の同時存在は想定しにくい。この場合の新旧関係を判断する手掛かりとして、竪穴構築時に排出した地山土を近接する別の廃絶竪穴窪地に投棄している可能性が高いという前

掘で住居跡堆積土を検討する。一方に褐色土ブロックが集中する層が含まれ、他方に見られないというパターンにより以下のような新旧関係を持つ可能性がある（左が古、右が新）。

RA06→RA04 RA05→RA09 RA06→RA09 RA06→RA10 RA11→RA15  
RA12→RA15 RA13→RA14 RA18→RA16 RA20→RA18 RA22→RA20  
RA17→RA33 RA37→RA33 RA26→RA25 RA32→RA25 RA28→RA27

【火山灰】 灰白色火山灰は遺構堆積土中において層下面を覆うように粗粒の粒子が堆積する一次堆積の状態を示す遺構も希に見られるが、大部分は遺構堆積土中において径が数mm～5cm程度のブロックで混入しているパターンである。堆積土内で火山灰を含む土層の位置を類型化すると以下の5種がある（第197図）。

- A：堆積土上位に火山灰を含む層が堆積するもの。（RA02・11・14・15・17・20・30・37）  
B：堆積土中位に火山灰を含む層が堆積するもの。（RA09・29・34・35）  
C：床面に火山灰が密着して堆積するもの。土坑内部、カマド内堆積土に火山灰が見られるものを含む。（RA01（Ⅱ期）・08・16・18・19・21・25・26・33・36）  
D：床面下位の掘り方埋土、貼床内部に火山灰が見られるもの。（RA39）  
E：火山灰が全く見られないもの。黒色土中に火山ガラスと思われる粒子が見られるものを含む。（RA01（Ⅰ期）・03・04・05・06・07・10・12・13・22・23・24・27・28・31・32・38）



第197図 火山灰堆積パターン

このうち、A～DについてはCの壁穴廃絶後、かつDの壁穴使用開始前に火山灰が降下したと見られるため、埋没の速度が個々の遺構で異なる点を差し引いても、概ねA→B→C→降下→Dの序列が想定される。しかし、Eは火山灰降下以前に完全に埋没したものと、火山灰降下以降に構築されたものの両者が考えられる。後者をE' とすればE→A→B→C→降下→D→E' となる。EとE'の区別

については堆積土中に火山ガラス粒子を含む黒色土が見られる場合にはE' と判断できる。近接する遺構関係の検討を交えればRA05・RA06・RA12・RA13・RA22・RA32はE、RA04・RA10・RA31はE'の可能性が高く、RA03・RA07・RA23・RA24・RA27・RA28・RA38は判断できない。RA01（Ⅰ期）はⅡ期との時間差が小さいと考えられるためBの可能性が高い。

この灰白色火山灰については分析を実施していないものの、これまでの調査事例から十和田a降下火山灰と見て間違いないと考えられる。十和田a火山灰の噴出年代については異論もあるが西暦915年説が有力となっている（早川・小山1998）。ここでは10世紀初頭の離層と捉え、E～Cが9世紀後半～10世紀初頭、D～E'が10世紀前半代に取まるものと考えておく。

【遺構間接合】 住居跡間での土器接合関係もある程度時期判断の目安になりうるが、接合作業の実態は遺構単位で打ち切る状態で進行させており、検討材料となるものは第16表に示した例のみである。ある住居跡の床面ないしカマド燃焼部等の出土片と、別の住居跡の堆積土上部出土片が接合した場合に、前者が住居として機能している段階に後者が埋没しているという判断に基づき、表のような新旧関係が想定されるが、これによれば概ね火山灰の堆積パターンと一致する結果が見られる。RA24はCパターンのRA25より新しく火山灰降下前に埋没したと考えられる。火山灰を含まず不明としたRA03は前記によれば火山灰堆積AパターンのRA02より新しいと見られる。しかしRA02における土器出土レベルは火山灰の下位に相当するため、RA03は火山灰降下前に埋没した住居跡と判断される。すなわち火山灰を全く含まずEパターンと判断

第14表 住居跡一覧表

| 遺構名      | 重複関係     | 平面規模(m)                  | 深さ<br>(cm) | 面積<br>(㎡) | 主軸<br>方位 | カマド    |
|----------|----------|--------------------------|------------|-----------|----------|--------|
| RA01(1期) |          | 北西壁4.7北東壁4.2南西壁4.9南東壁4.7 | 18         | 21.4      | N30° E   | 北西1南西2 |
| RA01(2期) |          | 北西壁5.5北東壁5.9南西壁5.7南東壁5.5 | 35         | 31.9      | N30° E   | 北西1南西1 |
| RA02     |          | 北壁5.0東壁5.2南壁5.0西壁5.1     | 30         | 25.6      | N05° W   | 北1西1   |
| RA03     |          | 北壁2.0東壁2.1南壁2.3西壁1.8     | 30         | 4.2       | N05° E   | 南1     |
| RA04     | RG02→    | 北壁3.3東壁3.2南壁3.2西壁3.4     | 25         | 10.7      | N20° E   | 東1     |
| RA05     | RD16→    | 北壁3.3東壁3.7南壁3.5西壁3.8     | 35         | 12.8      | N25° E   | 西1     |
| RA06     |          | 北壁2.3東壁2.3南壁2.3西壁2.2     | 35         | 5.2       | N15° E   | 南1     |
| RA07     |          | 北壁2.2東壁2.5南壁2.4西壁2.5     | 35         | 5.8       | N25° W   | 南西隅1   |
| RA08     |          | 北壁3.0                    | 30         |           | N10° W   | 不明     |
| RA09     | RD23→    | 北壁4.6東壁4.8南壁4.6西壁4.6     | 30         | 21.2      | N05° E   | 東1北1西2 |
| RA10     |          | 北壁5.4東壁4.5南壁5.3西壁4.3     | 30         | 23.5      | N05° E   | 東1南1西1 |
| RA11     | RA12→    | 北壁2.6東壁2.7南壁2.5西壁2.9     | 45         | 7.1       | NS       | 西1     |
| RA12     | →RA11    | 北壁2.5東壁2.6南壁2.5西壁2.5     | 35         | 6.4       | N15° E   | 南1     |
| RA13     |          | 北壁2.5東壁2.6南壁2.3西壁2.5     | 25         | 6.1       | N05° W   | 東1     |
| RA14     |          | 北壁3.7東壁4.3南壁3.7西壁4.1     | 40         | 15.5      | NS       | 東1     |
| RA15     |          | 北壁4.8東壁5.2南壁4.4西壁5.0     | 35         | 23.5      | N15° E   | 東3北1   |
| RA16     | →RD39    | 北西壁3.9北東壁4.1南西壁3.8南東壁4.8 | 30         | 17.2      | N35° W   | 南東2北東1 |
| RA17     |          | 北壁2.1東壁2.3南壁2.3西壁2.0     | 40         | 4.7       | N08° E   | 東1     |
| RA18     | RA22→    | 北壁4.2東壁4.1南壁4.2西壁4.2     | 60         | 17.4      | NS       | 北1     |
| RA19     | →RD24・32 | 北壁2.5東壁2.6南壁2.5西壁2.7     | 20         | 6.6       | N05° E   | 東1     |
| RA20     |          | 北西壁3.5北東壁3.7南西壁3.2南東壁3.5 | 45         | 12.1      | N37° W   | 北東1北西1 |
| RA21     |          | 北壁3.1東壁3.2南壁3.5西壁3.3     | 30         | 10.7      | N05° E   | 北1南1   |
| RA22     | →RA18    | 南壁2.7西壁3.0               | 30         | 8.1       | N06° W   | 東1     |
| RA23     |          | 北壁1.7東壁1.5南壁1.7西壁1.6     | 30         | 2.6       | N07° E   | 西1     |
| RA24     | RD61→    | 北壁3.8東壁4.0南壁3.7西壁3.9     | 25         | 14.8      | N12° E   | 西1北1   |
| RA25     |          | 北壁4.5東壁4.3南壁4.7西壁4.5     | 30         | 20.2      | NS       | 西1     |
| RA26     | RA32→    | 北壁3.3東壁3.2南壁3.1西壁3.0     | 20         | 9.9       | N07° E   | 南1     |
| RA27     |          | 北壁4.2東壁4.0南壁4.3西壁4.2     | 25         | 17.4      | N05° E   | 北1東1   |
| RA28     |          | 北壁4.0東壁3.6南壁4.1西壁3.5     | 25         | 14.4      | N22° E   | 西1     |
| RA29     |          | 北壁5.2東壁6.0南壁4.8西壁5.2     | 40         | 28.0      | N20° W   | 北1西1南1 |
| RA30     | →RD32    | 東壁1.9南壁2.1               | 30         | 4.0       | N03° E   | 東1     |
| RA31     |          | 北壁3.4東壁3.8南壁3.6西壁3.4     | 20         | 12.6      | N17° W   | 東1     |
| RA32     | →RA26    | 北壁2.7東壁2.9南壁2.7西壁2.7     | 30         | 7.6       | N24° E   | 西1     |
| RA33     |          | 北壁4.1東壁4.4南壁3.8西壁4.2     | 40         | 17.0      | N10° W   | 東1     |
| RA34     |          | 北壁3.7                    | 40         |           | N20° W   | 不明     |
| RA35     |          | 規模不明                     | 40         |           | N15° E   | 不明     |
| RA36     |          | 北壁3.1東壁3.0南壁3.0西壁3.0     | 40         | 9.2       | N22° E   | 東1     |
| RA37     |          | 北壁5.3東壁4.9南壁4.9西壁4.6     | 30         | 24.2      | N16° E   | 北1東1   |
| RA38     |          | 北壁3.3東壁3.1南壁3.2西壁3.2     | 35         | 10.2      | N02° W   | 北1     |
| RA39     |          | 北壁5.7東壁5.1南壁6.0西壁5.5     | 35         | 31.0      | N05° W   | 東1南1西1 |

| 遺構名       | 貯蔵穴位置      | 貯蔵穴規模               | 横穴状土坑     | 柱穴 | 周溝    | 火山灰 | 焼失 | その他                |
|-----------|------------|---------------------|-----------|----|-------|-----|----|--------------------|
| RA01(I期)  | カマド右1      | 200×75              |           | 4本 | なし    | E   |    |                    |
| RA01(II期) | コーナー1      | 185×115             |           | 4本 | 北東・南西 | C   |    | RA01(I期)の拡張        |
| RA02      | 壁際3        | 70×65, 65×60, 55×45 |           | 4本 | 北・西   | A   | 焼失 | 北東コーナー側テラス         |
| RA03      | カマド左右2     | 40×35, 35×30        |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA04      | カマド左1      | 30×30               |           |    | なし    | E   |    | 西壁側テラス             |
| RA05      | カマド右1壁際1   | 45×40, 90×50        | カマド左1     |    | なし    | E   |    |                    |
| RA06      | カマド左1      | 60×30               |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA07      | コーナー1      | 45×25               |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA08      | 不明         |                     |           |    | なし    | C   |    | 南半調査区外             |
| RA09      | カマド右1コーナー2 | 70×40, 60×50, 50×40 | カマド右1     | 4本 | なし    | B   | 焼失 |                    |
| RA10      | カマド右1      | 60×50               | カマド右2他計4基 | 4本 | なし    | E   | 焼失 |                    |
| RA11      | カマド右1コーナー1 | 45×40, 40×30        |           |    | なし    | A   |    | 北壁側テラス             |
| RA12      | 壁際2        | 40×35, 25×25        |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA13      | カマド右1      | 50×50               | 北壁1       |    | なし    | E   |    |                    |
| RA14      | カマド右2他計10基 | 70×50~40×30         | 西壁1       |    | 北・西・南 | A   |    |                    |
| RA15      | カマド右2壁際2   | 50×50, 40×30        | カマド左2     |    | なし    | A   | 焼失 | 北壁側テラス             |
| RA16      | カマド左3コーナー1 | 80×70~50×40         |           |    | なし    | C   |    |                    |
| RA17      | コーナー1      | 45×40               | 北壁1       |    | なし    | A   |    |                    |
| RA18      | カマド右1      | 60×60               |           |    | 全周    | C   |    | 東壁側テラス             |
| RA19      | カマド左1      | 60×50               |           |    | なし    | C   |    | 貯蔵穴は横穴状            |
| RA20      | なし         |                     |           |    | 全周    | A   | 焼失 | 中央に間仕切り溝<br>壁材炭化残存 |
| RA21      | カマド左1コーナー1 | 65×45, 65×55        | 西壁1       |    | 全周    | C   |    | 床面に敷散在             |
| RA22      | カマド左1      |                     |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA23      | なし         |                     |           |    | なし    | E   | 焼失 |                    |
| RA24      | カマド左1コーナー2 | 40×35, 80×50, 50×50 |           |    | なし    | E   |    | 北西側テラス             |
| RA25      | カマド右1      | 130×80              | カマド左1東壁2  |    | なし    | C   | 焼失 |                    |
| RA26      | カマド左1コーナー1 | 105×60, 50×40       |           |    | なし    | B   |    |                    |
| RA27      | なし         |                     |           |    | なし    | E   |    |                    |
| RA28      | コーナー1      | 55×50               | 北壁1       |    | なし    | E   |    |                    |
| RA29      | なし         |                     | カマド左1南壁1  | 4本 | なし    | B   |    | 南壁側拡張              |
| RA30      | 不明         |                     |           |    | なし    | A   |    |                    |
| RA31      | 壁際1        | 130×90              | 南壁1       |    | 西・南   | E   |    |                    |
| RA32      | カマド左2      | 100×50, 60×40       | 北壁1       |    | 北・東・南 | E   |    |                    |
| RA33      | カマド右1      | 70×60               | 北壁1       |    | なし    | C   | 焼失 |                    |
| RA34      | コーナー1      | 80×60               |           |    | なし    | B   |    | 南半調査区外             |
| RA35      | 不明         |                     |           |    | なし    | B   |    | 南半調査区外             |
| RA36      | カマド左2      | 50×45, 30×30        | カマド左2     |    | なし    | C   | 焼失 | 南壁側テラス             |
| RA37      | カマド右2      | 80×80, 70×55        | カマド左1     |    | なし    | A   |    | 南壁側テラス             |
| RA38      | カマド右1      |                     |           |    | 北・西   | E   |    | 掘り方底面傾斜痕           |
| RA39      | 壁際計6基      |                     |           | 4本 | なし    | D   | 焼失 |                    |

第15表 住居跡カマド一覧表

\*中央距離：カマド設置壁中央からカマド中央までの距離 (m)  
ずれ (%)：カマド設置壁×1/2 に対する「中央距離」の割合

| 遺構名        | 位相  | 壁長 (m) | ずれ方向 | 中央距離 | ずれ (%) | 燃焼方位     | 煙道種類 | 煙道 (cm) 径 | 煙出 (cm) 径 | 煙長 (cm) | 煙幅 | 燃焼跡 |
|------------|-----|--------|------|------|--------|----------|------|-----------|-----------|---------|----|-----|
| RA01-1号カマド | 北西壁 | 5.5    | 右    | 0.60 | 右22%   | N 58° W  | 側り置き | 125       | 25        | 45      | 40 | 80  |
| RA01-5号カマド | 北西壁 | 5.7    | 左    | 1.35 | 左47%   | N137° W  | 側り置き | 140       | 25        | 40      | 40 | 消失  |
| RA01-2号カマド | 北西壁 | 4.7    | 左    | 0.25 | 左11%   | N 65° W  | 側り置き | 130       | 25        | 40      | 60 | 80  |
| RA01-3号カマド | 南西壁 | 4.9    | 左    | 0.55 | 左22%   | N152° W  | 側り置き | 165       | 30        | 50      | 45 | 15  |
| RA01-4号カマド | 南西壁 | 4.9    | 右    | 0.55 | 右22%   | N145° W  | 側り置き | 100       | 30        | 35      | 35 | 消失  |
| RA02-1号カマド | 北壁  | 5      | 中央   | 0.00 | 中央     | N 03° W  | 側り置き | 205       | 25        | 35      | 50 | 80  |
| RA02-2号カマド | 西壁  | 3.1    | 左    | 0.90 | 左35%   | N 87° W  | 側り置き | 190       | 25        | 45      | 65 | 65  |
| RA03 カマド   | 南壁  | 2.3    | 左    | 0.35 | 左30%   | N173° W  | 側り置き | 110       | 20        | 40      | 30 | 55  |
| RA04 カマド   | 東壁  | 3.2    | 左    | 0.70 | 左43%   | N110° E  | 側り置き | 140       | 30        | 45      | 40 | 55  |
| RA05 カマド   | 内壁  | 3.8    | 右    | 0.10 | 右5%    | N 75° W  | 側り置き | 120       | 20        | 35      | 35 | 110 |
| RA06 カマド   | 南壁  | 2.3    | 左    | 0.35 | 左30%   | N165° W  | 側り置き | 100       | 20        | 35      | 40 | 80  |
| RA07 カマド   | 南西隅 | 2.4    | 右    | 0.90 | 右75%   | N175° W  | 側り置き | 80        | 30        | 35      | 55 | 50  |
| RA09-1号カマド | 東壁  | 4.8    | 左    | 0.80 | 左33%   | N 93° E  | 側り置き | 160       | 30        | 45      | 40 | 80  |
| RA09-2号カマド | 北壁  | 4.6    | 右    | 0.80 | 右35%   | N 05° E  | 側り置き | 160       | 35        | 35      | 40 | 消失  |
| RA09-3号カマド | 西壁  | 4.8    | 右    | 0.40 | 右17%   | N 75° W  | 側り置き | 150       | 20        | 40      | 45 |     |
| RA09-4号カマド | 西壁  | 4.8    | 左    | 0.10 | 左4%    | N 82° W  | 側り置き | 160       | 25        | 45      | 50 |     |
| RA10-1号カマド | 東壁  | 5.4    | 左    | 0.60 | 左22%   | N 98° E  | 側り置き | 140       | 30        | 45      | 45 | 90  |
| RA10-2号カマド | 南壁  | 5.3    | 左    | 0.05 | 左40%   | N 173° W | 溝状   | 110       | 40        | 40      | 50 | 70  |
| RA10-3号カマド | 西壁  | 4.3    | 中央   | 0.00 | 中央     | N 85° W  | 溝状   | 120       | 40        | 45      | 45 | 消失  |
| RA11 カマド   | 西壁  | 2.9    | 右    | 0.05 | 右3%    | N 89° W  | 側り置き | 115       | 25        | 40      | 65 | 80  |
| RA12 カマド   | 南壁  | 2.3    | 右    | 0.60 | 右48%   | N171° W  | 溝状   | 80        | 25        | 35      | 30 | 70  |
| RA13 カマド   | 東壁  | 2.6    | 左    | 0.55 | 左42%   | N 87° E  | 側り置き | 115       | 30        | 30      | 40 | 60  |
| RA14 カマド   | 東壁  | 4.3    | 左    | 0.85 | 左40%   | N 90° E  | 側り置き | 135       | 25        | 35      | 60 | 85  |
| RA15-1号カマド | 東壁  | 5.2    | 右    | 1.20 | 右46%   | N110° E  | 側り置き | 130       | 40        | 50      | 40 | 65  |
| RA15-2号カマド | 東壁  | 5.2    | 右    | 0.60 | 右23%   | N 98° E  | 側り置き | 115       | 40        | 35      | 50 | 65  |
| RA15-3号カマド | 東壁  | 5.2    | 左    | 0.50 | 左19%   | N112° E  | 側り置き | 90        | 30        | 35      | 55 | 30  |
| RA15-4号カマド | 北壁  | 4.8    | 右    | 0.60 | 右25%   | N 13° E  | 溝状   | 90        | 50        | 50      | 15 | 消失  |
| RA16-1号カマド | 南東壁 | 4.8    | 右    | 0.25 | 右10%   | N140° E  | 側り置き | 140       | 30        | 40      | 55 | 60  |
| RA16-2号カマド | 東壁  | 4.8    | 左    | 1.50 | 左63%   | N140° E  | 溝状   | 80        | 35        | 35      | 15 | 消失  |
| RA16-3号カマド | 北東壁 | 4.1    | 右    | 0.80 | 右39%   | N 57° E  | 溝状   | 90        | 35        | 50      | 15 | 消失  |
| RA17 カマド   | 東壁  | 2.3    | 左    | 0.15 | 左13%   | N107° E  | 側り置き | 100       | 30        | 30      | 40 | 60  |
| RA18 カマド   | 北壁  | 4.2    | 右    | 0.80 | 右38%   | NS       | 側り置き | 160       | 25        | 40      | 55 | 80  |
| RA19 カマド   | 東壁  | 2.6    | 右    | 0.40 | 右30%   | N97° E   | 溝状   | 160       | 20        | 30      | 30 | 70  |
| RA20-1号カマド | 北東壁 | 3.7    | 左    | 0.75 | 左41%   | N55° E   | 側り置き | 120       | 25        | 40      | 50 | 70  |
| RA20-2号カマド | 北西壁 | 3.5    | 右    | 0.45 | 右26%   | N28° W   | 側り置き | 130       | 25        | 30      | 35 | 消失  |
| RA21-1号カマド | 南壁  | 3.5    | 左    | 0.55 | 左31%   | N177° W  | 側り置き | 120       | 35        | 50      | 55 | 80  |
| RA21-2号カマド | 北壁  | 3.1    | 右    | 0.65 | 右42%   | N07° E   | 側り置き | 120       | 25        | 45      | 60 | 消失  |
| RA22 カマド   | 東壁  | 3.5    | 不明   | 不明   | 不明     | N87° E   | 側り置き | 100       | 25        | 40      | 60 | 70  |
| RA23 カマド   | 西壁  | 1.6    | 右    | 0.50 | 右63%   | N83° W   | 側り置き | 120       | 30        | 30      | 40 | 65  |
| RA21-1号カマド | 西壁  | 3.9    | 右    | 0.35 | 右18%   | N78° W   | 側り置き | 125       | 20        | 40      | 45 | 消失  |
| RA21-2号カマド | 北壁  | 3.8    | 左    | 1.20 | 右63%   | N24° E   | 側り置き | 140       | 20        | 45      | 40 | 70  |
| RA25 カマド   | 西壁  | 4.5    | 左    | 0.35 | 右16%   | N82° W   | 側り置き | 180       | 30        | 60      | 50 | 85  |
| RA26 カマド   | 南壁  | 3.1    | 左    | 0.55 | 左33%   | NS       | 側り置き | 140       | 40        | 50      | 50 | 75  |
| RA27-1号カマド | 北壁  | 4.2    | 右    | 0.70 | 右33%   | N12° E   | 側り置き | 150       | 25        | 40      | 45 | 35  |
| RA27-2号カマド | 東壁  | 4      | 左    | 1.00 | 左50%   | N95° E   | 溝状   | 150       | 40        | 50      | 25 | 消失  |
| RA28 カマド   | 西壁  | 3.5    | 左    | 0.35 | 左20%   | N62° W   | 側り置き | 150       | 25        | 30      | 50 | 40  |
| RA29-1号カマド | 北壁  | 3.2    | 右    | 0.10 | 右1%    | N20° W   | 側り置き | 180       | 25        | 33      | 60 | 消失  |
| RA29-2号カマド | 西壁  | 3.2    | 左    | 1.40 | 左54%   | N75° W   | 側り置き | 150       | 30        | 40      | 45 | 35  |
| RA29-3号カマド | 南壁  | 4.8    | 左    | 0.90 | 左38%   | N170° E  | 側り置き | 50        | 25        | 30      | 40 | 消失  |
| RA30 カマド   | 東壁  | 1.9    | 右    | 0.30 | 右32%   | N90° E   | 側り置き | 80        | 30        | 35      | 55 | 消失  |
| RA31 カマド   | 東壁  | 3.8    | 左    | 0.80 | 左42%   | N76° E   | 側り置き | 140       | 30        | 40      | 40 | 70  |
| RA32 カマド   | 内壁  | 2.9    | 中央   | 0.00 | 中央     | N73° W   | 側り置き | 140       | 20        | 40      | 35 |     |
| RA33 カマド   | 東壁  | 4.4    | 左    | 1.00 | 左45%   | N37° E   | 側り置き | 130       | 25        | 40      | 30 | 80  |
| RA36 カマド   | 東壁  | 3      | 右    | 0.80 | 右53%   | N112° E  | 側り置き | 110       | 25        | 30      | 35 | 40  |
| RA37-1号カマド | 北壁  | 3.3    | 右    | 1.35 | 右51%   | N18° E   | 側り置き | 140       | 25        | 30      | 30 | 60  |
| RA37-2号カマド | 東壁  | 4.9    | 左    | 0.85 | 右35%   | N70° W   | 側り置き | 155       | 30        | 30      | 10 |     |
| RA38 カマド   | 北壁  | 3.3    | 右    | 0.85 | 右52%   | N10° W   | 溝状   | 130       | 18        | 45      | 40 | 70  |
| RA39-1号カマド | 西壁  | 5.5    | 左    | 0.15 | 左5%    | N103° W  | 側り置き | 130       | 30        | 40      | 55 | 120 |
| RA39-2号カマド | 南壁  | 6      | 左    | 1.20 | 左40%   | N168° E  | 側り置き | 140       | 30        | 40      | 70 | 消失  |
| RA39-3号カマド | 東壁  | 5.1    | 左    | 1.55 | 左61%   | N82° E   | 側り置き | 155       | 20        | 40      | 65 | 消失  |

| 遺構名         | 補構成    | 焼成面積<br>(cm) | 燃焼部底面   | 支脚      | 天井石 | 煙出し | その他                  |
|-------------|--------|--------------|---------|---------|-----|-----|----------------------|
| R A01-1号カマド | シルト・礎  | 不明           |         | なし      | なし  | あり  | 煙道屈曲<br>上残存          |
| R A01-5号カマド | 不明     | 不明           |         | 不明      | なし  | あり  |                      |
| R A01-2号カマド | シルト    | 45×40        | 楕円形掘り込み | 礎       | なし  | あり  |                      |
| R A01-3号カマド | シルト    | 40×40        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | なし  | 燃焼部土器片敷き             |
| R A01-4号カマド | 不明     | 不明           | 楕円形掘り込み | 不明      | なし  | なし  | 焼成途中で壊滅か?            |
| R A02-1号カマド | シルト    | 60×50        |         | 礎       | なし  | あり  | 燃焼部天井褐色土残存           |
| R A02-2号カマド | シルト    | 25×25        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A03 カマド   | シルト    | 60×50        |         | なし      | なし  | あり  | 片方の袖消失               |
| R A04 カマド   | シルト・礎  | 65×40        |         | 礎       | なし  | あり  |                      |
| R A05 カマド   | シルト    | 50×30        |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A06 カマド   | シルト    | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A07 カマド   | シルト    | 35×35        | 円形掘り込み  | なし      | なし  | なし  | 煙道屈曲 燃焼部天井褐色土残存      |
| R A09-1号カマド | シルト    | 40×40        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | あり  | 煙道屈曲                 |
| R A09-2号カマド | 不明     | 30×30        |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A09-3号カマド | 不明     | 45×45        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A09-4号カマド | 不明     | 50×50        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A10-1号カマド | シルト    | 60×60        |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A10-2号カマド | シルト    | 70×50        |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A10-3号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  | 切り戻きの可能性あり           |
| R A11 カマド   | シルト    | 不明           |         | 礎(砥石)   | なし  | なし  | 煙出し 一段深く掘り込み         |
| R A12 カマド   | シルト・礎  | 不明           | 楕円形掘り込み | なし      | あり  | なし  | 切り戻きの可能性あり           |
| R A13 カマド   | シルト・礎  | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A14 カマド   | シルト    | 50×40        |         | 礎・倒立臺下半 | なし  | なし  | 燃焼部土器片敷き             |
| R A15-1号カマド | シルト    | 35×30        |         | なし      | なし  | あり  | 煙出し須土器臺上半土           |
| R A15-2号カマド | シルト・礎  | 40×35        |         | なし      | あり  | あり  |                      |
| R A15-3号カマド | シルト    | 不明           | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A15-4号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A16-1号カマド | シルト    | 60×30        | 円形掘り込み  | なし      | なし  | なし  | 煙道天井崩落               |
| R A16-2号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  | 煙道屈曲                 |
| R A16-3号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A17 カマド   | シルト    | 35×23        |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A18 カマド   | シルト・礎  | 20×20        |         | なし      | あり  | あり  | 石組残存良好               |
| R A19 カマド   | シルト・礎  | 40×30        |         | なし      | あり  | なし  |                      |
| R A20-1号カマド | シルト・礎  | 45×25        |         | なし      | あり  | なし  |                      |
| R A20-2号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A21-1号カマド | シルト・礎  | 35×20        | 円形掘り込み  | 礎       | なし  | あり  | 袖芯材礎残存良好 煙道天井崩落      |
| R A21-2号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A22 カマド   | シルト・礎  | 25×25        |         | なし      | あり  | なし  | 袖芯材礎残存良好             |
| R A23 カマド   | シルト・礎  | 30×30        |         | 礎・倒立臺下半 | あり  | あり  | カマド本体残存              |
| R A24-1号カマド | 不明     | 不明           | 円形掘り込み  | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A24-2号カマド | シルト    | 40×40        |         | なし      | なし  | あり  | 片方の袖消失               |
| R A25 カマド   | シルト    | 50×40        |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A26 カマド   | シルト・礎  | 不明           |         | なし      | あり  | あり  | 袖芯材礎残存良好             |
| R A27-1号カマド | シルト    | 不明           |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A27-2号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | あり  |                      |
| R A28 カマド   | シルト    | 25×25        |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A29-1号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A29-2号カマド | シルト    | 50×35        |         | 礎       | なし  | あり  | 煙道屈曲                 |
| R A29-3号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  | 紀伊前のカマド 煙道短い         |
| R A30 カマド   | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A31 カマド   | シルト・礎  | 60×40        |         | 礎       | なし  | あり  |                      |
| R A32 カマド   | 不明     | 40×25        |         | 礎       | なし  | なし  |                      |
| R A33 カマド   | シルト・礎片 |              | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | あり  | 煙道天井崩落               |
| R A36 カマド   | シルト    | 30×30        |         | なし      | なし  | なし  |                      |
| R A37-1号カマド | シルト・礎  | 50×50        |         | 倒立臺下半   | あり  | なし  | 石組残存良好               |
| R A37-2号カマド | 礎      | 70×60        |         | なし      | なし  | なし  | 煙道全体崩落               |
| R A38 カマド   | シルト    | 50×30        |         | なし      | なし  | なし  | 煙出し 2段深く掘り込み、袖端階形に残存 |
| R A39-1号カマド | シルト    | 35×35        | 楕円形掘り込み | なし      | なし  | なし  | 煙道全体崩落               |
| R A39-2号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | あり  | 煙道天井崩落               |
| R A39-3号カマド | 不明     | 不明           |         | なし      | なし  | あり  |                      |

第16表 遺構間接合

| 掲載No.            | 接合関係            | 種類            | 副種  | 新旧      | 掲載No.   | 接合関係          | 種類             | 副種  | 新旧      |         |
|------------------|-----------------|---------------|-----|---------|---------|---------------|----------------|-----|---------|---------|
| RA01-37          | RA01-5号カマド埋込・3層 | あかや<br>き土器    | 甕   | RA02-03 | RA09-11 | RA09-1号カマド    | 土師器            | 坏   | RA10-09 |         |
|                  | RA02-3層         |               |     |         | RA10-2層 |               |                |     |         |         |
|                  | RA03-カマド周辺床面    |               |     |         | RA09-30 | RA09-3号カマド上部  | 須恵器            | 甕   | RA09-10 |         |
|                  | RA05-2層・P1:3    |               |     |         | RA06-05 | RA01-II期末面    |                |     |         |         |
|                  | RA06-1層         |               |     |         |         | RA09-32       | RA09-3・4号カマド上部 | 須恵器 | 甕       | RA09-10 |
|                  | RA09-1号カマド袖上面   |               |     |         |         | RA06-09       | RA10-1号カマド燃込部  |     |         |         |
| RA10-2層          | RA10-33         | RA10-1号カマド燃込部 | 須恵器 | 甕       |         |               | RA21-10        |     |         |         |
| RA26-カマド燃込部・埋土下部 |                 | RA21-埋土下部     |     |         |         |               |                |     |         |         |
| RA02-1           | RA02-3層         | 土師器           | 坏   | RA02-03 | RA18-16 | RA18-3・4層     | 須恵器            | 甕   | RA18-20 |         |
| RA09-8           | RA03-カマド周辺床面    | 土師器           | 坏   | RA06-09 | RA24-8  | RA29-1号カマド袖上面 |                |     |         |         |
|                  | RA09-1層         |               |     |         |         | RA24-1層       | 土師器            | 甕   | RA24-25 |         |
|                  | RA09-1号カマド袖上面   |               |     |         |         | RA25-床面       |                |     |         |         |

したものであっても、小形の住居跡で埋没の進行が早くAパターンの住居跡埋没を追い越したため、火山灰が含まれていないという可能性がある。

【時期区分】 上記より遺構の特徴から導かれる時期区分は以下のようになる(第198図)。次節で出土土器の検討を踏まえてこの時期区分の妥当性を検討するので、ここでは「仮」の区分である。

仮1期 RA05・RA06・RA12・RA13・RA22・RA24・RA32

仮2期 RA02・RA11・RA14・RA15・RA17・RA20・RA30・RA37

仮3期 RA01(I期)・RA03・RA09・RA26・RA29・RA34・RA35

仮4期 RA01(II期)・RA08・RA16・RA18・RA21・RA19・RA25・RA33・RA36

仮5期 RA39・・・(火山灰降下以降に居住されたという点では仮6期に含まれる可能性がある。)

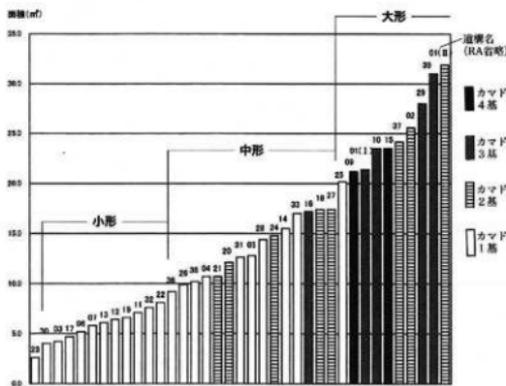
仮6期 RA04・RA10・RA31

不明 RA07・RA23・RA27・RA28・RA38



第198図 時期別住居跡分布図

【規模】 辺長から概算で算出した竪穴面積を第199図に示した。最小のRA23住居跡：2.6㎡から最大のRA01住居跡（Ⅱ期）：31.9㎡まで概ね連続的に面積が増加するように取れるが、子細に見るとRA23-R A30、RA22-R A36、RA05-R A28、RA14-R A33、RA27-R A25といった増加の断絶部分が認められる。これを元に以下のような規模の類似した複数のグループに分類することが可能と思われる。



第199図 住居跡規模

|     |           |            |     |          |      |
|-----|-----------|------------|-----|----------|------|
| 極小形 | RA23      | 2.6㎡       | 1棟  | カマド1基    | 柱穴なし |
| 小形  | RA30～RA22 | 4.0～8.1㎡   | 11棟 | カマド1基    | 柱穴なし |
| 中形  | RA36～RA27 | 9.2～17.4㎡  | 17棟 | カマド複数・1基 | 柱穴なし |
| 大形  | RA25～RA01 | 20.0～31.9㎡ | 10棟 | カマド複数    | 柱穴あり |

\*面積不明のRA08・34は辺長より中形に含めている。

この規模による分類とカマド、柱穴等住居に付随する施設の構成には次のような対応関係が認められる。極小形、小形の住居跡ではカマドを1基持つもののみである。中形ではカマドの作り替えにより複数のカマドが検出されるものが含まれるが、柱穴は見られない。大形では大部分で複数のカマドを持ち、主柱穴の配置が明確なものが多い。カマドの作り替えがどのような契機によるものか明確ではないという問題点は残るが、大形の住居跡ほど耐用年数が長く、堅固な上屋を持っていたことを示していると考えられる。

また時期別に竪穴規模の分布を見ると、以下のように1期で小形が主体となり時期が降るに従い小形の減少傾向が顕著となっているが、1期は火山灰堆積EパターンでありRA03のように後続する時期のものを含んでいる恐れがある。一方、1期を除けば各期とも大中小の組み合わせから構成されているとも捉えられる。

|    | 1期 | 2期 | 3期 | 4期 | 5・6期 | 不明 |
|----|----|----|----|----|------|----|
| 大形 | 0  | 3  | 3  | 2  | 2    | 0  |
| 中形 | 2  | 2  | 2  | 7  | 2    | 3  |
| 小形 | 5  | 3  | 1  | 1  | 0    | 2  |

【焼失家屋】 RA02・09・10・15・20・23・25・33・36・39住居跡の10棟では堆積土下部から床面にかけて、炭化材と粘土ブロックの堆積が見られ、焼失家屋と判断される。炭化材の残存状況はいずれも断片的なもので、むしろ多量の粘土ブロックが目立つものが多い。炭化材の出土位置からある程度部材の手掛かりとなりうる例としては、RA20住居跡で板材と丸木材の組み合わせが検出された。板材は壁面側がやや持ち上がり、その上に丸木材が壁面に沿って斜めになっている。丸木材は2本が40cmの間隔を開けており、壁材を止めた

部材ではないかと考えられる。RA09・36住居跡では中央付近から炭化したカヤが出土している。一定範囲の面的な広がりを持っており、床面の敷物、もしくは葦代、壁代の可能性があるが特定できない。炭化材の樹種は各遺構から20点ほどのサンプルを採取して肉眼による同定を受けており、クリ、イタヤ、ナラ、ケヤキが見られ、比較的ケヤキが多いという特徴がある。

焼土ブロックは概ね中央部に薄く床面に接する状態で、壁側では一定量の堆積上位にやや厚くなる傾向が共通する。RA02・15・25・33住居跡では一方の壁側に偏在する状況が見られる。また、壁面付近には焼土の分布が途切れる。焼土の由来としては炭化材を覆って広がるものが主体であり、屋根上の泥土であろうと思われる。

なお、焼土家屋はRA23住居跡を例外として大形・中形の住居跡に見られ、小形には存在しない。こうした規模と火災の関係が有意なものとして捉えられるのかどうか、判断材料が少なく検討課題としたい。

【柱穴】 主柱穴配置が判明した住居跡はRA01（I期）・RA01（II期）・RA02・RA09・RA10・RA29・RA39の7棟のみである。この他RA33・37でも柱穴状のピットが床面に開口するが、配置は不明である。7棟の住居跡ではいずれも1本の柱穴が長方形の配置を構成している。柱穴の位置は対角線上に乗る四隅から等距離の位置ではなく、片方の壁面に偏った場所が設定されている住居跡が目立つ。これはカマド側から離れるもの（RA01-I期・RA02・RA29・RA39）、カマド側に寄るもの（RA09・RA10）の両者があり、カマドと上屋構造の関係が不明確である。

柱穴の建て替えはRA39住居跡で確認された。この場合はRA01のような竪穴の拡張、かさ上げ等は行われておらず、上層のみ建て替えた状態である。

一方、柱穴が検出されていない住居跡が34棟で全体の85%となるが、これらの上屋構造がどのように架構されていたのかを検討する材料は得られていない。

【カマド】 カマドは40棟の住居跡に対し合計60基確認された。前述のように中小規模の住居跡では単独のカマドを有するのに対し、大形では作り替えにより複数のカマドが検出されているものが多いため、住居棟数の1.5倍の検出数となっている。

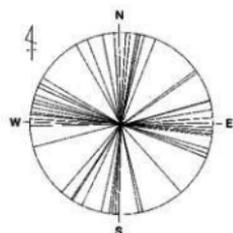
①燃焼部 カマド袖の構造はA：石組みを芯材としたもの（15基）、B：土器片を芯材としたもの（2基）、C：地山土の積み上げないし地山削り出しによるもの（25基）と区別される。Aの石組みは調査区西側に多い傾向がある。特に残存状況が良好なRA18・21（1号カマド）・26・37（1号カマド）等では、3～4ヶの礎を立て、上位に天井石を掛け11の事前と奥に並列して渡した構造が見られる。Bの土器片利用芯材はRA33で分割した甕を両袖先端に埋め込んだもの、RA37-1号カマドで甕人破片を袖内側に貼り付けたものがある。大多数は芯材を持たず土のみで構成されたCの袖で、地山褐色土と黒色土を交互に積み上げて硬く締まる状態となるものが多い。

②支脚 支脚が検出されたカマドは11基である。種類としては土師器壺下半を倒立させたもの（1基）、礎の上に土師器壺下半を倒立で被せたもの（2基）、礎を埋め込んだもの（8基）がある一方で、支脚が見られないものが49基に上る。燃焼部の残存状況が良好であっても支脚の痕跡が不明なカマドも多数存在する。カマドの使用停止に伴い支脚を抜き取った可能性もあるため、意識的に支脚の痕跡を探索したが判然としない。支脚を埋め込まずに焼土面に置いた状態で使用しているケースも想定される。

燃焼部内での支脚の位置は明確に偏る例が少ない。唯一、掛け口の土器が残存していたRA23では大小2個体の甕を並列させており、下部には支脚として壺下半と礎を並列させており「2つ掛け」が明らかな例だが、主体は「1つ掛け」であったと思われる。

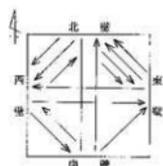
③煙道・煙出し孔 煙道は51基で割り貫き式（地下式）の構造が確認されており、天井の有無が不明で溝状となっている9基でも削平、崩落等により天井が失われた可能性が高く、基本的には割り貫き式が採用されていたと判断される。煙道の延長は80～205cmで平均約130cmとなる。大形の住居跡に設置されるものほど煙道が長い傾向があるが対応関係ははっきりしない。煙出し孔は検出面での直径平均約40cmでほぼ垂直な円筒形に掘り込まれている。なお、煙出し孔に礫や土器片が投棄された状態となっているものが約半数の31基で確認された。R A15-1号カマドのように須恵器壺上半が埋められたもの等、住居廃絶に伴う意識的な行為が行われたものを含むと考えられる。

④カマド方位 燃焼部中央と煙道を結ぶ軸方位をカマド方位として集計した（第200図）。北東、南東、南西、北西方位の分布が途切れており、大きく東西南北の4方位付近にまとまる傾向がある。また、それぞれに一定数が偏しており偏在していない。時期別に見ても同様である。これは同時代の集落遺跡において、東壁に設置される例が主体となる傾向（注2）とはやや異なっていると言える。



第200図 カマド方位分布

⑤カマド作り替え 基本的には燃焼部の残存状況が良好なものが最終段階のものと判断しており、複数のカマドを有する住居跡についても、同時に2基以上のカマドが使用されていた可能性は低いと考えている。作り替えに際して、古いカマドの芯材等の構成材が再利用されていることも考えられるが、例えば被熱痕が外側に向く機等は確認できなかった。



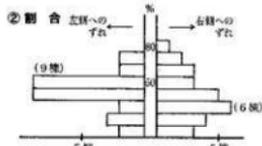
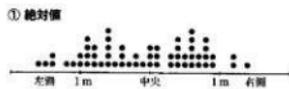
第201図 カマド作り替えのパターン

作り替えの方向性について壁面の移動方向を集成した結果は、第201図のようにほぼ全方向への作り替えが見られる状態で、煙道単独での方位と同様に規則性は認められない。作り替えの回数はR A09・R A15の3回を最大とし、2回の作り替えが5棟、1回の作り替えが8棟で確認される。これらは前述のようにいずれも中・大形の住居跡に見られ、小形住居跡にはない。

⑥カマド位置（壁面内での偏り） カマドの設置される場所は壁面の中央よりずれるものが目立つ。この状態について、中央からのずれを絶対値で見た場合には（第202図①）右側に60cm、80cm、左側に35cm、55cm等のまとまりが見られるが、数値のピークは顕著に現れない。

一方、カマドが設置される壁の長さに対して、中央からのずれを割合で見た場合には（第202図②）左側に30～50%、右側に20～40%への集中、及び中央に設置されるものの少なさが指摘できる。竈穴規模に関わらず、左右に1/3～1/2の位置に多いことが窺えるが、同時に数値のばらつきもあり明確な設計意図の元に位置が決定されていたとは言いが切れない。

⑦カマド廃絶に伴う祭祀行為 R A01（1期）3号カマド、及びR A14カマドでは燃焼部に土師器片が敷き詰めた状態で検出された。両者とも前章で記載した通り、破砕した燧石片を準備し、カマド機能停止後に燃焼部の火床面中央をほぼ完



第202図 カマドのずれ

全に覆う形に置かれている。明らかに意図的な並べ方であり、カマド座絶に伴う何らかの祭祀的行為に関わるものと考えられる。なお、RA14カマドでは支脚の倒立裏下半が残置されており、燃焼部は破壊されていない状況である。このような土器片敷き詰めは近隣の盛南開発区域に関わる古代集落の調査例では初見と思われる。

この他にはカマド燃焼部の残存状況が不自然な住居跡が散見される。作り替えに伴い破壊されたもの以外に、両袖が極端に短いRA28カマド・RA29-2号カマド、片袖が消失しているRA03カマド・RA24-2号カマド・RA36カマド、燃焼部本体が完全に消失しているRA30カマド、芯材の石組みが散乱するRA21-1号カマドが挙げられる。これらはカマド座絶に伴う意図的な解体による結果の可能性が高い。

一方、掛け口の土器が完全に残存するのはRA23カマドの1基のみである。大多数のカマドでは燃焼部天井が崩落ないし消失している。実際にはこれらもカマド解体に含まれるのかどうかについて、意識的な調査を行ったとは言えず、現段階では検討材料不足である。

**【貯蔵穴】** 33棟の住居跡において貯蔵穴の機能が想定される土坑が検出された。該当する土坑を持たない住居跡はRA20・23・27・29の4棟である。位置はカマドの左右どちらかに設置されるものが24棟で過半数を占め、10棟ではカマドの対辺など離れた場所にある。

規模はRA01（I期）で長軸2mの土坑が確認されたが、大部分は40～80cm程の径となる楕円形ないし円形の土坑である。概ね堆積土内から環頸を中心とした土器片が多く出土している傾向が類似しており、具体的な貯蔵の状況を示す検出状況、遺物出土状況は確認できないため、全てが貯蔵の機能を目的としたかどうかは曖昧である。

**【横穴状土坑】** 壁面を挟り込んで掘られる土坑を一括して「横穴状土坑」と呼称した。16棟の住居跡から合計24基検出している。RA10・15・25・29・36住居跡では1棟に複数の横穴状土坑が設けられている。誤認を含む恐れもあるが、壁面の崩壊に伴う「抉れ」ではなく、何らかの目的を持って設置された施設の一部と判断している。形状は堅穴壁面の立ち上がり部分に半円形の横穴を掘るという点では共通するが、底面の高さに着目するとA種：底面が床面から連続するもの、B種：底面が床面より一段低く掘り込まれたもの、C種：壁面途中に掘られ棚状となるものという種類がある。B種の場合には壁際に掘られた土坑の一部が壁面を挟っている状態となる。一方、C種はわずかに壁面を挟り込んだ状態であり、これらの性格が等しいとは言いがたい。RA36住居跡Pit3では棚状の底面にわずかながら焼成面が形成されていた。この種の施設の機能を示す材料となるかも知れない。



第203図 横穴状土坑分類

**【小結】** 細谷地遺跡の堅穴住居跡は規模、形状、柱穴配置、カマド形状など、本地域における該期の住居跡として一般的に見られる特徴と大きく変わることはないが、カマド方位のばらつき、カマド座絶に伴う土器片敷き詰め、横穴状土坑の多さといった点はやや特殊な様相と言える。

## (2) 掘立柱建物跡

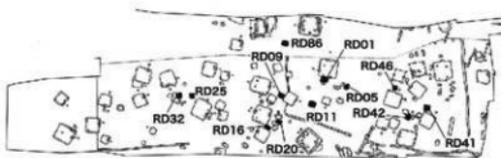
平安時代の掘立柱建物跡はRB01（2×1間）・RB02（2×2間）・RB04（2×3間）の3棟がある。時期不明のRB03も該期の可能性があるがはっきりしない。3棟とも掘り方埋土に灰白色火山灰ブロックが含まれる柱穴を伴っており、火山灰降下の10世紀初頭が年代の上限と考えられる。住居跡の時期区分では5・6期に相当する。

建物の構造は3棟で異なり、桁の柱間寸法もR B01で約1.6m、R B02で約2.0m、R B04で約2.0mとばらつきがある。建物の性格が一様ではなかったことが想定される。なお、R B01は南側のR A27住居跡、R B02は東側のR A29住居跡とそれぞれ方位が一致するが、住居壁面と柱筋にずれがあるため、竪穴と組み合わせる遺構とは考えにくい。

北側の飯岡才川遺跡では穀倉と推定される9世紀後半代の「田の字形」の総柱建物跡が4棟検出されている(岩埋文2002)。細谷地遺跡の建物跡についても倉庫に類似した施設の可能性が考えられる。

### (3) 焼成土坑

第IV章第3節で記載した一次焼成土坑(R D01・11・16・25・41・42土坑)と二次焼成土坑(R D05・09・20・32・46・86・109土坑)については、両者を含めて規模が一定であり(長軸150cm前後、短軸100cm前後、深さ30cm前後)、分布が住居跡検出区域にほぼ収まること(第204図)、年代も住居跡と併行し集落の一構成要素と考えられること等が指摘できる。構築から焼成に至るまでの両者の違いは土坑の機能に関わるものと考えられるが、焼成作業の具体的な内容について遺物出土状態から積極的に言及できる状況ではない。焼成面が土坑内部全面に形成されず偏在すること、焼成の程度が比較的強いと見られること、居住域の内部に取り込まれている点から見て、現時点では土器焼成土坑の可能性が高いものと考えている。



第204図 焼成土坑分布

### (3) 溝跡

R G01・R G02・R G05・R G06・R G08溝跡の5条が住居跡集中区域をコの字状に囲む配置を取る。溝の底面レベルには起伏があり一定方向への傾斜は認められず、水路としての機能は考えにくい。柱穴列等が伴うかどうかは確認できないが、恐らく区画溝であろうと思われる。北辺では近世以降の削平区域にあたるため連続する溝跡は検出されず、方形に閉じる配置となっていたのか、北側の旧河道に向けて開いた配置となるのかは不明である。区画の規模は東西約50m、南北約30m以上で、内部空間は恐らく2,000㎡に近い面積が想定される。

溝堆積土のうちR G05・06・08には灰白色火山灰が含まれる点、及びR G08溝跡堆積土出土土器器破片がR A29住居跡床面出土片と接合関係を持つ(R A29-18)点から、住居跡の時期区分3・4期段階と併行する火山灰降下の前段階に開閉していたと考えられる。この段階においては区画の内外に遺構の分布状況に明確な違いは見出せないが、可能性としては世帯単位での屋敷地を区画したものではないかと思われる。

(高木)

註1 例えば台太郎遺跡第18次調査では平安時代の46棟におけるカマド方位は東:22棟、西:15棟、北:4棟、北西:5棟(岩埋文2001)。小幡遺跡第2次調査では5棟全てが東壁(岩埋文1996)。

### 第3節 平安時代の土器

今回の調査で40㍻コンテナ大で約30箱の土器が出土した。その大部分は平安時代に該当し9世紀後半～10世紀前半に集中する。第IV章で土器は須恵器・土師器（黒色処理）・土師器（非黒色処理）・あかやき土器に分類した。ここでは住居出土の坏を用いて遺跡内で時期細分し、他遺跡との比較から時期比定を試みる。

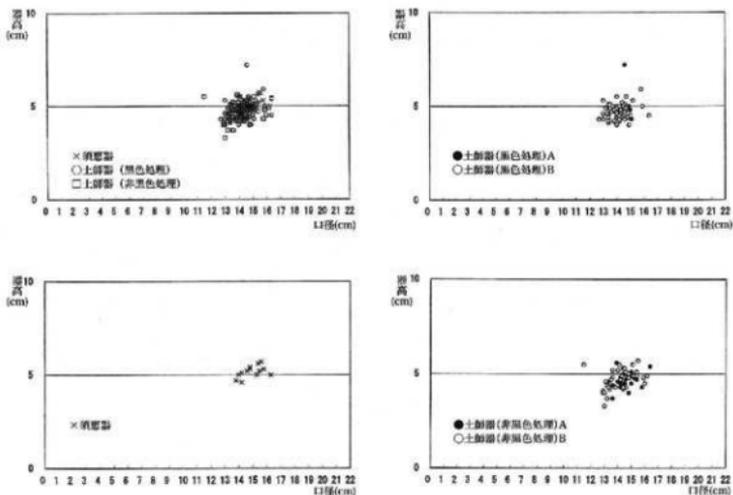
#### (1) 坏の法量と構成比率

ここでは須恵器・土師器（黒色処理）・土師器（非黒色処理）各別の坏について取り扱う。あかやき土器に関しては点数が少なく、法量データが得られないため分析できなかった。

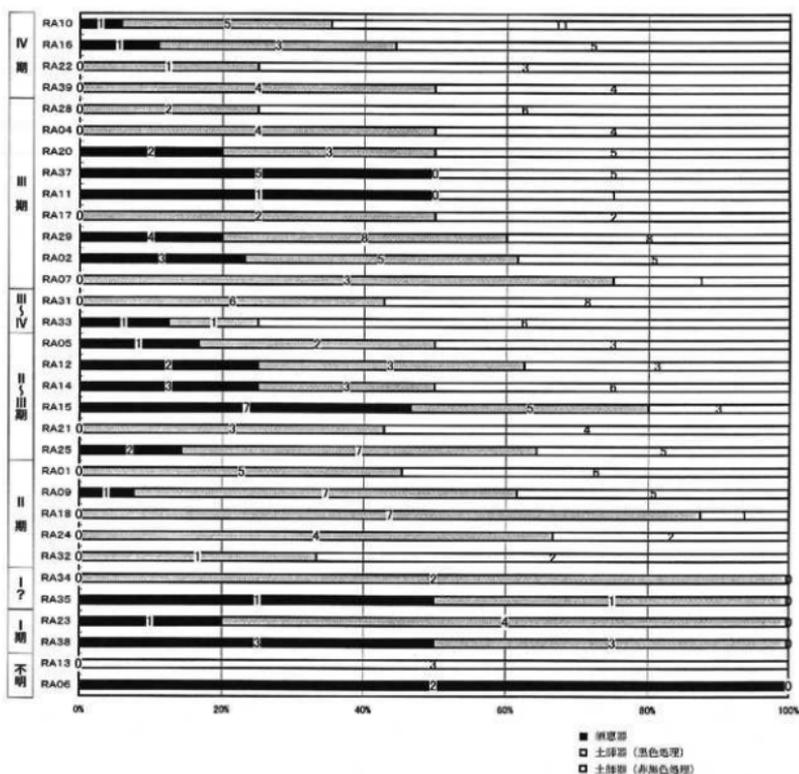
坏は総数316点（40.7%）出土している。完形が多く住居床面一括で扱うことのできる資料がまとまる。

第205図は図化した資料をもとに遺跡全体の法量分布を示した。須恵器坏は口径13.7～16.3cm、器高4.6～5.7cmに分布が集中する。土師器（黒色処理）坏は口径12.8～16.3cm、器高4.0～5.9cmに分布し（RA39出土の暗文が施文される坏は除く）、須恵器よりも分布域が広い。器形による差異は認められない。土師器（非黒色処理）坏は口径11.5～16.4cm、器高3.3～5.7cmに分布し、口径は1点を除けば12.9～16.4cmにまとまる。

以上、各別の法量を見るとそれぞれ分布域はまとまりがあり、法量差が認められないように見える。しかし第206図を見ると、各住居毎に各別の構成比率には①土師器（非黒色処理）坏をまったく含まない②土師器（黒色処理）と土師器（非黒色処理）が組成し土師器（黒色処理）が主体をなす③土師器（黒色処理）と土師器（非黒色処理）が組成し土師器（非黒色処理）が主体をなすという大きく3パターンの構成が認められる。



第205図 細谷地遺跡出土土器法量分布

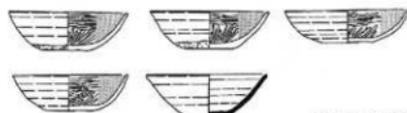
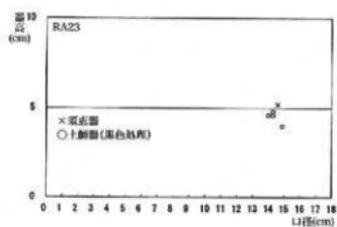


第206図 住居別坏組成

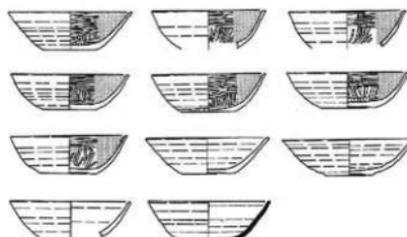
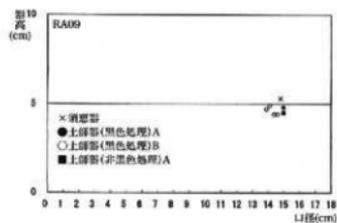
## (2) 細谷地遺跡細分案

前述のとおり各類毎に法量の傾向を見ても大きな差異はなかった。しかし、各住居毎に構成比率を見ると大きく3つのパターンが認められるため、ここでは坏が多く出土している住居を選択し各類の構成比率と坏底面の調査方法から時期区分を試みる。構成比率が異なる3パターンの中から①坏が多く出土している②口径・器高データが得られるという条件を満たす住居はパターン1にRA23、パターン2にRA09・29、パターン3にRA10がある。以下各住居毎に詳細に見ていく。

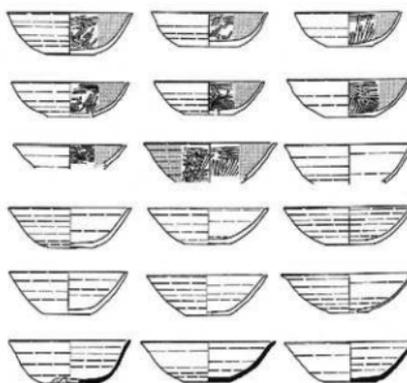
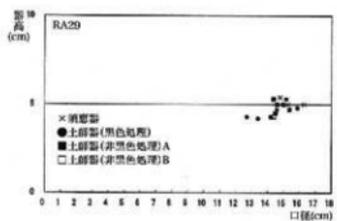
**パターン1：RA23** 坏組成は須惠器1点：土師器（黒色処理）4点：土師器（非黒色処理）0点で土師器（非黒色処理）坏が組成しない。第207図に示した法量分布図を見ると、土師器（黒色処理）坏は口径14～15cm、器高4～4.8cmで器高5cm以下にまとまる。須惠器坏口径14.6cm、器高5.2cmで器高5cm以上である。底面調査方法は須惠器坏が静止系切り、土師器（黒色処理）坏は手持ちヘラケズリが施されている坏が2点出土しているが回転系切りが多い。



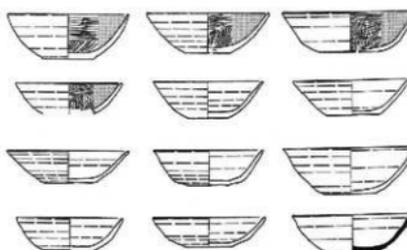
第I期: RA23



第II期: RA09



第III期: RA29

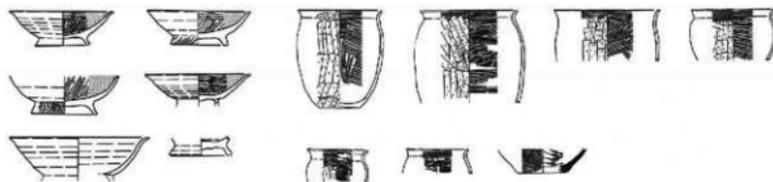


第IV期: RA10

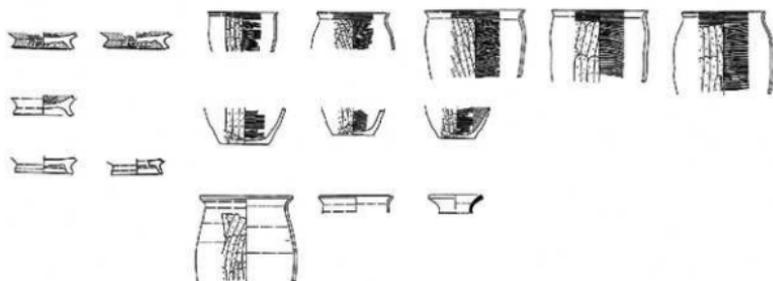
第207図 細谷地遺跡第I~IV期



第I期：RA23



第II期：RA09



第III期：RA29



第IV期：RA10

第207図 細谷地遺跡第I～IV期

パターン2: RA09・29 RA09の坏組成は須恵器1点:土師器(黒色処理)7点:土師器(非黒色処理)5点で各類組成し、土師器(黒色処理)坏が主体をなす。第207図法量分布図によると土師器(黒色処理)坏は口径13.9~15.0cm、器高4.4~4.9cmで器高5cm以下にまとまる。埋土出土資料になるが須恵器坏は口径14.8cm、器高5.3cmで器高5cmを越す。底面調整方法は回転系切り主体で1点手持ちヘラケズリがある。

RA29の坏組成は須恵器4点:土師器(黒色処理)8点:土師器(非黒色処理)8点で各類組成し、土師器(黒色処理)坏と土師器(非黒色処理)坏が同数となっている。第207図法量分布図によると土師器(黒色処理)坏は口径12.7~15.2cm、器高4.2~5.3cm、土師器(非黒色処理)坏は口径14.4~15.9cm、器高4.3~5.4cmでいずれも器高5cmを越すものがある。須恵器坏は口径14.8~16.3cm、器高5.0~5.4cm。底面調整方法は全て回転系切り無調整である。

パターン3: RA10 坏組成は須恵器1点:土師器(黒色処理)5点:土師器(非黒色処理)11点で各類組成し土師器(非黒色処理)坏が主体をなす。法量分布図を見ると土師器(黒色処理)坏は口径14.7~15.9cm、器高5.0~5.5cmで器高5cm以上になる。土師器(非黒色処理)坏は口径12.9~14.8cm。器高は3.7~4.6cmにまとまる。須恵器坏は口径13.8cm、器高4.7cmで5cm以下である。底面調整方法は1号カマド煙出上の静止系切りかと思われる資料以外は回転系切り無調整である。

以上3パターンの構成内容をみてきた。パターン2のRA09と29を検討した結果、法量の変化が認められたため、今回の細谷地遺跡古代集落の段階区分を3パターン・4期とし、以下各期の様相をまとめる。

**第Ⅰ期** 須恵器坏・土師器(黒色処理)坏で構成される。土師器(非黒色処理)坏は組成しない。須恵器坏は器高5cm以上、土師器(黒色処理)坏は5cm以下にまとまる。底面調整は手持ちヘラケズリが多い。

**第Ⅱ期** 須恵器坏・土師器(黒色処理・非黒色処理)坏で構成されるが、土師器(黒色処理)坏が5割以上で主体をなす。須恵器坏は依然器高5cm以上、土師器(黒色処理・非黒色処理)坏は5cm以下に留まる。土師器(黒色処理・非黒色処理)坏に法量差は認められない。底面の切り離し技法は回転系切り主体で手持ちヘラケズリが組成する。

**第Ⅲ期** 須恵器・土師器(黒色処理・非黒色処理)坏で構成される。土師器(黒色処理)坏が主体をなす。須恵器坏は器高5cm付近、土師器(黒色処理・非黒色処理)坏は5cmを越すものが出現する。土師器(黒色処理)坏と土師器(非黒色処理)坏間に法量差は認められない。底面の切り離し技法は回転系切りによる。手持ちヘラケズリが少量残存する。

**第Ⅳ期** 須恵器・土師器(黒色処理・非黒色処理)坏で構成される。土師器(非黒色処理)坏が5割以上を占め、主体をなす。須恵器坏の器高は5cm以下となり、土師器(黒色処理)坏が5cm以上、土師器(非黒色処理)坏が3.7~4.7cmで、土師器(黒色処理)坏と土師器(非黒色処理)坏の法量分布が分化する。底面の切り離し技法は回転系切りによる。

この4期区分を踏まえて各住居出土の土器を観察すると以下の結果となる。

第Ⅰ期 RA23・38

第Ⅱ期 RA01・09・18・24・32

第Ⅲ期 RA02・07・11・17・20・25・28・29・37 第Ⅱ~Ⅲ期 RA05・12・14・15・21・25

第Ⅳ期 RA10・16・22・39 第Ⅲ~Ⅳ期 RA04・31・33・36

第Ⅰ期2棟、第Ⅱ期5棟、第Ⅲ期および第Ⅱ~Ⅲ期15棟、第Ⅳ期および第Ⅲ~Ⅳ期8棟とした。なお、RA08は出土遺物がないため区分できない。またRA03・06・08・13・19は判断要素に乏しく不明とする。出土数が少なく、不確定住居では第Ⅰ期(?)RA34・35、第Ⅱ期(?)RA27、第Ⅲ期(?)RA26がある。

第17表 住居跡出土土器組成

| 調査<br>区画 | 調査<br>回数 | 須志器類 |   |     | 土師器(黑色処理)<br>高台付坏 |    |     | 土師<br>器<br>(器<br>身) | 土師器(黒色処理)<br>子 |   |     | 土師器(非黒色処理)<br>高台付坏 |    |     | 土師器(非黒色処理)<br>壺 |    |     | あかやき壺 |    | あかやき壺 |    | 耳皿 | 数 | 住居<br>跡出<br>土数 |     |
|----------|----------|------|---|-----|-------------------|----|-----|---------------------|----------------|---|-----|--------------------|----|-----|-----------------|----|-----|-------|----|-------|----|----|---|----------------|-----|
|          |          | A    | B | A+B | A                 | B  | A+B |                     | A              | B | A+B | A                  | B  | A+B | A               | B  | A+B | A     | B  | A     | B  |    |   |                |     |
| RA01     | 7        | 1    | 1 |     | 4                 | 1  |     |                     | 1              | 5 | 2   | 1                  | 1  | 9   | 6               |    |     |       | 1  |       |    |    |   | 41             |     |
| RA02     | 3        |      |   |     |                   | 5  |     |                     |                | 1 | 2   | 1                  |    |     | 8               | 1  |     |       |    |       |    |    |   | 21             |     |
| RA03     |          |      |   |     |                   |    |     |                     |                |   |     |                    |    |     |                 |    |     |       |    |       |    |    |   | 1              |     |
| RA04     |          |      |   |     | 4                 |    |     |                     |                | 2 | 2   |                    | 1  | 1   | 5               |    |     |       |    |       |    |    |   | 15             |     |
| RA05     | 1        | 1    |   | 1   | 1                 |    | 2   |                     |                | 1 | 2   |                    | 1  | 1   | 4               | 6  |     |       |    |       |    |    |   | 21             |     |
| RA06     | 2        | 2    |   | 1   |                   |    |     |                     |                |   |     |                    |    |     | 1               |    |     |       |    |       |    |    |   | 6              |     |
| RA07     | 1        |      |   |     |                   | 3  |     |                     | 1              | 1 |     |                    |    |     | 1               |    |     |       |    |       |    |    |   | 7              |     |
| RA08     |          |      |   |     |                   |    |     |                     |                |   |     |                    |    |     |                 |    |     |       |    |       |    |    |   | 0              |     |
| RA09     | 1        | 2    |   | 1   | 1                 | 6  |     | 4                   |                | 2 | 1   | 1                  |    | 1   | 1               | 13 |     |       |    |       |    |    |   | 36             |     |
| RA10     | 1        | 4    |   |     | 2                 | 1  | 3   | 1                   |                | 4 | 6   | 1                  |    | 1   | 3               | 9  |     |       |    |       |    |    |   | 36             |     |
| RA11     | 1        |      |   |     | 2                 |    |     |                     | 1              | 1 |     |                    |    |     | 5               | 2  |     |       |    |       |    |    |   | 12             |     |
| RA12     | 2        |      |   |     | 2                 | 1  | 2   |                     |                | 2 | 2   | 1                  |    | 1   | 1               | 1  |     |       |    |       |    |    |   | 14             |     |
| RA13     |          |      |   |     |                   |    |     | 1                   |                | 1 | 2   |                    |    |     | 5               |    |     |       |    |       | 1  |    |   | 10             |     |
| RA14     | 3        | 4    |   | 1   | 2                 | 3  |     |                     |                | 5 | 1   |                    |    | 1   | 7               | 4  |     |       |    |       |    |    |   | 32             |     |
| RA15     | 7        | 4    | 2 | 1   |                   | 4  | 1   |                     |                | 3 |     |                    | 1  | 1   | 3               | 3  |     |       | 1  |       |    | 1  |   | 31             |     |
| RA16     | 1        | 5    |   |     |                   | 2  | 1   |                     | 1              | 1 | 4   |                    |    | 1   | 3               | 4  | 1   |       |    |       |    |    |   | 24             |     |
| RA17     |          |      |   |     | 2                 |    |     |                     |                | 2 |     |                    |    |     |                 |    |     |       |    |       |    |    |   | 4              |     |
| RA18     | 4        |      | 1 |     | 1                 | 6  |     |                     |                | 1 |     |                    |    | 3   | 2               |    |     |       |    |       |    |    |   | 18             |     |
| RA19     | 1        |      |   |     |                   |    |     |                     |                |   |     |                    |    | 1   |                 |    |     |       |    |       |    |    |   | 2              |     |
| RA20     | 2        | 1    |   |     |                   | 2  | 1   |                     | 1              | 2 | 1   | 1                  |    | 1   | 1               | 1  |     |       |    |       |    |    |   | 14             |     |
| RA21     |          |      |   |     |                   | 3  |     |                     |                | 2 | 1   | 1                  |    | 1   | 2               | 5  | 3   | 1     |    |       |    |    |   | 19             |     |
| RA22     | 1        |      | 1 |     |                   | 1  |     |                     |                | 1 | 2   |                    |    | 2   | 4               | 3  |     |       |    |       |    |    |   | 15             |     |
| RA23     | 1        |      |   |     |                   | 4  |     |                     |                |   |     |                    | 1  |     | 7               | 2  |     |       |    |       |    |    |   | 15             |     |
| RA24     | 2        | 2    |   |     |                   |    |     |                     |                | 1 | 1   |                    |    |     | 6               | 3  |     |       |    |       |    |    |   | 17             |     |
| RA25     | 2        |      | 1 |     | 1                 | 6  |     | 1                   | 1              | 4 | 1   |                    |    | 1   | 3               | 8  | 8   |       |    |       |    |    |   | 37             |     |
| RA26     |          |      |   |     |                   | 1  |     | 1                   |                |   |     |                    |    | 1   | 1               |    |     |       |    |       |    |    |   | 4              |     |
| RA27     |          |      |   |     |                   |    |     |                     |                | 1 |     |                    |    |     | 2               |    |     |       |    |       |    |    |   | 3              |     |
| RA28     |          |      |   |     |                   | 2  |     |                     |                | 3 | 1   |                    |    |     | 2               |    |     |       |    |       |    | 1  |   | 11             |     |
| RA29     | 4        | 4    |   | 1   | 3                 | 6  | 2   |                     | 3              | 1 | 5   | 3                  |    | 2   | 1               | 1  | 7   | 12    |    |       |    |    |   | 55             |     |
| RA30     | 1        |      |   |     |                   |    |     |                     |                |   |     |                    |    |     | 2               |    |     |       |    |       |    |    |   | 3              |     |
| RA31     | 2        |      |   |     |                   | 5  | 1   |                     | 1              | 1 | 7   |                    |    | 1   | 1               | 4  | 2   |       |    |       | 1  |    |   | 26             |     |
| RA32     |          |      |   |     |                   | 1  |     |                     |                |   | 2   |                    |    |     | 2               | 1  |     |       |    |       |    |    |   | 6              |     |
| RA33     | 1        |      |   |     |                   | 1  |     |                     |                | 1 | 4   | 1                  |    |     | 4               | 3  | 3   | 3     |    |       |    |    | 1 | 22             |     |
| RA34     |          |      |   |     |                   | 2  |     |                     |                |   |     |                    |    |     | 1               | 1  |     |       |    |       |    |    |   | 4              |     |
| RA35     | 1        |      |   |     |                   | 1  |     |                     |                |   |     |                    |    |     |                 |    |     |       |    |       |    |    |   | 2              |     |
| RA36     |          |      |   |     |                   | 4  |     |                     |                |   |     |                    |    |     | 2               | 3  |     |       |    |       |    |    |   | 6              |     |
| RA37     | 5        |      |   |     |                   |    |     |                     |                | 3 | 2   |                    |    |     | 3               | 1  | 7   |       |    |       |    |    |   | 21             |     |
| RA38     | 3        | 1    |   |     |                   | 2  | 1   |                     |                |   |     |                    |    | 1   |                 |    | 7   |       |    |       |    |    |   | 15             |     |
| RA39     | 4        | 2    | 1 | 2   | 3                 | 1  | 1   |                     |                | 1 | 3   |                    |    | 1   | 2               | 4  |     |       |    |       |    |    |   | 25             |     |
| 合計       | 12       | 50   | 5 | 11  | 14                | 12 | 82  | 12                  | 2              | 8 | 7   | 2                  | 47 | 53  | 15              | 4  | 6   | 19    | 36 | 134   | 82 | 1  | 1 | 1              | 651 |

(3) 高台付坏の構成

遺跡全体で34点(4.4%)出土している。土師器(黒色処理)19点と土師器(非黒色処理)15点、胎土に金雲母を含む資料が9点ある。金雲母の混入は土師器(黒色処理)8点、土師器(非黒色処理)1点である。

(4) 甕・壺の構成

甕は370点(47.7%)出土している。須志器甕53点、土師器(黒色処理)甕2点、土師器(非黒色処理)甕313点、あかやき甕2点である。土師器(非黒色処理)甕はロクロ成形が19点、ロクロ成形後ヘラケズリ再調整が36点、非ロクロ成形が134点である。壺は須志器36点(ロクロ成形5:ヘラケズリ再調整11)、あかやき土器4点(ロクロ成形1:ヘラケズリ再調整2)出土している。残存率が低く10点不明である。

## (5) 食膳具に施される線刻の種類

杯・高台付杯・耳皿には線刻が施されるものが合計12点出土している。線刻のパターンは2本線が交差する「X」状のものが4点、3～4本が交差し地形図で表記される神社シンボルに似るものが5点、「人」字状のものが3点である。施文される器種は土師器（黒色処理）杯2点、土師器（非黒色処理）杯7点、高台付杯（黒色処理）2点、耳皿1点である。耳皿が内面底部に施文される以外は体部中央～下半部に施文される。底面調整は全て回転系切り無調整によるものである。

## (6) 編年の位置付け

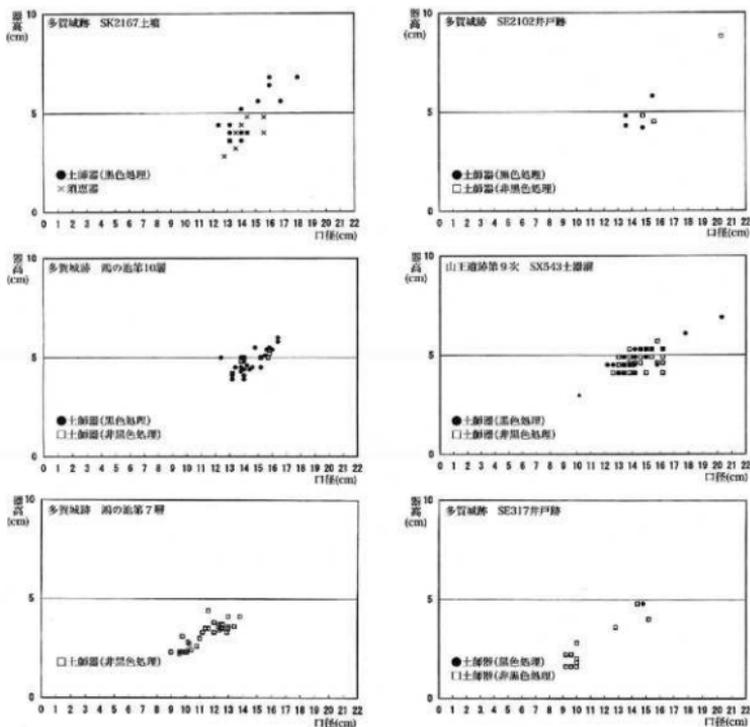
本遺跡の資料について多賀城周辺の状況を参考に、簡単な編年の位置付けを行う。第208図に多賀城周辺における編年を軸心敷に用いられた（柳澤1994・多賀城研1998）「活性の高い資料の法量をグラフ化した。多賀城跡S K2167土層出土資料は須恵器杯と土師器（黒色処理）杯で構成され、土師器（非黒色処理）杯は組成しない。須恵器の口径は12.8～15.6cm、器高2.8～4.8cmである。土師器（黒色処理）杯の口径12.4～18.0cm、器高3.6～6.8cmである。土師器（黒色処理）杯の体下半部は回転ヘラケズリが施されるものが多い。須恵器杯の器高は5cm以下にまとまり、対して土師器（黒色処理）杯の器高は分布域が広い。柳澤編年（柳澤1994）で9世紀中葉頃とされている資料である。

多賀城跡S E2102井戸跡出土資料は須恵器杯と土師器（黒色処理）杯で構成され、土師器（非黒色処理）杯は組成しない。須恵器の口径は14.8～20.3cm、器高は4.8～8.8cmである。土師器（黒色処理）杯の口径は13.6～15.5cm、器高は4.2～5.8cmに分布する。土師器（黒色処理）杯の底面は手持ちヘラケズリ再調整が施されているものが多い。須恵器杯と土師器（黒色処理）杯の分布域はほぼ同じだが、須恵器杯の方が若干まとまりが強い。柳澤編年（柳澤1994）の9世紀第3四半期頃とされている資料である。

多賀城跡鴻の池第10層出土資料は土師器（黒色処理・非黒色処理）杯で構成される。報告されている点数による組成は土師器（黒色処理）杯26点、土師器（非黒色処理）杯6点で土師器（黒色処理）杯が主体をなす。土師器（黒色処理）杯の口径は12.4～16.4cm、器高は3.9～6.0cmである。土師器（非黒色処理）杯の口径は13.2～15.8cm、器高は4.2～5.2cmである。土師器（黒色処理）杯の底面は手持ちヘラケズリ再調整が残るものが半数以上を占める。土師器（黒色処理・非黒色処理）杯の分布は重なるが、土師器（非黒色処理）杯の方がまとまりが強い。柳澤編年（多賀城研1998）の9世紀第4四半期頃の資料である。

山王遺跡第9次調査S X543土層溜出土資料は土師器（黒色処理・非黒色処理）杯で構成される。報告点数組成は土師器（黒色処理）杯45点、土師器（非黒色処理）杯131点で圧倒的に土師器（非黒色処理）杯が主体をなす。土師器（黒色処理）杯の口径は12.2～20.3cm、器高4.1～6.9cmである。土師器（非黒色処理）杯の口径は12.6～16.2cm、器高4.1～5.7cmである。土師器（黒色処理）杯の底面は手持ちヘラケズリ再調整が3点あるが主体は回転系切り無調整である。土師器（黒色処理・非黒色処理）杯の分布域は重なるが土師器（黒色処理）杯は分布域が広い。柳澤編年（多賀城研1998）10世紀前葉頃の資料である。

多賀城跡鴻の池第7層は土師器（黒色処理・非黒色処理）杯で構成される。報告されている点数による組成は土師器（黒色処理）杯4点、土師器（非黒色処理）杯34点で土師器（非黒色処理）杯が主体をなす。土師器（黒色処理）杯の口径は11.9～16.0cm、器高は4.2～5cmである。土師器（非黒色処理）杯の口径は9.0～13.8cm、器高は2.2～4.4cmである。いずれも底面は回転系切り無調整である。土師器（黒色処理）杯と土師器（非黒色処理）杯の分布域が明確に分化している。土師器（非黒色処理）杯は器高4.4cm以下の小型にまとまり、土師器（黒色処理）杯は5cm付近に分布する。柳澤編年10世紀前～中葉頃の資料である。



第208図 多賀城跡・山王遺跡出土土師器法量分布

多賀城跡SE317井戸跡は土師器（黒色処理・非黒色処理）坏と土師器（非黒色処理）小皿で構成される。報告点数は土師器（黒色処理）坏1点、土師器（非黒色処理）坏3点、土師器（非黒色処理）小皿11点である。土師器（非黒色処理）坏はこの段階で法量が坏と小皿に分化している。底面調整は全て回転系切り無調整である。柳澤編年の10世紀中葉頃とされている資料である。

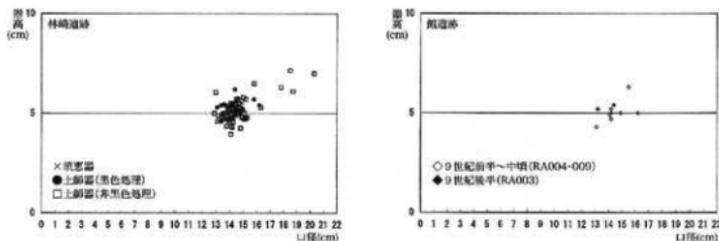
細谷地遺跡資料を多賀城周辺における9世紀中葉～10世紀中葉にかけての編年に対比すると、土師器（黒色処理）坏が組成しない点で第I期が多賀城跡SK2167土師器、第II・III期が多賀城SE2102井戸跡・多賀城跡の池第10層に似る。土師器（非黒色処理）坏が主体をなし、土師器（黒色処理）と土師器（非黒色処理）坏の法量分布域が分かれる点で第IV期が山王遺跡SX1080・多賀城跡の池第7層の様相に近いが、細谷地資料は小型坏がほとんど組成しないため、多賀城跡の池第7層まで降らない可能性がある。細谷地資料は小皿がないため多賀城跡SE317井戸跡までは降らない。

志波城周辺資料では、志波城跡外郭外、細谷地遺跡からは北西約2.5km地点に位置する林崎遺跡がある(盛岡市教委1979)。林崎遺跡の遺物が多く出土しているRA01・02・03・04・07・09を対象に比較すると、各住居跡は切り合いが認められ新旧関係があると思われるが、坏組成から見ると土師器(黒色処理・非黒色処理)が共存し、いずれも土師器(非黒色処理)主体となっている。第209図に住居跡出土の坏を合成してグラフ化した。法量分布に関しても各住居毎に若干のずれは生じるが、おおそ口径13~16cm、器高4~6cmにまとまる。報告書では9世紀後半をあまり前後しない時期に比定されている。

館遺跡は志波城跡外郭外、細谷地遺跡から約4.6km地点に位置する。館遺跡は平安時代の堅穴住居跡が23棟検出されている(盛岡市教委1999)。9世紀前半~中頃とされている住居床面出土で口径・器高データが得られる坏はRA004・009にある。口径13.1~16.2cm、器高4.3~6.3cmである。この時期の住居出土土器保有の比率は須恵器49個体(27.2%)、土師器(非黒色処理)56個体(41.7%)、土師器(黒色処理)56個体(31.1%)で土師器(非黒色処理)が若干多い。各種類毎に大きな法量差は認められない。次に9世紀後半とされ、住居床面出土で口径・器高データが得られる坏はRA03にある。口径13.2~14.4cm、器高5.2~5.4cmにまとまる。土器保有の比率は須恵器12個体(14.0%)、土師器(非黒色処理)39個体(45.3%)、土師器(黒色処理)35個体(40.7%)で土師器(非黒色処理)が若干多い。各種類毎に大きな法量差は認められない。第209図に館遺跡RA004・009およびRA003出土坏を合成し、法量を示した。林崎遺跡と館遺跡は土師器(非黒色処理)が組成し、須恵器坏・土師器(黒色処理)坏・土師器(非黒色処理)坏の法量がほぼ重なることが分かる。どちらの報告書もあまり時期のずれはなく、志波城周辺の9世紀代の様相を示しているといえる。

細谷地遺跡資料を比較すると、林崎遺跡・館遺跡の土器様相と類似する土器群は第Ⅱ~Ⅲ期と考えられる。さらに第Ⅱ~Ⅲ期は多賀城周辺の編年資料と比較して、多賀城跡SE2102および瀧の池第10層つまり9世紀第3四半期頃~第4四半期頃と考えており、時期がほぼ対応する。

細谷地遺跡の中心時期となる第Ⅱ~Ⅲ期は土師器(黒色処理)坏主体から土師器(非黒色処理)坏主体への移行期にあたる。この時期の組成比の逆転は志波城周辺だけでなく、多賀城周辺においても同様の変化が見られることはこれまでに検討が行われてきた(白鳥1980・1998、柳澤1994、多賀城研1998)。また10世紀前葉に土師器(非黒色処理)坏が主体をなし、小型坏が出現することも指摘されていることで(多賀城研1998)、今回細谷地遺跡資料を分析しても同様の結果が得られたと考える。(八木)



第209図 林崎遺跡・館遺跡出土坏法量分布

## 第4節 平安時代の遺物（鉄製品・石製品・土製品）

### （1）鉄製品

掘出した鉄製品21点の内、表土から出土した2点、鉄銭寛文通寶1点を除き18点が平安時代の住居跡から出土している。器種は刀子9点、目釘式手鎌3点、鉄鎌1点、足金具1点、釘1点、不明筒形鉄製品1点、不明棒状鉄製品2点となっている。鉄製品を出土した住居跡は12棟で全体の30%である。RA04・24住居跡にそれぞれ3点あるが、全体としては鉄製品の残存が少ない傾向が指摘できる。また一般に出土例が多いとされる紡錘車は見られない。

刀子はいずれも破損品で、刃部のみ、柄部のみの残存となるものも多く、刀子以外の器種を含んでいる恐れがある。大きさのばらつきも目立ち、武器、工具等、用途の違いが考えられる。

手鎌は薄い刃部に目釘が穿たれているもので、穂鋸兵としての用途が想定されている（小川1980）。完形に近いRA23 14では長さ9cmで両端に目釘が残る。

鉄鎌は短茎で鎌身が長三角形となるものである。当地域の古代集落では穂股鎌が多い傾向にあるが、今回の調査区では出土していない。

足金具は古代の刀装具に多い環付單脚式の1種と考えられる（瀧瀬1991）。板状貴金具の背部に帯轆轡を取り付ける連結部が付く構造は類例を見つけることができなかった。

不明筒形鉄製品は貫通孔があり錐状鉄製品に装着される鉄鐙の可能性が高いものである（井上2002）。

### （2）石製品

石製品では砥石18点、台石2点、磨石8点、石錘8点が平安時代の遺構から出土している。

砥石はA種：玄武岩質溶岩を利用した荒砥石（14点）、B種：凝灰岩・砂岩を利用した仕上げ砥石（4点）に大きく2分される。A種では岩手山等の奥羽山系第四紀火山起源の溶岩質素材を使用しており、多面体の直角稜における任意の面を砥面として使用している状況である。完形品は5点で、重量はRA15 29の200gからRA15-28の16kgまでの差があり、大型品は置き砥石として使用されたものと思われる。砥面の中には幅10mm程度の深く刻み込まれた溝状の痕跡が複数平行するものがある（RA10-40、RA14-31、RA39-26）。B種は直方体の形状となり、完形のRA21-17では640gの重量がある。荒砥石の数に比較して仕上げ砥石が少ない。

磨石は安山岩、石英安山岩等の円礫を利用しており、平坦面に磨減痕、敲打痕といった使用痕跡が見られる。敲石として使用されたものを含むと考えられる。

石錘はRA11住居跡から5点まとまって出土している。いずれも扁平礫の側縁に敲打剥離により1対の抉りを入れたものである。

### （3）土製品

土製品では土錘1点、紡錘車1点、羽口がある。

羽口はRA29住居跡から複数の破片出土が見られた。個体数では3～4個体になると考えられる。同住居跡からは鍛冶滓の出土があり、鍛冶炉等は検出していないが、鉄器生産に関連する作業が行われていたものと考えられる。

（高木）

## 第5節 平安時代の集落構成

前節までに検討した平安時代集落の展開についてまとめる。

今回の調査区内では9世紀後半から10世紀前葉にかけて形成された集落址が検出された。集落は竪穴住居跡40棟、掘立柱建物跡、区画溝、各種の土坑などから構成されている。第2節において住居跡の新旧関係や灰白色火山灰の堆積状況等、遺構の残存状況から検討した結果、住居跡群の時期が1～6期に区分される可能性を指摘した。灰白色火山灰は十和田a降下火山灰である可能性が高く、降下年代が10世紀初頭と想定されている。住居跡のうち大部分は堆積土に火山灰ブロックを含み降下以前のもと考えられることから、集落の主体は9世紀後半～10世紀初頭と見なされる。

一方、第3節において住居跡単位で出土土器の検討を行った結果、Ⅰ～Ⅳ期の土器群を設定した。また、盛岡周辺や多賀城周辺等他遺跡との比較による土器の編年の位置付けから見て、これらは9世紀後半～10世紀初頭段階を主体としており、大きくはずれるものは含まれていないと想定された。

両者の時期区分は個別に行っており、個々の住居跡の位置付けを対応させると必ずしも整合せず、第18表のように錯綜した関係となる。この状態については次のように解釈したい。

第Ⅰ期土器群に該当する4棟のうち、R A 23・38は灰白色火山灰を含まない堆積土、R A 34・35は堆積土中に灰白色火山灰を含む。しかしR A 34・35は一部分だけの精舎であり遺物量は少なく、組成比を示すにはやや無理がある。これらを除き、土師器（非黒色処理）環を含まない第Ⅰ期の土器群を持つR A 23・38は堆積土に火山灰を含まない古段階の住居跡と捉えられる。

第Ⅳ期土器群に該当する4棟ではR A 22以外は床面に火山灰が密着するR A 16、掘り方に火山灰を含むR A 39、火山灰を含まないR A 10となる。また出土量が少なくⅢ～Ⅳ期とした4棟も概ね同様の傾向にある。これより第Ⅳ期土器群は遺構時期区分の4～6期に相当すると捉えられる。特にR A 10は遺構時期区分での最終段階6期にあたり、出土土器も全体の中で最も新相の特徴を備える火山灰降下後の指標と考えている。R A 22についてはR A 18に切れる住居跡だが出土土器の関係と逆転している。これも出土量の少なさに起因している可能性が高い。

残りの第Ⅱ～Ⅲ期土器群を伴う住居跡は、遺構時期区分の1～4期とほぼ対応する。個々の位置付けが錯綜する点については、土器時期区分において漸移的な変化を示す組成比、法量比を判断基準として出土量が充分でない遺構を位置づけていることから生じる誤差、及び、遺構時期区分において、火山灰の堆積状況が個々の住居跡の埋没過程、埋没速度の差を度外視して、それらの条件が均一であるという仮定を前提としたことから生じる食い違いが原因となっているものと思われる。逆に、土器による時期区分Ⅱ～Ⅲ期と遺構による時期区分1～4期の錯綜した対応関係は、それぞれがきほど時間幅のない段階に集中しているためであるとも考えられる。

結果として、竪穴住居跡の変遷を捉え、時期の棟数を明らかにしようと試みたが検討不十分につき中途半端な状態で報告せざるを得ない。しかし大きく捉えれば9世紀中葉において第Ⅰ期土器群を持ち灰白色火山灰を含まない少数の住居跡から集落が成立し、9世紀後半～未段階で第Ⅱ・Ⅲ期土器群を伴い埋没時点で灰白色火山灰が堆積土に含まれる5・6棟～10棟前後の住居跡からなる集落に拡大し、10世紀初頭の灰白色火山灰降下を経て、10世紀前葉段階の第Ⅳ期土器群を持つ複数の住居跡で構成される集落へ縮小、10世紀中葉段階に至って集落の廃絶という経過を辿ることができよう。今回の調査区内に限って言えば集落としての存続期間は、恐らく50年から長くとも100年間以内のうちに完結しているものと捉えることができる。

第18表 住居跡時期区分対応表

| 土器時期区分 | 遺構名       | 遺構名       | 遺構時期区分 |                  |
|--------|-----------|-----------|--------|------------------|
| I      | RA23      | RA05      | 1      | 火山灰なし古期          |
| I      | RA38      | RA06      | 1      |                  |
| I(?)   | RA34      | RA12      | 1      |                  |
| I(?)   | RA35      | RA13      | 1      |                  |
| II     | RA01(1期)  | RA22      | 1      | 火山灰焼出面           |
| II     | RA01(II期) | RA24      | 1      |                  |
| II     | RA09      | RA32      | 1      |                  |
| II     | RA24      | RA02      | 2      |                  |
| II     | RA32      | RA11      | 2      |                  |
| II(?)  | RA27      | RA14      | 2      |                  |
| II~III | RA05      | RA15      | 2      |                  |
| II~III | RA12      | RA17      | 2      |                  |
| II~III | RA14      | RA20      | 2      |                  |
| II~III | RA15      | RA30      | 2      |                  |
| II~III | RA18      | RA37      | 2      |                  |
| II~III | RA21      | RA01(I期)  | 3      | 火山灰堆積土中位         |
| III    | RA02      | RA03      | 3      |                  |
| III    | RA07      | RA09      | 3      |                  |
| III    | RA20      | RA26      | 3      |                  |
| III    | RA25      | RA29      | 3      |                  |
| III    | RA28      | RA34      | 3      |                  |
| III    | RA29      | RA35      | 3      |                  |
| III    | RA37      | RA01(II期) | 4      | 火山灰床面            |
| III    | RA17      | RA08      | 4      |                  |
| III(?) | RA11      | RA16      | 4      |                  |
| III(?) | RA26      | RA18      | 4      |                  |
| III~IV | RA04      | RA19      | 4      |                  |
| III~IV | RA31      | RA21      | 4      |                  |
| III~IV | RA33      | RA25      | 4      |                  |
| III~IV | RA36      | RA33      | 4      |                  |
| IV     | RA10      | RA36      | 4      |                  |
| IV     | RA16      | RA39      | 5      |                  |
| IV     | RA22      | RA04      | 6      | 火山灰掘り方<br>し新期灰なし |
| IV     | RA39      | RA10      | 6      |                  |
| ?      | RA03      | RA31      | 6      |                  |
| ?      | RA06      | RA23      | ?      | 火山灰なし不明          |
| ?      | RA08      | RA07      | ?      |                  |
| ?      | RA13      | RA27      | ?      |                  |
| ?      | RA19      | RA28      | ?      |                  |
| ?      | RA30      | RA38      | ?      |                  |

北上川流域北部における古代集落の様相をまとめた西野修氏の研究成果によると(西野1998)、新波郡、伊賀郡、和歌郡共に、9世紀後半～10世紀前半にかけての時期に各地で集落の新たな出現、堅穴住居跡棟敷のピークが認められる。同時に1集落の規模は住居跡3～4軒程度といった小集落が多い点において7～8世紀代の集落との質的な違いが指摘されている。今回の細谷地遺跡調査区もこの傾向に合致した状態と捉えられる。地域全体でのこうした動静の背景として生産力の向上、人口増加に伴う集落域の拡大が考えられようが、水田址等の生産遺跡の実態にはされていないため、ここでは言及できない。

また、住居跡の規模により大(20m以上)中(9.2～17.4m)小(4.0～8.1m)極小(2.6m)の区分を想定した。該期の住居跡は規模が前代より縮小傾向にあることが指摘されている(西野1998、伊藤1998など)。具体的な区分としては、伊藤博幸氏による県南部の遺跡を対象とした分析から20m台の中心的住居、10m台の中間的規模の住居、10m以下の小規模住居という3種の構成が基本的特徴と捉えられており、これが前代までの小規模住居の3分化した様相であると位置づけられている(伊藤1998)。同様に今回の調査区において

も、各時期毎に大中小に分化した規模の住居跡がセットをなすと想定しており、一般集落の様相を端的に示している。人形の住居跡はカマドの作り替えが普遍的になされ、しっかりした柱穴を持つことから上層構造が堅固であり耐用年数が中小規模の住居跡に比較して長いのではないかと想定した。しかし、規模の違いと出土遺物の質的な差が有意な関連を持つかどうかははっきりしない。特に鉄器類は全体量が少ないこともあり規模と関連する偏在傾向は見られない。こうした点から住居規模の差を直ちに集落内における階層差と結びつけるには検討材料が不足している。一方、首長層の存在を示唆する特化した大型住居がないことも該期の傾向と変わらない。7～8世紀代で見れば中小規模と言える住居が、該期の集落において中核的な存在であることは確かである。

細谷地遺跡における古代集落の広がりについては今回の調査では北端の居住域境界線が明らかとなった。すなわち遺跡の北辺は東西に伸びる旧河道に面する状態である。この旧河道によって飯岡才川遺跡、及び東側の向中野船跡遺跡とが区分される。また第5次調査区南西部飛び地においては、第4次調査区と一連の地形面であるにも関わらず、RA36・RA37の両住居跡以西に該期の遺構が分布していない。後世の削平は顕著に行われていない場所であることから、この付近が居住域の北西端となっている可能性が高いと思われる。一方、南側は調査区外に向かって同一地形面が広がっており、隣接地区については第4次調査区と同程度の遺構密度となる可能性を持つ区域と思われる。しかし、第II章で概観したように当地域における古代集落の立地は段丘縁辺の旧河道に面した場所に偏在する傾向が認められることから、集落の範囲が南側に大きく広がるかどうかはやや疑問がある。

以上記載したような古代集落の在り方について、これまで当地域における数多くの調査例で明らかにされてきたような動向に特に日新しい点を付け加えることはないが、集落構成の検討には良好な資料を提供できるものと考えられる。古代以外の縄文、近世等他時期の状況について、また古代においても今回試みた土器分類の妥当性、花弁状の陪文を持つ環の類例、横穴状土坑の検討など不十分な点が多く残るが、今後の課題としたい。

(高木)

#### 引用・参考文献

- 吉木 敬 1999 「奄摩寮考 多摩市和山西遺跡からみた検討―I「土壁」第3号  
 伊藤博幸 1997 「津合村遺跡の基礎構造 一期次城周辺の平安期集落―」『岩手史学研究』第80号  
 伊藤博幸 1998 「後中期の集落」『岩手考古学』第10号  
 井上雅孝 2002 錫杖状鉄製品の研究 一北東北における古代祭祀具の一形態―」『岩手考古学』第14号  
 岡田茂弘・桑原滋郎 1974 「多賀城周辺における古代杯形土器の変遷」『研究紀要』I 宮城県多賀城跡調査研究所  
 小川貴明 1979 「回転糸切り技法の展開」『考古学研究』第26巻第1号  
 小川貴明 1980 「出土鉄製品とその問題点」『鏡ヶ岡村古墳遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第54集  
 上藤雅樹・桑原滋郎 1973 「東北地方における古代土器生産の展開」『考古学雑誌』第57巻第3号  
 桑原滋郎 1976 「須恵系土器について」『東北考古学の諸問題』  
 小川和夫 1984 「いわゆる赤埴土器について」『東北歴史資料館研究紀要』第10巻  
 後藤守 1939 「上古時代鉄器の年代研究」『人類学雑誌』第54巻第4号  
 坂本克典・杉野森洋子 1997 青森県における論し穴集居」『研究紀要』第2号 青森県埋蔵文化財調査センター  
 桜田 隆 1993 「「砂盛」土器考」『瀬古論叢 久保哲三先生追悼論文集』  
 佐藤宏之 2000 「北方狩猟民の民族考古学」北海道出版企画センター  
 白鳥良一 1980 「多賀城出土土器の変遷」『研究紀要』VII 宮城県多賀城跡調査研究所  
 白鳥良一 1982 「第VI章 2 土器類」『第II章 2(2)土器』『多賀城跡 政庁跡本文編』宮城県多賀城跡調査研究所  
 杉井 健 1993 「庵の地域性とその背景」『考古学研究』第40巻第1号

- 鈴木孝之 1991 「石組みの井戸跡について - 古代～中近世の井戸跡について(2) | 『埼玉考古学論集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 高橋信雄 1985 「岩手の古代集落」『口高見の国 - 菊池善治同学兄遺墨記念論文集 -』
- 滋瀬方之 1991 「太刀の佩川について」『埼玉考古学論集』(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 西野 修 1998 「城権と地域社会の変容 - 北上盆地北部の様相 -」『第24回古代城権官衙遺跡検討会資料集』
- 村田泉一 1994 「土部からみた官衙の終末 - 東北地方の場合 -」『古代官衙の終末をめぐる諸問題 第1分冊』第3回東北日本埋蔵文化財研究会
- 村田泉一 1995 「宮城郡における10世紀前後の土器」『福島考古』第36号
- 八木光則 1993 「陸奥中部における古代末期の土器群」『歴史時代1.器研究』第8号
- 八木光則 1998 「城権と地域社会の変容 - 馬淵川流域の様相 -」『第24回古代城権官衙遺跡検討会資料集』
- 柳澤和明 1994 「東北の施輪陶器 - 陸奥を中心に -」『古代の上器研究 - 肆合的土器様式の西・東3施輪陶器 -』古代の上器研究会
- 柳澤和明・谷本俊典 2000 「宮城周辺における1器編年の対比とその基準資料」『第3回東北古代土器検討会資料』宮路研究会(編) 1997 「古代の土器生産と焼成機構」
- 青森県教育委員会 2000 『野木遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第281集
- 青森県教育委員会 2000 『岩ノ沢平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第287集
- 青森県教育委員会 2001 『安田(2)遺跡Ⅱ』青森県埋蔵文化財調査報告書第303集
- 青森県教育委員会 2002 『安田(2)遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第321集
- 青森市教育委員会 2000 『野木遺跡発掘調査報告書Ⅴ』青森市埋蔵文化財調査報告書第54集  
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 1988 『飛鳥台地1遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第120集
- 1996 『小幡遺跡第2次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第244集
- 1996 『小幡遺跡第4次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第265集
- 2000 『向中野館遺跡第4次・小幡遺跡第11次・台太郎遺跡第19次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第321集
- 2000 『向中野館遺跡第3次・小幡遺跡第10次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第338集
- 2001 『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集
- 2002 『楯倉B遺跡第10次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第377集
- 2002 『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第393集
- 埼玉県立民俗文化センター 1985 『山物』埼玉県民俗工芸緊急調査報告書第二集
- 多賀城市埋蔵文化財調査センター 1991 『山王遺跡第9次発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第26集
- 郡山市教育委員会 1979 『白川木遺跡発掘調査報告書』
- 八戸市教育委員会 1989 『熊野堂遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第32集
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1992 『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1991』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1993 『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1992』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1994 『多賀城跡 宮城県多賀城跡調査研究所年報1993』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1995 『宮城県多賀城跡調査研究所年報1994』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1998 『宮城県多賀城跡調査研究所年報1997』
- 盛岡市教育委員会 1979 『太田方八丁遺跡 昭和53年度発掘調査概報』
- 盛岡市教育委員会 1981 『志波城跡Ⅰ - 太田方八丁遺跡前編論証調査報告 -』
- 盛岡市教育委員会 1992 『館・松ノ木遺跡 - 古代の遺構編一』
- 盛岡市教育委員会 1999 『館・松ノ木遺跡 - 古代の遺物編一』



## 付編 1. 細谷地遺跡出土土器胎土分析

韓第四紀地質研究所 井上 巖

### X線回折試験及び化学分析試験

#### 1. 実験条件

##### 1-1 試料

分析に供した試料は第1表胎土性状表に示す通りである。X線回折試験に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉砕し、粉末試料として実験に供した。

化学分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切斷し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。

##### 1-2 X線回折試験

土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折試験によった。測定には日本電子製JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°

計数時間: 0.5秒。

##### 1-3 化学分析

元素分析は日本電子製5300LV型電子顕微鏡に2001型エネルギー分散型蛍光X線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧: 15kV、分析法: スプリント法、分析倍率: 200倍、分析有効時間: 100秒、分析指定元素10元素で行った。

#### 2. X線回折試験結果の取扱い

実験結果は第1表胎土性状表に示す通りである。第1表右側にはX線回折試験に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の組織が示しており、左側には、各胎土に対する分類を行った結果を示している。

X線回折試験結果に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字はチャートの中に現われる各鉱物に特有のピークの強度を記載したものである。

##### 2-1 組成分類

###### 1) Mont-Mica-Hb三角ダイヤグラム

第1図に示すように三角ダイヤグラムを1~13に分割し、位置分類を各胎土について行い、各胎土の位置を数字で表した。

Mont, Mica, Hbの三成分の含まれない胎土は記載不能として14に入れ、別に検討した。三角ダイヤグラムはモンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)のX線回折試験におけるチャートのピーク強度をパーセント(%)で表示する。

モンモリロナイトは $\text{Mont}/(\text{Mont}+\text{Mica}+\text{Hb}) \times 100$ でパーセントとして求め、同様にMica, Hbも計算し、三角ダイヤグラムに記載する。

三角ダイヤグラム内の1~4はMont, Mica, Hbの3成分を含み、各辺は2成分、各頂点は1成分よりなっ

ていることを表している。

位置分類についての基本原則は第1図に示す通りである。

2) Mont-Ch, Mica-Hb 菱形ダイアグラム

第2図に示すように菱形ダイアグラムを1~19に区分し、位置分類を数字で記載した。記載不能は20として別に検討した。

モンモリロナイト(Mont)、雲母類(Mica)、角閃石(Hb)、緑泥石(Ch)の内、

a) 3成分以上含まれない、b) Mont, Chの2成分が含まれない、

c) Mica, Hbの2成分が含まれない、の3例がある。

菱形ダイアグラムはMont, Ch, Mica, Hbの組合せを表示するものである。

Mont-Ch, Mica-HbのそれぞれのX線回折試験のチャートの強度を各々の組合せ毎にパーセントで表すもので、例えば、Mont/Mont+Ch\*100と計算し、Mica, Hb, Chも各々同様に計算し、記載する。

菱形ダイアグラム内にある1~7はMont, Mica, Hb, Chの4成分を含み、各辺はMont, Mica, Hb, Chのうち3成分、各頂点は2成分を含んでいることを示す。

位置分類についての基本原則は第2図に示すとおりである。

3) 化学分析結果の取り扱い

化学分析結果は酸化物として、ノーマル法(10元素全体で100%になる)で計算し、化学分析表を作成した。化学分析表に基づいてSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>図、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図、K<sub>2</sub>O-CaO図の各図を作成した。これらの図をもとに、上岩類を元素の面から分類した。

### 3. X線回折試験結果

#### 3-1 タイプ分類

第1表胎土性状表には細谷地遺跡から出土した須恵器・土師器・あかやき土器が記載してある。

第3表タイプ分類一覧表に示すように胎土はA~Fの6タイプに分類された。

Aタイプ: Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。

Bタイプ: Mica, Hb, Chの3成分を含み、Mont 1成分に欠ける。

Cタイプ: Mica, Hbの2成分を含み、Mont, Chの2成分に欠ける。Aタイプと組成は同じであるが検出強度が異なる。

Dタイプ: Mica, Chの2成分を含み、Mont, Hbの2成分に欠ける。

Eタイプ: Mica 1成分を含み、Mont, Hb, Chの3成分に欠ける。

Fタイプ: Mont, Mica, Hb, Chの4成分に欠ける。

主に、nAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>・mSiO<sub>2</sub>・lH<sub>2</sub>O(アロフェン質ゲル)で構成される。Mulliteの検出される須恵器は高温で焼成されているため、鉱物が熱により分解し、ガラスに変質している。そのため4成分が検出されない。

土師器は温度が低い領域にあり、本来の鉱物組成を残しているもので、そのほとんどは第3表に示すようにCタイプである。

細谷地遺跡の上器は須恵器、土師器、あかやき土器の3種類があり、焼成環境が異なる。ムライト(Mullite)とクリストバライト(Crystobalite)は高温で焼成されたときに生成する鉱物で、焼成温度の目安となる。ムライトとクリストバライトの2種類が検出される場合の焼成温度は約1100~1200°C、クリス

トバライト1種類が検出されるものは約1000~1100°C、ムライトとクリストバライトの2種類が検出されない場合には約1000°C以下の温度領域にあると仮定される。この仮定に基づく分類では須恵器の甕と壺はムライトとクリストバライトの2種類が検出され、高温焼成の環境にある。須恵器の坏はクリストバライト1種類が検出され、須恵器の甕や壺よりは低い温度領域にある。あかやき土器はムライトとクリストバライトの2種類が検出されるものとクリストバライト1種類が検出されるものがあり、須恵器よりは焼成環境が低い温度領域にある。土師器はクリストバライト1種類が検出されるものとムライトとクリストバライトの2種類が検出されないものがあり、あかやき土器より低い温度領域にある。

### 3-2 石英(Qt)-斜長石(P1)の相関について

土器胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は粘土の材質、土器の焼成温度と大きな関わりがある。土器を製作する過程で、ある粘土にある量の砂を混合して素地上を作るということは個々の集団が持つ土器製作上の固有の技術であると考えられる。

自然の状態における各地の砂は固有の石英と斜長石比を有している。この比は後背地の地質条件によって各々異なってくるものであり、言い換えれば、各地の砂はおのおの固有の石英と斜長石比を有していると言える。

第5回Qt-P1図(総合図)には細谷地遺跡から出土した須恵器・土師器・あかやき土器が記載してある。図に示すように、4つの領域に分布する。

Q1-小: Qtが1000~2600, P1が0~200の領域に分布する。須恵器甕が集中し、坏が混在する。

Q1-中: Qtが2600~3500, P1が100~400の領域に分布する。須恵器の坏とあかやき土器の坏が共存する。

Q1-大: Qtが3900~4200, P1が100~400の領域に分布する。土師器の甕が集中する。

P1-高: Qtが1500~2500, P1が200~600の領域に分布する。土師器の坏(内黒)が集中する。

“その他”: 細谷地-21は土師器の甕で、中間領域にあり、異質である。

## 4. 化学分析結果

第2表化学分析表には細谷地遺跡から出土した須恵器・土師器・あかやき土器が記載してある。

第6回S1O2-A12O3図を基準として、タイプ: I、タイプ: II、タイプ: IIIの3タイプに分類された。

### 4-1 S1O2-A12O3の相関について

第6回S1O2-A12O3図(総合図)に示すように埴輪と土師器はS1O2が低い領域から高い領域に向かって3タイプ分類された。

タイプ: I-S1O2が51~53%、A12O3が28~33%の領域に分布する。

タイプ: II-S1O2が56~62%、A12O3が22~20%の領域に分布する。

土師器の坏(内黒)が集中する。

タイプ: III-S1O2が58~64%、A12O3が20~28%の領域に分布する。

須恵器の甕・坏、あかやき土器の坏、土師器の甕が共存する。

#### 4-2 Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgOの相関について

第7図Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-MgO図に示すように土器はMgOが低い領域から高い領域に向かって2タイプ分類された。

MgO：低-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が3~8%、MgOが0~0.1%の領域に分布する。

須恵器の甕・坏、あかやき土器の坏が共存する。

MgO：高-Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が4~14%、MgOが0.1~0.8%の領域に分布する。

土師器の坏(内黒)が集中し、あかやき土器の坏が共存する。

“その他”：細谷地-8はMgOが1%+と高く異質である。細谷地-24はFe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>が12%+と高く異質である。

#### 4-3 K<sub>2</sub>O-CaOの相関について

第8図K<sub>2</sub>O-CaO図に示すように須恵器、あかやき土器、土師器の土器は3グループと“その他”に分類される。

K<sub>2</sub>O：小-K<sub>2</sub>Oが1.1~1.5%、CaOが0.1~0.5%の領域に分布する。

あかやき土器が集中する。

CaO：低-K<sub>2</sub>Oが1.8~3.3%、CaOが0.1~0.6%の領域に分布する。

須恵器・甕、あかやき土器の坏、土師器の甕が共存する。

CaO：高-K<sub>2</sub>Oが1.6~2.8%、CaOが0.4~1.3%の領域に分布する。

土師器の坏(内黒)が集中し、あかやき土器の坏と須恵器の甕が混在する。

“その他”：細谷地-25はK<sub>2</sub>Oが4%+と高く異質である。

#### 4-4 TiO<sub>2</sub>-MnOの相関について

第8図TiO<sub>2</sub>-MnO図に示すように須恵器、あかやき土器、土師器の土器は3グループに分類される。

TiO<sub>2</sub>：小-TiO<sub>2</sub>が0.3~0.8%、MnOが0~0.5%の領域に分布する。

須恵器の坏と甕が集中する。

TiO<sub>2</sub>：大-TiO<sub>2</sub>が1.2~1.8%、MnOが0~0.5%の領域に分布する。

土師器の坏(内黒)が集中し、あかやき土器の坏が混在する。

MnO：高-TiO<sub>2</sub>が1.3~2%、MnOが0.5~0.7%の領域に分布する。

土師器の坏とあかやき土器の坏が混在する。

## 5. まとめ

細谷地遺跡土器の分類は第4表組成分類表に取りまとめた。

- 1) 土器胎土はA~Fの6タイプに分類された。土師器の坏(内黒)は焼成温度が低く、本来の鉱物組成に近い。この坏はそのほとんどがCタイプである。須恵器とあかやき土器は焼成温度が高く、鉱物が高温のために変質して4成分が検出されないDタイプとなる。
- 2) 焼成温度は高温焼成の際に生成するムライトとクリストバライトの生成状況で検討した。須恵器はムライトとクリストバライトの2種類が検出され、1100~1200°Cと高い焼成環境にあるが、あかやき土器はクリストバライト1種類が検出されるものとムライトとクリストバライトの2種類が検出されるものが

あり、焼成環境は須恵器よりも低い1000~1100°Cと判断される。土師器はクリストバライトI種類が検出されるものとクリストバライトが検出されないものと2種類あり、焼成環境は1000°C以下と低い領域にあると判断される。このように見てくると焼成温度は土師器 あかやき土器 須恵器と高くなっていると判断される。須恵器に関していえば、坏は焼成温度が低く、甕と壺は焼成温度が高い。

- 3) 土師の胎土のX線回折試験と蛍光X線分析では、土師器の坏(内蓋)の胎土はタイプ:IIで、焼成温度が低いP1:高の領域に集中し、統一性がある。土師器の甕の胎土はタイプ:IIIで、Qt:大の細谷地-19と20は同じ組成を示すが、21はQt:小で粘土の組成は類似するが砂の混合比が異なり、両者は異質である。
- 4) あかやき土師の細谷地-9と13はタイプ:IIIでP1:高の上器であるが細谷地-10と12は同じタイプ:IIIでもP1:中で両者は砂の混合比が異なり異質である。細谷地-10と12は須恵器の坏と組成的に近い関係にある。
- 5) 須恵器の甕と壺の細谷地-22~25と坏の細谷地-18はタイプ:IIIで、Q1:小で組成的に類似する。細谷地-15~17の3個の坏は同じタイプ:IIIでもQt:中で前者とは砂の混合比が異なり異質である。
- 6) 細谷地-23の須恵器の甕は須恵器の中ではTiO<sub>2</sub>が大きく、いくぶん異質である。
- 7) 細谷地-8と11はタイプ:Iで、SiO<sub>2</sub>が51~53%と低く、異質である。

#### 編集者注

胎土分析を依頼した試料のうち坏類について、当初は1:内面黒色処理を施す酸化炭焼成のもの→「土師器」 2:ロクロ調整のみで酸化炭焼成のもの→「あかやき土器」 3:ロクロ調整のみで還元炭焼成のもの→「須恵器」という3分類を採用しており、各々から試料を選択して依頼した。しかし、土師類の観察を進める中で、2の「あかやき土器」としたものが、土師器と同様の技法によって整形され黒色処理を省略した軟質の土器と、須恵器と同様の技法によって整形され酸化炭焼成を受ける硬質の土師の2者に区別されるという認識に至った。分類基準については第IV章に記載した通りである。

提示した試料のうち、当初「あかやき土器」としたNo.9~14の中でNo.10・No.12が「土師器(非黒色処理)」に変更される。No.9・11・13・14は「あかやき土器」のままとなる。

上記の分析本文、次頁以降の図表類では変更前の分類に従って第四紀地質研究所井上巖氏に原稿作成を依頼しており、分類の変更による修正は行っていない。分析報告を利用する際、留意していただきたい。

調査担当者の手違いにより、分析を依頼した井上氏には御迷惑をおかけした点、お詫び申し上げます次第である。



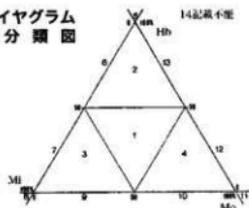
第3表 タイプ分類表

| 試料<br>No. | タイプ<br>分類 | 備 考    |         | 試料<br>No. | タイプ<br>分類 | 備 考    |         |
|-----------|-----------|--------|---------|-----------|-----------|--------|---------|
|           |           | 種類     | 器種      |           |           | 種類     | 器種      |
| 細谷地4      | A         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地15     | E         | 須恵器    | 坏       |
| 細谷地7      | A         | 土師器    | 坏(内・外黒) | 細谷地19     | E         | 土師器    | 甕(非ロクロ) |
| 細谷地21     | B         | 土師器    | 甕(ロクロ)  | 細谷地10     | F         | あかやき土器 | 坏       |
| 細谷地1      | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地11     | F         | あかやき土器 | 坏       |
| 細谷地2      | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地14     | F         | あかやき土器 | 坏       |
| 細谷地3      | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地16     | F         | 須恵器    | 坏       |
| 細谷地5      | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地17     | F         | 須恵器    | 坏       |
| 細谷地8      | C         | 土師器    | 坏(内・外黒) | 細谷地18     | F         | 須恵器    | 坏       |
| 細谷地9      | C         | あかやき土器 | 坏       | 細谷地22     | F         | 須恵器    | 甕       |
| 細谷地20     | C         | 土師器    | 甕(ロクロ)  | 細谷地23     | F         | 須恵器    | 甕(非ロクロ) |
| 細谷地6      | D         | 土師器    | 坏(内黒)   | 細谷地24     | F         | 須恵器    | 甕       |
| 細谷地12     | E         | あかやき土器 | 坏       | 細谷地25     | F         | 須恵器    | 甕       |
| 細谷地13     | E         | あかやき土器 | 坏       |           |           |        |         |

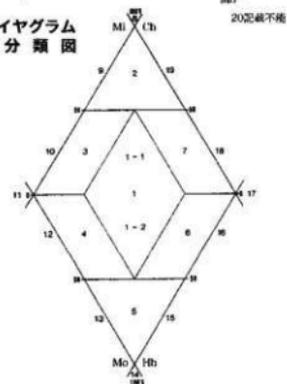
第4表 組成分類表

| 試料<br>No.          | タイプ<br>分類 | 備 考    |         | Q | P | MgO | CaO   | TiO <sub>2</sub> :小 |                     |
|--------------------|-----------|--------|---------|---|---|-----|-------|---------------------|---------------------|
|                    |           | 器種     | 器形      |   |   |     |       |                     |                     |
| タイプ:・              |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 8                  | C         | 土師器    | 坏(内・外黒) | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 11                 | F         | あかやき土器 | 坏       | Q | 1 | 小   | MgO:高 | K <sub>2</sub> O:小  | TiO <sub>2</sub> :大 |
| タイプ:・土師器坏(内黒)      |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 1                  | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 2                  | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 3                  | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 4                  | A         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | MnO:高               |
| 5                  | C         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 6                  | D         | 土師器    | 坏(内黒)   | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 7                  | A         | 土師器    | 坏(内・外黒) | P | 1 | 高   | MgO:高 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 14                 | F         | あかやき土器 | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:高 | CaO:高               | MnO:高               |
| タイプ:・あかやき土器 坏      |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 9                  | C         | あかやき土器 | 坏       | P | 1 | 高   | MgO:低 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 18                 | E         | あかやき土器 | 坏       | P | 1 | 高   | MgO:低 | K <sub>2</sub> O:小  | TiO <sub>2</sub> :大 |
| タイプ:・須恵器 甕・壺・坏     |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 18                 | F         | 須恵器    | 坏       | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 22                 | F         | 須恵器    | 甕       | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 23                 | F         | 須恵器    | 甕 非ロクロ  | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 24                 | F         | 須恵器    | 甕       | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 25                 | F         | 須恵器    | 甕       | Q | 1 | 小   | MgO:低 | K <sub>2</sub> O:大  | TiO <sub>2</sub> :小 |
| タイプ:・須恵器坏・あかやき土器 坏 |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 10                 | F         | あかやき土器 | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:高 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 12                 | E         | あかやき土器 | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:高 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 15                 | E         | 須恵器    | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 16                 | F         | 須恵器    | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:高 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| 17                 | F         | 須恵器    | 坏       | Q | 1 | 中   | MgO:高 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :小 |
| ・壺・坏               |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 23                 | F         | 須恵器    | 甕 非ロクロ  | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:高               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| タイプ:・土師器 甕>Q       |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 19                 | E         | 土師器    | 甕 非ロクロ  | Q | 1 | 大   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| 20                 | C         | 土師器    | 甕 ロクロ   | Q | 1 | 大   | MgO:高 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :大 |
| タイプ:・土師器 甕>Q       |           |        |         |   |   |     |       |                     |                     |
| 21                 | B         | 土師器    | 甕 ロクロ   | Q | 1 | 小   | MgO:低 | CaO:低               | TiO <sub>2</sub> :大 |

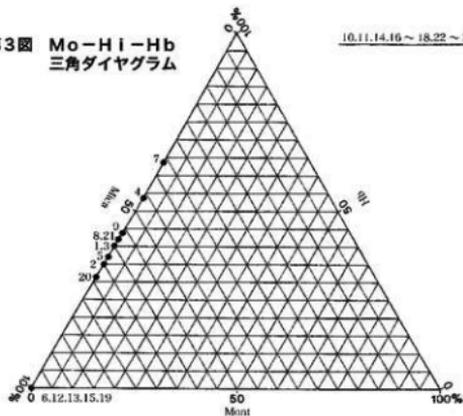
第1図 三角ダイヤグラム  
位置分類図



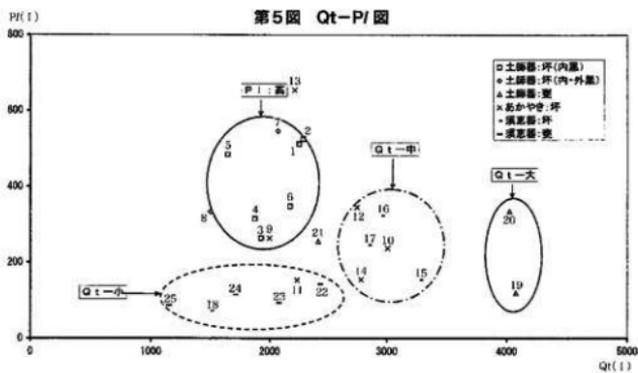
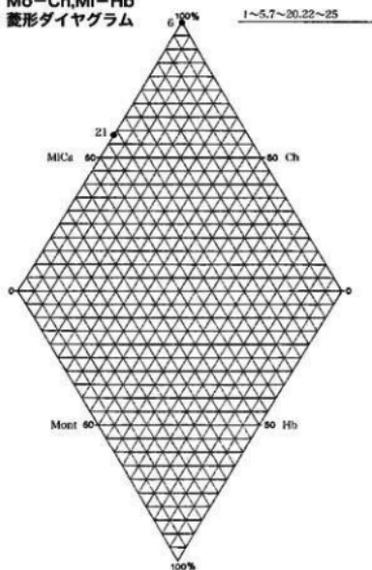
第2図 菱形ダイヤグラム  
位置分類図

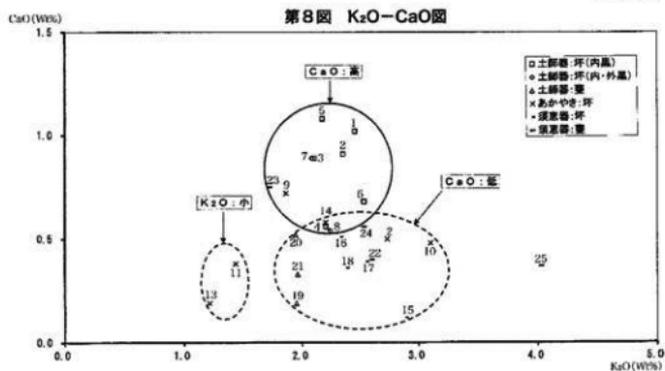
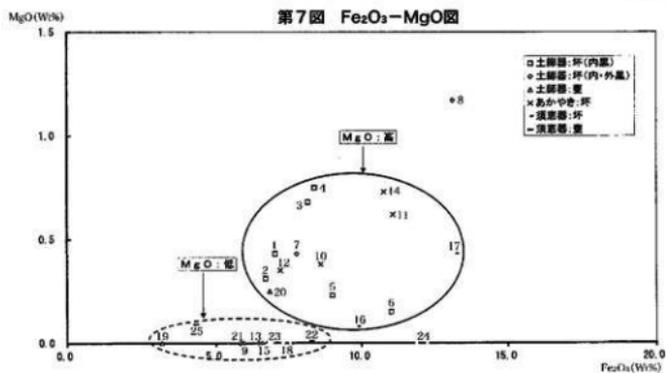
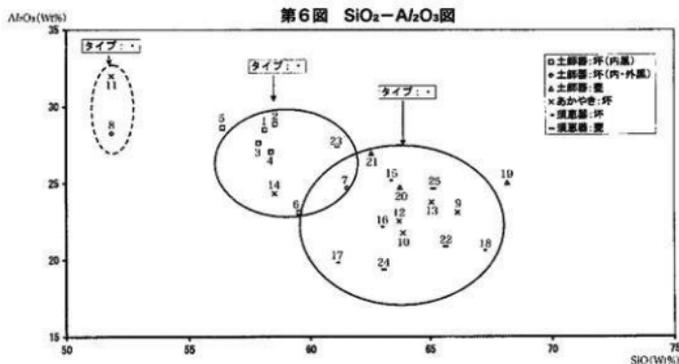


第3図 Mo-Hi-Hb  
三角ダイヤグラム

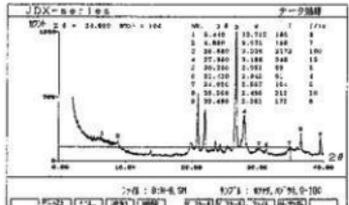
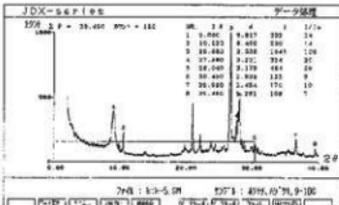
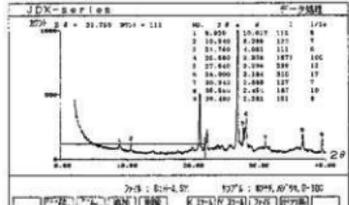
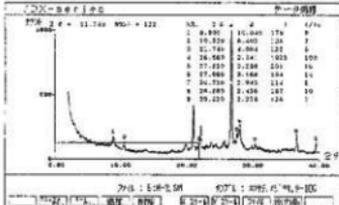
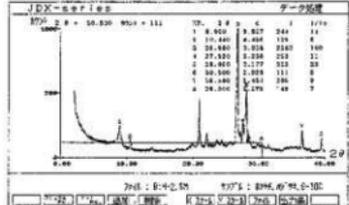
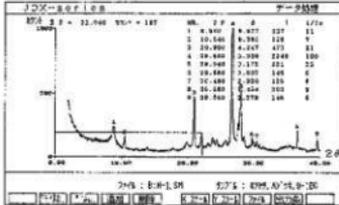
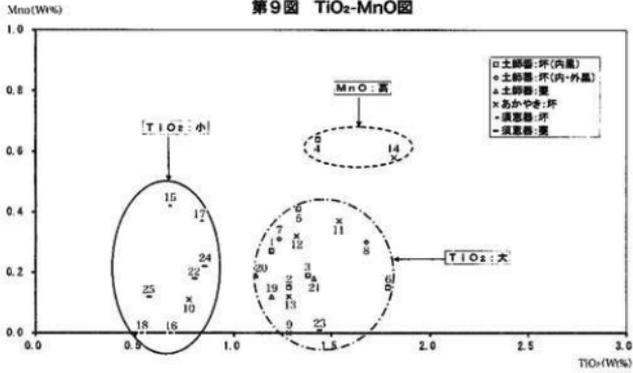


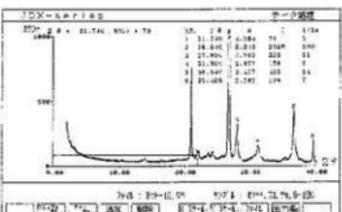
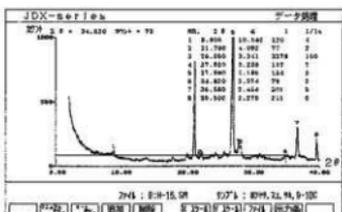
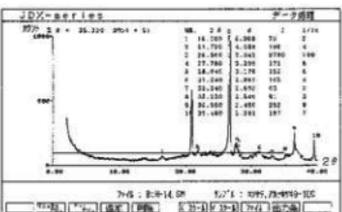
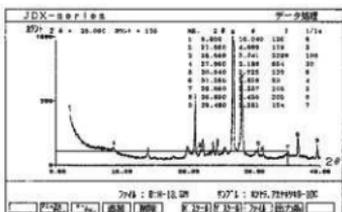
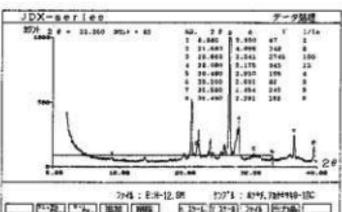
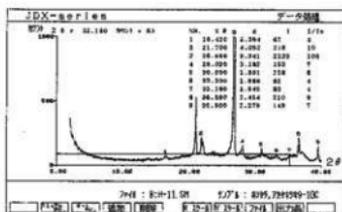
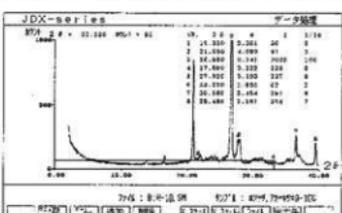
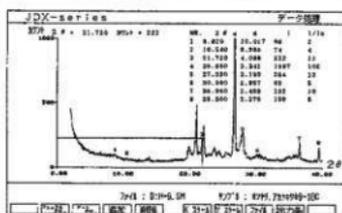
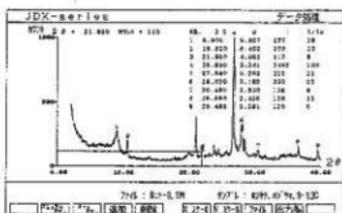
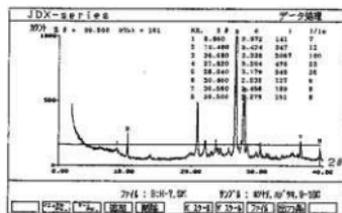
第4図 Mo-Ch, Mi-Hb  
菱形ダイヤグラム





第9図 TiO<sub>2</sub>-MnO図



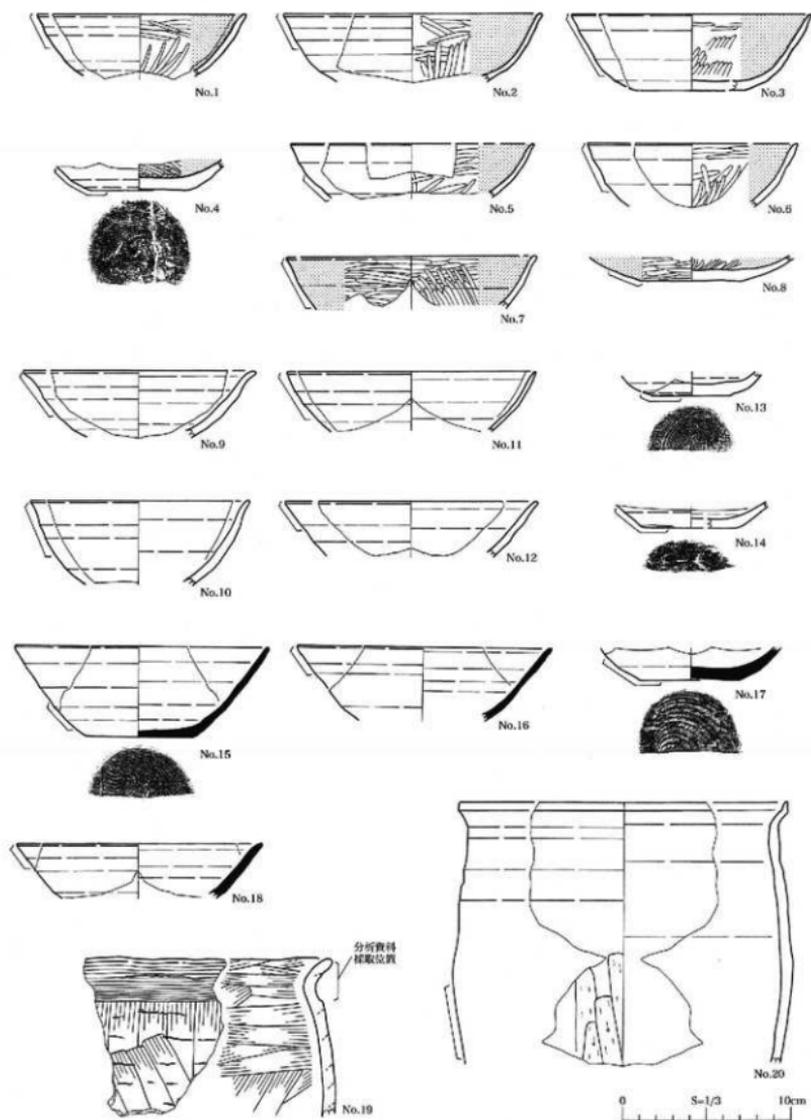




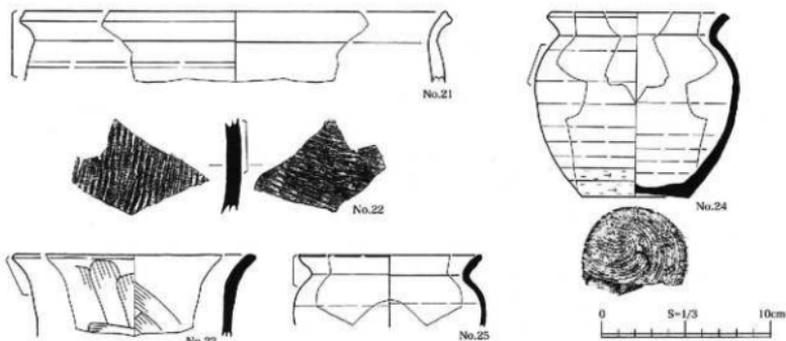








分析個体実測圖 (1)



分析個体実測図(2)

分析試料観察表

| 試料No. | 登録No. | 出土地点 | 種類      | 土色(表面)     | 土色(割口) | 焼成    | 含有物                 | 状態                   | 備考       |
|-------|-------|------|---------|------------|--------|-------|---------------------|----------------------|----------|
| 1     | 19    | RA01 | 1期3号カマド | 土師器(内黒)    | 灰白     | 軟質    | 石炭・泥母・長石            |                      |          |
| 2     | 20    | RA01 | 1期3号カマド | 土師器(内黒)    | 灰白     | 軟質    | 黒母・直徑1mmの長石         |                      |          |
| 3     | 390b  | RA15 | 埋土      | 土師器(内黒)    | にぶい黄橙  | 浅黄橙   | 直徑1~2mmの赤母・長石       | きめ細かい                |          |
| 4     | 405   | RA15 | 床面      | 土師器(内黒)    | 浅黄橙    | 浅黄橙   | 軟質・次粒物              | 直徑5mmの石炭             |          |
| 5     | 2067  | RA39 | 埋土      | 土師器(内黒)    | にぶい黄橙  | にぶい黄橙 | 軟質                  | 石炭・直徑多               |          |
| 6     | 2968  | RA39 | 床面      | 土師器(内黒)    | 灰白     | にぶい黄橙 | やや硬質                | 黒母・長石                | きめ細かい    |
| 7     | 2165  | RA39 | 掘り方     | 土師器(内外黒)   | 黒      | 硬黄橙   | 軟質                  | 石炭多                  | きめ細かい    |
| 8     | 497   | RA15 | 3号カマド   | 土師器(内外黒)   | 褐色     | 褐色    | 軟質                  | 黒母多・長石               |          |
| 9     | 25    | RA01 | 1期3号カマド | あかやき环      | にぶい橙   | 浅黄橙   | やや硬質                | 赤褐色粒・石英少量            | きめ細かい    |
| 10    | 397   | RA15 | 埋土下層    | 土師器(非黒色処理) | 浅黄橙    | 浅黄橙   | 非常に軟質               | 黄母1~2mmの石英・長石多       | きめ細かい    |
| 11    | 496   | RA15 | P148    | あかやき环      | 橙      | にぶい橙  | 硬質                  | 石炭・長石多・小黒色砂粒含む       | 洞悉器状     |
| 12    | 2685  | RA39 | 床面      | 土師器(非黒色処理) | にぶい黄橙  | 浅黄橙   | 非常に軟質               | 直徑1mmの石英・長石・黒色粒      | 隙隙       |
| 13    | 2056  | RA39 | 埋土      | あかやき环      | 浅黄橙    | 浅黄橙   | 軟質                  | 濃褐色粒・赤褐色粒            | きめ細かい    |
| 14    | 2196  | RA39 | 掘り方     | あかやき环      | にぶい黄橙  | にぶい黄橙 | やや硬質                | 直徑1~2mmの長石・石炭多・電線断片粒 | 軟質洞悉器状   |
| 15    | 1020b | RA15 | 埋土      | 須恵器(赤)     | 浅黄     | 浅黄    | 軟質                  | 瓶黒色粒                 | きめ細かい    |
| 16    | 1018  | RA15 | 床面      | 須恵器(赤)     | 灰白     | 灰白    | やや軟質                | 微細長石多・微細黒色粒          | きめ細かい    |
| 17    | 1022  | RA15 | 埋土      | 須恵器(赤)     | 灰オリーブ  | 灰     | やや軟質                | 微細長石多・微細黒色粒          | きめ細かい    |
| 18    | 1023  | RA15 | 3号カマド   | 須恵器(赤)     | 灰      | にぶい赤褐 | 硬質                  | 直徑1~2mmの石英・長石        | 表面膜状に還元色 |
| 19    | 9     | RA01 | 1期2号カマド | 土師器(赤・黒クロ) | にぶい黄橙  | 浅黄橙   | やや軟質                | 直徑1~2mmの石英・長石        | 凹凸状に還元色  |
| 20    | 1b    | RA01 | 1期床面    | 土師器(赤・黒クロ) | にぶい黄橙  | 浅黄橙   | やや硬質                | 石炭・長石多・泥母            | 砂粒多い     |
| 21    | 12    | RA01 | 1期2号カマド | 土師器(赤・黒クロ) | にぶい黄橙  | にぶい黄橙 | やや軟質                | 石英・長石多・泥母・赤褐色粒       | 砂粒多い     |
| 22    | 1068b | RA01 | 1期埋土    | 須恵器(赤)     | 灰      | 橙     | 硬質                  | 黒色微細粒                |          |
| 23    | 1067b | RA01 | 1期2号カマド | 須恵器(赤・黒クロ) | にぶい黄橙  | 灰白    | 硬質                  | 直徑1~2mmの長石多          | 断面膜状に還元色 |
| 24    | 1052b | RA15 | 掘り方     | 須恵器(赤)     | 灰      | 灰     | 硬質                  | 長石(表面に厚く出る)          | きめ細かい    |
| 25    | 1061a | RA15 | 埋土下層    | 須恵器(赤)     | にぶい黄   | 硬質    | 直徑1~2mmの石英・長石まばらに含む | 非常に硬質                | 表面膜状に還元色 |

## 付編 2. 細谷地遺跡出土材の樹種

高橋利彦 (木工舎「ゆい」)

### 1. 試料

試料は5点 (No. 1～5) で、近世の井戸とされる R I 02 検出の角材 (杭) と近世のものとする 掘立柱建物跡 (R B 05 ほか) 検出の柱根である (表 1 参照)。

遺跡は牽石川右岸の河岸段丘上 (標高約 122m) に立地している。R I 02 井戸跡は旧河道部分にあり、直径約 2.7m の円形を呈する平面形状、逆台形の横断面形状である。遺構の底面に礫 (径 10～20cm) が多数あり、No. 1 はこの礫の崩落を止める横板、No. 2 はこの横板を支えていた杭の一つと見られている。R B 05 掘立柱建物跡は桁行 3 間、梁行 2 間の建物で、柱穴 P 5 から試料 No. 3 の柱根が出土した。試料 No. 4・5 はいずれも R B 05 の周辺から検出された柱穴出土の柱根である。

### 2. 方法

プレパラートの作成には調査担当者の立ち会いのもとで筆者が遺物から採取した材片を用いた。剃刀の刃を用い、試料の木口 (横断面)・柀目 (放射断面)・板目 (接線断面) 3 面の徒手切片を作成し、これをガムクロラルで封入したプレパラートを、生物顕微鏡で観察・同定した。併せて各分類群 1 点の顕微鏡写真図版を作成した (図版 1, 2)。作成したプレパラートはすべて木工舎「ゆい」に保管されている。

### 3. 結果

試料は以下の 4 分類群 (ここでは節と種の異なった階級分類単位を総称している) に同定された。試料の主な解剖学的特徴や一般的な性質は次のようなものである。なお、学名と配列は「日本の野生生物 木本 1」(佐竹ほか 1989) にしたがひ、県内での自然分布については「岩手県植物誌」(岩手植物の会 1970) を参照した。また、一般的な性質などについては「木の事典 第 2・4・6・14 巻」(平井 1979, 1980, 1982) も参考にした。

#### ・スギ (*Cryptomeria japonica*) スギ科 No. 4

早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広く、年輪界は明瞭。樹脂細胞はあるが樹脂道はない。放射組織は柔細胞のみよりなる。分隔壁孔はスギ型 (Taxodioid) で分野あたり 1～4 箇で 2 箇のものが多い。放射組織は単列、1～15 細胞高。

スギは本州・四国・九州に自生する常緑高木で、また各地で植栽・植林される。国内では現在、植林面積第一位の重要樹種である。材は軽軟で割裂性は大きく、加工は容易、保存性は中程度である。建築・土木・楕桶類・舟材など各種の用途がある。

#### ・コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Quercus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科 No. 1

環孔材で孔開部は 1・3 列、孔圏外で急激に環径を減じたのち漸減しながら火炎状に配列する。大道管は横断面では円形～楕円形、小道管は横断面では多角形、ともに単独で配列する。道管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織との間では櫛状となる。放射組織は同性、単列、1～20 細胞高のものと同列組

織がある。柔組織は短接線状、周囲状、年輪界は明瞭。

コナラ節はコナラ亜属（落葉ナラ類）の中で果実（ドングリ）が開花の年に熟すグループで、カシワ（*Quercus dentata*）・ミズナラ（*Q. crispula*）・コナラ（*Q. serrata*）・ナラガシワ（*Q. aliena*）といくつかの変・品種がある。県内には1種とも自生する。このうちコナラは樹高20mになる落葉高木で、古くから薪炭材として利用され、植栽されることも多かった。材は重硬で、加工は困難、器具・機械・櫛材などの用途があり、薪炭材としてはクスギに次ぐ優良材である。

・クリ（*Castanea crenata*）ブナ科 №.3, 5

環孔材で孔圏部は1～多列、孔圏外で急激に環径を減したのち漸減しながら火炎状に配列する。大径管は単独、横断面では楕円形～円形、小径管は単独および複合、横断面では角張った楕円形～多角形。径管は単穿孔をもち、壁孔は交互状に配列、放射組織の間では櫛状～網目状となる。放射組織は同性、単（～2）列、1～1.5細胞高。柔組織は周囲状、短接線状。年輪界は明瞭。

クリは北海道南西部から九州の山野に自生し、また植栽される落葉高木である。県内では普通にみられる。材はやや重硬で、強度は大きく、耐朽性が高い。土木・建築・器具・家具・薪炭材・櫛木などに用いられる。

・マンサク（*Hamamelis japonica*）マンサク科 №.2

散孔材で管壁は薄く、横断面では多角形～角張った楕円形、単独および2～3個が複合する。管径は小さい。径管は階段穿孔をもち、段（bar）は多数。放射組織は異性、1～2細胞幅、1～20細胞高。柔組織は散在状。年輪界は不明瞭。

マンサクは本州（関東地方以西）・四国・九州の山地に普通な落葉高木～低木である。岩手県から関東地方中部の太平洋側には変種オオバマンサク（*Hamamelis japonica* var. *megaphylla*）が、北海道南西部・本州（日本海側）には変種マルバマンサク（*H. japonica* var. *obtusata*）などがあるが母種とは明確には区別しにくいという。このほかにも多くの変・品種がある。材はやや重硬・強靱で割れにくい。樹皮も強靱であるため、枝条は皮付きのまま結束材として用いられた。

以上の同定結果を一覧表で示す（表1）

表1 細谷地遺跡出土材の樹種

| 試料番号 | 検出遺構など     | 用途 | 種名         |
|------|------------|----|------------|
| 1    | R I 02 №.1 | 杭  | コナラ属コナラ亜属コ |
| 2    | R I 02 №.2 | 杭  | ナラ節        |
| 3    | R B 05     | 柱  | マンサク       |
| 4    | p 118      | 柱  | クリ         |
| 5    | p 108      | 柱  | スギ<br>クリ   |

#### 4. 考察

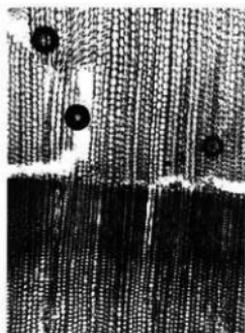
近世の掘立柱とされる試料はクリ（2点）とスギ（1点）に同定された。県内の遺跡からの出土品で、試料と近い時期の柱材の用材が見当された例としては、花巻市花巻城三之丸跡出土の15～16世紀代とされる柱

(24点)で7分類群が確認され、その半数をクリが占めスギがこれに次いでいる例(高橋1996)や、平泉町泉屋遺跡第15次調査検出の近世とされる圓立柱建物6軒の柱材17点がクリ(16点)とオニグルミ(1点)に(高橋1997)、衣川村北館遺跡の近世民家の柱6点がいずれもクリに(岩手県教育委員会1980)、二戸市下村遺跡の近世～近代とされる圓立柱建物5軒の柱材12点がクリ(7点)・ヤマグワ(4点)・ケヤキ(1点)に(高橋2000a)、前沢町川岸場Ⅱ遺跡の近世～近代とされる柱(1点)がスギに同定されている例(高橋2000b)などがある。

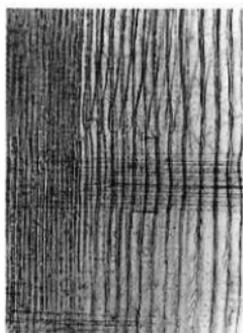
#### 引用文献

- 平井信二 1979-1982 「木の事典 第2・4・6・14巻」, かなえ書房
- 岩手県教育委員会 1980 木材 木製品, 「岩手県文化財調査報告書第54集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財報告書 V-1」, 161-165, 岩手県教育委員会・日本道路公団。(同定者不明)
- 岩手植物の会 1970 「岩手県植物誌」, 703pp.
- 佐竹義輔・原 寛・亙理俊次・富成忠夫(編) 1989 「日本の野生植物 木本Ⅰ」, 321pp, 平凡社.
- 高橋利彦 2000a 二戸市下村遺跡出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第323集 下村遺跡発掘調査報告書 東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連遺跡発掘調査」, 164-168, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.
- 高橋利彦 2000b 前沢町川岸場Ⅱ遺跡出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第317集 川岸場Ⅱ遺跡発掘調査報告書 一北上川上流改修事業(白山築堤)に係る発掘調査一」, 394-402, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.
- 高橋利彦 1998 花巻城三之丸跡出土材の樹種, 「花巻市埋蔵文化財調査報告書第18集 花巻城跡 一平成6年度三之丸発掘調査報告書一」, 126-149, 花巻市教育委員会
- 高橋利彦 1997 平泉町泉屋遺跡第15次調査出土材の樹種, 「岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第247集 泉屋遺跡第10・11・13・15次発掘調査報告書 一閑遊水池事業関連遺跡発掘調査」, 401-411, (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター.

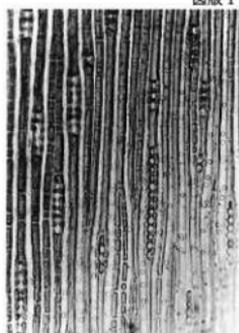
図版 1



1a  
1. スギ No.4



1b



1c



2 a

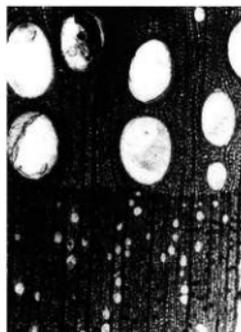


2 b



2 c

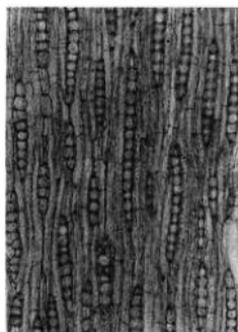
2. コナラ属コナラ亜属コナラ節 No.1



3 a

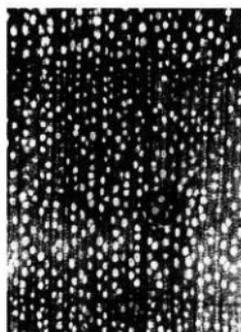


3 b



3 c

3. クリ No.5



4 a



4 b



4 c

4. マンサク No.2

a: 木口 x40 b: 柎目 x100 c: 板目 x100

樹木の肥大生長方向は木口では画面下から上へ、柎目では左から右。

## 付編 3. 細谷地遺跡から出土した曲物の樹種

パリオ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

細谷地遺跡では、平安時代中頃（9世紀後半～10世紀前半）の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸等の遺構が検出されている。これらの遺構からは、土器類（土師器・あかやき土器・須恵器）、土製紡錘車、鉄製品、木製品（曲物）等が出土している。

本報告では出土した曲物の樹種同定を行い、用材選択に関する資料を得る。

### 1. 試料

試料は、曲物 1点である。

### 2. 方法

剃刀の刃を用いて木口（横断面）・柀目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を作製し、ゴム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で観察・同定する。

### 3. 結果

曲物は、針葉樹のスギに同定された。主な解剖学的特徴を以下に記す。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don)      スギ科スギ属

仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞がほぼ晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞の壁は滑らか。分野壁孔はスギ型で、1分野に2～4個。放射組織は単列。1～15細胞高。

### 4. 考察

曲物は、針葉樹のスギであった。曲物にスギが用いられた類例は少ないながら知られており、今回の結果も調和的である。しかし、これまでの出土例を統計した結果では、曲物の97%は針葉樹が利用されており、その大部分をヒノキが占める（島地・伊東, 1988）。スギは、ヒノキに次いで多く利用される種類であるが、ヒノキの2割弱程度しか確認例がない。

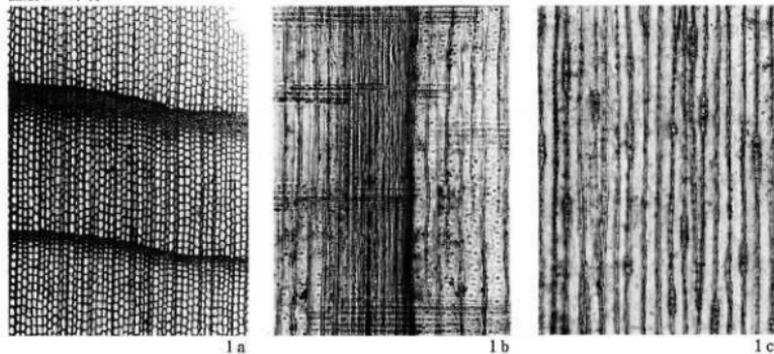
スギの曲物は九州から本州北部（岩手県）まで出土例が見られ、ヒノキと同時に出土している例も多い。また、福島県いわき市久世原館・番匠地遺跡では、曲物を含む木製品にモミ属が多く見られ、花粉分析の結果から周辺で入手が容易なモミ属の木材を利用した可能性が指摘されている（パリオ・サーヴェイ株式会社, 1993）。ただし、これまでの結果を見る限り、モミ属は福島県でやや多い傾向があるが、そのほとんどは御山千軒遺跡の報告例である。したがって、用材選択としてはやや特殊な地域といえる。以上のことにより、現時点では曲物の用材の地域差については明確ではない。今後、さらに類例を蓄積していく必要がある。

引用文献

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1993) 自然科学的分析 (花粉・材), 「いわき市埋蔵文化財調査報告書第33冊 久世原館・番匠地遺跡 第1篇 一概要・付篇一」, p. 74-88, 福島県いわき市・福島県いわき市教育委員会・財団法人いわき市教育文化事業団.

島地 謙・伊東孝夫編 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 296 p., 雄山閣

図版1 木材



1. スギ (曲物)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

200  $\mu$  m: a

200  $\mu$  m: b, c



写真図版1 遺跡空撮(1)



飯岡才川遺跡（第3次）・細谷地遺跡（第4次）西上空から



細谷地遺跡（第5次）北上空から  
写真図版2 遺跡空撮（2）



調査開始時の状況（東から）



第4次調査区東半 遺構検出状況（西から）

写真図版3 調査区の状況（1）



第4次調査区西側 調査状況（東から）



第4次調査区西側 調査状況（北から）  
写真図版4 調査区の状態（2）



第5次調査区全景（西から）



第5次調査区 旧河道 土層断面-1（西から）



第5次調査区 旧河道 土層断面-2（西から）

写真図版5 調査区の状態（3）



Ⅱ期全景（南東から）



埋土断面（南東から）



1号カマド検出



1・2号カマド

写真図版6 RA01住居跡（1）



1期全景 (南東から)



3号カマド



3号カマド土器片散



5号カマド

写真図版7 RA01住居跡(2)



全景 (東から)



埋土断面 (西から)



1号カマド



1号カマド 煙道

写真図版8 RA02住居跡



RA02 2号カマド



2号カマド 掘り方



RA03 埋土断面 (西から)

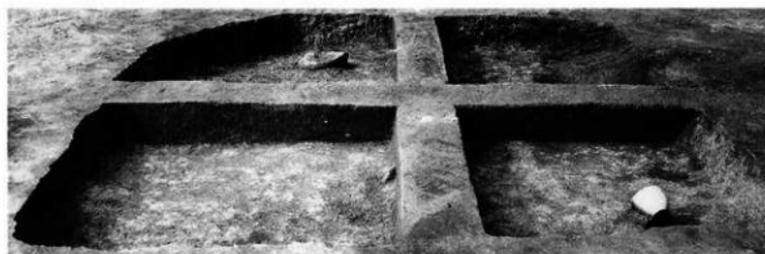


RA03 全景 (北から)

写真図版9 RA02・03住居跡



全景（西から）



埋土断面（南から）



カマド

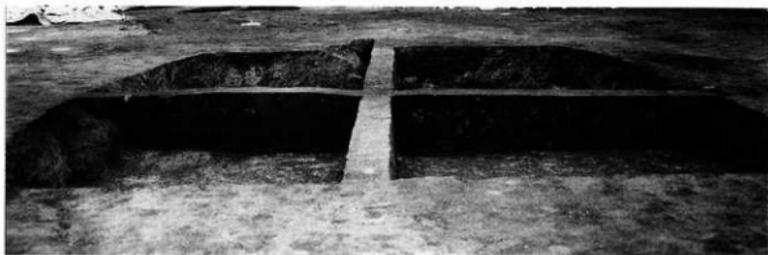


遺物出土状況

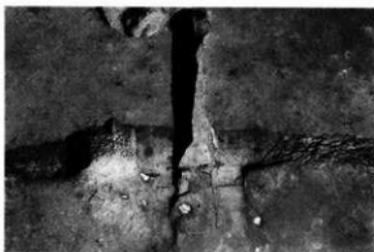
写真図版10 R A04住居跡



全景 (東から)



埋土断面 (南から)



カマド



Pit 3

写真図版11 RA05住居跡



全景（北から）



埋土断面（南から）



カマド

写真図版12 R A06住居跡



RA07 全景 (北から)



RA07 カマド



カマド煙道断面

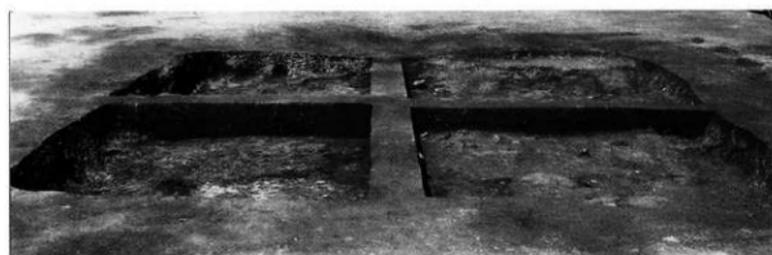


RA08 全景 (北から)

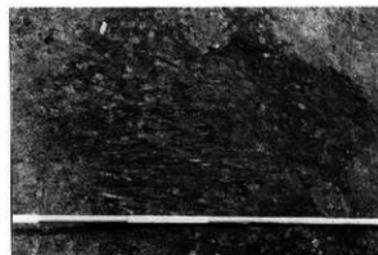
写真図版13 RA07・08住居跡



全景（東から）



埋土断面（東から）



床面 炭化材（カヤ類）



作業風景

写真図版14 RA09住居跡（1）



1号カマド



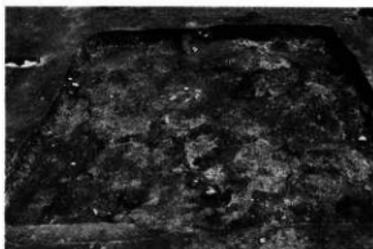
2号カマド



3・4号カマド

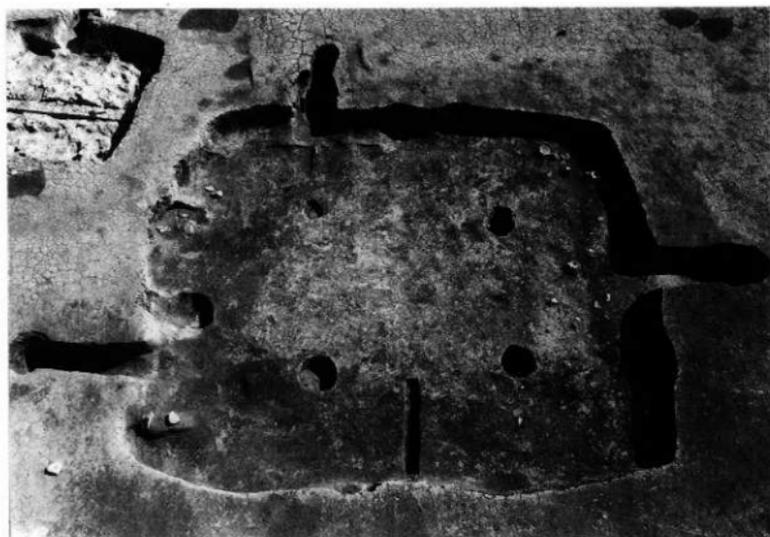


3・4号カマド横道断面

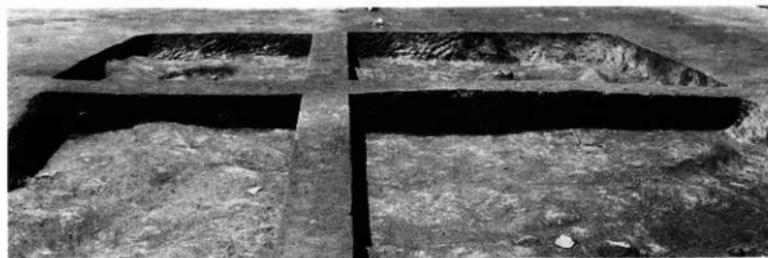


道物、焼土出土状況

写真図版15 RA09住居跡(2)



全景 (西から)



埋土断面 (東から)



1号カマド

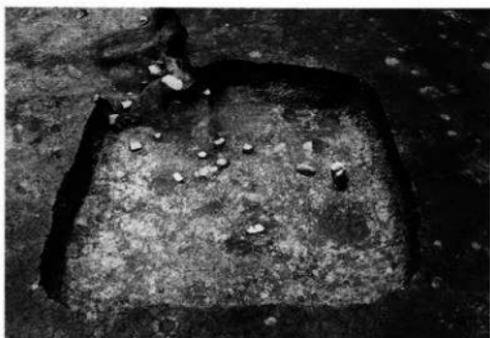


2号カマド

写真図版16 RA10住居跡



RA11 全景 (東から)



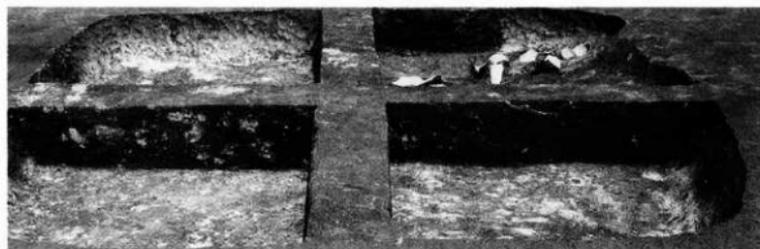
RA12 全景 (北から)



RA11 埋土断面 (南から)



全景（西から）



埋土断面（南から）

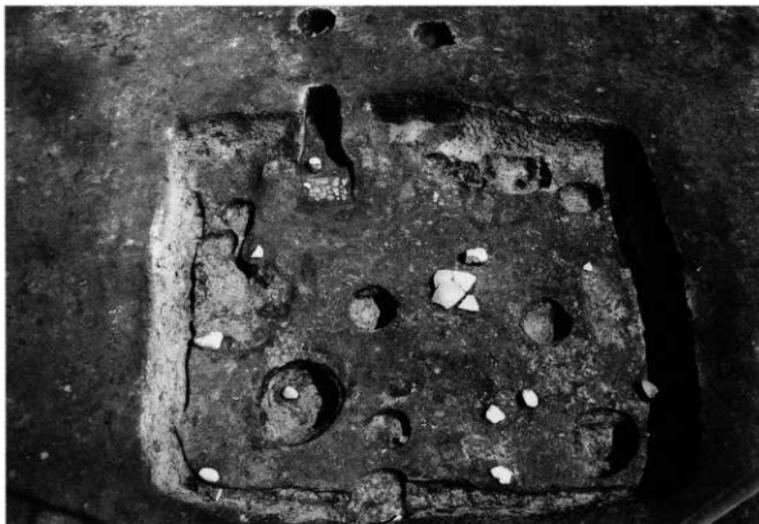


カマド周辺



カマド

写真図版18 R A 13住居跡



全景（西から）



埋土断面（南から）



カマド断面



カマド燃焼部

写真図版19 R A 14住居跡



全景（西から）



埋土断面（西から）



1～3号カマド



1号カマド煙出し孔

写真図版20 RA15住居跡



全景（北から）



埋土断面（南から）



2号カマド



3号カマド

写真図版21 RA16住居跡



全景（西から）



埋土断面（東から）



第4次調査区西側

写真図版22 RA17住居跡



全景 (南から)



埋土断面 (東から)



カマド煙出し孔

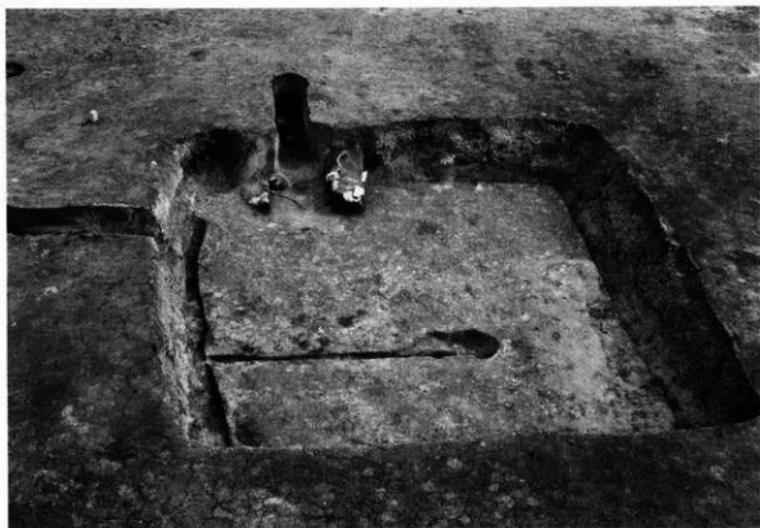


カマド燃焼部

写真図版23 RA18住居跡



RA19 全景 (西から)



RA20 全景 (南西から)  
写真図版24 R A 19・20住居跡



焼土、炭化材出土状況



埋土断面（南西から）



カマド



北西壁際 炭化材

写真図版25 RA20住居跡（2）



全景（北から）



埋土断面（南から）



1号カマド



2号カマド

写真図版26 RA21住居跡



全景（西から）



埋土断面（西から）



カマド

写真図版27 R A22住居跡



全景（東から）



遺物出土状況（北から）

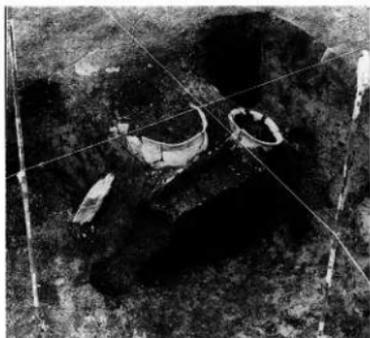


カマド周辺

写真図版28 R A23住居跡（1）



カマド天井石除去



袖芯材石除去



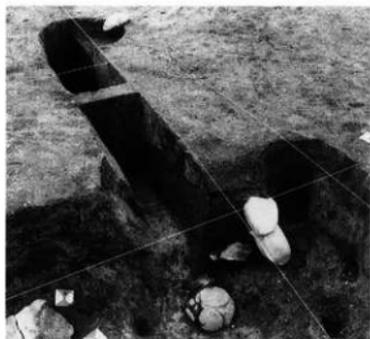
土器露出



土層たち割り



土層除去



支脚露出・煙道たち割り

写真図版29 RA23住居跡(2)



RA24 全景（東から）



RA25 全景（東から）

写真図版30 R A 24・25住居跡



全景（北から）



カマド

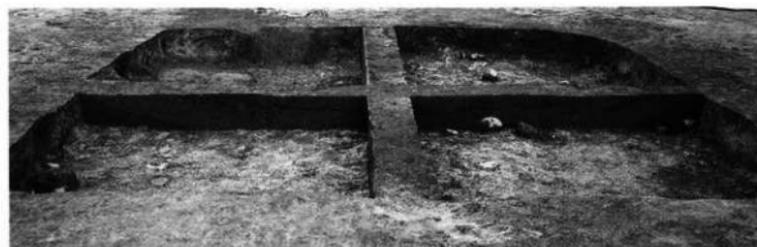


作業風景

写真図版31 R A26住居跡



全景（南から）



埋土断面（西から）



調査寸景

写真図版32 R A27住居跡



全景（南東から）



埋土断面（南西から）



遺物出土状況



横穴状土坑

写真図版33 R A 28住居跡



全景（東から）



埋土断面

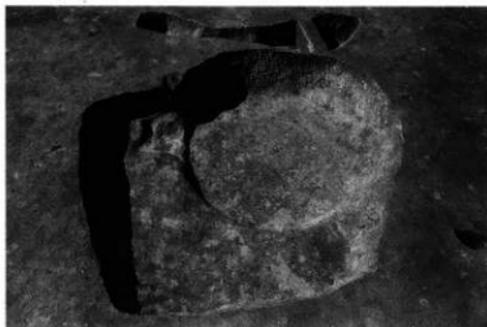


1号カマド



2号カマド

写真図版34 RA29住居跡



RA30 全景 (東から)



RA31 全景 (西から)



RA30 カマド

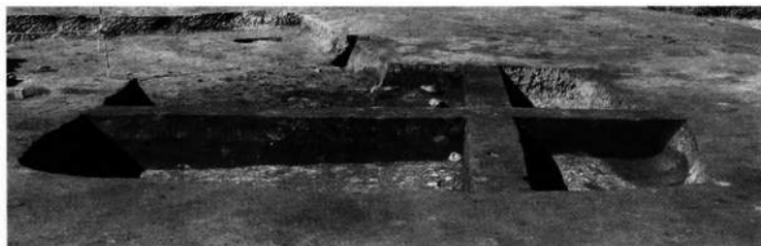


RA31 カマド

写真図版35 RA30・31住居跡



全景（東から）



埋土断面（東から）

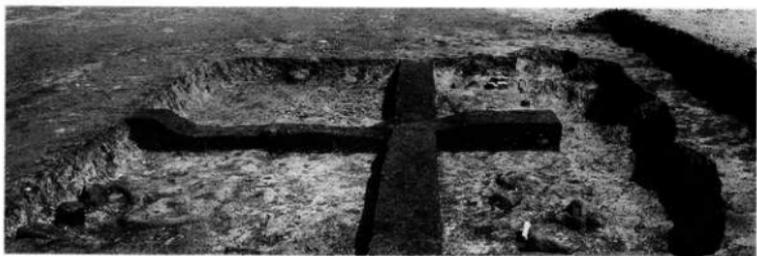


カマド煙道断面

写真図版36 R A32住居跡



全景（北西から）



埋土断面（南から）



カマド①



カマド②

写真図版37 R A33住居跡



RA34 全景 (北から)



RA35 全景 (西から)



西側調査区通望



飯岡才川遺跡遠望  
写真図版38 R A34・35住居跡



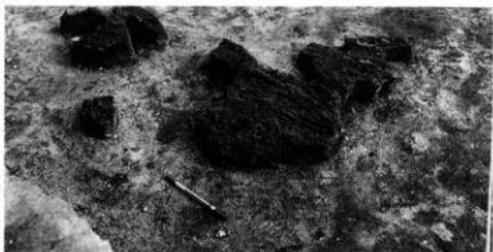
全景（北西から）



堀土断面（南東から）



カマド



床面炭化材出土状況（カヤ類）

写真図版39 R A36住居跡



全景（南西から）



埋土断面（東から）



2号カマド発掘



2号カマド煙道たち網り

写真図版40 R A37住居跡（1）



1号カマド検出



1号カマド石組



石組内部



内部完備



支脚設置状況

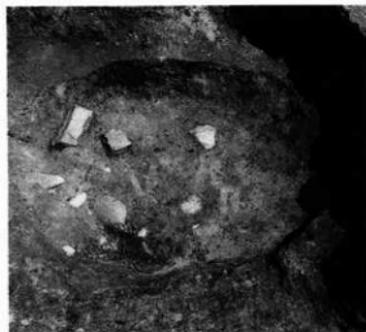
写真図版41 RA37住居跡(2)



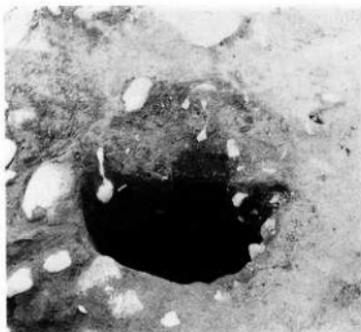
Pit 2



Pit 3



Pit 4



Pit 5



作業風景

写真図版42 RA37住居跡(3)



全景（南から）



掘り方底面 掘削痕

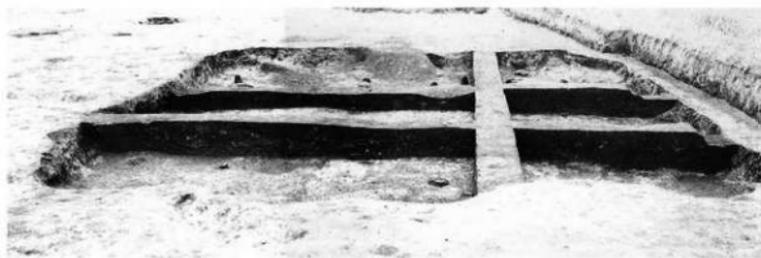


埋土断面（東から）

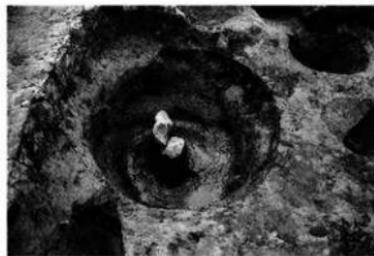
写真図版43 R A38住居跡



全景（南東から）



埋土断面（東から）



Pit 6（西から）



Pit 9（西から）

写真図版44 R A39住居跡（1）



1号カマド検出状況（東から）



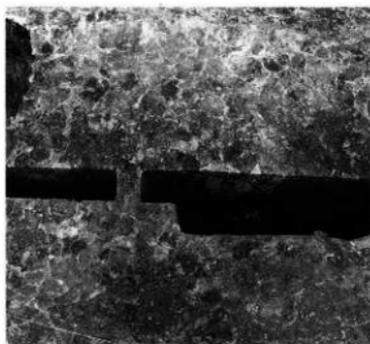
1号カマド完掘



1号カマド 断面縦断面



作業風景



2号カマド 煙道縦断面



2号カマド 煙道横断面



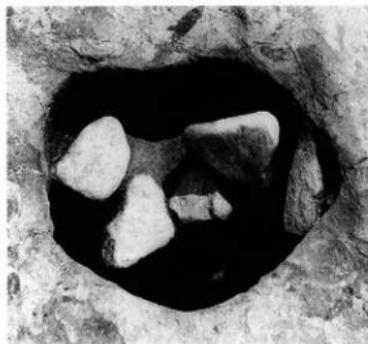
2号カマド 煙出し孔



3号カマド 煙道縦断面

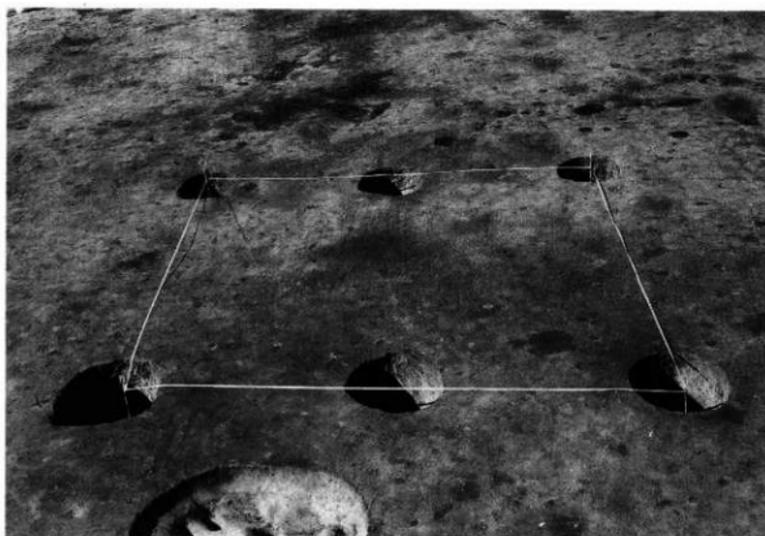


3号カマド 煙道横断面



3号カマド 煙出し孔

写真図版46 R A39住居跡(3)



全景（東から）



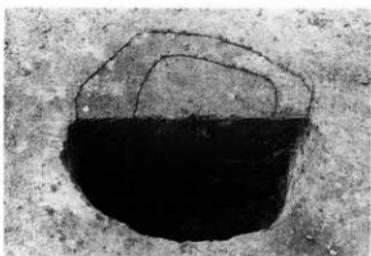
P 1



P 3



P 4

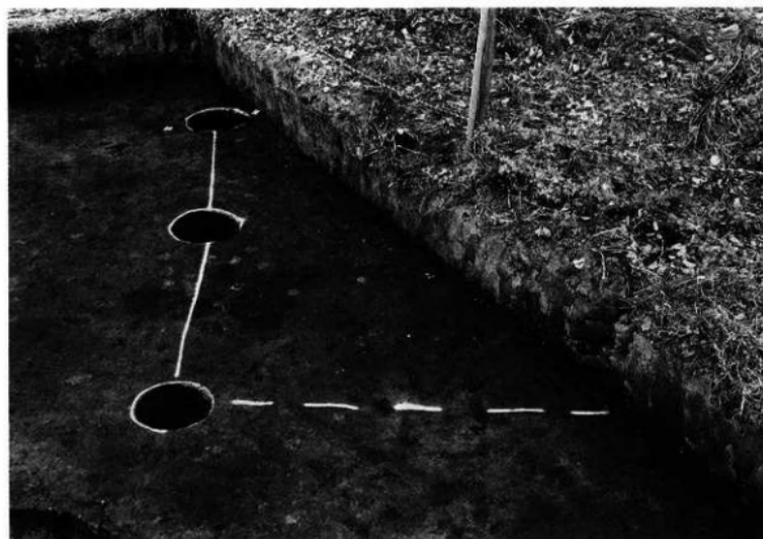


P 6

写真図版47 R B01掘立柱建物跡



RB02 全景 (南から)



RB03 全景 (南から)

写真図版48 R B 02・03掘立柱建物跡



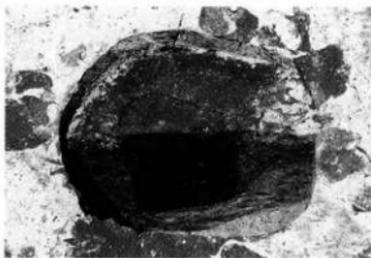
RB04 全景（東から）



P 1



P 2



P 3



P 4

写真図版49 R B04掘立柱建物跡



RB05 全景（北西から）



RB06 全景（東から）

写真図版50 R B 05・06掘立柱建物跡



RD01 完掘 (北から)



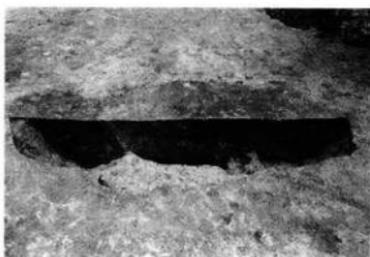
RD02・03 断面 (南から)



RD04 完掘 (北西から)



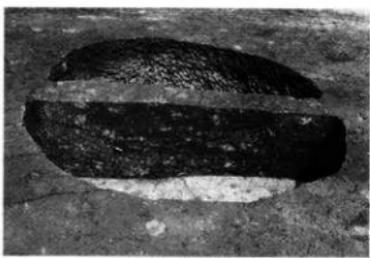
RD05 遺物出土状況 (南東から)



RD06・07・08 断面 (南西から)



RD09 断面 (南から)



RD10 断面 (西から)

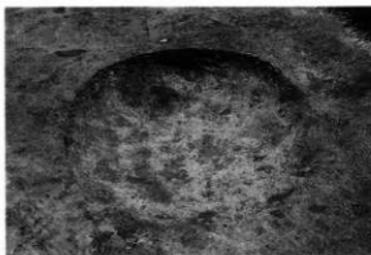


RD10 完掘 (北から)

写真図版51 土坑 (1)



RD11 完掘 (北から)



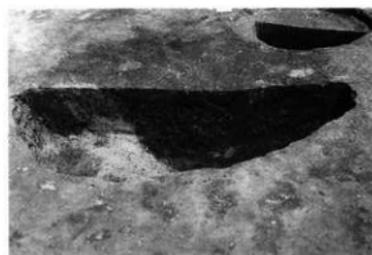
RD12 完掘 (北西から)



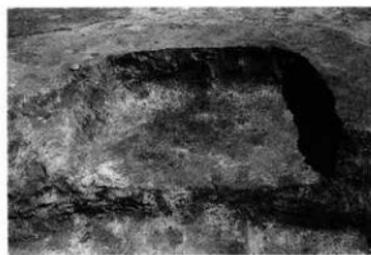
RD13 断面 (西から)



RD14 完掘 (北から)



RD15 断面 (南から)



RD16 完掘 (南から)



RD17 断面 (東から)



RD17 完掘 (東から)

写真図版52 土坑 (2)



RD18 断面 (東から)



RD19 断面 (南から)



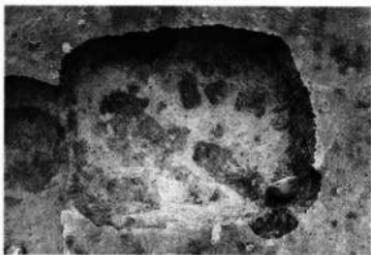
RD20 断面 (西から)



作業風景



RD21 断面 (東から)

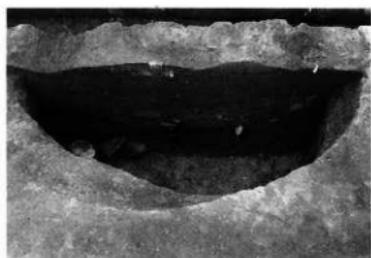


RD21 完掘 (西から)



RD22 完掘 (西から)

写真図版53 土坑 (3)



RD23 断面 (東から)



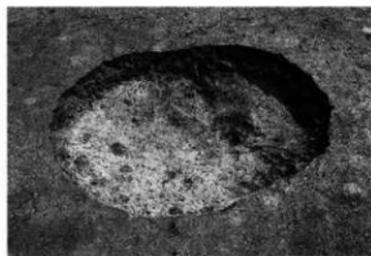
RD23 完掘 (北から)



RD24 完掘 (南から)



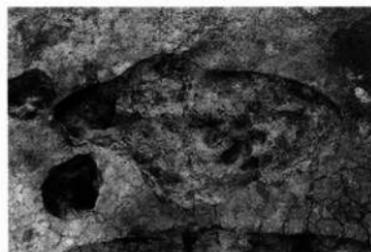
RD25 完掘 (南から)



RD26 完掘 (南から)



RD27 完掘 (北から)



RD28 完掘 (北から)



RD29 断面 (西から)

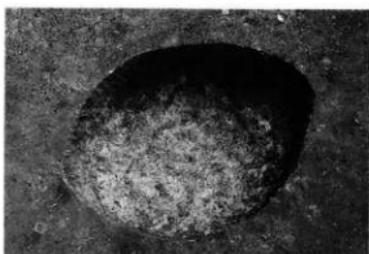
写真図版54 土坑 (4)



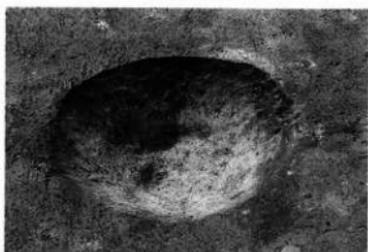
RD30 完掘 (北から)



RD31 断面 (南から)



RD32 完掘 (北西から)



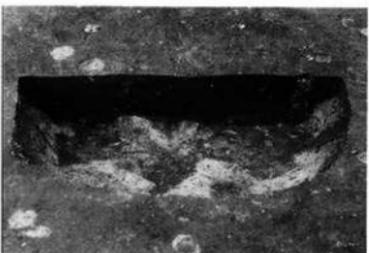
RD33 完掘 (北から)



RD34 完掘 (北から)



RD35 断面 (南から)



RD36 断面 (南西から)

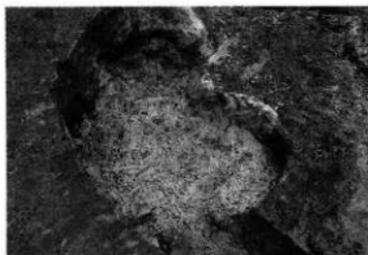


RD37 完掘 (南から)

写真図版55 土坑 (5)



RD38 断面 (西から)



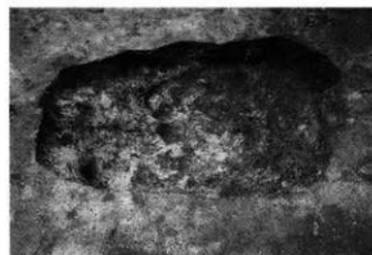
RD39 完掘 (南から)



RD40 完掘 (南東から)



RD41 完掘 (東から)



RD42 完掘 (東から)



RD43 断面 (南から)

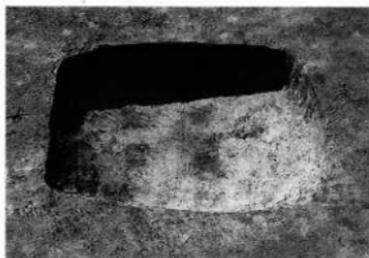


RD44 完掘 (北から)



RD45 完掘 (北から)

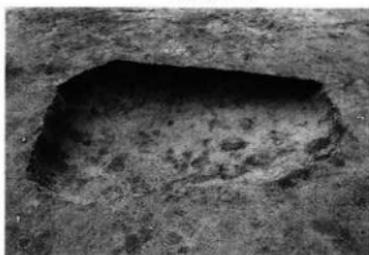
写真図版56 土坑 (6)



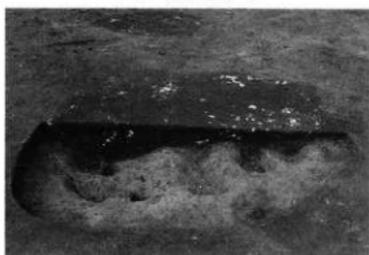
RD46 完掘 (北から)



RD47 完掘 (西から)



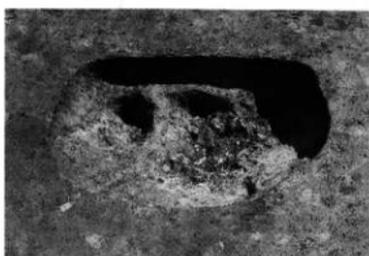
RD48 完掘 (東から)



RD49 断面 (東から)



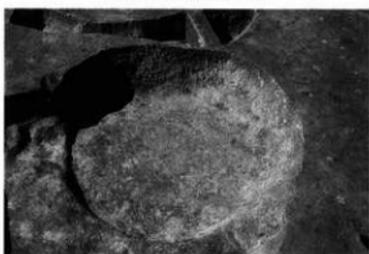
RD50 断面 (南から)



RD51 完掘 (北西から)



RD52 断面 (西から)



RD52 完掘 (東から)

写真図版57 土坑 (7)



RD53 完掘 (東から)



RD54 完掘 (東から)



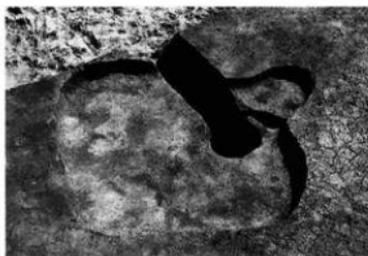
RD55 (南から)



RD56 断面 (北西から)



RD57・58・59・60 完掘 (北から)



RD61 完掘 (北西から)



調査寸景

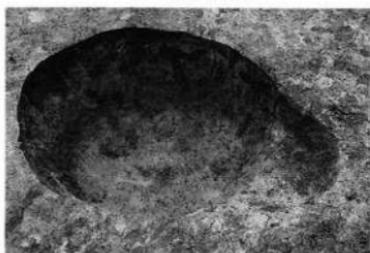
写真図版58 土坑 (8)



RD62 完掘 (東から)



RD63・64 完掘 (東から)



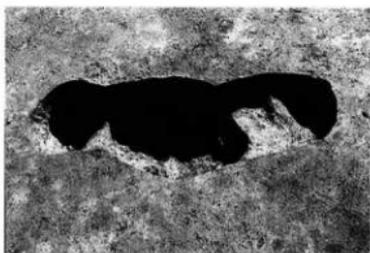
RD65 完掘 (東から)



RD66 完掘 (東から)



RD67 断面 (南から)



RD68 完掘 (北西から)



RD69 完掘 (西から)



RD70 完掘 (西から)

写真図版59 土坑(9)



RD72 完掘 (東から)



RD73 断面 (南から)



RD75 断面 (南から)



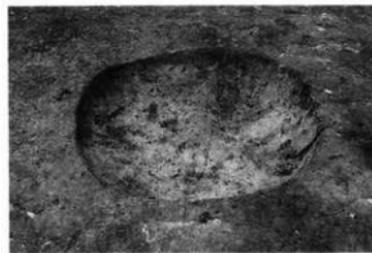
RD77 完掘 (南から)



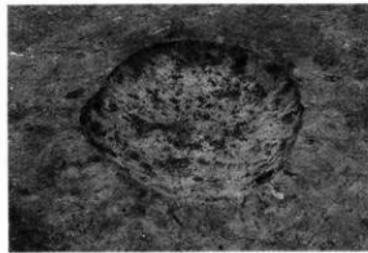
RD78 完掘 (西から)



RD80 断面 (南西から)



RD83 完掘 (南から)



RD84 完掘 (南から)

写真図版60 土坑 (10)



RD85 断面 (南西から)



RD88 断面 (南から)



RD89 断面 (南から)



RD90 断面 (南から)



RD94 断面 (北から)



RD96 完掘 (南から)



RD99 完掘 (南から)

写真図版61 土坑 (11)



RD103 断面 (東から)



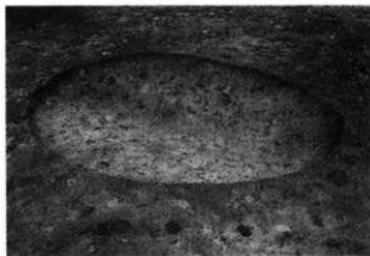
RD103 完掘 (北から)



RD109 完掘 (南から)



RD116 断面 (西から)



RD117 完掘 (南東から)



RD118・119 完掘 (北から)



作業風景



RD124 完圖 (西から)



RD135 完圖 (東から)



RD71 (南から)



RD91 (南から)



RD92 (南から)



RD93 (東から)



RD95 (北西から)

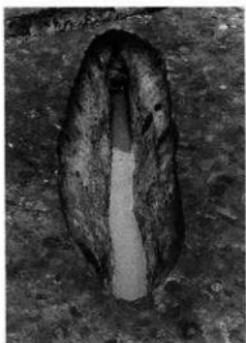


RD97 (南東から)

写真図版63 隔し穴状土坑 (1)



RD98 (北から)



RD100 (南東から)



RD101 (北から)



RD102 (北西から)



RD104 (東から)



RD112 (西から)



RD114 (西から)



RD120 (南から)



RD121 (南から)

写真図版64 陥し穴状土坑 (2)



RD122 (南から)



RD123 (西から)



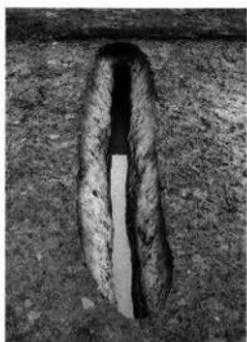
RD127 (南から)



RD128 (北から)



RD129 (南から)



RD130 (南から)



RD132 (南から)



RD133 (南から)



RD134 (西から)

写真図版65 隔し穴状土坑 (3)



RE01 断面 (西から)



RE02 断面 (南から)



RE03 完掘 (東から)



RE03 断面 (南から)

写真図版66 竪穴状遺構 (1)



RE04 断面 (南から)



RE05 断面 (南西から)



RE05 完掘 (東から)



湧水による水没 (左写真の7時間後)

写真図版67 竪穴状遺構 (2)



RG01 (東から)



RG02 (南から)



RG02 断面 (南から)



作業風景



RG03 (東から)

写真図版68 溝跡(1)



RG05 (西から)



RG07 (南から)



RG08 (南から)



RG10 (東から)

写真図版69 溝跡(2)



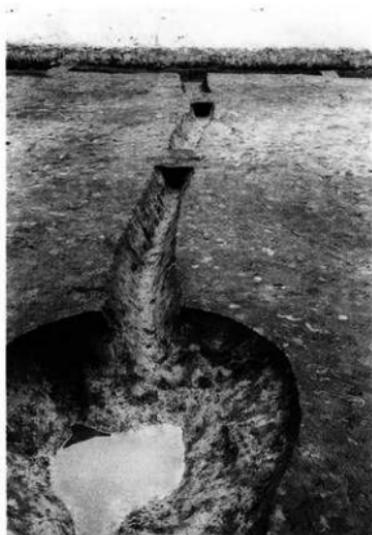
RG11・12 (南から)



RG11・12 断面



作業風景



RG13 北半 (南から)



RG13 南半 (南から)

写真図版70 溝跡 (3)



RG16 (南から)



RG17・18 (南から)



RG19 (南から)

写真図版71 溝跡 (4)



R101 検出 (南から)



R101 断面 (西から)



R101 石組内部究極



R101 底面 曲物 出土状況



R102 断面 (北から)



R102 完備 (北東から)

写真図版72 井戸跡



RZ01・03カマド状遺構（西から）



RZ03 断面



RZ02畝間状遺構（南から）

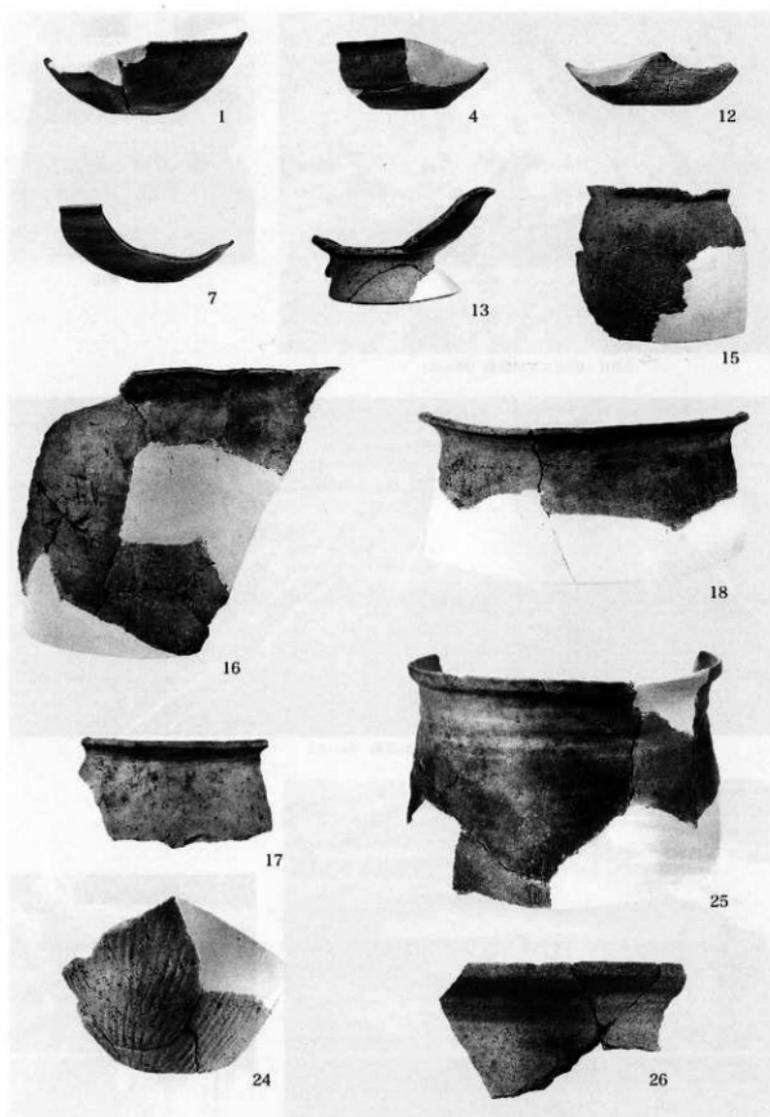


旧河道脇風倒木痕

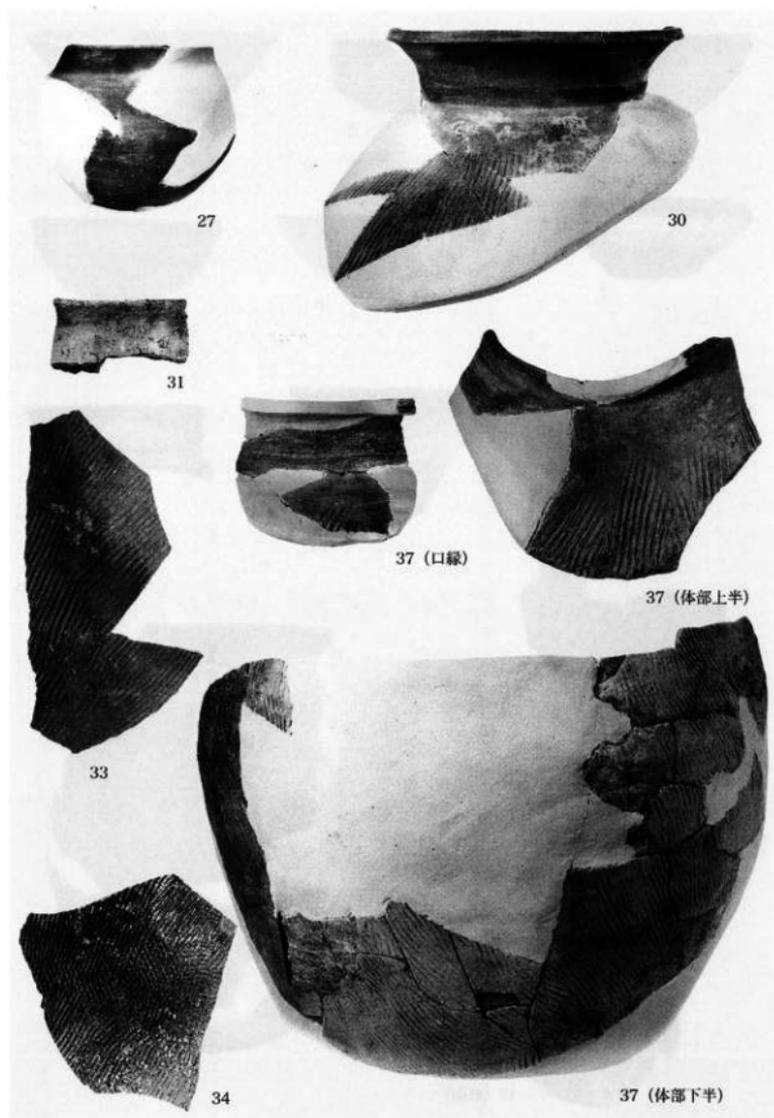


水辺の作業風景

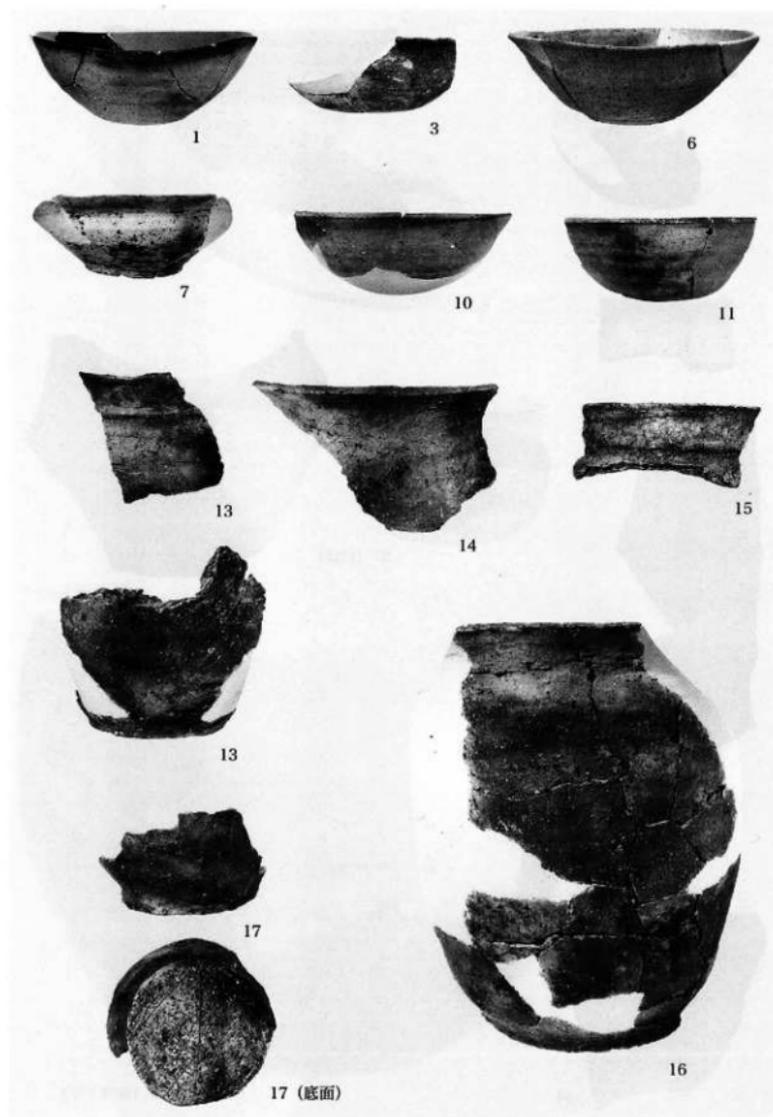
写真図版73 カマド状遺構 他



写真図版74 RA01出土遺物(1)



写真図版75 RA01出土遺物(2)



写真図版76 RA02出土遺物

RA03



1



2

RA04



1



5



7



8



10



9



14



15

写真図版77 RA03・04出土遺物

RA04



16



17



18



19

RA05



2



3



7



10



12



13



16

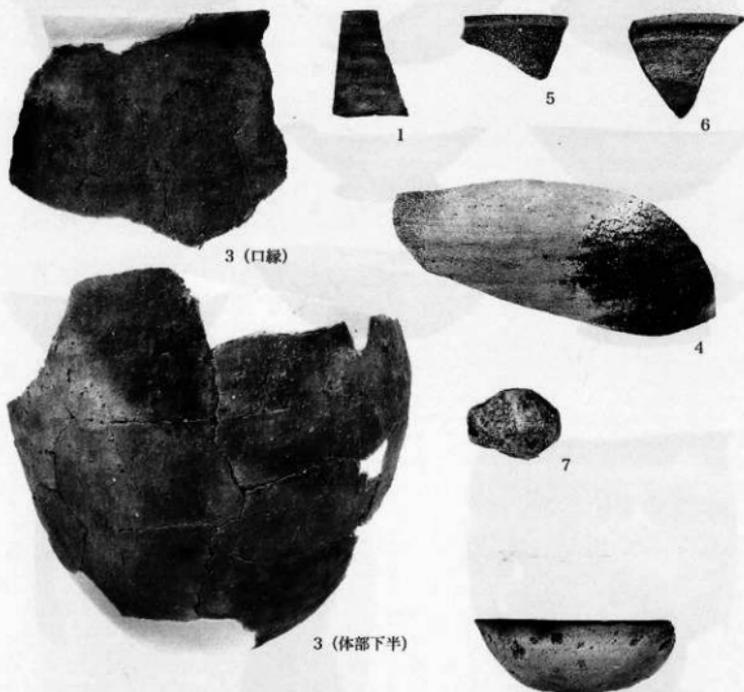


18

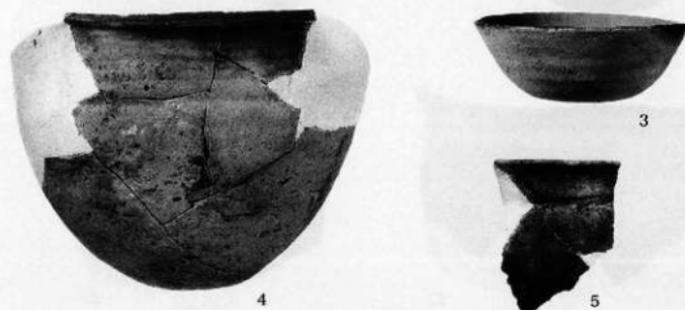


写真図版78 RA04・05出土遺物

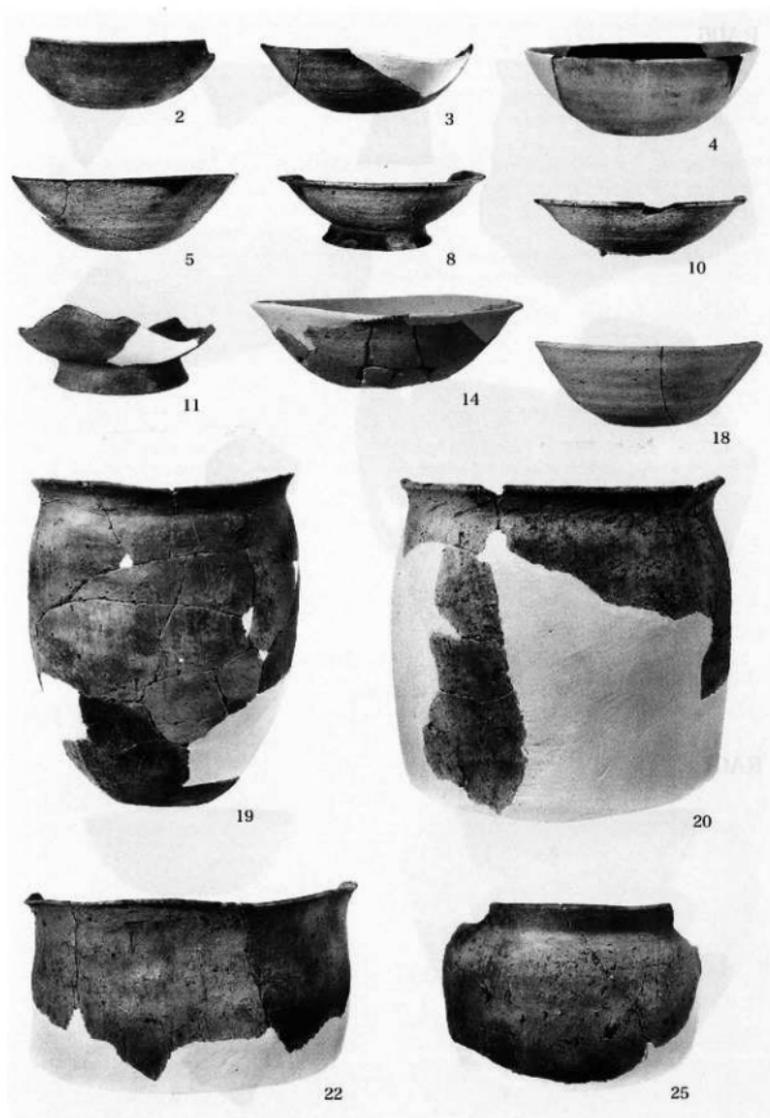
RA06



RA07



写真図版79 RA06・07出土遺物



写真図版80 RA09出土遺物

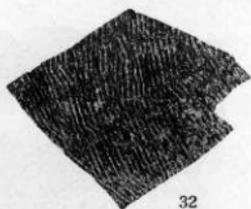
RA09



30



29



32



31



33

RA10



1



2



6



8



13



11



12



18

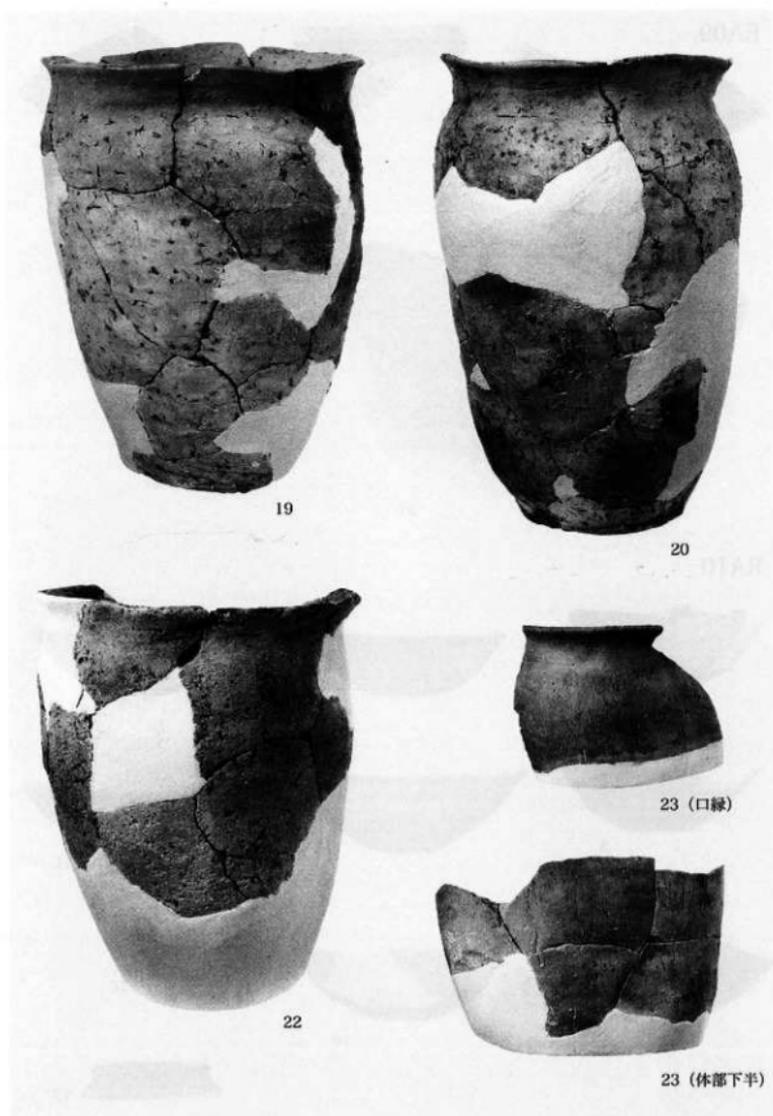


16

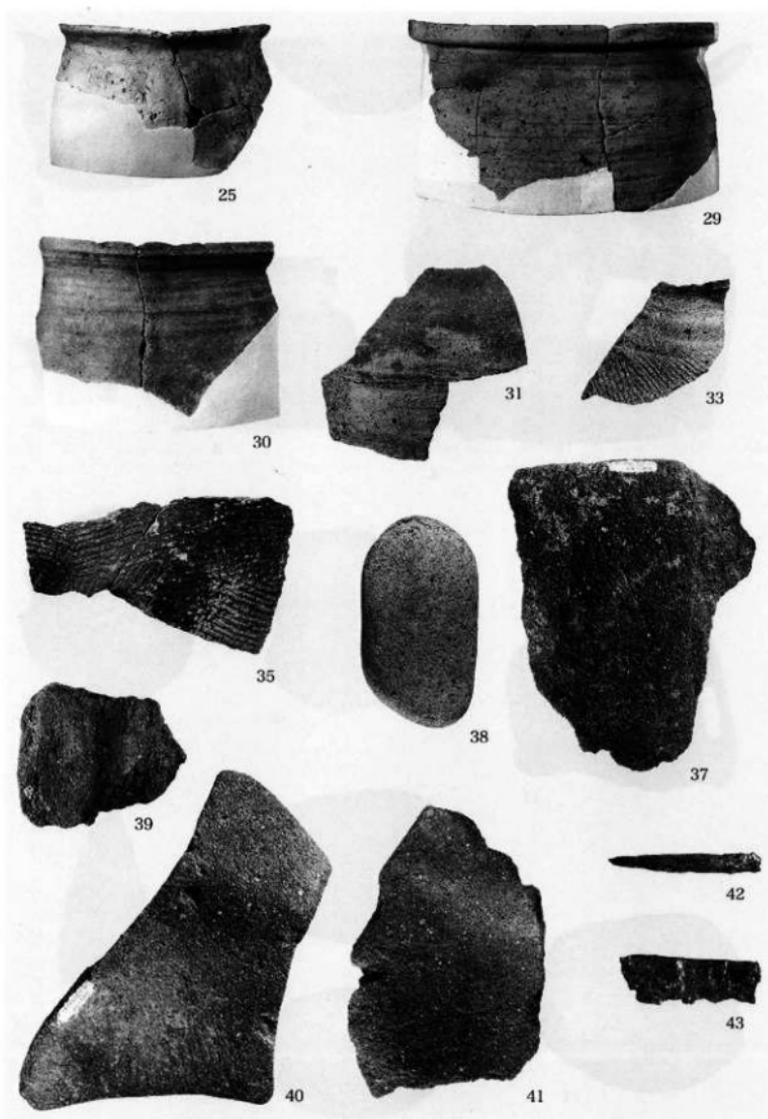


17

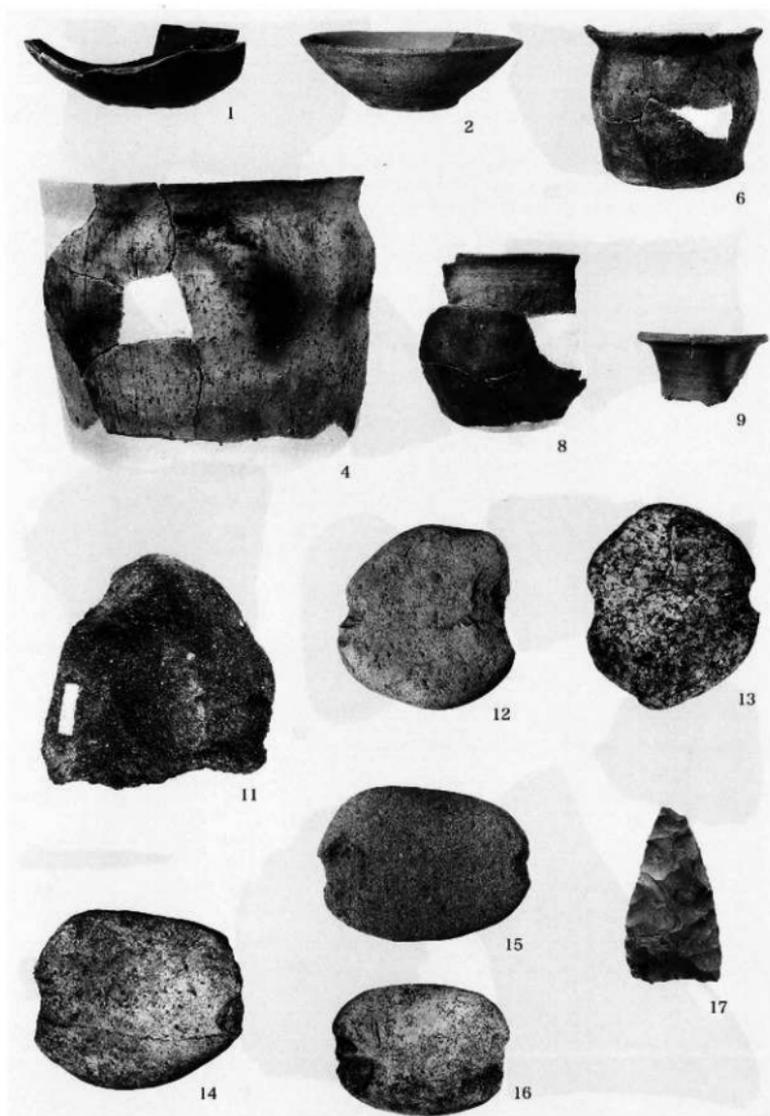
写真図版81 RA09・10出土遺物



写真図版82 R A 10出土遺物 (2)

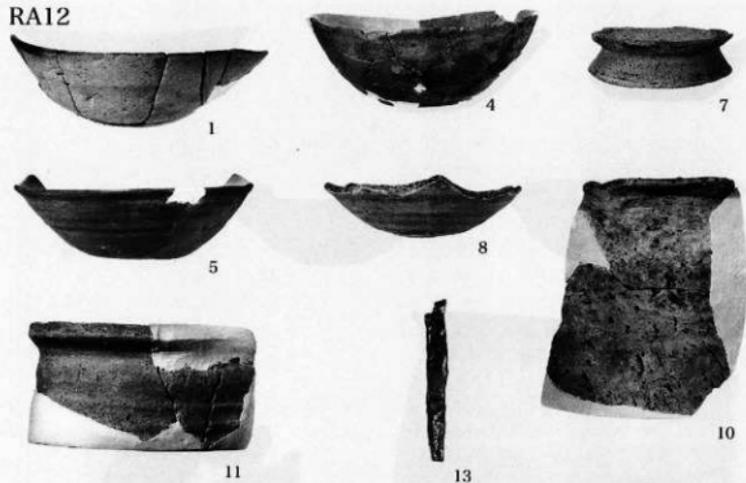


写真図版83 R A 10出土遺物 (3)

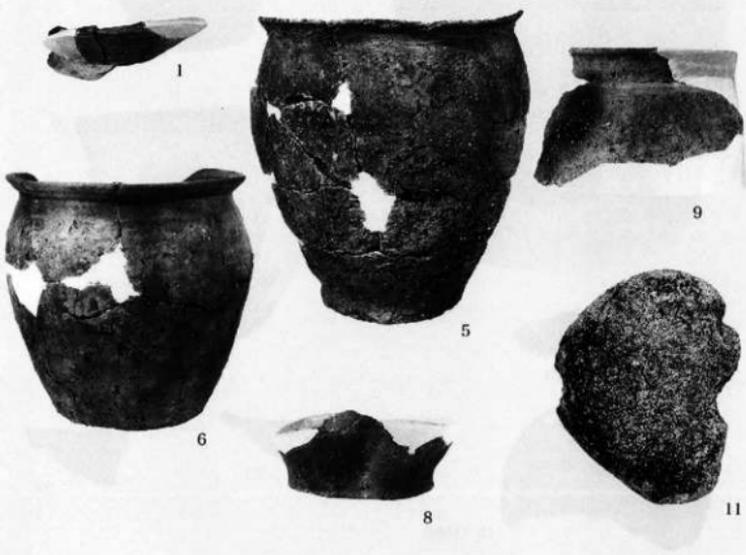


写真図版84 RA11出土遺物

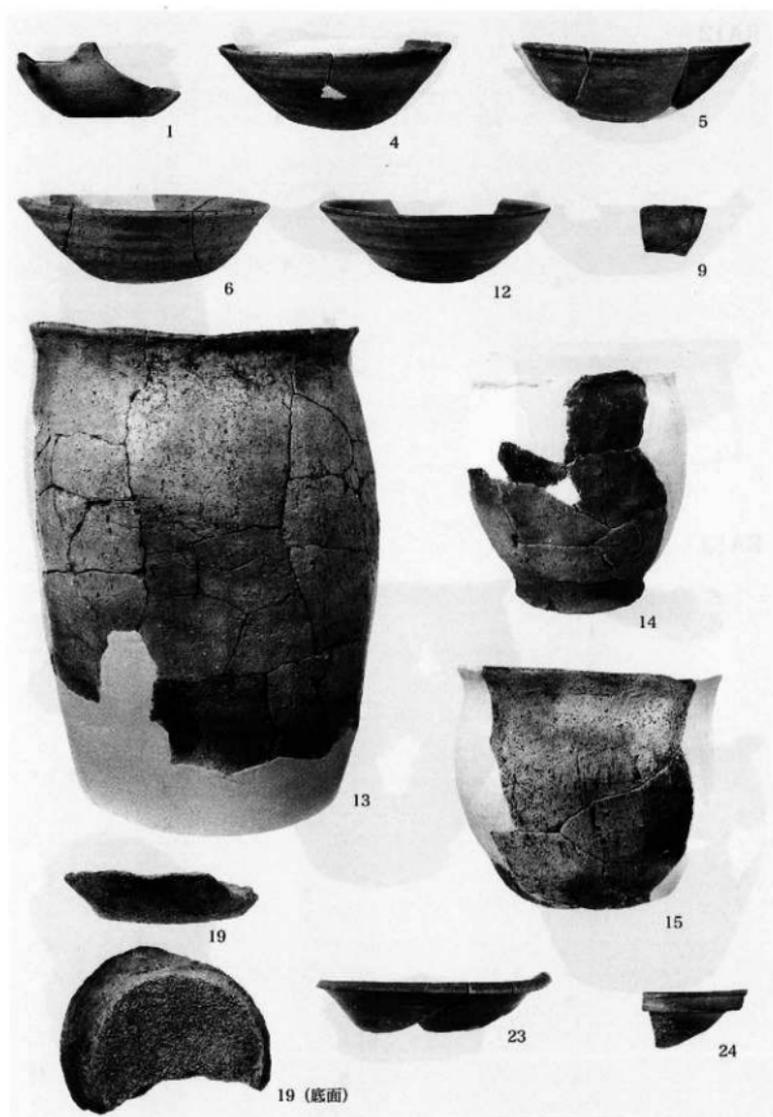
RA12



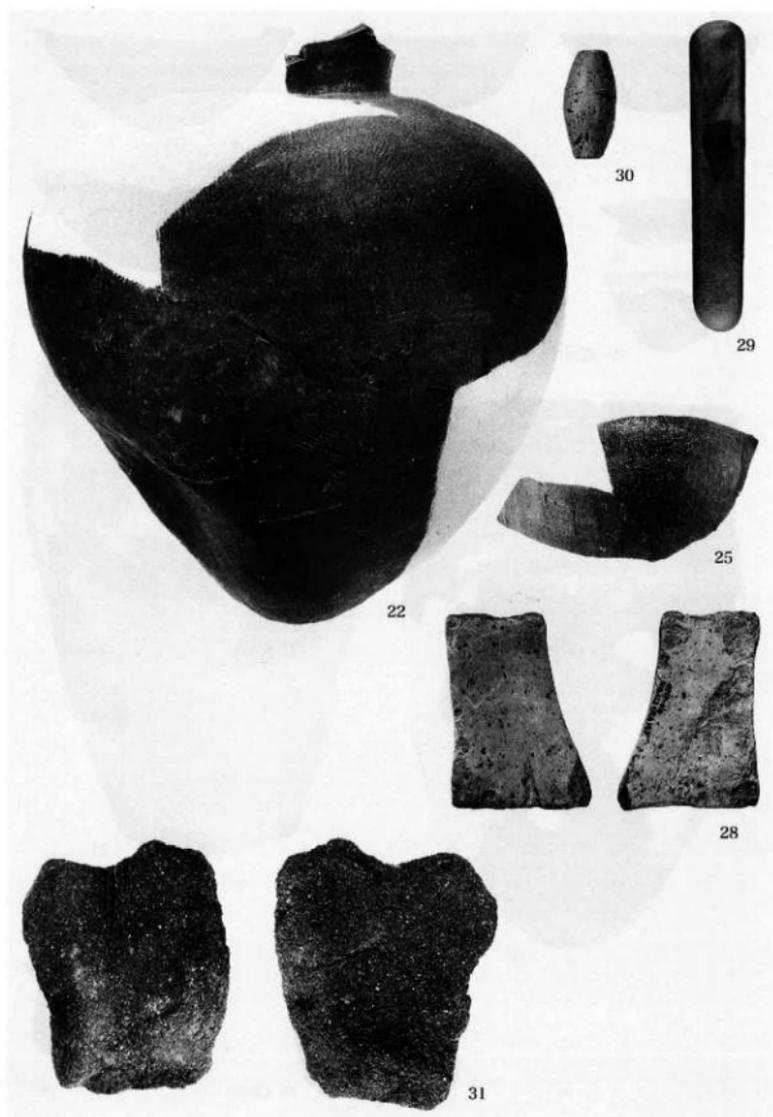
RA13



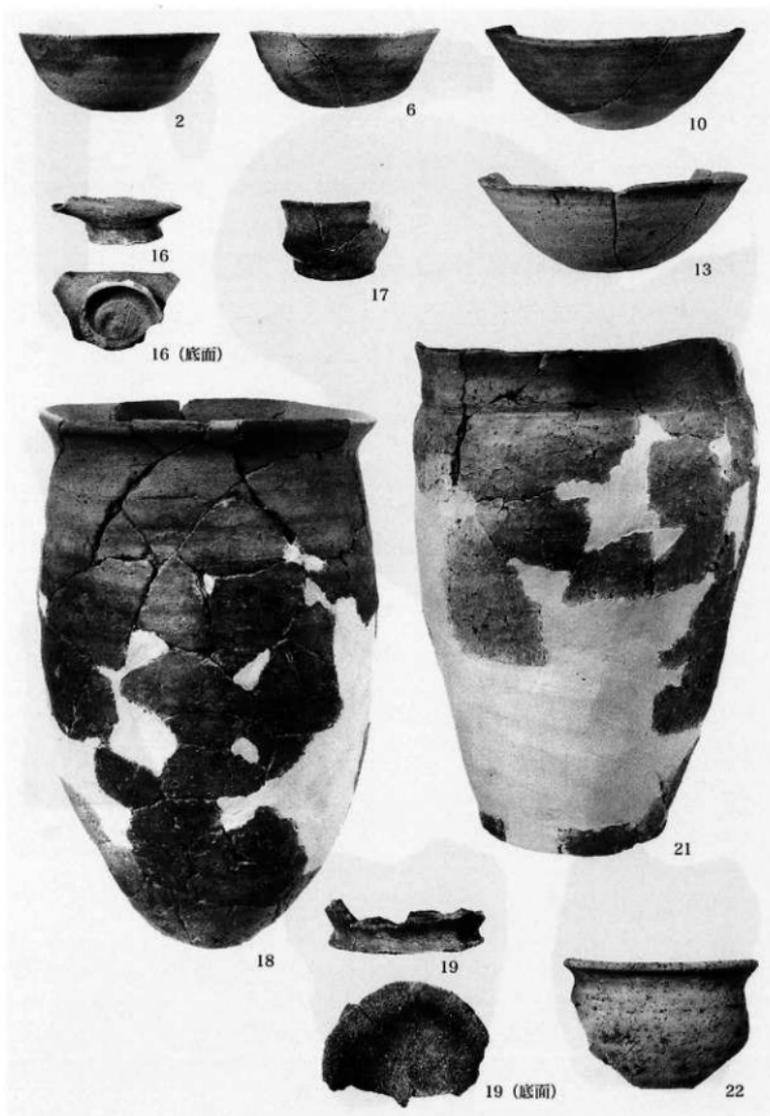
写真図版85 RA12・13出土遺物



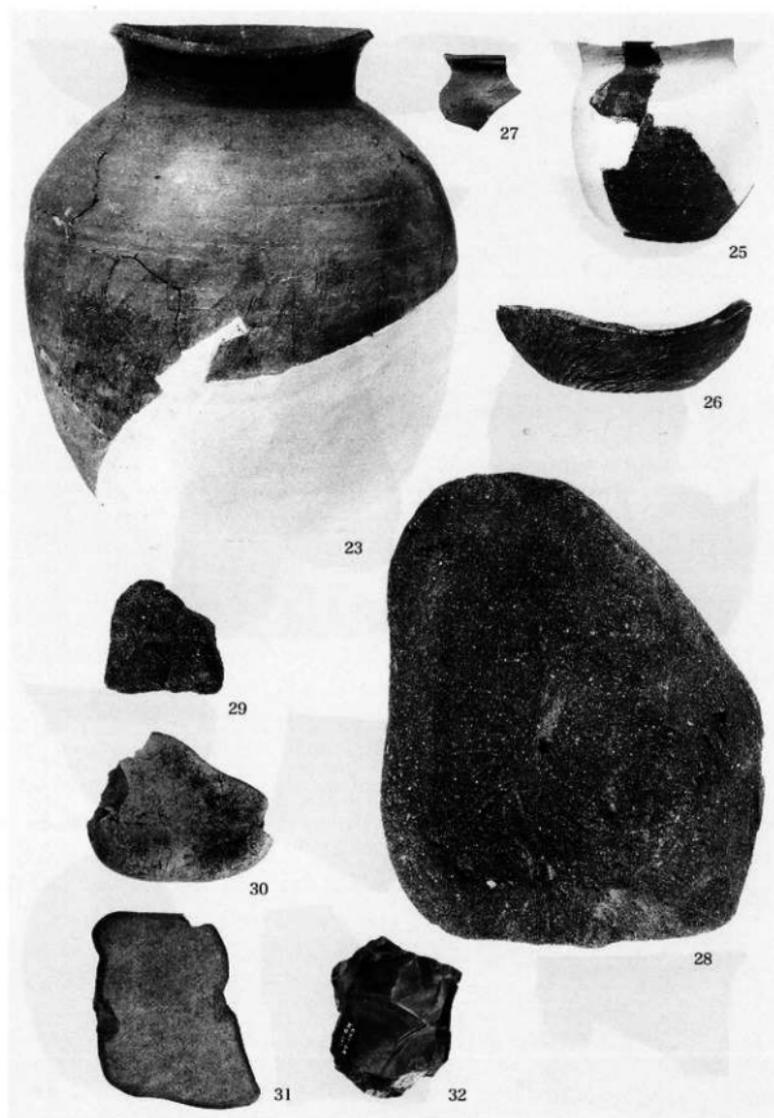
写真図版86 RA14出土遺物(1)



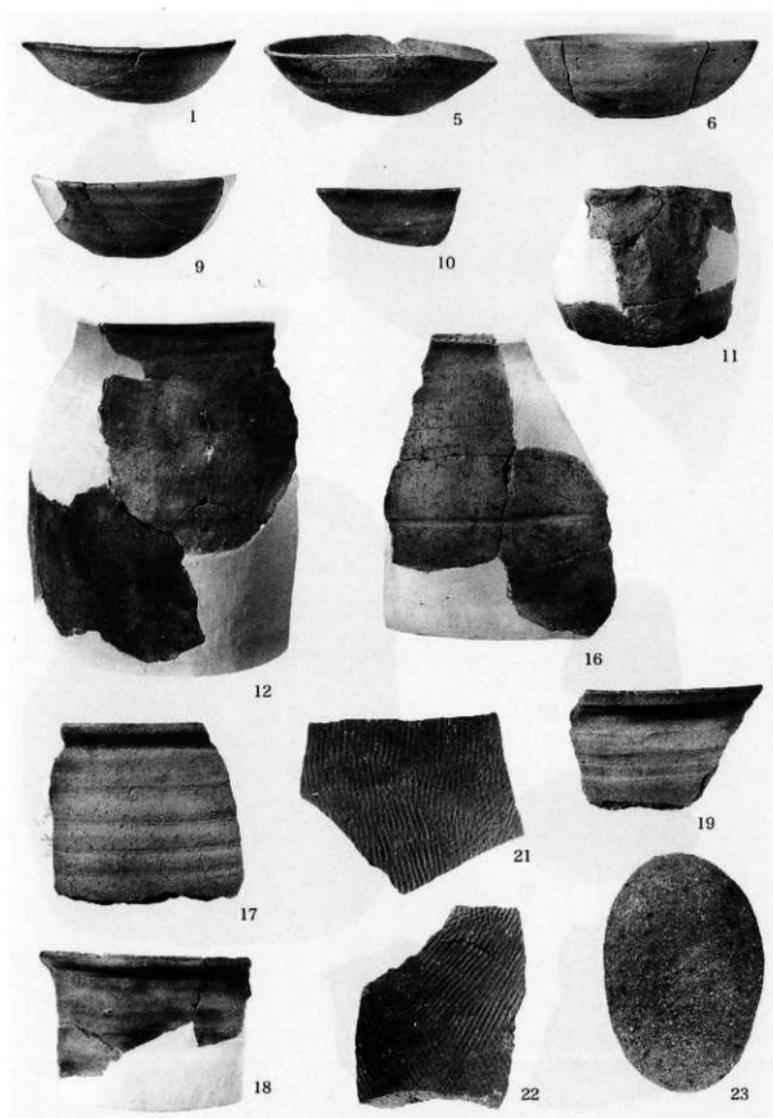
写真図版87 RA14出土遺物(2)



写真図版88 RA15出土遺物(1)



写真図版89 RA15出土遺物(2)

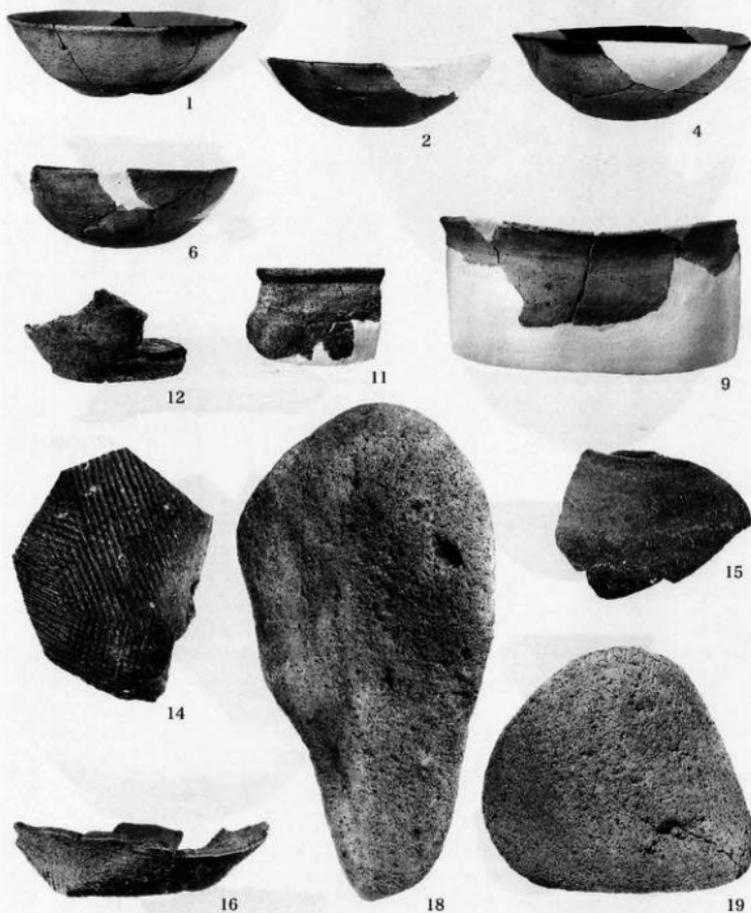


写真図版90 R A 16出土遺物

RA17



RA18



写真図版91 RA17・18出土遺物

RA19



1



1



2



4

RA20



5



12 (口縁)



7



9



13

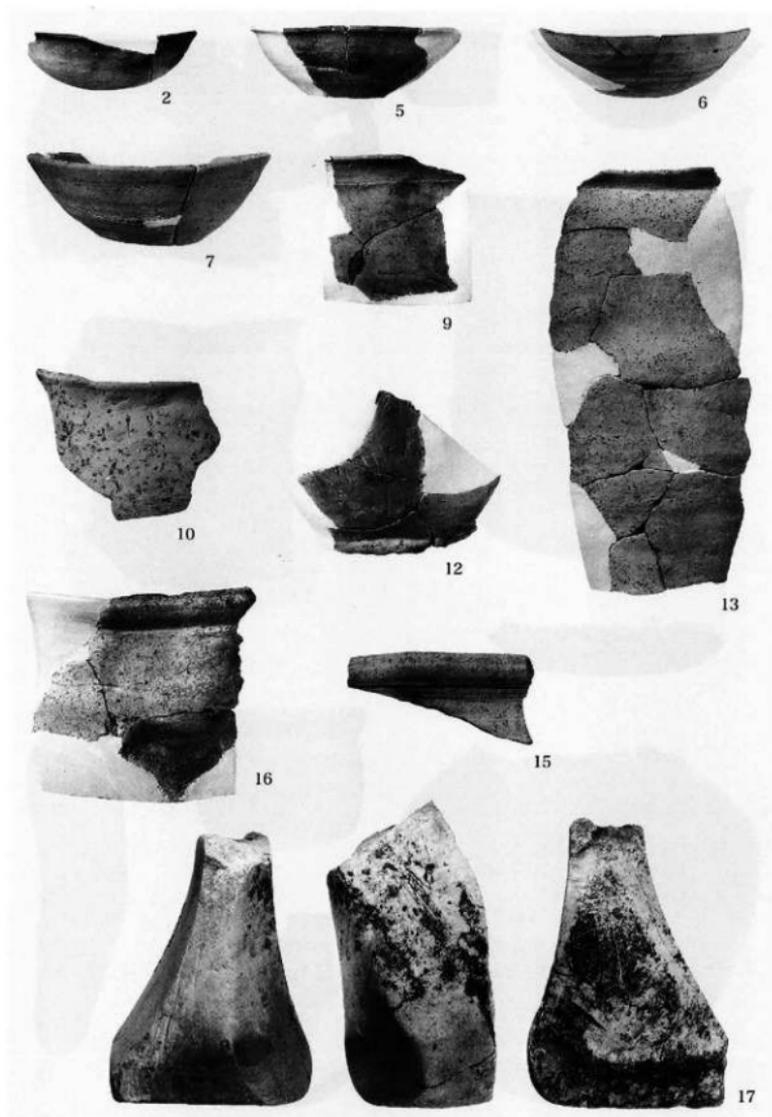


12 (体部下半)

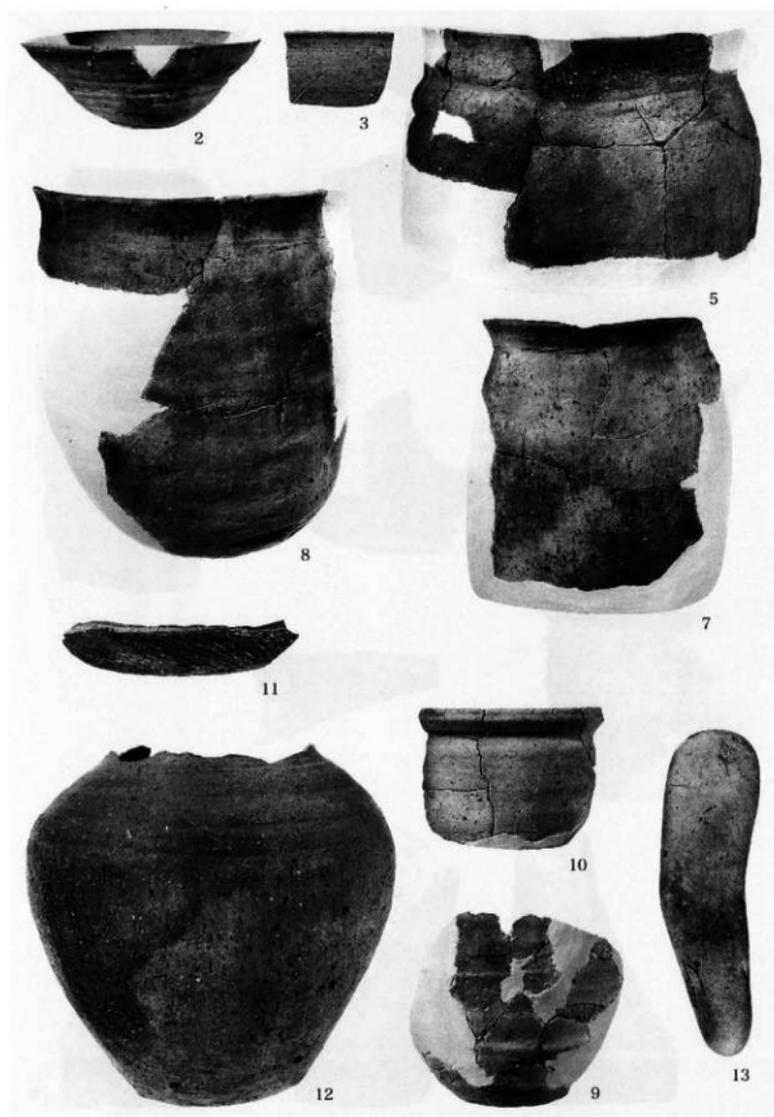


15

写真図版92 RA19・20出土遺物



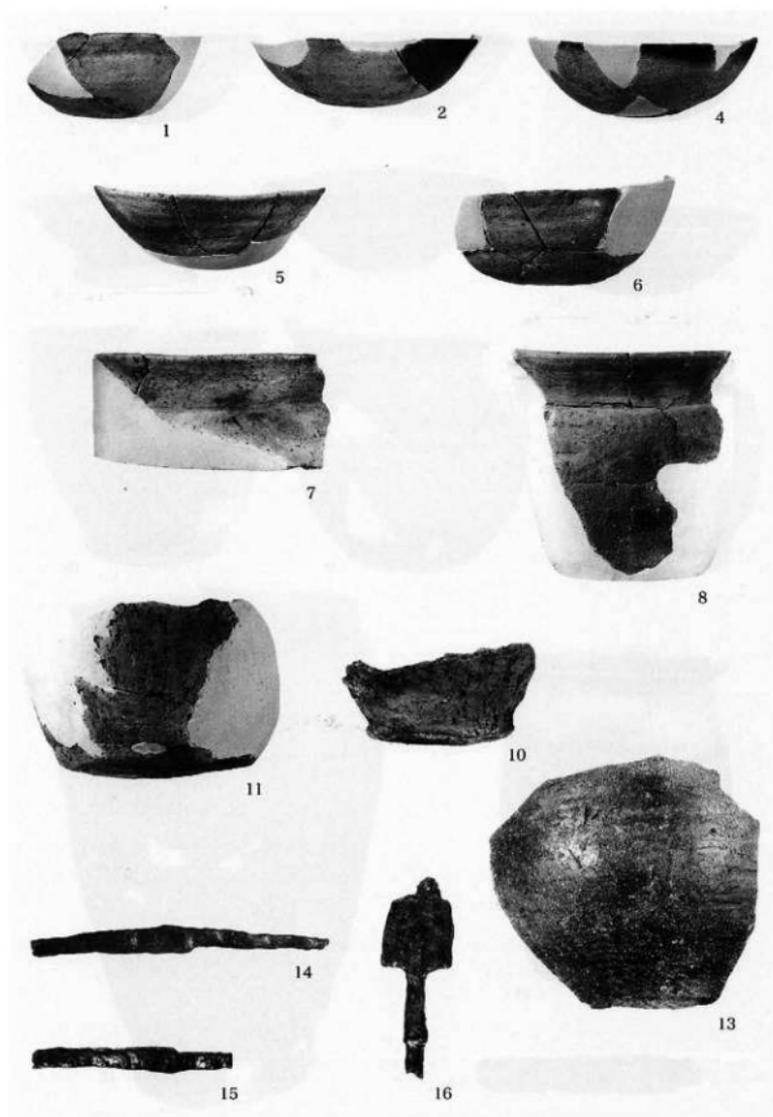
写真図版93 RA21出土遺物



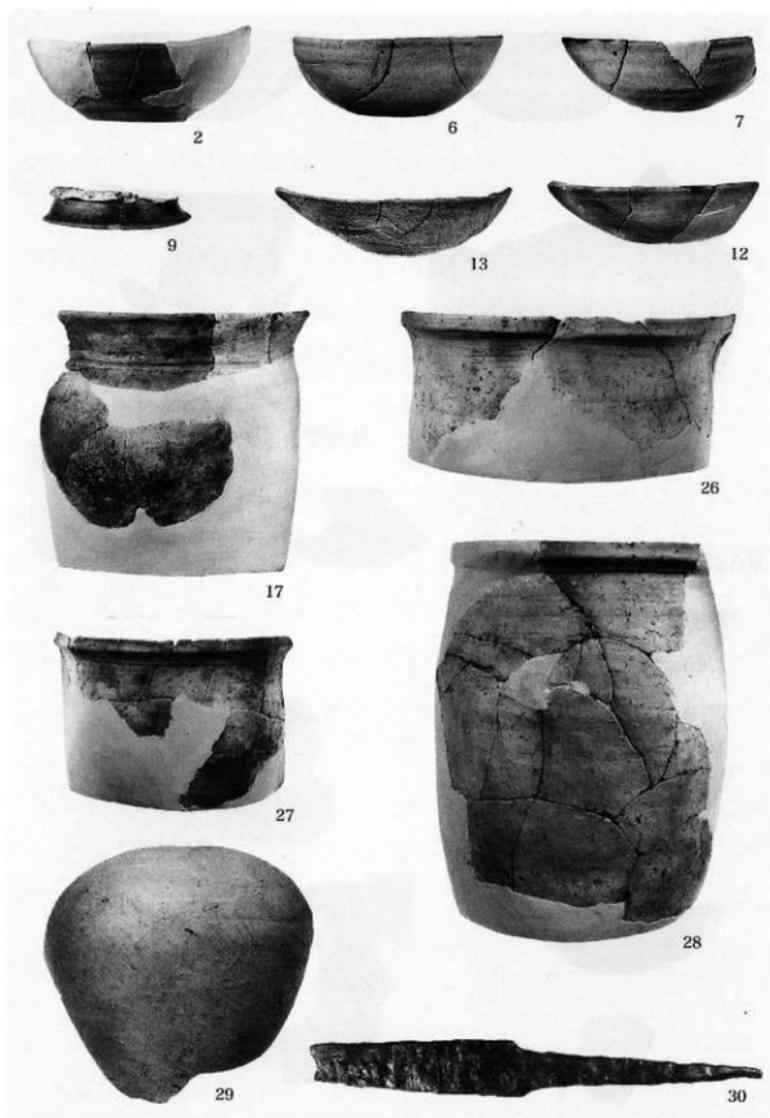
写真図版94 RA22出土遺物



写真図版95 R A23出土遺物



写真図版96 RA24出土遺物



写真図版97 R A25出土遺物

RA26



RA27



RA28



写真図版98 R A 26・27・28出土遺物

RA28



10



11 (口縁~体部)



11 (体部下半)

RA29



1



2



3



24



9



11



12



22



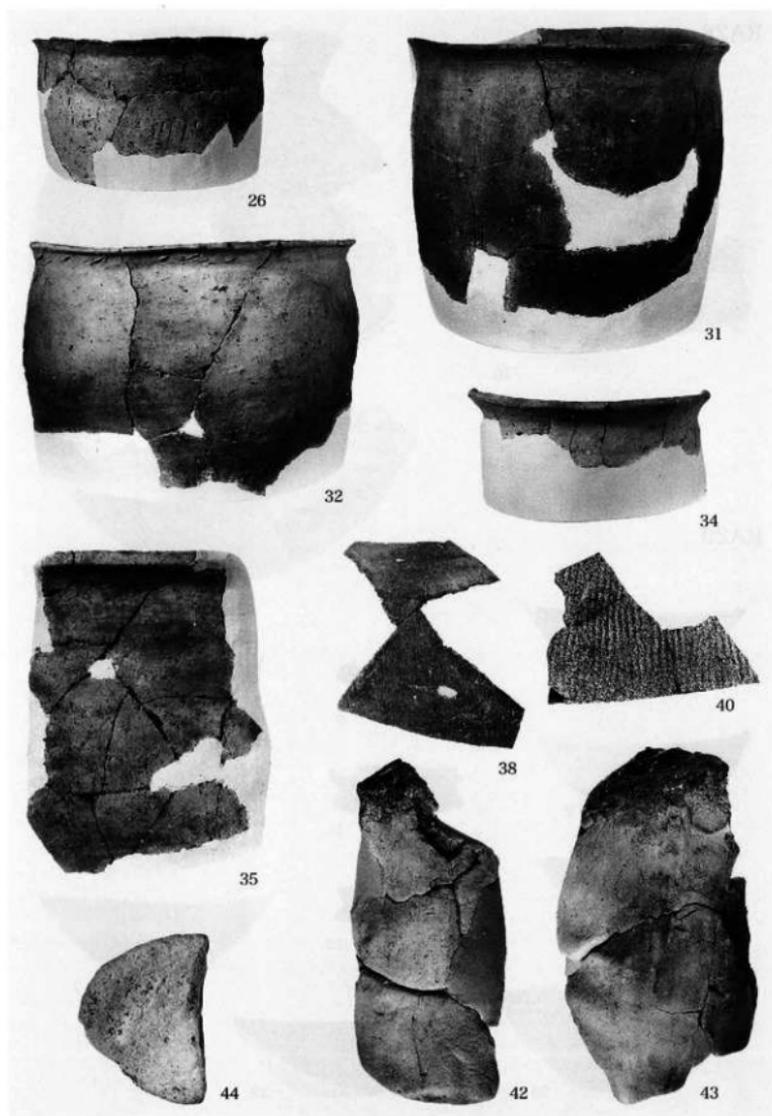
15



16



17



写真図版100 R A 29出土遺物

RA30



1



2

RA31



1



2



3



8



9



16



17



21



18



19



20



23

写真図版101 RA 30・31出土遺物

RA32



1



3



4



5



6

RA33



2



3



4



5



9



14



12



13



10

写真図版102 R A 32・33出土遺物

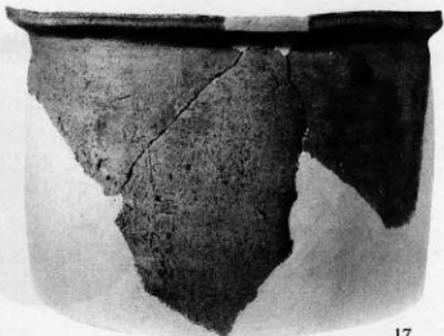
RA33



16



20



17



19

RA34



1



2



3



4

RA35



1



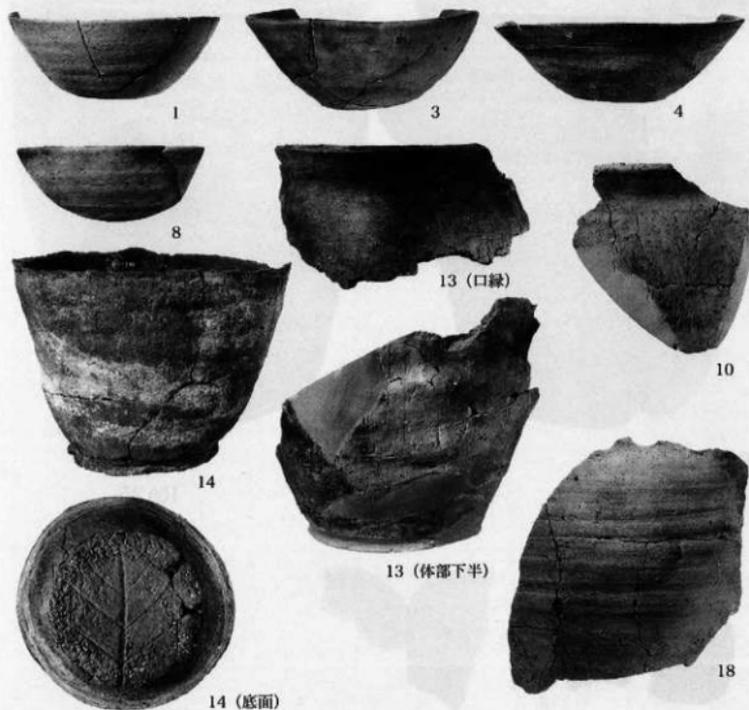
2

写真図版103 R A 33・34・35出土遺物

RA36



RA37



写真図版104 RA36・37出土遺物

RA37



20



21



23



22



24

RA38



1



4



9

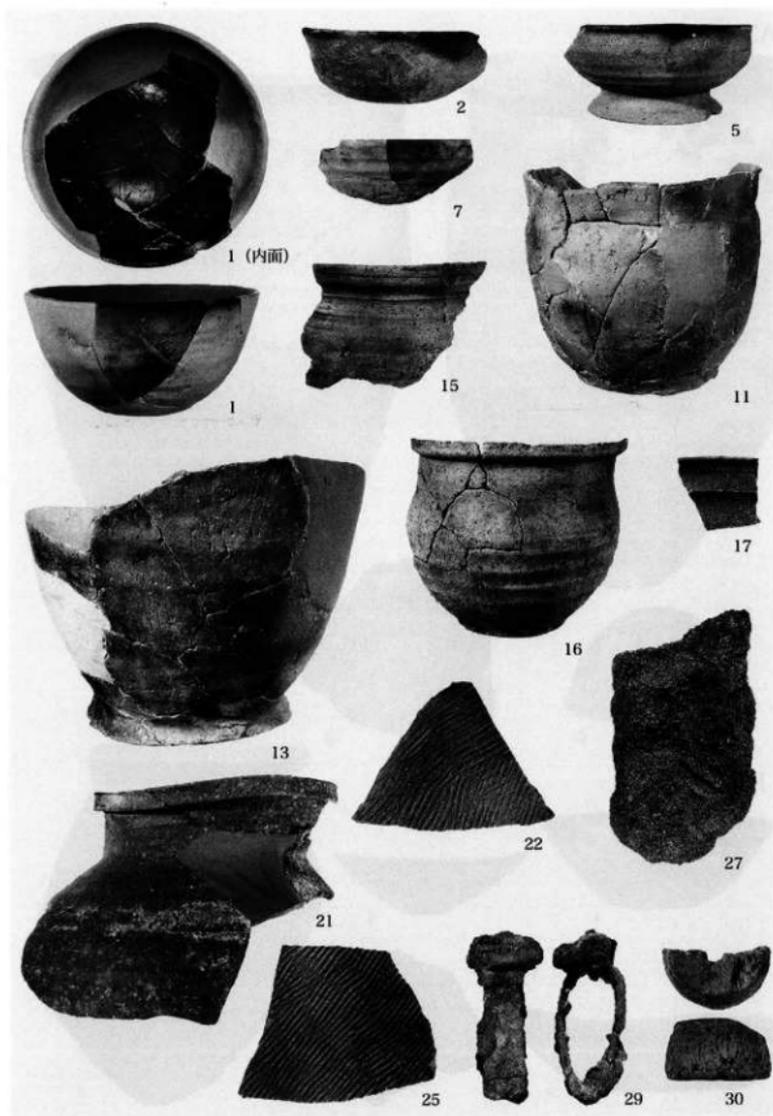


10

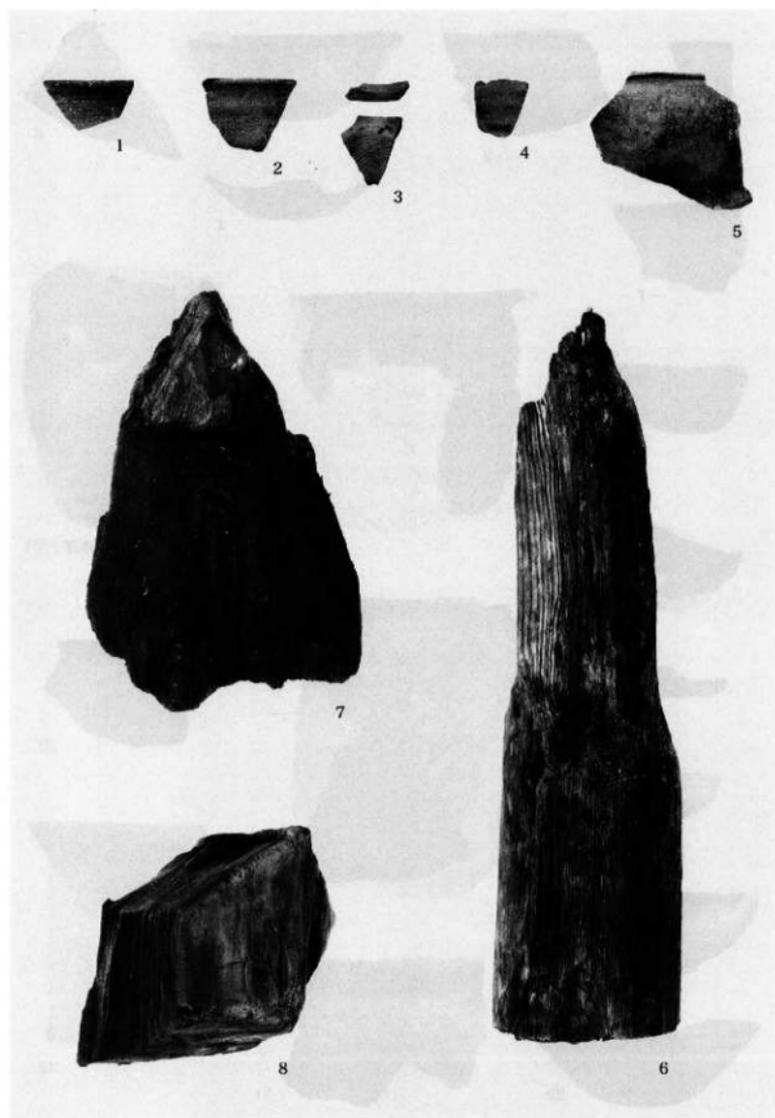


8

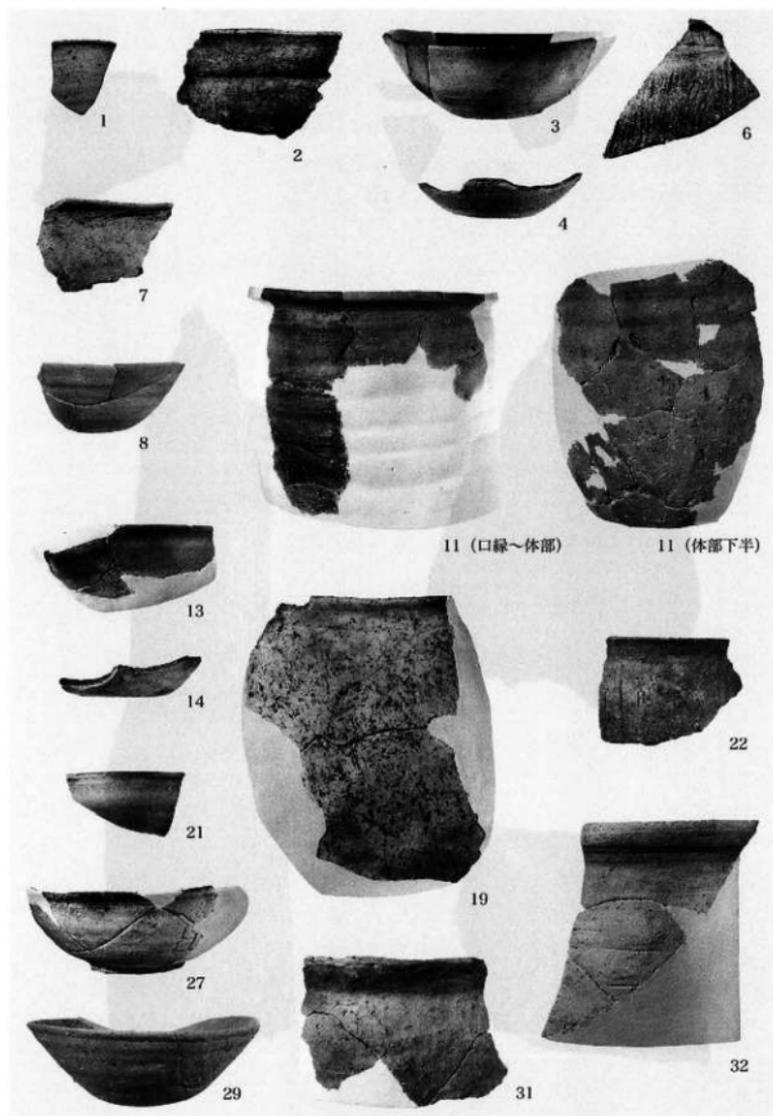
写真図版105 R A 37・38出土遺物



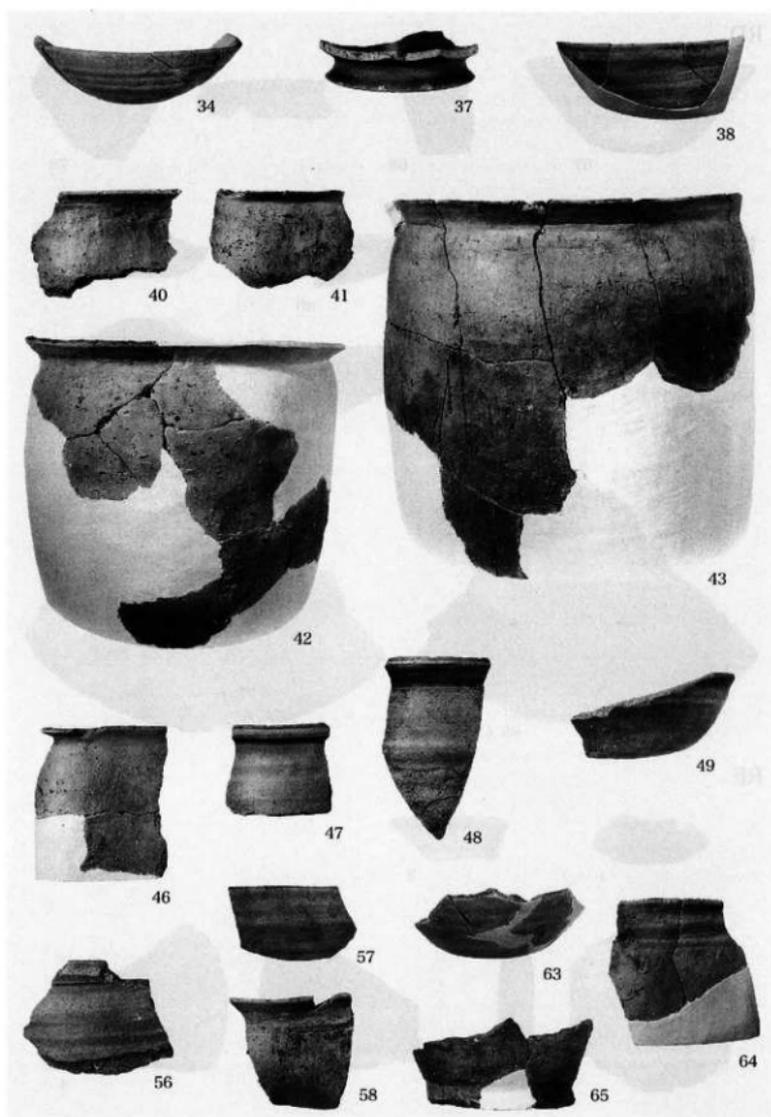
写真図版106 R A 39出土遺物



写真図版107 掘立柱建物跡出土遺物



写真図版108 土坑出土遺物 (1)



写真図版109 土坑出土遺物(2)

RD



67



68



71



72



75



80



83



84



85



86 (上面)



86 (下面)

RE



1



2

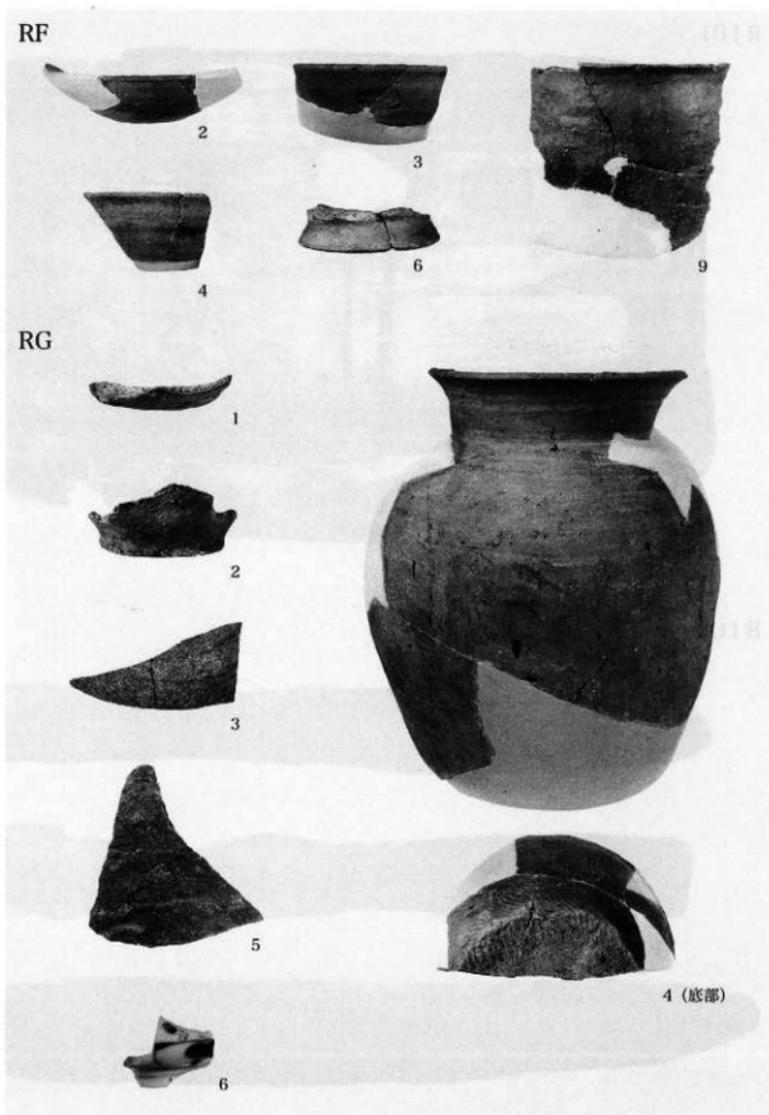


3



4

写真図版110 土坑・竪穴状出土遺物(3)



写真図版111 溝跡出土遺物

R101



R102



2



2



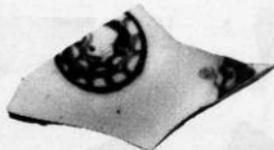
3

写真図版112 井戸跡出土遺物

柱穴



2



1

遺構外



1



2



3



4



7



6



5



8



11



14

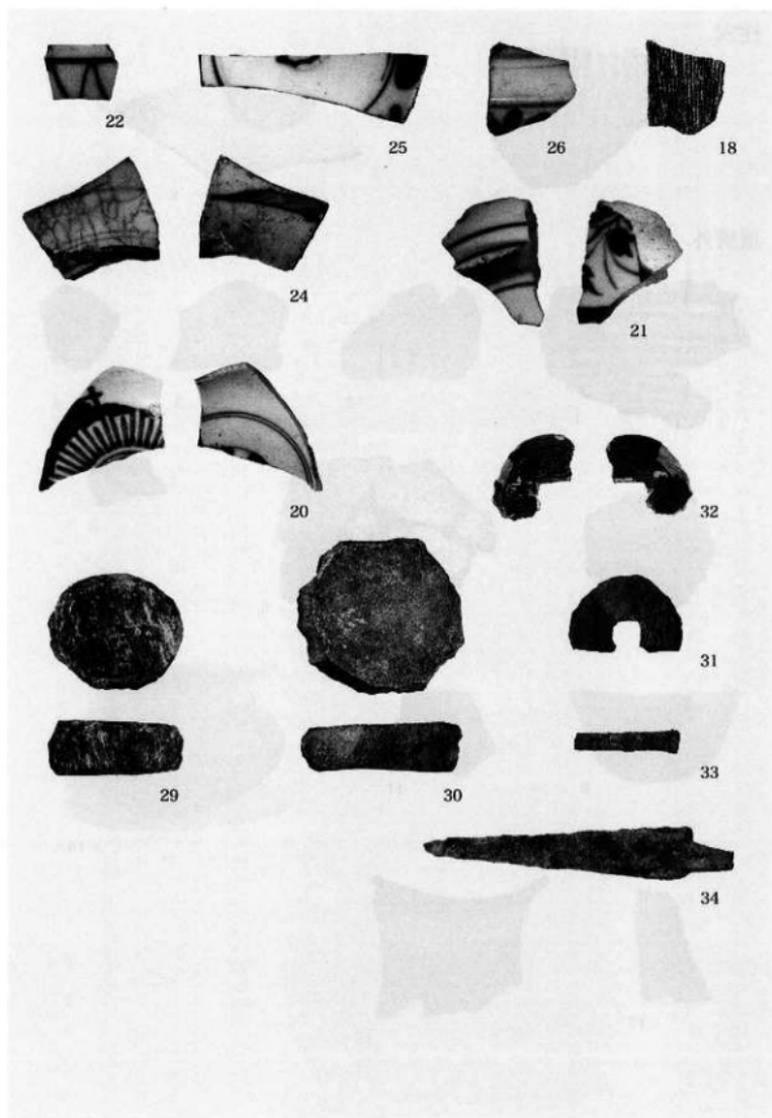


12

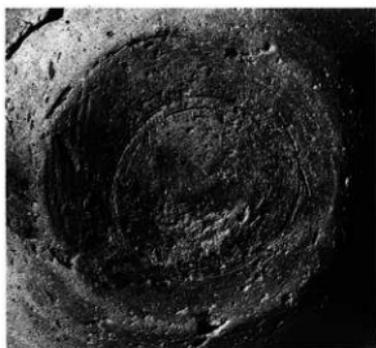


15

写真図版113 遺構外出土遺物(1)



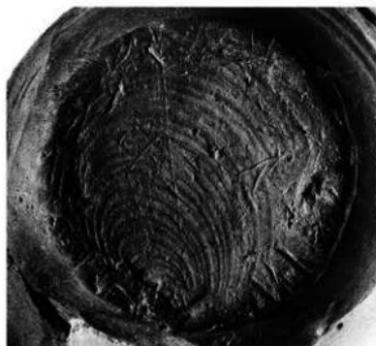
写真図版114 遺構外出土遺物(2)



回転ヘラ切り：坯



回転糸切り（2回）：坯



回転糸切り：坯



回転糸切り：坯



離し糸切り：坯



ハケメ：堊

写真図版115 土器底面（1）



指オサエ→ナデ：高台付坏



指オサエ：高台付坏



指オサエ→ナデ（爪跡2周）：高台付坏



ロクロナデ：高台付坏



ロクロナデ：高台付坏



高台剥落面の爪廻り起こし痕：高台付坏

写真図版116 土器底面（2）



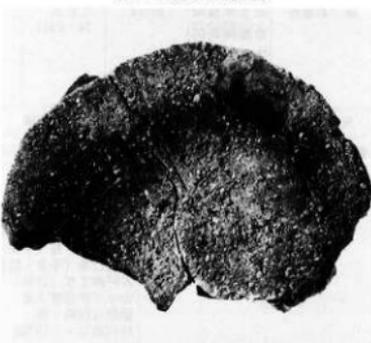
砂底+木葉痕：土師器甕



砂底+木葉痕：土師器甕



砂底：あかやき土器甕



砂底：土師器甕



砂底：土師器甕



砂底：須恵器甕

写真図版117 土器底面（3）

## 報告書抄録

|                  |  |                |  |            |  |  |   |                       |
|------------------|--|----------------|--|------------|--|--|---|-----------------------|
| ふりがな             | ほそやちいせきはっくつちょうさほうこくしょー ーだい4・5じちょうさー        |                |  |            |  |  |   |                       |
| 書名               | 細谷地遺跡発掘調査報告書 第4・5次調査ー                      |                |  |            |  |  |   |                       |
| 副書名              | 盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査                       |                |  |            |  |  |   |                       |
| 巻次               |  |                |  |            |  |  |   |                       |
| シリーズ名            | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書                       |                |  |            |  |  |   |                       |
| シリーズ番号           | 第414集                                      |                |  |            |  |  |   |                       |
| 編著者名             | 高木 兎 八木勝枝 阿部誠澄 井上 巖 高橋利彦 パリノサーヴェイ株式会社      |                |  |            |  |  |   |                       |
| 編集機関             | 財団法人 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター                   |                |  |            |  |  |   |                       |
| 所在地              | 〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL.019-638-9001 |                |  |            |  |  |   |                       |
| 発行年月日            | 西暦2003年3月27日                               |                |  |            |  |  |   |                       |
| ふりがな<br>所収遺跡名    | ふりがな<br>所在地                                | コ ー ド<br>市町村   | 遺跡番号   | 北 緯        | 東 経  | 調査期間   | 調査面積  | 調査原因                  |
| 細谷地遺跡            | 岩手県盛岡市飯岡新田第2地刺71-10ほか                      | 03201          | LE<br>24-0214  | 39度<br>40分 | 141度<br>08分  | 2000.<br>6.14~<br>11.8<br>2001.<br>4.16~<br>7.31 | 9,147㎡                                      | 盛岡南新都市開発整備事業に伴う緊急発掘調査 |
| 所収遺跡名            | 種別   | 時代             | 主な遺構   |            | 主な遺物   |  | 特記事項  |                       |
| 細谷地遺跡<br>(第4・5次) | 集落跡  | 縄文<br>平安<br>近世 | 竪穴住居跡39棟(平安)<br>掘立柱礎跡6棟<br>(平安4 近世2)<br>竪穴状遺構5基<br>土坑112基<br>陥し穴状土坑23基(縄文)<br>焼土遺構1基(平安)<br>溝跡22条(平安・近世)<br>井戸跡2基(近世)<br>カマド状遺構2基<br>竪穴状遺構1基<br>柱穴状ピット238基 |            | 縄文土器(後晩期)・剥片<br>石器<br>土師器・須恵器・あかやき<br>土器<br>鉄製品(刀子・釘・鉄線・<br>手鐲・足金具)<br>石製品(砥石・磨石・台石・<br>石鏃)<br>土製品(羽口・土鏝・紡錘<br>車)<br>陶磁器(近世)<br>古 銭(寛永通寶)<br>木製品(山物・杭) |  | 旧河道域に配置された<br>溝状陥し穴<br>9世紀後半~10世紀前半<br>の集落跡 |                       |

平成14年度 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

|         |                     |         |  |
|---------|---------------------|---------|--|
| 所 長     | 木 村 昇               | 期限付調査員  | 袁 地 剛  |
|         |                     | "       | 玉山健一   |
| [管理課]   |                     | "       | 吉田真由美  |
| 課 長     | 董 澤 正 吾             | "       | 小林弘卓   |
| 課 長 補 佐 | 山 崎 善 光             | "       | 小 木 村 村 大 輔                                      |
| "       | 山 岸 真 美             | "       | 藤 原 又 一 晋  |
| 主 査     | 中 嶋 賢 一             | "       | 川 又 一 彦  |
| [調査第一課] |                     | "       | 太田藤敦志  |
| 課 長     | 佐々木 勝 文             | "       | 江 藤 公 志  |
| 課 長 補 佐 | 佐々木 清 義             | "       | 立 花 公 志  |
| "       | 高 橋 介 透             | 副 所 長   | 高 橋 正 儀  |
| 文化財専門員  | 小山内 充               | 嘱 託     | 高 橋 照 男  |
| 文化財調査員  | 吉 田 大 二 郎           | "       | 高 加 藤 美 代 子                                      |
| "       | 亀 大 二 郎             | "       | 湯 沢 邦 子  |
| "       | 佐々木 慎 一             | "       | 伊 藤 滋 子  |
| "       | 早 坂 淳 也             | [調査第二課] |  |
| "       | 小 松 則 也             | 課 長     | 高 橋 與 右 衛 門                                      |
| "       | 金 野 真 盛             | 課 長 補 佐 | 中 川 重 紀  |
| "       | 野 中 昭 彦             | 文化財専門員  | 中 川 子 知 子  |
| "       | 金 子 昭 明             | 文化財調査員  | 金 子 登 澄  |
| "       | 阿 部 孝 則             | "       | 赤 石 眞 一  |
| "       | 阿 部 勝 人             | "       | 阿 飯 飯 一 裕 明                                      |
| "       | 羽 柴 直 晃             | "       | 飯 坂 木 裕 明  |
| "       | 長 村 克 稔             | "       | 久 慈 田 泰 彦  |
| "       | 星 幸 文               | "       | (濱 田 藤 由 紀 夫 之 一 彦 香 浩 二 郎 美 直 子 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠 |
| "       | 杉 沢 昭 太 郎           | "       | 安 藤 藤 由 紀 夫 之 一 彦 香 浩 二 郎 美 直 子 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠  |
| "       | 村 上 多 一 郎           | "       | 星 佐 藤 淳 一 彦 香 浩 二 郎 美 直 子 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠        |
| "       | 本 青 山 紀 和 晴         | "       | 皆 半 澤 川 英 香 浩 二 郎 美 直 子 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠          |
| "       | 西 村 木 正 敬 和         | "       | 溜 丸 山 直 子 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠                        |
| "       | 福 島 村 正 昭 枝         | 期限付調査員  | 齋 藤 田 里 和 賢 裕 寛 美 津 子 匠                          |
| "       | 北 八 木 勝 寛 治         | "       | 吉 古 池 花 野 智 美 津 子 匠                              |
| "       | 米 山 浩 治 勲 征 美 津 子 匠 | "       | 立 池 花 野 智 美 津 子 匠                                |
| "       | 北 島 原 村 弘 美 津 子 匠   | "       | 原 野 智 美 津 子 匠                                    |
| "       | 中 島 村 部 恵 造         | "       | 石 崎 高 匠  |
| 期限付調査員  | 坂 部 恵 造             | "       |  |

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集

**細谷地遺跡発掘調査報告書**

—第4・5次調査—

**盛岡南新都市計画整備事業関連遺跡発掘調査**

印刷 平成15年3月25日

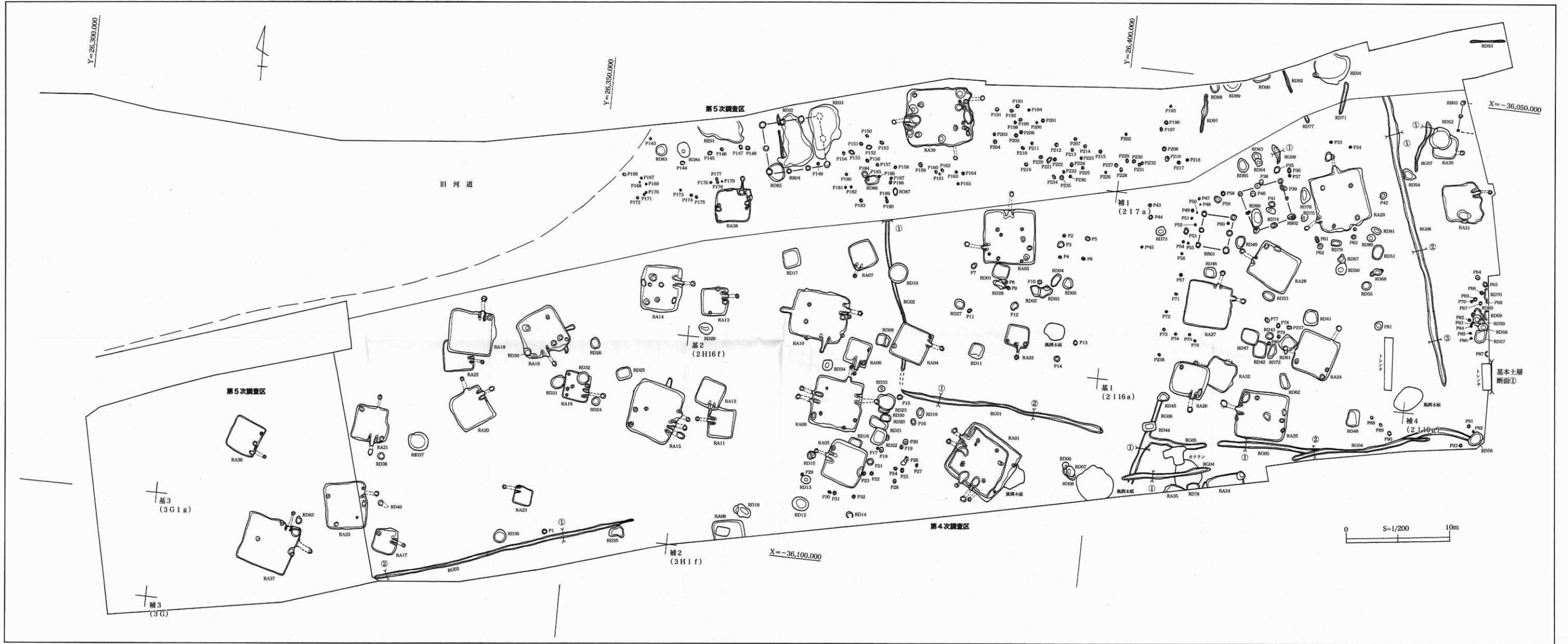
発行 平成15年3月27日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185  
電話 (019) 638-9001  
FAX (019) 638-8563

印刷 トーバン印刷株式会社  
〒020-0823 岩手県盛岡市門二丁目2-3  
電話 (019) 653-6333代  
FAX (019) 653-6386

---

© (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002



付図1 細谷地遺跡 第4～6次調査区遺構配置図 (東半)



付図2 細谷地遺跡 第4～6次調査区遺構配置図（西半）

